

生品西浦遺跡Ⅱ

一般県道富士山横塚線地方特定道路整備事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

本文編

二〇〇九

群馬県沼田土木事務所
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



利根郡川場村

生品西浦遺跡Ⅱ

一般県道富士山横塚線地方特定道路整備事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

本文編

2009

群馬県沼田土木事務所
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

利根郡川場村

生品西浦遺跡Ⅱ

一般県道富士山横塚線地方特定道路整備事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

本文編

2009

群馬県沼田土木事務所
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



D区古墳時代～中世・近世調査面全景と薄根川河岸段丘



J区縄文時代～中世・近世調査面全景と古代集落が広がると想定される台地



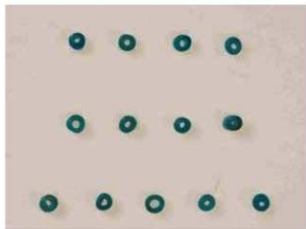
1



2



3



4



5



6



7

- 1 D区出土の旧石器
- 2 H・I区出土の旧石器
- 3 J区5号・17号竪穴建物出土の弥生土器
- 4 J区5号竪穴建物出土のガラス玉
- 5 古墳時代 D区3号竪穴建物出土の土器
- 6 平安時代 D区18号竪穴建物に
廃棄された鍛冶関連遺物
- 7 古墳時代 D区11号竪穴建物出土の土器
利根沼田地域の特性をもった土器群(手前杯類)がみられる。

序

生品西浦遺跡は、群馬県北部の雄峰である武尊山の南麓、利根郡川場村大字生品に所在し、一般県道富士山横塚線の建設工事に伴って、平成17年度から足かけ三年にわたって発掘調査が行われました。

一般県道富士山横塚線は、山間地に散在する集落間を機能的に結ぶ交通網のひとつとして計画され、新たな地域社会発展のための動脈となる役割を担っています。生品西浦遺跡の所在する地域は、群馬県北部山間地のなかでも比較的肥沃な低地や住みやすい平地地が見られ、今から約1400年前の古墳時代後期には、奈良古墳群や秋塚古墳群といった群集墳が築かれる開けた地域であったことが知られていました。生品西浦遺跡の発掘調査では、これらの古墳群に先立つこと約400年前の弥生時代後期から、小規模ながらすでに農耕集落が形成されていたことが判明しています。さらにその下層からは、旧石器時代の石器や縄文時代の落し穴群が発見されており、悠久の過去に遡る人々の営みがあったことも知ることが出来ました。また、周辺の古墳群に関連すると考えられる集落が古墳時代に成立してから平安時代に至るまで連続と集落が営まれたことも判明し、古代利根郡男信郷との関連も注目されています。さらには、古代集落に伴う鍛冶工房や和同開珎の発見があり、当時の生産技術や流通の様子を解明する上で貴重な資料を提供することになりました。

このような生品西浦遺跡で発見された貴重な歴史遺産の数々が、今後群馬県の原始古代を解き明かす重要な歴史資料として多くの人々に活用されることを願ってやみません。地中に埋もれていた古代の竪穴建物跡などの遺構は、残念ながら消滅してしまいましたが、本報告書に凝縮された詳細な記録によって、その歴史的価値を留めることが出来たことは大変に喜ばしいことでもあります。

最後に、発掘調査から報告書上梓にいたるまで、終始ご理解とご協力を賜った群馬県沼田土木事務所、川場村、群馬県教育委員会、及び地元生品地区の皆様衷心より感謝の意を表し序といたします。

平成21年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 高橋 勇 夫

例 言

1. 本報告書は一般県道富士山横塚線地方特定道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告である。
2. 発掘調査地点の所在地は次の通りである。利根郡川場村大字生品字西浦2072-1、2074-2・3、2075、2082-1、2083、2084、2085、甲2086、乙2086、2087、字西川原2123、2126-1、2132、2215、2216、2217、2218、2133-1、2135、2137-1、2142、2143、2146、2147、2148、2149、2150-1、2151、2152、2153、甲2154、乙2154、2155、2156-1、2157-1、2157-3、2158-1、2206
3. 事業主体 群馬県利根沼田県民局沼田土木事務所
4. 調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 調査期間 2005（平成17）年4月1日～9月30日
2006（平成18）年6月1日～11月30日
2007（平成19）年7月1日～9月17日、10月18日～10月31日
6. 調査組織 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
管理指導 高橋勇夫、木村裕紀、津金澤吉茂、西田健彦、矢崎俊夫、萩原 勉
事務担当 関 晴彦、国定 均、宮前結城雄、竹内 宏、石井 清、笠原秀樹、須田朋子、今泉大作、栗原幸代、矢島一美、齊藤陽子、吉田有光、佐藤聖行、清水秀紀、齊藤恵利子、柳岡良宏、今井もと子、内山佳子、佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、若田 誠、武藤秀典
調査担当 2006年 神谷佳明、小高哲茂
2007年 飯森康弘、田村邦宏
2007年 神谷佳明（～9月）、高井佳弘（10月～）、田村邦宏
7. 整理期間 2007年11月1日～2008年3月31日
2008年6月1日～2009年3月31日
8. 整理組織 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
管理指導 高橋勇夫、木村裕紀、津金澤吉茂、佐藤明人、相京建史、萩原 勉
事務担当 大木紳一郎、石井 清、佐嶋芳明、笠原秀樹、須田朋子、矢島一美、齊藤陽子、齊藤恵利子、柳岡良宏、今井もと子、狩野真子、佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、若田 誠、武藤秀典
整理担当 神谷佳明
9. 報告書作成者 編集責任 神谷佳明 本文執筆 編集者以外の執筆はそれぞれの項に文責を明記した。
遺構写真撮影 発掘調査担当者、遺物写真撮影 佐藤元彦
石材鑑定 飯島静男 人骨鑑定 橋崎修一郎 炭化材同定 株式会社バレオ・ラボ
遺物観察・実測指導 田石器 麻生敏隆、縄土器 橋本淳、弥生土器 大木紳一郎、墨書判読 高島英之
鍛冶関連遺物 笹澤泰史、その他 神谷
保存処理 関 邦一、小村浩一、森田智子、津久井桂一、多田ひさ子
整理補助（全般）千代谷和子、小林恵美子、阿久津久子、町田礼子、笛木広美、関口照子
遺物機械実測 田中精子、山口洋子、田所順子、岸 弘子、小池益美
デジタル挿圖・図版作成 牧野裕美、市田武子、安藤美奈子、酒井史恵、廣津真希子、荒木絵美、高梨由美子、矢端真観、横塚由香、下川陽子

10. 調査協力 発掘調査、整理作業にあたっては群馬県沼田土木事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、川場村、川場村教育委員会、沼田市教育委員会、地元生品地区住民の方々をはじめ多くの団体および個人の方々から有益なご指導、ご教示、ご協力をいただきました。

また、発掘調査にあたっては地元川場村をはじめ沼田市、みなかみ町、高山村、中之条町、渋川市から多くの方々に従事していただきました。ここに感謝の意を表します。

11. 出土遺物および発掘調査の記録類は群馬県埋蔵文化財調査センターにて保管している。

凡 例

1. 生品西浦遺跡Ⅱでは8分割に分けて発掘調査を実施したため遺構NO.はそれぞれの調査区の遺構種ごとにNO.1より付与している。
2. 挿図中の方位は座標北を指している。また、座標値は世界測地系を表示している。
3. 挿図中の遺構図の縮尺はここにスケールを貼付した。
4. 挿図中の遺物図は基本を1/3とし、縮尺が異なるものは遺物NO.の後ろ()付きで表記した。
5. 挿図中に使用したスクリーントーンは下記のとおりである。なお、斜線は礎を表わす。

遺構図 焼土 遺物図 釉陶器 墨書 礎

6. 挿図中に使用した地形図は下記のとおりである。

国土地理院 1/200,000 昭和58年横山衡器製作所創業100周年調製

国土地理院 1/50,000 「沼田」平成15年発行、「道具」平成2年発行

国土地理院 1/25,000 「沼田」昭和53年発行、「後閑」昭和54年発行

群馬県沼田土木事務所一般県道富士山横塚線「利根郡川場村生品地内」現況図 1/500

7. 遺物観察表ではスペースの関係で語彙を下記のように省略している。

出土位置 + 数値は床面からの高さを表記している。

計測値 口 口径、底 底径、高 器高、鏝 羽釜鏝部径、頸 頸部径、台 高台径 なお、単位はcm(重さはg)である。

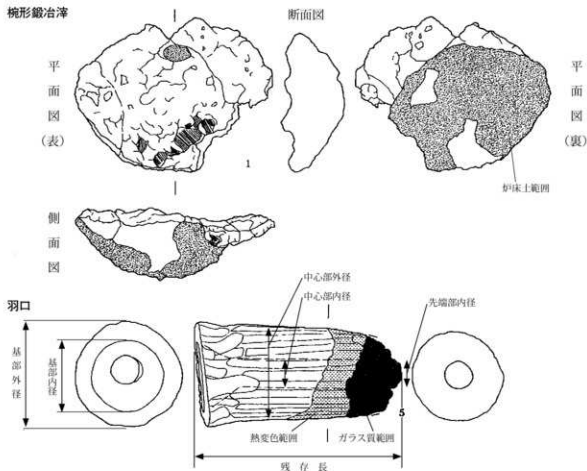
8. 土層観察注記で土層色調および表記方法と遺物観察表での土器色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修「新版 標準土色帖」を参考にした。
9. 遺物観察表での土器色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖」を参考にした。
10. 本報告書では今まで地表面を円形や方形に掘りくぼめ炉、カマドを設けている遺構を「竪穴住居」、「竪穴式住居」などと慣用的に使用してきたが、近年1992年渡辺修一「竪穴建物」か「竪穴住居」か『研究連絡誌』34号(財)千葉県文化財センター、1994年関和彦「竪穴『建物』論の提唱」『日本古代社会生活史の研究』校倉書房によって『竪穴建物』の用語が提唱されていることや掘立柱建物に対応する用語としても適切と考えるので本文中は「竪穴建物」で統一した。なお、周辺の調査遺跡表中では各報告書で使用している用語をそのまま使用した。
11. 当初、F区2号・H区2号竪穴建物について時代の比定に誤認があり古墳時代とした。その後、出土土器を検討した結果、飛鳥時代に比定することになった。図版は作成が終了していたため変更を行えなかった。

12. 鉄関連遺物の凡例

出土鉄関連遺物については、磁石（強力磁石TAJIMA PUP-M、特定の標準磁石）と特殊金属探知器による分類と、肉眼観察による考古学的な分類を行った。遺物の観察は笹澤泰史が行った。出土鉄関連遺物の観察表の主な項目の見方は以下のとおりである。詳細は穴沢義功による2001年「製鉄遺跡発掘調査の視点と方法」（奈良国立文化財研究所・発掘技術専門研修『生産遺跡調査過程』資料）及び2005年「鉄関連遺物の発掘調査から遺物整理・分析資料抽出への指針案」『鉄関連遺物の分析評価に関する研究報告』（日本鉄鋼協会社会鉄鋼工学会刊行）を参照していただきたい。

- (1) 掲載した遺物図の縮尺は原則1/3であるが、小型のものは縮尺を2/3で掲載した。縮尺2/3で掲載したものはそれぞれ明示してある。なお、写真の縮尺はすべて1/3である。
- (2) 磁着度 鉄関連遺物分類用の特定の「標準磁石」を用いて、支流音の反応の程度を資料化したもの数値が大きいにほど、磁石との反応が強い。
- (3) メタル度 特殊金属探知器により金属の量を分類化したもの。
 錆化(△)→H(○)→M(◎)→L(●)→特L(☆)の順で金属部分が多いことを示す。特殊な整平をした小形の特殊金属探知機（特殊金属探知機MR-50B）を使用マニュアルに応じて用い判定している。
- (4) 鉄関連遺物の計測位置と及び各部位の名称は以下のとおりである。

椀形鍛冶滓



- (5) 鉄関連遺物に使用したスクリーントーンは下記のとおりである。



目 次

口絵	
序	
例言	
凡例	
目次	
挿図目次	
表 目次	
I 調査に至る経緯・経過	
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査の経過	3
II 遺跡地の環境	
1. 地理的環境	6
2. 歴史的環境	8
III 調査の方法	
1. 調査区の設定	12
2. 調査の手順	12
3. 遺跡地の基本的層序	12
IV 検出した遺構と出土した遺物	
1. 旧石器時代	14
2. 縄文時代	
(1) 土坑、落し穴	23
(2) 遺構外出土遺物	65
3. 弥生時代	
(1) 竪穴建物	68
(2) 遺構外出土遺物	80
4. 古墳時代	
(1) 竪穴建物	81
(2) 祭祀(土器集積)	160
(3) 土坑	166
5. 飛鳥・奈良・平安時代	
(1) 竪穴建物	169
(2) 掘立柱建物	299
(3) 工房	303
(4) 採掘坑	310
(5) 土坑	313
(6) 遺構外出土遺物	323
6. 中世・近世	
(1) 掘立柱建物	325
(2) 採掘坑	328
(3) 土坑・室	332
(4) 溝	357
(5) 遺構外出土遺物	361
V 自然科学分析	
生品西浦遺跡Ⅱ竪穴建物出土炭化材の樹種同定	363
VI 調査の成果と課題	
生品西浦遺跡の鉄・鉄器生産関連遺物	368
出土土器について	372
集落の変遷について	383
報告書抄録	388

插图目次

1 图 道岭位置图(1/200,000)	1	49图 H区25号·30号·31号·33号~35号上坑道横图、 33号上坑出土道物图	60
2 图 道岭位置图(1/50,000)	2	50图 H区36号·I区3号·18号·19号·21号上坑道横图	61
3 图 兜里调查区分图	3	51图 I区22号·23号·25号上坑道横图、25号上坑出土道物图	62
4 图 川堀村地质图	7	52图 I区24号·26号~28号·30号·32号·J区28号上坑道横图、 I区27号上坑道物图	63
5 图 周边道岭图(1/25,000)	10	53图 J区38号·44号·54号·68号·107号上坑道横图	64
6 图 基本的女层序图	13	54图 J区108号·109号上坑道横图	65
旧石器时代		55图 縄文时代遺構外出土道物图(1)	65
7 图 旧石器遗址坑位置图	15	56图 縄文时代遺構外出土道物图(2)	66
8 图 D区旧石器出土分布图	16	57图 縄文时代遺構外出土道物图(3)	67
9 图 D区旧石器出土道物图(1)	17	弥生时代	
10 图 D区旧石器出土道物图(2)	18	58图 J区1号整穴建物遺構图(1)	69
11 图 H·I区旧石器调查区分图	19	59图 J区1号整穴建物遺構图(2)·出土道物图	70
12 图 H·I区第1地点·第2地点石器出土分布图	19	60图 J区3号整穴建物遺構图·出土道物图	72
13 图 H·I区第3地点石器分布图	20	61图 J区5号整穴建物遺構图(1)	73
14 图 H·I区旧石器出土道物图(1)	21	62图 J区5号整穴建物遺構图(2)·出土道物图(1)	74
15 图 H·I区旧石器出土道物图(2)	22	63图 J区5号整穴建物出土道物图(2)	75
縄文时代		64图 J区9号整穴建物遺構图·出土道物图	76
16 图 縄文时代落穴·土坑位置图	24	65图 J区17号整穴建物遺構图(1)·出土道物图(1)	78
17 图 D区41号~46号上坑道横图	28	66图 J区17号整穴建物遺構图(2)·出土道物图(2)	79
18 图 D区47号~49号上坑道横图	29	67图 J区17号整穴建物出土道物图(3)	80
19 图 D区50号~53号上坑道横图	30	68图 弥生时代遺構外出土道物图	80
20 图 D区54号~57号上坑道横图	31	古墳时代	
21 图 D区58号~61号上坑道横图	32	69图 D区3号整穴建物遺構图(1)	81
22 图 D区62号~65号上坑道横图	33	70图 D区3号整穴建物遺構图(2)	82
23 图 D区66号~69号上坑道横图	34	71图 D区3号整穴建物遺構图(3)	83
24 图 D区70号~72号上坑道横图	35	72图 D区3号整穴建物出土道物图(1)	84
25 图 D区73号~75号上坑道横图	36	73图 D区3号整穴建物出土道物图(2)	85
26 图 D区76号~79号上坑道横图	37	74图 D区5号整穴建物遺構图(1)	88
27 图 D区80号~83号上坑道横图	38	75图 D区5号整穴建物遺構图(2)	89
28 图 D区84号~86号上坑道横图	39	76图 D区5号整穴建物遺構图(3)	90
29 图 D区87号~90号上坑道横图	40	77图 D区5号整穴建物出土道物图(1)	91
30 图 D区91号~94号上坑道横图	41	78图 D区5号整穴建物出土道物图(2)	92
31 图 D区95号·96号·98号·99号上坑道横图	42	79图 D区5号整穴建物出土道物图(3)	93
32 图 D区100号~103号上坑道横图、102号上坑出土道物图	43	80图 D区5号整穴建物出土道物图(4)	94
33 图 D区104号~106号上坑道横图	44	81图 D区6号整穴建物遺構图(1)	97
34 图 D区107号~109号上坑道横图	45	82图 D区6号整穴建物遺構图(2)	98
35 图 D区110号~112号上坑道横图	46	83图 D区6号整穴建物遺構图(3)	99
36 图 D区113号~115号上坑道横图	47	84图 D区6号整穴建物出土道物图	100
37 图 D区116号~121号上坑道横图	48	85图 D区9号整穴建物遺構图(1)	102
38 图 E区K21号~25号上坑道横图	49	86图 D区9号整穴建物遺構图(2)	103
39 图 E区26号~30号上坑道横图	50	87图 D区9号整穴建物遺構图(3)	104
40 图 F区1号·16号·20号~23号上坑道横图	51	88图 D区9号整穴建物出土道物图(1)	104
41 图 F区24号~28号上坑道横图	52	89图 D区9号整穴建物出土道物图(2)	105
42 图 F区29号·34号~36号上坑道横图	53	90图 D区9号整穴建物出土道物图(3)	106
43 图 F区39号~42号上坑道横图	54	91图 D区11号整穴建物遺構图(1)	108
44 图 F区43号·44号·46号·G区11号·12号上坑道横图、 G区11号上坑出土道物图	55	92图 D区11号整穴建物遺構图(2)	109
45 图 G区13号·14号·16号·H区11号·12号上坑道横图	56	93图 D区11号整穴建物遺構图(3)	110
46 图 H区13号~17号上坑道横图	57	94图 D区11号整穴建物出土道物图(1)	111
47 图 H区18号~21号·23号上坑道横图	58	95图 D区11号整穴建物出土道物图(2)	112
48 图 H区22号·24号·28号·29号上坑道横图、 28号上坑出土道物图	59	96图 D区11号整穴建物出土道物图(3)	113

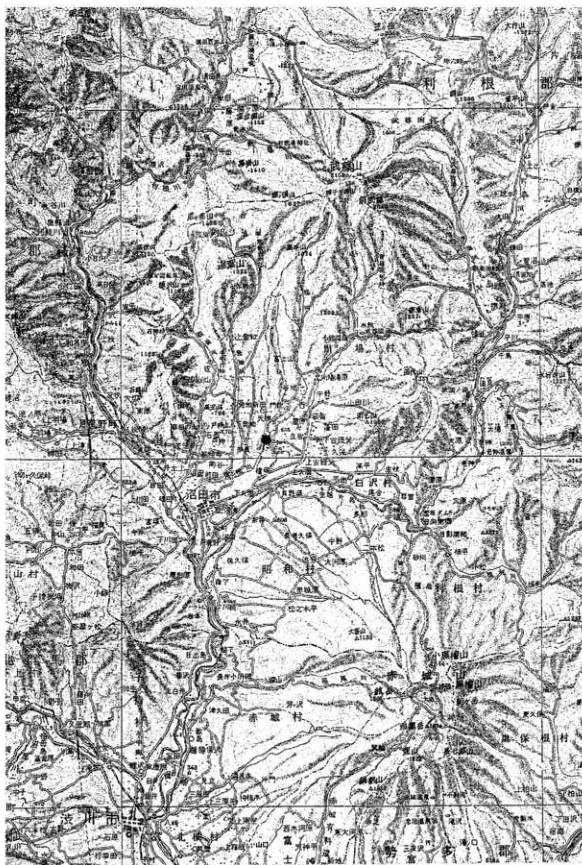
979E	D区12号整穴建物遺構(1)	116	151E	D区1号整穴建物遺構(3)	173
989E	D区12号整穴建物遺構(2)	117	152E	D区1号整穴建物出土遺物(1)	174
999E	D区12号整穴建物出土遺物	117	153E	D区1号整穴建物出土遺物(2)	175
1008E	D区14号整穴建物遺構(1)	119	154E	D区1号整穴建物出土遺物(3)	176
1018E	D区14号整穴建物出土遺物	120	155E	D区1号整穴建物出土遺物(4)	177
1029E	D区15号整穴建物遺構(1)	122	156E	D区2号整穴建物遺構(1)	180
1039E	D区15号整穴建物遺構(2)	123	157E	D区2号整穴建物遺構(2)	181
1049E	D区15号整穴建物出土遺物(1)	123	158E	D区2号整穴建物出土遺物(1)	181
1059E	D区15号整穴建物出土遺物(2)	124	159E	D区2号整穴建物出土遺物(2)	182
1069E	D区16号整穴建物遺構(1)	127	160E	D区4号整穴建物遺構(1)	184
1079E	D区16号整穴建物遺構(2)	128	161E	D区4号整穴建物遺構(2)	185
1089E	D区16号整穴建物出土遺物(1)	129	162E	D区4号整穴建物出土遺物	185
1099E	D区16号整穴建物出土遺物(2)	130	163E	D区7号整穴建物遺構	187
1109E	D区16号整穴建物出土遺物(3)	131	164E	D区7号整穴建物出土遺物	188
1119E	D区17号整穴建物遺構(1)	132	165E	D区8号整穴建物遺構(1)	189
1129E	D区17号整穴建物遺構(2)	133	166E	D区8号整穴建物遺構(2)	190
1139E	D区17号整穴建物出土遺物(1)	133	167E	D区8号整穴建物出土遺物(1)	190
1149E	D区17号整穴建物出土遺物(2)	134	168E	D区8号整穴建物出土遺物(2)	191
115E	E区2号整穴建物遺構(1)	136	169E	D区10号整穴建物遺構	192
116E	E区2号整穴建物遺構(2)	137	170E	D区10号整穴建物出土遺物	193
117E	E区2号整穴建物出土遺物	137	171E	D区13号整穴建物遺構・出土遺物	194
118E	E区5号整穴建物遺構(1)	139	172E	D区18号整穴建物遺構(1)	195
119E	E区5号整穴建物遺構(2)	140	173E	D区18号整穴建物遺構(2)	196
120E	E区5号整穴建物出土遺物	141	174E	D区18号整穴建物遺構(3)	197
121E	E区7号整穴建物遺構	142	175E	D区18号整穴建物出土遺物(1)	198
122E	E区11号整穴建物遺構(1)	143	176E	D区18号整穴建物出土遺物(2)	199
123E	E区11号整穴建物遺構(2)	144	177E	D区18号整穴建物出土遺物(6)	200
124E	E区11号整穴建物出土遺物	145	178E	D区18号整穴建物出土遺物(3)	201
125E	H区1号整穴建物遺構・出土遺物	146	179E	D区18号整穴建物出土遺物(5)	202
126E	H区4号整穴建物遺構	148	180E	D区18号整穴建物出土遺物(4)	203
127E	H区4号整穴建物出土遺物	149	181E	D区18号整穴建物出土遺物(7)	204
128E	H区6号整穴建物遺構(1)	150	182E	D区18号整穴建物出土遺物(8)	205
129E	H区6号整穴建物遺構(2)	151	183E	D区19号整穴建物・20号整穴建物遺構	210
130E	H区6号整穴建物出土遺物	151	184E	D区19号整穴建物・20号整穴建物出土遺物	211
131E	I区1号整穴建物遺構	153	185E	E区1号整穴建物遺構(1)	212
132E	I区1号整穴建物出土遺物(1)	153	186E	E区1号整穴建物遺構(2)	213
133E	I区1号整穴建物出土遺物(2)	154	187E	E区1号整穴建物出土遺物	213
134E	I区6号整穴建物遺構・出土遺物	156	188E	E区3号整穴建物遺構(1)	215
135E	J区11号整穴建物遺構(1)	157	189E	E区3号整穴建物出土遺物(1)	215
136E	J区11号整穴建物遺構(2)	158	190E	E区3号整穴建物遺構(2)	216
137E	J区11号整穴建物出土遺物	158	191E	E区3号整穴建物出土遺物(2)	216
138E	J区14号整穴建物遺構	160	192E	E区4号整穴建物遺構(1)	218
139E	J区14号整穴建物出土遺物	160	193E	E区4号整穴建物遺構(2)	219
140E	D区1号祭祀遺構	161	194E	E区4号整穴建物出土遺物(1)	220
141E	D区1号祭祀出土遺物(1)	162	195E	E区4号整穴建物出土遺物(2)	221
142E	D区1号祭祀出土遺物(2)	163	196E	E区6号整穴建物遺構(1)	223
143E	D区1号祭祀出土遺物(3)	164	197E	E区6号整穴建物出土遺物(1)	223
144E	D区4号土坑遺構・出土遺物	166	198E	E区6号整穴建物遺構(2)	224
145E	E区40号土坑遺構・出土遺物、J区5号土坑遺構	167	199E	E区6号整穴建物出土遺物(2)	224
146E	J区106号土坑遺構・出土遺物	168	200E	E区9号整穴建物遺構	226
飛鳥・奈良・平安時代			201E	E区9号整穴建物出土遺物(1)	226
147E	C区14号整穴建物出土遺物	169	202E	E区9号整穴建物出土遺物(2)	227
148E	C区14号整穴建物遺構	170	203E	E区10号整穴建物遺構	229
149E	D区1号整穴建物遺構(1)	171	204E	E区12号整穴建物遺構	230
150E	D区1号整穴建物遺構(2)	172	205E	E区12号整穴建物出土遺物	231

206	E区13号整六建筑物道横园	232	261	J区12号整六建筑物道横园(2)	288
207	E区13号整六建筑物出土道物园	232	262	J区12号整六建筑物出土道物园(1)	288
208	F区1号整六建筑物道横园(1)	234	263	J区12号整六建筑物出土道物园(2)	289
209	F区1号整六建筑物道横园(2)	235	264	J区13号整六建筑物道横园(1)·出土道物园(1)	291
210	F区1号整六建筑物出土道物园(1)	235	265	J区13号整六建筑物道横园(2)·出土道物园(2)	292
211	F区1号整六建筑物出土道物园(2)	236	266	J区15号整六建筑物道横园	294
212	F区2号整六建筑物道横园(1)	238	267	J区15号整六建筑物出土道物园(1)	295
213	F区2号整六建筑物道横园(2)	239	268	J区15号整六建筑物出土道物园(2)	296
214	F区2号整六建筑物道横园(3)	240	269	J区16号整六建筑物道横园	298
215	F区2号整六建筑物出土道物园(1)	240	270	J区16号整六建筑物出土道物园	298
216	F区2号整六建筑物出土道物园(2)	241	271	F区1号掘立柱建筑物道横园	300
217	G区1号整六建筑物道横园	242	272	F区2号掘立柱建筑物道横园·出土道物园	301
218	G区2号整六建筑物道横园·出土道物园	243	273	F区3号掘立柱建筑物道横园·出土道物园	302
219	H区2号整六建筑物道横园(1)	244	274	D区2号工房出土道物园(1)	303
220	H区2号整六建筑物道横园(2)	245	275	D区2号工房道横园	304
221	H区2号整六建筑物出土道物园	246	276	D区2号工房出土道物园(2)	304
222	H区3号整六建筑物道横园·出土道物园	247	277	D区2号工房出土道物园(3)	305
223	H区5号整六建筑物道横园·出土道物园	249	278	D区2号工房出土道物园(4)	306
224	H区7号整六建筑物道横园(1)	250	279	F区1号工房道横园	308
225	H区7号整六建筑物道横园(2)	251	280	F区1号工房出土道物园	309
226	H区7号整六建筑物出土道物园	251	281	F区1号探掘坑道横园	310
227	I区2号整六建筑物道横园(1)	252	282	F区2号探掘坑道横园	311
228	I区2号整六建筑物道横园(2)	253	283	F区2号探掘坑出土道物园	311
229	I区2号整六建筑物道横园(3)	254	284	F区3号探掘坑出土道物园	312
230	I区2号整六建筑物出土道物园(1)	255	285	F区3号探掘坑道横园	313
231	I区2号整六建筑物出土道物园(2)	256	286	D区2号·3号·6号上坑道横园	313
232	I区2号整六建筑物出土道物园(3)	257	287	D区8号·9号·34号·36号上坑道横园	314
233	I区2号整六建筑物出土道物园(4)	258	288	D区3号·10号·34号上坑出土道物园	315
234	I区3号整六建筑物道横园	261	289	E区5号·6号·7号·8号上坑道横园	315
235	I区3号整六建筑物出土道物园	262	290	E区9号·10号·12号·13号上坑道横园	316
236	I区4号整六建筑物道横园(1)	263	291	E区5号·6号·7号·9号·10号·13号上坑出土道物园	316
237	I区4号整六建筑物道横园(2)	264	292	F区7号上坑道横园·出土道物园	317
238	I区4号整六建筑物出土道物园	265	293	H区4号·5号·37号上坑道横园	318
239	I区5号整六建筑物道横园	267	294	H区37号·38号·39号上坑出土道物园	318
240	J区2号整六建筑物道横园	268	295	I区6号·7号上坑道横园,16号上坑道横园·出土道物园	319
241	J区2号整六建筑物出土道物园	268	296	J区11号·17号·22号·23号·37号·49号·55号上坑道横园	319
242	J区4号整六建筑物道横园	269	297	J区11号·17号·22号上坑出土道物园	320
243	J区4号整六建筑物出土道物园	270	298	J区24号上坑道横园·出土道物园(1)	321
244	J区6号整六建筑物道横园(1)	271	299	J区24号上坑出土道物园(2)	322
245	J区6号整六建筑物道横园(2)	272	300	飛鳥·奈良·平安時代道横园外出土道物园(1)	323
246	J区6号整六建筑物道横园(3)	273	301	飛鳥·奈良·平安時代道横园外出土道物园(2)	324
247	J区6号整六建筑物出土道物园(1)	273	中世·近世		
248	J区6号整六建筑物出土道物园(2)	274	302	H区1号掘立柱建筑物道横园	325
249	J区6号整六建筑物出土道物园(3)	275	303	H区2号掘立柱建筑物道横园	326
250	J区7号整六建筑物道横园(1)	276	304	E区1号掘立柱建筑物道横园	327
251	J区7号整六建筑物道横园(2)	277	305	I区1号探掘坑道横园	328
252	J区7号整六建筑物出土道物园	278	306	E区1号探掘坑出土道物园	329
253	J区8号整六建筑物道横园	280	307	J区1号探掘坑道横园	329
254	J区8号整六建筑物出土道物园(1)	280	308	J区1号探掘坑出土道物园	330
255	J区8号整六建筑物出土道物园(2)	281	309	J区2号探掘坑道横园	331
256	J区10号整六建筑物道横园(1)	282	310	J区2号探掘坑出土道物园	332
257	J区10号整六建筑物道横园(2)	283	311	D区1号·5号·7号·33号·E区1号·3号·4号· F区10号·47号上坑道横园	334
258	J区10号整六建筑物出土道物园(1)	284	312	E区37号上坑道横园·出土道物园(1)、 3号上坑出土道物园	335
259	J区10号整六建筑物出土道物园(2)	285			
260	J区12号整六建筑物道横园(1)	287			

313図	E区37号土坑出土遺物図(2)	336	329図	H区1号室遺構図(2)・出土遺物図(1)	353
314図	F区2号~6号・G区1号~3号土坑遺構図	338	330図	H区1号室出土遺物図(2)	354
315図	F区3号・10号・G区4号・10号土坑出土遺物図	339	331図	H区1号室出土遺物図(3)	355
316図	G区4号・8号・10号・H区8号・10号・I区8号土坑遺構図、 G区10号土坑出土遺物図	340	332図	H区1号室出土遺物図(4)	356
317図	I区5号・9号・13号土坑遺構図	341	333図	E区7号溝遺構図	358
318図	I区15号・31号土坑遺構図・31号土坑出土遺物図(1)	342	334図	F区1号・G区4号溝遺構図・出土遺物図	359
319図	I区31号土坑出土遺物図(2)	343	335図	H区1号・I区4号溝遺構図・出土遺物図	360
320図	I区3号・5号土坑出土遺物図	344	336図	中世・近世遺構外出土遺物図(1)	361
321図	J区3号・4号土坑遺構図	344	337図	中世・近世遺構外出土遺物図(2)	362
322図	J区6号~10号・13号・15号・ 19号~21号・39号土坑遺構図	345	338図	鍛冶関連遺物構成図(1)	370
323図	J区25号・47号・50号・53号・59号~ 61号・65号・78号・79号土坑遺構図	346	339図	鍛冶関連遺物構成図(2)	371
324図	J区67号・75号・77号・90号・92号・95号土坑遺構図	347	340図	出土土器変遷図(1)	380
325図	J区76号・91号・94号・97号・98号・104号土坑遺構図	348	341図	出土土器変遷図(2)	381
326図	J区10号・47号・65号・94号・98号・104号土坑出土遺物図	350	342図	生品西浦道跡集落変遷図(1)	384
327図	J区25号・94号・98号・104号土坑出土遺物図	351	343図	生品西浦道跡集落変遷図(2)	385
328図	H区1号室遺構図(1)	352	344図	生品西浦道跡集落変遷図(3)	386
			345図	生品西浦道跡集落変遷図(4)	387
			写真1	木材組織の走査型電子顕微鏡写真(1)	366
			写真2	木材組織の走査型電子顕微鏡写真(2)	367

表 目 次

1表	発掘調査工程表	5
2表	周辺の調査遺跡概要	11
3表	縄文時代土坑一覧	25~27
4表	飛鳥・奈良・平安時代土坑一覧	314
5表	中世以降土坑一覧	333
6表	型穴建物出土炭化材の樹種同定結果	364
7表	型穴建物出土土器具伴表	378・379



1 図 遺跡位置図 (1/200,000)

● 遺跡地

I 調査に至る経緯・経過

1. 調査に至る経緯

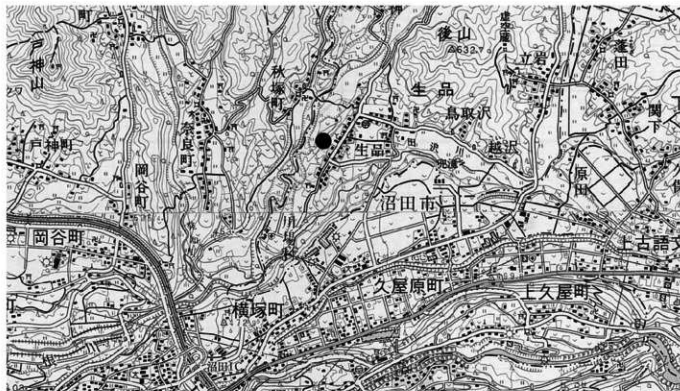
生品西浦遺跡の発掘調査は一般県道富士山横塚線地方特定道路整備事業に伴って実施されたものである。なお、本報告書の名称は2005年に刊行された「村道生品下り線埋蔵文化財発掘調査報告書『生品西浦遺跡』」の生品西浦遺跡と隣接する地点であるため地点を区分するため遺跡名の後ろに「Ⅱ」を付している。

一般県道富士山横塚線は沼田市横塚から遺跡が所在する川場村生品を通過して川場村富士山にいたる県道である。川場村は人口が昭和30年の5,376人以来、平成17年には若干盛り返しているが、4,176人に減少している。こうした状況から川場村では沼田市と協調し、過疎地域発展のため道路網の整備を図るものとして沼田市桜ヶ丘から川場村生品へ至る「市道桜ヶ丘横塚道路」、「村道生品下り線道路」を新設し、建設を行っている。村道生品下り線は沼田市側から川場大橋によって薄根川を渡り、生品の南側集落を西側に迂回するように通過し、一般県

道富士山横塚線と接続する。このため、群馬県ではさらに生品の北側集落の西側に迂回して生品地区の北側へ集落内を通過しない道路整備を計画した。

この道路整備に基づき群馬県教育委員会文化財保護課では平成16年度に用地買収の終了した地点を試掘調査した結果、竪穴建物をはじめ多くの遺構が存在することが確認されたため事業地内の本調査実施の必要性があると判断された。よって群馬県県土整備局沼田土木事務所と財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団の間で埋蔵文化財発掘調査の契約を締結して平成17年4月より発掘調査を実施した。

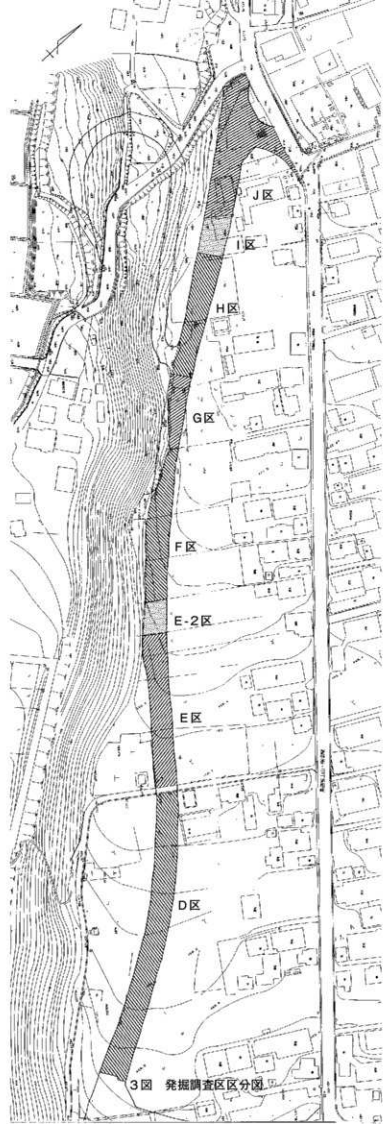
その後、未買収地については用地買収後、県教育委員会文化財保護課によって試掘調査が実施された。その結果、道路予定地内では全線が遺跡地であることが判明したため、用地買収の進捗状況や用地内宅地移転の状況によって平成18年度、平成19年度に本調査が実施され、平成19年度、平成20年度に整理事業が行われ、平成21年3月に本報告書が刊行された。



2図 遺跡位置図 (1/50,000)

2. 調査の経過

発掘調査は用地買収の進捗状況などの関係で2005年4月～9月、2006年6月～11月、2007年7月～10月(うち1ヶ月は県道整備に伴い改良される村道にかかる西川原古墳群の発掘調査を実施)の3ヶ年にかけてのべ15ヶ月実施した。その結果、発掘調査区はD区からJ区までの8区画に分割して実施した。(D～Jまででは7区画であるが、当初F区として発掘調査を実施する範囲が用地買収の進捗によって分割して行うことになったためE区側をE-2区としたため8区画になった。)なお、調査区がD区から始まるのは村道生品下り線事業に伴って実施された「生品西浦遺跡」の発掘調査がA区からC区までに分割して実施しているため本発掘調査も同一遺跡であることから連続する調査区の呼称を採用した。各調査区の分割はD区が生品西浦遺跡で調査したC区から路線を横断する形で存在する村道までの全長160m、E区は村道から未買収地の手前までの全長80mを範囲とした。F区は当初2007年度に発掘調査を実施したE区からG区までの区間を予定していたが、E区側、1筆の用地買収が遅れたことと、この区画に存在する遺構がE区側から連続することによってこの1筆をE-2区とし、G区側の全長80mをF区として調査した。G区は2007年度に調査をしたが、2007年度は当初E-2区までを発掘調査範囲として予定していたが、用地買収が進まないためE-2区の手前までとして用地買収の終了した全長40mのG区を調査した。また、E区の北西側の斜面地でも一部用地買収が完了しなかったため2008年度に調査を実施した箇所がある。この箇所での遺構はE区で検出した採掘坑遺構の延長であるため分割した区名称を付与していない。H区は全長70m、I区は全長25mである。2007年度にはI区から現道に取り付く地点の間で宅地が移転未了であった地点をJ区として調査を実施し、すべての調査を終了した。各調査区の調査期間は別表のとおりである。



3 図 発掘調査区分図

調査日誌

- 2005(平成17)年
- 4/1～11 発掘届など書類提出、事前準備。
- 4/11 発掘調査地で沼田土木事務所と打ち合わせ。
- 4/12 現地で諸々の打ち合わせ。
- 4/13～14 川場村教育委員会、生品地区自治会、地元住民への挨拶。
- 4/15～16 調査区の設定。
- 4/17～25 D区表土掘削(1面遺構確認面のV層黒色土上面まで)。
- 4/21～27 遺構確認。
- 4/27 県教育委員会文化課試掘坑内掘削。
- 4/28 D区1面壁穴建物、工房等遺構調査開始。
- 5/9 土器集積遺構写真撮影。
- 5/10 3号～7号壁穴建物、1号・2号土坑調査開始。1号・2号壁穴建物、2号土坑断面写真撮影、測量。
- 5/11 壁穴建物等調査、3号～8号土坑土坑断面写真撮影、土器集積遺構遺物取り上げ。
- 5/12～ 壁穴建物、土坑など埋没土調査、土坑断面写真撮影・測量、遺物出土状況写真撮影・測量、床面、底面検出、同写真撮影・測量、カメラ調査・写真撮影・測量。
- 6/1・2 ラジコンによる航空写真撮影準備
- 6/3 D区ラジコンによる航空写真撮影、壁穴建物全景写真撮影。
- 6/6～10 壁穴建物掘方調査開始。2面調査準備。
- 6/13～14 D区2面確認面までのV層掘削(重機使用)、遺構確認。
- 6/15 落し穴調査開始、土層断面写真撮影・測量。
- 6/16～24 落し穴埋没土調査、写真撮影、測量。
- 6/23 D区2面全景写真撮影(高所作業車)、旧石器時代試掘坑設定。
- 6/24～7/8 旧石器時代試掘。
- 6/28 調査区隣に所在するD区19号壁穴建物調査～7/1。
- 6/20 調査区隣に所在するD区20号壁穴建物調査～7/1。
- 7/11～14 D区旧石器時代遺物出土地点について本調査開始。
- 7/11～14 E区表土掘削、遺構確認。
- 7/15 E区壁穴建物、土坑調査開始。
- 7/21 E区壁穴建物カメラ調査開始。
- 7/25 E区全体回測量。
- 7/27 E区壁穴建物掘方調査開始。
- 7/29 E区壁穴建物掘方測量。
- 8/3 川場村小・中学校他教職員見学。
- 8/4 E区探掘坑調査。
- 8/5 E区2面確認面までのV層掘削(重機使用)、遺構確認。
- 8/8 E区土坑調査。
- 8/9 E区土坑写真撮影、測量。
- 8/12 E区2面調査終了。
- 8/16 E区旧石器試掘。
- 8/19 E区旧石器試掘終了。
- 8/20 G区調査準備。
- 8/26 G区表土掘削、V層の堆積がほとんど確認されなためV層上面での1面調査とする。
- 8/29 表土掘削、遺構確認。層根が多く遺構確認が進まない。
- 9/2 G区壁穴建物、土坑、溝を検出、遺構調査開始。
- 9/8 G区全景写真撮影。
- 9/9 G区遺構測量と同時に旧石器試掘調査。
- 9/12 G区1面の遺構調査終了、旧石器試掘調査継続。
- 9/14 G区旧石器試掘調査終了。
- 9/15 壁穴建物から出土した石材の理材鑑定を飯島静夫氏に依頼。
- 9/20 写真・図面の基礎整理。
- 9/22 器材など撤収準備。
- 9/26 器材撤収。
- 9/29 調査区埋め戻しについて沼田土木事務所と確認。
- 2006(平成18)年
- 6/1 発掘調査準備、地元挨拶回り。
- 6/5 現地で沼田土木事務所と打ち合わせ。
- 6/6 現地で発掘調査準備。
- 6/9 調査範囲の設定、調査区への進入路設定。E区(前年度未買収地)表土掘削。
- 6/12 E区探掘坑調査。
- 6/14 E区探掘坑写真撮影、測量。
- 6/16 E区探掘坑全景写真撮影。
- 6/20 E区探掘坑遺構測量。
- 6/22 E区埋め戻し。
- 7/11 F区表土掘削(V層黒色土上面まで)、遺構確認。
- 7/13 F区遺構確認、壁穴建物・溝・土坑等遺構調査。
- 7/14 F区遺構土坑断面測量。
- 7/20 F区墓坑調査。
- 7/26 F区土坑・掘立柱建物等全景写真撮影。
- 7/27 F区土坑・掘立柱建物等平面測量。
- 8/18 F区1面ラジコンによる航空写真撮影。
- 8/25 F区1面調査終了。
- 8/28・29 F区2面確認面までのV層掘削(重機使用)、遺構確認。
- 8/30 F区土坑調査開始。
- 9/1 F区全景写真撮影(高所作業車)。
- 9/4 F区2面全体回測量、旧石器試掘調査開始。
- 9/5 F区2面調査終了。
- 9/13～20 H区表土掘削(1面遺構確認面のV層黒色土上面まで)。
- 9/19～22 H区遺構確認。
- 9/20 F区旧石器試掘調査終了。
- 9/25 H区壁穴建物調査開始。
- 9/27 H区壁穴建物、土坑土坑断面・平面測量開始。
- 10/10 H区1面全景写真撮影準備。
- 10/11 H区1面ラジコンによる航空写真撮影。
- 10/16 H区1面「室」を除き調査終了。
- 10/25 I区1面遺構確認。
- 10/26 H区1面「室」調査終了。2面全景写真撮影(高所作業車)。
- 10/27 I区1面壁穴建物、土坑調査開始。
- 11/14 I区1面ラジコンによる航空写真撮影。
- 11/16・17 E-2区表土掘削、E-2区ではV層の堆積がほとんど確認されなためV層上面での1面調査とする。
- 11/21 E-2区土坑、探掘坑等調査開始。H区旧石器試掘調査。I区2面土坑調査開始。
- 11/22 I区旧石器試掘調査。
- 11/24 E-2区、I区2面土坑調査終了。
- 11/28 E-2区、I区2面全景写真撮影(高所作業車使用)。H区旧石器試掘調査終了。
- 2007(平成19)年
- 7/2～9 地元への挨拶、調査準備。
- 7/10～18 J区表土掘削、J区ではV層の堆積がほとんど確認されなためV層上面での1面調査とする。遺構確認。
- 7/18 遺構調査準備。
- 7/19 探掘坑、土坑、壁穴建物等から調査開始。
- 8/29 J区ラジコンによる航空写真撮影。
- 8/30 J区壁穴建物等掘方調査開始。
- 9/10 J区旧石器試掘調査準備、遺構調査はほぼ終了。
- 9/11 J区旧石器試掘調査開始。
- 9/15 J区旧石器試掘調査終了。
- 9/18～10/15 川場村道開通「西川原古墳群」発掘調査のため、生品西浦道路の調査一時中断。
- 10/16 H・I区旧石器調査開始。
- 10/25 H・I区旧石器調査終了。
- 10/26～29 調査区埋め戻し。
- 10/30 器材、記録類を撤収。

1表 発掘調査工程表

2. 調査の経過

年 月	2005(平成17)年										2006(平成18)年										2007(平成19)年				
	準備 他	D区			E区			G区		準備 他	E-2区		F区			H区			I区			準備 他	H-1 プレ	J区	
	1面	2面	試掘	1面	2面	試掘	1面	試掘		1面	試掘	1面	2面	試掘	1面	2面	試掘	1面	2面	試掘			1面	試掘	
4	■																								
5		■																							
6			■							■															
7				■																					
8	■																								
9	■																								
10																									
11																									

準備他には準備、埋め戻し、撤収を含む。試掘は旧石器試掘、プレは旧石器本調査を指す。

西川原古墳群
発掘調査

II 遺跡地の環境

1. 地理的環境

川場村は群馬県の北部、標高2,158mの武尊山の南麓に位置する。標高は村役場付近で520m、遺跡が所在する生品の集落付近で470m～480mである。気候は比較的冷涼であり、年平均気温は11.0℃、冬季の平均気温は6.3℃まで下がる。山岳地帯の積雪量は多く、年によって異なるが2～3mに達することもある。しかし、生品地区では日陰などを除くとほとんど積雪になることはない。地形的には南部を除いて三方を武尊山、赤倉山、田代山、雨乞山、高手山に囲まれている。村面積85.2km²のうち約80%が山林で占められている。これらの山地から流れ出す薄根川、桜川、溝又川、田沢川が標高600m付近からその流域に平地を形成する。

この平地は幅約1km、長さ4kmにわたり、各河川に沿ってほぼ北東から南西に続くが、上記4河川がほぼ平行して流れるため、利根郡内の他の利根川支流の平地よりやや広いのが特徴である。この平地にはかなりの起伏があり、微高地上には集落、畑地、低地は水田として土地利用がなされている。しかし、この起伏も近年の圃場整備や土地改良によってほとんど平坦化し、旧地形の様相を見ることができない。

遺跡地は南西部の平地を形成する河川の薄根川に桜川が合流した下流約200mから400mの左岸に形成した上位河岸段丘面に立地している。薄根川左岸の河岸段丘は地点によって異なるが生品付近では上位・中位・下位の三段に発達した面が形成されている。上位河岸段丘面と薄根川河床面との比高差は25mほどである。発掘調査範囲のもっとも下流域に位置するD区の標高は465m、もっとも上流域に位置するJ区は474mである。

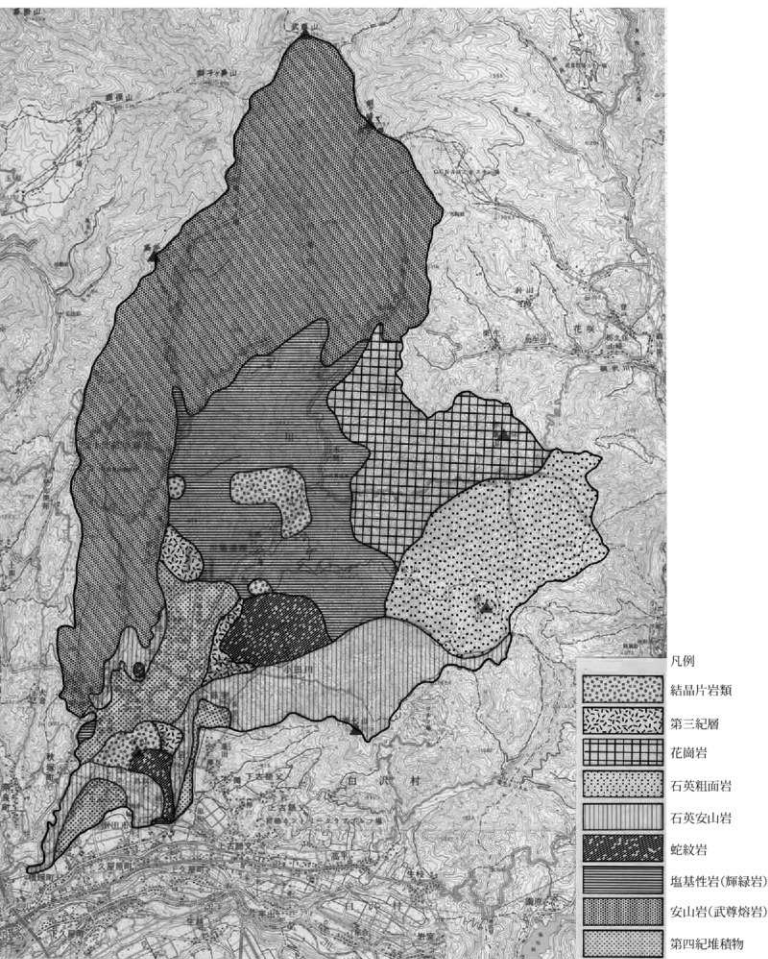
遺跡北東に位置する後山は中生層および、蛇紋岩からなる山で武尊山から流れ出している薄根川によって現在の山形が形づけられている。これら川場村の地形形成には前述の山々と古川場湖と薄根川をはじめとする諸河川による浸食、堆積作用が大きな役割をはたしているが、

もっとも大きな影響を及ぼしているのが新生代第四紀の火山活動と河川浸食作用によるものである。

古川場湖は1954年に川場村谷地富士山集落の南方桜川左岸での護岸工事中にソウ菌化石が発見され、群馬大学新井房夫教授によって調査されたのが糸口となった。このソウ菌化石が出土した暗褐色硬質粘土層が湖沼堆積物であることが解明され、この湖沼堆積物は川場平をとりまく標高600m前後の各所に見られることから湖の存在がわかった。古川場湖は武尊山の古期溶岩が川場村南部の後山、沼田市秋塚付近に堆積したためにできたものと考えられている。湖の範囲は東西約1km、南北1.3kmに及ぶもので湖沼堆積物が標高600mにあることから湖水面は標高610mくらいであったと推定される。この湖沼堆積物層である硬質粘土層はここから出土したソウ菌化石がナウマンゾウであることが解明されたことにより、その時代は洪積世中上部、約30～40万年前であることがわかった。その後、後山付近に堆積している石英安山岩が浸食されて湖を消滅させている。この浸食が現在の薄根川を形成している。なお、同様な調査から渋川市赤城町棚下では赤城山の溶岩流によって沼田盆地全体に広がって存在した古沼田湖が存在していたことがわかっていて、古沼田湖は古川場湖消滅後に形成されたものである。

参考文献

- 川場村誌編纂委員会 1961年「本村の自然」「川場村の歴史と文化」群馬県利根郡川場村役場
沼田市史編纂委員会 1995年「沼田市 自然編」沼田市
群馬県史編さん委員会 1990年「第1章 群馬県の自然と風土」『群馬県史 通史編1 原始古代1』群馬県



4 図 川場村地質図

2. 歴史的環境

遺跡が所在する川場村は主要交通網からややはずれた地域のため今まで大きな開発が行われていない地域であった。そのため古代の様相は数少ない発掘調査事例や表面採集などの成果から語られる程度でまだ解明されない点が多く見られる。本項ではそうした不十分な点を周辺地域での発掘調査事例などによって補いながらこの地域の歴史的環境を概観することとする。

旧石器時代 川場村内では生品西浦遺跡以外から旧石器時代の遺物出土例は見られない。周辺地域では戸神山南麓に所在する沼田市土塔原遺跡群戸神諏訪遺跡（遺跡が所在する沼田市町田町では関越自動車道、工業団地造成、土地改良事業などで広範囲に発掘調査が実施されている。市教育委員会ではこれらの遺跡を総称する「土塔原遺跡群」の名称を与えている。本項では戸神諏訪遺跡と略す）の薄根川支流小沢川左岸際から1点出土しているだけである。なお、三峰山西麓に所在するみなかみ町後田遺跡では中部ローム層上位の暗色帯から4,500点に及ぶ石器が出土している。後田遺跡に隣接する三峰神社裏遺跡、大友館址遺跡からもまとまった出土が見られる。

縄文時代 川場村内では門前橋詰遺跡や内出遺跡、生品西浦遺跡から遺構・遺物が検出、出土している。門前橋詰遺跡では前期の竪穴建物が1軒調査されている。内出遺跡では落し穴1基が調査されている。生品西浦遺跡では前期諸磯B期の土器を伴う土坑や多くの落し穴が調査されている。内出遺跡の南側に位置する沼田市（旧白沢村）寺谷遺跡では中期の集落が調査されている。また、薄根川右岸や戸神山南麓に立地する沼田市奈良原遺跡、岡谷十二遺跡では前期の集落が調査されている。

弥生時代 川場村内でも多くの遺跡が確認され、集落の調査も行われている。門前橋詰遺跡や外海戸遺跡では後期の竪穴建物が調査されている。生品西浦遺跡では後期の竪穴建物が1軒、田沢川左岸の高野原遺跡でも後期の集落が調査されている。高野原遺跡と同様の沼田台地に立地する鎌倉遺跡でも集落が調査されている。この他、立岩では中期の山草蒔土器が出土し、東北地方との交流が窺える。門前では澁川市有馬遺跡出土の人形土器と

類似したものが出土している。薄根川右岸の戸神諏訪遺跡では後期の大集落が調査されているが、この集落は古墳時代前期までしか継続していない。

古墳時代 前期では外海戸遺跡や戸神諏訪遺跡など僅かの遺跡しか調査されていない。さらに中期の集落は寺谷遺跡で3軒、生品西浦遺跡で4軒が調査されているだけである。寺谷遺跡では多量の石製模造品と未製品、石材が出土しており石製模造品製作工房が調査されている。後期では生品西浦遺跡、寺谷遺跡、沼田市石墨遺跡などで小規模な集落が調査されているだけで三峰山西麓のみなみ町（旧日夜野町）後田遺跡や師B遺跡などの大規模な集落は見つかっていない。

また、生産域は石墨遺跡で小規模であるが榛名二ツ岳軽石層下の水田が調査されている。榛名二ツ岳軽石層下水田は沼田市下川田平井遺跡や昭和村軍原Ⅱ遺跡、糸井太夫遺跡などで調査されており、下川田平井遺跡は比較的傾斜があるためか棚田状の様相が窺えている。

川場村の古墳は「上毛古墳総覧」によると85基が確認され、その後の「川場村の歴史と文化」では95基とされている。このうち生品地区では34基、天神地区では24基、谷地地区では14基と大半が生品と天神地区に存在している。天神地区では圃場整備が進み残存する古墳は少ない。生品地区でも大部分の古墳が消滅しているが、台地縁辺では数基が残存している。生品西浦遺跡では周堀だけの調査を含めると7基が調査され、比較的残存状態の良い馬具や武器などが出土している。生品地区の西側、薄根川左岸河岸段丘面に立地する西川原古墳群でも小円墳が1基調査され、大刀や銀象嵌が施された鐙などが出土している。高野原遺跡では4基の古墳を調査しているが、周堀の一部だけの調査であった。そのうちの2基ではこの地域で例を見ない榛名二ツ岳軽石降下以前の古墳であったが、主体部などはすでに削平された状態で遺物の出土は見られない。

周辺では薄根川の対岸に位置する沼田市秋塚古墳群で10基が調査されている。秋塚古墳群は7世紀代の小規模な円墳だけであるが馬具や大刀、籬の他に銀象嵌が施された大刀鐙、靱尻金具が出土している。また、同じ薄根川右岸のやや下流域には60基余りが確認していた奈良

古墳群が存在する。奈良古墳群は足跡整備のための発掘調査が実施されている。奈良古墳群も7世紀代の終末期古墳群であるが、10号古墳では玄室にT字状の側室を付設した類例の少ない古墳が存在している。出土遺物には大刀や鎌、馬具、須臾器などがあるが、馬具には非常に良好な状態のものがある。奈良古墳群西側の台地尾根上には峯山古墳群が確認されているが、現在墳丘は耕作によって削平され石室の一部が確認できる程度である。

奈良・平安時代 川場村内では生品西浦遺跡で竪穴建物から軒、外海戸遺跡で1軒、寺谷遺跡で8軒、高野原遺跡で墓坑が4基調査されている。その他、奈良田向遺跡、奈良原遺跡で小規模な集落が調査され、奈良田向遺跡では鍛冶工房の存在が想定されている。戸神山南麓の薄根川左岸河段丘面では戸神諏訪遺跡、町田上原遺跡、町田十二原遺跡など比較的規模の大きな集落が調査されている。戸神諏訪遺跡では村落寺院と想定される寺院跡も見つかっており、「宮田寺」、「南院」、鴉尾・風鏝をもつ寺院建物が描かれた石製鈴鐺が出土している。町田小沢遺跡では奈良三彩小蓋蓋の出土もみられる。

この時代は評里・郡割制によって地方の行政区分が行われている。古代利根郡は「和名類聚抄」によると男信郷、漕田郷、呉桃郷、笠科郷の四郷が置かれている。遺跡が所在する生品は「男信郷」の調と同様であることから（「和名類聚抄」高山寺本では「奈末之奈」、東急本では「奈萬之奈」）遺名とされ、古代男信郷の一部に比定されている。古代男信郷の範囲は古墳群からみると生品古墳群をほぼ道として天神古墳群、秋塚古墳群、奈良古墳群を

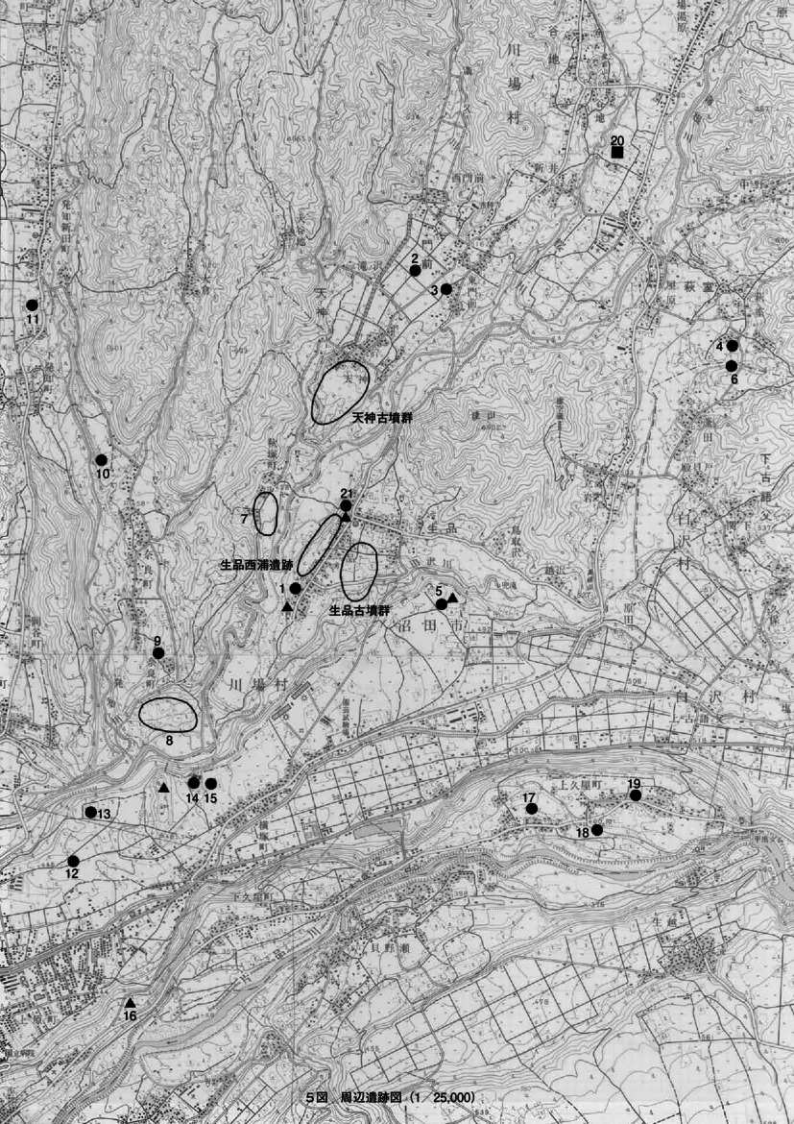
含む範囲が想定される。また、集落遺跡の分布は評里制が施行された時期の集落が今回報告する生品西浦遺跡や岡谷十二遺跡など限られているため明確ではない。こうした点を含めると推定の域をでないが川場村を中心に旧白沢村の西部、沼田市北部の北東部が考えられる。利根郡家については昭和村森下に「御門」の字名が存在し、この地域周辺からは古代瓦が出土することなどからこの付近に比定されているが確証は得られていない。

中世 利根郡の荘園は康治2（1143）年の太政官謄案（安楽寿院古文書）に京都鳥羽の安楽寿院領として「土井出・笠科庄」を見ることができる。この古文書には同時に土井出・笠科庄の西限を隅田庄としているのでこの時期には2荘園が設置されていることがわかる。隅田庄は「隅田」が利根川の異称であることから利根川流域に領域をもつと考えられ、旧日夜野町付近に比定されている。土井出・笠科庄は片品村に現存する土井出の地名から片品村東部から沼田市にかけて領域をもっていたと見られ、川場村もこの荘園に含まれていたと考えられる。この2荘園は後に利根庄と呼ばれ、南北朝期には豊後守護大友氏が地頭職を有し、両朝統一後は万里小路家領となっている。大友氏が地頭職を有していたことから川場村門前に大友氏泰が父貞宗の追善のため僧中庵円月を開山に迎えて臨濟宗吉祥寺を建立している。

なお、生品の名称が和名類聚抄以後の文献で確認できるのは天正十一（1583）年四月十日の北条氏朱印状写（須田文書）の「なましな」、同十七（1589）年十月一日の猪俣邦憲知行宛行状（真田文書）の「生科」である。

周辺調査文献

- 1 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団「生品西浦遺跡～終末期・馬具出土古墳の調査～、一村道生品下り埋蔵文化財発掘調査報告書」2005
- 2 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団「門前橋跡・外海戸遺跡 高野原遺跡～公共開発関連出土品等整理報告書」1989
- 3 群馬県利根郡白沢村教育委員会「寺谷遺跡」発掘調査報告書
- 4 群馬県利根郡白沢村教育委員会「寺谷遺跡」発掘調査報告書（原稿編）1981
- 5 白沢村教育委員会「寺谷遺跡～農用地総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書～」2003
- 6 沼田市教育委員会「秋塚古墳群Ⅰ～平成2年度土地改良総合整備事業秋塚地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」1991
- 7 沼田市教育委員会「秋塚古墳群Ⅱ～平成3年度土地改良総合整備事業秋塚地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」1992
- 8 沼田市教育委員会「秋塚古墳群Ⅲ～平成5年度土地改良総合整備事業秋塚地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」1994
- 9 沼田市教育委員会「奈良古墳群～平成11年度東吾山間地域総合整備事業みくに地区奈良南部1区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」2001
- 10 沼田市教育委員会「奈良古墳群 確認調査～平成16・17年度保存目的の埋蔵文化財発掘調査報告書」2007
- 11 沼田市「沼田市史 資料編1 原始古代・中世」
- 12 沼田市教育委員会「奈良地区遺跡群（奈良田向遺跡）～土地改良総合整備事業奈良地区に係る埋蔵文化財発掘調査の概要～」1990
- 13 沼田市教育委員会「奈良地区遺跡群（奈良原遺跡）～土地改良総合整備事業奈良地区に係る埋蔵文化財発掘調査の概要～」1991
- 14 沼田市教育委員会「発掘通知記録簿上光寺遺跡～平成7年度農用地総合整備事業発掘通知部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」1996
- 15 沼田市教育委員会「鎌倉台遺跡～水資源開発公営沼田総合管理用管新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」1990
- 16 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団「跡遺跡・鎌倉遺跡～開越自動車道（新開越）埋蔵文化財発掘調査報告書第28集」1989
- 17 沼田市教育委員会「下宿田遺跡～地方特定道路整備事業坂ヶ丘横線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」1996
- 18 沼田市教育委員会「追鳥古墳（田利南村第8号古墳）～利根郡沼田市広域誘導（おまたま聖）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」1989
- 19 沼田市教育委員会「上久屋地区遺跡群下清水遺跡・馬場遺跡・橋場遺跡、十二反遺跡～群馬緊急地帯総合整備事業上久屋地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」1993
- 20 沼田市教育委員会「上久屋橋場遺跡～有限会社沼田物産上野塚地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」1989
- 21 群馬県利根郡白沢村教育委員会「大友跡発掘調査報告書」1983
- 22 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団「西川原古墳群～一村道生品秋塚線道路改良関連事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」2008



5図 川辺遺跡図 (1/25,000)

2表 周辺の調査遺跡概要

遺跡 NO	遺 跡 名 (所在地)	調 査 の 内 容	文獻 NO
1	生品西浦遺跡 (利根郡川場村大字生品)	本遺跡の南側に位置し、薄根川左岸中位・上位河岸段丘面に立地する。縄文時代は落し穴・土坑、弥生時代は竪穴建物1軒、古墳時代は中期から後期にかけての集落と終末期の古墳5基、奈良平安時代の集落、中近世は屋敷跡、墓坑を抽出。古墳からは副葬品に大刀、鉄鏃、意剣などの馬具が出土している。	1
2	門前橋遺跡 (利根郡川場村大字門前)	薄根川の支流、溝又川と桜川に挟まれた平地上の微高地に立地する。縄文時代前期諸議式期の竪穴建物1軒と弥生時代後期の竪穴建物2軒、平安時代の溝1条を抽出。出土遺物には縄文時代前期諸議式土器、弥生土器、「車」と題された須恵器がある。	2
3	新海戸遺跡 (利根郡川場村大字門前)	薄根川の支流、溝又川と桜川に挟まれた平地上の微高地、門前橋遺跡の南東200mに立地する。弥生時代後期の竪穴建物1軒と古墳時代の竪穴建物1軒、平安時代の竪穴建物1軒が抽出。出土遺物には弥生土器がある。	2
4	内出遺跡 (利根郡川場村大字荻室)	南乙山西麓の小規模な扇状地に立地する。抽出された遺構は落し穴、土坑など、出土した遺物は縄文時代中期の土器片、石器、土師器などがある。	3
5	高野原遺跡 (利根郡川場村生品・沼田市横塚町)	田沢川左岸の河岸段丘面に立地する。弥生時代後期の集落と古墳、平安時代の墓坑を抽出。弥生時代の集落は竪穴住居12軒を抽出し、7軒を調査。古墳は4基を調査、そのうち2基は6C代のもので周堀内にHr-PPが堆積、主体部は造成によって消失。隣接する古墳からは方頭大刀が出土している。	2
6	寺谷遺跡 (沼田市(旧白沢村)古語久)	南乙山西麓の小規模な扇状地に立地する。調査は1980年と2001年に実施されている。縄文時代中期、弥生時代中期、後期、古墳時代中期、平安時代の集落を抽出、なかでも弥生時代の竪穴住居からは板状鉄斧など、古墳時代の中期の石製模造品を3,000点あまり使用した祭祀が抽出され注目されている。	4・5
7	秋塚古墳群 (沼田市秋塚町)	薄根川右岸の河岸段丘面に立地する。1990年、1991年、1993年にわたり円墳12基を発掘調査している。調査の結果、7C前半の終末期古墳と判明。出土遺物には大刀、鏃、馬具、須恵器などがあるが、中でも3号墳からは鎧冓が施された副葬品が出土。	6・7・8
8	奈良古墳群 (沼田市奈良町)	薄根川左岸の河岸段丘面に立地する。1955年群馬大学、1999年に沼田市教育委員会によって発掘調査が行われた。古墳群は東西400m、南北200mの範囲に60基が確認されていた。古墳の規模は最大でも径20mで大部分は7m～10m前半代である。構築の時期は7C代で石室は自然石乱石積の竪穴式である。石室にはの字状をした希なものも存在する。出土遺物には金銅製の馬具を初め大刀、鏃、須恵器などがある。	9 10 11
9	奈良田遺跡 (沼田市奈良町)	発知川右岸の上位河岸段丘面に立地する。弥生時代後期の竪穴住居8軒と平安時代の竪穴住居13軒などを抽出。平安時代の住居の中には小鍛冶跡や樋割口・鉄滓を抽出・出土したものがある。遺物には土器の他に権衡などの鉄製品が注目される。	12
10	奈良原遺跡 (沼田市奈良町)	発知川左岸の上位河岸段丘面に立地する。縄文時代前期の竪穴住居8軒、弥生時代後期の竪穴住居7軒、平安時代の竪穴住居2軒と中世の堀、墓坑を抽出。出土遺物には土器、石器、土師器、須恵器、五輪帯などがある。	13
11	上光寺遺跡 (沼田市下発知町他)	発知川右岸の上位河岸段丘面に立地する。縄文時代後期の柄杓形敷石住居1軒、後期の敷石遺構2基、土坑14基、茅3基、埋設土器3基と弥生時代の竪穴住居2軒、平安時代の掘立建物遺構、中世の竪穴建物、墓坑、土坑、溝、欄状遺構などを抽出した。出土遺物には縄文時代後期の土器、石器と渡来銭などがある。	14
12	鎌倉台遺跡 (沼田市高橋場町)	薄根川左岸の沼田台地上の北側縁辺に立地する。縄文時代中期の落し穴3基、土坑14基を抽出。	15
13	鎌倉遺跡 (沼田市岡谷町鎌倉)	薄根川左岸の沼田台地の北側縁辺、標高446mに立地する。また、遺跡地の南側には水田として利用されている谷地が存在している。弥生時代後期の竪穴住居9軒を抽出。出土遺物には弥生土器の他、縄文時代中期阿玉式、加曾利E3式などの縄文土器がある。	16
14	清水遺跡 (沼田市横塚町字清水)	薄根川左岸の沼田台地の北側縁辺、標高450mに立地する。古墳時代前期の竪穴住居1軒抽出。出土遺物には土師器、土師、付置、小型罌などがある。土師器には弥生時代後期の様相を呈するもののみがある。	11
15	下宿浦遺跡 (沼田市横塚町下宿浦)	薄根川左岸の沼田台地の北側縁辺、標高460～464mに立地する。縄文時代の落し穴4基、土坑9基と平安時代の掘立建物4棟を抽出。掘立柱建物は1×1、1×2間と簡素な作りである。出土遺物には縄文土器と古墳時代の土師器がある。	17
16	道基古墳群 (沼田市上沼賀町字道基)	片品川右岸の中位河岸段丘面の傾斜地に立地する。標高は392m前後、河床からの比高差は約60mである。古墳1基を発掘調査している。古墳はHr-PP層上に構築されている径13mの円墳、石室は自然石乱石積の横穴式両室型、全長は6.12m、玄室長3.52m、幅2.35mを測る。出土遺物には金銀、須恵器高杯がある。構築年代は出土した須恵器が6世紀後半の様相を呈していることから6世紀末から7世紀初頭とされている。	18
17	下清水遺跡 (沼田市上久保町下清水)	片品川右岸の中位河岸段丘面、標高391mに立地する。縄文時代中期加曾利E式中期の柄杓形住居1軒、竪穴住居3軒抽出。出土遺物には中期加曾利E式の土器と石器、土製耳飾り(耳栓)と古墳時代の土製玉がある。	19
18	上久保橋場遺跡 (沼田市上久保町字橋場)	片品川右岸の下位河岸段丘面、標高392～394mに立地する。周囲には利南古墳群が存在している。弥生時代後期竪穴住居4基と近世の墓坑1基を抽出。古墳と想定された高まりを調査したが、古墳である確証は得られていない。出土遺物には弥生土器、土師器、土師、天保達瓦、キセルなどがある。	19・20
19	馬場遺跡 (沼田市上久保町字馬場)	片品川右岸の中位河岸段丘面、標高410mに立地する。中世の堀1本、溝1基、土坑6基と時期不詳の竪穴状遺構を3基抽出。出土遺物には縄文時代の土器、石器、中世の白瓦、陶器、凹石がある。	19
20	大友館跡 (川場村大字谷地字中原)	薄根川右岸の台地上に立地する。大伴氏にかかわる館跡であったかは四方に土塁がめぐっていたとされる。発掘調査では土塁と堀を抽出。出土遺物には陶器、磁石、キセルなどがある。	21
21	西川原古墳群 (利根郡川場村大字生品)	薄根川左岸の中位河岸段丘面に立地する。古墳時代後期の小円墳1基、小石棺墓1基、9世紀後半から10C前半にかけての竪穴建物5軒が調査された。古墳からは大刀、小刀、鏃などの副葬品が出土している。大刀に付けられていた銅には鎧冓が施されていた。	22

III 調査の方法

1. 調査区の設定

発掘調査にあたっては新規にグリッド等の設定は行わず生品西浦遺跡と同様に国家座標IX系（世界測地系）をそのまま利用した。調査区には原則10mを単位に座標杭を設置したが、調査区幅が狭いため、適時5m、1m、場合によってはcm単位の杭を併用して対応した。なお、各座標の呼称にあたっては発掘調査区がX=75,150～75,680、Y=-66,670～-67,040の範囲であることから下3桁が重複する地点が存在しないため座標値の下3桁だけの表記とした。一例としてX=75,560、Y=-66,730の座標については560-730と表記した。

2. 調査の手順

発掘調査は調査範囲を確定した後、大型掘削機を使用して古墳時代以降の遺構確認面であるV層上面(第1面)までI～III層の掘削を行った。このV層上面での調査終了後、再度大型掘削機によって縄文時代～弥生時代の遺構確認面であるVII層上面(第2面)までV層・VI層の掘削を行った。なお、E-2区、G区、J区調査区ではV層の堆積がほとんど確認されないか5～10cmと少ないため縄文時代から中世・近世にかけてを同一のVII層上面で遺構確認、調査を行った。VII層上面での調査終了後、旧石器時代の遺物、遺構の有無を確認するため調査区の5%をめどにVII層以下の試掘を行った。この試掘は作業員による掘削である。この試掘の結果、D区とH・I区において旧石器の出土が確認されたため出土地点を中心に調査区を設定して調査をおこなった。

遺構の調査では竪穴建物などの大型遺構は埋没状態を観察するため十字に、土坑などの小型の遺構では長軸に対し直交する方向にセクションを設定した。また、竪穴建物、土坑などの中で重複する遺構について新旧関係を確認するため一部トレンチによる調査を行った。そして埋没状態、堆積状態を観察するため土層観察用のベルトを残すか、半裁状態で掘削を行い、断面観察、写真撮影、

測量を行い、残りを掘削後平面状態の測量を行った。なお、遺物出土状態図は作業員によって平板測量、その他詳細図、調査区の全体図等は測量業者に委託した。

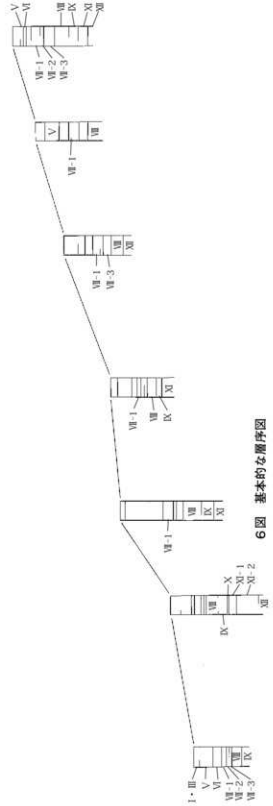
調査区の全景写真は測量業者によるラジコンでの空中写真撮影、または高所作業車から発掘担当者が撮影した。

3. 遺跡地の基本的層序

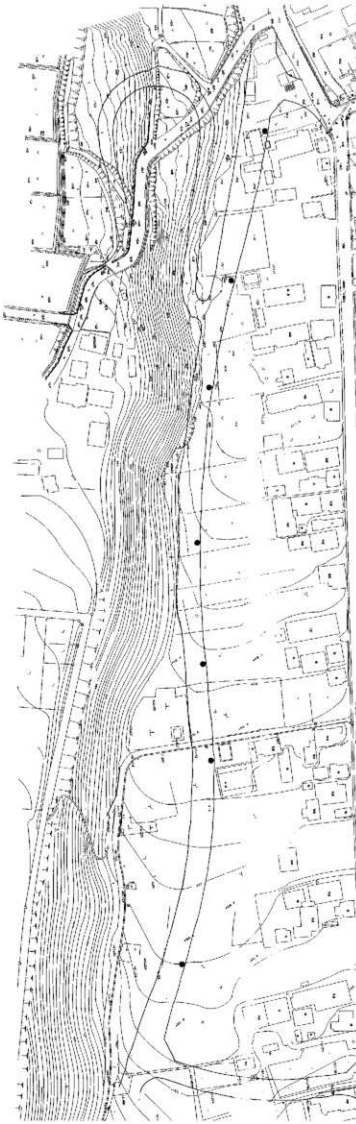
基本土層は生品西浦遺跡と同様である。なお、E-2区、G区、J区調査区は傾斜地や宅地であったため表土がほとんど流出、造成によって黒褐色土が10cmほど堆積しているだけでほとんど残っていない状態であった。確認された層位は以下のとおりである。

- I層 黒褐色土 耕作土、榛名二ッ岳軽石(Hr-FP)を多量に含む。
- II層 生品西浦遺跡では浅間粕川軽石の堆積が確認できる箇所があるが、今回の調査区では確認していない。
- III層 黒褐色土 やや褐色が強い、Hr-FPを30%含む。
- IV層 Hr-FP、竪穴建物など窪地に堆積したものはその後の攪拌を受けにくかったためか、そのまま残存している。
- V層 黒色土 含有物はほとんどみられない。
- VI層 ローム漸移層。
- VII-1層 黄褐色土 浅間白糸軽石(As-Sr)が混じりこんだ黄褐色土。
- VII-2層 浅間板鼻褐色軽石(As-BP)。
- VII-3層 黄色がかった灰色土。
- VIII層 黄褐色土(2.5Y5/4)。
- IX層 オリーブ褐色土(2.5Y4/4)。
- X層 暗灰黄色土(2.5Y5/2)。
- XI-1層 黄褐色土(2.5Y5/3)灰色砂を2～3%含む。
- XI-2層 褐灰色砂。
- XI-3層 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)φ1cm前後の亜角礫を1～2%と灰色砂を含む。
- XII層 径10～20cmの円礫からなる礫層。

3. 遺跡地の基本的層序



6 図 基本的な層序図



474

472

470

468

466

464

IV 検出した遺構と出土した遺物

1. 旧石器時代

試掘調査の概要 遺跡地にはローム土が堆積していることから旧石器時代の遺構や石器などが出土する可能性が想定されるため第2面の縄文時代～弥生時代面の遺構調査が終了した後、旧石器時代の石器が存在するか否かを確認するための試掘調査を行った。試掘調査は調査対象範囲の概ね5%程度を目安になるべく等間隔になるよう7図のように試掘坑を設定した。なお、D区、E区、G区、J区では第2面の縄文時代～弥生時代面の遺構調査がほぼ終了後に旧石器の試掘調査を開始できたことから座標に沿った試掘坑の設定が可能であったが、F区、H区、I区では調査期間の関係から縄文時代の遺構調査の必要性のない箇所や終了した箇所から試掘調査を開始したため任意の試掘坑設定となった。その結果、D区、H区、I区調査区において1試掘坑内より複数の石器が出土した。こうした石器出土状態から周辺に石器群が残存する可能性が窺えるため、石器出土の試掘坑周囲について旧石器時代の調査を行った。D区調査区については試掘調査終了後本調査を開始したが、H区・I区調査区では予定されていた期間内の調査終了が困難なため本調査は次年度に順延した。

試掘坑における調査では石器などの出土が確認できない箇所については刈層にあたる礫層まで掘り下げ、土層堆積状態の写真撮影及び図の測量を行った。なお、石器が出土した試掘坑では石器出土層位までの掘り下げで本調査に移した。

旧石器の調査 D区調査区ではX=75,178～75,180-Y=-67,010～-67,015試掘坑の東寄り、VII-2層のAs-BP層下、VII-3層中から剥片が3点出土した。このため南北は掘削面の崩落防止などを配慮しながら発掘調査範囲である道路幅、東西はY=-67,005～-67,015の範囲について本調査を実施した。調査地点はD区調査区の中央よりやや南東によった地点である。地形は西側の薄根川河岸段丘崖より約30mほど内側の南東に向け

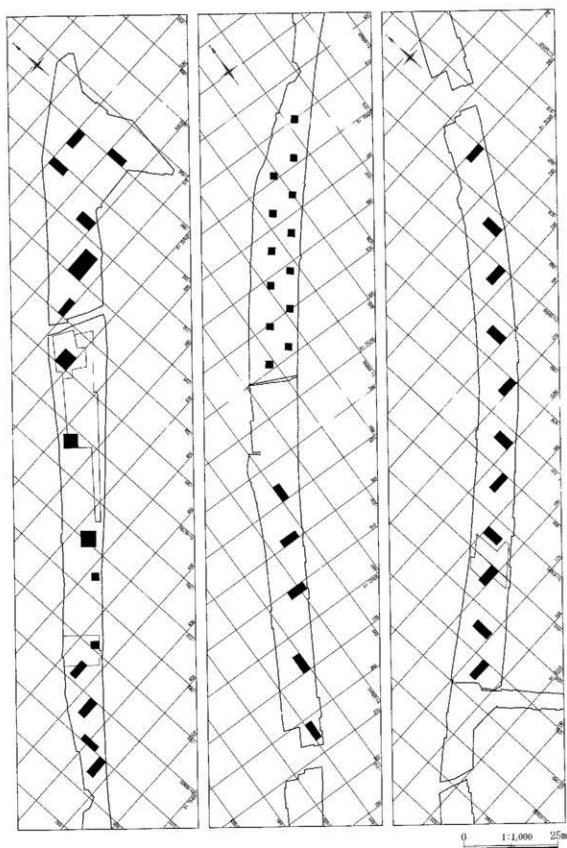
ての緩斜面地である。

出土した遺物は散在的な出土状態であったが、石器、礫など57点があった。その内訳はナイフ形石器1点、搔器1点、加工痕のある剥片1点、礫石6点、台石1点、縦長剥片7点、剥片27点、砕片4点、礫9点であった。石材は黒色頁岩12点、珪質頁岩4点、蛇紋岩1点、黒色安山岩22点、珪質安山岩1点、粗粒輝石安山岩4点、細粒輝石安山岩4点、砂岩4点、変質玄武岩3点、ホルンフェルス1点、軽石1点である。接合関係は礫石のNO.6で3点、NO.7で4点がみられた。

H区・I区調査区ではH区試掘坑1とI区試掘坑のVII-3層中から剥片や円礫が出土した。このため2008年度にH区調査区試掘坑1の周囲とI区試掘坑の周囲とH区調査区の調査範囲の東西両側に再度試掘坑によって範囲確定を試みた結果、11図に示した範囲について調査を実施することとした。なお、第2地点は前年度の試掘調査から東側に広がると想定されたため試掘坑内での調査とした。地形は西側河岸段丘崖から3～5mほどしか離れていない西側へ向けての緩斜面地である。

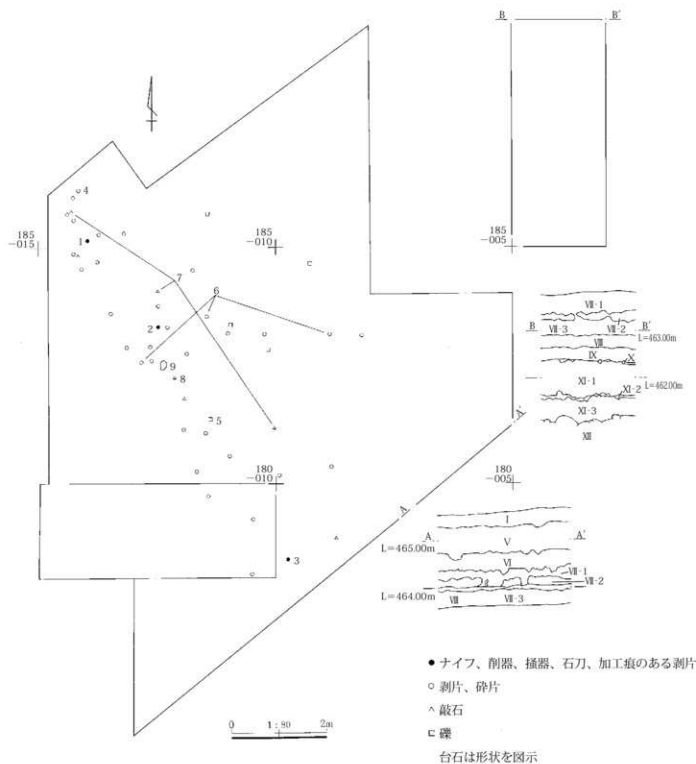
出土した遺物は3地点で石器、礫など24点であった。その内訳は石刃4点、削器3点、加工痕のある剥片3点、礫石2点、台石1点、剥片3点、礫10点であった。石材は黒曜石2点、黒色頁岩7点、粗粒輝石安山岩9点、細粒輝石安山岩1点、砂岩1点、変質玄武岩3点、変質閃緑岩1点である。接合関係は第2地点から出土した剥片2点の接合がみられた。また、第1地点から出土したNO.10の台石は火を受けている。

本遺跡から出土した旧石器の性格は出土状態や出土量からみて拠点的な場とはみられないことから、狩猟や採集などにおける一時的に滞在した場で石器の補充や補修などのために行った加工によるものと考えられる。

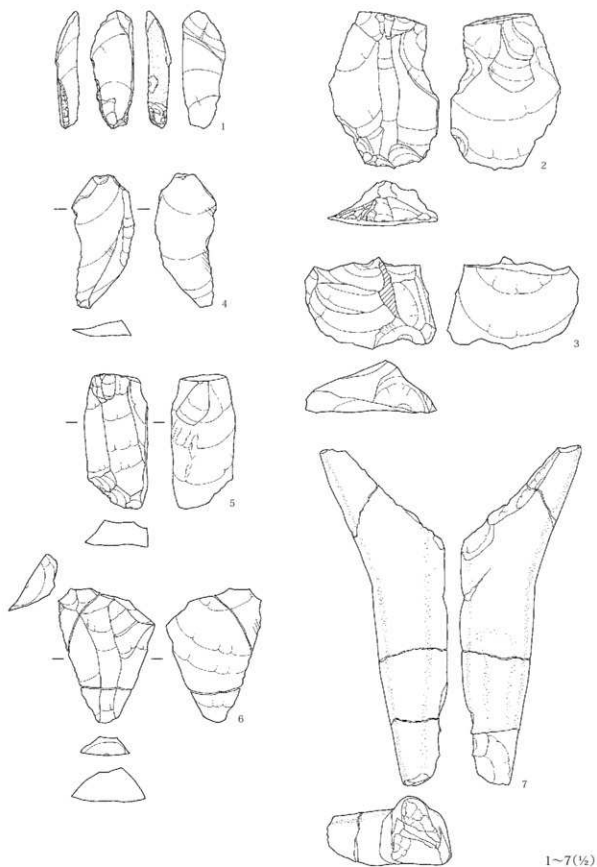


7図 旧石器試掘坑配置図

IV 検出した遺構と出土した遺物



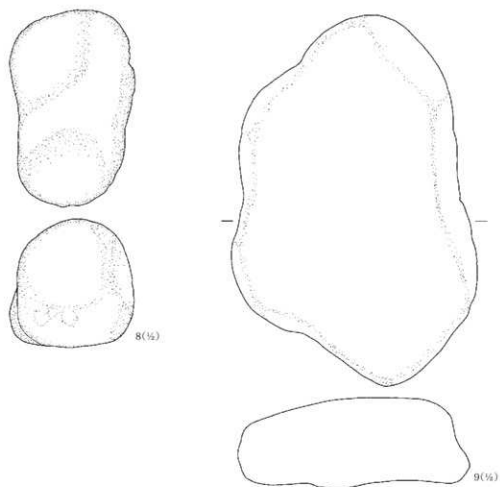
8 図 D区旧石器出土分布図



1~7(1/2)

9图 D区旧石器出土遗物图(1)

IV 検出した遺構と出土した遺物

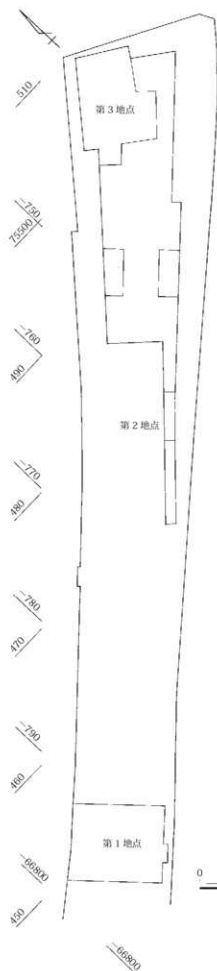


10図 D区旧石器出土遺物図(2)

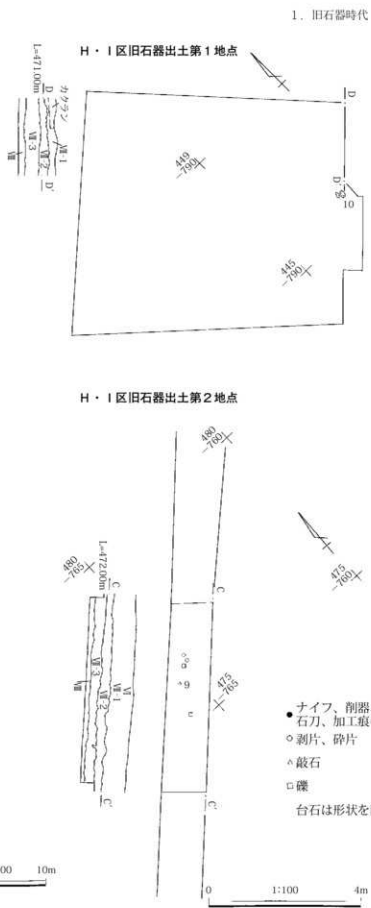
D区旧石器

PL.132

NO.	器種	残存率	石材	計測値				出土位置			摘要
				長さ	幅	厚さ	重さ	X	Y	Z	
1	ナイフ形石器	完形	黒色安山岩	16.2	2.3	1.05	15.8	75,185.07	-67,013.85	-463.62	
2	掻器	完形	黒色頁岩	8.3	5.8	2.4	95.0	75,183.29	-67,009.85	-463.62	
3	加工痕のある 剥片	完形	変質玄武岩	4.6	6.5	2.35	65.1	75,178.43	-67,009.75	-463.62	
4	剥片	完形	黒色頁岩	7.0	3.1	0.8	17.1	75,186.22	-67,014.16	-463.65	
5	剥片	完形	黒色安山岩	7.0	3.3	1.3	48.6	75,181.39	-67,011.40	-463.85	
6	剥片	完形	砂岩	7.1	5.2	1.7	59.7	75,183.14 75,183.52 75,182.55	-67,008.90 -67,010.47 -67,012.91	463.79 463.58 463.60	3点接合
7	敲石	両端欠損	黒色安山岩	17.8	4.5	3.4	342.0	75,181.18 75,184.05 75,185.71	-67,010.13 -67,012.48 -67,014.26	-463.67 463.56 463.51	4点接合
8	敲石	完形	粗粒輝石安山岩	10.4	6.5	6.8	610.0	75,182.19	-67,012.15	-463.58	
9	台石	完形	粗粒輝石安山岩	19.4	13.0	4.65	1750.0	75,180.46	-67,012.13	-463.61	



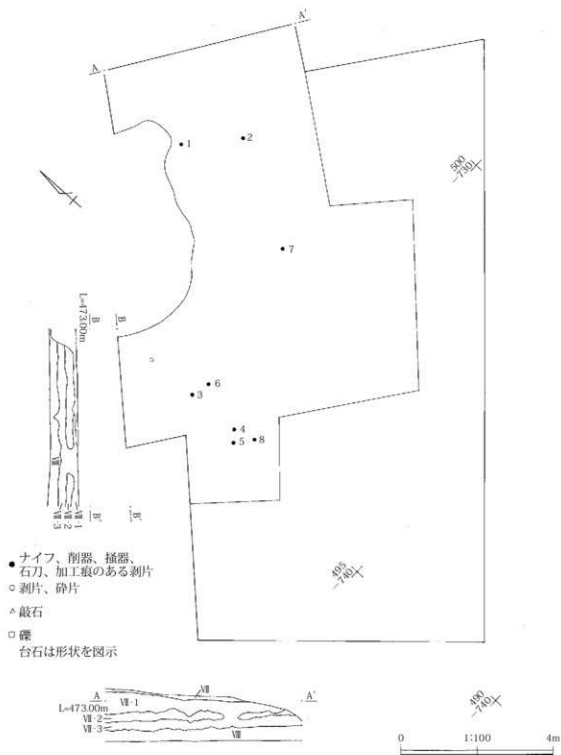
11図 H・I区旧石器調査区図



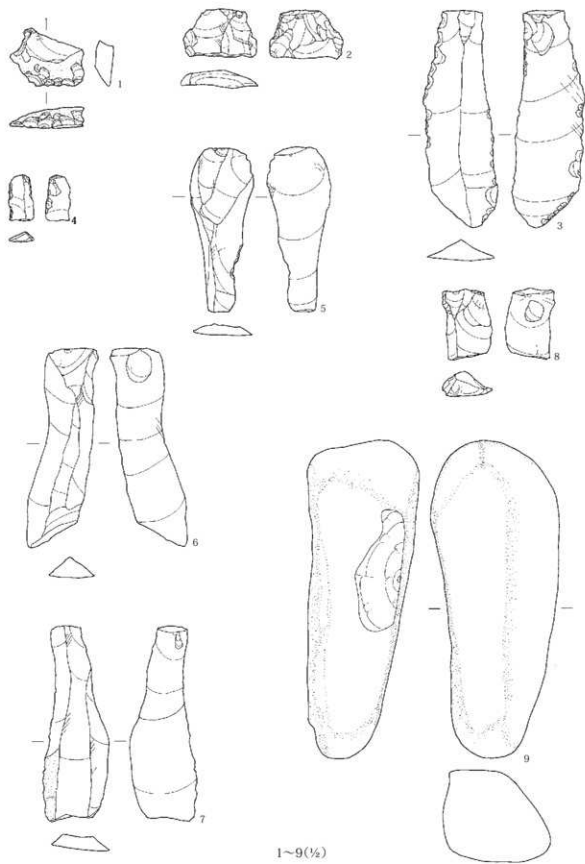
12図 H・I区第1地点・第2地点石器出土分布図

IV 検出した遺構と出土した遺物

H・I区旧石器出土第3地点



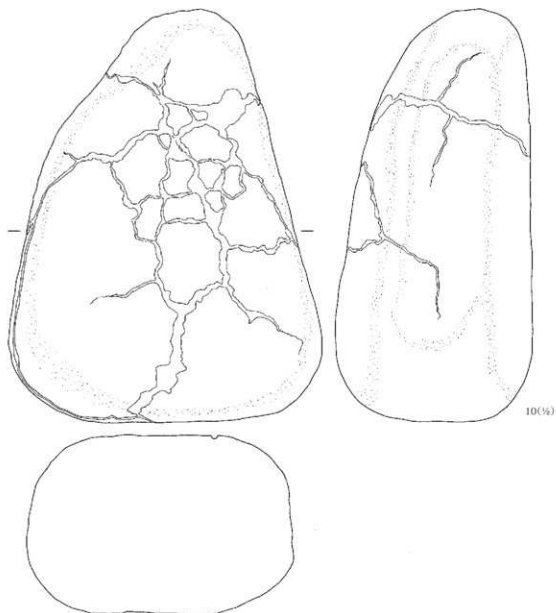
13図 H・I区第3地点石器分布図



1~9(1/2)

14图 H·I区旧石器出土遗物图(1)

IV 検出した遺構と出土した遺物



15図 H・I区旧石器出土遺物図(2)

H・I区旧石器

PL.132・133

NO.	器種	残存率	石材	計測値				出土位置			備考
				長さ	幅	厚さ	重さ	X	Y	Z	
1	削器	完形	黒曜石	2.9	3.85	1.1	10.6	75,506.02	-66,735.03	472.08	
2	加工痕のある剥片	完形	黒曜石	2.55	3.9	0.9	12.0	75,504.96	-66,733.65	472.13	
3	加工痕のある剥片	完形	黒色頁岩	11.4	3.5	1.0	47.7	75,501.25	-66,739.87	472.06	
4	加工痕のある剥片	完形	黒色頁岩	2.4	1.3	0.5	1.8	75,499.85	-66,739.51	472.18	
5	石片	完形	黒色頁岩	8.7	3.3	0.6	21.9	75,499.61	-66,739.88	472.09	
6	石片	完形	黒色頁岩	10.5	2.8	1.1	44.4	75,501.22	-66,739.15	471.99	
7	石片	完形	黒色頁岩	13.0	3.4	0.8	32.8	75,502.06	-66,735.13	472.32	
8	石片	端部欠損	黒色頁岩	3.6	2.3	1.2	11.8	75,499.38	-66,739.45	472.11	
9	敲石	完形	粗粒輝石安山岩	16.7	6.8	4.8	910.0	75,476.01	-66,769.45	471.69	
10	台石	完形	粗粒輝石安山岩	21.8	16.5	9.4	4700	75,445.84	-66,788.92	473.25	

2. 縄文時代

(1) 土坑、落し穴

縄文時代に比定できる土坑は161基検出した。年代の比定にあたっては遺物が出土した土坑が5基しかないためほとんどは今までの研究成果や埋没土の状態から判断した。

検出した土坑の内訳は落し穴139基、土坑19基、不明2基、風倒木痕1基である。落し穴はD区73基、E区8基、F区18基、G区5基、H区19基、I区8基、J区8基である。各調査区では面積が異なるため一概に比較できないが、100㎡あたりに存在する落し穴数でもD区3.78基、E区0.66基、F区1.69基、G区0.38基、H区2.08基、I区1.96基、J区0.42基とD区がもっとも多い比率である。

これら落し穴は平面形態や底面形態、断面形態、逆茂木の形態などによって分類が可能である。平面形態は大別では楕円形、長方形がみられるが、楕円形の中には長辺側が丸みをもつ楕円形と長辺側が直線的な二形態がある。平面形態を規模の面からみると短軸/長軸比での数値的によってD区70号土坑、102号土坑、51号土坑、48号土坑に代表される長軸に対して短軸が狭い形態が短軸/長軸比40～50、D区81号土坑、99号土坑、57号土坑のように円形に近い楕円形のものや矩形を呈する形態が短軸/長軸比65以上、両者の中間的なものに分類できる。これらの平面形態では短軸/長軸比が小さいほど実際の規模は大きくなる傾向がみられる。実際の規模は長軸で最小のものがI区18号土坑で1.07m、最大がH区36号土坑で3.02mである。長軸での規模は2.45mを超えると10cm以上の間隔が開くが、それまでは1～6cm間隔での変化のため規模そのものによる分類は難しい。底面形態は比較的長方形形が多く、一部は長辺が中程でくびれを持つ形態がみられる。断面形態はほとんどの落し穴で長軸、短軸とも逆台形状を呈すが、一部にはⅦ-2層下が崩れた結果横穴状になっているものもみられた。

なお、一覧表に示した逆茂木の形態分類はA1類が中

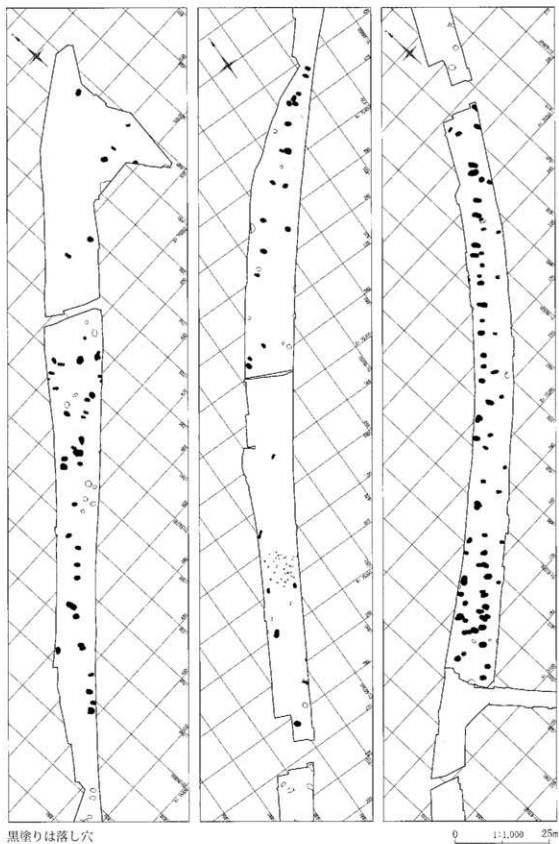
央にやや大きめな逆茂木が1本だけのもの、A2類は中央の大きめな逆茂木とその周りに1～3本のやや小規模な逆茂木が設けられているもの、A3類は中央の大きめな逆茂木と底面全体に不規則な状態で複数の小規模な逆茂木が設けられているもの、B1類は長軸上の中央に3～4本の逆茂木が1列に設けられているもの、B2類はB1類の配置に類似するが、3・4本以上の逆茂木がやや不規則に設けられているもの、C類は小規模な逆茂木が全体に不規則な状態で設けられているもの、D類は逆茂木が設けられていないものである。

落し穴の埋没状態は基本的に短軸側での土層断面の観察によるが、上半はⅦ層を主とする土が中央部を埋め、側面部はⅦ-1層やⅦ層の崩落土が占めている。下半部は中央部にローム土が混入して色調が淡色化したⅦ層がV字状に入り、その両側にほとんどⅦ-1やⅦ-3と区分が付けにくい土が占めている。この下半部を占めるローム土にはⅦ-2や黒色土が混入していることにより地山との区分が可能であった。また、一部側面が崩れている土坑ではⅦ-2層がそのまま崩落した状態のもののみられた。

落し穴はD区とH区で連続的な設置が確認され、階段に沿った設置が行われたことが窺えるが、しかし、現段階では同時期に存在したか否かについて検証できないことから可能性に留めたい。

落し穴から出土した遺物はD区102号土坑から前期の土器片4点、G区11号土坑から削器が出土しているだけである。

土坑ではI区25号土坑から早期鶴ヶ島台式に比定される深鉢が出土したが、土坑の形状はこの深鉢より3～4倍ほど大きく深鉢自体も内部で散乱した状態で出土していた。そのため、土坑の性格などについては明確にすることはできなかった。この他の土坑ではH区28号土坑から土器片と石畿、H区33号土坑から石畿、I区27号土坑から打製石斧が出土している。



黒塗りは落し穴

16図 縄文時代落し穴・土坑配置図

3表 縄文時代土坑一覽

区	土坑NO.	重複関係	平面形態	底面形態	長軸断面形態	短軸断面形態	逆茂木数	逆茂木形態	長径	短径	深度	摘要
DK	41号土坑	→9号惣穴建物	長方形	長方形	箱形	箱形	2	A 2	119	53	52	落し穴
	42号土坑	→9号惣穴建物	長方形	長方形	箱形	箱形	2	A 2	120	53	49	落し穴
	43号土坑	→16号惣穴建物	長方形	長方形	箱形	箱形	0	B 1	145	57	21	落し穴
	44号土坑		楕円形	長方形	箱形	逆台形	15	C	186	110	82	落し穴
	45号土坑		楕円形	長方形	箱形	逆台形	4	B 1	230	117	113	落し穴
	46号土坑		楕丸長方形	長方形	箱形	箱形	7	B 3	158	103	101	落し穴
	47号土坑		長方形	長方形	箱形	逆台形	6	B 2	245	124	111	落し穴
	48号土坑		楕円形	楕円形	逆台形+OH	逆台形	4	B 1	244	111	111	落し穴
	49号土坑		楕円形	長方形	段あり	逆台形	14	C	292	157	132	落し穴
	50号土坑		楕円形	中くびれ	逆台形	逆台形	1	A 1	147	73	83	落し穴
	51号土坑	→4号惣穴建物	楕円形	中くびれ	箱形	逆台形	4	B 1	268	119	135	落し穴
	52号土坑		楕円形	中くびれ	逆台形	逆台形	5	C	139	88	128	落し穴
	53号土坑		楕円形	楕円形	箱形	逆台形	6	A 1	223	126	108	落し穴
	54号土坑		楕円形	中くびれ	箱形	逆台形	3	A 1	261	126	117	落し穴
	55号土坑		楕丸長方形	楕円形	箱形	逆台形	7	C	122	99	90	落し穴
	56号土坑	→14号惣穴建物	楕円形	長方形	箱形	逆台形	14	A 3	207	124	94	落し穴
	57号土坑		楕円形	楕円形	箱形	逆台形	3	A 2	154	140	170	落し穴
	58号土坑	→11号惣穴建物	矩形	長方形	段あり	箱形	2	A 2	109	65	44	落し穴
	59号土坑		長方形	長方形	箱形	逆台形	8	C	122	77	115	落し穴
	60号土坑		楕円形	長方形	箱形	逆台形	1	A 1	119	94	131	落し穴
	61号土坑		楕円形か	楕円形か		逆台形	—		(47)	(148)	100	落し穴か
	62号土坑		楕円形	長方形	箱形	逆台形	5	A 3	121	87	107	落し穴
	63号土坑		楕円形	中くびれ	箱形	逆台形	3	A 2	192	124	12	落し穴
	64号土坑		楕円形	長方形	箱形	逆台形	2	A 2	173	129	97	落し穴
	65号土坑	→10号惣穴建物	矩形		箱形				(165)	140	56	土坑か
	66号土坑		楕円形	中くびれ	逆台形+OH	逆台形	3	B 1	238	133	97	落し穴
	67号土坑		楕円形	楕円形	箱形	逆台形	3	A 2	147	92	120	落し穴
	68号土坑		楕円形	長方形	箱形	逆台形	1	A 1	177	128	115	落し穴
	69号土坑		楕円形	長方形	逆台形	逆台形	5	A 2	166	102	136	落し穴
	70号土坑	→6号惣穴建物	楕円形	楕円形	逆台形	逆台形	5	B 1	211	88	79	落し穴
	71号土坑		楕円形	矩形	逆台形+OH	逆台形	5	C	129	87	87	落し穴
	72号土坑		楕円形	楕円形		逆台形	0		(38)	(116)	103	落し穴
	73号土坑		楕円形	中くびれ	箱形	逆台形	2	A 1	198	134	146	落し穴
	74号土坑	←87号土坑	楕円形	楕円形	逆台形	逆台形	9	B 1 + C	225	137	94	落し穴
	75号土坑	←86号土坑	楕円形	長方形	逆台形	逆台形	4	B 1	227	133	105	落し穴
	76号土坑		楕円形	長方形	逆台形	ロート状	1	A 1	124	90	142	落し穴
	77号土坑	→5号惣穴建物	楕円形	中くびれ	箱形	逆台形	4	B 1	205	132	156	落し穴
	78号土坑	→5号惣穴建物	楕円形	楕円形	逆台形	逆台形	4	B 2	152	85	60	落し穴
	79号土坑	→2号惣穴建物	長方形	長方形	逆台形	逆台形	3	A 2	150	84	122	落し穴
	80号土坑		楕円形	矩形	箱形	逆台形	4	B 1	142	105	127	落し穴
	81号土坑		楕円形	長方形	逆台形	逆台形	6	A 3	115	94	119	落し穴
	82号土坑	←83号土坑、 →1号惣穴建物	楕円形	長方形	逆台形	逆台形	12	B 1 + C	231	131	141	落し穴
	83号土坑	→82号土坑	楕円形	楕円形	箱形	逆台形	3	B 2	155	122	112	落し穴
	84号土坑		楕円形	長方形	箱形	逆台形	3	A 2	117	81	105	落し穴
	85号土坑		楕円形	長方形	箱形	逆台形	4	A 2	218	150	153	落し穴
	86号土坑	→75号土坑	楕円形	矩形	箱形	逆台形	4	A 3	(112)	117	121	落し穴
	87号土坑	→74号土坑	楕円形	矩形	箱形	逆台形	6	A 3	(130)	90	111	落し穴
	88号土坑		楕円形	長方形	逆台形	逆台形	3	A 2	153	95	124	落し穴
	89号土坑	←119号土坑	楕円形	中くびれ	逆台形	逆台形	5	B 1	269	175	93	落し穴
	90号土坑		楕円形	長方形	箱形	箱形	1	A 1	(141)	84	80	落し穴
	91号土坑	←112号土坑	楕円形	長方形	箱形	逆台形	4	B 1	210	129	104	落し穴
	92号土坑	→93号土坑	楕円形	長方形	逆台形	逆台形	1	A 2	157	92	130	落し穴
	93号土坑	←92号土坑	楕円形	中くびれ	箱形	逆台形	3	A 2	204	100	143	落し穴
	94号土坑	←121号土坑	楕円形	長方形	箱形	逆台形	4	B 1	179	119	127	落し穴
	95号土坑		楕円形	楕円形	逆台形	逆台形	11	A 3	191	133	129	落し穴
	96号土坑	→18号惣穴建物	楕円形	中くびれ	逆台形	逆台形	1	D	206	117	46	落し穴
	98号土坑		楕円形		逆三角形				93	(43)	85	不明
	99号土坑		楕円形	長方形	逆台形	箱形	6	C	143	128	137	落し穴
	100号土坑		楕円形	楕円形	逆台形	逆台形	3	B 1	142	106	128	落し穴

IV 検出した遺構と出土した遺物

区	土坑NO.	重複関係	平面形態	底面形態	長軸断面形態	短軸断面形態	逆茂木数	逆茂木形態	径長	短径	深度	摘要
DK	101号土坑		楕円形	楕円形	逆台形+OH	逆台形	2	A 2	176	158	113	落し穴
	102号土坑	←103号土坑	楕円形	楕円形	箱形	逆台形	7	B 2	262	110	106	落し穴、土器片
	103号土坑	→102号土坑	楕円形	楕円形	箱形+OH	逆台形	6	C	182	84	93	落し穴
	104号土坑		楕円形	楕円形	箱形	逆台形	3	A 2	139	112	141	落し穴
	105号土坑	→111号土坑	楕円形	長方形	逆台形	逆台形	3	B 1	255	118	107	落し穴
	106号土坑		楕円形	矩形	逆台形	逆台形	3	A 2	143	97	111	落し穴
	107号土坑		楕円形	長方形	逆台形	逆台形	6	C	191	149	149	落し穴
	108号土坑	→109号土坑	楕円形	中くびれ	逆台形	逆台形	1	A 1	174	110	140	落し穴
	109号土坑	←108号土坑	楕円形	中くびれ	箱形	逆台形	13	C	234	131	122	落し穴
	110号土坑		楕円形	楕円形	逆台形	逆台形	1	A 1	212	155	151	落し穴
	111号土坑	←105号土坑	楕円形	楕円形	逆台形	逆台形	3	A 2	213	151	172	落し穴
	112号土坑	→91号土坑	楕円形	長方形	箱形	箱形	1	A 1	213	134	128	落し穴
	113号土坑		楕円形	楕円形	箱形	逆台形	1	A 1	216	156	136	落し穴
	114号土坑		楕円形	長方形	逆台形	ロート状	7	A 3	176	118	124	落し穴
	115号土坑	→3号壜穴建物	楕円形	楕円形	逆台形+OH	逆台形	1	A 1	169	130	127	落し穴
	116号土坑		楕円形	楕円形	逆三角形				182	127	65	風銅木版
	117号土坑	→C区K14号壜穴建物	楕円形	楕円形	箱形	箱形	2	A 2	176	123	95	落し穴
	118号土坑		楕円形	円形	逆三角形				68	55	36	土坑
	119号土坑	→89号土坑	楕円形	楕円形		逆台形	0		(67)	115	39	落し穴
120号土坑		楕円形	楕円形					(56)	116	17	土坑	
121号土坑	→94号土坑		円形	円形	箱形					49	不明	
EK	21号土坑		楕円形	楕円形	箱形	逆台形	2	A 2	138	62	86	落し穴
	22号土坑	→10号壜穴建物	楕円形	中くびれ	逆台形	逆台形	4	B 1	234	(69)	88	落し穴
	23号土坑		楕円形	楕円形	逆三角形				146	121	16	土坑
	24号土坑		楕円形	楕円形	箱形	逆台形	9	C	138	147	122	落し穴
	25号土坑	→11号壜穴建物	楕円形	楕円形	箱形	逆台形	7	B 2	(179)	(75)	57	落し穴
	26号土坑		楕円形	楕円形	箱形	逆台形	2	A 2	141	94	118	落し穴
	27号土坑		楕円形	楕円形	逆台形+OH	逆台形+OH	1	A 1	137	78	99	落し穴
	28号土坑		楕円形	楕円形	箱形+OH	逆台形	12	C	229	118	103	落し穴
	29号土坑		楕円形	楕円形	半円形				(42)	61	18	土坑
	30号土坑		楕円形	長方形		逆台形	-		(56)	(85)	124	落し穴
	FK	1号土坑	→1号溝	楕円形	楕円形	箱形	逆台形	0	D	143	90	88
16号土坑			楕円形	矩形	箱形	逆台形	0	D	142	95	96	落し穴
20号土坑			楕円形	矩形	箱形	逆台形	0	D	171	123	129	落し穴
21号土坑			楕円形	矩形	箱形	逆台形	0	D	129	84	49	落し穴
22号土坑			楕円形	楕円形	U字状				(110)	(94)	91	土坑
23号土坑			矩形	矩形	段あり				181	(58)	135	土坑
24号土坑			楕円形	不整形	箱形	逆台形	0	D	189	125	62	落し穴
25号土坑			楕円形	楕円形	箱形				260	(162)	125	土坑
26号土坑			楕円形	矩形	箱形	逆台形	3	A 2	170	115	96	落し穴
27号土坑			楕円形	矩形	逆台形	逆台形	1	A 1	162	138	126	落し穴
28号土坑			楕円形	楕円形	箱形	逆台形	0	D	147	116	140	落し穴
29号土坑			楕円形	楕円形	逆台形	逆台形	2	A 2	162	100	86	落し穴
34号土坑			楕円形	楕円形	逆台形	逆台形	0	D	141	86	71	落し穴
35号土坑			楕円形	楕円形	逆台形	逆台形	1	A 1	198	155	125	落し穴
36号土坑		楕円形	矩形	逆台形	逆台形	0	D	184	121	183	落し穴	
39号土坑		楕円形	矩形	箱形	ロート状	1	A 1	162	148	116	落し穴	
40号土坑	←41号土坑		矩形	長方形	箱形	逆台形	0	D	159	109	106	落し穴
41号土坑	→40号土坑・溝		楕円形	矩形	逆台形	逆台形	1	A 1	175	120	100	落し穴
42号土坑		楕円形	楕円形	逆台形	逆台形	1	A 1	164	89	96	落し穴	
43号土坑		楕円形	楕円形	逆台形	逆台形	1	A 1	154	92	88	落し穴	
44号土坑	→1号溝		楕円形	長方形	箱形	逆台形	0	D	140	87	90	落し穴
46号土坑	→3号採掘坑		楕円形	長方形	箱形	箱形	0	不明	(73)	67	63	土坑かも
GK	11号土坑		楕円形	矩形	逆台形	逆台形	1	A 1	180	118	74	落し穴、石器
	12号土坑	→4号土坑	楕円形	中くびれ	逆台形	逆台形	0	不明	(167)	177	48	落し穴
	13号土坑		楕円形	矩形	箱形	逆台形	0	D	154	107	99	落し穴
	14号土坑		楕円形	楕円形	逆台形	逆台形	1	A 1	179	135	110	落し穴
	16号土坑		楕円形	楕円形	逆台形	逆台形	1	A 1	154	84	99	落し穴
	11号土坑	→1号壜穴建物		長方形	箱形	箱形	1	A 1	139	63	114	落し穴
HK	12号土坑	→1号壜穴建物	楕円形	矩形	箱形	箱形	4	C	126	71	58	落し穴
	13号土坑		楕円形	楕円形	箱形	箱形			155	124	103	土坑

区	土坑NO.	重複関係	平面形態	底面形態	長軸断面形態	短軸断面形態	逆茂木数	逆茂木形態	長径	短径	深度	摘要
HK	14号土坑		楕円形	長方形	逆台形	逆台形	2	A 2	162	110	108	落し穴
	15号土坑	? 16号土坑	楕円形	長方形	逆台形	逆台形	1	A 1	166	100	134	落し穴
	16号土坑	? 15号土坑	楕円形	長方形	逆台形	逆台形	0	D	171	102	143	落し穴
	17号土坑		楕円形	楕円形	箱形	逆台形	0	D	162	113	110	落し穴
	18号土坑		楕円形	長方形びれ	箱形	逆台形	0	D	160	100	90	落し穴
	19号土坑		楕円形	楕円形	逆台形	逆台形	1	A 1	171	110	108	落し穴
	20号土坑		楕円形	楕円形	逆台形	逆台形	1	A 1	147	102	105	落し穴
	21号土坑		楕円形	長方形	逆台形	逆台形	0	D	187	164	157	落し穴
	22号土坑		楕円形	楕円形	箱形	逆台形	1	D	175	132	154	落し穴
	23号土坑		楕円形	楕円形	箱形	逆台形	0	D	148	105	99	落し穴
	24号土坑	→2号・3号竪穴建物	楕円形	中くびれ	箱形?	逆台形	2	B 1か	211	142	92	落し穴
	25号土坑		不整形	不整形	逆三角形				102	86	33	土坑
	28号土坑		不整形	不整形	逆台形				182	161	34	土坑、土器・石器
	29号土坑	→30号土坑	楕円形	隅丸長方形	箱形	逆台形	3	A 2	270	182	80	落し穴
	30号土坑	→29号土坑 →4号竪穴	矩形	矩形くびれ	逆台形	逆台形	3	B 1	130	93	76	落し穴
	31号土坑		楕円形	長方形	箱形	箱形	1	A 1	149	94	101	落し穴
	33号土坑		楕円形	楕円形	箱形				150	105	20	土坑、石器
	34号土坑		楕円形	矩形	逆台形	逆台形	1	A 1	190	128	85	落し穴
	35号土坑		楕円形	箱形	逆台形	逆台形	0	D	168	145	113	落し穴
	36号土坑		楕円形	楕円形	箱形	箱形	3	B 1	302	160	103	落し穴
	IK	3号土坑	→2号土坑	楕円形	楕円形	箱形	箱形	1	A 1	160	79	106
18号土坑			長方形	長方形	箱形	箱形	2	A 2	107	60	55	落し穴
19号土坑			楕円形	長方形	箱形?	箱形	0	不明	(59)	49	92	落し穴
21号土坑			楕円形	中くびれ	箱形	箱形	0	D	155	77	95	落し穴
22号土坑			楕円形	楕円形	箱形	逆台形	1	A 1	172	98	112	落し穴
23号土坑			楕円形	矩形	箱形	逆台形	0	D	176	145	148	落し穴
24号土坑			楕円形	不整形	弧状				91	78	43	土坑
25号土坑			楕円形	楕円形	逆台形	逆台形			194	134	33	土坑、土器
26号土坑			矩形	矩形	箱形	箱形			86	74	20	土坑
27号土坑		→32号土坑	楕円形	中くびれ	箱形	逆台形	2	A 2	(176)	197	120	落し穴、石器
28号土坑			長方形	長方形	箱形段有	箱形			134	57	62	土坑?
JK	30号土坑	→4号土坑	楕円形	長方形	逆台形	逆台形	3	A 2	220	181	141	落し穴
	32号土坑	→27号土坑	楕円形	楕円形	平円形				(85)	70	26	土坑
	28号土坑		楕円形	楕円形	箱形	逆台形	—		(80)	147	86	落し穴
	38号土坑		楕円形	長方形	箱形	逆台形	2	B 1	194	138	126	落し穴
	44号土坑	→25号土坑	楕円形か	矩形	箱形	1	B 1か	(88)	68	195	落し穴	
	54号土坑	→15号竪穴建物	楕円形	楕円形	箱形	逆台形	5	C	165	135	166	落し穴
	68号土坑		長方形	長方形	箱形	箱形	3	A 2	157	81	55	落し穴
	107号土坑		不整形	中くびれ	箱形	逆台形	1	A 1変則	132	66	102	落し穴
	108号土坑	→17号竪穴建物	楕円形	楕円形	逆台形+OH	逆台形	5	B 2	187	129	143	落し穴
	109号土坑	→6号竪穴建物	長方形	長方形	逆台形	逆台形	1	A 1	137	62	102	落し穴

D区 102号土坑

NO.	種 類	器 種	出土位置 / 残存率	胎土	成形・整形の特徴
1	縄文土器	深鉢	埋没土中 / 胴部片	粗砂粒	単部 L R 縄紋を横位施設。黒沢式
2	縄文土器	深鉢	埋没土中 / 胴部片	粗砂粒	単部 L R 縄紋を横位施設。黒沢式
3	縄文土器	深鉢	埋没土中 / 胴部片	粗砂粒	単部 L R 縄紋を横位施設。黒沢式
4	縄文土器	深鉢	埋没土中 / 胴部片	粗砂粒	単部 L R、R L 縄紋を横位施設。黒沢式

G区11号・H区33号・I区27号土坑

PL.133

NO.	種 類	器 種	残存率	計 測 値	摘 要
G区11号上-1	石器	削 器	完形	長 8.0 幅 4.4 厚 1.2 重 43.4	黒色頁岩
H区33号上-1	石器	鏃	先端部欠損	長 1.7 幅 1.3 厚 0.3 重 0.5	黒曜石
I区27号上-1	石器	削 器	完形	長 5.2 幅 3.6 厚 1.3 重 20.4	珪質頁岩

H区28号土坑

PL.133

NO.	種 類	出土位置 / 残存率	胎土 / 焼成 / 色調	成形・整形の特徴	
1	縄文土器 深鉢	埋没土中 臼縁部小片	粗砂粒 / 良好 / 褐色	波頂部の突起。竹管外皮による刺突列を重畳させる。口端に刻み。内面糸痕。縄ケ島台式	
NO.	種 類	器 種	出土位置 / 残存率	計 測 値	摘 要
2	石器	鏃	埋没土中	基部欠損有	長 2.2 幅 1.2 厚 0.4 重 0.7 黒曜石

I区25号土坑

PL.133

NO.	種 類	出土位置 / 残存率	胎土 / 焼成 / 色調	成形・整形の特徴
1	縄文土器 深鉢	埋没土中 臼縁部~胴部上半片	粗砂粒 / 良好 / 褐色	推定口径51cm。2単位の小突起をもつ波状口縁。屈曲する器形で、胴部無紋帯を挟み、2帯の紋様帯を施し、竹管外皮による充填施設。樽紋上に円形刺突、平円形刺突を施す。口端及び屈曲部に刻み、紋様帯下、内面上痕。縄ケ島台式。

IV 検出した遺構と出土した遺物

D区41・42号土坑



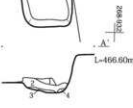
D区43号土坑



D区43号土坑

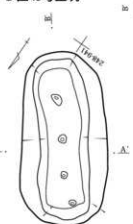
- 1 黒色土(10YR2/1)Vに類似、ローム粒を1%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)V主体、 ϕ 0.5~5cmのロームブロックを5%含む。
- 3 黄褐色土(2.5Y5/4)雫の流れ込み、黒色土を5%含む。
- 4 VII-2の崩落土。

D区45号土坑



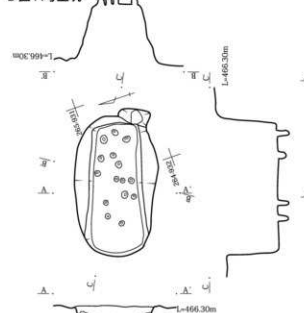
- 1 黒色土(10YR2/1)Vと同様、ローム粒を1%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)Vに近似、 ϕ 0.5~1cmのロームブロックを5%含む。

D区45号土坑



- 3 明黄褐色土(2.5Y6/6)VII-1に類似、VIIを20%と黒色土をしみ状に3%含む。
- 4 黒褐色土(2.5Y3/2)ローム粒、As-BPを10%含む。
- 5 VII-1ブロック

D区44号土坑



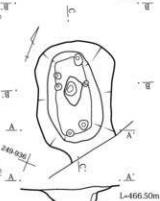
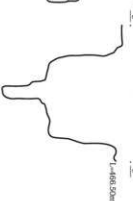
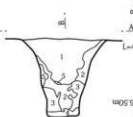
D区44号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1)Vに類似、ローム粒、 ϕ 1~2cmのロームブロックを5%含む。
- 2 暗灰黄色土(2.5Y5/2)VIとVIIの混合土(3:7)。
- 3 黒褐色土(2.5Y3/2)V・VI・VIIの混合土(2:3:5)。
- 4 黄褐色土(2.5Y5/6)VII-1と同じか、黒色土をしみ状に2~3%含む。
- 5 VII-2の流れ込み、ローム土が20%ほど混入。

D区46号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2)VとVIの混合土(6:4)、ローム粒を5%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)1と同様、1よりローム粒を10%ほど含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)1、2に類似、 ϕ 1~2cmのロームブロックを10%含む。
- 4 明黄褐色土(2.5Y6/6)VIIの崩落土、黒褐色土を10%含む。
- 5 VII-2の崩落土、VII-1のブロック混入。

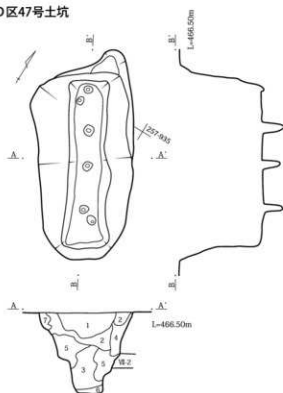
D区46号土坑



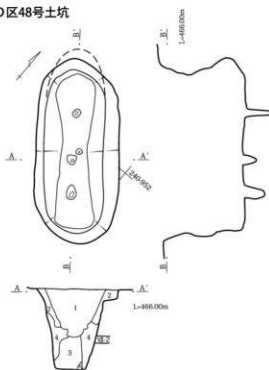
17図 D区41号~46号土坑遺構図

0 1:50 2m

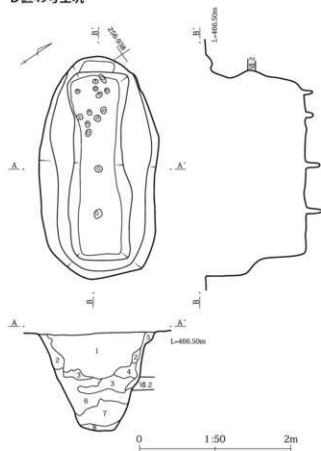
D区47号土坑



D区48号土坑



D区49号土坑



D区47号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)Vに類似、ローム粒を2%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)Vに近似、 ϕ 0.5cmのロームブロック、ローム粒を5%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)Vに近似、 ϕ 1~3cmのロームブロックを10%含む。
- 4 明黄褐色土(2.5Y6/6)VIIと同様、 ϕ 0.5cmの黒色粒を5%含む。
- 5 明黄褐色土(2.5Y6/6)VII-1と同様、As-BPを5%含む。
- 6 黒褐色土(2.5Y3/1)As-BPを10%とVIIブロックを含む。
- 7 明黄褐色土(2.5Y6/6)VIIの崩落土、黒色土が混入。

D区48号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)Vに類似、ローム粒を2%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)Vに近似、 ϕ 0.5cmのロームブロック、ローム粒を5%含む。
- 3 黒色土(10YR2/1)Iに類似、 ϕ 0.5cmのロームブロック3%含む。
- 4 明黄褐色土(2.5Y6/6)VII-1と同様、VII-2を5%含む。
- 5 黒褐色土(2.5Y3/1)As-BPを10%とVIIを含む。

D区49号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)IVと同様、ローム粒を1%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)IIとロームブロック、ローム粒の混合土(6:4)。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)Iに類似。
- 4 明黄褐色土(2.5Y6/6)VII-1主体、黒色土を20%含む。
- 5 VII-2の崩落土 VII-1を20%含む。
- 6 明黄褐色土(2.5Y6/6)VII-1主体、VII-2を5%、黒色土を3%含む。
- 7 明黄褐色土(2.5Y6/6)VII-1主体、黒色ブロックを30%含む。
- 8 黒褐色土(2.5Y3/1)粘性あり、ロームブロックを10%含む、D区47号土坑の6に類似。

18図 D区47号~49号土坑遺構図

IV 検出した遺構と出土した遺物

D区50号土坑



D区50号土坑

- 1 黒褐色土(2.5Y3/1)Vとローム(VII・VII-1)がφ 1~2cmのブロックで混り合っている(6:4)。
- 2 黒褐色土(10YR2/1)Vに類似、φ 1~2cmのロームブロックを10%含む。
- 3 黒褐色土(2.5Y6/6)VII-1の崩落土。
- 4 黒褐色土(2.5Y3/1)Vを60%、As-BPを20%、ロームブロックを20%の混合土。
- 5 黒褐色土(10YR3/1)φ 1~2cmロームブロック10%含む。

D区52号土坑



D区52号土坑

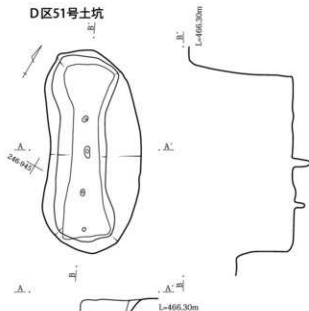
- 1 黒色土(10YR2/1)Vと同様、ローム粒3%含む。
- 2 黒褐色土(2.5Y3/1)φ 1~3cm、ロームブロックを10~15%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)Iに類似、φ 1~3cmロームブロックを10%含む。
- 4 明黄褐色土(2.5Y6/6)VII・VII-1の崩落土、黒色土を3%含む。

D区53号土坑

- 1 黒色土(10YR1.7/1)ローム粒を1~2%含む。
- 2 オリーブ黒褐色土(5Y3/1)ローム粒を1%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)φ 1~3cmのロームブロックを20%含む。
- 4 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)ローム粒を多く含む。
- 5 黒色土(2.5Y2/1)ローム粒を少し含む。
- 6 オリーブ褐色土(2.5Y4/6)VII-1主体。

- 7 黄褐色土(2.5Y5/6)VII-1主体、白色軽石粒を1%含む。
- 8 黄褐色土(10YR5/8)As-BP主体。
- 9 黒褐色土(2.5Y3/2)ローム粒を多く含む。

D区51号土坑



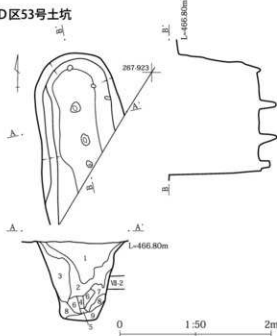
A.

B.

D区51号土坑

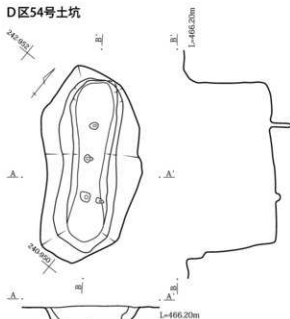
- 1 黒色土(10YR2/1)Vと同様、ローム粒を2~3%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)Iと同様、ローム粒、φ 1cmのロームブロックを3%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)2と同様、2よりローム多い5%ほど含む。
- 4 明黄褐色土(2.5Y6/6)VII・VII-1主体、黒褐色土を10%含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/2)3に近似、φ 1~2cmのロームブロックを5%含む。
- 6 黄褐色土(2.5Y5/4)IV・Vの混合土、ロームブロックを5%含む。

D区53号土坑



19図 D区50号~53号土坑遺構図

D区54号土坑



D区54号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)Nと同様、ローム粒を1~2%含む。
- 2 黒褐色土(2.5Y3/1)V50%、VI30%、ロームブロック20%の混合土。
- 3 明黄褐色土(2.5Y6/6)VII-VI-1、黒色土を10%含む。
- 4 黒色土(10YR2/1)Iに類似、ロームブロックを5%含む。
- 5 明黄褐色土(2.5Y6/6)ロームブロック主体、黒色土を30%含む。
- 6 黄褐色土(2.5Y5/6)ロームブロック主体、As-BPを20%、黒色土を10%含む。
- 7 黒色土50%、ロームブロック30%、As-BP20%の混合土。

D区56号土坑

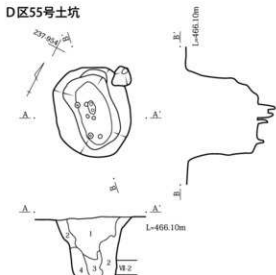


14号壁穴建物

D区56号土坑

- 1 黒色土(10YR1.7/1)Vに類似。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)ロームブロックを2~3%含む。
- 3 明黄褐色土(10YR6/8)ローム主体、白色軽石粒を含む。
- 4 黄褐色土(10YR5/8)ローム主体 As-BPを多く含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/2)ロームブロックを多く含む。

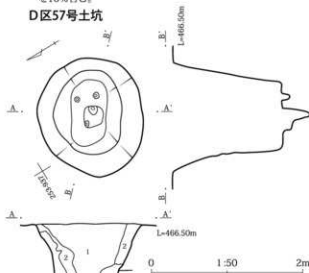
D区55号土坑



D区55号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2)Vに類似、ローム粒、φ1~2cmのロームブロックを1%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)Iに近似、ローム粒、φ1cmのロームブロックを5%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)Iに近似、ローム粒、ロームブロックを3%含む。
- 4 黒褐色土(2.5Y3/1)V・VIの混合土にφ1~3cmのロームブロックを10%含む。

D区57号土坑



D区57号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2)Vに類似、ローム粒、φ1~2cmのロームブロック1%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)Iに近似、ローム粒、φ1cmのロームブロック5%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)Iに近似、ローム粒、ブロックを3%含む。
- 5 明黄褐色土(2.5Y6/6)VII-1主体、黒色土を10%含む。

20図 D区54号~57号土坑遺構図

IV 検出した遺構と出土した遺物

D区58号土坑



D区58号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)φ 3cmのロームブロックを5%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒を2~3%含む。
- 3 黄褐色土(10YR5/6)Ⅶ-1・As-BP主体、やや黒色土を含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/2)As-BP、ローム粒を含む。
- 5 明黄褐色土(10YR6/8)Ⅶ-1主体、As-BPを含む。
- 6 褐色土(10YR4/4)ローム粒を20%含む。

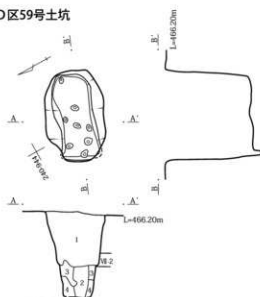
D区60号土坑



D区60号土坑

- 1 黒色土(10YR1.7/1)Vと同様。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)Vに類似、Ⅵが混入か。
- 3 明黄褐色土(10YR6/8)Ⅶ-1主体。
- 4 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒を多くとAs-BPを含む。
- 5 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒を多くとAs-BPを少量含む。

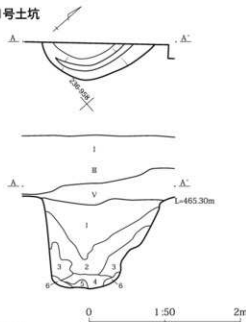
D区59号土坑



D区59号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)Vと同様、ローム粒を2%含む。
- 2 黒色土(10YR2/1)Iに類似、1よりローム粒、ブロックを5%と多く含む。
- 3 黒色土(10YR2/1)1・2に類似、1・2よりローム粒、ブロックを10%と多く含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/2)V主体、φ 1~3cmロームブロックを20%含む。
- 5 明黄褐色土(2.5Y6/6)Ⅶ-1の崩落土、黒色土を10%含む。

D区61号土坑



D区61号土坑

- 1 黒色土(10YR1.7/1)φ 1mmの白色軽石粒をわずかに含む。
- 2 黒褐色土(2.5Y3/1)ロームブロック、ローム粒を含む。
- 3 明黄褐色土(10YR6/8)Ⅶ-1主体。
- 4 黒褐色土(2.5Y 3/2)ローム粒を多く含む、ボソボソした土質。
- 5 黄褐色土(10YR5/8)ローム粒を若干とAs-BPを多く含む。
- 6 明黄褐色土(10YR6/6)Ⅶ-3と同様。

21図 D区58号~61号土坑遺構図

D区62号土坑



D区62号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)Vと同様、ローム粒を2%含む。
- 2 黒色土(10YR2/1)1と同様、1よりローム粒、ロームブロックが5%と多く含む。
- 3 黒色土(10YR2/1)1・2に類似、ローム粒、ロームブロックを10%含む。
- 4 黒色土(10YR3/2)V主体、 ϕ 1~3cmのロームブロック、ローム粒を20%含む。
- 5 明黄褐色土(2.5Y6/6)Ⅷ・Ⅸの崩落土、黒色土が混入。

D区64号土坑



D区64号土坑

- 1 黒色土(10YR1.7/1) ϕ 1mmほどの白色軽石を1%含む。
- 2 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)ローム粒、As-BPを多く含む。
- 3 黒褐色土(2.5Y3/1)As-BPを多く含む。
- 4 黄褐色土(10YR5/8)Ⅷ-1主体、As-BPを多く含む。
- 5 黒色土(10YR1.7/1)ローム粒を1%含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/1)ロームブロックを多くとAs-BPを含む。
- 7 黒色土(10YR2/1)As-BPを若干含む。
- 8 明黄褐色土(10YR6/8)Ⅷ-3、Ⅸ主体、As-BPを含む。

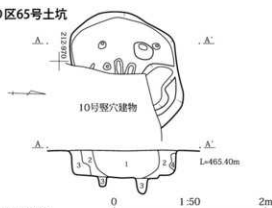
D区63号土坑



D区63号土坑

- 1 にふい黄色土(2.5Y6/4)Ⅷ・Ⅸ・Ⅹがブロック状に混り合っている(5:3:2)、根痕。
- 2 黒褐色土(2.5Y3/1)Ⅷ・Ⅸの混合土(6:4)、 ϕ 1~2cmのロームブロック10%含む。
- 3 黒色土(10YR2/1)V主体、ローム粒を1%含む。
- 4 にふい黄褐色土(2.5Y6/4)Ⅷ・Ⅸ-1の崩落土、黒色土ブロックを10%含む。
- 5 黒色土(10YR2/1)3と同様、ローム粒、ロームブロックが5%と3より多く含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/2)Ⅲ主体、 ϕ 1~5cmのロームブロックを20%含む。
- 7 黒褐色土(10YR3/2) ϕ 1cm前後のⅢブロックとⅣブロック主体(5:5)、 ϕ 1~2cmのロームブロックを10%含む。
- 8 明黄褐色土(2.5YR6/6)Ⅷ-1主体、黒色土を3%含む。

D区65号土坑

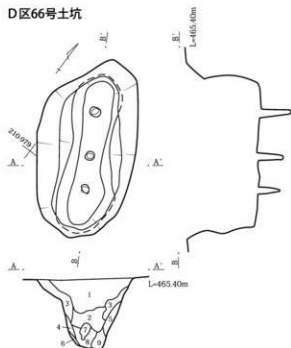


D区65号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1)Vに類似、Ⅸ混入、ローム粒を2%含む。
- 2 黒褐色土(2.5Y3/2)1に類似、 ϕ 1~2cmのロームブロックを5%含む。
- 3 黄灰色土(2.5Y4/1)ⅧとⅨの混合土、 ϕ 1~2cmのロームブロックを10%含む。
- 4 明黄褐色土(2.5Y6/6)Ⅸの崩落土、ブロックで堆積。

22図 D区62号~65号土坑遺構図

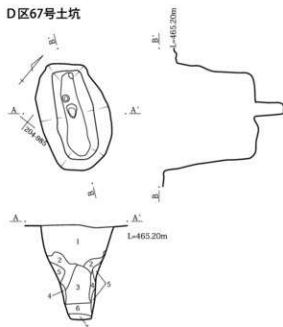
D区66号土坑



D区66号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)Vと同様、 ϕ 1cmのロームブロック・ローム粒 1~2%含む。
- 2 黒色土(10YR2/1)1に類似、3をブロックで10%、1よりローム粒、ブロックを5%と多く含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)Vに近似、VIが混入か、 ϕ 0.5~1cmのロームブロック、ローム粒を10%含む。
- 4 VII-1とAs-BPのブロック。
- 5 明黄褐色土(2.5Y6/6)VII-1主体、黒色土を5%含む。
- 6 明黄褐色土(2.5Y6/6)5に類似、黒色土を3%含む。
- 7 明黄褐色土(2.5Y6/6)VII-1のブロック。
- 8 黒褐色土(2.5Y3/2) ϕ 1~2cmのロームブロック、ローム粒を10%含む。
- 9 黄灰色土(2.5Y4/1)V・VII(VI(4:2))をブロック状に、As-BPを10%含む。

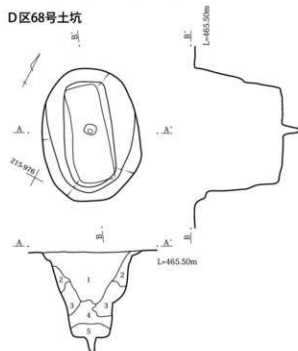
D区67号土坑



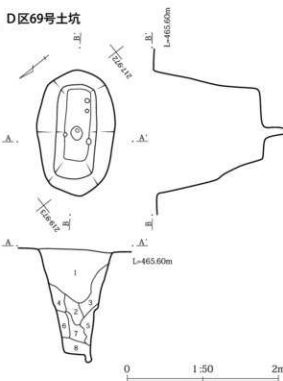
D区67号土坑

- 1 黄色土(10YR1.7/1)As-BPを若干含む。
- 2 暗褐色土(10YR4/4)As-BP、ローム粒を多く含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)As-BPを多く含む。
- 4 褐色土(10YR4/6)ローム粒を多く含む。
- 5 黄褐色土(10YR5/6)VII-1主体。
- 6 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒、As-BPを多く含む。
- 7 黄褐色土(10YR5/8)VII-3主体。

D区68号土坑



D区69号土坑

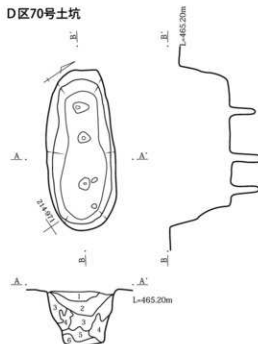


23図 D区66号~69号土坑遺構図

DK68号土坑

- 1 黒褐色土(2.5Y3/1)やや淡い色調、基本的にはVによる埋没土か、 ϕ 0.5～1cmのロームブロック、ローム粒を3%含む。
- 2 黒褐色土(2.5Y3/2)1に類似、 ϕ 1～2cmのロームブロック、ローム粒を5%
- 3 明黄褐色土(2.5Y6/6)Ⅶ・Ⅶ-1の崩落土か、黒色土を10%含む。
- 4 黄灰色土(2.5Y4/1)V・Ⅵ・Ⅶ(3.5:3.5)の混合土、 ϕ 1～5cmのロームブロック、ローム粒を10%含む。
- 5 黒褐色土(2.5Y3/2)2と同様、 ϕ 1～2cmロームブロックを5%含む。

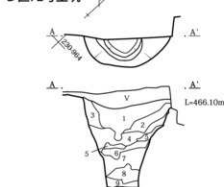
D区70号土坑



DK70号土坑

- 1 黒色土(10YR1.7/1) ϕ 2～3cmのロームブロックを含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒を多く含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)As-BP、ローム粒を多く含む。
- 4 黄褐色土(10YR5/8)Ⅶ-1の崩落土。
- 5 黒色土(10YR2/1)As-BPのブロック、ローム粒を10%含む。
- 6 黄褐色土(10YR5/6)Ⅶ-1主体、やや黒色土が混じる。

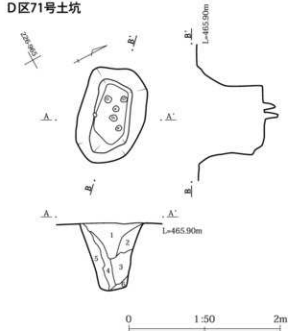
D区72号土坑



DK69号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)Vと同様、ローム粒を1%含む。
- 2 黒色土(10YR2/1)1と同様、ローム粒を3%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)V主体、 ϕ 1～5cmのロームブロックを10%含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/2)3に類似、3よりロームブロックが若干少ない。
- 5 明黄褐色土(2.5Y6/6)Ⅶ・Ⅶ-1、黒色土を10%含む。
- 6 黒褐色土(2.5Y3/2)黒色土と ϕ 1～3cmロームブロックの混合土(6:4)。
- 7 黒褐色土(10YR3/1)1・2に類似、 ϕ 1～2cmのロームブロックを3%含む。
- 8 黒褐色土(10YR2/1)7に類似、締まり弱い、 ϕ 1cmのロームブロックを5%含む。

D区71号土坑



DK71号土坑

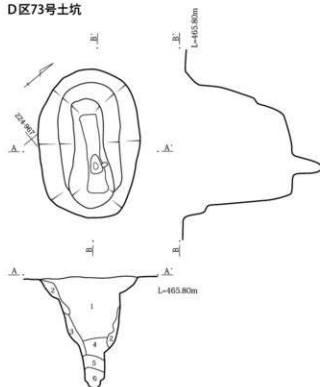
- 1 黒色土(2.5Y2/1)白色軽石粒を少量含む。
- 2 黒褐色土(2.5Y3/2)ローム粒を含む。
- 3 黒色土(2.5Y2/1)As-BP粒、ローム粒を多く含む。
- 4 黒褐色土(2.5Y3/1)3と同様、As-BP粒、ローム粒を3より多く含む。
- 5 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)ロームブロック、ローム粒を多く含む。
- 6 黒色土(7.5YR1.7/1)As-BP粒を若干含む。

DK72号土坑

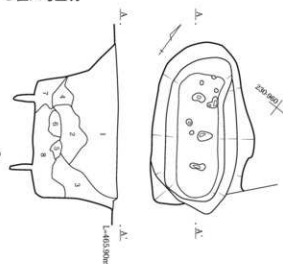
- 1 黒色土(2.5Y2/1)白色軽石をわずかに含む。
- 2 黒褐色土(2.5Y3/1)褐色軽石粒を1%含む。
- 3 黒褐色土(2.5Y3/2)V主体。
- 4 黒褐色土(10YR3/2)As-BPを含む。
- 5 黄褐色土(10YR5/6)Ⅶ-1主体。
- 6 黒色土(10YR1.7/1) ϕ 1～5cmのロームブロックを若干含む。
- 7 褐色土(10YR4/6)ロームブロック、ローム粒を多く含む。
- 8 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒を多く含む。
- 9 褐色土(10YR4/6)Ⅶ-1主体。

24図 D区70号～72号土坑遺構図

D区73号土坑



D区74号土坑



D区73号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)Vと同様、 ϕ 0.5cmのロームブロック、ローム粒を3%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)V主体、 ϕ 0.5cmのロームブロック、ローム粒を5%~10%含む。
- 3 明黄褐色土(2.5Y6/6)V・VIのブロック主体、黒色土ブロックを30%含む。
- 4 黒色土(10YR2/1)Iに類似、 ϕ 1~2cmのロームブロックを5%含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/1)4に類似、 ϕ 1~2cmのロームブロックを10%含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/1)V・VIの混合土、 ϕ 1cmのロームブロックを20%含む。

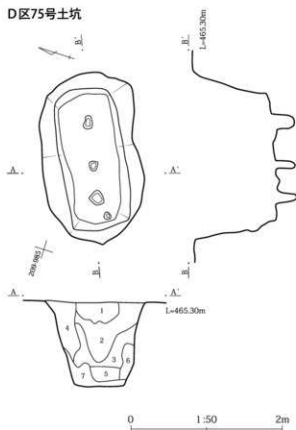
D区74号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)Vと同様、ローム粒を1%含む。
- 2 黒色土(10YR2/1)Vと同様、 ϕ 1~3cmのロームブロック、ローム粒を3%含む。
- 3 黒色土(10YR2/1)Vと同様、ローム粒を3%含む。
- 4 黒色土(10YR2/1)Vと同様、 ϕ 1~5cmのロームブロック、ローム粒を5%含む。
- 5 明黄褐色土(2.5Y6/6)VI-1のブロック、黒色土を20%含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/1)V主体、 ϕ 1~5cmのロームブロック20%含む。
- 7 黒褐色土(10YR3/2)V・VIの混合土(7:3)、 ϕ 1cmのロームブロック10%含む。
- 8 黒褐色土(2.5Y3/2)VとVIIブロック(ϕ 1~2cm)の混合土(5:5)。

D区75号土坑

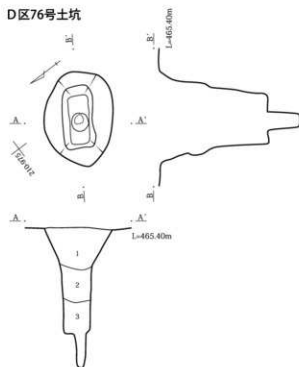
- 1 黒色土(10YR2/1)Vと同様、ローム粒を1%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)Vに類似、 ϕ 1~2cmのロームブロック、ローム粒を3%含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2)Vに類似、VIが混入、 ϕ 1~3cmのロームブロックを5%含む。
- 4 明黄褐色土(2.5Y6/6)VIIとVIIIブロック主体、黒色土を20%含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/2)Vに類似、 ϕ 1~3cmのロームブロックを5%含む。
- 6 明黄褐色土(2.5Y6/6)VII・VIIIの流れ込み、黒色土を5%含む。
- 7 黄褐色土(2.5Y5/3)VII・VIIIブロックからなる、Vブロックを5%含む。

D区75号土坑



25図 D区73号~75号土坑遺構図

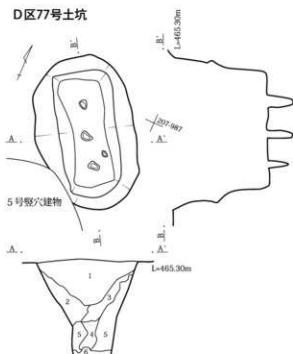
D区76号土坑



DK76号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)Vと同様、 ϕ 1 cmのロームブロックを3%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)Vに類似、 ϕ 1~2 cmのロームブロックを5%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)Vに類似、 ϕ 1~2 cmのロームブロックを10%含む。

D区77号土坑



DK77号土坑

- 1 黒色土(10YR1.7/1)Vに類似。
- 2 黄褐色土(2.5Y5/6)ロームブロック(As-BP粒を含む)を主体とする。
- 3 暗オリーブ色土(5Y4/3)Ⅶ・Ⅷの混合土。
- 4 黒褐色土(2.5Y 3/1)ローム粒、As-BP粒を含む。
- 5 黄褐色土(2.5Y5/6)Ⅶ-1の崩落土。
- 6 暗オリーブ色土(5Y4/3)ローム粒、As-BP粒を含む。

D区78号土坑



DK78号土坑

- 1 オリーブ黒色土(5Y2/2)白色軽石粒を1%含む。
- 2 黒褐色土(2.5Y3/2)白色軽石、As-BP粒を含む。
- 3 オリーブ(5Y5/4)Ⅵ・Ⅶ-1 主体、ぼそぼそとした感触。
- 4 黒褐色土(2.5Y3/2)2に類似、ローム粒は2より多く含む。
- 5 黄褐色土(2.5Y3/2)2に類似、2よりローム粒が少ない。
- 6 黄褐色土(2.5Y5/6)Ⅶ-1 主体。
- 7 黒色土(2.5Y2/1)ローム粒を1%含む。

D区79号土坑



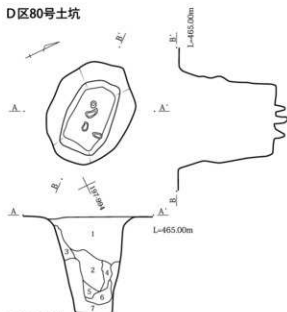
DK79号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)Vと同様、ローム粒を2~3%含む。
- 2 黄褐色土(2.5Y5/4)Ⅶ-1 主体、黒色土を10%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)V主体、Ⅶ・Ⅶ-1とロームブロックを10~20%含む。
- 4 明黄褐色土(2.5Y6/6)Ⅶ-1、黒色土20%含む。
- 5 黒褐色土(2.5Y3/2)V・Ⅶ・Ⅶ-1の混合土、 ϕ 1~2cmのロームブロック5%含む。

26図 D区76号~79号土坑遺構図

IV 検出した遺構と出土した遺物

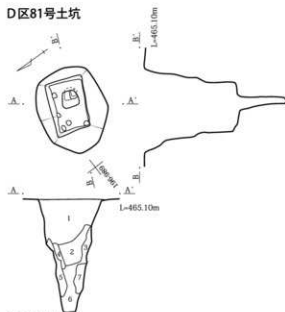
D区80号土坑



D区80号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)Vと同様、ローム粒を3%、下部にφ5cmのロームブロック1%含む。
- 2 暗灰黄色土(2.5Y4/2)V・VIとVIIの混合土(5:3:2)、VIIはブロック状の混入。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)Vに類似、φ2~3cmのロームブロックを10%含む。
- 4 黄褐色土(2.5Y5/3)V・VIとVIIの混合土(3:3:4)。
- 5 暗灰黄色土(2.5Y4/2)3に類似、3より濃色である、4をブロックで20%含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/2)V・VIとVIIの混合土(2:4:2)。
- 7 明黄褐色土(2.5Y6/6)VII-1、黒色土を10%含む。

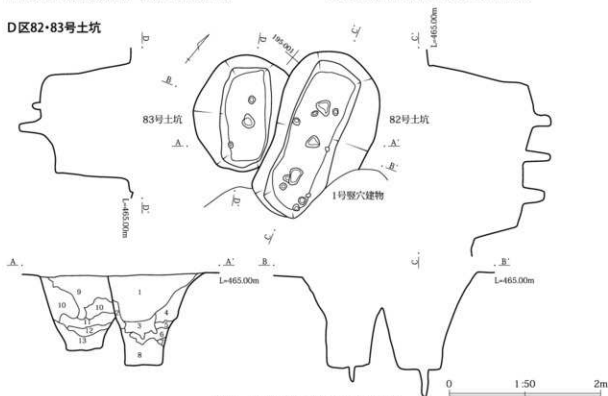
D区81号土坑



D区81号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)Vと同様、ローム粒を1%含む。
- 2 黒色土(10YR2/1)Vと同様、φ1cmのロームブロック、ローム粒3%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)Vに類似、φ1~3cm、ロームブロックを10%含む。
- 4 VIIのブロック、黒色土を10%含む。
- 5 暗灰黄色土(2.5Y3/2)V・VI・VIIの混合土(3:4:3)φ1cmのロームブロックを10%含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/2)V主体、VI、VII混入、φ0.5~1cmのロームブロックを5%含む。
- 7 黄褐色土(2.5Y5/6)VII主体、黒色土を30%含む。

D区82・83号土坑



27図 D区80号~83号土坑遺構図

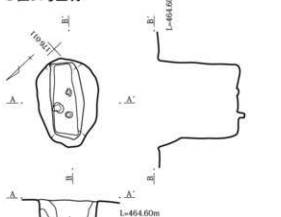
D区82号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)Vと同様、ローム粒を1%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)V主体、VIIが30%混入(混じり合ったブロックで)。
- 3 黒色土(10YR2/1)Vに類似、 ϕ 1~3cmのロームブロックを5%含む。
- 4 黒褐色土(2.5Y 3/2)Vに類似、 ϕ 1~5cmのロームブロック10%含む。
- 5 暗灰黄色土(2.5Y4/2)V・VI・VIIの混合土(3:3:4)。
- 6 明黄褐色土(2.5Y6/6)V・VII-1主体、黒色土10%含む。
- 7 VII-1とAs-BPのブロック。
- 8 黒褐色土(2.5Y3/2)VとVIIがブロックで混合した土(4:6)。

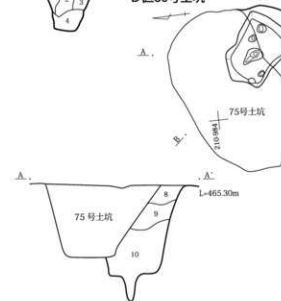
D区83号土坑

- 9 黒色土(10YR2/1)Vと同様であるが、82号土坑の1よりやや淡い色調、ローム粒1%含む。
- 10 黒褐色土(2.5Y3/2)V主体、VII・VII-1混入(6:4)、 ϕ 1~3cmのロームブロックを10%含む。
- 11 灰黄色土(2.5Y4/1)10に類似、VII・VII-1が多い(5:5)
- 12 黒褐色土(2.5Y3/1)10に類似、V、VII・VII-1の混合土(6:4)、 ϕ 1cmのロームブロック1%含む。
- 13 灰黄色土(2.5Y4/1)V・VI、VII・VII-1の混合土(3:3:4)。

D区84号土坑



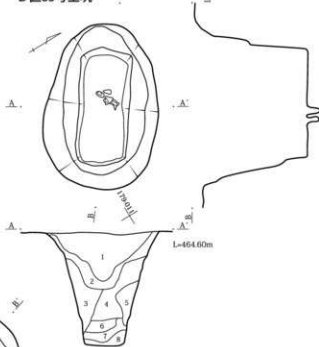
D区86号土坑



D区84号土坑

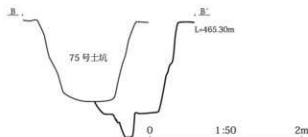
- 1 黒色土(10YR1.7/1)白色軽石を1%含む。
 - 2 黒褐色土(10YR2/2)白色軽石、ローム粒を1%含む。
 - 3 褐色土(10YR4/4)VII-1の崩落土。
 - 4 黒褐色土(10YR2/2)ロームブロックを若干含む。
- D区85号土坑
- 1 黒色土(10YR1.7/1)白色軽石を1%含む。
 - 2 黒褐色土(10YR3/2)白色軽石、ローム粒を多く含む。
 - 3 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)白色軽石を多く、As-BP粒を少量、ロームブロック10%含む。
 - 4 暗オリーブ色土(5Y4/3)ロームブロック、白色軽石、As-BP粒を含む。
 - 5 オリーブ褐色土(2.5Y4/6)VII-1の崩落土。
 - 6 黄褐色土(10YR5/6)VII-1、白、橙色軽石(くずれた)。
 - 7 暗オリーブ褐色土(2.5Y4/3)ローム粒、白色軽石、As-BP粒を含む。
 - 8 褐色土(10YR4/6)ローム主体、As-BP粒を多く含む。

D区85号土坑



D区86号土坑

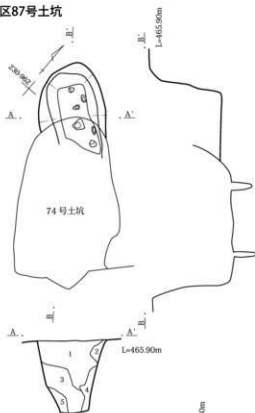
- 8 黒色土(10YR2/1)Vと同様、ローム粒を1%含む。
- 9 黒褐色土(10YR2/2) ϕ 1~3cmのロームブロック、ローム粒を5%含む。
- 10 暗灰黄色土(2.5Y4/2) ϕ 1~3cmのVII・VIIブロックとV・VIの混合土。



28図 D区84号~86号土坑遺構図

IV 検出した遺構と出土した遺物

D区87号土坑



D区88号土坑



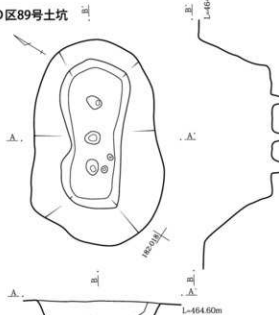
D区87号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)Vと同様、ローム粒を2%含む。
- 2 黒色土(10YR2/1)と同様、ローム粒が1よりやや多い。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)Vに類似、φ1~2cmのロームブロック、ローム粒を10%含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/1)3に類似、φ1~3cmのロームブロック、ローム粒を20%含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/2)3・4に類似、φ1~5cmのロームブロック、ローム粒を30%含む。

D区88号土坑

- 1 黒色土(10YR1.7/1)白色軽石を1%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒を多く含む。
- 3 黄褐色土(10YR5/6)Ⅶ-1の崩落土。
- 4 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒を多く含む。
- 5 黄褐色土(10YR5/8)Ⅶ-1の崩落土。
- 6 黒色土(10YR2/1)As-BPを多く含む。

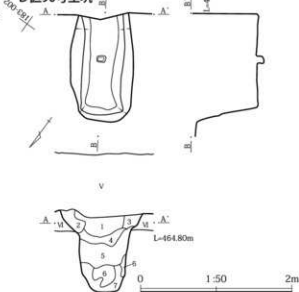
D区89号土坑



D区89号土坑

- 1 黒色土(10YR1.7/1)Vと同様。
- 2 黒色土(10YR1.7/1)ローム粒を多く含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒を2より多く含む。
- 4 明黄褐色土(2.5Y4/3)Ⅶ-1主体、ブロック状の増積。
- 5 黄褐色土(2.5Y5/6)Ⅶ-1主体、As-BPを若干含む。

D区90号土坑

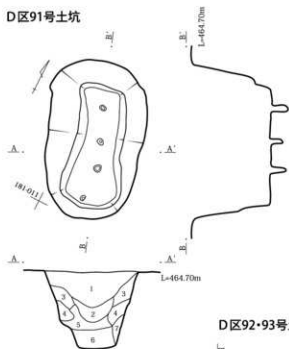


29図 D区87号~90号土坑遺構図

DK90号土坑

- 1 黒色土(10YR1.7/1)ローム粒、白色軽石を若干含む。
- 2 明黄褐色土(2.5Y4/6)ロームブロック主体。
- 3 暗オリーブ色土(5Y4/3)ローム粒、As-BP粒を含む。
- 4 黒褐色土(2.5Y3/1)ロームブロック、ローム粒を30%含む。
- 5 明黄褐色土(5Y2/2)ローム粒、As-BP粒を10%含む。
- 6 明黄褐色土(5Y3/2)ローム粒、As-BP粒を5%含む。
- 7 黄褐色土(2.5Y5/6)ローム主体、棕色、軽石ブロック。

D区91号土坑



DK91号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)Vと同様、ローム粒1%含む、やや淡い色調。
- 2 黒色土(10YR2/2)Vに類似(10YR2/1)、φ1cmのロームブロック、ローム粒を5%含む。
- 3 黒褐色土(2.5Y6/6)V主体、φ1~2cmのロームブロックを10%含む。
- 4 明黄褐色土(2.5Y6/6)Ⅶ-1主体、黒色土を5%、Ⅶのブロック3%を含む。
- 5 黒褐色土(2.5Y3/2)3に類似、3よりロームブロックを20%と多く含む。
- 6 明黄褐色土(2.5Y6/6)Ⅶ-1と同様、黒色土を5%含む。
- 7 明黄褐色土(2.5Y6/6)6と同様、黒色土3%、Ⅶを5%含む。

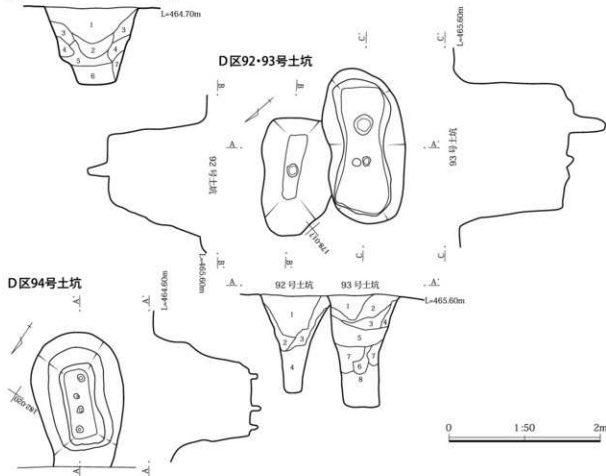
DK92号土坑

- 1 黒褐色土(5Y2/1)白色軽石を1%含む。
- 2 オリーブ黒色土(5Y2/2)ローム粒を3%含む。
- 3 オリーブ黒色土(5Y3/1)ローム粒、As-BPを2~5%含む。
- 4 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)ローム粒を5%とAs-BPを2%含む。
- 5 褐色土(10YR4/6)Ⅶ-1主体。

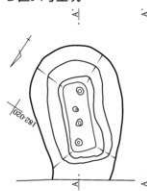
DK93号土坑

- 1 オリーブ黒色土(5Y3/1)白色軽石粒を1%含む。
- 2 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)白色軽石粒を1%含む。
- 3 オリーブ褐色土(2.5Y4/6)2と同様。
- 4 黄褐色土(2.5Y5/6)As-BPを僅かに含む。
- 5 黄褐色土(10YR5/8)Ⅶ-1主体。
- 6 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒を5%含む。
- 7 黒褐色土(2.5Y3/1)φ1~3cmのロームブロックを20%含む。
- 8 明黄褐色土(2.5Y6/6)Ⅶ-1・2の崩落土、黒色土を10%含む。

D区92-93号土坑

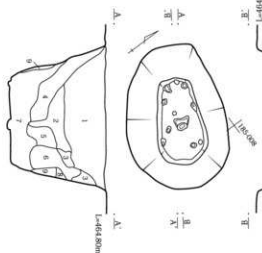


D区94号土坑



30図 D区91号~94号土坑遺構図

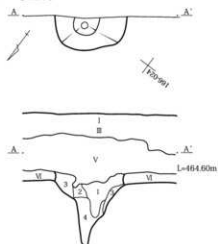
D区95号土坑



D区95号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)Vと同様、ローム粒を1%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)1に類似、 ϕ 1~2cmのロームブロックを5%含む。
- 3 灰黄色土(2.5Y6/4)Ⅴの崩落土、黒色土が20~30%混入。
- 4 黒褐色土(10YR3/2)V・Ⅵの混合土、 ϕ 3~5cmのロームブロックを10%含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/2)4に類似、 ϕ 5~8cmのロームブロックを20%含む。
- 6 明黄褐色土(2.5Y6/6)Ⅴ・Ⅶ-1と同様、黒色土を10%含む。
- 7 黒褐色土(2.5Y3/1)Ⅴブロック、ⅤブロックともにAs-BP粒を5%含む。
- 8 明黄褐色土(2.5Y6/6)Ⅴ-1・Ⅴ-2(As-BP)の崩落土、ブロック状に堆積。
- 9 明黄褐色土(2.5Y6/6)Ⅴ-3の崩落土。

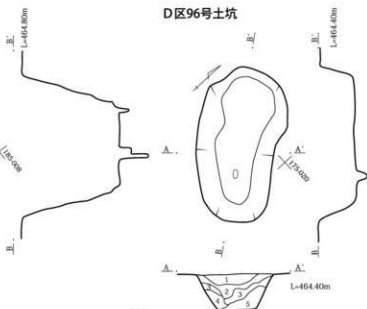
D区98号土坑



D区98号土坑(西側)

- 1 黒色土(10YR2/2)V主体、 ϕ 1cmのロームブロックを3%含む。
- 2 黒色土(10YR2/2)1に類似、ローム粒を1%含む。
- 3 黒色土(10YR1.7/2)V崩落、流れ込み。
- 4 暗褐色土(10YR3/3)V・Ⅵの混合土、 ϕ 1~3cmのロームブロック、ローム粒を5%含む。

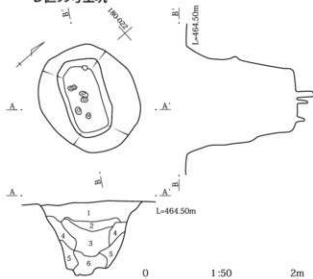
D区96号土坑



D区96号土坑

- 1 黒褐色土(2.5Y3/1)ローム粒、白色軽石粒をわずかに含む。
- 2 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)ローム粒を少量と白色軽石粒を含む。
- 3 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)ローム粒を多くと白色軽石粒を若干含む。
- 4 黄褐色土(2.5Y5/6)Ⅴ-1主体、白色軽石粒を含む。
- 5 オリーブ褐色土(2.5YR4/6)4に類似。

D区99号土坑

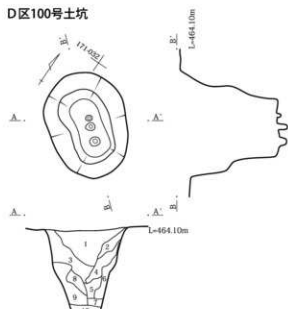


D区99号土坑

- 1 暗灰黄色土(2.5Y4/2)Ⅴ主体、Ⅴ混入、ローム粒、 ϕ 0.5~1cmロームブロックを3%含む。
- 2 黒褐色土(2.5Y3/2)1に類似、 ϕ 1~3cmのロームブロックを20%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)V主体、Ⅴ混入、 ϕ 1~2cmロームブロックを5%含む。
- 4 暗灰黄色土(2.5Y5/2)1に類似、ロームブロックを10%含む。
- 5 明黄褐色土(2.5Y6/6)Ⅴ-1、黒色土10%を含む。
- 6 黄灰色土(2.5Y4/1)V・Ⅴ混合土、 ϕ 1~2cmロームブロックを10%含む。

31図 D区95号・96号・98号・99号土坑遺構図

D区100号土坑



D区100号土坑

- 1 黒色土(10YR1.7/1)白色軽石を少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒を3%含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/3)ローム粒を10%含む。
- 4 黄褐色土(10YR5/6)ローム粒を20%含む。
- 5 褐色土(10YR4/4)ローム粒を10%とAs-BP粒を5%含む。
- 6 黄褐色(10YR5/8)Ⅶ-1主体。
- 7 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒を3%含む。
- 8 黄褐色土(10YR5/8)Ⅶ-1主体。
- 9 黄褐色土(10YR5/8)Ⅶ-1主体、As-BPを5%含む。
- 10 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒を5%含む。

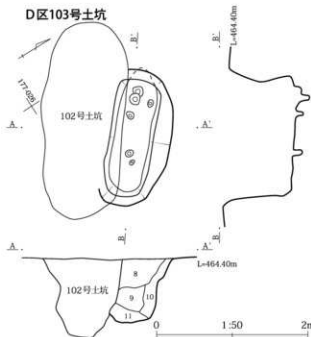
D区101号土坑



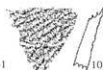
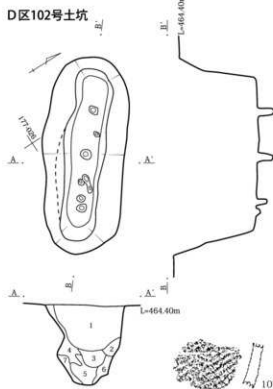
D区101号土坑

- 1 黒色土(10YR1.7/1)白色軽石を少量含む。
- 2 黒褐色土(2.5Y3/2)ローム粒、白色軽石を5%含む。
- 3 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)2よりローム粒多く含む。
- 4 黄褐色土(10YR5/8)Ⅶ-1主体、As-BPを5%含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒を3%含む。
- 6 に赤い黄褐色(10YR4/3)Ⅶ-1主体。

D区103号土坑



D区102号土坑



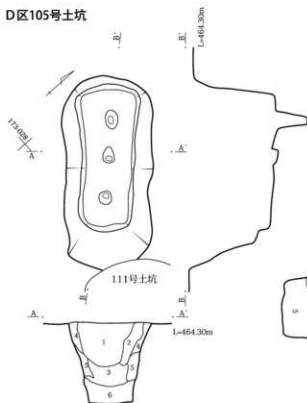
32図 D区100号～103号土坑遺構図、102号土坑出土遺物図

IV 検出した遺構と出土した遺物

D区102号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)Vと同様、ローム粒を3%含む。
 - 2 黒色土(10YR2/1)1と同様、ローム粒を5%含む。
 - 3 黒色土(10YR2/1)1に類似、φ1~2cmロームブロックを5%含む。
 - 4 明黄褐色土(2.5Y6/6)Ⅶ-1、黒色土を20%含む。
 - 5 黒褐色土(10YR3/2)V主体、φ1~3cmのロームブロックを10%含む。
 - 6 黒褐色土(2.5Y3/2)VにⅦ・Ⅷ・Ⅸ-1混入、φ1~3cmのロームブロックを20%含む。
 - 7 明黄褐色土(2.5Y6/6)4に類似、4より黒色土が少ない。
- D区103号土坑
- 8 黒色土(10YR2/1)1に類似、1より淡い色調、ローム粒混入。
 - 9 黒褐色土(10YR3/2)8に類似、ローム土混入が多い。
 - 10 暗灰黄色土(2.5Y4/2)V・Ⅵ・Ⅶ&Ⅷ-1の混合土、φ2~3cmロームブロックを10%含む。
 - 11 オリーブ灰(2.5Y5/2)10に類似、Ⅶ・Ⅷ-1の割合が多い。

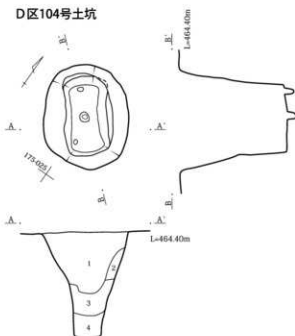
D区105号土坑



D区105号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)Vと同様、ローム粒を2%含む。
- 2 黒色土(10YR2/1)1に類似、1よりやや淡い色調、ローム粒を3%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)Vに類似、φ2~10cmロームブロックを20%含む。
- 4 暗灰黄色土(2.5Y4/2)Ⅶ主体、黒色土ブロック3%、φ1cmロームブロックを3%含む。
- 5 明黄褐色土(2.5Y6/6)Ⅶ・Ⅷ-1黒色土を5%含む。
- 6 オリーブ褐色土(2.5Y4/4)V・Ⅵ・Ⅶ(2:4:4)の混合土、As-B粒を5%含む。

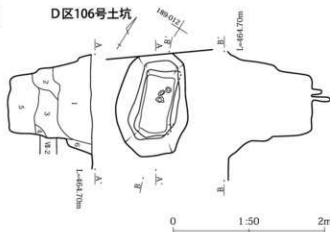
D区104号土坑



D区104号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)Vと同様、ローム粒を3%含む。
- 2 黄褐色土(2.5Y5/4)Ⅶ・Ⅷ-1主体、黒色土を30%含む。
- 3 暗灰黄色土(2.5Y4/2)Ⅶ・Ⅷ-1主体、黒色土を30%含む。
- 4 明黄褐色土(2.5Y6/6)Ⅶ・Ⅷ-1、黒色土を5%含む。

D区106号土坑

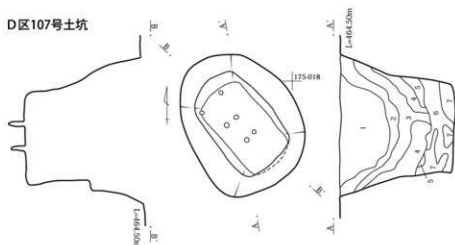


D区106号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)Vと同様、ローム粒を1%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)Vと類似、φ1~3cmのロームブロックを5%含む。
- 3 暗灰黄色土(2.5Y4/2)V・Ⅶの混土(4:6)、φ1~2cmのロームブロック10%含む。
- 4 明黄褐色土(2.5Y6/6)Ⅶ・Ⅷ-1、黒色土を10%含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/2)V・Ⅵ・Ⅶ-1の混合土、φ1cmのロームブロック10%含む。
- 6 明黄褐色土(2.5Y6/6)Ⅶ-1の崩落土。

33図 D区104号~106号土坑遺構図

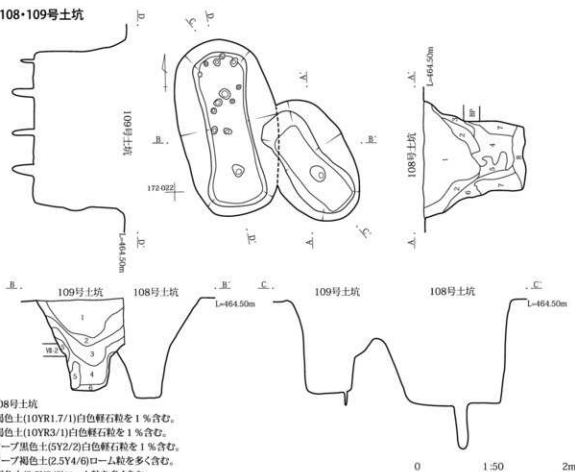
D区107号土坑



DK107号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/1)白色軽石を1%含む。
- 2 黒褐色土(5Y2/1)1と同様に軽石を1%含む。
- 3 オリーブ黒褐色土(5Y3/2)As-BP粒を10%含む。
- 4 明黄褐色土(10YR6/8)As-BP粒を10%含む。
- 5 黒褐色土(2.5Y3/1)As-BP粒を5%含む。
- 6 オリーブ黒褐色土(5Y3/2)3よりAs-BP粒が少ない。
- 7 黄褐色土(10YR5/8)As-BP粒を5%含む。

D区108・109号土坑



DK108号土坑

- 1 黒褐色土(10YR1.7/1)Vと同様。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)白色軽石粒を1%含む。
- 3 オリーブ黒色土(5Y2/2)白色軽石粒を1%含む。
- 4 オリーブ褐色土(2.5Y4/6)ローム粒を多く含む。
- 5 黒褐色土(2.5Y3/2)ローム粒を多く含む。
- 6 オリーブ黒色土(5Y2/2)ローム粒を多く含む。
- 7 オリーブ褐色土(2.5Y4/6)ローム粒を多く含む。
- 8 黒褐色土(2.5Y3/1)ローム粒を多く含む。

DK109号土坑

- 1 黒褐色土(7.5Y1.7/1)Vと同様。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)1と同様。
- 3 オリーブ黒色土(5Y3/1)ローム粒、白色軽石を多く含む。
- 4 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)VI-1主体。
- 5 黄褐色土(10YR5/8)VI-1と同様。
- 6 褐色土(10YR4/4)VI-1主体。

DK110号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)Vと同様、ローム粒を1%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)1に類似、 ϕ 1cmロームブロック5%含む。
- 3 黒色土(10YR2/1)1と同様、ローム粒を3%含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/2)Vに類似、 ϕ 1~2cmロームブロックを5%含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/2)4と同様、ロームブロックやや多い。
- 6 黄褐色土(2.5Y6/6)VI-VII-1、黒色土30%を含む。
- 7 黒褐色土(2.5Y3/2)4・5に類似、ロームブロックを20%含む。
- 8 明黄褐色土(2.5Y6/6)VI-VII-1、黒色土を10%含む。
- 9 暗灰黄色土(2.5Y4/2)V-VI-VII-1の混合土、As-BP粒を10%含む。

34図 D区107号~109号土坑遺構図

IV 検出した遺構と出土した遺物

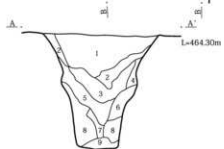
D区110号土坑



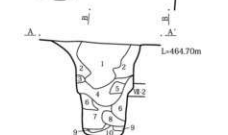
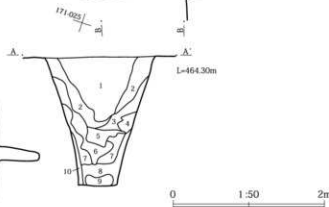
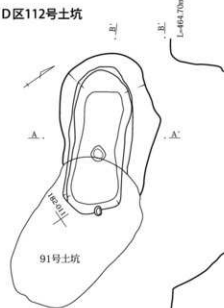
D区111号土坑

- 1 黒色土(10YR1.7/1)ローム粒を5%含む。
- 2 黒色土(10YR2/2)ローム粒、As-BP粒を5%含む。
- 3 オリーブ褐色土(2.5Y4/6)ローム粒を10%含む。
- 4 黄褐色土(2.5Y5/6)Ⅷ-1主体。
- 5 黒色土(2.5Y2/1)ローム粒を5%含む。
- 6 オリーブ褐色土(2.5Y4/6)ローム粒を20%含む。
- 7 黄褐色土(2.5Y5/6)Ⅷ-1主体、As-BP粒を5%含む。
- 8 黄褐色土(2.5Y5/4)Ⅷ-1主体。
- 9 黒褐色土(2.5Y3/2)V・Ⅵ・Ⅶ-1の混合土。
- 10 黄褐色土(2.5Y5/3)9と同様。

D区111号土坑



D区112号土坑

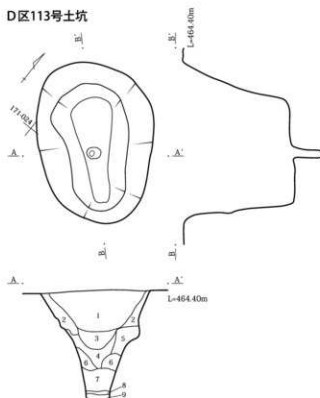


D区112号土坑

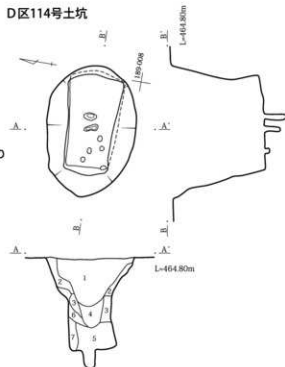
- 1 黒色土(10YR2/1)Vと同様、ローム粒を1%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)1に類似、φ1~2cmのロームブロックを5%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)Vに類似、φ0.5cmのローム粒を5%含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/1)2に類似、φ1~3cmのロームブロックを5%含む。
- 5 黄褐色土(2.5Y5/6)Ⅷ主体、黒色土を20%含む。
- 6 黄褐色土(2.5Y5/6)5に類似、黒色土30%、As-BP粒を5%含む。
- 7 暗灰黄色土(2.5Y4/2)V・Ⅵ・Ⅶ(2:4:4)の混合土、φ1cmのロームブロックを3%含む。
- 8 黒褐色土(10YR2/1)V・Ⅶの混合土(5:5)、As-BP粒を10~15%含む。
- 9 明黄褐色土(2.5Y6/6)Ⅷ・Ⅶ-1のブロック、黒色土を10%含む。
- 10 暗灰黄色土(2.5Y4/2)V・Ⅵ・Ⅶ-1の混合土、As-BP粒を10%含む。

35図 D区110号~112号土坑遺構図

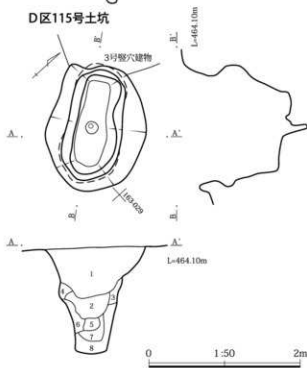
D区113号土坑



D区114号土坑



D区115号土坑



D区113号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)Vと同様、ローム粒1%含む。
- 2 オリーブ褐色土(2.5Y4/4)VIとVIIの混合土(7:3)、 ϕ 0.5~2cmのロームブロックを3%含む。
- 3 黒褐色土(2.5Y3/2)V・VI・VIIの混合土(3:4:3)、ローム粒を5%含む。
- 4 黄褐色土(2.5Y 5/6)VII主体、黒色土10%、As-BP粒を3%含む。
- 5 明黄褐色土(2.5Y6/6)VII-1、黒色土5%、As-BP粒を10%含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/2)V主体、VI・VII混入、ロームブロック20%、As-BP粒を5%含む。
- 7 明黄褐色土(2.5Y6/6)5と同様。
- 8 黒褐色土(10YR3/1)Vの小ブロックからなるロームブロックを10%含む。
- 9 暗灰黄色土(2.5Y4/2)V・VI・VII-1の混合土、As-BP粒を10%含む。

D区114号土坑

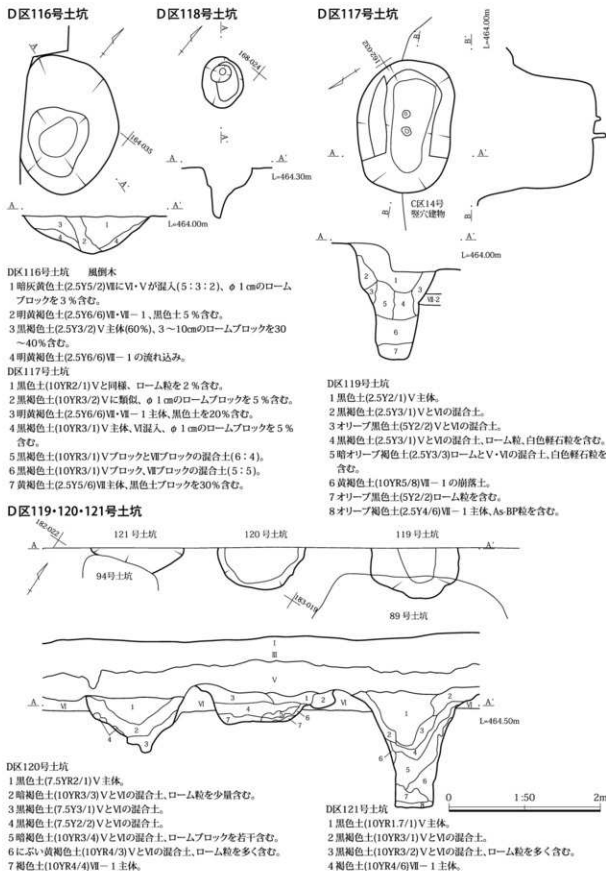
- 1 黒色土(10YR2/1)Vと同様、ローム粒を1%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)1に類似、 ϕ 1~2cmのロームブロックを5%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)Vに類似、 ϕ 0.5cmのローム粒を5%含む。
- 4 黒褐色土(2.5Y3/2)V・VI・VIIの混合土(3:4:3)、ローム粒を多く含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/1)V主体 ϕ 1cmのロームブロックを10%含む。
- 6 明黄褐色土(2.5Y6/6)VII-1、黒色土5%含む。
- 7 明黄褐色土(2.5Y6/6)VII-1、黒色土20%、As-BP粒を5%含む。

D区115号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)V主体、ローム粒を1%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)Vに類似、 ϕ 1~2cmロームブロックを5%含む。
- 3 黄褐色土(2.5Y5/6)VIブロック70%、黒色土30%の混合土。
- 4 黄褐色土(2.5Y5/4)VIブロック50%、V・IV50%の混合土。
- 5 VII-1の崩落土 黒色土を5%含む。
- 6 暗灰黄色土(2.5Y4/2)VI・VII-1の混合土(5:5)。
- 7 黒褐色土(10YR3/2)V主体、 ϕ 1cmロームブロックを5%含む。
- 8 ぶい黄色土(2.5Y6/4)VII-Rの崩落土?

36図 D区113号~115号土坑遺構図

IV 検出した遺構と出土した遺物



37図 D区116号~121号土坑遺構図

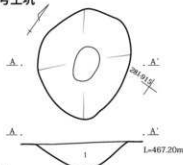
E区21号土坑



E区21号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1)Vに類似、VIが10~20%混入。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)VIの崩落土、Vが30%混入。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3)V・VI・VIIの混合土(4:4:2)。

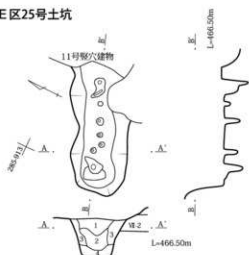
E区23号土坑



E区23号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)Vと同様、φ0.5cmのローム粒を1%含む。

E区25号土坑



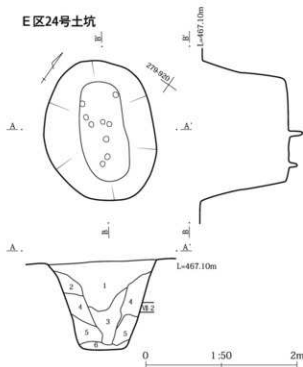
E区25号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1)V主体、ロームブロック5~10%を含む。
- 2 明黄褐色土(10YR6/6)VとVIIの混合土(5:5)。
- 3 明黄褐色土(2.5Y6/6)VIIの崩落土。
- 4 褐色土(10YR4/1)VとVIIの流れ込み。

E区22号土坑



E区24号土坑

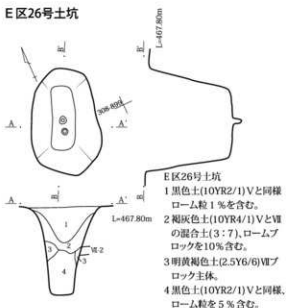


E区24号土坑

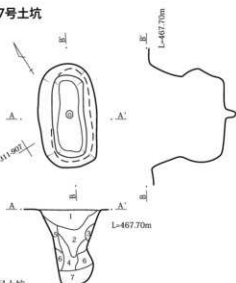
- 1 黒色土(10YR2/1)Vと同様、ローム粒1~2%を含む。
- 2 黒色土(10YR2/1)と同様、ロームブロック5%を含む。
- 3 褐色土(10YR4/1)VとVIIの混合土(4:6)、φ1~2cmのロームブロック10%を含む。
- 4 褐色土(10YR5/1)VとVIIの混合土(3:7)、φ3~5cmのロームブロック20%を含む。
- 5 明黄褐色土(2.5Y6/6)VIIと同様、崩落土、下部にIXブロック混入。
- 6 黒褐色土(10YR3/1)VとVIIの混合土(5:5)。

38図 E区21号~25号土坑遺構図

E区26号土坑



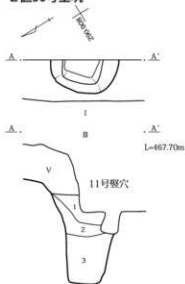
E区27号土坑



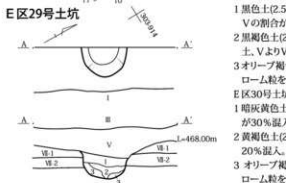
E区28号土坑



E区30号土坑

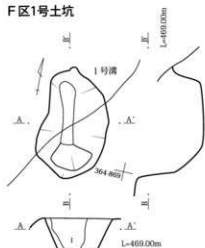


E区29号土坑



39図 E区26号～30号土坑遺構図

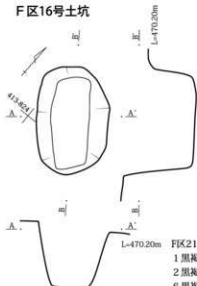
F区1号土坑



FK1号土坑

- 1 黒褐色土 Vと同様。
2 黒褐色土 ローム粒を5%含む。
3 黒褐色土 ロームブロックを20%含む。

F区16号土坑



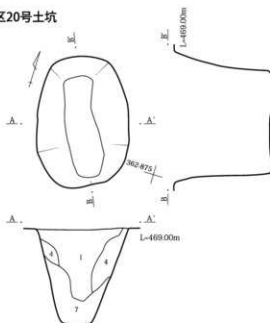
F区21号土坑



FK21号土坑

- 1 黒褐色土 細粒の白色軽石を1%含む。
2 黒褐色土 φ5cm前後のロームブロックを5%含む。
6 黒褐色土と黄褐色土をモザイク状に混合。

F区20号土坑



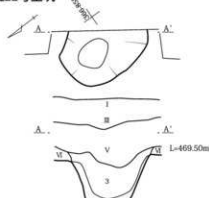
FK20号土坑

- 1 黒褐色土 細粒の白色軽石を1%含む。
4 褐色土 黒褐色土をモザイク状に含む。
7 褐色土 黒褐色土を5%、As-BPを5%含む。

FK23号土坑

- 3 黒褐色土 ローム粒を少量含む。
4 暗褐色土 ローム粒とロームブロックを多く含む。

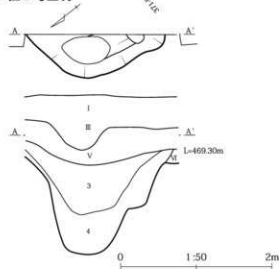
F区22号土坑



FK22号土坑

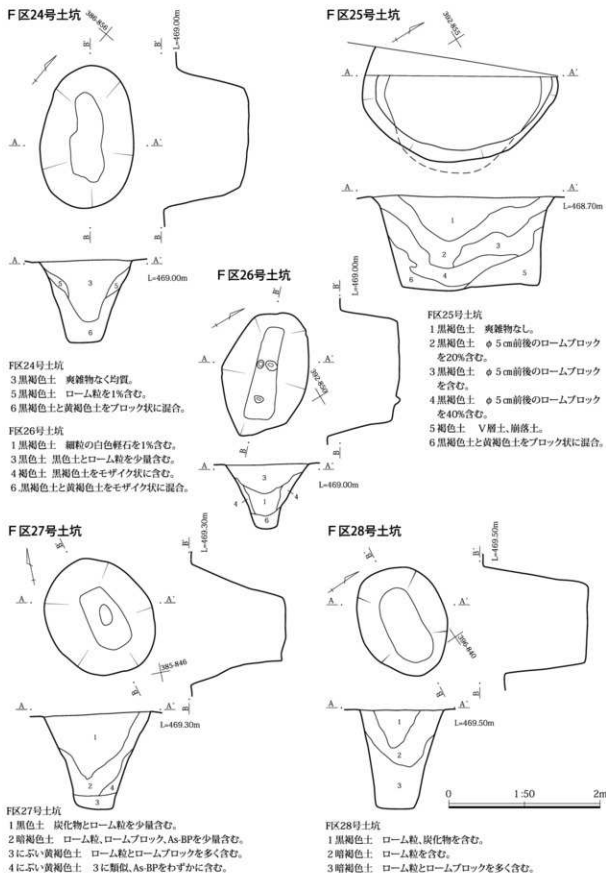
- 3 黒色土 黒色土とローム粒を少量含む。
4 黒褐色土 ローム粒とロームブロックを少量含む。

F区23号土坑



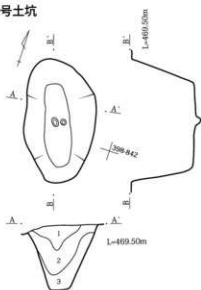
340図 F区1号・16号・20号～23号土坑遺構図

IV 検出した遺構と出土した遺物



41図 F区24号～28号土坑遺構図

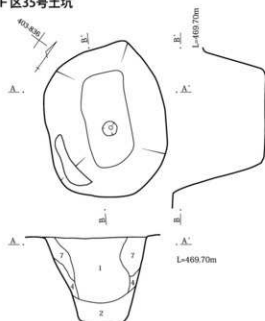
F区29号土坑



FK29号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む。
 2 暗褐色土 ローム粒を若干含む。
 3 にぶい黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを多くとAs-BPを含む。

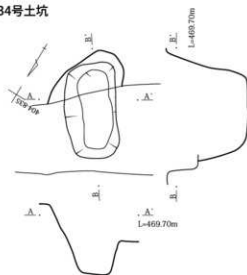
F区35号土坑



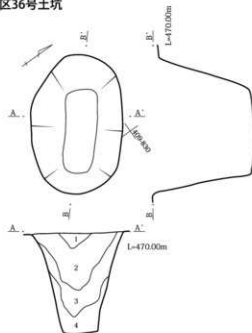
FK35号土坑

- 1 黒褐色土 砂質さみ、 ϕ 1~2cmのロームブロックを1%含む。
 2 黒褐色土 ϕ 1~2cmのロームブロックを5%含む。
 4 黒褐色土 ϕ 5cm前後のロームブロックを10%含む。
 7 黒褐色土 ϕ 5cm前後のロームブロックを5%含む。

F区34号土坑

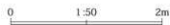


F区36号土坑



FK36号土坑

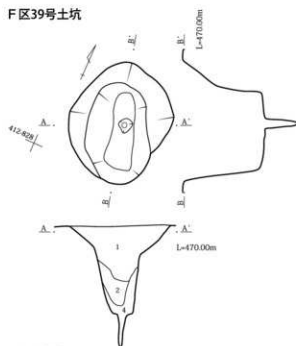
- 1 暗褐色土 ローム粒をやや多く含む。
 2 黒褐色土 ローム粒を含む。
 3 暗褐色土 ローム粒とロームブロックを含む。
 4 明黄褐色土 ローム粒とロームブロックを多く含む。



42図 F区29号・34号~36号土坑遺構図

IV 検出した遺構と出土した遺物

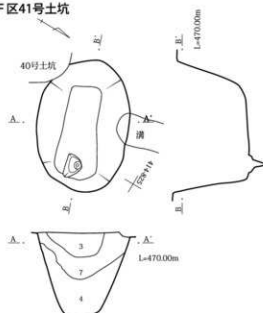
F区39号土坑



FK39号土坑

- 1 黒褐色土 砂質ぎみ、φ 1～2 cmのロームブロックを1%含む。
 2 黒褐色土 φ 1～2 cmのロームブロックを5%含む。
 4 黒褐色土 φ 5 cm前後のロームブロックを10%含む。

F区41号土坑



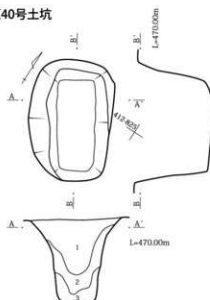
FK41号土坑

- 3 黒褐色土 ローム粒を少量含む。
 4 暗褐色土 ローム粒とロームブロックを多く含む。
 7 暗褐色土 ローム粒をやや多く含む。

F区42号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む。
 2 暗褐色土 ローム粒をやや多く含む。
 3 暗褐色土 ローム粒とロームブロックを多く含む。

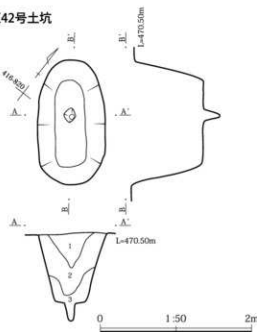
F区40号土坑



FK40号土坑

- 1 黒褐色土 砂質ぎみ、φ 1～2 cmのロームブロック1%含む。
 2 黒褐色土 φ 5 cm前後のロームブロックを10%含む。
 3 黒褐色土とⅧの混合土。

F区42号土坑



FK43号土坑

- 1 黒褐色土 砂質ぎみ、φ 1～2 cmのロームブロックを1%含む。
 4 黒褐色土 φ 5 cm前後のロームブロックを10%含む。

FK44号土坑

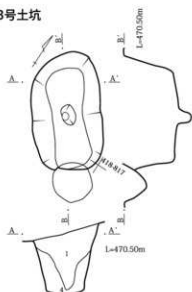
- 1 黒褐色土 φ 1～2 cmのロームブロックを1%含む。
 2 黒褐色土 φ 5 cm前後のロームブロックを10%含む。

FK46号土坑

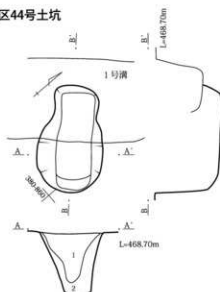
- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む。
 2 暗褐色土 ローム粒をやや多く含む。
 3 黒褐色土 夾雑物なく均質。
 4 黒褐色土 ローム粒とロームブロックを少量含む。
 5 黒褐色土 黄色粒を1%含む。

43図 F区39号～42号土坑遺構図

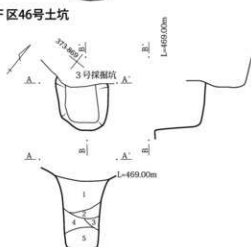
F区43号土坑



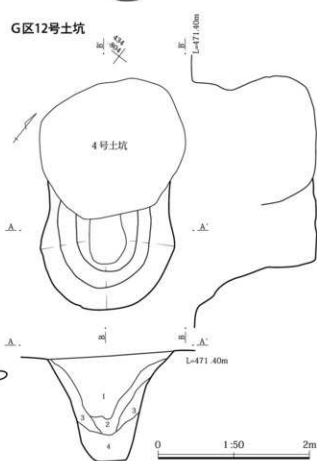
F区44号土坑



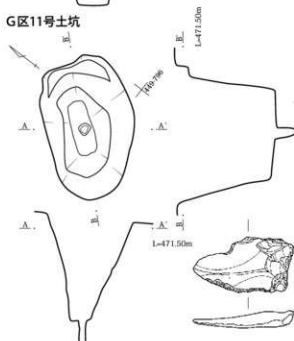
F区46号土坑



G区12号土坑



G区11号土坑



0 1:50 2m

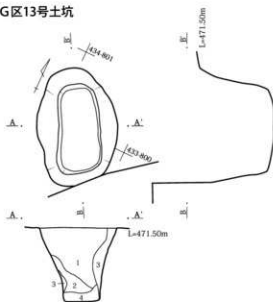
G区12号土坑

- 1 黒色土(2.5Y2/1)V主体。
- 2 黒褐色土(2.5Y3/2)ローム粒を少量含む。
- 3 暗オリーブ色土(5Y4/3)Ⅶ-1の崩落土。
- 4 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)2よりややローム粒が多い。

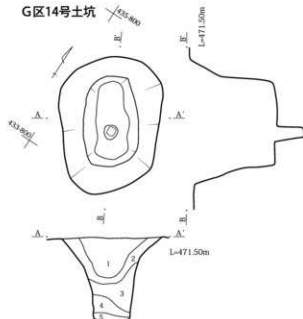
44図 F区43号・44号・46号・G区11号・12号土坑遺構図、G区11号土坑出土遺物図

IV 検出した遺構と出土した遺物

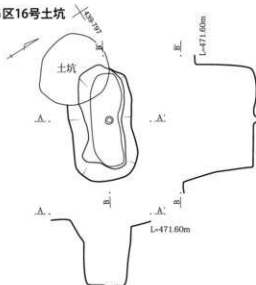
G区13号土坑



G区14号土坑



G区16号土坑



G区13号土坑

- 1 黒色土(2.5Y2/1) V 主体。
- 2 黒褐色土(2.5Y3/1) V 主体、ローム粒を20%含む。
- 3 褐色土(10YR4/4) VII-1 主体、粘性が強い。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) VII-1 主体、粘性が弱い。

G区14号土坑

- 1 黒色土(10YR1.7/1) V 主体。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) V・VIの混合土。
- 3 黒褐色土(2.5Y3/1) V・VIの混合土、ローム粒を多く含む。
- 4 褐(10YR4/6) VII-1 の崩落土。
- 5 褐(10YR4/4) VII-1 の崩落土、下部にAs-Srを含む。

H区12号土坑



H区11号土坑



H区11号土坑

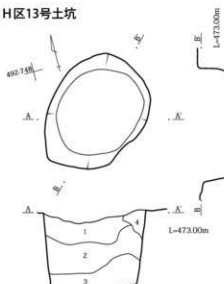
- 1 黒褐色土 Vに近似。
- 2 暗褐色土 黒褐色土を含む。
- 3 黒褐色土 黄色粒5%含む。
- 4 黄褐色土と黒褐色土の混合土。

H区12号土坑

- 1 黒褐色土 Vに近似。
- 2 暗褐色土 黒褐色土を含む。
- 3 黒褐色土 褐色粒5%含む。

45図 G区13号・14号・16号・H区11号・12号土坑遺構図

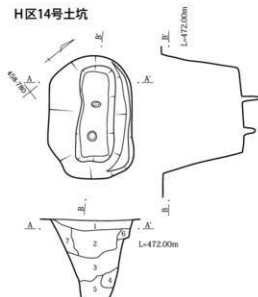
H区13号土坑



H区13号土坑

- 1 黒褐色土 褐色粒5%含む。
- 2 黒褐色土 褐色粒10%含む。
- 3 黒褐色土 褐色粒40%、ローム大ブロック10%含む。
- 4 暗褐色土 黒屑の崩落土。

H区14号土坑



H区14号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む。
- 2 黒色土 黒色土主体、ローム粒をわずかに含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒とロームブロックを含む。
- 4 明黄褐色土 ローム主体。
- 5 にぶい黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。
- 6 黒褐色土 ローム粒を含む。
- 7 黒褐色土 ローム粒を含む。

H区15・16号土坑



H区15号土坑

- 1 黒褐色土 Vに類似。
- 2 褐色土と黄褐色土のブロックの混合土。
- 3 黄褐色土
- 4 黄褐色土 黒褐色土の大ブロック20%含む。
- 5 暗褐色土
- 6 黒褐色土 ローム粒を含む。

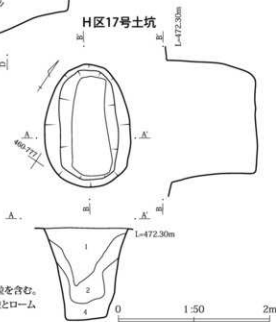
H区16号土坑

- 1 黒色土 黒色土主体、ローム粒を少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒を多く含む。
- 3 明黄褐色土 ローム主体、As BPも含む。
- 4 にぶい黄褐色土 ローム粒が多い。

H区17号土坑

- 1 黒色土 黒色土主体。
- 2 黒色土 黒色土とローム粒を含む。
- 4 にぶい黄褐色土 ローム粒とロームブロックを含む。

H区17号土坑



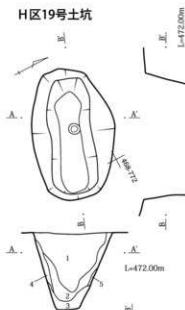
46図 H区13号～17号土坑遺構図

IV 検出した遺構と出土した遺物

H区18号土坑



H区19号土坑



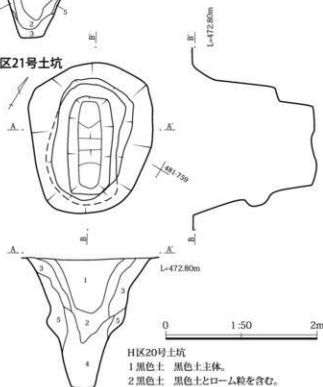
- H区18号土坑
 1 黒色土 黒色土主体。
 2 黒色土 黒色土とローム粒を含む。
 3 暗褐色土 ローム粒を含む。
 4 にぶい黄褐色土 ローム粒とロームブロックを含む。

- H区19号土坑
 1 黒色土 黒色土主体。
 2 黒色土 黒色土とローム粒を含む。
 3 暗褐色土 ローム粒を含む。
 4 にぶい黄褐色土 ローム粒とロームブロックを含む。
 5 にぶい黄褐色土 ローム粒とAs-BPを含む。

H区20号土坑



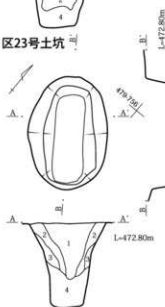
H区21号土坑



- H区20号土坑
 1 黒色土 黒色土主体。
 2 黒色土 黒色土とローム粒を含む。
 3 暗褐色土 ローム粒を含む。
 4 にぶい黄褐色土 ローム粒とロームブロックを含む。

- H区21号土坑
 1 黒色土 黒色土主体。
 2 黒色土 黒色土とローム粒を含む。
 3 暗褐色土 ローム粒を含む。
 4 にぶい黄褐色土 ローム粒とロームブロックを含む。
 5 にぶい黄褐色土 Vの崩落土、Vを若干含む。

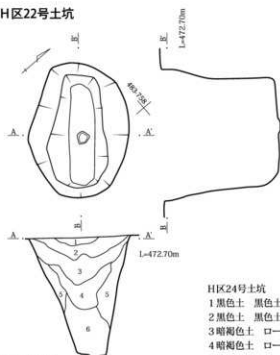
H区23号土坑



- H区23号土坑
 1 黒色土 黒色土主体。
 2 黒色土 黒色土とローム粒を含む。
 3 暗褐色土 ローム粒を含む。
 4 黒褐色土 ローム粒とロームブロックを含む。

47図 H区18号～21号・23号土坑遺構図

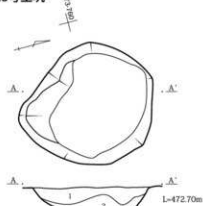
H区22号土坑



H区22号土坑

- 1 黒色土 黒色土主体。
- 2 黒色土 黒色土とローム粒を含む。
- 3 にぶい黄褐色土 As-BPを多く含む。
- 4 黒色土 黒色土とローム粒、As-BPを含む。
- 5 にぶい黄褐色土 ローム粒とロームブロックを含む。
- 6 黒褐色土 ローム粒とロームブロックを含む。

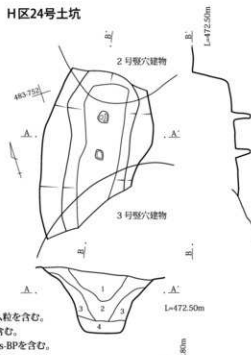
H区28号土坑



H区28号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒を少量含む。

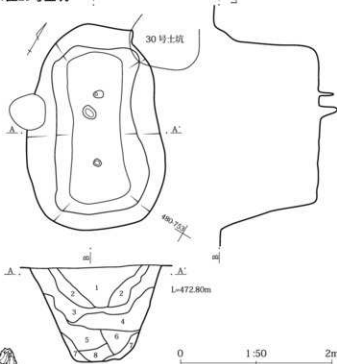
H区24号土坑



H区24号土坑

- 1 黒色土 黒色土主体。
- 2 黒色土 黒色土とローム粒を含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒を含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒とAs-BPを含む。

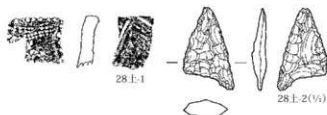
H区29号土坑



H区29号土坑

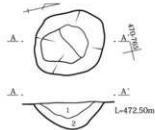
- 1 黒色土 黒色土主体。
- 2 黒色土 黒色土とローム粒を含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒を含む。
- 4 にぶい黄褐色土 ローム粒とロームブロックを含む。
- 5 明黄褐色土 ローム土主体であるが、As-BPが入る。粘性あり。
- 6 にぶい黄褐色土 ローム土主体、As-BPを含む。
- 7 にぶい黄褐色土 6よりも黒色土が多い。
- 8 にぶい黄褐色土 7よりもさらに黒色土とAs-BPが多い。

48図 H区22号・24号・28号・29号土坑遺構図、28号土坑出土遺物図



IV 検出した遺構と出土した遺物

H区25号土坑



H区25号土坑

- 1 黒色土 黒色土主体。
2 黒色土 黒色土とローム粒を含む。

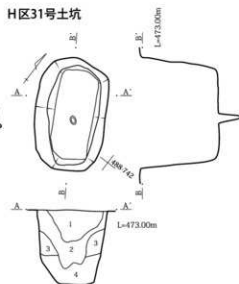
H区30号土坑



H区30号土坑

- 1 黒色土 黒色土主体。
2 黒色土 黒色土とローム粒を含む。
3 暗褐色土 ローム粒を含む。
4 黒色土 As-BPを少量含む。

H区31号土坑



H区31号土坑

- 1 黒色土 黒色土主体。
2 黒色土 黒色土とローム粒を含む。
3 暗褐色土 ローム粒を含む。
4 明黄褐色土 ローム主体であるが、黒色土が混入。

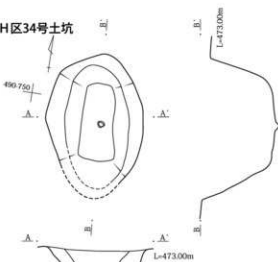
H区33号土坑



H区33号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒を少量と炭化物を含む。
2 褐色土 ローム粒と炭化物を含む。

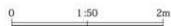
H区34号土坑



H区34号土坑

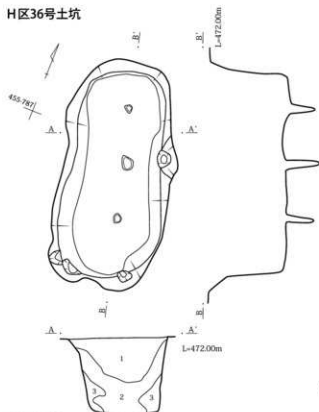
- 1 黒色土 黒色土主体。
2 黒色土 黒色土とローム粒を含む。
3 暗褐色土 ローム粒を含む。
4 にぶい黄褐色土 ローム粒とロームブロックを含む。

H区35号土坑



49図 H区25号・30号・31号・33号～35号土坑遺構図、33号土坑出土遺物図

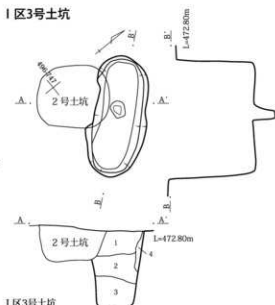
H区36号土坑



H区36号土坑

- 1 黒褐色土 均質。
- 2 オリーブ褐色土 黒褐色土の大ブロックを40%含む。
- 3 黄褐色土 As-BPを5%含む。

I区3号土坑



I区3号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。
- 3 にぶい黄褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 4 にぶい黄褐色土 ローム粒、ロームブロック、As-BPを含む。

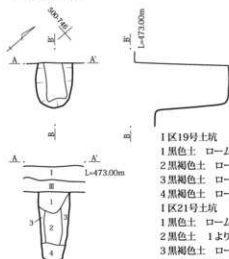
I区18号土坑



I区18号土坑

- 1 黒色土 ローム粒を少量含む。
- 2 黒色土 1よりもローム粒を多く含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。
- 4 にぶい黄褐色土のローム粒、ロームブロックを含む。

I区19号土坑



I区19号土坑

- 1 黒色土 ローム粒を少量含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒を少量含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒を多く含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒を少量含む。

I区21号土坑

- 1 黒色土 ローム粒を少量含む。
- 2 黒色土 1よりもローム粒を多く含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒を多く含む。
- 4 にぶい黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。

I区21号土坑



50図 H区36号・I区3号・18号・19号・21号土坑遺構図

IV 検出した遺構と出土した遺物

I 区22号土坑



I 区22号土坑

- 1 黒褐色土 Vと同様、炭化物粒をわずかに含む。
- 2 褐色土 φ 5 cm前後の黒褐色土ブロックを40%含む。
- 3 VII-1とAs-BP主体、VIIの崩落土。

I 区22号土坑逆没木敷覆土

にふい黄褐色土 ローム粒を多くとAs-BPを含む。

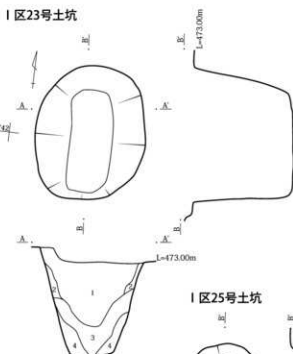
I 区23号土坑

- 1 黒褐色土 Vと同様、炭化物粒をわずかに含む。
- 2 黒褐色土 細粒の白色軽石、炭化物粒を1%含む。
- 3 褐色土 細粒の白色軽石を1%含む。
- 4 褐色土 φ 5 cm前後の黒褐色土ブロックを40%含む。

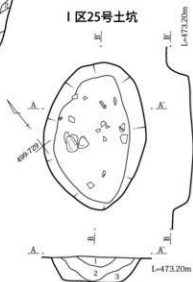
I 区25号土坑

- 1 灰褐色土 炭人物はみられない。
- 2 褐色土 細粒白色軽石1%含む。
- 3 黒褐色土 φ 5 cm前後のロームブロックを10%含む。

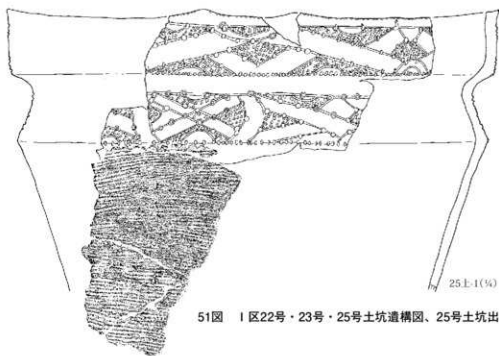
I 区23号土坑



I 区25号土坑

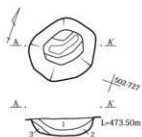


0 1:50 2m



51図 I 区22号・23号・25号土坑遺構図、25号土坑出土遺物図

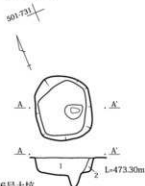
I 区24号土坑



I 区24号土坑

- 1 暗褐色土 炭化物粒を1%含む。
- 2 褐色土 炭化物粒を1%含む。
- 3 褐色土 φ5cm前後のロームブロックを5%含む。

I 区26号土坑



I 区26号土坑

- 1 黒褐色土 Vに類似。
- 2 暗褐色土 黄色粒を10%含む。

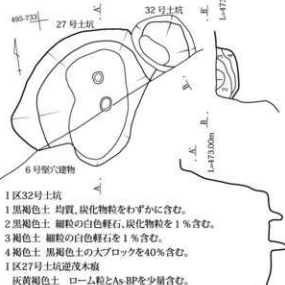
I 区28号土坑



I 区28号土坑

- 1 黒褐色土 均質、炭化物粒をわずかに含む。
- 2 黒褐色土 炭化物粒を1%含む。

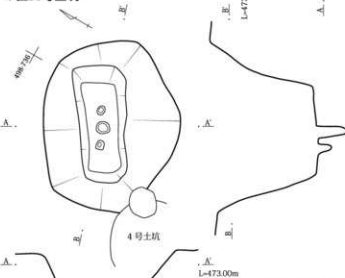
I 区27・32号土坑



I 区32号土坑

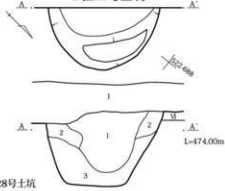
- 1 黒褐色土 均質、炭化物粒をわずかに含む。
 - 2 黒褐色土 細粒の白色軽石、炭化物粒を1%含む。
 - 3 褐色土 細粒の白色軽石を1%含む。
 - 4 褐色土 黒褐色土の大ブロックを40%含む。
- I 区27号土坑逆茂木痕
灰黄褐色土 ローム粒とAs-BPを少量含む。

I 区30号土坑



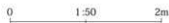
4号土坑

J 区28号土坑



J 区28号土坑

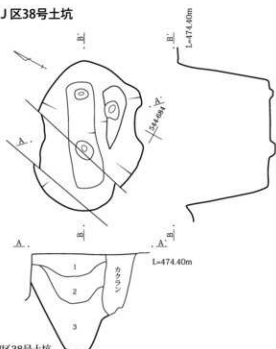
- 1 黒褐色土(10YR2/2)黒色土(V)主体。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)やや粘性有り。
- 3 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒を含む。



52図 I 区24号・26号～28号・30号・32号・J 区28号土坑遺構図、I 区27号土坑遺構図

IV 検出した遺構と出土した遺物

J区38号土坑



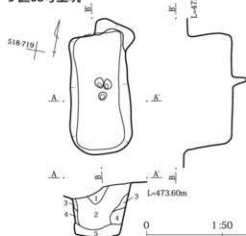
J区38号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)V・黒色土主体、固化物がわずかに有る。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒とわずかなAs-BPを含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒とAs-BPを多く含む。

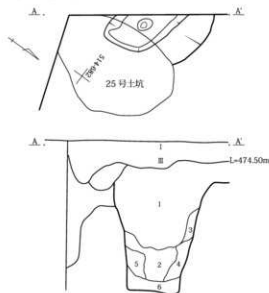
J区54号土坑



J区68号土坑



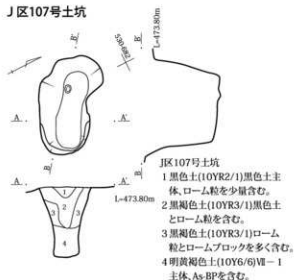
J区44号土坑



J区44号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)Vと同様、ローム粒を0.5%含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)V主体、φ1cmのロームブロックを30%含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2)V主体、φ1~2cmのロームブロックを10%含む。
- 4 明黄褐色土(2.5YR6/6)ロームの崩壊土、Vが30%ほど混入。
- 5 Vと雫をブロック状に混合土(5)。
- 6 明黄褐色土(2.5YR6/6)ロームの流入土、Vを10%含む。

J区107号土坑



J区107号土坑

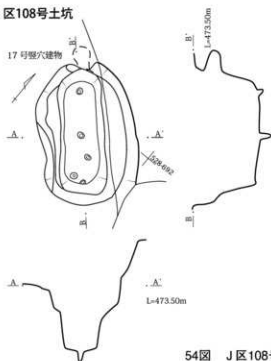
- 1 黒色土(10YR2/1)黒色土主体、ローム粒を少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)黒色土とローム粒を含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒とロームブロックを多く含む。
- 4 明黄褐色土(10Y6/6)VII-1主体、As-BPを含む。

J区68号土坑

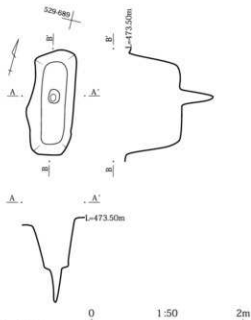
- 1 黒褐色土(10YR2/2)Ⅲに類似、φ1cmのHr-FPを3~5%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)V主体、ローム粒を3%含む。
- 3 にふい黄褐色土(10YR4/3)Vと雫の混合土、φ1~2cmのロームブロック10%含む。
- 4 にふい黄褐色土(10YR4/3)3と同様、ロームブロック20%含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/1)2と同様、ロームブロック10%含む。

53図 J区38号・44号・54号・68号・107号土坑遺構図

J区108号土坑

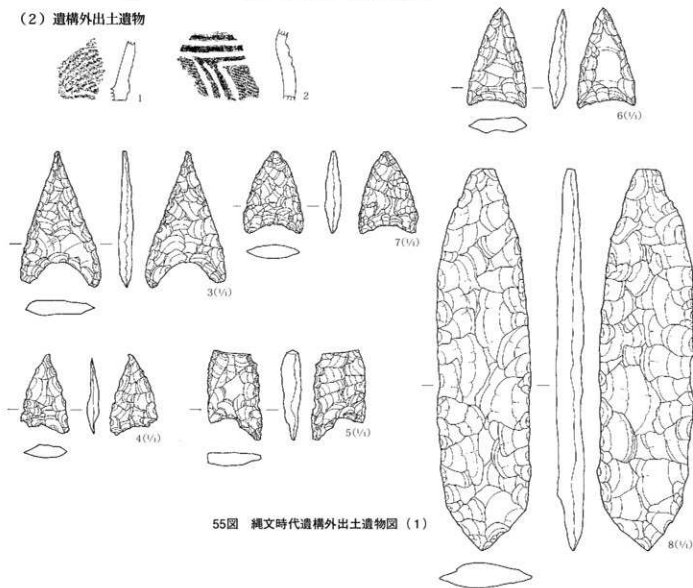


J区109号土坑



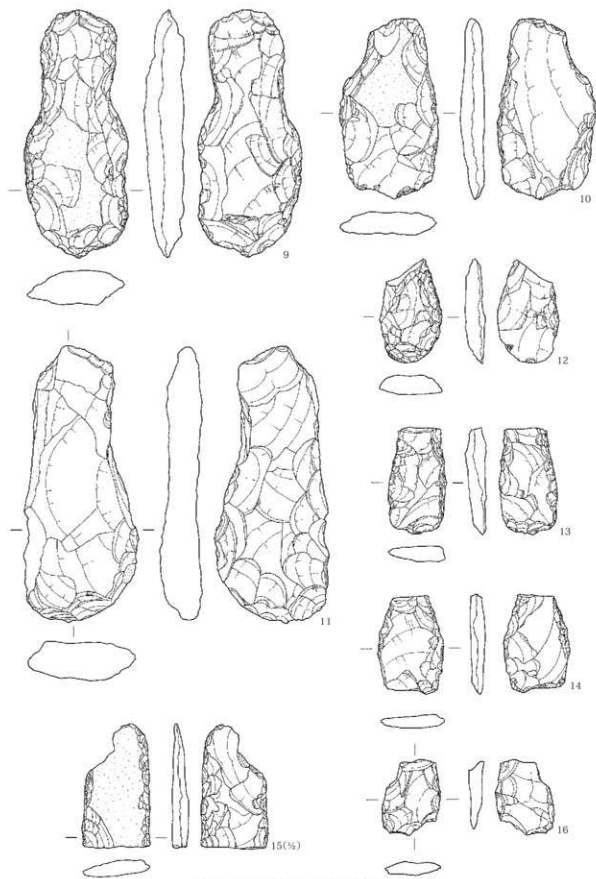
54图 J区108号・109号土坑遺構図

(2) 遺構外出土遺物

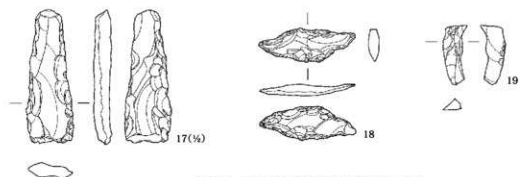


55图 縄文時代遺構外出土遺物図(1)

IV 検出した遺構と出土した遺物



56図 縄文時代遺構外出土遺物図(2)



第57図 縄文時代遺構外出土遺物図(3)

縄文時代遺構外出土遺物

PL.133・134

NO.	種類	器種	出土位置/残存率	胎土	成形・整形の特徴				
1	縄文土器	深鉢	D区	粗砂粒	単節LR縄紋を横位施紋。黒浜式				
2	縄文土器	深鉢	F区	粗砂粒	屈曲する器形。太沈線を横位、弧状に施し、単節LR縄紋を充填施紋。胎之内1式。				
NO.	種類	器種	出土位置	残存率	計測値				摘要
3	石器	鎌	H区	完形	長 3.6	幅 2.1	厚 0.3	重 1.9	黒色安山岩
4	石器	鎌	E区	基部欠損	長 2.0	幅 1.2	厚 0.3	重 0.7	黒曜石
5	石器	鎌	E区	先端部欠損	長 2.3	幅 1.4	厚 0.3	重 1.6	黒曜石
6	石器	鎌	E区	完形	長 2.6	幅 1.6	厚 0.5	重 2.3	チャート
7	石器	鎌	E区	完形	長 2.2	幅 1.6	厚 0.35	重 1.4	黒曜石
8	石器	石槍	D区	先端部欠損	長 10.1	幅 2.5	厚 0.7	重 22.0	黒色安山岩
9	石器	打製石斧	H区	完形	長 19.6	幅 8.2	厚 2.7	重 550	細粒輝石安山岩
10	石器	打製石斧	F区	完形	長 14.4	幅 7.8	厚 1.9	重 240	細粒輝石安山岩
11	石器	打製石斧	J区	完形	長 21.9	幅 8.6	厚 2.1	重 900	変玄武岩
12	石器	打製石斧	E区	基部欠損	長 8.2	幅 4.8	厚 1.3	重 67.0	黒色安山岩
13	石器	打製石斧	G区	基部欠損	長 8.4	幅 4.5	厚 1.6	重 71.7	細粒輝石安山岩
14	石器	打製石斧	J区	基部欠損	長 7.8	幅 5.5	厚 1.0	重 53.2	細粒輝石安山岩
15	石器	削器	D区	刃部欠損	長 6.5	幅 3.5	厚 0.8	重 22.1	粗粒輝石安山岩
16	石器	打製石斧	F区	基部欠損	長 5.7	幅 4.5	厚 0.9	重 40.1	黒色頁岩
17	石器	石槍	I区	基部欠損	長 7.0	幅 2.4	厚 0.8	重 18.2	黒色頁岩
18	石器	削器	E区	完形	長 7.6	幅 2.6	厚 0.9	重 16.4	黒色頁岩
19	石器	剥片	E区	完形	長 4.7	幅 1.6	厚 1.0	重 6.5	珪質頁岩

弥生時代遺構外出土遺物 神岡は80頁

PL.135

NO.	種類	器種	出土位置	残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	弥生土器	短頸壺	H区11号土坑	口縁～胴部上位片	□ 12.8	細砂粒/良好/に ふい粉	外面胴部、内面口縁部赤色塗彩。頸部座状文、胴部上位波状文。内面胴部ヘラナデ。	
2	弥生土器	甗	I区	口縁部～頸部片	□ 14.0	細砂粒/良好/に ふい粉	口縁部から頸部は波状文、部分的に縦方向のナデで磨り消されている。内面ヘラ磨き。	
3	弥生土器	甗	I区	頸部～胴部上半片		細砂粒/良好/に ふい粉	頸部は雑な波状文、胴部はヘラ磨き。内面はハケ目後ヘラ磨き。	
4	弥生土器	甗	J区10号土坑	底部片		細砂粒/良好/明 灰黄		二軒屋式
5	弥生土器	高杯	J区7号型穴建物	口縁部片	□ 13.0	細砂粒/良好/に ふい粉	内外面ともヘラ磨き。	

3. 弥生時代

(1) 竪穴建物

J区1号竪穴建物

本竪穴建物は南東角部が発掘調査対象外の現県道下に存在するが、竪穴建物の大部分については発掘調査を実施することができた。

位置はJ区東端、発掘調査対象範囲の東端の現県道際、 $X = 75.524 - 75.531 - Y = -66.678 - -66.684$ である。残存状態は北東角から北辺の一部と南東部の一部を中世以降、平安時代の土坑に欠く。また、J区調査区ではV層の堆積がほとんどみられないことやI層やIII層の堆積も薄いことから確認面から床面までが浅いため竪穴建物自体の残存状態はあまり良好とは言えない状態であった。他遺構との重複関係は前記のようにJ区10号土坑、11号土坑、15号土坑との重複が確認された。新旧関係は土坑埋没土がIII層を主体としていることなどから本竪穴建物のほうが古い。平面形態は西辺に比較して東辺がやや長いがほぼ長方形を呈する。規模は南北6.20m、東西4.32m、各辺長は北辺3.90m、東辺が推定6.20m、南辺が推定4.00m、西辺5.80m、壁高は確認面から床面まで10~40cm、床面積は推定25.1㎡を測る。主軸方位はN-27°-Wを指す。

内部施設は主柱穴4本、梯子柱穴2本、貯蔵穴を検出したが、周溝は確認されなかった。主柱穴は炬の両側、北辺から1.8m、東西辺から各1.4mほど内側と南辺から1.5m、1.8m、東西辺から各1.4mに位置し、柱穴芯々間距離はP1-P2が2.45m、P2-P3が1.20m、P3-P4が2.52m、P4-P1が1.30m、各柱穴の規模はP1が径68×49cm、深度65cm、P2が径50×38cm、深度52cm、P3が径55×32cm、深度55cm、P4が径33×30cm、深度65cmを測る。また、P1では柱根が断面観察で確認でき、径13~20cmの柱が建てられていたことが推定される。梯子穴は南辺から約60cmほど内側に位置し、両柱穴とも梯子を抜き取ったため大きく崩れた状態であったが、P6では底面が壁よりから内側にかけて傾斜していることから梯子柱穴と判断した。梯子

柱穴芯々間距離は1.05mを測る。規模はP5が径55×45cm、深度19cm、P6が径45×36cm、深度19cmである。貯蔵穴は南辺際、西辺より0.9mに位置し、平面形態は楕円形を呈し、規模は径45×38cm、深度27cmである。内部からは土器片が出土している。周溝は検出されなかったが、掘方調査のさいに南辺の中央部では確認されなかったが、他の各辺壁際から径7~10cm、深度5~15cmの小穴が10~40cm間隔で配置されており壁崩落を防止するための板材を支えるための杭などを打ち付けた痕跡と推定される。床面は使用のためか黒色土化していたが、VII-1層を直接踏み固めて硬化面としていた。

炬は北辺から1.3mほど内側、柱穴P1、P4の間に位置する。平面形態は楕円形を呈し、規模は径85×65cmを測り、中央部は周囲より2cmほど窪んだ状態であった。炬の南寄りには径7cm、長さ20cmの細長い垂角礫が据えられ、炬下面は2~3cmほど焼土化していた。

掘方は存在していないが、P1とP2の間で径0.78×0.53m、深度10cmの落ち込み、梯子柱穴と南辺壁との間に径4.0cmほどの小土坑が検出された。

埋没状態は土層断面でレンズ状の堆積が観察されることから自然埋没である。

遺物の出土は弥生土器類、壺、高杯、鉢などと炬北側で炭化材がみられる。出土状況は散在した状態であるが、確認面から床面まで浅いこともありほとんど床面から10cmほどの範囲であった。

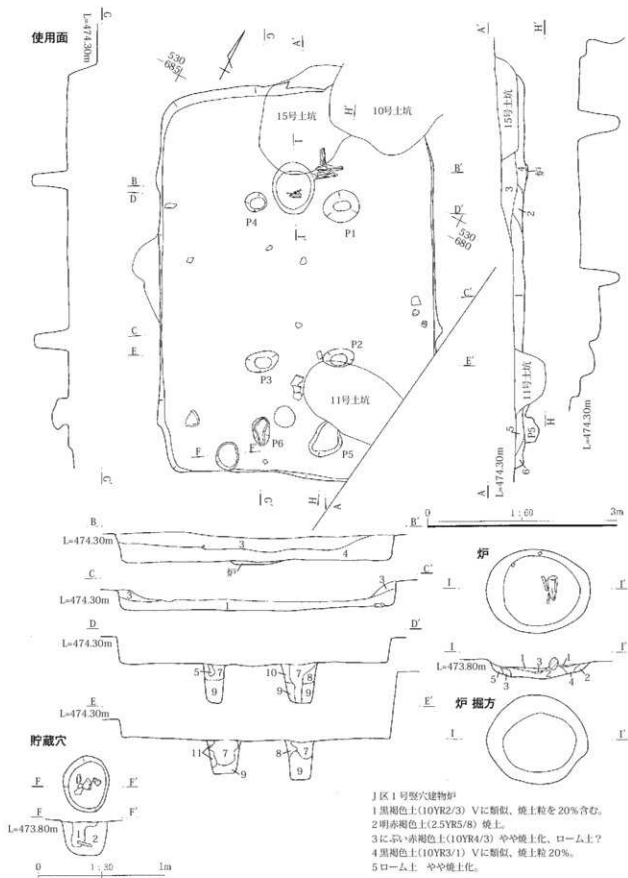
本竪穴建物の時期は出土遺物から弥生時代後期樽式期後半に比定できる。

J区1号竪穴建物

- 1 黒褐色土(10YR2/3) V主体、φ0.5~1cmのロームブロックを1%含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) V主体、ローム粒を1%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) V主体、φ1cmロームブロックを1%含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/1) 3と同様、φ1~3cmのロームブロックを5%含む。
- 5 暗褐色土(10YR3/3) V・VIの混合土(7:3)、φ1~5cmのロームブロックを20%含む。
- 6 黒褐色土(10YR2/3) V・VIの混合土(7:3)、ローム粒を5%含む。
- 7 黒褐色土(10YR2/2) Vに類似、ローム粒を3%含む。
- 8 明黄褐色土(10Y6/8) V、VI、As-BPの混合土。
- 9 明黄褐色土(2.5Y6/8) VII-1主体、Vの小ブロックを3%含む。
- 10 黒褐色土(10YR3/1) Vに類似、固くしまっている。
- 11 明黄褐色土(2.5Y6/6) VIIの崩落土。

貯蔵穴

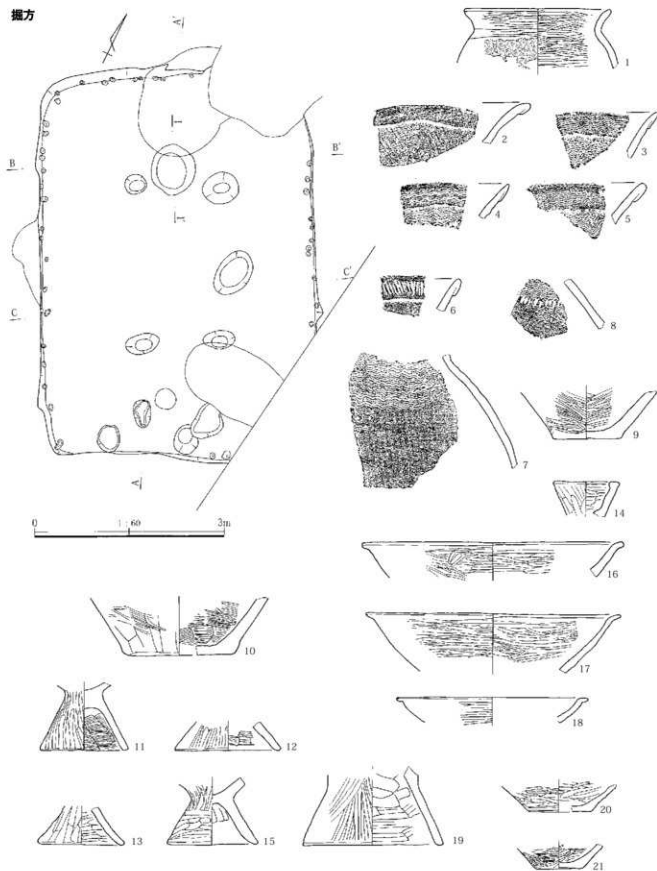
- 1 黒褐色土(10YR2/2) V主体、ローム粒を1%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) Vと同様、ローム粒を3%含む。



58図 J区1号竖穴建物遺構図(1)

IV 検出した遺構と出土した遺物

掘方



59図 J区1号竪穴建物遺構図(2)・出土遺物図

J区1号竪穴建物

NO.	種類 類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	弥生土器 甕	埋没上中 口縁～胴部上半片	口 11.4	細砂粒/良好/黒褐色	内外面へラ磨き。	外面胴部に煤付着。
2	弥生土器 甕	床面 口縁部片		細砂粒/良好/橙	口縁部は折り返し、横ナデ、口縁部は外面はハケ目、内面はへラ磨き。	
3	弥生土器 甕	埋没上中 口縁部片		細砂粒/良好/明黄褐色	口縁部は折り返し、口縁部から口縁部は外面は波状文、内面はへラ磨き。	
4	弥生土器 甕	埋没上中 口縁部片		細砂粒/良好/明黄褐色	口縁部は折り返し、口縁部から口縁部は外面は波状文、内面はへラ磨き。	
5	弥生土器 甕	埋没上中 口縁部片		細砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部は折り返し、口縁部から口縁部は外面は波状文、内面はへラ磨き。	
6	弥生土器 甕	埋没上中 口縁部片		細砂粒/良好/橙	内外面赤色塗彩。口縁部は折り返し、刺突文、口縁部はハケ目、内面はへラ磨き。	
7	弥生土器 甕	床面 胴部片		細砂粒/良好/に ぶい黄褐色	頸部から胴部上位は3段のハケ目。ハケ目の下位はへラ磨き、内面はへラ磨き。	
8	弥生土器 甕	埋没上中 胴部片		細砂粒/良好/橙	胴部上位はハケ目。ハケ目の下位は刺突文、その下位はへラ磨き、内面はへラ磨き。	
9	弥生土器 甕	埋没上中 底部～胴部下位片	底 5.2	細砂粒/良好/に ぶい黄褐色	胴部はへラ磨き、底部はへラ削り。内面胴部はへラ磨き、底部はナデ。	
10	弥生土器 甕	埋没上中 底部～胴部下位片	底 9.0	粗砂粒/良好/に ぶい黄褐色	胴部は縦方向へラ削り後やや雑なへラ磨き。内面はハケ目。	
11	弥生土器 台付甕	+10 脚部片	脚 6.8	細砂粒/良好/浅黄	外面はへラ磨き、内面は脚部がハケ目、胴部がへラ磨き。	
12	弥生土器 台付甕	埋没上中 脚部片	脚 8.2	細砂粒/良好/明褐色	外面はへラ磨き、内面は脚部がハケ目。	
13	弥生土器 台付甕	埋没上中 脚部片	脚 6.6	細砂粒/良好/灰黄褐色	内外面ともへラ磨き。	
14	弥生土器 蓋	埋没上中 積み片	横 5.0	細砂粒/良好/橙	内外面ともへラ磨き。	
15	弥生土器 台付甕	埋没上中 脚部片	脚 6.8	粗砂粒/良好/に ぶい黄褐色	外面はへラ磨き、内面はナデ。	
16	弥生土器 高杯	埋没上中 口縁部片	口 20.2	細砂粒/良好/に ぶい黄褐色	内外面ともへラ磨き。	
17	弥生土器 高杯	埋没上中 口縁部片	口 20.0	細砂粒/良好/黄褐色	内外面ともへラ磨き。	
18	弥生土器 高杯	埋没上中 口縁部片	口 15.0	細砂粒/良好/橙	外面はへラ磨き、内面はナデ。	
19	弥生土器 台付甕	埋没上中 脚部片	脚 10.8	細砂粒/良好/浅黄褐色	外面はへラ磨き、内面は上半がナデ、下半がハケ目。	
20	弥生土器 鉢	埋没上中 底部片	底 5.0	細砂粒/良好/灰黄褐色	内外面ともへラ磨き。	
21	弥生土器 鉢	床面 底部	底 3.8	細砂粒/良好/に ぶい黄褐色	内外面ともへラ磨き。	

J区3号竪穴建物

本竪穴建物は大部分が調査対象範囲外に存在するため全貌や詳細については不明、不明確である。調査範囲内では焼土、炭化物、灰などが全域で確認されることから焼失家屋の可能性がある。

位置はJ区東端、発掘調査対象範囲の東端の現果道際、X=75.543~75.545-Y=-66.682である。残存状態はJ区1号竪穴建物上に本竪穴建物が所在する地点では表土が僅かに堆積するだけで皿脷、V脷の堆積がみられないことから確認面から床面までが残ったため竪穴建

物自体の残存状態は良好とは言えない状態であった。他遺構との重複関係は確認されなかった。平面形態は長方形を呈すると想定される。規模は南北方向2.43m、西辺2.40、壁高が確認面から床面まで19~26cmを測る。主軸方位はN-90°-Eを指すと推定される。

内部施設は竪穴建物全域調査できないため周溝だけが検出された。周溝は調査範囲内ではほぼ全周し、規模は幅15~18cm、深度2~7cmである。床面はVII-1ブロックに若干の黒色土を混ぜた土を埋め戻して踏み固め硬化面としていた。

IV 検出した遺構と出土した遺物

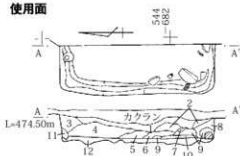
掘方は床面より10cm前後掘り窺われており、底面は掘削時の凹凸がそのまま残った状態であった。

埋没状態は確認面から床面まで浅いこともあり土層断面での観察では明確にすることはできなかった。

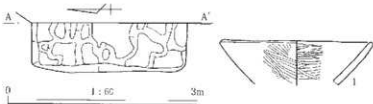
遺物の出土は掲載可能な土器が弥生土器鉢だけであったが、その他に甕や甬の胴部破片がみられる。出土状態は東南角からまとまった状態であったが、炭化材や焼土より下位の床面に近い地点からであった。

本竪穴建物の時期は出土遺物が少ないため不確定な点もあるが、J区1号竪穴建物と同様に弥生時代後期構式期後半に比定できる。

使用面



掘方



60図 J区3号竪穴建物遺構図・出土遺物図

J区3号竪穴建物

NO.	器種	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土器	器鉢	床面 臼縁破片	口 11.8	層砂粒/良好 /にぶい橙	内外面赤色塗彩。内外面ともヘラ磨き。	

J区5号竪穴建物

本竪穴建物は南東角部が調査対象範囲外に存在するが、竪穴建物の大部分については発掘調査を実施することができた。

位置はJ区東端、発掘調査対象範囲の東端の現界道際、X=75,536~75,541-Y=-66,681~-66,686である。残存状態は床面の一部を水道管理設坑、北東角部を掘乱、南辺の一部を中世以降の土坑によって壊されている。また、J区3号竪穴建物と同様に本竪穴建物が所在する地点では表土が僅かに堆積するだけでⅢ層、Ⅴ層の堆積がみられないことから確認面から床面までが浅いため竪穴建物自体の残存状態は良好とは言えない状態であった。他遺構との重複関係は前記のようにJ区3号土坑との重複が確認された。新旧関係は土坑埋没土がⅢ層を主体としていることなどから本竪穴建物のほうが古い。平面形態は北辺に比較して南辺、西辺に比較して東

J区3号竪穴建物

- 黒褐色土(10YR1/3) Vに類似、φ0.5cm前後のロームブロック5%と焼土小ブロックを1%含む。
- 黒色土(10YR1/2) Vに類似、φ0.5cm前後のロームブロック1%含む。
- 黒褐色土(10YR2/3) Iに類似、1より濃い色調、φ0.5~1cmのロームブロック5%と焼土ブロックを1%含む。
- にぶい黄褐色土(10YR4/3) V・VI・VIIの混合土。φ0.5~3cmのロームブロックを30%含む。
- にぶい黄褐色土(10YR4/3) 4に類似、ローム粒を1%含む。
- 明黄褐色土(10YR6/6) ローム主体、Vを30%含む。
- 黒色土(10YR2/1) 2に類似、ローム粒を10%と焼土粒を5%含む。
- 黒褐色土(10YR2/3) Vに類似、φ0.5~1cmのロームブロックを20%と焼土粒を5%含む。
- ロームの焼土化したもの。
- 黒褐色土(10YR2/2) Vに類似、ローム粒φ0.5cm前後のロームブロックを20%含む。
- 黒褐色土(10YR2/3) Vに類似、ローム粒φ0.5cm前後のロームブロックを5%含む。
- ⅤⅠ-Ⅰブロック(胎床土) 主体、Vをしみ状に20%含む。上部床面、床面上面に炭化物が、0.5cmほどうすく堆積。

辺がやや長いがほぼ長方形を呈する。規模は南北4.96m、東西3.50m、各辺長は北辺が推定3.22m、東辺が推定4.80m、南辺が推定3.42m、西辺4.95m、壁高は確認面から床面まで10~28cm、床面積は推定15.8㎡を測る。主軸方位はN-38°-Wを指す。

内部施設は主柱穴4本、梯子柱穴2本検出したが、貯蔵穴、周溝は確認されなかった。主柱穴はⅡの両側、北辺から1.6m、東西辺から各1.0mほど内側と南辺から各10m、東西辺から各10mに位置し、柱穴芯々間距離はP1-P2が2.20m、P2-P3が0.96m、P3-P4が2.20m、P4-P1が1.14m、各柱穴の規模はP1が径35×34cm、深度61cm、P2が径40×37cm、深度53cm、P3が径35+α×42cm、深度47cm、P4は上部を水道管理設坑によって壊されているため確認できた規模は小さく径25×17cm、深度48cmを測る。梯子穴は南辺から約20~30cmほど内側に位置し、両柱穴とも梯子を

抜き取ったためかやや崩れた状態であったが、P 6では底面が壁よりから内側にかけて傾斜していることから梯子柱穴と判断した。梯子柱穴芯々間距離は0.85mを測る。規模はP 5が径35+a×30cm、深度28cm、P 6が径40×27cm、深度26cmである。周溝は検出されなかったが、J区1号竪穴建物と同様に掘方調査のさいに各辺壁際から径7~10cm、深度5~15cmの小穴が10~70cm間隔と密・粗の状態での配置ではあるか検出され、壁崩落を防止するための板材を支えるための杭などを打ち付けた痕跡と推定される。床面は使用されている間に黒色土化していたが、Ⅶ-1層を直接踏み固めて硬化面としていた。

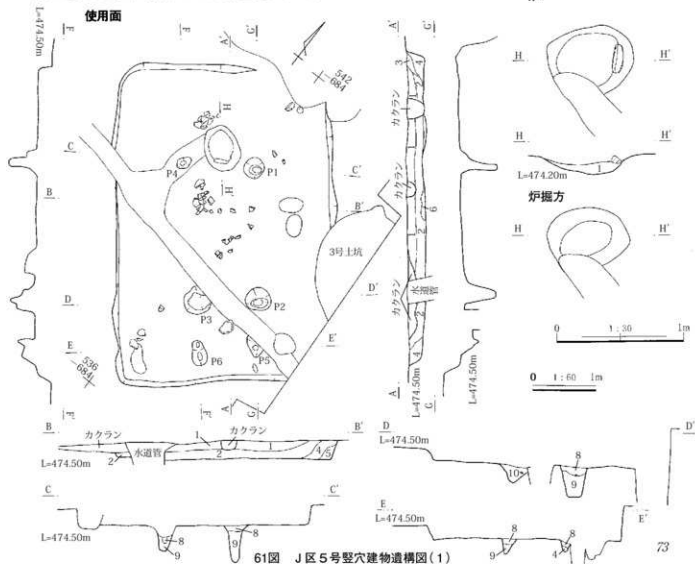
炉は北辺から0.84mほど内側、柱穴P 1、P 4の間に位置する。平面形態は楕円形を呈し、規模は径73×57cmを測り、中央部は周囲より7~8cmほど窪んだ状態であった。炉の南よりには径8cm、長さ23cmの細長い垂角礫が据えられ、炉下面は7cmほど焼土化していた。

掘方は存在しないが、P 1・P 2間、P 3・P 4間に径30cm、深度15cmほどの小規模な土坑が検出されたが床下土坑などの施設は確認できなかった。

埋没状態は土層断面でレンズ状の堆積が観察されることから自然埋没である。

遺物の出土は弥生土器甕、壺、高杯、鉢などとガラス玉がみられる。出土状況は散在した状態であるが、炉の南北から3の甕が出土している。また、確認面から床面まで浅いこともありほとんど床面から10cmほどの範囲であった。なお、ガラス玉は最初2・3点が出土したことから周辺の埋没土をさらに篩によって精査したところ総数13点が見つかった。

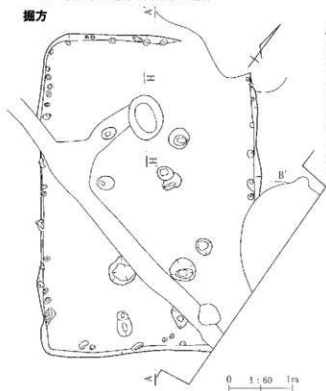
本竪穴建物の時期は出土遺物から弥生時代後期博式期後半に比定できる。



61図 J区5号竪穴建物遺構図(1)

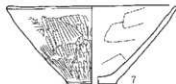
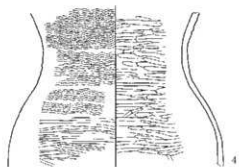
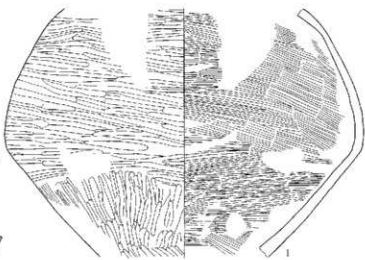
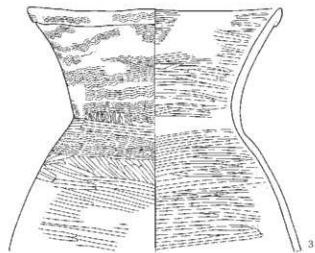
IV 検出した遺構と出土した遺物

掘方

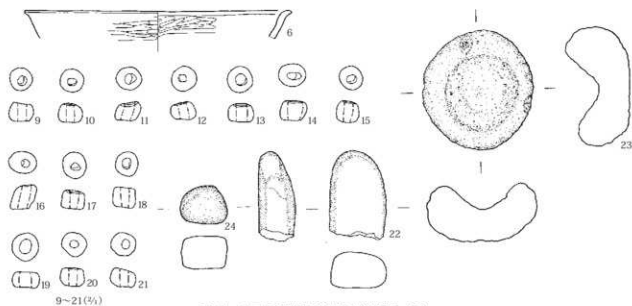


J区5号竪穴建物

- 1 黒褐色土(10YR2/2) Vと同様、ローム粒を1%含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/3) V主体、 $\phi 0.5\text{cm}$ のロームブロック・ローム粒を5%含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/3) 1と同様、1よりやや淡い色調。
- 4 黒褐色土(10YR2/3) 2と同様、2よりローム粒がやや多い。
- 5 黒褐色土(10YR2/3) 2と同様、 $\phi 1\sim 5\text{cm}$ のロームブロックを20%含む。
- 6 黒褐色土(10YR2/2) V主体、 $\phi 0.5\text{cm}$ のロームブロックを10%含む。
- 7 にぶい黄褐色土(10YR4/3) VとVIの混合土、ローム粒5%と焼土粒3%含む。
- 8 黒褐色土(10YR2/2) Vに類似、 $\phi 0.5\text{cm}$ のロームブロックを10%含む。
- 9 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ロームブロック主体、Vブロックが20~30%混入。
- 10 黒褐色土(10YR2/3) Vブロックとロームブロックの混合土(6:4)。



62図 J区5号竪穴建物遺構図(2)・出土遺物図(1)



63図 J区5号竪穴建物出土遺物図(2)

J区5号竪穴建物

PL.134、9~21 口絵2

NO.	種類	器種	出土位置 残存率	計測値	胎上/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	弥生土器	壺	+14 胴部片	胴 28.0	細砂粒/良好/ ぶい・黄褐色	胴部上半は横方向、下半は縦方向へラ磨き。内面はハケ目。	
2	弥生土器	甕	床面 口縁~胴部中位	口 17.6 胴 24.6	細砂粒/良好/ ぶい・黄褐色	口唇部は折り返し、口縁部は6段の波状文、2連止廉状文。胴部は2段の波状文。	
3	弥生土器	甕	床面 口縁~胴部上半	口 20.0	細砂粒/良好/ ぶい・黄褐色	口唇部は折り返し、口縁部は8~9段の波状文、1連止廉状文、胴部は2段の波状文。	
4	弥生土器	甕	+8 口縁~胴部上半		細砂粒/良好/ ぶい・黄褐色	口縁部から胴部上位は9段以上の波状文、胴部中位はへラ磨き。内面はへラ磨き。	
5	弥生土器	甕	床面 底部~胴部下位片	底 8.0	細砂粒/良好/ 灰黄	胴部はへラ磨き、底部はへラ削り。内面はへラナデ。	
6	弥生土器	高杯	埋没上中 口縁部片	口 21.0	細砂粒/良好/ ぶい・黄褐色	内外面ともへラ磨き。	
7	弥生土器	鉢	埋没上中 1/8	口 13.2 底 6.2 高 3.8	細砂粒/良好/ ぶい・黄褐色	外面は口縁部・体部・底部ともへラ磨き、内面はへラ磨きか。	
8	手捏ね土器	椀形	埋没上中 1/4	口 5.8 高 2.8	細砂粒/良好/ 灰黄褐色	内外面ともナデ。	
NO.	種類	器種	出土位置	残存率	計測値	摘要	
9	ガラス製品	玉	床面	完形	長0.23 径0.31 孔径0.10 重0.04		
10	ガラス製品	玉	床面	完形	長0.26 径0.32 孔径0.10 重0.04		
11	ガラス製品	玉	床面	完形	長0.22 径0.31 孔径0.14 重0.04		
12	ガラス製品	玉	床面	完形	長0.24 径0.35 孔径0.09 重0.04		
13	ガラス製品	玉	床面	完形	長0.22 径0.36 孔径0.14 重0.04		
14	ガラス製品	玉	床面	完形	長0.27 径0.33 孔径0.14 重0.04		
15	ガラス製品	玉	床面	完形	長0.25 径0.33 孔径0.09 重0.04		
16	ガラス製品	玉	床面	完形	長0.31 径0.30 孔径0.10 重0.05		
17	ガラス製品	玉	床面	完形	長0.25 径0.34 孔径0.10 重0.04		
18	ガラス製品	玉	床面	完形	長0.26 径0.32 孔径0.13 重0.04		
19	ガラス製品	玉	床面	完形	長0.20 径0.36 孔径0.18 重0.04		
20	ガラス製品	玉	床面	完形	長0.24 径0.34 孔径0.10 重0.04		
21	ガラス製品	玉	床面	完形	長0.25 径0.32 孔径0.10 重0.04		
22	石製品	磨り石	+9	下半欠損	長(6.8) 幅 4.5 厚 2.9 重(87.8)	流紋岩凝灰岩	
23	石製品	門石	埋没上中	完形	長9.5 幅8.8 厚4.8 門径6.5 深2.5 重429.3	粗粒輝石安山岩	
24	石製品	用途不明	埋没上中	完形	長 3.0 幅 3.7 厚 2.6 重 46.7	黒色頁岩	

J区9号竪穴建物

本竪穴建物の調査は北西角付近に限られた範囲だけで大部分は発掘調査範囲対象外に存在するため全貌や詳細については不明、不明確である。

位置は $X = 75.522 \sim 75.524 - Y = -66.693 \sim -66.700$ である。残存状態は確認面から床面まで約50cmほどの深さを有していることなどから比較的良好であった。他遺構との重複関係は北東辺で時期を確定できない土坑と重複する。この土坑は当初、奈良・平安時代の竪穴建物とみられる壁際の柱穴の可能性も想定されたが遺構確認時の状況や埋没土の状態から本竪穴建物より新しい時期に掘られた土坑であると判断した。平面形態は一角部分しか調査できないため明確ではないが角の状態から方形または長方形を呈すると想定できる。規模はほとんど計測できないが、壁高は35~45cmを測る。主軸方位は $N-45^{\circ}-W$ を指すと想定される。

内部施設は北東辺壁下で周溝が検出されただけであった。周溝は幅8~15cm、深度5~7cmである。床面はVII層を直接踏み固めて硬化面としていた。

埋没状態は土層断面ではレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没である。なお、埋没土1はIII層に近い土質であるが、下部にIV層であるHr-FPが多量に見られ、そこにIIIが混入した状態が観察されることから本来はIV

層がそのまま堆積していたが後の耕作等によって攪拌されたためこのような状態になったとみられる。

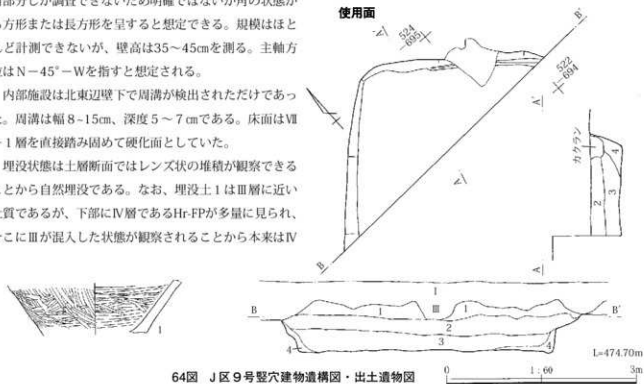
遺物の出土はほとんどなく掲載した弥生土器類の他に小片がわずかに出土しているだけである。

本竪穴建物の時期は出土遺物から弥生時代後期式期後半に比定できる。

J区9号竪穴建物

- 1 黒褐色土(10YR2/3) 層上位はIIIに近似するが、下部にはIV層であるHr-FPを主体とし、10~20%のIIIを含むブロックが観察できる。この状態から本来はIV層の堆積が存在していたが、耕作によって上位を中心に攪拌されたと見られる。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) Vと同様。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) Vに類似、 $\phi 0.5 \sim 2$ cmのロームブロックを2%含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/3) Vに類似、 $\phi 0.5 \sim 3$ cmのロームブロックを10%含む。

使用面



64図 J区9号竪穴建物遺構図・出土遺物図

J区9号竪穴建物

NO.	種器種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	弥生土器 甕	+10、40 胴部下位片		細砂粒/良好/ にぶい赤褐色	内外面ともヘラ磨き。	

J区17号竪穴建物

本竪穴建物の位置はJ区調査区の中央よりやや南東より、 $X=75.524\sim 75.529$ - $Y=-66.692\sim -66.697$ である。残存状態は北東角から東辺中程にかけてと南西部床面を重複する竪穴建物や土坑によって壊されているが確認前から床面までの深さもあることから比較的良好な状態であった。他遺構との重複関係はJ区6号竪穴建物、20号土坑、21号土坑、49号土坑、50号土坑、108号土坑との重複が確認された。新旧関係はJ区108号土坑より本竪穴建物のほうが新しいが、その他の竪穴建物、土坑よりは古い。平面形態は北東角と南西角が90°弱、北西角と南東角が90°強の長方形に近い矩形を呈す。規模は南北5.72m、東西3.95m、各辺長は北辺5.12m、東辺3.50m、南辺5.28m、西辺3.60m、壁高は確認面から床面まで32~59cm、床面積は推定17.1㎡を測る。主軸方位はN-52°-Wを指す。

内部施設は主柱穴4本、梯子柱穴2本、貯蔵穴を検出したが、周溝は確認されなかった。主柱穴(P1~P4)は竪の両側、西辺から1.7m・1.6m、南北辺から各1.3m、1.2mほど内側と東辺から1.2m、1.1m、南北辺から各1.1mに位置し、柱穴芯々間距離はP1-P2が2.80m、P2-P3が1.10m、P3-P4が2.20m、P4-P1が0.95m、各柱穴の規模はP1が径28×22cm、深度61cm、P2が径34×24cm、深度58cm、P3が径28×22cm、深度42cm、P4が径33×20cm、深度58cmを測る。梯子穴(P6・P7)は東南から約30cmほど内側に位置し、両柱穴とも梯子をさしこむために細長く掘られており、底面が壁よりから内側にかけてやや傾斜していることから梯子柱穴と判断した。梯子柱穴芯々間距離は1.00mを測る。規模はP6が径35×12cm、深度32cm、P7が径36×14cm、深度29cmである。貯蔵穴は東辺際、南辺より0.6mに位置し、平面形態は楕円形を呈し、規模は径60×47cm、深度32cmである。上面と内部からは土器片が出土している。周溝は検出されなかったが、掘方調査のさいにJ区1号・5号竪穴建物と同様に規模が径7~10cm、深度5~15cmの小穴が各辺の壁下から小穴が検出された。この小穴の間隔は各辺によって異なり、東南角の両側では壁下部に設けられていた。用途は他の

竪穴建物と同様に壁崩落を防止するための板材を支えるための杭などを打ち付けた痕跡と推定される。床面は使用のためか黒色土化していたが、VII-1層を直接踏み固めて硬化面としていた。

竪は西辺から1.0mほど内側、柱穴P1、P4の間よりやや外側に位置する。平面形態は楕円形を呈し、規模は径70×60cmを測り、中央部は周囲より6cmほど窪んだ状態であった。竪の南よりには巾16cm、長さ32cmの細長い亜角礫が据えられ、竪下面は5cmほど焼土化していた。

掘方は確認されなかった。

埋没状態は土層断面でレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没である。なお、埋没土1は近世以降の土坑、埋没土2も中世以降の掘り込みである。

出土遺物は 弥生土器類、壺、高杯、鉢などと土製品紡錘車、石製の未製品などがある。出土状態は全体的には散在した状態であるが、柱穴P2・P3と梯子穴の間にはややまとまった出土がみられた。

本竪穴建物の時期は出土遺物から弥生時代後期樽式期後半に比定できる。

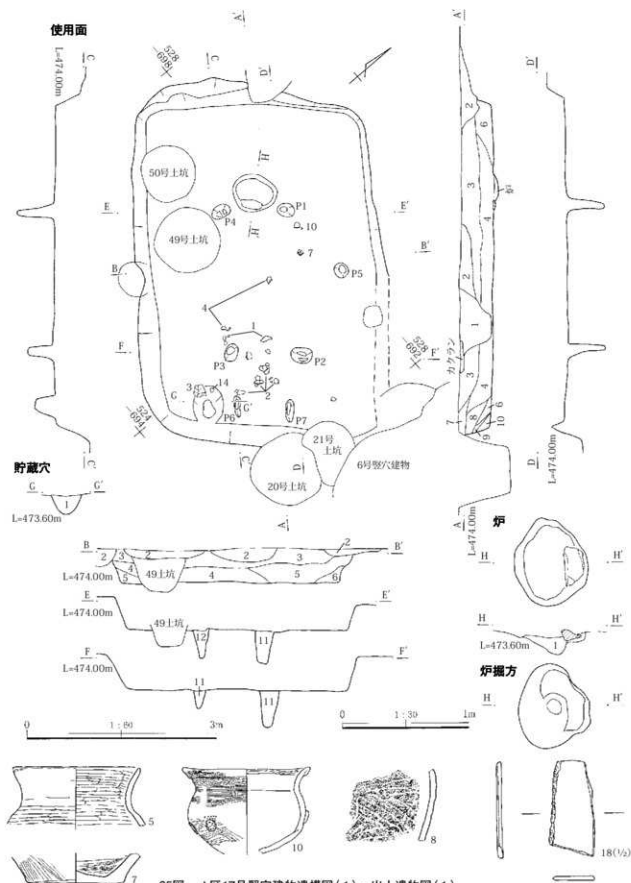
J区17号竪穴建物

- 1 黒褐色土(10YR2/2) I・IIIに類似、Hr-FFとロームブロック混在。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) I・IIIに類似、 $\phi 1\sim 2$ cmのHr-FFを3%~5%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) V主体、 $\phi 0.5\sim 3$ cmのロームブロックを2%~3%含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) V主体、 $\phi 1\sim 10$ cmのロームブロックを30%含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/2) V主体、 $\phi 1\sim 5$ cmのロームブロックを10%含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/2) V主体、 $\phi 1$ cm前後のロームブロックを3%含む。
- 7 黒褐色土(10YR3/2) V主体、 $\phi 0.5$ cm前後のロームブロックを0.5%含む。
- 8 黒褐色土(10YR3/2) V主体、 $\phi 0.5\sim 2$ cmのロームブロックを5%含む。
- 9 に近い黄褐色土(10YR4/3) Vとロームブロックの混合土。
- 10 黒褐色土(10YR3/2) V主体、 $\phi 0.5\sim 3$ cmのロームブロックを2%~3%含む。
- 11 黒色土(10YR2/1) 黒色土主体、ローム粒を含み、しまりやや有り。
- 12 黒色土(10YR2/1) 黒色土主体、ローム粒、ロームブロック、As-BPを含む。

貯蔵穴

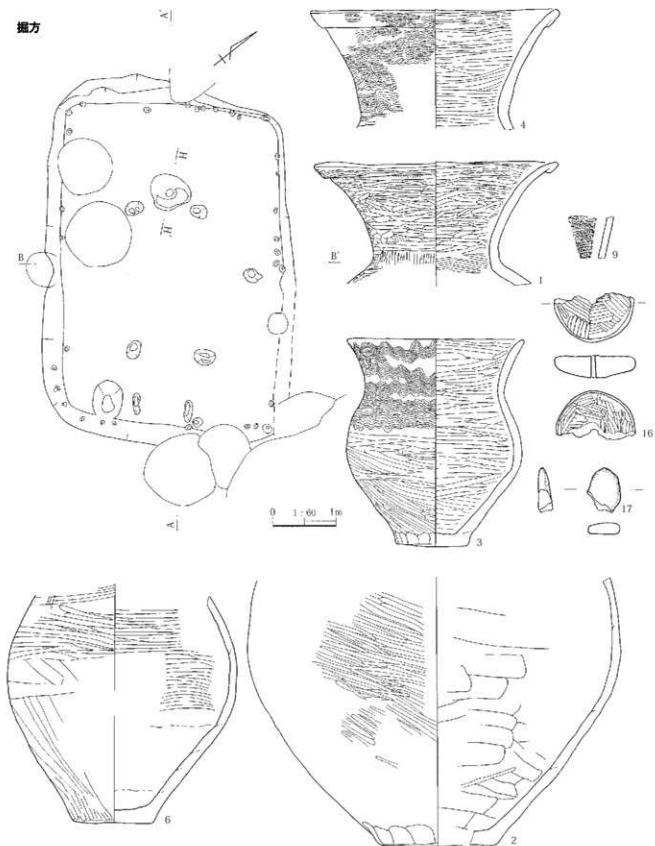
- 1 黒色土(10YR2/1) 黒色土とローム粒を含む。ロームブロックは少量。
- 1 明赤褐色土(2.5YR5/8) 焼土主体。

IV 検出した遺構と出土した遺物



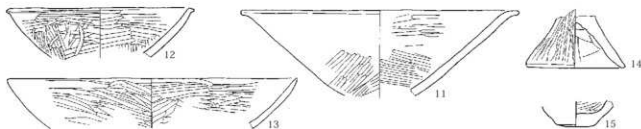
65図 J区17号竪穴建物遺構図(1)・出土遺物図(1)

掘方



66图 J区17号竖穴建物遺構図(2)・出土遺物図(2)

IV 検出した遺構と出土した遺物



67図 J区17号竪穴建物出土遺物図(3)

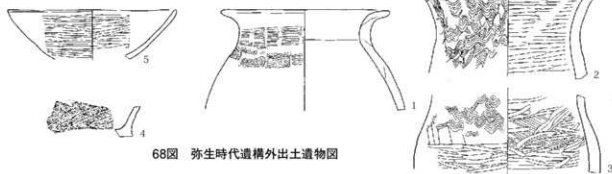
J区17号竪穴建物

PL.134・135

NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色	成形・整形の特徴	摘要
1	弥生土器 壺	+15, 19, 29 口縁部～頸部	口 19.0	細砂粒/良好/灰 ふい黄褐色	口縁部折り返し、口唇部下と頸部にハケ目が残る他はへら磨き。内面は口縁部へら磨き、頸部ハケ目。	
2	弥生土器 壺	+25, 34 底部～胴部上位	底 8.6 胴 29.2	細砂粒/良好/褐色	胴部はへら削り後へら磨き、底部はへら削り。内面はへらナデ。	
3	弥生土器 甕	貯蔵穴 ほぼ完形	口 13.8 底 5.8 高 16.5	細砂粒/良好/灰 ふい褐色	口縁部から胴部上位は5段の波状文、胴部中位から下位はへら磨き。底部はへら削り。内面はへら磨き。	
4	弥生土器 甕	床面 口縁部片	口 19.2	細砂粒/良好/灰 ふい黄褐色	口縁部は9段の波状文、頸部はへら削り。内面はへら磨き。	
5	弥生土器 甕	埋没土中 口縁部～胴部上位	口 10.0	細砂粒/良好/灰 黄褐色	口縁部は横ナデ、胴部はへら磨き。内面はへら磨き。	
6	弥生土器 甕	埋没土中 底部～胴部上位	底 6.4	細砂粒/良好/明 黄褐色	頸部は横状文、胴部上位はへら磨き、中位・下位はへら削り。内面胴部は土平がへら磨き。	
7	弥生土器 甕	床面 底部	底 7.6	細砂粒/良好/灰 黄褐色	内外面とも胴部・底部ともへら磨き。	
8	弥生土器 甕	埋没土中 胴部小片		細砂粒/良好/灰 黄褐色	斜め、斜格子状に条痕文沈線文	二軒屋式
9	弥生土器 甕	埋没土中 胴部小片		細砂粒/良好/灰 黄褐色	斜格子状に条痕文沈線文	二軒屋式
10	弥生土器 台付甕	+22 1/2	口 9.8 胴 9.4	細砂粒/良好/灰 ふい黄褐色	口唇部折り返し。口縁部～胴部上位は2段波状文、2進止め横状文、1段波状文、胴部中位に刺突文とボタン状円板を貼付。	
11	弥生土器 高杯	+6, 39 杯身部片	口 21.0	細砂粒/良好/浅 黄褐色	内外面ともへら磨き。	
12	弥生土器 高杯	埋没土中 口縁部片	口 14.8	細砂粒/良好/赤 褐色	内外面赤色塗彩。内外面ともへら磨き。	
13	弥生土器 高杯	埋没土中 口縁部片	口 22.8	細砂粒/良好/褐色	内外面ともへら磨き。	
14	弥生土器 台付甕	貯蔵穴 胴部	脚 7.4	細砂粒/良好/褐色	外面へら磨き、内面へらナデ。	
15	弥生土器 鉢	埋没土中 底部	底 3.0	細砂粒/良好/灰 ふい褐色	外面へら削り。内面へら磨き。	
16	土製品 紡錘車	埋没土中 1/2	径 6.2 厚 1.7 孔 0.6 重 34.7	細砂粒/良好/灰 ふい褐色	表面とも丁寧へら磨き。	
NO.	種類	器種	出土位置	残存率	計測値	摘要
17	石製品	磨り石	埋没土中	1/2	長(3.5) 幅 2.6 厚 0.85 重(1.18)	粗粒輝石安山岩
18	石器	石鏃(未製品)	埋没土中	先端部欠	長(4.9) 幅 2.4 厚 0.25 重(5.8)	変玄武岩

(2) 遺構外出土遺物

観察表は67頁に掲載



68図 弥生時代遺構外出土遺物図

4. 古墳時代

(1) 竪穴建物

D区3号竪穴建物

本竪穴建物の位置は南端に近いX=75.163~75.169、Y=-67.028~-67.034である。残存状態は北西角部分の上位を遺跡確認の試掘坑によって壊され、東辺や南辺の東よりの壁上部が崩落しているが、比較的良好な状態であった。他遺構との重複関係は第1面では確認されなかった。

平面形態は東西が約10cmほど長く、南西角が94°、北西角が86°と若干の歪みがみられるがほぼ方形を呈する。規模は南北方向4.38m、東西方向4.50m、各辺長は北辺4.40m、東辺4.38m、南辺4.16m、西辺4.16m、壁高72~85cm、床面積14.6㎡を測る。主軸方位はN-118°-Eを指す。

内部施設は貯蔵穴、柱穴、周溝とも検出された。貯蔵穴はカマド右側、南東角際に位置し、平面形態は楕円形、断面形態は擦り鉢状を呈し、規模は径88×80cm、深度92cmを測る。貯蔵穴内部や東際からは土師器杯、高杯、埴、甕など多くの土器が出土している。柱穴は壁際から1m前後、柱穴間ほぼ2mと規則的な位置に配置され、柱を建てた後に柱周囲まで床を硬化させていた。各柱穴の規模はP1径29×21cm(掘方面での径35×35cm)、深度59cm、P2径31×28cm(径32×28cm)、深度71cm、P3径31×25cm(径37×33cm)、深度76cm、P4径16×15cm(径40×35cm)、深度58cmである。なお、柱痕などは確認できなかったが、床面での規模から柱自体は径10~15cmであったと推定される。周溝はカマド右側の一部で途切れるがほぼ全周する。規模は9~16cm、深度2~6cmであった。床面は全体的に固く踏みしめられているが、柱穴間より一回り広い範囲はそのなかでも非常に固く踏みしめられ硬化面となっていた。

カマドは東辺の中央よりわずかであるが南に構築されている。残存状態は焚き口や燃焼部天井は大きく壊されていたが、煙道部やソデ部は比較的良好な状態であった。規模は全長3.00m、幅1.66m、燃焼部幅0.62mを測る。

燃焼部・煙道部の天井やソデ端部には多くの礫を使用し、補強していた。なお、燃焼部から煙道部の構造は煙道部があまり壁外に伸びないで上方に設けられる形状とみられる。燃焼部奥壁は147°の傾斜で立ち上がる。燃焼部には25・26の土師器甕が据えられた状態で残存しており、25の甕下からは支脚に転用された8の土師器高杯が出土している。

掘方は北東角や北西角で土坑状の落ち込みが確認されたが、深度20cm前後の浅いものだけで床下土坑などの施設は検出されなかった。掘方面は掘削時の凹凸はみられるがほぼ平坦であった。

埋没状態は土層断面の観察ではレンズ状の堆積が確認されることから自然埋没である。

遺物出土状態は貯蔵穴、東脇、カマド左側に集中しており、この竪穴建物で使用されていたものがそのまま残されていた。カマド前部からは20~50cmの角礫がまとまって出土しているが、この礫は床面より15~20cmほど高い位置からであることから埋没過程での廃棄と想定される。なお、掲載した以外の出土土器数量は土師器杯16点、甕111点、須恵器杯1点、甕1点であった。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から6世紀前半代に比定できる。

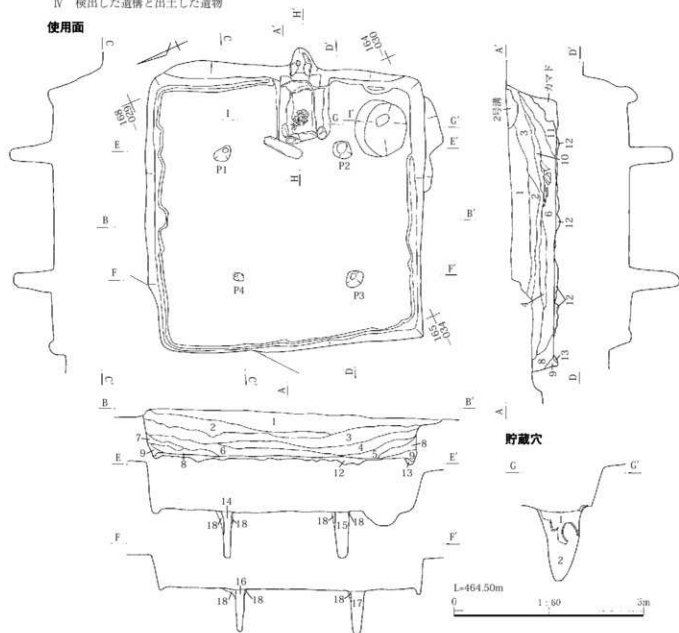
遺物出土状態



69図 D区3号竪穴建物遺構図(1)

IV 検出した遺構と出土した遺物

使用面



70図 D区3号竪穴建物遺構図(2)

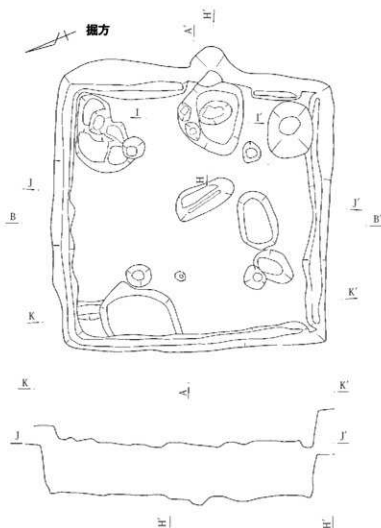
D区3号竪穴建物

- 1 黒褐色土(10YR3/2) VIとVIIの混合土(50:30)、 ϕ 1~3cmのロームブロックを20%含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 1に類似、VIを帯状ブロックで30%含む。ロームブロック10%含む。
- 3 暗褐色土(10YR2/3) V主体、VIが混入、 ϕ 0.5~1cmのロームブロックを5%含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/2) 1に類似、3より暗い色調。
- 5 黒褐色土(10YR1/3) 3、4に類似、4より暗い色調。
- 6 黒褐色土(10YR3/2) 4に類似、ロームブロック ϕ 1~2cmを20%含む。
- 7 黒褐色土(10YR3/1) VI主体、VIIが混入、 ϕ 1~3cmロームブロック10%含む。
- 8 黒色土(10YR2/1) VIの崩落土、 ϕ 1cmのロームブロック5%含む。
- 9 黄褐色土(2.5Y5/6) VII主体、IVを20~30%含む。
- 10 黒褐色土(10YR3/1) VI主体、 ϕ 1~2cmのロームブロックを3%と灰黄褐色粘土ブロックを30%含む。

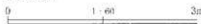
- 11 黒褐色土(10YR3/1) 1~2cmのロームブロック5%、灰黄褐色粘土ブロック40%、カマド崩落土。
- 12 明黄褐色土(2.5Y6/8) ローム主体(掘方)。
- 13 黄褐色土(2.5Y4/3) ローム主体、黒色粒を含む(掘方)。
- 14 黒褐色土(10YR3/2) VI・VIIの混合土、 ϕ 0.5~1cmのロームブロックを2%含む。
- 15 黒褐色土(10YR3/2) VI・Vの混合土、 ϕ 1~2cmのロームブロックを5%含む。
- 16 黒褐色土(10YR3/2) 2と同様、ロームブロック20%。
- 17 黒褐色土(10YR3/2) 2と同じ。
- 18 明黄褐色土(2.5Y6/6) ロームブロック主体、Vが混入(掘方)。

貯蔵穴

- 1 黒褐色土(10YR3/2) VとVIIの混合土、 ϕ 1~2cmのロームブロックを5%、VIIのブロックを1%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 1に類似、1よりロームブロックを多く含む。



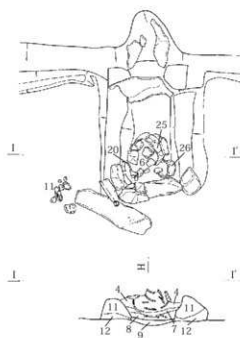
L=464.50m



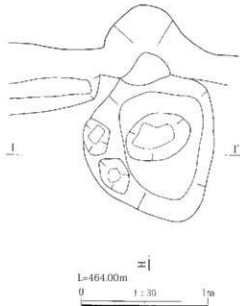
カマド

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) ϕ 0.5~2cmのロームブロックを3%含む。
- 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) 1と4の混じり合った上。
- 3 灰黄褐色土 (10YR5/2) 2と同じ、4の割合が多い。
- 4 灰黄褐色土 (10YR6/2) 粘質土、白色粘土ブロック・ロームブロックを含む。天井の崩落土、焚口部分は下面が焼土化している。
- 5 黒色土 (10YR2/1) Vの流れ込みか。
- 6 黒褐色土 (10YR3/2) Vと焼土、4の混じり合った上。
- 7 赤褐色土 (2.5YR4/6) 4の焼土化したもの。
- 8 褐灰色土 (10YR5/1) 灰。
- 9 黒褐色土 (10YR3/2) Vと ϕ 0.5~2cmロームブロックの混合土 (70:30)、焼土粒を3%含む。
- 10 黒色土 (10YR3/1) 灰、焼土粒5%、灰黄褐色粘土の小ブロック (ϕ 0.5~1cm) を3%含む。
- 11 灰黄褐色土 (10YR5/2) 粘土、焼土ブロックを10%とローム粒を2%含む。
- 12 黒褐色土 (2.5Y3/1) VとVII (7:3) を混合した上。

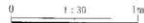
カマド



カマド掘方

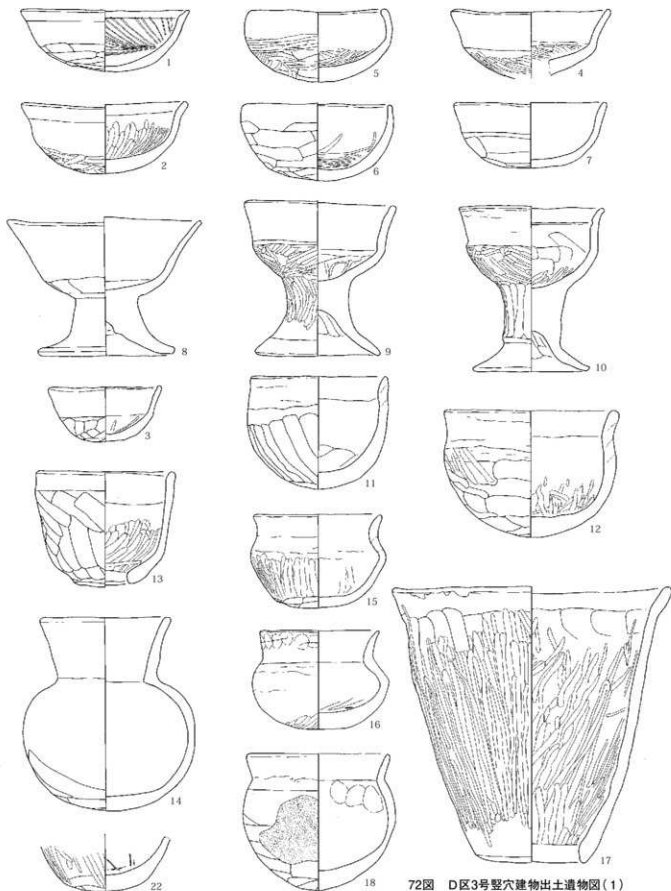


L=464.00m

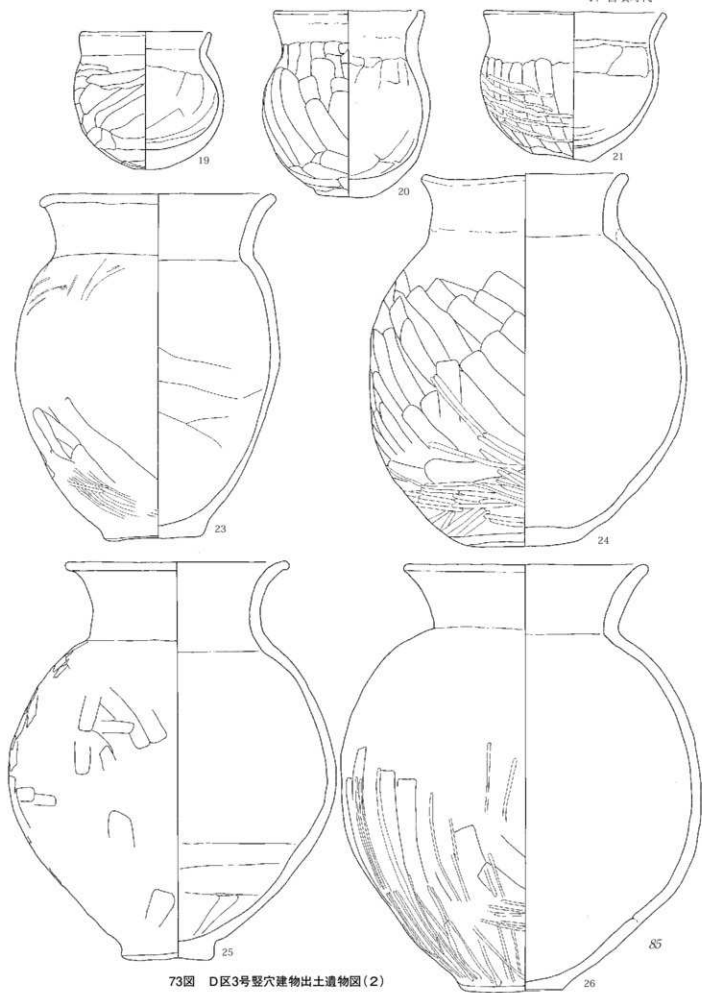


71図 D区3号竪穴建物構図(3)

IV 検出した遺構と出土した遺物



72図 D区3号竖穴建物出土遺物図(1)



73图 D区3号竖穴建物出土遺物图(2)

IV 検出した遺構と出土した遺物

D区3号竪穴建物

PL.135~137

NO.	種別	類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土器	杯	貯蔵穴東脇 口縁部一部欠	□ 13.0 高 4.8	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部上半は横ナデ、下半から底部にはヘラ削り。内面口縁部は斜放射状ヘラ磨き。	A-3
2	土器	杯	床面 完形	□ 12.8 高 5.6	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部上半は横ナデ、下半はヘラ磨き。底部はヘラ削り。内面は放射状ヘラ磨き。	A-3
3	土器	杯	貯蔵穴内 口縁部一部欠	□ 8.6 底 4.8 高 4.3	細砂粒/良好/褐色	口縁部上半は横ナデ、下半から底部はヘラ削り。内面底部に雑な放射状ヘラ磨き。	Da-1
4	土器	杯	カマド、掘方 1/2	□ 12.4 高 (5.4)	細砂粒/良好/褐色	口縁部横ナデ、底部はヘラ削り後ヘラ磨き。内面底部は縦方向のヘラ磨き。	Ba-2
5	土器	杯	貯蔵穴東脇 完形	□ 10.6 高 5.6	細砂粒/良好/赤褐色	口縁部上半は横ナデ、下半は縦・横方向のヘラ磨き、底部はヘラ削り。内面底部はヘラ磨き。	Ba-2
6	土器	杯	カマド 口縁部一部欠	□ 11.8 高 6.0	細砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部上位は横ナデ、中位から底部はヘラ削り。内面底部はヘラ磨き。	Da-1
7	土器	杯	+20 1/2	□ 12.0 高 5.2	細砂粒/良好/に ぶい褐色	口縁部上半は横ナデ、稜下から底部はヘラ削り。	Ea
8	土器	高杯	カマド 端部の一部欠	□ 15.1 底 9.4 高 10.9 脚 10.2	細砂粒/良好/褐色	脚部は貼付。杯身口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。脚部は横ナデ。杯身内面はヘラ磨き。	支脚転用 B
9	土器	高杯	カマド右脇床面 完形	□ 11.6 底 5.4 高 12.2 脚 9.6	細砂粒/良好/褐色	脚部は貼付か、杯身口縁部は横ナデ、稜下から脚部下半はヘラ磨き。脚部端部は横ナデ。	B-2
10	土器	高杯	貯蔵穴東脇 ほぼ完形	□ 11.2 底 5.7 高 13.1 脚 8.8	細砂粒/良好/に ぶい褐色	脚部は貼付。杯身口縁部は横ナデ、底部はヘラ磨き。脚部は上半はヘラナデ、端部は横ナデ。	B-2
11	土器	鉢	カマド東床面 口縁部一部欠	□ 10.6 高 8.8	粗砂粒/良好/褐色	内面黒色処理。口縁部横ナデ、体部縦方向ヘラ削り。内面体部はヘラナデ。	Bb
12	土器	鉢	貯蔵穴内 7/8	□ 13.3 高 10.1	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナデ、体部は縦方向ヘラ削り後、部分的にヘラ磨き。内面体部下半はヘラ磨き。	Ca
13	土器	有孔鉢	床面 完形	□ 10.6 底 5.0 高 9.1	粗砂粒/良好/褐色	口縁部横ナデ、体部は上半がやや斜め、下半は縦方向ヘラ削り。内面体部下半はヘラ磨き。	内面に付着物あり。
14	土器	用	貯蔵穴東脇 口縁部一部欠	□ 10.0 頸 8.0 高 15.4	粗砂粒/やや軟質/褐色	口縁部横ナデ、胴部はヘラ削りであるが、上半は摩滅のため単位などは不明。	
15	土器	小型壺	床面 ほぼ完形	□ 9.8 底 6.3 高 7.5	細砂粒/良好/明赤褐色	外面に輪轆み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ。胴部は縦方向のヘラ磨き、底部はヘラ削り。	
16	土器	小型壺	貯蔵穴東脇 口縁部一部欠	□ 9.2 底 3.5 高 7.8	粗砂粒/良好/に ぶい赤褐色	外面に輪轆み痕が残る。口縁部に指痕、頸部は横ナデ。胴部はナデ、底部はヘラ磨き。	
17	土器	瓶	貯蔵穴内 ほぼ完形	□ 21.4 底 7.8 高 21.7	細砂粒/良好/に ぶい赤褐色	口縁部横ナデ、胴部は縦方向ヘラ削り後ヘラ磨き。内面はヘラナデ後ヘラ磨き。	
18	土器	小型壺	床面 完形	□ 11.0 胴 12.0 高 10.9	粗砂粒/良好/に ぶい黄褐色	頸部に輪轆み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削りであるが、復付のため一部不詳。	
19	土器	小型壺	貯蔵穴南脇 完形	□ 10.0 胴 11.8 高 10.9	粗砂粒/良好/赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部から底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
20	土器	小型壺	カマド ほぼ完形	□ 11.4 底 4.5 高 14.7 胴 13.2	粗砂粒/良好/赤褐色	口縁部横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
21	土器	小型壺	カマド 完形	□ 14.0 底 5.0 高 11.8	細砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部から頸部横ナデ、胴部は縦方向ヘラ削り後雑な横方向ヘラ磨き。内面胴部はヘラナデ。	
22	土器	小型壺	床面 底部	底 6.4	粗砂粒/良好/褐色	胴部はヘラ削り後ヘラ磨き、底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
23	土器	費	床面 一部欠	□ 18.0 底 7.6 高 27.2	粗砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部横ナデ、胴部はヘラ削りとヘラ磨きによる整形であるが使用時の摩滅で不詳。	
24	土器	費	貯蔵穴内 完形	□ 15.6 底 8.8 高 29.3	粗砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部横ナデ、胴部は上位がナデ、中位から下位は斜め方向のヘラ削り後下位はヘラ磨き。	
25	土器	費	カマド 一部欠	□ 17.0 底 7.4 高 31.8 胴 25.8	細砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部横ナデ、胴部はヘラ削り整形であるが使用時の摩滅で不詳。内面胴部はヘラナデ。	
26	土器	費	貯蔵穴東脇 3/4	□ 18.4 底 8.0 高 33.5	細砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部横ナデ、胴部は縦方向ヘラ削り後ヘラ磨き整形であるが使用時の摩滅で不詳。	

D区5号竪穴建物

本竪穴建物からは竪穴内部の南半に集中して炭化材、礫、土器などが出土しており焼失家屋であるとみられるが、カマドの残存状態は天井がすでに壊されていることから建物廃棄後、使用できな部位や廃材を焼却したり不要な礫や土器類を南側から投げ込むように廃棄したのではないかと想定される。なお、炭化材については代表的なものについて樹種同定を行っている。その結果は363～367頁「V自然科学分析 生品西浦遺跡Ⅱ竪穴建物出土炭化材の樹種同定」を参照されたい。

位置はD区調査区中程、 $X=75.199-75.206$ — $Y=-66.985$ — -66.991 である。残存状態は南辺上部を遺跡確認のための試掘坑によって欠き、西辺壁上部で崩落がみられるが確認面から床面まで深度も深く、埋没土上位にはIV層Hr-FPも堆積しており比較的良好な状態であった。他遺構との重複関係は第1面では確認されなかった。

平面形態はほぼ方形を呈するが、北辺の西寄りに長方形の張出し部をもつ。規模は南北方向5.37m、張出し部を含めると5.57m、東西方向5.35m、各辺長は北辺4.86m、東辺5.10m、南辺5.00m、西辺5.30m、北辺の張出し部は北辺壁下より0.30mほど凸状に張り出し、辺長は1.95mを測る。壁高は78～92cm、床面積は20.1㎡を測る。主軸方位はN-73°-Eを指す。

内部施設は貯蔵穴、柱穴、周溝とも検出された。貯蔵穴はカマド右側、南東角際に位置し、平面形態は楕円形を呈し、規模は径94×58cm、深度70cmである。柱穴は床面では5本確認されたが、掘方を調査したときにカマド右側の貯蔵穴との間に柱穴ではとみられる落ち込みがみられることから6本であった可能性がある。各柱穴の規模はP1径37×35cm、深度33cm、P2径35×35cm、深度49cm、P3径60×37cm、深度57cm、P4径50×40cm、深度57cm、P5径50×38cm、深度64cm、P6径47×25cm、深度89cmである。周溝は東辺のカマド右側から南辺貯蔵穴部分と張出し部を除いて検出された。規模は幅15～20cm、深度2～7cmである。床面は全体的に踏み固められているが、中心部は周辺部よりさらに硬化した状態であった。

カマドは東辺の南よりに構築されている。残存状態は焚き口や燃焼部天井、両ソデも大きく壊されていた。天井やソデでは補強に多くの礫が使用されていたとみられ、この礫の多くがカマド内部や周辺に散乱した状態で出土している。規模は全長1.45m、幅0.98m、燃焼部幅0.60mである。なお、燃焼部から煙道部の構造はD区3号竪穴建物と同様に煙道があまり壁外に延びないで上方に設けられる形状とみられる。燃焼部奥壁は145～147°の急傾斜で立ち上がる。

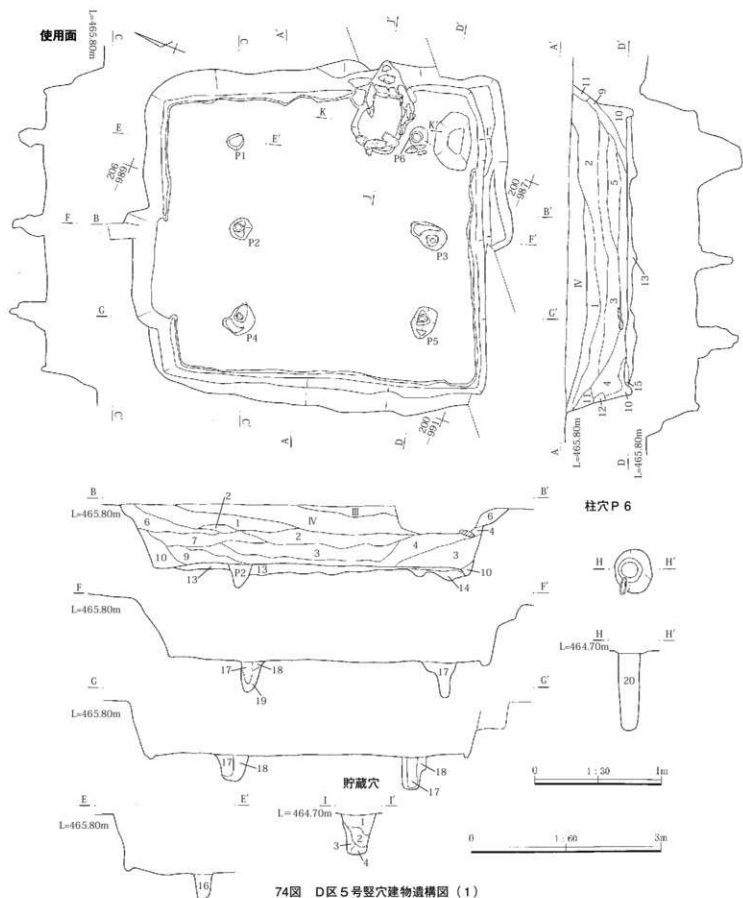
掘方は北辺側に幅0.60～1.00mの間で深さ15～20cmほど掘り込まれているほか、中央部が径2.10mの範囲で深さ10cmほど掘り込まれているが、床下土坑のような施設は確認されなかった。また、西辺側で壁下からP5、壁下からP4のやや南側までの間に約80cmほどの長さに幅20cmほどで深度8～11cmの溝状の掘り込みが検出された。

埋没状態は土層断面の観察ではレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没である。なお、埋没土最上位にはIV層のHr-FPが堆積しており、6世紀中葉には完全に埋没していた。

遺物出土状態は前述のように竪穴南半に集中した遺物の出土がみられるが、多くは床面より10～50cmほど高い位置から出土しており、この竪穴建物廃棄後埋没過程で投棄されたものである。その中で1・4～6土師器杯、33・43土師器裏は貯蔵穴、2・9土師器杯、31土師器裏はカマド、10土師器杯は周溝、34土師器裏は床面からの出土で本竪穴建物に共存するものである。また、南西角付近の床面からはP.L.140-57・58に代表されるようなこも編石とみられる細長い垂角礫がまとまって出土した。掲載した以外の出土土器数量は土師器杯32点、裏809点があった。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物より6世紀前半代に比定できる。

IV 検出した遺構と出土した遺物



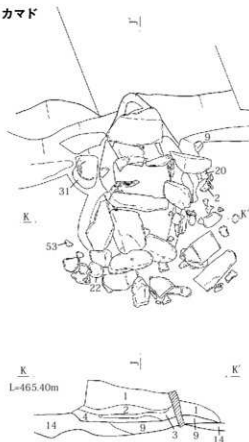
74図 D区5号竖穴建物遺構図(1)



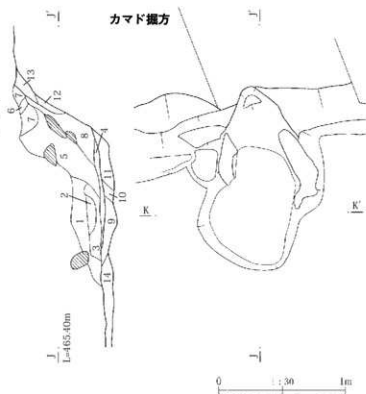
75图 D区5号竪穴建物遺構図(2)

IV 検出した遺構と出土した遺物

カマド



カマド掘方

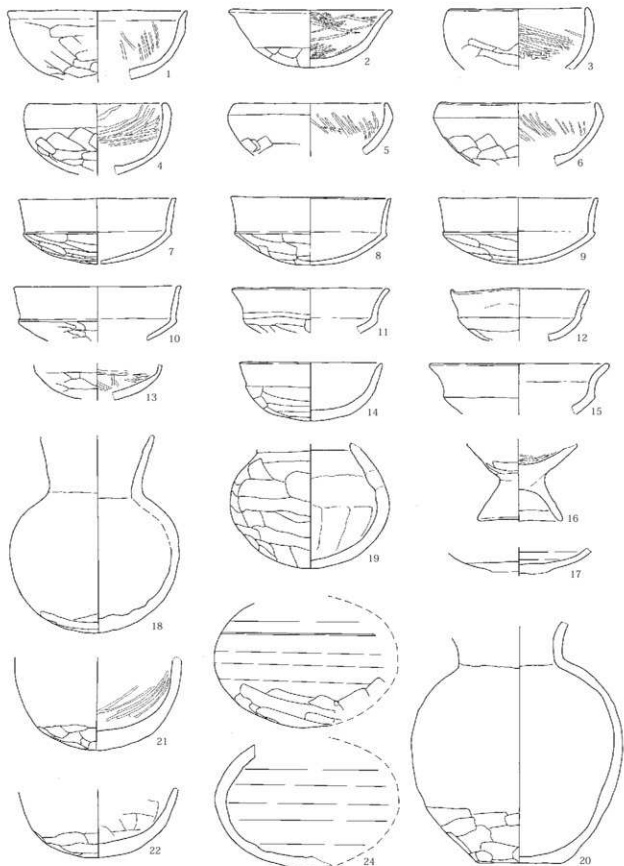


76図 D区5号竪穴建物遺構図(3)

DK 5号竪穴建物

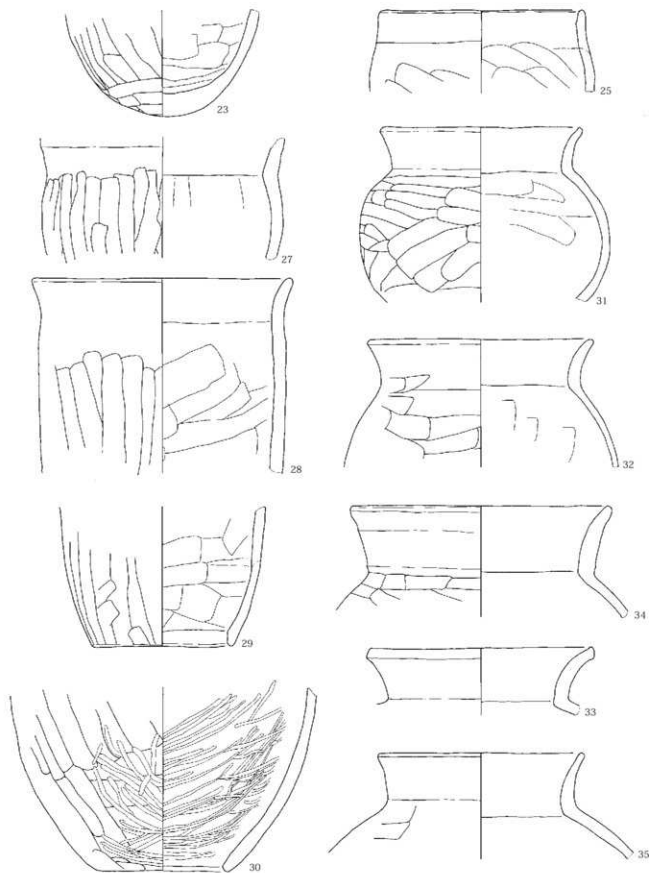
- 1 黒褐色土(10YR2/2) VとVIの混合土(50:50)、φ1~3cmのロームブロックを5%含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) φ1~2cmのロームブロックとVブロックを20%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) VとVIの混合土(30:70)か、φ1~3cmのロームブロックを10~15%含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 1に類似、φ1~3cmのロームブロックを20%含む。
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2) VI(20%)、VII(20%)、φ2~5cmのロームブロックからなる。
- 6 黒褐色土(10YR3/1) V主体、VIIが混入、φ1~2cmのロームブロックを1~2%含む。
- 7 黒色土(10YR2/1) V主体、VIIブロック(帯状に近い)を20%とφ1~5cmのロームブロックを10%含む。
- 8 黒褐色土(10YR3/2) VとVIIの混合土、φ1~2cmのロームブロックを5%含む。
- 9 黒褐色土(10YR3/2) VとVIIの混合土、φ1~2cmのロームブロックを5%含む。
- 10 黒褐色土(10YR3/2) VとVIIの混合土、φ1cm前後のロームブロックを1%含む。
- 11 黒色土(10YR2/1) Vの崩落土。
- 12 黒褐色土(10YR3/1) Vの崩落土にVIIが若干混入。
- 13 黒褐色土(10YR3/2) Vに類似、φ1~3cmのロームブロックを10~20%含む。
- 14 黒褐色土(10YR3/2) 13に類似、φ1~5cmのロームブロックを30%含む。
- 15 黒褐色土(10YR3/2) 14に類似、ロームブロックを30%含む。
- 16 黒褐色土(10YR2/2) VにVIIが混入、ローム粒を5%含む。
- 17 黒褐色土(2.5Y3/2) V・VI・VIIの混合土、ローム粒を5%含む、柱痕跡。

- 18 明黄褐色土(2.5Y5/6) ローム主体、V混入、粘床の上。
 - 19 黒色土(2.5Y2/1) V・VIの混合土、ローム粒10%含む。
 - 20 黒褐色土(10YR3/2) 砂質土、φ1cmのロームブロックを10%含む。
- 貯蔵穴
- 1 暗褐色土(10YR3/3) VII主体、V混入、φ1~2cmのロームブロックを1%含む。
 - 2 黒褐色土(10YR2/2) VとVIの混合土、ローム粒を1%含む。
 - 3 黒褐色土(10YR3/2) VとVIの混合土、ローム粒を1%含む。
 - 4 As YPの崩落土。
- カマド
- 1 黒褐色土(10YR2/2) V・VIIの混合土、5の小ブロックを下部に1%含む。
 - 2 暗褐色土(10YR3/3) 炭化材、焼土ブロックを20%含む。
 - 3 灰黄褐色土(10YR5/2) 粘質土、天井部の崩壊土、下部は焼土化。
 - 4 焼土、暗褐色土、炭化物の混合土。
 - 5 灰黄褐色土(10YR5/2) 3に類似、ブロック化している、黒褐色ブロック、焼土ブロックを10%含む。
 - 6 黒色土(10YR2/1) 粘質土、焼土粒を1%含む。
 - 7 にぶい黄褐色土(10Y5/3) 粘質土、焼土粒を1%含む。
 - 8 黒褐色土(10YR3/2) 煙道からの流れ込みか、5の小ブロック、焼土粒を3%含む。
 - 9 明赤褐色土(2.5Y5/6) ロームの焼土化。
 - 10 灰黄褐色土(10YR4/2) 黄褐色粘土粒、黒色土、焼土粒の混合土。
 - 11 黒褐色土(10YR3/1) Vに類似、粘性あり、φ1cmのロームブロックを3%含む。
 - 12 黒褐色土(10YR3/1) 灰褐色粘土粒、焼土粒を5%含む。
 - 13 黒色土(10YR2/1) 粘質土、焼土粒2%含む。
 - 14 黒褐色土(10YR3/2) Vに類似、φ1~3cmのロームブロック20%含む。

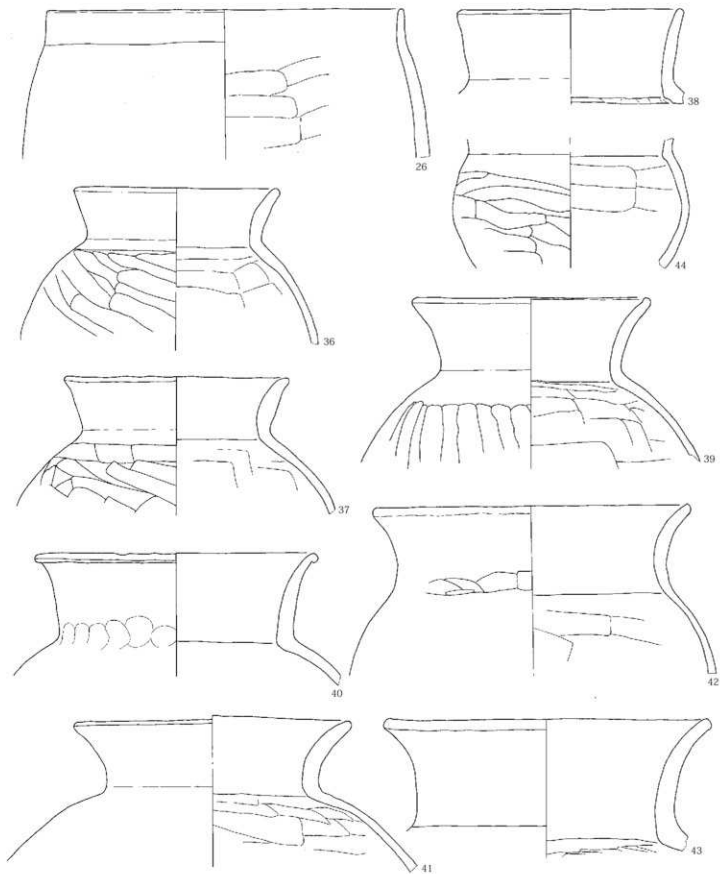


77图 D区5号竖穴建物出土遺物图(1)

IV 検出した遺構と出土した遺物

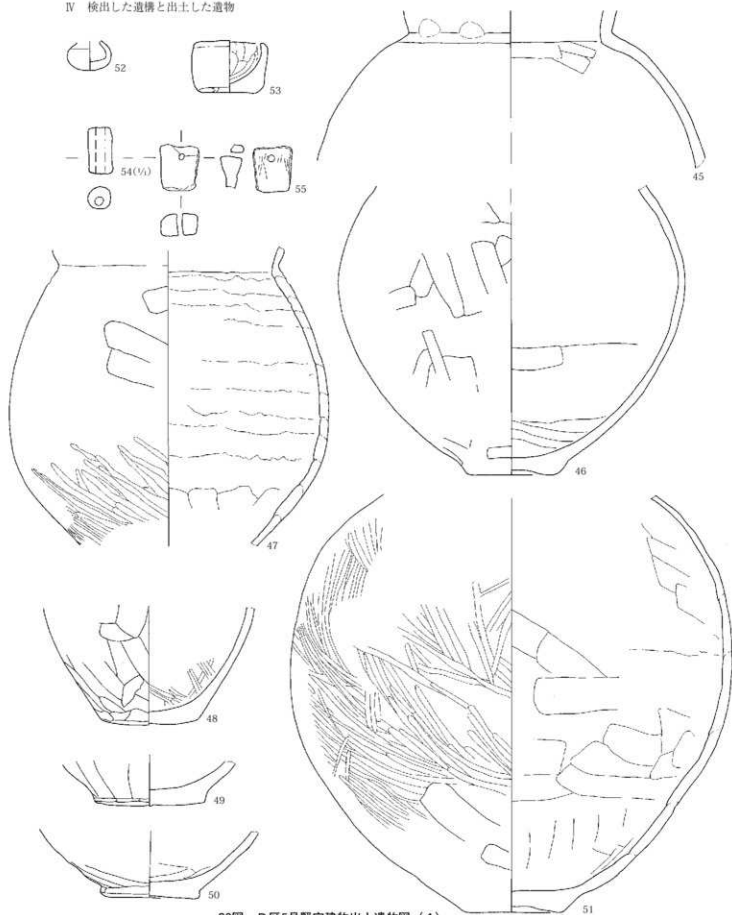


78図 D区5号竪穴建物出土遺物図(2)



79图 D区5号壜穴建物出土遺物图(3)

IV 検出した遺構と出土した遺物



80図 D区5号竪穴建物出土遺物図(4)

D区5号竪穴建物

PL.138~140

NO.	種別	種類	出土位置 現存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器	貯蔵穴 口縁部片		口 13.9	粗砂粒/良好/明赤褐色	口縁部上位は横ナデ、中位から底部はヘラ削り。内面は雑な斜放射状ヘラ磨き。	A-1
2	土師器	カマド、床面 1/3		口 12.4 高 4.6	粗砂粒/良好/に ぶい赤褐色	口縁部横ナデ、底部はヘラ削り。内面は雑なヘラ磨き。	Da
3	土師器	埋没上中位 口縁部片		口 10.8	細砂粒/良好/に ぶい赤褐色	口縁部上位は横ナデ、下半はヘラ削り。内面下半は横方向のヘラ磨き。	Ba-2
4	土師器	貯蔵穴 1/3		口 10.6	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部上半は横ナデ、下半から底部はヘラ削り。内面上半は横～斜め方向のヘラ磨き。	Ba-2
5	土師器	貯蔵穴 口縁部片		口 10.8	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部上位は横ナデ、中位はナデ、下位はヘラ削り。内面は斜放射状ヘラ磨き。	Bb-1
6	土師器	貯蔵穴 1/4		口 12.2	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部上位は横ナデ、中位はナデ、下位はヘラ削り。内面は斜放射状ヘラ磨き。	Bb-1
7	土師器	+54 杯 1/4		口 12.2 横 11.2 高 5.2	細砂粒/良好/橙	口唇部に凹線が透る。口縁部上半は横ナデ、椀下から底部はヘラ削り。	Ca-1
8	土師器	カマド、貯蔵穴 1/3		口 12.5 横 12.0 高 5.3	細砂粒/良好/橙	口唇部に凹線が透る。口縁部上半は横ナデ、椀下から底部はヘラ削り。	Ca-1
9	土師器	カマド、床面、+10 底部中央欠損		口 12.4 横 12.0 高 5.2	細砂粒/良好/に ぶい橙	口唇部は平坦面。口縁部上半は横ナデ、椀下から底部はヘラ削り。	Ca-1
10	土師器	周溝内 口縁部片		口 13.0 横 12.5	細砂粒/良好/橙	口唇部は平坦面。口縁部横ナデ、椀下から底部はヘラ削り。	Ca-1
11	土師器	埋没上中位 1/5		口 12.0 横 10.4	細砂粒/良好/橙	口唇部は平坦面。口縁部上半は横ナデ、椀下から底部はヘラ削り。	Ca-2
12	土師器	埋没上中位 1/3		口 10.6 横 9.8	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部に輪積み痕が残る。口縁部上半は横ナデ、椀下から底部はヘラ削り。	Ca-2
13	土師器	+42 底部片		横 9.8	細砂粒/良好/明 黄褐色	内面黒色処理。口縁部上半は横ナデ、椀下から底部はヘラ削り。内面ヘラ磨き。	
14	土師器	+70、中位 杯 1/2		口 11.1 横 10.2 高 4.6	細砂粒/やや軟 質/橙	口縁部横ナデ、椀下から底部はヘラ削り。	
15	土師器	埋没上中位 口縁部片		口 14.0 横 12.0	細砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部横ナデ、椀下から底部はヘラ削り。	
16	土師器	+70 底部～脚部		底 3.4 脚 6.4	細砂粒/良好/に ぶい橙	杯身内面は黒色処理。脚部は貼付か。底部はヘラ削り。脚部は横ナデ。内面はヘラ磨き。	
17	須恵器	埋没上下位 底部片			細砂粒/還元焼 灰白	ロクロ整形。脚部は貼付。底部に一段の回転ヘラ削り。脚部には三孔の透かし。	
18	土師器	床面 口唇部欠損		頸 7.4 胴 13.4	粗砂粒/良好/明 赤褐色	器面は使用時の摩滅により底部のヘラ削りだけ確認、内面は器面剥落。	
19	土師器	+40 胴部片		頸 8.2 胴 12.6	粗砂粒/良好/に ぶい黄褐色	内面に輪積み痕が残る。頸部は横ナデ、胴部から底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
20	土師器	カマド、床面他 口縁部上平欠		頸 8.2 胴 16.6 底 6.6	粗砂粒/良好/浅 黄褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位、中位はヘラ削り。使用時の摩滅のため単位等は不明。	
21	土師器	+18、他 胴下半～底部片			細砂粒/良好/橙	胴部は使用時の摩滅のため整形不鮮明、底部はヘラ削り。内面に斜放射状ヘラ磨き。	
22	土師器	カマド、床面 胴下半～底部片			細砂粒/良好/に ぶい橙	胴部は使用時の摩滅のため整形不鮮明、底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
23	土師器	+26、57他 胴部下半～底部片			細砂粒/良好/に ぶい橙	胴部は縦方向、底部は横方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。	
24	須恵器	埋没上下・上位 胴部片			細砂粒/還元焼 灰黄	ロクロ整形。底部はヘラ削り。内面底部にアテ貝痕が残る。	藤岡古窯跡群産 か。
25	土師器	+41、54 口縁～胴部上位片		口 15.6	細砂粒/良好/橙	内面に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部は斜め方向のヘラナデ。内面はヘラナデ。	
26	土師器	+7 口縁～胴部上位片		口 27.8	細砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部横ナデ、胴部はヘラ削りであるが使用時の摩滅のため単位等不明。	
27	土師器	+36 口縁～胴部上位片		頸 18.2	粗砂粒/良好/赤 褐色	口縁部横ナデ、胴部は縦方向ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
28	土師器	カマド、掘方 口縁～胴上位片		口 20.0	粗砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
29	土師器	+58 胴部下位片		底 10.6	細砂粒/良好/橙	胴部は縦方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。	

IV 検出した遺構と出土した遺物

NO.	種別	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
30	土師器	甕	+32 胴部下位片	底 10.0	粗砂粒/良好/灰	胴部は縦方向のヘラ削り後ヘラ磨き。内面もヘラナデ後ヘラ磨き。	
31	土師器	甕	カマド+18 口縁～胴部下位	口 15.6 頸 14.3 胴 19.6	粗砂粒/良好/灰 ふい黄橙	口縁部横ナデ、胴部は上位が横方向、中位が斜め方向ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
32	土師器	甕	床面、下位 口縁～胴部上位片	口 17.2 頸 16.0	粗砂粒/良好/灰 ふい黄	口縁部横ナデ、胴部は上位が横方向ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
33	土師器	甕	貯蔵穴 口縁部～頸部	口 17.3 頸 14.2	粗砂粒/良好/灰 ふい黄	口縁部横ナデ。	
34	土師器	甕	床面 口縁～胴部上位片	口 20.0 頸 17.8	粗砂粒/良好/灰 ふい黄	口縁部横ナデ、胴部は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
35	土師器	甕	カマド 口縁～胴部上位片	口 15.7 頸 15.2	粗砂粒/良好/灰 ふい黄	口縁部横ナデ、胴部は横方向のヘラ削り後ナデ。内面胴部はヘラナデ。	
36	土師器	甕	カマド 口縁～胴部中位片	口 15.6 頸 13.8	粗砂粒/良好/灰 ふい黄	口縁部横ナデ、胴部は横～斜め方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
37	土師器	甕	カマド 口縁～胴部中位片	口 17.2 頸 14.8	粗砂粒/良好/灰 ふい黄橙	口縁部横ナデ、胴部は横～斜め方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
38	土師器	甕	+5、11、42 口縁部～頸部片	口 17.2 頸 16.0	粗砂粒/良好/灰 ふい黄	口縁部横ナデ、内面胴部はヘラナデ。	
39	土師器	甕	床面 口縁～胴部中位片	口 18.0 頸 14.2	粗砂粒/良好/灰 ふい黄橙	口縁部横ナデ、胴部は頸部下ナデ、中位は縦方向ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
40	土師器	甕	+77他 口縁～胴部上位片	口 21.6 頸 18.6	粗砂粒/良好/灰 ふい黄橙	頸部に指頭痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り後ナデ。内面胴部はヘラナデ。	
41	土師器	甕	床直地 口縁～胴部上位片	口 21.2 頸 16.8	粗砂粒/良好/灰 ふい黄	口縁部は横ナデ、胴部は横方向ヘラ削り後ナデ。内面胴部はヘラナデ。	
42	土師器	甕	+8 口縁～胴部上位片	口 24.2 頸 21.0	粗砂粒/良好/灰 ふい黄橙	口縁部は横ナデ、頸部にヘラ削り痕が残る。胴部は横方向ヘラ削り後ナデ。内面胴部はヘラナデ。	
43	土師器	甕	貯蔵穴 口縁～胴部上位片	口 25.0 頸 21.0	粗砂粒/良好/灰 ふい黄橙	内面頸部に接合痕が残る。口縁部横ナデ。内面胴部はヘラナデ。	
44	土師器	甕	埋没上位 口縁下半～胴部下位片	頸 16.2 胴 18.6	粗砂粒/良好/灰 ふい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
45	土師器	甕	埋没上位 口縁下半～胴中位片	頸 16.0	粗砂粒/良好/橙	頸部に指頭痕が残る。口縁部横ナデ、胴部はヘラ削り後ナデ。内面胴部はヘラナデ。	
46	土師器	甕	+6、11、18 胴部上位～底部片	底 7.2	粗砂粒/良好/灰 ふい黄橙	胴部はヘラ削り後ナデ、底部は周辺部ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
47	土師器	甕	+10 口縁下半～胴下位片	頸 17.4 胴 25.0	粗砂粒/良好/橙	内面に輪積み痕が残る。胴部ヘラ削り後ナデ、下位は斜め方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
48	土師器	甕	床面 胴部下位～底部片	底 7.7	粗砂粒/良好/赤 褐色	胴部・底部はヘラ削り。内面はヘラナデ、下位に部分的にヘラ磨き。	
49	土師器	甕	+52 胴部下位～底部片	底 8.6	粗砂粒/良好/赤 褐色	胴部は縦方向ヘラ削り、底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
50	土師器	甕	床面 胴部下位～底部片	底 7.8	粗砂粒/良好/灰 ふい黄橙	胴部は斜め方向ヘラ削り、底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
51	土師器	甕	+42 胴部上位～底部片	胴 34.8 底 7.5	粗砂粒/良好/灰 ふい黄	内面に輪積み痕が残る。胴部はヘラ削り後ヘラ磨き、底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
52	手捏ね土器	壺形	手捏ね土器 壺形	頸 2.0 胴 3.5	粗砂粒/良好/明 褐色	頸部横ナデ、胴部はナデ。	手捏ね土器壺
53	手捏ね土器	椀形	+27 口縁部一部欠	口 5.0 底 4.1 高 4.1	粗砂粒/良好/橙	口縁部、体部はナデ、底部はヘラ削り。内面は強い指頭によるナデ。	手捏ね土器椀
NO.	種別	器種	出土位置	残存率	計測値	摘要	
54	石製品	皆玉	床面	完形	長 1.190 径 0.675 孔径 0.205 重 0.80	叢ろ石	
55	石製品	砥石	周溝内	部分片	長 (3.6) 幅 3.0 厚 1.8 孔径 0.4 重 22.3	砥石	

D区D6号竪穴建物

本竪穴建物からは竪穴内部の南半に集中して炭化材、礫、土器などが出土しており焼失家屋であるとみられるが、カマドの残存状態は天井がすでに壊されていることから建物廃棄後、使用できない部位や廃材を焼却したことによると想定される。

位置はD区調査区の中程、 $X = 75.212 \sim 75.216 - Y = -66.970 \sim -66.975$ である。残存状態は東辺北よりから西辺南東角よりの中央部に遺跡確認のための試掘坑が存在するため上部を欠くが、それ以外は良好な状態であった。他遺構との重複関係は第1面で確認されなかった。

平面形態は北辺が他の三辺に比べてやや長いがほぼ方形を呈する。規模は南北方向4.25m、東西4.28m、各辺長は北辺4.18m、東辺3.73m、南辺3.75m、西辺3.66m、壁高は確認面から床面まで57～69cm、床面積は10.5㎡を測る。主軸方位はN-72°-Eを指す。

内部施設は貯蔵穴、柱穴、周溝とも検出された。貯蔵穴はカマド右側、南東角際に位置し、平面形態はやや歪んだ隅丸長方形を呈し、規模は0.83×0.54m、深度0.67mである。内部からは11の土師器小型甕や甕などが出土している。柱穴は壁際から1m前後、柱穴間ほぼ1.5mと規則的な位置に配置され、P3とP4では柱を抜きとった痕跡が確認された。各柱穴の規模はP1が径28×26cm、深度35cm、P2が径27×25cm、深度36cm、P3が径48×40cm、深度50cm、P4が径51×33cm、深度46cmである。周溝は北辺と西辺では壁下からは確認されたが、東辺ではごく一部、南辺では全く確認されなかった。また、南西角付近では周溝が崩れたのか床面が壊されたのか広い範囲で窪んだ状態であった。規模は幅15～20cm、深度7～10cmである。床面は全体的に踏み固められているが、中心部は周辺部よりさらに硬化した状態であった。

カマドは東辺のほぼ中央に構築されている。残存状態は焚き口や燃焼部天井は大きく壊されているが、両ソデの下部は形状がわかる程度であるが残存していた。規模は全長1.63m、幅1.17m、燃焼部幅0.37mである。残存していた右ソデ下部はローム土をそのまま掘り残していた。両ソデの先端部には柱状の円礫を、焚き口天井には長さ50cm、幅20cm、厚さ10cmのやや扁平な角礫を補強に使用している。カマド前方に散乱した状態で出土している多くの扁平な礫は天井の補強に使用されていたものとみられる。なお、燃焼部から煙道部の構造はD区3号竪穴建物、D区5号竪穴建物と同様に煙道が壁外に延びない形状とみられる。燃焼部奥壁は135°ほどの傾斜で立ち上がる。

掘方は中央部P3柱穴よりに不定形でやや規模の大きな落ち込み、南西角に矩形のものが確認されたが両方とも5～10cmと周囲よりやや深い程度で床下土坑とは判断できなかった。これら落ち込みを含め全体は掘削時の

凹凸がみられるがほぼ平坦であった。

埋没状態は土層断面の観察では壁下部に三角形の堆積、中央部にレンズ状の堆積がみられることから自然埋没である。

遺物出土状態はカマド右側、貯蔵穴周囲から比較的多く出土しているが、全体的な残存量は少ない。また、炭化材は丸太材が多いことから柱材、梁・桁材、垂木材とみられる。その中でP3の西側からは板材片がみられた。掲載した以外の出土土器数量は土師器杯11点、高杯5点、甕160点があった。

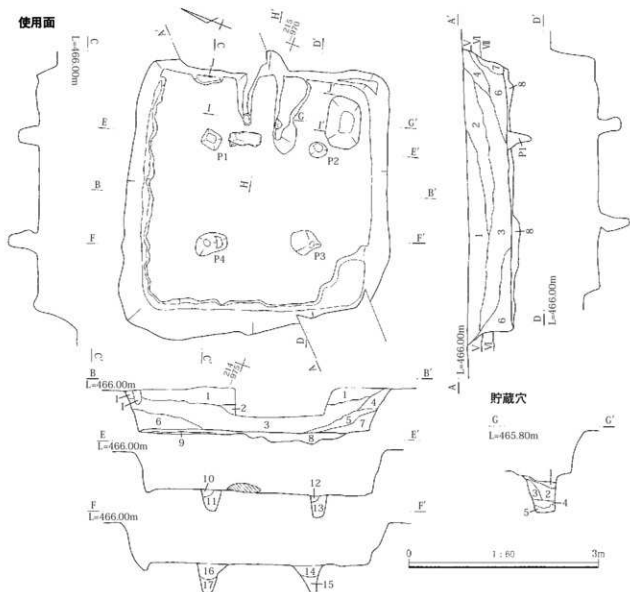
本竪穴建物の存続年代は出土遺物より6世紀前半代に比定できる。

遺物出土状態



81図 D区6号竪穴建物遺構図(1)

IV 検出した遺構と出土した遺物



82図 D区6号竪穴建物遺構図(2)

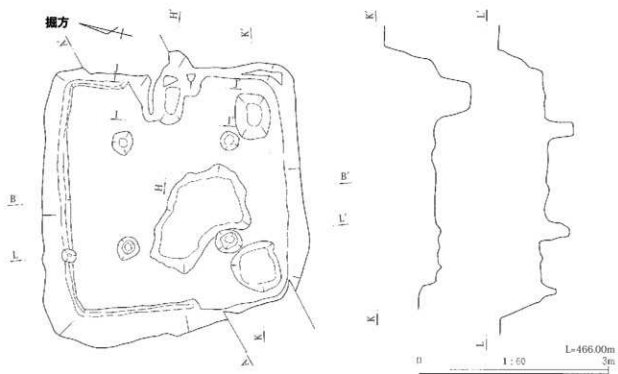
D区6号竪穴建物

- 1 黒褐色土(10YR2/2) V主体、 ϕ 0.5~1cmのロームブロック・粒を1%含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 1と同様、 ϕ 1~3cmのロームブロックを3%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 1に近似、 ϕ 1~7cmのロームブロックを5~7%含む。
- 4 黒色土(10YR2/1) Vに類似、 ϕ 1cm前後のロームブロック・粒を2%含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/2) 1に類似、 ϕ 1~2cmのロームブロックを2%含む。
- 6 黒色土(10YR2/1) Vの流入、M・Vを含む、 ϕ 1~5cmのロームブロックを10%含む。
- 7 黒色土(10YR2/1) 6に類似、焼土粒を1%含む。
- 8 黒褐色土(10YR3/2) Vに類似、 ϕ 1~3cmのロームブロックを30%含む。
- 9 明黄褐色土(2.5Y6/6) Vに類似、Mをしみ状に10%含む。
- 10 黄褐色土(10YR5/6) ローム土主体。
- 11 暗褐色土(10YR3/3) ローム土を10%含む。
- 12 黒色土(5Y2/1) ロームブロック、ローム粒を20%含む。
- 13 暗褐色土(10YR3/3) ローム土を主体として1を含む。
- 14 黒色土(5YR1.7/1) ロームブロック、ローム粒を3%含む。

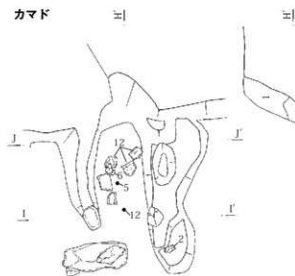
- 15 明黄褐色土(10YR6/8) ローム土を主体とする。
- 16 黒色土(5YR1.7/1) ロームブロック、ローム粒を3%含む。
- 17 明黄褐色土(10YR6/8) ローム土を主体とする。

貯蔵穴

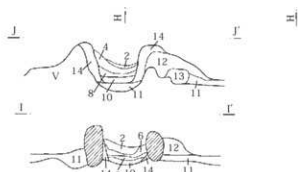
- 1 褐色土(10YR3/2) ϕ 1~10mm程度のローム粒を3%含む。
 - 2 黒褐色土(10YR3/1) ϕ 1~10mm程度のローム粒を3%含む。
 - 3 黒褐色土(10YR2/2) 焼土ブロックを3%含む。
 - 4 黒褐色土(10YR2/2) わずかに焼土、ロームブロックを含む。
 - 5 黒褐色土(10YR2/2) ロームブロックを1%含む。
- カマド
- 1 褐色土(10YR4/4) ロームブロックを10%含む。
 - 2 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロックを3%含む。
 - 3 棕色土(2.5YR6/6) 焼土主体(天井部崩落上)。
 - 4 明黄褐色土(10YR6/6) ローム主体(天井部崩落上)。
 - 5 黄褐色土(10YR5/6) ローム主体(天井部崩落上)。
 - 6 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を含む。
 - 7 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を3%含む。
 - 8 暗赤褐色土(2.5YR3/4) 焼土を主体とする。
 - 10 灰黄褐色土(10YR5/2) 粘質土、黒色土を20%含む。
 - 11 VとVIIの互層。
 - 12 黒褐色土(10YR3/2) VIIと8の混合土。
 - 13 灰黄褐色粘土(10YR5/2)
 - 14 黒褐色土(10YR3/2) 12に類似。



カマド

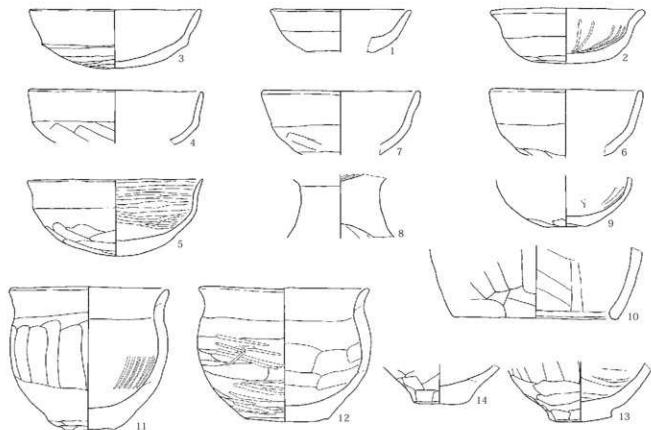


カマド掘方



83図 D区6号竪穴建物遺構図(3)

IV 検出した遺構と出土した遺物



84図 D区6号竪穴建物出土遺物図

D区6号竪穴建物

PL.140

NO.	種別	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	床面 口縁部片	口 10.8 底 5.4 高 3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ。	Ca-2
2	土師器 杯	床面・カマド 口縁部一部欠	口 11.8 底 5.4 高 4.4	細砂粒/良好/橙	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ。底部はヘラ削り。	Db
3	土師器 杯	床面 1/4	口 13.2 底 11.5 高 4.6	細砂粒/良好/赤 褐色	口縁部横ナデ、稜下から底部はヘラ削り。	Db
4	土師器 杯	埋没上上位 口縁部片	口 13.5 底 13.0	細砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部上半は横ナデ、稜下はヘラ削り。	Ca-2
5	土師器 杯	カマド 口縁部一部欠	口 13.6 底 12.8 高 6.0	細砂粒/良好/に ぶい橙	内面黒色処理。口縁部上半は横ナデ、稜下はヘラ削り後ナデ。底部はヘラ削り。内面はヘラ磨き。	Ea
6	土師器 椀	カマド 口縁部片	口 11.8 底 7.8	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ。底部はヘラ削り。	A
7	土師器 椀	カマド 口縁部片	口 12.2 底 6.6	細砂粒/良好/橙	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ。底部はヘラ削り。	A
8	土師器 高杯	床面 脚部上位片	底 6.3	細砂粒/良好/に ぶい橙	内面黒色処理。脚部は縦方向のナデ。内面杯身はヘラ磨き。脚部はナデ。	
9	土師器 意	床面 胴部下位～底部片	底 3.2	細砂粒/良好/に ぶい橙	胴部はヘラ削り後ナデ、最下部にヘラ削りが残る。内面はヘラナデ。	
10	土師器 甕	埋没上上位 胴部下位片	底 12.0	粗砂粒/良好/に ぶい黄褐色	胴部はヘラ削り、内面はヘラナデ。	
11	土師器 小型甕	貯蔵穴 3/4	口 12.2 底 6.2 高 11.4	粗砂粒/良好/に ぶい赤褐色	口縁部横ナデ。胴部は縦方向へラ削り後下位はナデ。底部へラ削り。内面胴部は部分的にヘラ磨き。	
12	土師器 小型甕	カマド 7/8	口 13.2 底 10.6 高 6.7	粗砂粒/良好/灰 黄褐色	口縁部横ナデ。胴部は縦方向へラ削り後雑なヘラ磨き。底部へラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
13	土師器 甕	+35 底部	底 5.0	粗砂粒/良好/に ぶい橙	胴部、底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
14	土師器 甕	床面 底部	底 4.4	粗砂粒/良好/に ぶい橙	胴部、底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	

D区9号竪穴建物

本竪穴建物の位置はD区調査区北半の中ほど、 $X = 75.240 \sim 75.247 - Y = -66.942 \sim -66.949$ である。残存状態は北東辺から南東辺壁上部に崩落の痕跡がみられるが、確認面から床面までの深度も深く、埋没土位にはIV層Hr-PPが堆積しており良好な状態であった。他遺構との重複関係は第1面では確認されなかったが、掘方面で第2面の遺構であるD区41号土坑、42号土坑、50号土坑、51号土坑と重複する。新旧関係は当然本竪穴建物のほうが新しい。

平面形態は崩落部分を除くと南東-北西方向のほうが15cmほど長いが各角もほぼ直角の方角を呈す。規模は南東-北西方向6.10m、北東-南西方向5.84m、(崩落部分を含めると6.65m)、各辺長は北東辺5.28m、南東辺5.39m、南西辺5.55m、北西辺5.28m、壁高は確認面から床面まで96~109cm、平均104cm、床面積24.8㎡を測る。主軸方位は $N-32^{\circ}-W$ を指す。

内部施設は貯蔵穴、柱穴、周溝とともに梯子穴も検出された。貯蔵穴はカマド右側、南東角縁に位置し、平面形態は北西角が角張っているが、他の角は丸みをおびた矩形を呈し、規模は径 1.11×0.95 m、深度0.89mである。貯蔵穴の埋没状態はほぼ水平に土砂が堆積した状態が観察されており、この竪穴建物が埋没する過程での埋没ではないことが想定されるが、人為的な埋め戻しが行われたかどうかについて判断するには至らなかった。柱穴は壁際から1m前後、柱穴間はP2とP3間が2.85mの他はほぼ3.0mと規則的な位置に配置されている。P1とP3では明確に柱を抜きとった痕跡が確認された。規模はP1が径 43×32 cm、深度63cm、P2が径 30×24 cm、深度25cm、P3が径 51×37 cm、深度73cm、P4が径 32×23 cm、深度53cmである。梯子穴は柱穴P3とP4の間で若干壁より位置する。規模はP5が径 36×21 cm、深度18cm、P6が径 23×17 cm、深度51cmと大きな差がみられる。また形状もP5は梯子を設置してあった傾斜なども不明な状態であったが、P6では底面で傾斜が確認でき床面から約 45° の角度で梯子が設置されていたと想定される。なお、この角度で梯子が設定されると本来の壁高は1.5m前後を有していたとみられる。周溝

はカマドの左側から北西辺の貯蔵穴手前までの間で検出され、規模は幅 $12 \sim 30$ cm、深度 $5 \sim 10$ cmである。床面は黒色土とロームブロックで埋め戻されて踏み固められ硬化した状態であった。

カマドは北西辺の中央よりやや北に構築されている。残存状態は焼き口や燃焼部天井、左ソデが大きく壊されており、右ソデの下部がわずかに残存している程度であった。規模は全長1.73m、幅0.80m、燃焼部幅約0.35mを測る。煙道部や燃焼部には天井の補強に使用されたやや扁平な角礫がみられるが、燃焼部のものは長さ55cm、幅25cm、厚さ10cmの直方体に打ち欠かれたものである。燃焼部から煙道部の構造はD区3号・5号・6号竪穴建物と同様に煙道が壁外にあまり伸びない形状である。燃焼部奥壁は 155° の傾斜で立ち上がる。

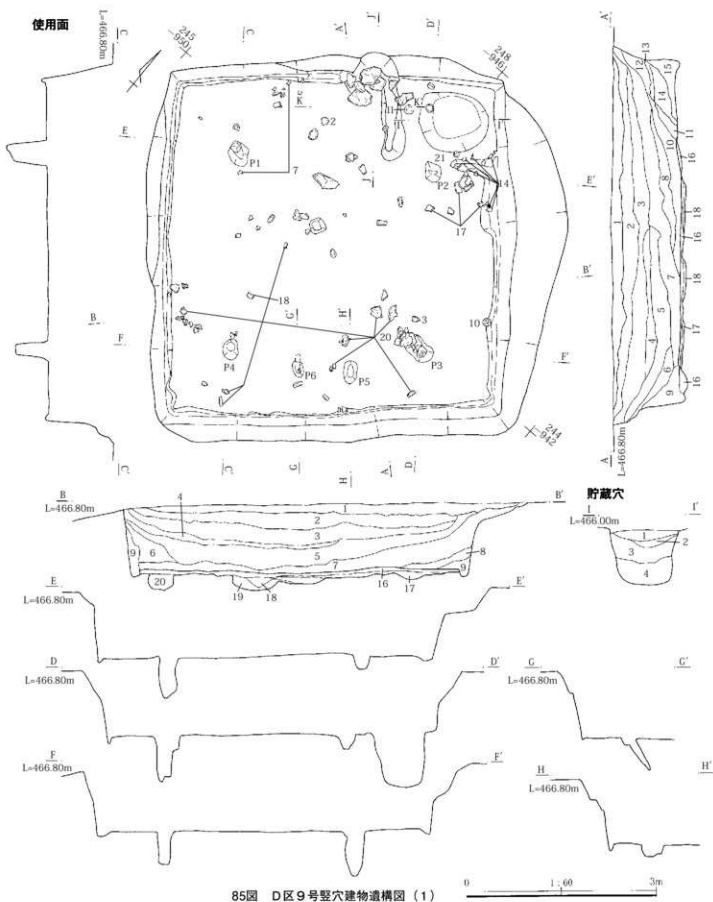
掘方は床面より中央部の柱穴間内部が不整形に $15 \sim 20$ cm、周辺部が $5 \sim 10$ cmほど掘り込まれている。また、各辺には北西辺からP1に向けてのような全長1m、幅20cm前後、深度10cm前後の溝状の落ち込みが設けられている。

埋没状態は土層断面の観察では周囲から土砂が流れ込み中心部ではレンズ状の堆積が確認できることから自然埋没である。なお、最上部にはIV層Hr-PPが最大の厚さ15cmほど攪拌を受けない状態で堆積していた。

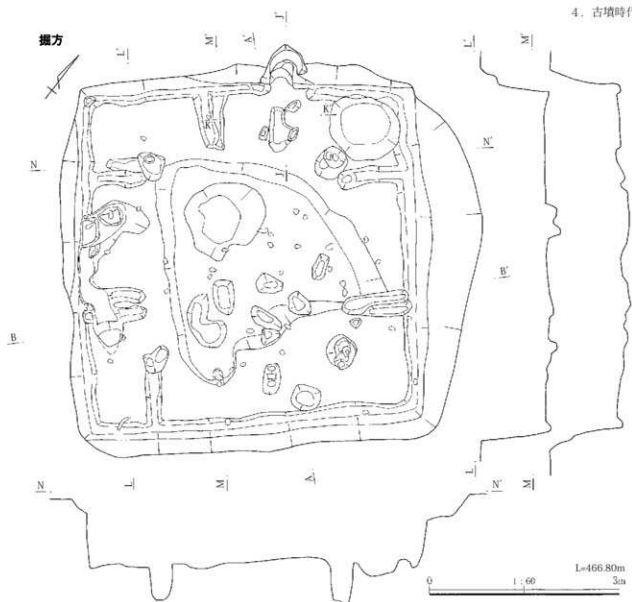
遺物出土状態はカマドや貯蔵穴南側にややまとまった出土がみられるが、その他はやや散在した状態であった。また、P3の西脇から出土している20の土師器甕の一部破片は南西辺壁際から出土している。18の土師器甕もやや広範囲から出土している。なお、掲載した以外の出土土器数量は土師器高杯1点、甕625点があった。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物より6世紀前半代に比定できる。

IV 検出した遺構と出土した遺物



85図 D区9号竪穴建物遺構図(1)



86図 D区9号型穴建物遺構図(2)

D区9号型穴建物

- 1 IV層H r-F P
- 2 暗褐色土(10YR3/4) ϕ 1~5mmのローム粒を含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/4) ϕ 50mmまでのロームブロックを40%含む。
- 4 黒色土(2.5Y2/1) 3と同じであるが黒色が強い(炭化物含む)。
- 5 黒褐色土(10YR2/2) ϕ 5~30mmのローム粒を30%含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/1) ϕ 1~5mmのローム粒を含む。
- 7 黒褐色土(10YR2/2) ϕ 5~40mmのロームブロックをまばらに含む。
- 8 黒色土(2.5Y2/1) 10mm前後のローム粒、ロームブロックをわずかに含む。
- 9 黒色土(2.5Y2/1) Vに類似、10mm前後のローム粒、ロームブロックをわずかに含む。
- 10 暗褐色土(10YR3/4) くすんだ感じ、ローム粒多く含む。
- 11 暗褐色土(10YR3/4) ϕ 10mmのローム粒を多く含む。
- 12 暗褐色土(10YR3/4) 11に近似。
- 13にふい 黄褐色土(10YR5/4) ローム土主体、カマダの横壁上?
- 14 黒色土(10YR5/4) 焼土粒をまばらに含む、 ϕ 10mmのローム粒を含む。

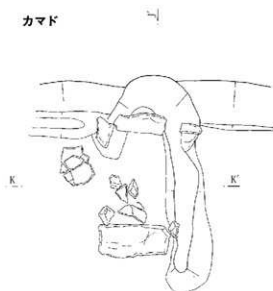
- 15 黒色土(10YR5/4) 焼土粒をまばらに含む。
- 16 黒色土(10YR1.7/1) ϕ 5~30mmのローム粒、ロームブロックを30%含む。
- 17 黒色土(10YR1.7/1) ϕ 10mm前後のローム粒をわずかに含む。
- 18 黒色土(10YR1.7/1) ϕ 5~50mmのローム粒、ロームブロックを多く含む。
- 19 黒褐色土(10YR2/2) ローム粒を多く含む。
- 20 暗オリーブ土(5Y 4/3) ローム粒を多く含む。

貯蔵穴

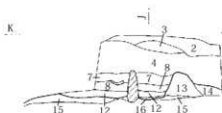
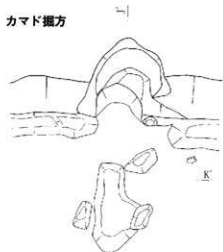
- 1 黒褐色土(10YR3/1) V主体、 ϕ 0.5~1cmのロームブロックを含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) V・VIの混合土、 ϕ 1cmのロームブロック10%と焼土粒を3%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) V主体、M混入、 ϕ 1~3.5cmのロームブロック3%含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 3と同様、 ϕ 1~5cmのロームブロックを5%含む。

IV 検出した遺構と出土した遺物

カマド



カマド掘方



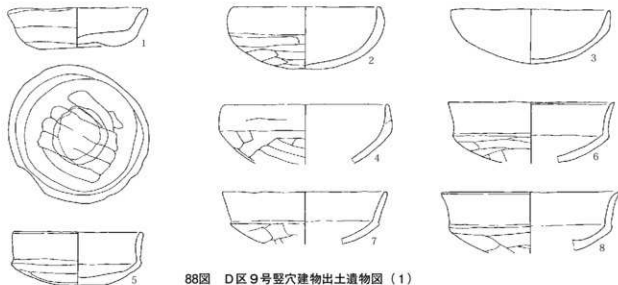
87図 D区9号竪穴建物遺構図(3)

L=466.30m
0 1:30 1m

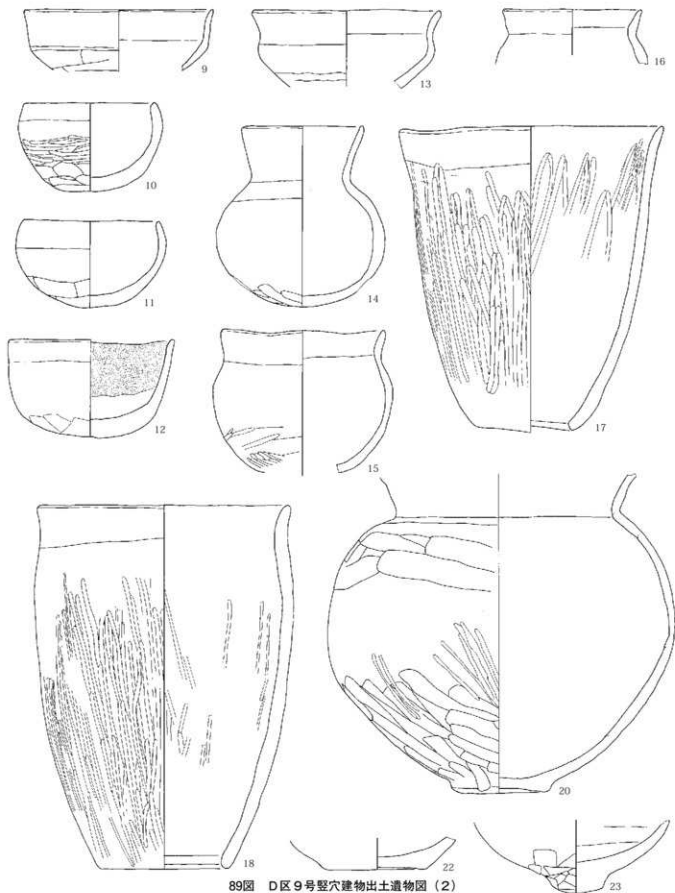
D区9号竪穴建物カマド

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 竪穴建物物理段上、φ1~2cmのロームブロックを3%含む。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 粘質土、Vブロック、焼土粒、ローム粒を1~5%含む。
- 3 明黄褐色土(2.5Y6/6) ロームブロック主体、Ⅲ、Ⅳが混入。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) V主体、Ⅵが混入、φ1~3cmのロームブロックを10~15%含む。

- 5 にぶい黄褐色土(10YR6/3) 天井崩落土、粘質土、焼土粒、ロームブロックを5%含む。
- 6 赤褐色土(2.5YR4/6) 焼土。
- 7 にぶい黄色土(10YR6/4) 5に類似、焼土ブロック、ロームブロックを10%含む、相灰色の灰をブロック状に20%含む。
- 8 赤褐色土(2.5YR4/6) 焼土。
- 9 にぶい黄褐色土(10YR6/3) 5のブロック状のもの。
- 10 黒褐色土(10YR2/2) Vに類似、ローム粒を1~2%含む。
- 11 黒褐色土(10YR3/2) Vに5ブロックが20%含まれたもの。
- 12 ロームブロックと相灰色の灰の混合土。
- 13 灰黄褐色土(10YR5/2) 粘土、焼土ブロックを10%含む。
- 14 黒褐色土(10YR3/2) V、Ⅳの混合土にロームブロックを20%含む。
- 15 黒褐色土 Vに類似、粘質土、焼土粒を5%含む。
- 16 赤褐色土(2.5YR4/6) 焼土。

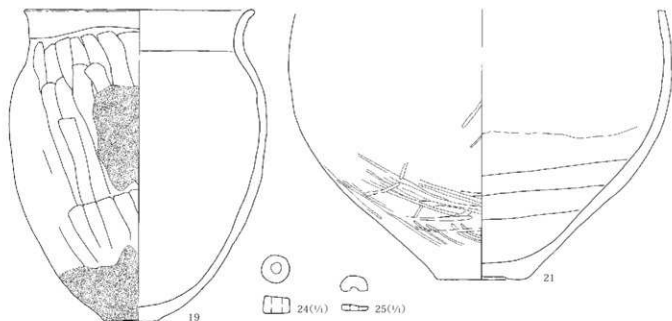


88図 D区9号竪穴建物出土遺物図(1)



89图 D区9号竖穴建物出土遺物图(2)

IV 検出した遺構と出土した遺物



90図 D区9号竪穴建物出土遺物図(3)

D区9号竪穴建物

PL.140~142

NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	埋没上中位 ほぼ完形	口 10.5~11.5 底 6.0 高 3.2	細砂粒/良好/ 深い黄褐色	成形時の歪み大。口縁部上半は横ナデ、下半から底部周辺部はナデ、底部はへら削り。	
2	土師器 杯	+28 1/2	口 11.4 高 4.9 大 12.4	細砂粒/良好/ 明赤褐色	口縁部上半は横ナデ、下半から底部はへら削り。内面器面の剝離激しい。	Ba-2
3	土師器 杯	床面、中位 1/3	口 12.4 高 4.3	細砂粒/良好/ 明赤褐色	器面の剝離が激しく整形不明瞭。	Bb-2
4	土師器 杯	カマド 1/5	口 12.6	細砂粒/良好/ 深い赤褐色	輪轆み痕が残る。口縁部上半は横ナデ、下半から底部はへら削り。内面器面の剝離激しい。	Bb-2
5	土師器 杯	+20 完形	口 10.0 径 10.2 高 4.2	細砂粒/良好/橙	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ、底部はへら削り。内面底部は器面の剝離が激しい。	Ca-2
6	土師器 杯	埋没上中位 口縁部小片	口 12.6 径 11.6	細砂粒/良好/濁	口唇端部は平坦面、口縁部上半は横ナデ、下半はへら削り。	Ca-2
7	土師器 杯	+12 1/4	口 13.0 径 12.4	細砂粒/良好/赤褐色	口唇端部は平坦面、口縁部上半は横ナデ、下半はへら削り。	Ca-1
8	土師器 杯	カマド 1/6	口 13.8 径 12.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半横ナデ、下半はナデ、下半から底部はへら削り。	Ca-2
9	土師器 杯	埋没上下位・中位 1/5	口 14.6 径 14.0	細砂粒/やや軟質/ 橙	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ、下半から底部はへら削り。	Ca-2
10	土師器 椀	床面 口唇端部大半欠	口 10.0 高 7.0 大 11.2	細砂粒/良好/ 明赤褐色	口縁部は横ナデ、体部は上位がナデ、中位は横方向へら磨き、下位から底部はへら削り。	B
11	土師器 椀	カマド 口縁部一部欠	口 10.6 高 6.9 大 11.8	細砂粒/良好/赤褐色	口縁部横ナデ、体部上半はへら削り後ナデ、下半から底部はへら削り。	B
12	土師器 椀	貯蔵穴 ほぼ完形	口 12.8 高 7.2	細砂粒/良好/ 明赤褐色	口縁部横ナデ、体部はへら削り後ナデ、底部はへら削り。	内面上半に甍が付着。椀D
13	土師器 鉢	埋没上中位 口縁部小片	口 15.5	細砂粒/良好/ 深い赤褐色	脚付きか。口縁部横ナデ、体部上半はナデ、下半は横方向へら削り。	
14	土師器 用	貯蔵穴、他 ほぼ完形	口 9.0 径 7.8 胴 13.2 高 14.3	細砂粒/良好/ 明赤褐色	口縁部から胴部上位は横ナデ、中位・下位はナデ、底部はへら削り。	
15	土師器 小型甕	カマド、床直他 1/3	口 12.8 胴 14.1	細砂粒/良好/ 明赤褐色	口縁部は横ナデ、胴部上半はナデ、下半はへら削り後部分的にへら削り。	
16	土師器 小型甕	埋没上下位・中位 口縁部片	口 10.8	細砂粒/良好/ 明赤褐色	口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	

大は最大径

NO.	種 類	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考
17	土師器 壺	+26 完形	口 20.4 底 7.5 高 24.0	粗砂粒/良好/明 赤褐色	口縁部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ磨き。内面胴部はやや窪なヘラ磨き。	
18	土師器 壺	+26 1/2	口 19.6 底 10.0 高 28.6	粗砂粒/良好/明 赤褐色	口縁部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ磨き。内面胴部はやや窪なヘラ磨き。	
19	土師器 甗	+20 1/3	口 17.6 底 4.2 高 24.4	粗砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部は横ナデ、胴部は2~3段の縦方向ヘラ削り。内面胴部は横ナデ。	外面胴部に煤付着。
20	土師器 甗	+10 胴部5/6	頸 16.4 胴 27.4 底 7.8	粗砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部は横ナデ、胴部は上位が横方向ヘラ削り、中位はナデ、下位はヘラ削り後窪なヘラ磨き。	
21	土師器 甗	+10 胴下半	胴 30.2 底 7.0	粗砂粒/良好/に ぶい黄褐色	胴部はヘラ削り後ヘラ磨きであるが、摩滅のため単位不鮮明。内面は横ナデ。	
22	土師器 甗	+28 底部	底 7.6	粗砂粒/良好/に ぶい黄褐色	胴部はヘラ削り。底部もヘラ削りであるが摩滅のため単位不鮮明。	
23	土師器 甗	埋没上中位 底部	底 4.8	粗砂粒/良好/に ぶい黄褐色	底部突起状、整形はヘラ削り、端部は摩滅が激しい。内面は使用痕のため平滑。	
NO.	種 類	器 種	出 土 位 置	残 存 率	計 測 値	備 考
24	石製品	模造品 白玉	カマド	完形	径 0.730 孔径 0.460 孔径 0.225 重 0.43	滑石
25	石製品	模造品 白玉	掘方	1/3	径 — 長 — 孔径 — 重(0.04)	滑石

D区11号竪穴建物

本竪穴建物は南東部分の8分の1程度が発掘調査範囲対象外に存在するため全貌や詳細については不明、不明確である。

位置はX=75.216-75.223-Y=-66.958-66.966である。残存状態は竪穴北西部上部を遺跡確認のための試掘坑、南西部上部を重複する遺構によって欠くが確認面から床面まで深度も深く、埋没土上位にはIV層Hr-FPも堆積しており良好な残存状態であった。他遺構との重複関係はD区7号竪穴建物、D区13号竪穴建物と重複が確認された。新旧関係は本竪穴建物のほうが重複する両遺構より古い。

平面形態はD区9号竪穴建物と同様に東西方向が12cmほど長い、各角はほぼ直角であるのではば方形を呈する。規模は南北方向7.12m、東西方向7.24m、各辺長は北辺6.64m、西辺6.78m、壁高80~114cmを測る。床面積は調査範囲内で36.2㎡を測り、全体では推定39.6㎡になるとみられる。主軸方位はN-84°-Eを指す。

内部施設は柱穴、周溝を検出した。貯蔵穴は本遺跡の例ではカマド右側に位置することから調査範囲外に存在すると想定される。柱穴は5本検出されたが、P2、P5は他の柱穴に比べると深度が浅いことなどから主柱穴間に補助的に設けられた柱穴の可能性が窺える。こうしたことからカマド右斜め前には柱穴P1に対応する柱穴の存在が想定される。各柱穴の規模はP1が径26×22cm、深度65cm、P2が径16×13cm、深度10cm、P3が

径27×13cm、深度65cm、P4が径37×22cm、深度59cm、P5が径45×35cm（一段内側の径15×13cm）、深度23cmである。周溝はカマド左側から北辺、西辺の南西角付近までと南辺の西よりで検出し、規模は幅15~20cm、深度5~8cmである。床面は中央部は地山であるVII層をそのまま踏み固めて硬化面としていたが、周辺部は掘方が存在するのでV層の黒色土とVII層のローム土を混合した土で埋め戻し、踏み固めているが、中央部ほど硬化した状態ではなかった。

カマドは東辺に構築されているが、煙道付近は調査範囲外に存在するため全貌は不明である。残存状態は他の竪穴建物カマドと同様に天井、焚き口部は壊され、ソデの基部だけが残存している状態である。規模は調査範囲内で全長1.50m、幅0.80m、燃焼部幅0.33mである。燃焼部には20cm前後の角礫、円礫が多く存在しており、天井やソデの補強に使用されていたものがカマド内側に落とされたまま残されたものとみられる。また、調査区境面には燃焼部面より50~60cmほどの高さで円礫が残されているが、これらの礫の存在はカマドの破壊が煙道部までは及んでいなかったことが想定される。

掘方は柱穴間内部を台状に残すように周辺部を幅1~1.2mで深さ15~20cmほど掘り込んでいる。掘り込み面は掘削時の凹凸が多く残っていた。

埋没状態は土層断面の観察ではレンズ状の堆積がみられることから自然埋没と判断される。なお、最上部にはIV層Hr-FPが最大の厚さ40cmほど攪拌を受けない状態で

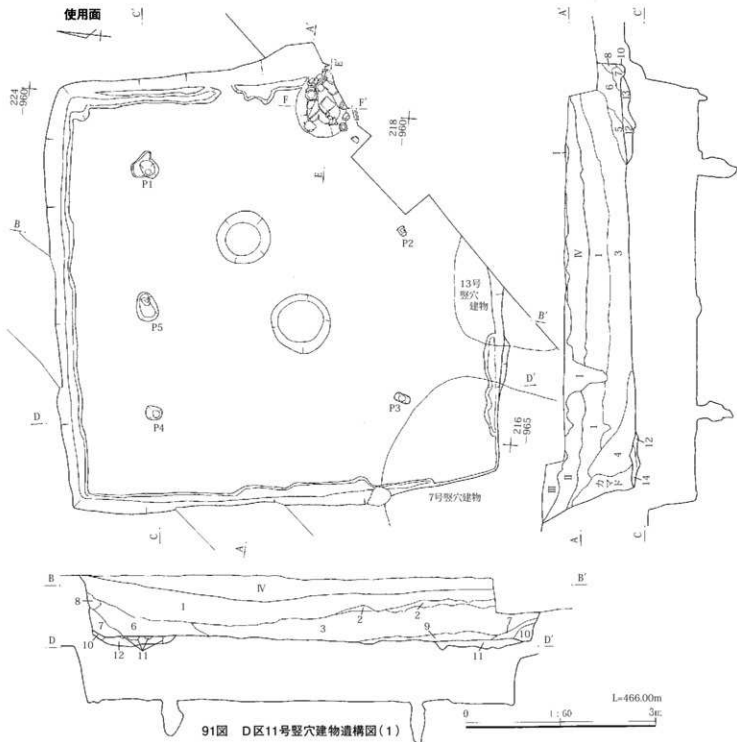
IV 検出した遺構と出土した遺物

堆積していた。

遺物出土状態は北辺のやや内側に沿って土器、礎、炭化材がまとめて出土しているが、これらの遺物はみな床面より15~50cmほど高い位置であることから埋没過程で投棄されたものとみられる。他の箇所ではカマドに据え付けられていた32、33の土器器糞や4の杯、高杯などがまとめて出土した以外は散在的な出土状態で

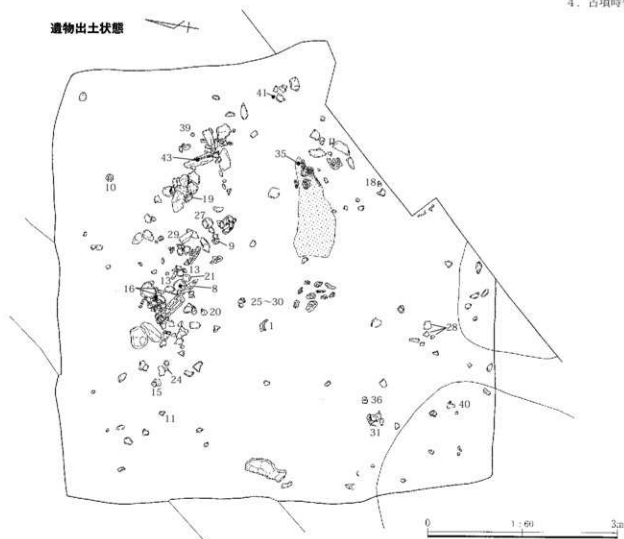
あった。なお、掲載した以外の出土土器数量は土師器杯90点、高杯2点、甕1357点があった。また、この竪穴建物に伴する土器群と投棄された土器群では明確な時間差がみられないことから竪穴建物廃棄後あまり時間が経過しない段階での投棄と考えられる。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物より6世紀前半代に比定できる。



91図 D区11号竪穴建物遺構図(1)

遺物出土状態



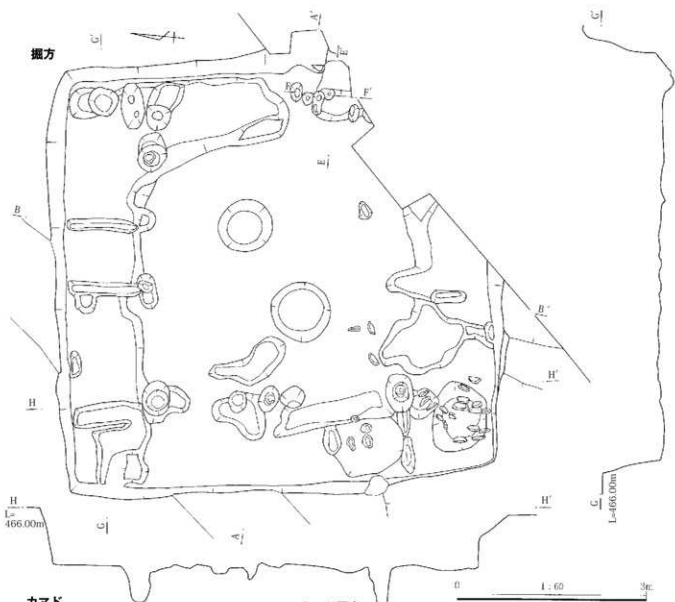
92図 D区11号竪穴建物構図(2)

DK11号竪穴建物

- 1 黒褐色土(10YR2/2) VとⅥの混合上、 ϕ 0.5cmのローム粒を1%含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) Ⅰに類似、 ϕ 1~7cmのロームブロックを30%含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/3) V主体、Ⅵが混入、 ϕ 1~5cmのロームブロックを20%含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/3) 3と同様、ロームブロックは10%ほど含む。
- 5 黒褐色土(10YR2/2) VとⅥの混合上、 ϕ 1~3cmのロームブロックを10%含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/2) V主体、Ⅵが混入、 ϕ 1~3cmのロームブロックを3%含む。
- 7 黒褐色土(10YR3/1) Vの崩落上、Ⅵが混入。
- 8 黒褐色土(10YR3/2) Vの崩落上。
- 9 黒褐色土(10YR3/1) V主体、 ϕ 1~2cmのロームブロックを10%含む。
- 10 明黄褐色土(2.5Y6/6) ロームブロック主体、Vを含む。
- 11 明黄褐色土(2.5Y6/6) ロームブロック主体、黒色土をしみ状に10%含む。粘土上。
- 12 明黄褐色土(2.5Y6/6) Ⅰに類似、黒色土30%混入。
- 13 黒色土(10YR2/1) Vを敷いた状態、 ϕ 1~2cm、ロームブロックを5%含む。
- 14 灰黄褐色土(10YR5/2) 粘土と黒色土(V)の互層。

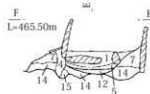
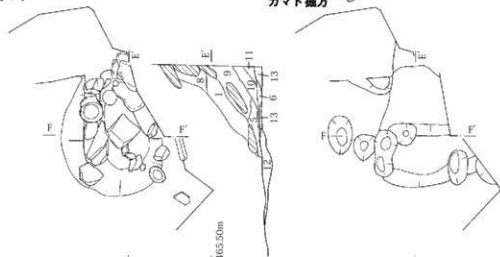
カマド

- 1 灰オリブ土(5Y6/2) 焼土粒を3%含む。
- 4 灰黄褐色粘土(10YR6/2) Ⅰにやや焼土を含む。
- 5 明褐色土(7.5YR5/6) 焼土粒を主体とする。
- 6 棕色土(7.5YR6/6) カマド燃焼部。
- 7 灰オリブ粘土(5Y6/2) カマドソデ部。
- 8 灰オリブ粘土と黒色土(V)、焼土ブロック(ϕ 1cm)の混じり合った土(7:2.5:0.5)。
- 9 灰オリブ粘土と黒色土(V)、焼土ブロック(ϕ 1cm)の混じり合った土(5:4:1)。
- 10 灰オリブ粘土と黒色土(V)、焼土ブロック(ϕ 1cm)の混じり合った土(4:4:2)。
- 11 6と同様。
- 12 明赤褐色土(2.5YR5/6) カマド燃焼部。
- 13 褐灰色土(10YR4/1) Vに灰オリブ粘土のブロックが20~30%混入したもの。
- 14 黒褐色土(10YR3/2) Vに灰オリブ粘土のブロックが30~40%混入したもの。
- 15 黒褐色土(10YR3/2) Ⅰに類似、焼土粒を5%含む。

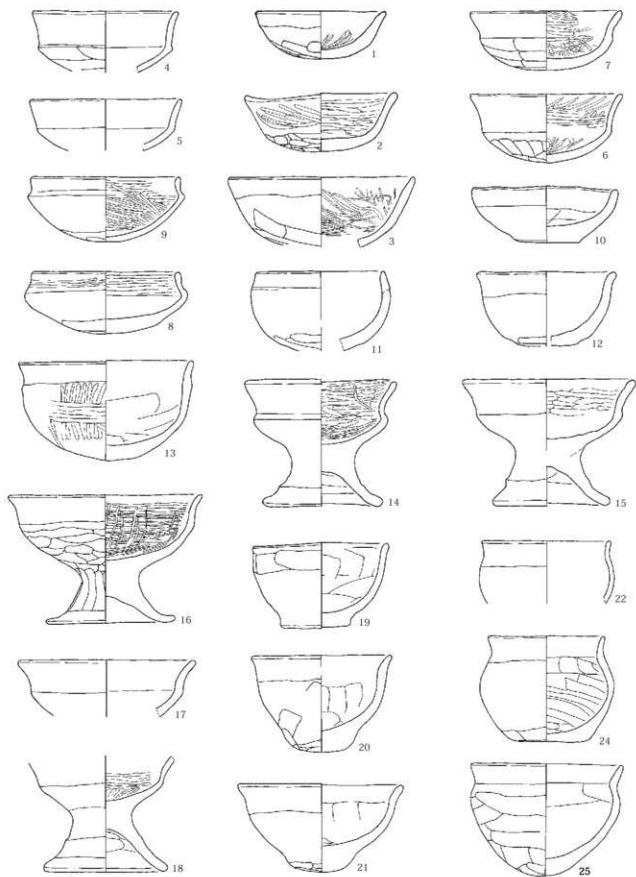


カマド

カマド掘方

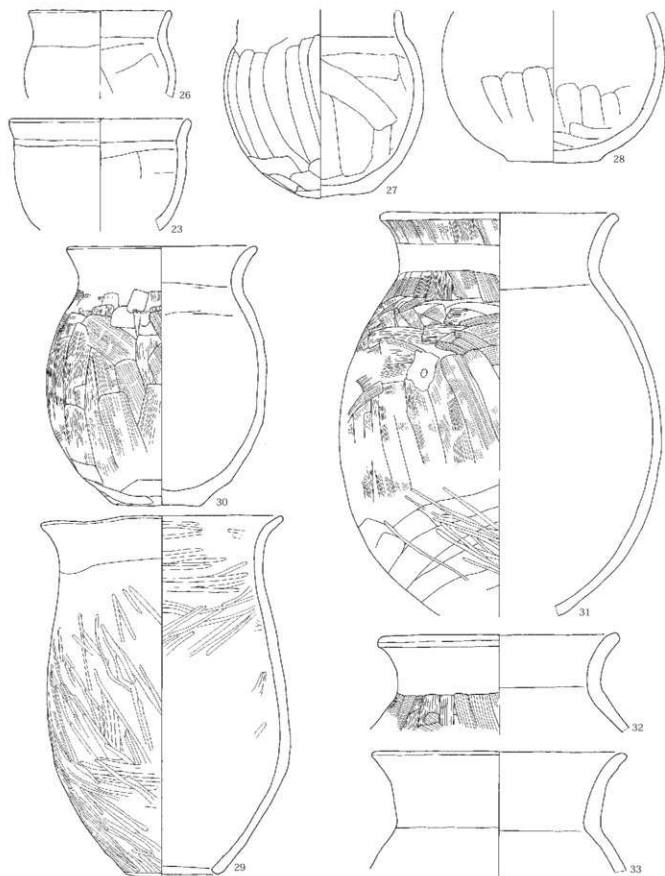


93図 D区11号竪穴建物遺構図(3)



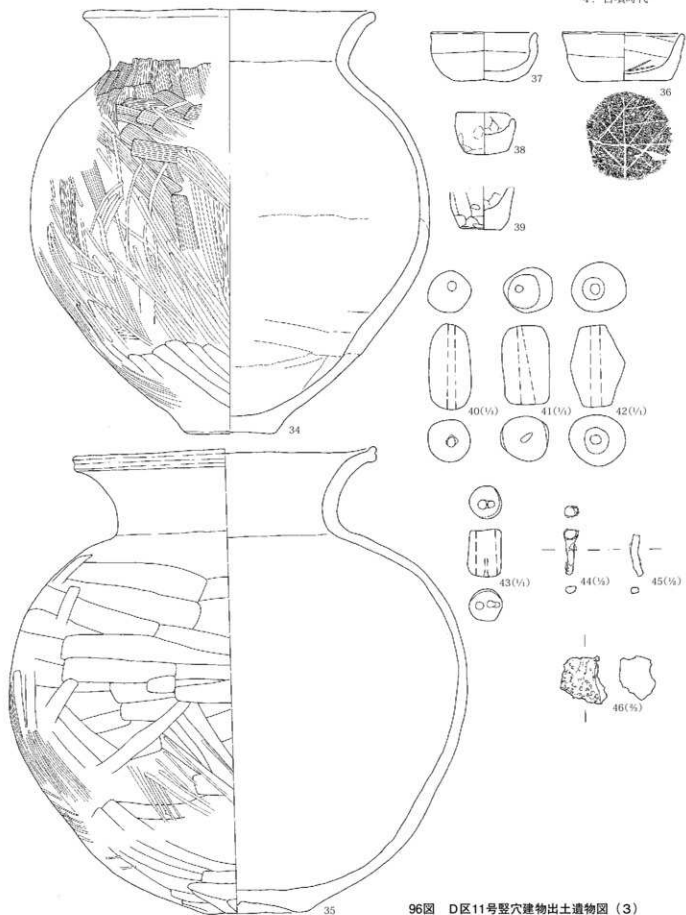
94图 D区11号竖穴建物出土遺物图(1)

IV 検出した遺構と出土した遺物



95図 D区11号竪穴建物出土遺物図(2)

4. 古墳時代



96图 D区11号竖穴建物出土遗物图(3)

NO.	種別	類	出土位置 残存率	計測値	畜土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器	杯	床面 口縁部1/4欠	口 10.2 高 3.2	細砂粒/良好/に ふい黄橙	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	Db
2	土師器	杯	カマド 完形	口 11.8 底 8.6 高 4.7	細砂粒/良好/赤 ふい黄	口縁部はやや斜め方向のヘラ磨き、底部はヘラ削り、 内面口縁部は横方向のヘラ磨き。	Db
3	土師器	杯	埋没上中位 1/3	口 14.4	細砂粒/良好/橙	口縁部上位は横ナデ、中位はナデ、下位から底部は ヘラ削り。	Db
4	土師器	杯	カマド 口縁部片	口 11.2 径 10.6	細砂粒/良好/橙	口唇部は平坦面をもつ。口縁部は横ナデ、稜下は ヘラ削り。	Ca-3
5	土師器	杯	埋没上中位 口縁部片	口 11.8 径 10.8	細砂粒/やや軟 質/明赤褐	口縁部上半は横ナデ、稜下はヘラ削りであるが、摩 滅のため単位不明。	Ca-3
6	土師器	杯	+26 3/4	口 11.8 径 10.2 高 5.4	細砂粒/良好/に ふい黄	内面黒色処理。口縁部横ナデ、稜下から底部はヘラ 削り。内面は口縁部横、底部斜放射状ヘラ磨き。	Ea
7	土師器	杯	埋没上中位 1/4	口 11.8 径 10.4 高 4.6	細砂粒/良好/に ふい黄橙	内面黒色処理。口縁部横ナデ、稜下から底部はヘラ 削り。内面は口縁部横、底部不定方向ヘラ磨き。	Ea
8	土師器	杯	+18、40 ほぼ完形	口 11.4 径 12.8 高 4.9	細砂粒/良好/に ふい黄橙	内面黒色処理。口縁部は横ナデ、稜下はナデ、底部 はヘラ削り。内面は口縁部、底部ともヘラ磨き。	G
9	土師器	杯	+15、中位 1/3	口 11.6 径 12.4 高 5.1	細砂粒/良好/に ふい黄	内面黒色処理。口縁部は横ナデ、稜下はナデ、底部 はヘラ削り。内面は口縁部、底部ともヘラ磨き。	G
10	土師器	杯	+60 完形	口 11.2 底 5.0 高 4.5	細砂粒/良好/橙	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ底部はヘラナデ。 内面底部はヘラナデ。	
11	土師器	杯	+33 1/4	口 9.8	粗砂粒/良好/に ふい黄橙	口縁部に輪溝が残る。口縁部上位は横ナデ、中位・ 下位はナデ、底部はヘラ削り。	B
12	土師器	鉢	埋没上中位 1/8	口 10.4 底 5.4 高 5.9	細砂粒/良好/に ふい黄橙	口縁部上位は横ナデ、中位・下位はナデ。底部はヘ ラ削り。	Cb
13	土師器	鉢	+38、41、中位 口縁部1/4欠	口 13.4 高 7.9	粗砂粒/良好/灰 黄	口縁部横ナデ、体部ヘラ磨き、底部はヘラ削りであ るが摩滅のため単位不明。内面体部ヘラナデ。	Cb
14	土師器	高杯	カマド 口縁部一部欠	口 11.6 底 5.8 高 10.0 脚 8.6	細砂粒/良好/に ふい黄橙	内面黒色処理。口縁部横ナデ、稜下から脚部上半ナ デ、脚部底部横ナデ。内面杯身ヘラ磨き。	C
15	土師器	高杯	+32 脚部一部欠	口 13.2 底 6.0 高 10.0 脚 8.6	細砂粒/良好/に ふい黄橙	内面黒色処理。口縁部横ナデ、稜下から脚部上半ナ デ、脚部底部横ナデ。内面杯身ヘラ磨き。	C
16	土師器	高杯	+17、38 3/4	口 15.0 底 5.0 高 10.0 脚 9.6	粗砂粒/良好/に ふい黄	内面黒色処理。口縁部横ナデ、稜下から脚部上半ヘ ラ削り、脚部底部横ナデ。内面杯身ヘラ磨き。	C
17	土師器	高杯	埋没上中位 口縁部片	口 14.6	細砂粒/良好/に ふい黄橙	口縁部横ナデ、稜下ナデ。	C
18	土師器	高杯	床面 杯身大半欠	底 5.0 脚 9.2	細砂粒/良好/に ふい黄橙	内面黒色処理。口縁部横ナデ、稜下ナデ、脚部横ナ デ。内面杯身ヘラ磨き。	C
19	土師器	鉢	+22 口唇部一部欠	口 10.4 底 5.5 高 6.7	粗砂粒/良好/灰 黄	口唇部横ナデ、口縁部ヘラナデ、体部ナデ、底部ヘ ラナデ。内面はヘラナデ。	Ad
20	土師器	鉢	+38 1/2	口 10.8 底 4.8 高 7.6	粗砂粒/良好/灰 黄	口縁部横ナデ、体部ヘラ削り後ナデ、底部はヘラ削 り。内面体部はヘラナデ。	Aa
21	土師器	鉢	+38 口縁部一部欠	口 12.4 底 4.8 高 7.0	粗砂粒/良好/灰 黄	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部はヘラ削り。内面体 部はヘラナデ。	Aa
22	土師器	鉢	埋没上中位 口縁部一部片	口 10.0	細砂粒/良好/に ふい黄橙	口縁部横ナデ、体部ヘラ削り後ナデ。	
23	土師器	鉢	床面、カマド 口縁部一部片	口 13.6	粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部ヘラ削り後ナデ。内面体部はヘ ラナデ。	Ca
24	土師器	小型甕	+48、下位・中位 5/6	口 8.8 底 5.6 高 8.2	細砂粒/良好/に ふい黄	口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り後ナデ、最下部にヘラ 削りが残る。底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
25	土師器	小型甕	+25 1/3	口 11.6 底 4.0 高 8.8	粗砂粒/良好/濁 灰	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は横方向ヘラ削り、 底部ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
26	土師器	小型甕	カマド、下位 口縁部胴部上片	口 10.8	粗砂粒/良好/に ふい黄	口縁部横ナデ、胴部は摩滅のため整形不明。内面胴 部はヘラナデ。	
27	土師器	小型甕	+18 口縁部欠	底 6.0 頸 13.3 胴 15.8	粗砂粒/良好/に ふい黄	胴部は上位・中位が縦方向、下位は斜め方向ヘラ削 り。内面胴部はヘラナデ。	
28	土師器	小型甕	床面、下位 胴部一部片	底 7.0 胴 17.6	粗砂粒/良好/に ふい黄橙	胴部は縦方向ヘラ削り後ナデ、底部はヘラ削り。内 面胴部はヘラナデ。	
29	土師器	甕	+37 ほぼ完形	口 18.8 底 7.0 高 28.4	粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、胴部はヘラ磨き。内面胴部はヘラナ デ。上半にヘラ磨き。	
30	土師器	甕	+25 ほぼ完形	口 14.7 底 7.0 高 20.4	粗砂粒/良好/灰 黄	口縁部横ナデ、胴部上位・中位は縦方向ハゲ目、下 位は横方向ヘラ削り、底部はヘラ削り。内面ヘラナデ。	

NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
31	土師器 費	+17 1/2	口 18.8 胴 25.4	粗砂粒/良好/ ぶい黄橙	口縁部から胴部中位は履方向ハケ目、口縁部中位に横ナデ、下位はヘラ削り後へラ磨き。	胴部上位に焼成後の穿孔1項有り。
32	土師器 費	カマド 口縁部一頭部	口 18.4	粗砂粒/良好/ ぶい橙	口縁部横ナデ、胴部履方向ハケ目。内面胴部はヘラナデ。	
33	土師器 費	カマド 口縁一胴部上位片	口 19.2	粗砂粒/良好/ ぶい黄橙	口縁部横ナデ、胴部はナデ、内面胴部はヘラナデ。	
34	土師器 費	+51 1/2	口 23.4 底 6.6 胴 31.6 高 33.8	粗砂粒/良好/ ぶい橙	口縁部横ナデ、上位はハケ目、中位はへラ磨き、下位・底部はへラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
35	土師器 費	床面 一部欠	口 23.4 底 7.8 胴 36.0 高 36.4	粗砂粒/良好/ ぶい黄橙	口縁部横ナデ、胴部へラ削り、中位にへラ磨き。内面胴部はヘラナデ。	口唇端部は須恵窯の口唇端部を模倣。
36	土師器 模造品	床面 口縁部一部欠	口 9.4 底 6.6 高 3.9	粗砂粒/良好/明 赤褐	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ、底部は木葉痕。内面はヘラナデ。	杯
37	土師器 模造品	埋没上下位 1/3	口 8.0 底 4.4 高 3.9	粗砂粒/良好/明 赤褐	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ、底部はヘラナデ。	杯
38	手捏ね土器 椀形	埋没上位 ほぼ完形	口 4.5 底 3.4 高 3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部に指頭痕が残る、底部はヘラナデ。内面は強いナデ。	
39	手捏ね土器 椀形	+31 口唇端部欠	底 3.2	細砂粒/良好/橙	口縁部に指頭痕が残る、底部はヘラナデ。内面は強いナデ。	
NO.	種類	器種	出土位置	残存率	計測値	摘要
40	土製品	土 鎌	+28	完形	長 2.3 幅 1.1 厚 1.1 孔 0.2 重 2.6	端部丸みあり
41	土製品	土 鎌	+20	完形	長 2.1 幅 1.2 厚 1.2 孔 0.2 重 3.61	端部平坦面
42	石製品	切子玉	+42	完形	径 0.780~1.380 長 2.160 孔径 0.200 重 5.10	蛇紋岩
43	石製品	管玉	+25	完形	径 0.890 長 1.265 孔径 0.185~0.375 重 1.6	莫ろう石
44	鉄器	釘	埋没上位	下半部欠損	長(2.4) 幅 0.75 厚 0.4 頭 0.7×0.5 重 (1.4)	
45	鉄器	釘	埋没上位	両端部欠損	長(2.2) 幅 0.4 厚 0.3 重 (0.8)	

D区11号竪穴建物 出土鉄関連遺物観察表

PL.144

NO.	遺物名	出土位置	計測値 (cm)			重量 (g)	磁着度	メタル度	特徴など
			長	幅	厚さ				
46	マグネタイト系 遺物 (含鉄)	埋没土中位	1.9	1.9	1.4	10	4	H(○)	暗青灰色。表面にはわずかな凹凸ある。

D区12号竪穴建物

本竪穴建物は南東部分の3分の2程度が発掘調査範囲対象外に存在するため全貌や詳細については不明、不明確である。また、本竪穴建物では竪穴部分の周囲を取り囲むように確認面から10~20cmほど掘り下げられた状態であった。この掘削面では径10~30cmの掘削痕が大量に残っていた。当初、この掘削面はD区12号竪穴建物とは別な遺構と判断したが、竪穴建物との土層断面で周堤帯の範囲であると判断した。

位置はD区調査区北半中程の東端、周堤帯範囲を含む範囲はX=75.240~75.249-Y=-66.935~-66.941、竪穴部分はX=75.243~75.248-Y=-66.936~-66.939である。残存状態は周堤帯部分が本来の地表面より深く掘削されており全く残存していないが、竪穴部分は比較的良好であった。他遺構との重複関係は周堤帯、竪穴部分のどちらでも確認されなかった。

平面形態は竪穴建物は方形ないしは長方形を呈するとみられるが、周堤帯は楕円形に近い範囲が想定され

る。規模は竪穴部分が南北4.70m、東西2.60m+a、辺長は北辺2.40m+a、西辺4.60m、壁高は確認面から1m前後、周堤帯部分の掘削面から53~92cmを測る。主軸方位はカマドが東辺に構築されているならばN-99°-Eを指す。

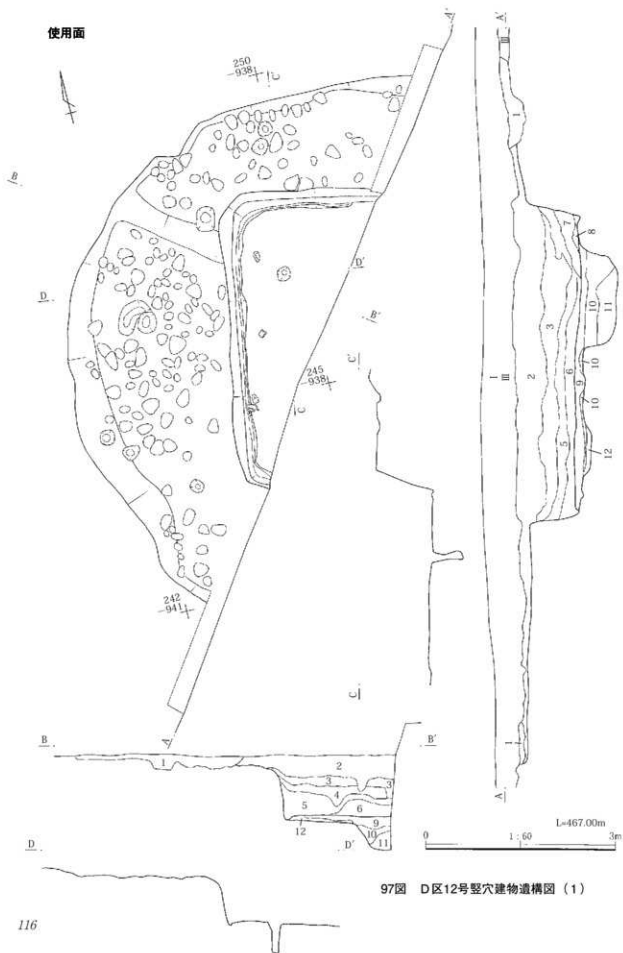
周堤帯と想定した範囲はこの竪穴建物の構築年代がHr-FP降下後あまり時間を経ないで構築したため周堤帯として盛り土する範囲に堆積したHr-FPを除去するため掘削したことによる痕跡ではないかと想定される。

内部施設は柱穴1本と周溝を検出した。柱穴は北辺から1.1m、西辺から0.75mの位置で規模は径25×22cm、深度53cmである。周溝は北辺の中程から西辺、南辺にかけて掘り込まれており、規模は幅10~13cm、深度3~7cmである。床面は北辺の壁際では地山を直接使用しているところもあるが、大部分ではロームブロックを含む黒色土で埋め戻して踏み固め硬化面としていた。

カマドは発掘調査範囲対象外に位置するとみられる。掘方は床面よりさらに10cm前後掘り込まれており、

IV 検出した遺構と出土した遺物

使用面



97図 D区12号竪穴建物遺構図(1)

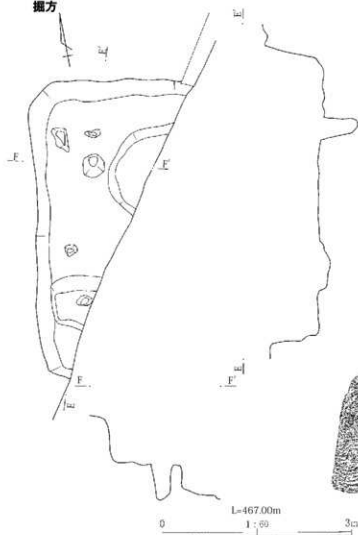
北辺よりで径1.60×0.60m+a、深度0.54mの床下土坑を検出した。この床下土坑はロームブロックを含む黒色土で埋め戻されていることからカマドの構築材として使用するⅢ層、Ⅸ層のローム土を採取するために掘削されたものとみられる。

埋没状態は周堤帯の痕跡と判断した掘り込みの存在や土層断面で中央部に盛り土状の埋没土、埋没土5の不自然な堆積状態などが観察できることから人為的に埋め戻

D区12号竪穴建物

- 1 黒褐色土(10YR2/2) Ⅲに類似、Hr-PPを30%ほど含む。
- 2 黒色土(5Y2/1) Ⅰに類似、Hr-PPを30~40%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) Ⅰ・Ⅱに類似、Hr-PPを50%含む。
- 4 黒色土(10YR2/1) Hr-PPを10%とφ50~70mmのロームブロックを10%含む。
- 5 黒色土(10YR1.7/1) ローム粒を3%含む。
- 6 オリーブ灰(5Y3/2) φ3cmのロームブロックを10%含む。
- 7 黒褐色土(10YR3/1) Vの流れ込み、φ0.5~1cmのロームブロック

掘方



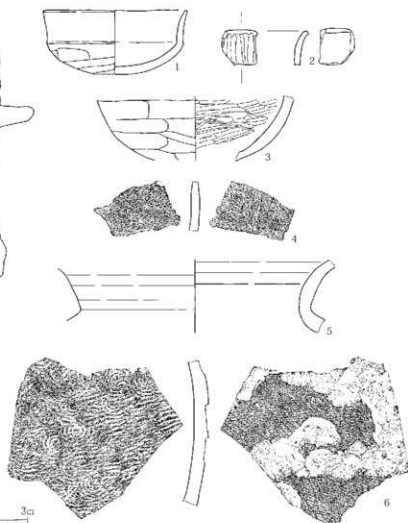
98図 D区12号竪穴建物遺構図(2)

されたと判断できる。

出土遺物はカマドや貯蔵穴が存在する部分が発掘調査範囲対象外のため出土量自体も少なかった。なお、掲載した以外の出土土器数量は土師器高杯2点、婁83点があった。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から6世紀後半代に比定できる。

- 8 黒色土(10YR2/2) V・VIの混合土、φ1~3cmのロームブロックを20%含む。
- 9 黒色土(5Y2/1) φ1~10mmのロームブロックを30%含む。
- 10 黒色土(5Y2/1) Ⅰと同様であるが、ロームブロック、ローム粒が10%ほどである。
- 11 黒褐色土(2.5Y3/2) φ1~7cmのロームブロックを30~40%含む。
- 12 明黄褐色土(2.5Y6/6) ロームを主体とする。



99図 D区12号竪穴建物出土遺物図

D区12号竪穴建物

No.	種別	類種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器	杯	埋没上中 1/3	口 11.2 径 10.7 高 5.0	細砂粒/やや軟 質/橙	口縁部上半は横ナデ、稜下から底部はヘラ削り。	Ca-3
2	土師器	杯	断面 口縁部小片		細砂粒/良好/褐	内面黒色処理。口縁部横ナデ。	
3	土師器	杯	埋没上下位・中位 底部片	径 15.4	細砂粒/良好/ ふい黄褐	内面黒色処理。外面はヘラ削り。内面はヘラ磨き。	
4	土師器	甕	埋没上中 胴部小片		細砂粒/良好/ ふい黄褐	外面ハケ目。	
5	須恵器	甕	周堤帯 口縁下半～頸部片		細砂粒/還元焼 /灰	ロクロ整形。	
6	須恵器	甕	周堤帯 胴部片		粗砂粒/酸化焼 /橙	外面平行叩き痕、内面同心状アケ具痕が残る。	

D区14号竪穴建物

本竪穴建物は南東部分の3分の2程度が発掘調査範囲対象外に存在するため全貌や詳細については不明、不明確である。

位置はD区調査区の北東部の東端、X=75.257～75.262 - Y=-66.926～-66.932である。残存状態は確認面から床面まで深度も深く、埋没土上位にはIV層の堆積がそのまま残っており良好であった。他遺構との重複関係は本竪穴建物の調査面である第1面では確認されなかったが、北辺部で第2面の遺構であるD区56号土坑との重複が確認された。新旧関係は本竪穴建物のほうが新しい。

平面形態は南辺にやや膨らみをもつが方形または長方形を呈すると想定される。規模は南北5.40m、東西3.40m + a、辺長は南辺3.20m + a、西辺4.92m、壁高88～108cmを測る。主軸方位はカマドが東辺に構築されているならばN-150°-Eを指す。

内部施設は柱穴1本と周溝を検出した。柱穴は南辺から1.48m、西辺から1.20mの位置で規模は径32×26cm、深度14cmである。深度は浅いが床面から10cmほどの深さには12cmほどの扁平な礫が据え付けられており、礎石的な役割を持っていたとみられる。周溝は南辺の南西角から東へ1.2mほどは確認されなかったが、その他の辺壁下からは検出された。規模は幅10～13cm、深度3～4cmである。床面は北辺の壁際では地山をそのまま使用しているところもあるが、大部分ではロームブロックを含む黒色土で埋め戻して踏み固め硬化させていた。

掘方は床面よりさらに5～10cm前後掘り込まれてお

り、西辺から内側に向けて溝状の掘り込みも確認された。また、南西角よりでは径1.06×1.00m、深度0.70mの床下土坑を検出した。この床下土坑はロームブロックを含む黒色土で埋め戻されていることからカマドの構築材として使用するⅤ層、Ⅹ層のローム土を採取するために掘削されたものとみられる。

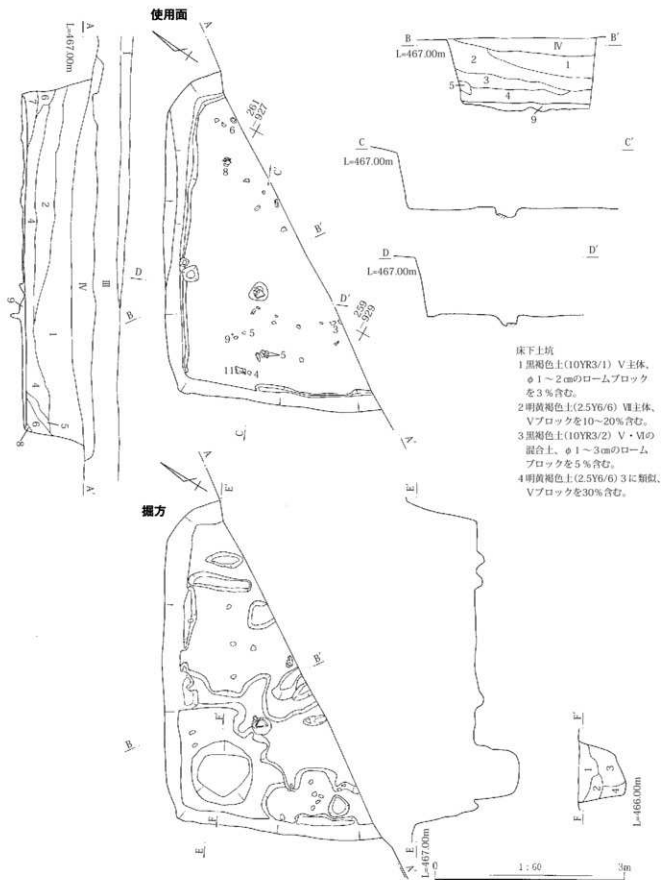
埋没状態は土層断面でレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没である。

出土遺物は遺物が集中して出土するカマド、貯蔵穴周辺が発掘調査範囲対象外のためあまり多くなかった。その出土状態は散在した状態で、出土した高さも床面から20～30cmほどの高さが最も多かった。なお、掲載した以外の出土土器数量は土師器杯55点、高杯1点、甕296点があった。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から6世紀前半代に比定できる。

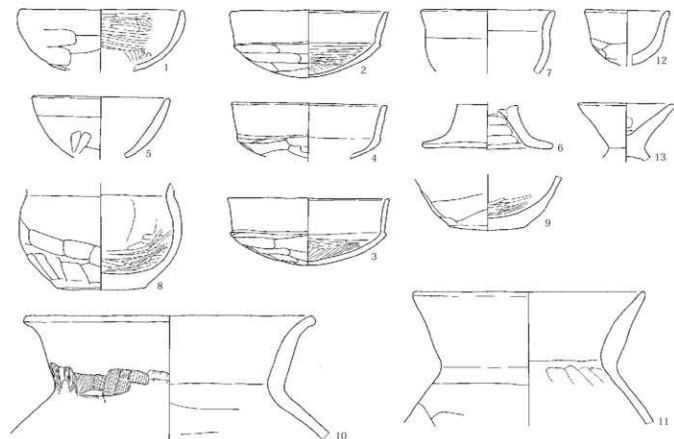
D区14号竪穴建物

- 黒褐色土(10YR2/2) Vに類似、Ⅳが混入か、φ3～5mmのローム粒を1%含む。
- 黒褐色土(10YR2/3) Iに類似、Ⅳブロックを含む。
- 黒褐色土(10YR3/2) V、Ⅳ、Ⅴの混合土、下部はⅤ主体、上部はφ1～5cmのⅣをⅤのブロックが混入。
- 黒褐色土(10YR3/1) VとⅣの混じり合った土にφ1～3cmのロームブロックを20%含む。
- 黒褐色土(10YR3/2) Vに類似、φ0.5cmのローム粒を2～3%含む。
- 黒褐色土(10YR3/1) Vの崩落土。
- 黒褐色土(10YR3/1) Vの流れ込み、φ0.5～1cmのロームブロックを3%含む。
- 黒色土(10YR2/2) Ⅳ・Ⅴの混合土、φ1～3cmのロームブロックを20%含む。
- 明黄褐色土(2.5Y6/6) Ⅳ主体、Ⅴをしみ状に5～10%含む。全体的に上面は硬化。



100図 D区14号竪穴建物遺構図

IV 検出した遺構と出土した遺物



101図 D区14号竪穴建物出土物図

D区14号竪穴建物

PL.144

NO.	器種	類種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器	杯	+21, 28 1/3	口 12.6	細砂粒/良好/褐色	口縁部上半は横ナデ、下半から底部はヘラ削り。内面はヘラ磨き。	Ba-2
2	土師器	杯	埋没上下位・中位 7/8	口 12.4 稜 11.6 高 5.3	細砂粒/良好/褐色	口唇端部は平坦面。口縁部上半は横ナデ、稜下から底部はヘラ削り。内面底部はヘラ磨き。	Ca-1
3	土師器	杯	床面、+8 1/2	口 12.6 稜 12.3 高 5.3	細砂粒/良好/褐色	口唇端部は平坦面。口縁部上半は横ナデ、稜下から底部はヘラ削り。内面底部はヘラ磨き。	Ca-1
4	土師器	杯	+16, 23 1/5	口 12.0 稜 11.3	細砂粒/良好/褐色	口唇端部は平坦面。口縁部上半は横ナデ、稜下から底部はヘラ削り。	Ca-1
5	土師器	椀	+16, 31 1/5	口 10.6	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナデ、体部上半はナデ、下半はヘラ削り。	
6	土師器	高杯	+28 脚部	脚 9.6	細砂粒/良好/褐色	杯身と脚部は差し込み状に接合。脚部は横ナデ、内面はヘラナデ。	
7	土師器	鉢	埋没上下中位 口縁部片	口 10.0	細砂粒/良好/褐色	口縁部は横ナデ、体部はナデ。	
8	土師器	小型甕	+17, 下位 胴部~底部片	頸 11.7 胴 12.7 底 6.9	粗砂粒/良好/に ぶい赤褐色	胴部、底部はヘラ削り。内面はヘラナデ後下半から底部はヘラ磨き。	
9	土師器	小型甕	+34, 中位 胴部下位~底部片	底 6.0	粗砂粒/良好/に ぶい赤褐色	胴部、底部はヘラ削り。内面はヘラナデ後下半から底部はヘラ磨き。	
10	土師器	甕	埋没上中位 口縁部片	口 22.4	粗砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部横ナデ、頸部は縦方向ハケ目。内面胴部はヘラナデ。	
11	土師器	甕	+27 口縁~胴部上位片	口 18.0	粗砂粒/良好/に ぶい黄褐色	頸部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部下まで横ナデ。胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
12	手捏ね土器	椀形	床直 1/5	口 6.4	細砂粒/良好/赤褐色	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ。	
13	土師器	甕蓋	埋没上 蓋み片	蓋 7.2	細砂粒/良好/赤褐色	蓋みと天井部は接合か。蓋みは内外面ともナデ。	

D区15号竪穴建物

本竪穴建物は発掘調査が実施できたのが東辺よりの一部だけで大部分が発掘調査範囲対象外に存在するため全貌や詳細については不明、不明確である。なお、出土遺物には柱材とみられる炭化材が存在するが、カマドは大きく破壊されていることなどから廃棄後に不要になった柱材などを焼却したことによるとみられる。

位置はD区調査区の北西部の西端、 $X=75.237\sim 75.242$ 、 $Y=-66.953\sim -66.957$ である。残存状態は確認面から床面まで深度も深く、埋没土上位にはIV層の堆積がそのまま残っており良好であった。他遺構との重複関係は確認されなかった。

平面形態は各辺がやや弧状になるが、方形または長方形を呈すると想定される。規模は計測できる部分が少ないが、東辺は4.62m、南辺は $2.20\text{m} + \alpha$ 、壁高は $89\sim 92\text{cm}$ を測る。主軸方位は $N-108^\circ-E$ を指す。

内部施設は柱穴が1本と貯蔵穴、周溝を検出した。柱穴は貯蔵穴と接する位置でP1を検出したが、位置関係から主柱穴が4本の形態と推定される。規模は径 $22\times 18\text{cm}$ 、深度 18cm である。貯蔵穴は南西角際に位置し、平面形態はやや台形に近い矩形を呈す。規模は長径 129cm 、短径 87cm 、深度 102cm である。貯蔵穴からは土師器高杯、小型甕、甕が出土しているが、上位からの出土が多く、下位からの出土は16の土師器小型甕だけである。周溝はカマド部分を除いた東辺・南辺の壁下で検出され、規

模は幅 $15\sim 20\text{cm}$ 、深度 $4\sim 6\text{cm}$ である。床面は掘方底面より $10\sim 15\text{cm}$ ほどの厚さにロームブロックを主とした土砂で埋め戻し、表面を踏み固めて硬化面としていた。

カマドは東辺の中央よりやや南よりに構築されていた。残存状態は天井や焚き口は大きく壊され、ソデの下部が残る程度であった。規模は全長 1.46m 、幅 1.03m 、燃焼部幅 0.40m を測る。煙道部や燃焼部天井には比較的大きな扁平な礫が補強に使用されている。カマド前方には燃焼部の天井に使用されたとみられる長さ 54cm 、幅 23cm 、厚さ 15cm ほど角礫が出土している。煙道部は壁外に 0.38m 延びるが、燃焼部奥壁は燃焼部底面から 130° の角度で立ち上がり 70cm ほど上部で煙道へ移行する。

掘方は床面より $15\sim 20\text{cm}$ ほど掘り込まれており、底面は $5\sim 10\text{cm}$ の高低差がある段が残る。

埋没状態は土層断面で周辺から土砂が流れ込みレンズ状の堆積をした様子が観察できることから自然埋没である。なお、中央部では床面から 30cm ほど埋没した段階でIV層のHr-PPが降下、堆積している。

出土遺物は本竪穴建物の調査範囲がカマド、貯蔵穴の周囲であることから比較的多くの遺物が出土している。また、カマド、貯蔵穴以外から出土した遺物も床面から 10cm 以内の高さから多くみられた。なお、掲載した以外の出土土器数量は土師器杯9点、甕86点があった。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から6世紀前半代に比定できる。

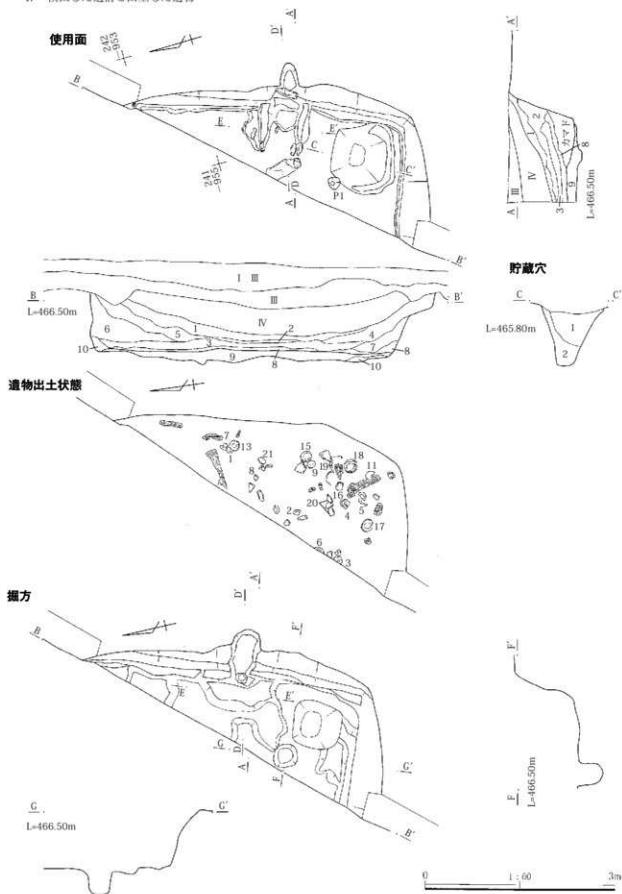
カマド

- 1 ぶい黄色土(2.5Y6/3) 砂質土、含有物はみられない。
- 2 黄褐色土(2.5Y5/3) 粘質土、黒色土ブロックを1%含む、天井崩落土。
- 3 暗灰黄褐色土(2.5Y4/2) Vと2の混じり合った土、焼土粒を3%含む。
- 4 黒褐色土(2.5Y3/2) M・Vの流れ込み、2のブロック10%と焼土ブロックを10%含む。
- 5 黒色土(10YR3/1) 灰。
- 6 灰と焼土ブロックの混合土。
- 7 黒褐色土(10YR3/1) Vに類似、2ブロックを10%含む。
- 8 黒褐色土(2.5Y3/2) 4に類似、2・10のブロック10%と焼土ブロックを20%含む。
- 9 暗灰褐色土(10R3/3) 焼土。
- 10 灰黄褐色土(10YR6/2) 粘土、部分的に焼土。
- 11 黒色土(10YR2/1) 灰、 $\phi 1\sim 2\text{cm}$ のロームブロックを20%含む。
- 12 黒褐色土(10YR3/2) $\phi 1\sim 3\text{cm}$ のロームブロック10%と10のブロックを5%含む。
- 13 $\phi 1\sim 5\text{cm}$ のロームブロックとVの混じり合った土(6:4)。

D区15号竪穴建物

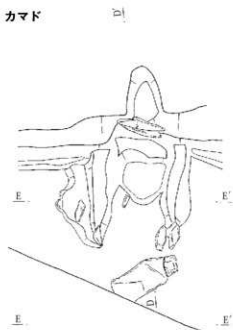
- 1 暗褐色土 ローム粒、焼土粒を含む。
 - 2 暗オリーブ カマド構築土、ローム土主体。
 - 3 褐色土 $\phi 0.5\sim 4\text{cm}$ のロームブロックを多くと炭化物を少量含む。
 - 4 暗オリーブ 焼土、ロームブロックを10%含む。
 - 5 褐色土 焼土、炭化物を多く含む。
 - 6 赤褐色土 焼土主体。
 - 7 黒褐色土 ローム粒を3%含む。
 - 8 褐色土 焼土、炭化物を多く含む。
 - 9 明黄褐色土(2.5Y6/6) ロームブロック主体、黒色土をしまひに20%含む。
 - 10 黒色土(10YR2/1) Vと同じであるが上部にロームブロックを10%含む。落し穴にロームを充填している。
- 貯蔵穴
- 1 黒褐色土 焼土粒を3%含む。
 - 2 暗褐色土 炭化物を含む。

IV 検出した遺構と出土した遺物

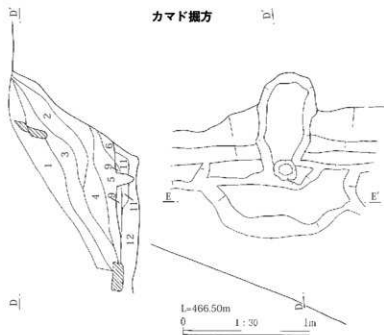


102図 D区15号竪穴建物遺構図(1)

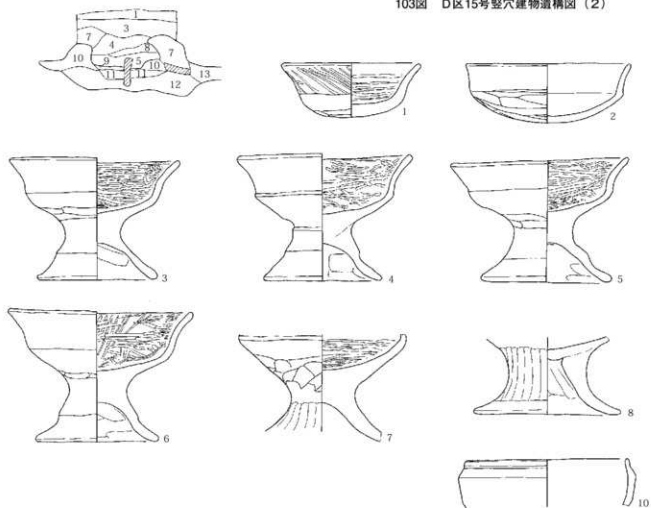
カマド



カマド掘方

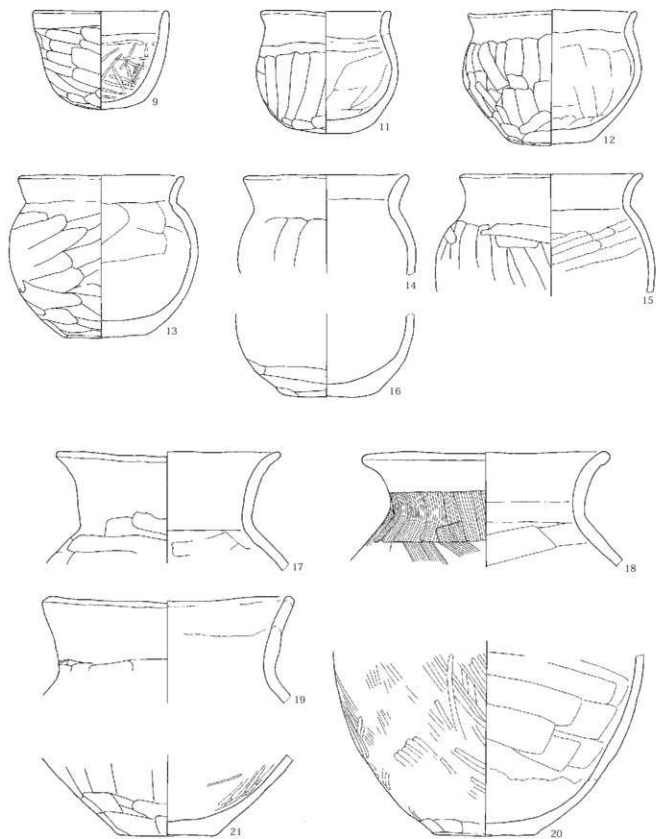


103図 D区15号竪穴建物遺構(2)



104図 D区15号竪穴建物出土遺物図(1)

IV 検出した遺構と出土した遺物



105図 D区15号竪穴建物出土遺物図(2)

D区15号竪穴建物

PL.145・146

NO.	種器類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	床面 ほぼ完形	□ 10.6 底 7.0 高 4.3	細砂粒/良好/明 赤褐色	口縁部上半は斜方向へラ磨き、下半はナデ、底部はへラ削り。内面は口縁部、底部は放射状へラ磨き。	Db
2	土師器 杯	+10、中位 完形	□ 12.8 底 12.0 高 4.7	細砂粒/良好/明 赤褐色	口縁部上半は横ナデ、横下から底部はへラ削り。	Ca-2
3	土師器 高杯	床面 ほぼ完形	□ 13.0 底 6.0 高 9.6 脚 9.0	細砂粒/良好/明 赤褐色	口縁部上半横ナデ、下半から脚部上半ナデ、基部横ナデ。内面杯身はへラ磨き、脚部はへラナデ。	杯身内面黒色処理。 C
4	土師器 高杯	貯蔵穴 ほぼ完形	□ 13.4 底 5.4 高 10.0 脚 9.0	細砂粒/良好/黄 褐色	口縁部上半横ナデ、下半から脚部上半ナデ、基部横ナデ。内面杯身はへラ磨き、脚部はへラナデ。	杯身内面黒色処理。 C
5	土師器 高杯	貯蔵穴 脚部基部1/4欠	□ 13.8 底 6.2 高 10.0 脚 9.6	細砂粒/良好/明 黄褐色	口縁部上半横ナデ、下半から脚部上半ナデ、基部横ナデ。内面杯身はへラ磨き、脚部はへラナデ。	杯身内面黒色処理。 C
6	土師器 高杯	床面 口縁部1/3欠	□ 14.2 底 6.2 高 10.4 脚 9.4	細砂粒/良好/明 黄褐色	口縁部上半横ナデ、下半から脚部上半ナデ、基部横ナデ。内面杯身はへラ磨き、脚部はへラナデ。	杯身内面黒色処理。 C
7	土師器 高杯	床面 口縁下半～脚部上半		細砂粒/良好/明 黄褐色	口縁部下半はナデ、底部内近はへラ削り、脚部は縦方向ナデ。内面口縁部はへラ磨き。	杯身内面黒色処理。 C
8	土師器 高杯	カマド 脚部	底 7.4 脚 11.0	細砂粒/良好/黄 褐色	杯身と脚部は接合、杯身底部から脚部上半は縦方向のナデ、基部は横ナデ。内面脚部はナデ。	
9	土師器 鉢	+6 口縁端部一部欠	□ 10.4 底 7.0 高 7.8	細砂粒/良好/明 赤褐色	口縁部横ナデ、体部は縦方向へラ削り、底部はへラ削り。内面体部は雑なへラ磨き。	Bb
10	土師器 短頸壺	掘方 口縁部片	□ 12.6	細砂粒/良好/こ ぶい褐色	内面黒色処理。口縁部は横ナデ。	
11	土師器 小型壺	貯蔵穴 完形	□ 10.0 底 6.0 高 9.7	細砂粒/良好/こ ぶい黄褐色	口縁部横ナデ、胴部は縦方向、最下部に横方向のへラ削り。底部はへラ削り。内面胴部はへラナデ。	
12	土師器 小型壺	掘方 完形	□ 13.0 底 6.6 高 10.7	細砂粒/良好/こ ぶい褐色	口縁部横ナデ、胴部は縦方向、最下部に横方向のへラ削り。底部はへラ削り。内面胴部はへラナデ。	
13	土師器 小型壺	床面、中位 胴部一部欠	□ 12.6 底 6.5 高 12.8	細砂粒/良好/こ ぶい黄褐色	口縁部は横ナデ、胴部はやや斜めから横方向のへラ削り。内面胴部はへラナデ。	
14	土師器 小型壺	カマド、埋没中位 口縁～胴部上半片	□ 12.6	粗砂粒/良好/こ ぶい褐色	口縁部横ナデ、胴部は縦方向へラ削り。内面胴部はへラナデ。	
15	土師器 小型壺	+7 口縁～胴部上半	□ 14.0	粗砂粒/良好/こ ぶい褐色	口縁部横ナデ、胴部は縦方向へラ削り。内面胴部はへラナデ。	
16	土師器 小型壺	貯蔵穴 胴部下位～底部	底 8.0	粗砂粒/良好/こ ぶい褐色	胴部下位は横方向へラ削り。底部はへラ削り。内面胴部はへラナデ。	
17	土師器 甕	貯蔵穴 口縁部～頸部	□ 17.4	粗砂粒/良好/こ ぶい黄褐色	口縁部横ナデ、胴部上位は横方向へラ削り。内面胴部はへラナデ。	
18	土師器 甕	貯蔵穴 口縁～胴部上位	□ 18.8	粗砂粒/良好/こ ぶい黄褐色	口縁部上半は横ナデ、下半から胴部にかけては縦方向へラ削り。内面胴部はへラナデ。	
19	土師器 甕	貯蔵穴 口縁～胴部上位	□ 18.8	粗砂粒/良好/こ ぶい褐色	内面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部は縦方向へラ削り。内面胴部はへラナデ。	
20	土師器 甕	貯蔵穴 胴部～底部	底 8.0	粗砂粒/良好/こ ぶい褐色	内面に輪積み痕が残る。胴部はへラ削り後へラ磨き、底部はへラ削り。内面胴部はへラナデ。	
21	土師器 甕	カマド 胴部下位～底部	底 7.4	粗砂粒/良好/こ ぶい赤褐色	胴部は下位が縦方向、最下部が横方向へラ削り、底部はへラ削り。内面胴部はへラ磨き。	

D区16号竪穴建物

本竪穴建物は107号遺物出土状態図のように大量の炭化材が出土している。出土した炭化材には柱材や梁、桁材、垂木、屋根材などでこの竪穴建物を構築していた材とみられ、火災などで焼失したとみられるが、この竪穴建物でもカマドは天井が大きく壊されていることから廃棄後建物を焼却したものと推定される。なお、炭化材については代表的なものについて樹種同定を行っている。その結果は363～367頁「V自然科学分析 生品西浦遺跡Ⅱ竪穴建物出土炭化材の樹種同定」を参照されたい。

位置はD区調査区北部、X=75.262～75.267-Y=

—66.930～—66.935である。残存状態は壁上部が若干崩落しているが、確認面から床面まで深度も深く、埋没土上位にはⅣ層の堆積がそのまま残っており良好であった。他遺構との重複関係は第1面で確認されなかったが、第2面の縄文時代落し穴であるD区43号土坑、44号土坑との重複が確認された。新旧関係は本竪穴建物の方が新しい。

平面形態は南北方向が15cmほど長いがほぼ方形を呈する。規模は南北5.24m、東西5.07m、各辺長は北辺4.40m、東辺4.42m、南辺4.41m、西辺4.35m、壁高は84～103cm、床面積は13.5㎡を測る。主軸方位はN—81°—Eを指す。

IV 検出した遺構と出土した遺物

内部施設は主柱穴4本(P1~P4)、梯子柱穴とみられるピット2本(P5・P6)、貯蔵穴、周溝を検出した。主柱穴は各辺壁下からP1が東辺から0.8mほどであるが、他の辺からは1mほど内側に配置されている。それぞれの柱穴間距離はP1-P2が2.02m、P2-P3が2.16m、P3-P4が1.97m、P4-P1が2.07mで各柱穴規模はP1が径35×27cm、深度55cm、P2が径47×40cm、深度39cm、P3が径27×27cm、深度29cm、P4が径38×30cm、深度46cmである。梯子柱穴は西辺壁下から1mほどで柱穴間距離は40cm、規模はP5が径27×14cm、深度13cm、P6が径13×10cm、深度17cmである。貯蔵穴は南東角に位置し、平面形態が長方形を呈し、規模は長軸72cm、短軸55cm、深度111cmである。貯蔵穴内部からは7の土師器有孔鉢が出土している。周溝はカマドを除くすべての辺、壁下から3~9cmほど平坦面を残した内側の位置で検出された。規模は幅12~20cm、深度4~9cmである。床面は掘方底面より10cmほどの厚さでロームブロックを主にした土砂で埋め戻して踏み固め硬化面としていた。

カマドは東辺の中央よりやや南に構築されている。残存状態は焚き口や燃焼部天井は大きく壊されているが両ソデ部は比較的良好な状態であった。規模は全長、1.33m、幅0.87m、燃焼部幅0.28mである。燃焼部には支脚に使用されたとみられる四角柱状の礫がそのまま残されていた。この礫は上部に平坦面をもち、規模は全長18cm、幅10cm、厚さ8cmで燃焼部に5cmほど埋められた状態であった。天井は壊されているが、焚き口部や煙道部手前には補強に使用された扁平な礫が残されてい

た。焚き口天井の礫は長さ50cm、幅30cm、厚さ12cmほどの角礫、煙道部の礫は45×30cm、厚さ5cmほどの扁平な角礫である。燃焼部から煙道部への構造はD区3号・5号・6号竪穴建物と同様に煙道が壁外にあまり延びない形状である。燃焼部奥壁は130°の傾斜で立ち上がる。燃焼部から煙道部はわずかに壁外に延びる。

掘方は床面から10cmほど掘り込まれているが、主柱穴の内側はさらに周辺部より5~8cmほど低く掘り込まれている。西辺からP2、P3と東辺からP4に向けては幅20~35cm、深度10cm前後の通称「間仕切り」と想定されている溝状の掘り込みが検出された。また、北辺と西辺の壁下からは径20cm前後、深度10~20cmほどの小規模なピットが検出された。このピットは北辺では不規則な配置であるが、西辺の中央部では40~50cmの間隔で5本が連続した状態で配置されていた。

埋没状態は土層断面で周辺から土砂が流れ込みレンズ状の堆積をした様子が観察できることから自然埋没である。なお、中央部では床面から70cmほど埋没した段階でIV層Hr-FPが降下し、堆積している。

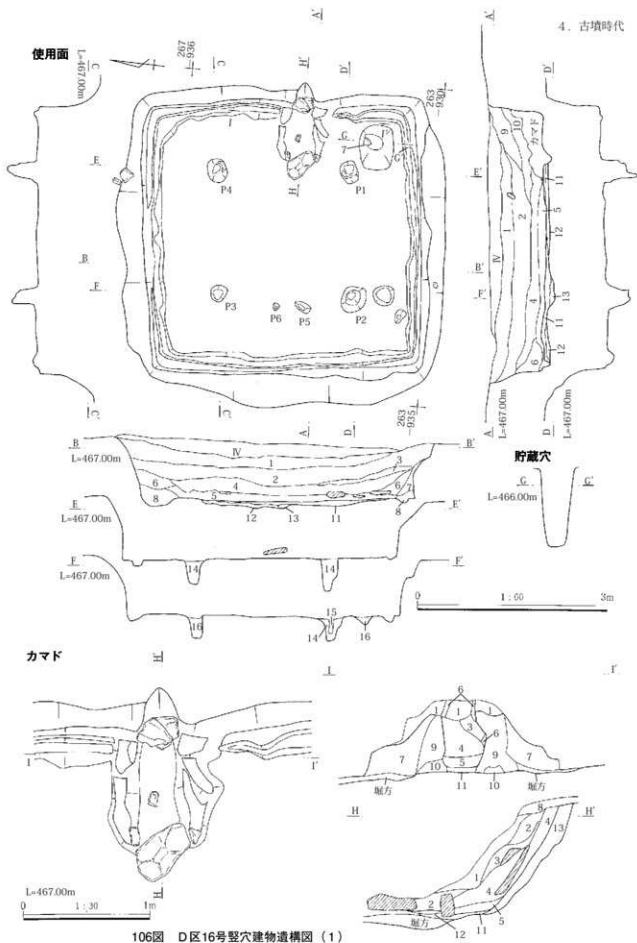
出土遺物はカマド右側から貯蔵穴にかけて集中した状態であったが、その他では散在的な状態であった。また、出土した遺物は比較的高い残存率の高いものがみられた。なお、掲載した以外の出土土器数量は土師器杯24点、高杯1点、甕336点と8世紀代の須恵器杯身、杯蓋があった。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から6世紀前半に比定できる。

D区16号竪穴建物

- 1黒褐色土(10YR2/3) V・VIの混合土、V主体、ローム粒1%含む。
- 2黒褐色土(10YR2/3) Iと同様、1よりVIが多いが、ローム粒、φ0.5~1cmのロームブロック5%含む。
- 3黒褐色土(10YR3/2) Vの流れ込み、VI混入、ロームブロック5%含む。
- 4黒褐色土(10YR2/2) V主体、VI混入、φ1~3cmのロームブロック10%含む。
- 5黒褐色土(2.5Y3/1) VI主体、V混入、φ1~2cmのロームブロック20%含む。
- 6黒色土(10YR2/1) Vの崩落、VIの流れ込み、φ1~2cmロームブロックを1%含む。
- 7黒褐色土(10YR3/1) Vの流れ込み、φ1~2cmのロームブロックを3%含む。
- 8黒褐色土(10YR2/2) M・Vの混合土、φ1~3cmのロームブロック20%含む。

- 9黒褐色土(10YR3/2) V主体、灰黄粘土粒ブロックを5%。
 - 10灰黄褐色土(10YR5/2) カマドの壊された土、粘質土、黒褐色土を20%含む。
 - 11褐色土(10YR4/6) ロームブロック主体、床面。
 - 12黒色土(10YR1.7/1) ローム粒を多く含む。
 - 13黒色土(10YR1.7/1) ローム粒を多く含む。
 - 14黒色土(10YR2/1) φ1~2cmのロームブロックを5%含む。
 - 15黒色土(10YR2/1) 柱頭。
 - 16黒色土(10YR2/1) φ1~2cmのロームブロックを5%含む。
- 貯蔵穴
黒褐色土(10YR2/2) V・VIの混合土、φ1cm前後のローム粒を3%と炭化材を5%含む。



106図 D区16号竪穴建物遺構図(1)

IV 検出した遺構と出土した遺物

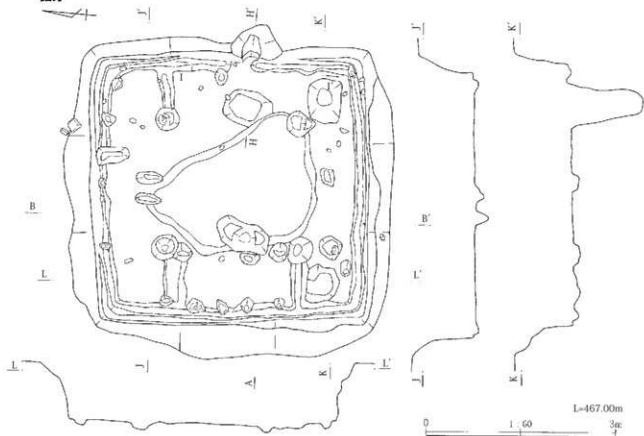
遺物出土状態



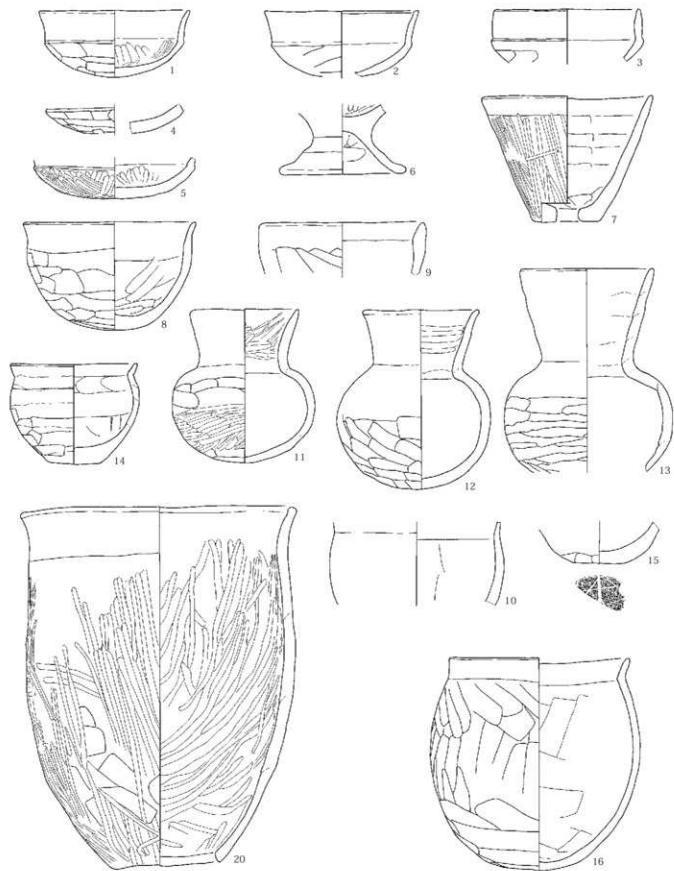
D区16号壁穴建物カマド

- 1 にぶい黄色土(2.5Y6/3) 粘質土、天井部、ソデ部。
- 2 にぶい黄色土(2.5Y6/3) 暗褐色土の小ブロックと焼土ブロックを20%含む。
- 3 にぶい黄色土(2.5Y6/3) 1主体、焼土ブロックを20%含む。
- 4 黒色土(10YR2/1) Vの流れ込み?、焼土と1のブロックを5~10%含む。
- 5 赤褐色土(2.5YR4/8) 焼土。
- 6 黒色土 Vと同様。
- 7 灰黄褐色土 1ブロック、白色粘土ブロック、黒色土ブロックを20%と焼土小ブロックを5%含む。
- 8 黒色土(10YR2/2) Vに類似、焼土粒を1~2%含む。
- 9 灰黄褐色土(10YR6/2) 粘土、白色粘土ブロック、ローム粒を1~3%含む、一部焼土化。
- 10 黒褐色土(10YR3/1) Vに類似、φ1~3cmのロームブロックを10%含む。
- 11 黒色土(10YR2/1) 焼土粒を3%とローム粒を5%含む。
- 12 赤褐色土(2.5YR4/8) 焼土。
- 13 黒色土(10YR2/1) Vに類似、ローム粒を3%含む。

掘方

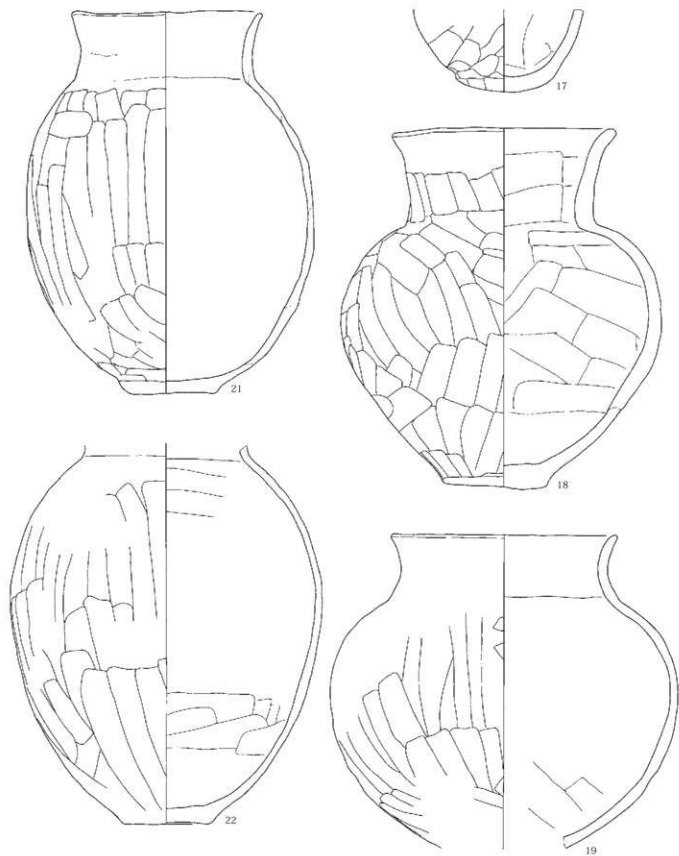


107図 D区16号壁穴建物遺構図(2)

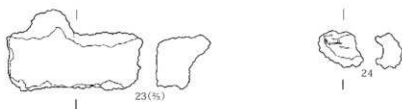


108图 D区16号竖穴建物出土遗物图(1)

IV 検出した遺構と出土した遺物



109図 D区16号竪穴建物出土遺物図(2)



110図 D区16号竪穴建物出土遺物図(3)

D区16号竪穴建物

PL.146・147

No.	種 類	出土位置 残存率	計 測 値			胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
			口	横	高			
1	土師器 杯	+20 1/2	口 11.6 高 5.3	横 11.0		細砂粒/やや軟質/橙	口縁部上半は横ナデ、稜下から底部はへう削り。内面底部はへう磨き。	Ca-2
2	土師器 杯	埋没上中位 1/8	口 12.0	横 11.0		細砂粒/良好/に ぶい赤褐色	口唇部は平坦面。口縁部上半は横ナデ、稜下から底部はへう削り。	Ca-2
3	土師器 杯	カマド、+6 1/8	口 11.2	横 12.0		細砂粒/やや軟質/橙	口縁部上半は横ナデ、稜下から底部はへう削り。	F
4	土師器 杯	埋没上上位 底部片	横 11.0			粗砂粒/良好/暗 赤褐色	底部はへう削り。	
5	土師器 杯	埋没上中位 底部片	横 12.6			粗砂粒/良好/に ぶい赤褐色	底部はへう削り後へう磨き。	
6	土師器 高杯	埋没上中位 底部片	脚 9.6			細砂粒/良好/赤 褐色	内面黒色処理。胴部上半は縦方向ナデ。胴部は横ナデ。内面杯身はへう磨き。	
7	土師器 有孔鉢	貯蔵穴下部 完形	口 13.2 高 9.9	底 5.2 孔 2.0		粗砂粒/良好/明 赤褐色	口縁部横ナデ、体部へう磨き、底部へう削り。内面口縁部は横ナデ。	内面に白色付着物あり。
8	土師器 鉢	+5 口縁部2/3欠	口 13.4	高 8.5		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は横方向へう削り、底部はへう削り。内面体部はナデ。	Cb
9	土師器 鉢	埋没上 口縁部片	口 12.6			粗砂粒/良好/明 赤褐色	口縁部横ナデ、体部へう削り。	
10	土師器 鉢	カマド 口縁下半~体部片				粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部ナデ。内面体部はへうナデ。	
11	土師器 用	+9 完形	口 8.4 胴 11.3	頭 7.4 高 12.1		細砂粒/良好/橙	口縁部から頭部は横ナデ、胴部上半へう削り、下半へう磨き、底部へう削り。内面口縁部へう磨き。	
12	土師器 用	+8 口縁部一部欠	口 8.8 胴 12.0	頭 7.0 高 14.1		粗砂粒/良好/明 赤	口縁部は横ナデ、胴部上半ナデ、下半から底部はへう削り。内面口縁部はへう磨き。	
13	土師器 用	+9、12、23 口縁部一部・底部欠	口 10.4 胴 13.2	頭 7.4		細砂粒/やや軟質/橙	内面口縁部に輪積み疵。口縁部横ナデ、胴部上半はナデ、中位から下位は横方向へう削り。	
14	土師器 小型甕	床面 完形	口 9.6 高 7.9	底 4.2		細砂粒/良好/に ぶい褐色	口縁部横ナデ、胴部上半ナデ、下半は横方向へう削り、底部へう削り。内面胴部はへうナデ。	
15	土師器 小型甕	埋没上下位 底部片	底 3.8			細砂粒・小礫 /良好/黄褐色	胴部へう削り、底部木炭痕。	
16	土師器 小型甕	+5、下位 ほぼ完形	口 14.0 高 16.8	胴 16.5		粗砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部横ナデ、胴部は上半が縦方向、下半が横方向へう削り。内面胴部はへうナデ。	
17	土師器 小型甕	貯蔵穴、床面 底部	底 7.5			粗砂粒/良好/に ぶい褐色	胴部下位から底部はへう削り。内面胴部はへうナデ。	
18	土師器 甕	+16 5/6	口 17.0 底 8.4	胴 25.4 高 28.4		粗砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部上半横ナデ、下半から胴部は縦方向へう削り。底部ナデ。内面は口縁部から胴部までへうナデ。	
19	土師器 甕	+17、20、中位 1/5	口 17.5	胴 27.5		粗砂粒/良好/に ぶい褐色	口縁部横ナデ、胴部へう削り。内面胴部はへうナデ。	
20	土師器 甕	床面 ほぼ完形	口 21.2 高 28.2	底 8.2		細砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部横ナデ、胴部はへう削り後へう磨き。内面胴部はへう磨き。	
21	土師器 甕	+5 ほぼ完形	口 14.8 高 30.0	底 7.4		粗砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部横ナデ、胴部は縦方向へう削り、底部はへう削り。内面胴部はへうナデ。	
22	土師器 甕	カマド、+13 底部~胴部片	底 6.8			粗砂粒/良好/に ぶい黄褐色	胴部は縦方向へう削り、底部はへう削り。内面胴部はへうナデ。	

D区16号竪穴建物 出土鉄関連遺物観察表

PL.147

No.	遺物名	出土位置	計 測 値 (cm)			重量 (g)	磁着度	メタル度	特徴など
			長	幅	厚さ				
23	鉄片か	埋没上中	5.4	3.3	1.9	20	1	なし	スサ混入。表面と上面右側が平坦面。
24	鉄片か	埋没上中	3.5	2.9	1.9	12	1	なし	スサ痕あり。焼熱による酸化、赤色。

D区17号竪穴建物

本竪穴建物は発掘調査が実施できたのが東辺よりの一部だけで大部分が発掘調査範囲対象外に存在するため全貌や詳細については不明、不明確である。

位置はD区調査区の北西部の西端、 $X=75.230\sim 75.234$ 、 $Y=-66.960\sim -66.963$ である。残存状態は確認面から床面まで深度も比較的深く、埋没土上にはIV層の堆積がそのまま残っており良好であった。他遺構との重複関係は上部で近代の礫を廃棄するために掘られた土坑と重複する。新旧関係は本竪穴建物のほうが古い。

平面形態は方形または長方形を呈すると想定される。規模は南北1.73m + α 、東西3.43m、東辺1.60m + α 、南辺3.16m、西辺0.55m + α 、壁高は48~58cmを測る。主軸方位は $N-60^{\circ}-E$ を指す。

内部施設は柱穴、貯蔵穴は確認できなかったが、周溝はカマド部分を除いて発掘調査範囲では各辺壁で確認された。規模は幅15~20cm、深度5~11cmである。床面は掘方底面より5cmほどロームブロックを主にした土砂で埋め戻して踏み固め硬化面としていた。

カマドは東辺の中より南寄りに構築されているが、左ソデ部分は発掘調査範囲対象外に存在するため全貌は不使用面

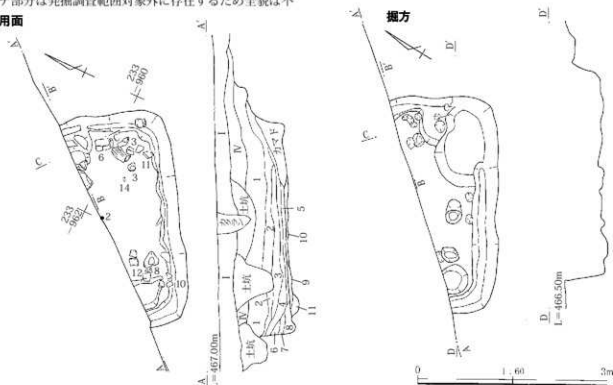
明である。残存状態は他の竪穴建物カマドと同様に天井が壊されソデ下部が残存するだけであった。規模は全長約0.8m、幅0.5m + α 、燃焼部幅0.3mほどである。煙道部は壁外にほとんど延びず、燃焼部からほぼ直角に煙道部へ立ち上がるよう様子が窺えた。カマド前方には焚き口部の天井の補強に使用された礫が放置されていた。この礫は長さ35cm、幅15cm、厚さ5cmのやや扁平な角礫であった。

掘方は床面より5cmほど掘り込まれており、底面では掘削時に掘られたとみられる大小の凹凸が確認されたが、床下土坑などの施設は存在していない。

埋没状態は土層断面で周辺から土砂が流れ込みレンズ状の堆積をした様子が観察できることから自然埋没である。なお、中央部では床面から60cmほど埋没した段階でIV層Hr-PPが降下し、堆積している。

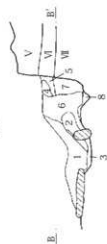
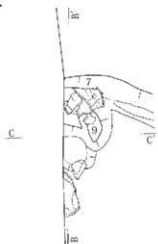
出土遺物はカマド右側から南東角にかけてと南西角に集中した状態であった。なお、掲載した以外の出土土器数量は土師器杯9点、椀1点、甕80点があった。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から6世紀前半に比定できる。

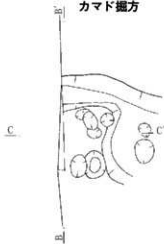


111図 D区17号竪穴建物遺構図(1)

カマド



カマド掘方



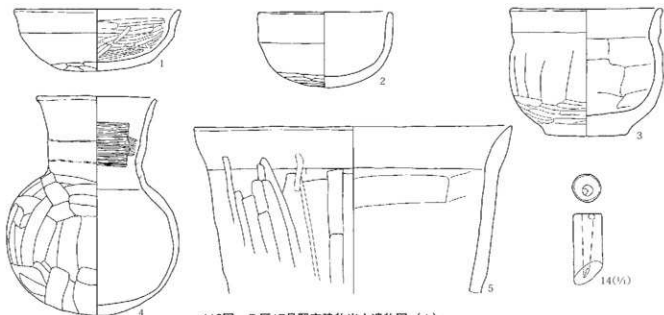
112図 D区17号竪穴建物遺構図(2)

D区17号竪穴建物

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒を含む。
- 2 黒色土(10YR1.7/1) ローム粒・ロームブロックを7%含む。
- 3 黒色土(10YR1.7/1) ロームブロックを3%含む。
- 4 黒色土(10YR1.7/1) ロームブロックを5%と炭化物を少量含む。
- 5 黒色土(5Y2/1) ロームブロックを3%と焼土、炭化物を含む。
- 6 黒色土(5Y2/1) ローム粒をわずかに含む。
- 7 黒色土(10YR1.5/1) ローム粒をわずかに含む。
- 8 黄褐色土(10YR5/6) ロームブロック主体。
- 9 黒色土(10YR1.7/1) ローム粒を多く含む。
- 10 褐色土(10YR4/6) ロームブロック主体、床面。
- 11 黒色土(10YR1.7/1) ローム粒、ブロックを多く含む。

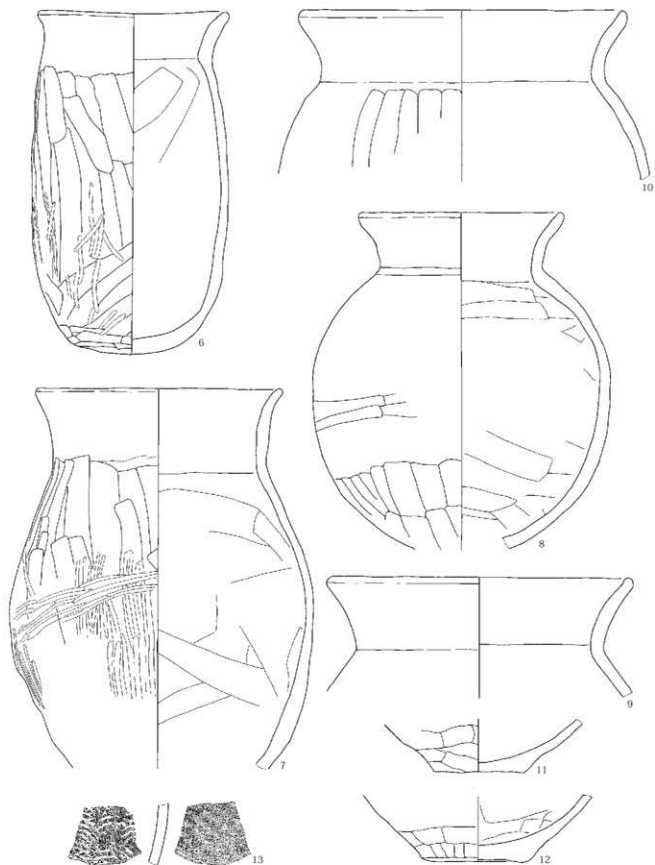
カマド

- 1 黒色土(2.5Y2/1) ローム粒を3%含む。
- 2 黒色土(10YR1.5/1) ローム粒をわずかに含む。
- 3 褐色土(7.5YR4/6) 焼土を主体とする。
- 4 明黄褐色土(2.5Y6/6) ローム土を主体とする。
- 5 黒色土(10YR2/1) 焼土粒をわずかに含む。
- 6 明黄褐色土(2.5Y6/6) 黒色土を巻き込む、焼土粒をわずかに含む。ローム土主体。
- 7 褐色土(10YR4/4) ローム土を主体とする。
- 8 暗褐色土(10YR3/3) ローム土を主体とする。
- 9 灰黄褐色土(10YR5/2) 粘土、焼土粒を1~3%含む、右ソデの一部。



113図 D区17号竪穴建物出土遺物図(1)

IV 検出した遺構と出土した遺物



114図 D区17号竪穴建物出土遺物図(2)

D区17号竪穴建物

PL.147・148

No.	種 器	類 種	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
1	土師器	杯	床面 5/6	口 12.8 底 4.9 高 7.4	細砂粒/良好/灰黄褐色	内面黒色処理、口縁部上半は横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り、内面はヘラ磨き。	Db
2	土師器	椀	床面、上位 7/8	口 10.2 底 5.9 高 7.4	細砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	B
3	土師器	鉢	床面 1/4	口 11.6 底 10.1 高 6.4	粗砂粒/良好/に ぶい赤褐色	口縁部は器面割離。体部上位・中位は縦方向、下位は横方向へラ削り。内面体部はヘラナデ。	
4	土師器	埴 埴	+21 ほぼ定形	口 9.2 頸 13.6 高 17.3	粗砂粒/良好/に ぶい褐色	内面に輪軸み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部から底部はヘラ削り、内面口縁部はハケ目。	
5	土師器	甗	埋没上下位 口縁～胴部上半片	口 24.6	粗砂粒/良好/に ぶい褐色	口縁部横ナデ、胴部はヘラ削り後雑なヘラ磨き、内面胴部はヘラナデ。	
6	土師器	甗	床面 ほぼ定形	口 14.4 底 26.7 高 9.4	粗砂粒/良好/明 赤褐色	口縁部横ナデ、胴部はヘラ削り後下半に雑なヘラ磨き、底部ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
7	土師器	甗	カマド、下位 3/4	口 19.0	粗砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部横ナデ、胴部は縦方向へラ削り後下半にヘラ磨き、底部ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
8	土師器	甗	床面、上位・中位 1/4	口 15.6 胴 23.4	粗砂粒/良好/に ぶい褐色	口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
9	土師器	甗	カマド、下位 口縁～胴部上位片	口 23.4	粗砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部横ナデ、胴部ヘラ削りか、内面胴部はヘラナデ。	
10	土師器	甗	+13、下位 口縁～胴部上位片	口 24.8	粗砂粒/良好/に ぶい褐色	口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
11	土師器	甗	床面 底部～胴下位	底 7.0	粗砂粒/良好/明 褐色	胴部、底部ヘラ削り。内面はヘラナデ。	
12	土師器	甗	床面 底部～胴下位	底 7.0	粗砂粒/良好/に ぶい黄褐色	胴部、底部ヘラ削り。内面はヘラナデ。	
13	須恵器	須恵器	埋没上位 胴部小片		細砂粒/還元焼 成/灰	内面にアテ具痕が残る。	
NO.	種 類	器 種	出土位置 残存率	計 測 値	描 要		
14	石製品	曹玉	床面	1/2	径 0.785 長 (1.880) 孔径 0.255 重 1.58	粒質灰岩	

E区2号竪穴建物

本竪穴建物は発掘調査が実施できたのが東辺よりの一部だけで大部分が発掘調査範囲対象外に存在するため全貌や詳細については不明、不明確である。なお、出土遺物には柱材や屋根材とみられる炭化材が存在し、焼土、灰がみられる。炭化材の出土は竪穴建物北半から多く出土し、南半からは少なかった。また、カマドはほとんど痕跡がなくなるほど大きく破壊されており、貯蔵穴周辺も床面が剥がされるように掘り込まれていた。このような状況から建物が存在している時に火災を受けたのではなく廃棄後に不要になった柱材や屋根材などを焼却したことによるとみられる。なお、炭化材については代表的なものについて樹種同定を行っている。その結果は363～367頁「V自然科学分析 生品西浦遺跡II竪穴建物出土炭化材の樹種同定」を参照されたい。

位置はE区調査区の西部の西端、X=75.281～75.288-Y=-66.919～-66.924である。残存状態は南側で床面が確認できない状態がみられたが廃棄後の残

存状態は確認面から床面まで深度も比較的深く良好な状態であった。他遺構との重複関係は南東部から南部にかけて確認面から深度20cmほどの落ち込みが確認されたが土層断面B-B'の観察で重複関係は認められないことから埋没過程に起因する落ち込みであると判断した。

平面形態は方形または長方形を呈すると想定される。規模は南北1.85m+ α 、東西5.58m、北辺1.20m+ α 、東辺5.40m、南辺1.90m+ α 、壁高は74～90cmを測る。主軸方位はN-114°-Eを指す。

内部施設は柱穴は確認されなかったが、貯蔵穴と周溝を検出した。貯蔵穴は南東角よりに位置する。平面形態は長方形を呈し、規模は長軸65cm、短軸55cm、深度82cmである。周溝は北辺から東辺のカマドが構築されていたであろう箇所までの壁下で検出した。なお、東辺のカマドより南側から南辺にかけては周溝が本来は存在したとみられるが、貯蔵穴周辺の床面が掘り込まれたため失われたとみられる。周溝の規模は幅10～15cm、深度4～19cmである。床面は掘方底面から3～20cmほどロー

IV 検出した遺構と出土した遺物

ムブロックを主にした土砂で埋め戻されて踏み固め硬化面としていた。

カマドは東辺の周溝が途絶えた箇所南に構築されていたことがこの付近から焼土、灰とともにロームブロックなどが確認されたことから想定されるが、構造がわからないほど大きく破壊されていた。

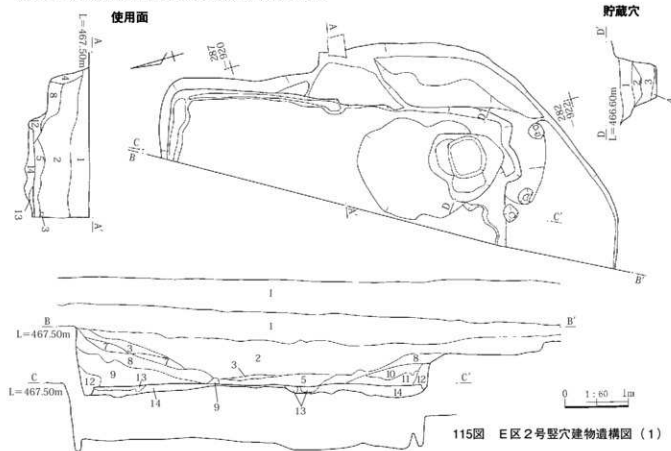
掘方は北辺際やカマド右前部などで掘削時に掘られたとみられる大小の凹凸が確認されたが、床下土坑などの施設は存在していない。

埋没状態は土層断面では壁際や中央部下部では三角形積、レンズ状の堆積が観察できることから自然埋没では

ないかと判断されるが、上半部では南側からV層を掘り込むような状態で埋没していることが観察できた。こうしたことからある程度自然に埋没した段階で人為的に埋め戻され整地された可能性が想定された。

出土遺物は炭化材や自然石が多くみられたが土器などは細片が多く図示可能な遺物が少なかった。なお、掲載した以外の出土土器数量は土師器杯17、甕80点、須恵器甕3点があった。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から6世紀後半代に比定できる。



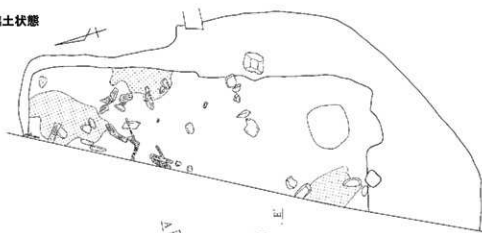
115図 E区2号竪穴建物遺構図(1)

E区2号竪穴建物

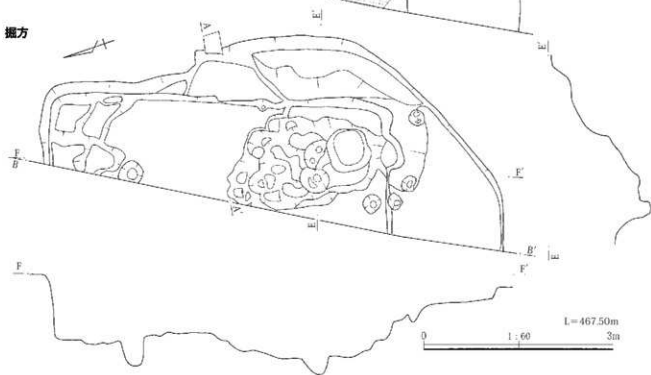
- 1 黒褐色土(10YR2/2) Ⅲ主体、V混入、 ϕ 0.5~1cmのHr-FPを10%含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 1の類似、1よりHr-FPが5%と少ない。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) 1に類似、 ϕ 1~2cmのHr-FPを20~30%含む。
- 4 黒色土(10YR2/1) Vの崩落上、 ϕ 0.5cmのHr-FPを3%含む。
- 5 黒褐色土(10YR2/1) V主体、 ϕ 0.5cmのHr-FPを3%と焼土ブロック3%、 ϕ 1~3cmのロームブロックを5%含む。
- 7 灰黄褐色土(10YR4/2) ϕ 1~3cmのロームブロックを30%含む。
- 8 黒色土(10YR2/1) Vと同様、 ϕ 1~2cmのロームブロックを5%含む。
- 9 灰黄褐色土(10YR4/2) 7と同様。

- 10 灰黄褐色土(10YR4/2) 9と同様、焼土ブロックを5%含む。
 - 11 明赤褐色土(2.5Y5/6) 焼土、Vが30%混入。
 - 12 黒色土(10YR2/1) Vの流れ込み。
 - 13 黒色土(10YR2/1) Vと同様、 ϕ 1cmのロームブロックを5%含む。
 - 14 明黄褐色土(2.5Y6/6) VIブロック主体、Vを10%含む。
- 貯蔵穴
- 1 黒色土(10YR2/1) V主体、 ϕ 1cmのHr-FPを1%と ϕ 1~2cmのロームブロック5%含む。
 - 2 黒褐色土(10YR3/1) Vと ϕ 1~3cmのロームブロックの混合上(6:4)、 ϕ 1~3cmの焼土ブロックを30%含む。
 - 3 黒褐色土(10YR3/1) 2と同様、焼土ブロックなし。
 - 4 黒褐色土(10YR3/1) V主体、やや濃い色調、ローム粒を1%含む。

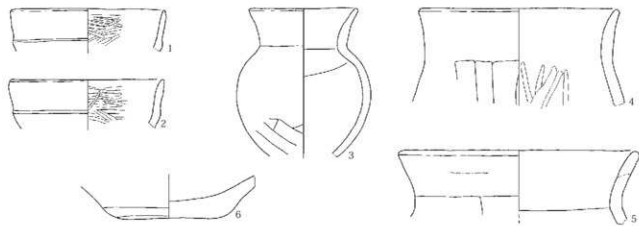
遺物出土状態



掘方



116図 E区2号壜穴建物遺構図(2)



117図 E区2号壜穴建物出土遺物図

E区2号竪穴建物

PL148

NO.	種別 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	埋没上中 口縁部小片	□ 12.0	細砂粒/良好/灰 褐色	内面黒色処理。口縁部横ナデ、内面はへら磨き。	F
2	土師器 杯	埋没上中 口縁部小片	□ 12.0	細砂粒/良好/ ふい黄褐色	内面黒色処理。口縁部横ナデ、内面はへら磨き。	F
3	土師器 壺	埋没上中 口縁部～胴部片	□ 8.2 頸 7.0 胴 10.6	細砂粒/やや軟 質/褐色	口縁部横ナデ、胴部上半ナデ、下半は斜め方向のへ ら削り。内面胴部はへらナデ。	
4	土師器 甕	埋没上中 口縁部～胴部上位片	□ 15.4	粗砂粒/良好/ ふい褐色	口縁部横ナデ、胴部縦方向のへら削り。内面胴部は 磨なへら磨き。	
5	土師器 甕	埋没上中 口縁部～胴部上位片	□ 18.0	粗砂粒/良好/ ふい褐色	口縁部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部横方 向へら削り。内面胴部はへらナデ。	
6	土師器 甕	床面 底部片	底 7.6	粗砂粒/良好/浅 黄褐色	外面の整形は器面摩滅のため不明、内面はへらナデ。	

E区5号竪穴建物

本竪穴建物は竪穴南西部で屋根材とみられる炭化材が出土しているが、他の箇所では炭化材、焼土などの出土がみられない。こうした点から出土した炭化材は竪穴建物廃棄後不要な屋根材を焼却したか他の箇所からの廃棄と推定される。

位置はE区調査区の中程より南、X=75.301～75.305-Y=-66.905～-66.909である。残存状態は北西角から北辺西半の壁上半部を重複する竪穴建物によって欠くが、他の箇所は良好な状態であった。他遺構との重複関係は北西部でE区6号竪穴建物との重複が確認された。新旧関係は遺構確認面では埋没土の判別が困難であったが断面観察で本竪穴建物のほうが古いことが判明した。これは出土した土器類でも裏付けられている。

平面形態は東辺のカマド北側に突出する棚状の段がみられるが竪穴本体はほぼ方形を呈する。規模は南北3.84m、東西が棚状部分を含めると4.32m、その手前までだと3.63m、各辺長は北辺3.45m、東辺3.40m、南辺3.22m、西辺3.55m、壁高は72～89cm、床面積は7.8㎡を測る。主軸方位はN-67°-Eを指す。

内部施設は柱穴は確認されなかったが、貯蔵穴、周溝と棚が検出された。貯蔵穴は南東角際に位置する。平面形態は南東部だけ角をもつ楕円形を呈し、規模は径70×70cm、深度82cmである。周溝は東辺の北半、カマド左側から北辺、西辺、南辺の貯蔵穴手前までの壁下で検出されたが、貯蔵穴際では設けられていない。規模は幅12～15cm、深度2～6cmである。棚は東辺のカマド左側の壁中位に設けられていた。床面からの高さは50cm

ほどで幅80cm、奥行き35cmほどであった。床面は大部分で掘方底面から10cmほど黒色土とロームブロックを混ぜ合わせた土砂で埋め戻して踏み固め硬化面としているが、西側の一部では地山を直接踏み固め床面としていた。

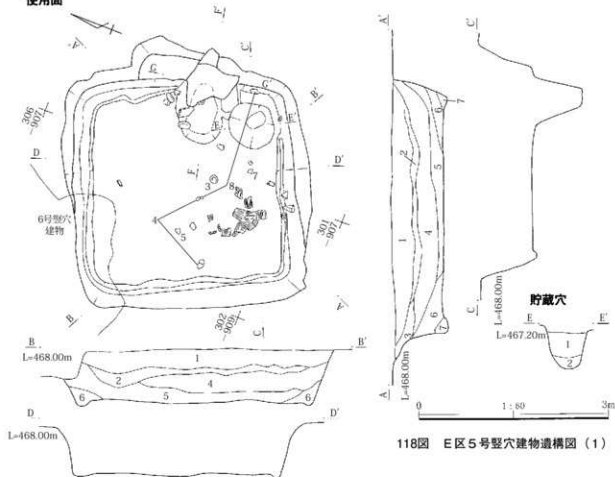
カマドは東辺の中央よりやや南寄りに構築されている。残存状態は焚き口部から燃焼部の手前部分の天井は壊されていたが、燃焼部の一部と煙道部の天井はそのままの状態が残っていた。なお、煙道部の先端部は壊された状態ではなく埋没の過程で天井が崩落したとみられる。規模は全長1.50m、幅1.00m、燃焼部幅0.55mである。本竪穴建物のカマドは他の竪穴建物カマドが焚き口部や燃焼部奥の天井に補強のため比較的大きな角柱状礫や扁平な礫を使用しているのに対して礫を使用せず大量のローム土だけで構築されている。また、構築にあたり左ソデは竪穴内部に作り出されているが、右ソデにあたる部分は地山を掘り残してそのまま利用して天井を取り付けている。燃焼部から煙道部の構造はD区3号・5号・6号・16号竪穴建物と同様に煙道が壁外にあまり伸びない形状である。燃焼部奥壁は約130°の傾斜で立ち上がる。

掘方はカマド、貯蔵穴付近と北辺中央部が周囲より10cmほど低く掘り込まれているほかに床下土坑が2基検出された。床下土坑1は中央部よりやや北寄りに位置し、平面形態は楕円形を呈し、断面は側面が5cmほど掘り込まれた状態であった。規模は径135×112cm、深度75cmである。床下土坑2は南西部に位置し、平面形態は楕円形を呈し、規模は径58×52cm、深度76cmである。

両床下土坑とも内部から遺物などの出土は確認されなかった。床下土坑1では側面を掘り込んでいることからカマド構築材に使用したⅣ層、Ⅴ層のローム土を採取するためのものと想定される。

埋没状態は土層断面でレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没と判断される。

出土遺物は竪穴南半に多く出土しているが、全体的に使用面



118図 E区5号竪穴建物遺構図(1)

E区5号竪穴建物

- 1 黒褐色土(10YR2/2) Ⅲに類似、 ϕ 1~2cmのHr-FPを5%と ϕ 1~2cmのロームブロックを1%含む。
- 2 黒色土(10YR2/1) Vと同様、流れ込みか、下部にHr-FPを多量に含む。
- 3 黒色土(10YR2/1) Vの崩落土。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) Ⅲ・V・Ⅵの混合土、 ϕ 1cmのHr-FPを3%と ϕ 1cmのロームブロックを10%含む。
- 5 灰褐色土(10YR4/2) 4に類似、4よりHr-FPが少ない。
- 6 黒色土(10YR2/1) Vの崩落土。
- 7 IVと ϕ 1~3cmのロームブロックの混合土。
- 8 黒褐色土(10YR3/1) V主体、 ϕ 3~5cmのロームブロック30%を含む。
- 9 明黄褐色土(2.5Y6/6) Ⅶのブロック主体、Vを5%含む。
- 10 黒褐色土(10YR3/1) Iと同様、1よりロームブロックが大きく多い40~50%を含む。
- 11 明黄褐色土(2.5Y6/6) Ⅶのブロック。
- 12 黒褐色土(10YR3/2) ϕ 3~5cmのロームブロック30%とⅤブロック

は散在的な状態であった。なお、10の土師器碗はE区6号竪穴建物から出土したものであるが、器形の形態から本来は本竪穴建物に所属するものとした。なお、掲載した以外の出土土器数量は土師器杯19、裏79点、その他須恵器碗、甕、羽釜があった。

本竪穴建物の存続年代は出土物から7世紀前半代に比定できる。

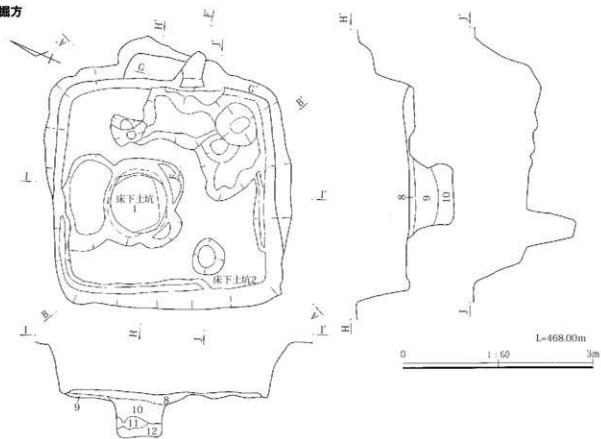
10%を含む。

貯蔵穴

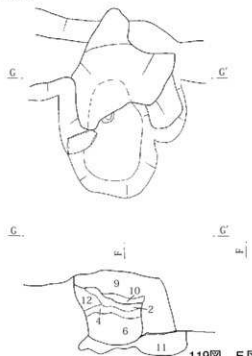
- 1 黒褐色土(10YR2/2) V主体、 ϕ 1~2cmのHr-FPとロームブロックを3%含む。
- 2 明黄褐色土(2.5Y6/6) Ⅶブロック主体、V・Ⅵが10~20%混入。
- 3 褐色土(2.5Y2/1) 煙道覆土。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒、焼土を含む。
- 5 オリーブ褐色土(2.5Y4/4) 焼土。
- 6 黒褐色土(10YR2/2) 焼土。
- 7 黒色土(10YR1.7/1) ローム粒を少し含む。
- 8 黒褐色土(2.5Y3/2) 焼土、ローム粒を含む。
- 9 黒褐色土(2.5Y3/1) 焼土粒をわずかに含む。
- 10 オリーブ褐色土(5Y3/2) 焼土、灰を含む。
- 11 黒褐色土(10YR3/1) VとⅦ-1の混合土、焼土粒を含む。
- 12 VとⅦが交互に堆積。

IV 検出した遺構と出土した遺物

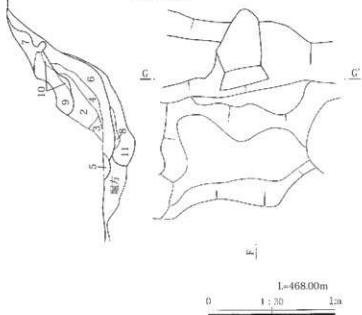
掘方



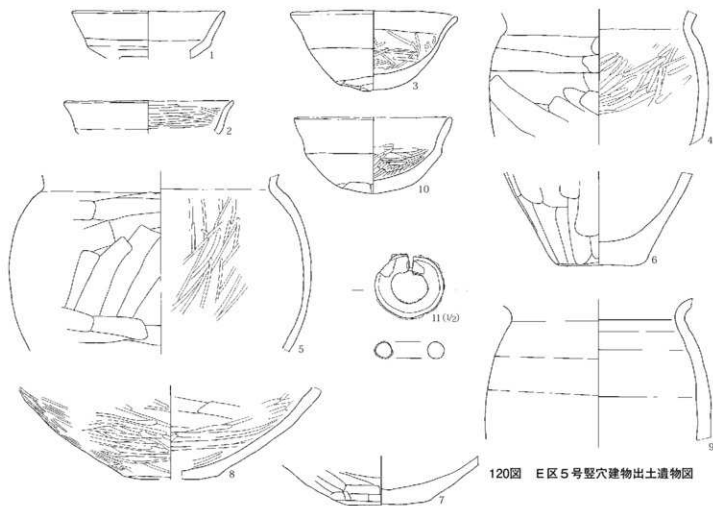
カマド



カマド掘方



119図 E区5号竪穴建物遺構図(2)



120図 E区5号竪穴建物出土遺物図

E区5号竪穴建物

PL.148

NO.	種別	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土器 杯	埋没上中 口縁部片	口 11.8 径 9.7	細砂粒/良好/ ぶい・黄褐	内面黒色処理。口縁部横ナデ、 椀下へラ削り。内面へラ 磨きであるが、単位など不 詳明。	Da-2
2	土器 杯	貯蔵穴 口縁部片	口 13.2 径 11.6	細砂粒/良好/ ぶい・黄褐	内面黒色処理。口縁部は横 ナデ、椀下はナデ。内面 へラ磨き。	Eaか
3	土器 鉢	床面 ほぼ完形	口 13.0 高 6.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部はへ ラ削り後ナデ、底部はへ ラ削り。内面体部はへ ラ磨き。	Aa
4	土器 甕	+6 頸部～胴部上半片	頸 14.6	粗砂粒/良好/灰 黄褐	頸部は横ナデ、胴部は横・ 斜め方向へラ削り。内面 胴部はへラ磨き。	Aa
5	土器 甕	+9 頸部～胴部上半片	頸 18.4	粗砂粒/良好/ ぶい・黄橙	頸部は横ナデ、胴部は横・ 斜め・横方向へラ削り。 内面胴部はへラ磨き。	
6	土器 甕	カマド、貯蔵穴 底部～胴部下位片	底 7.0	粗砂粒/良好/ ぶい・黄	胴部は縦方向へラ削り、 底部はへラ削り。内面は へラナデ。	
7	土器 甕	+53 底部～胴部下位片	底 6.4	粗砂粒/良好/ ぶい・黄褐	胴部・底部はへラ削り。 内面はへラナデ。	
8	土器 甕	+7、21 底部～胴部下位片	底 7.4	粗砂粒/良好/ ぶい・黄褐	胴部はへラ削り後へラ磨 き、底部はへラ削り。内 面はへラナデ後へラ磨 き。	
9	須恵器 甕	埋没上位 頸部～胴部上半片	径 13.6	粗砂粒/還元焼 /灰	ロウク整形。	
10	土器 椀	6号竪穴建物埋没上 1/5	口 12.0 高 6.0	細砂粒/良好/明 赤褐	口縁部上半は横ナデ、椀 下はナデ、底部はへラ削 り。内面口縁部下半から 底部はへラ削り。	
NO.	種別	器種	出土位置	残存率	計測値	摘要
11	鉄製品	環	埋没上中	完形	径 3.4×3.6 厚 0.8 孔 径 2.2×2.8 重 30.0	

E区7号竪穴建物

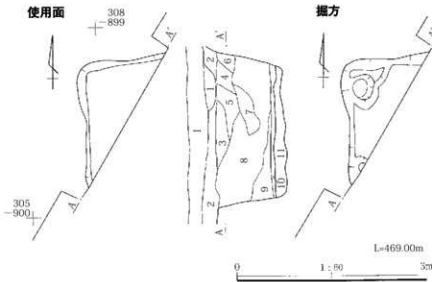
本竪穴建物は発掘調査が行われたのが北西角のごく一部で大部分が発掘調査範囲対象外に存在するため全貌や詳細については不明である。位置はE区調査区の中程より東端、 $X=75.305\sim 75.307$ — $Y=-66.897\sim -66.899$ である。残存状態は確認面から床面まで比較的深く良好な状態であった。他遺構との重複関係は確認されなかった。

平面形態は方形または長方形を呈すると想定される。規模は計測できる箇所がほとんどだが、壁高は84～95cmを測る。主軸方位は東辺にカマドが構築されていれば $N-90^{\circ}-E$ を指す。

内部施設は柱穴、貯蔵穴、周溝とも確認されなかった。

使用面

掘方



121図 E区7号竪穴建物遺構図

E区11号竪穴建物

本竪穴建物は全体の4分の3程度を発掘調査したが、残りは発掘調査範囲対象外に存在することと遺構確認時の誤認により上部を失った部分があるため全貌や詳細については不明な点がある。

位置はE区調査区の南部の東端、 $X=75.283\sim 75.291$ — $Y=-66.908\sim -66.915$ である。残存状態は確認面から床面まで深度も比較的深く良好な状態であった。他遺構との重複関係はE区3号竪穴建物、12号竪穴建物と重複する。新旧関係はE区3号竪穴建物、12号竪穴建物より本竪穴建物のほうが古い。

平面形態は東西方向が0.5mほど長い長方形を呈す。

床面は掘方底面より10～15cmほどロームブロックを主とした土砂で埋め戻して踏み固めていた。

掘方は北西角と西辺中程でピット状の落ち込みが検出されたが5～10cmほどの浅い落ち込みであった。

埋没状態は土層断面で短期間に埋没した様子が観察できるが、他の竪穴建物でも壁際では同様な状況がみられることから自然埋没であると推定される。

出土遺物は図示できるものはみられなかった。なお、出土した全遺物は土師器裏が4点と須恵器裏1点だけであった。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物のなかに長胴型土師器裏破片がみられることから7世紀前半代に比定できる。

E区7号竪穴建物

- 1 黒褐色土(10YR3/2) IIIと同様、 $\phi 0.5\sim 1$ cmのHr-FPを5%とローム粒3%を含む(土塊か)。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) IIIと同様、 $\phi 0.5\sim 1$ cmのHr-FPを5%含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) IIIに類似、 $\phi 0.5\sim 1$ cmのHr-FPを20%含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/2) 3に類似、3よりHr-FPを30%と多く含む。
- 5 黒色土(10YR2/1) V主体、 $\phi 0.5\sim 1$ cmのHr-FPを5%含む。
- 6 黒色土(10YR2/1) V主体、 $\phi 0.5\sim 1$ cmのHr-FPを5%含む。
- 7 黒褐色土(10YR3/1) V主体、VIと $\phi 5\sim 10$ cmのVIIブロックが混入、M10%、M30%混入。
- 8 Hr-FP 黒色土Vが10%～20%混入。
- 9 暗褐色土(10YR3/3) $\phi 1$ cmのロームブロックを10%含む。
- 10 黒色土(10YR2/1) Vの流れ込み。
- 11 明黄褐色土(2.5Y6/6) VIIと同じ、IXをブロックで30%と黒色土を少しみずに5%含む(掘方)。

規模は南北6.60m、東西7.12m、各辺長は北辺6.84m、東辺1.15m+ α 、南辺2.15m+ α 、西辺6.40m、壁高は52～72cm、床面積は推定42m²を測る。主軸方位は東辺にカマドが構築されているならば $N-79^{\circ}-E$ を指す。

内部施設は柱穴3本(P2～4)と周溝を検出した。なお、貯蔵穴と柱穴の1本(P1)は発掘調査範囲対象外に存在すると想定される。柱穴は各辺壁下から1.10～1.40mほど内側に位置し、柱穴間距離はP2～P3間が4.00m、P3～P4間が3.95m、各柱穴規模はP2が径70×60cm、深度62cm、P3が径57×50cm、深度39cm、P4が径73×62cm、深度46cmである。周溝は一部検出

できなかったが、発掘調査範囲内では全周する。規模は幅10-15cm、深度10cm前後である。床面は掘方をほとんど埋め戻した上に中心部では黒色土を主体とする土砂をさらに入れて踏み固めて硬化面としていた。周辺部は掘方底面からローム土を主体とする土砂で埋め戻して踏み固めていた。

掘方は周辺部は床面より3~20cmほど掘り込まれているだけであるが、中心部は60~90cmほど掘り込まれ、側面の一部は大きく掘り込まれている箇所がみられた。中央部の深い掘り込みはE区5号竪穴建物の掘方のみ

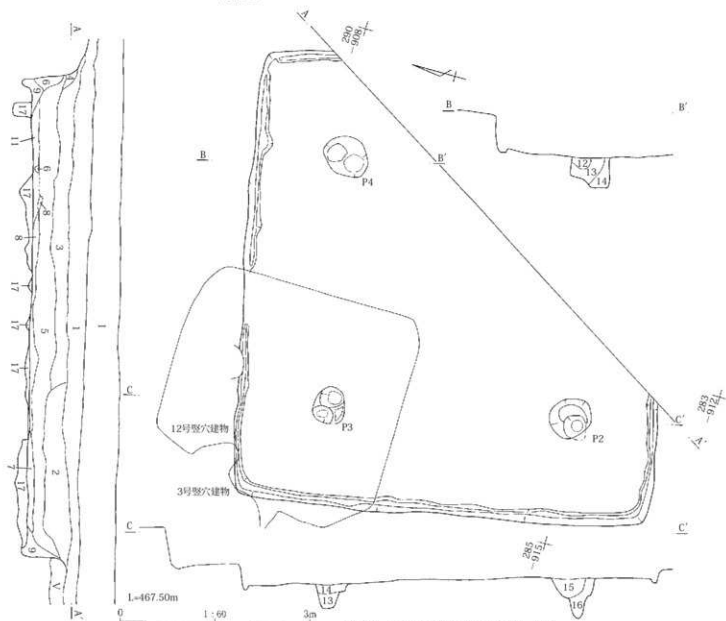
れた床土坑と同様にカマド構築材を採取するためのものとみられる。

埋没状態は土層断面でレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没と判断される。

出土遺物は少なく散在的な状態であった。なお、掲載した以外の出土土器数量は土師器杯5、埴29点があった。

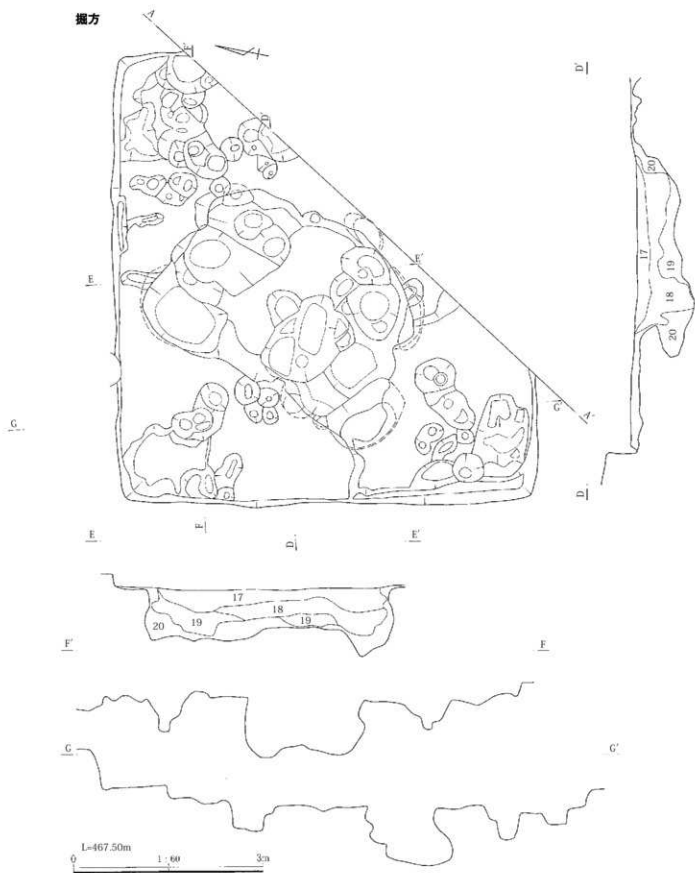
本竪穴建物の存続年代は出土遺物から6世紀後半代に比定できる。

使用面



122図 E区11号竪穴建物遺構図(1)

IV 検出した遺構と出土した遺物



123図 E区11号竪穴建物遺構図(2)

E区11号竪穴建物

- 1 黒褐色土(10YR2/2) IIIに類似、 ϕ 1~3cmのHr-FPを10%と ϕ 1cmのロームブロックを1%含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) Iに類似、1よりHr-FPが5%と少ない。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) Vに類似、 ϕ 1cmのHr-FPとロームブロックを2~3%含む。
- 4 黒色土(10YR2/1) Vの崩落、流れ込み。
- 5 暗褐色土(10YR3/3) V・VIの混合土、 ϕ 1cmのHr-FPを1%と ϕ 1~5cmのロームブロックを20%含む。
- 6 黒色土(10YR2/1) Vの崩落、流れ込み、ローム粒を1%含む。
- 7 黒色土(10YR2/1) 6と同様。
- 8 明黄褐色土(2.5YR6/6) VIIに類似、IXブロックを5%と黒色土を10%含む。
- 9 黒色土(10YR2/1) 6と同様、ローム粒をほとんど含まない。
- 11 暗褐色土(10YR3/3) 5に類似、 ϕ 1~3cmのロームブロックを10%含む。

- 12 明黄褐色土(2.5Y6/6) VIIの ϕ 3~5cmのブロック主体、Vを30%とIXを5%含む。
- 13 明黄褐色土(2.5Y6/6) Iに類似、1よりブロックが小さく黒色土が少ない。
- 14 黒色土(10YR2/1) V主体、 ϕ 3~5cmのロームブロックを30%含む。
- 15 黒色土(10YR2/1) V主体、 ϕ 1~2cmのロームブロックを5%含む。
- 16 暗灰黄色土(2.5Y4/2) Vの小ブロック30%、VIの小ブロック30%、VIIのブロック40%の混合土。
- 17 黒色土(10YR2/1) Vに類似、 ϕ 1~3cmのロームブロックを10%含む。
- 18 明黄褐色土(2.5Y6/6) VII・VIIIブロック主体、間にVを層状・ブロックで20%含む。
- 19 明黄褐色土(2.5Y6/6) VIIIブロック主体、黒色土を5~10%含む。
- 20 明黄褐色土(2.5Y6/6) VIIのブロック主体、Vを20%含む。



124図 E区11号竪穴建物出土遺物図

PL.148

E区11号竪穴建物

NO.	種別	器種	出土位置	現存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器	杯	埋没上下位		□ 14.8	細砂粒/良好/に ぶい黄褐	内面黒色処理。口縁部上半横ナデ、稜下から底部はヘラ磨き。内面はヘラ磨き。	Ec
2	土師器	杯	埋没上下位		□ 12.2	細砂粒/良好/に ぶい黄褐	内面黒色処理。口縁部上半横ナデ。内面はヘラ磨き。	E
3	土師器	杯	埋没上下位		□ 11.6	細砂粒/良好/に ぶい黄褐	内面黒色処理。口縁部上半横ナデ。内面はヘラ磨き。	E
NO.	種別	器種	出土位置	現存率	計測値	摘要		
4	石製品	模造品 白玉	床下土坑		側面一部欠	径1.280 長0.740 孔径0.295 重1.80	滑石	

H区1号竪穴建物

本竪穴建物は調査当初に確認面での平面形態が矩形を呈していたことから竪穴建物として発掘調査を進めたが、床面が平面、断面でも検出できない状態であった。また、出土した遺物からカマドの存在が想定されたが、焼土や灰、粘土などのカマド構築材も確認できなかった。しかし、掘方底面付近では明らかに埋め戻されたと判断される土砂が確認できることからどのような状態で廃棄したのか検討を要した。その結果、D区8号竪穴建物やG区1号竪穴建物などと同様な竪穴を掘削し、埋め戻しを行い始めたところで廃棄したと想定された。

位置はH区調査区の東南部、X=75.483~75.486-Y=-66.742~-66.746である。残存状態は中央部の

上部をH区1号溝の掘削によって欠損しているが、他の部分は比較的良好であった。他遺構との重複関係は前記のようにH区1号溝との重複が確認された。新旧関係は本竪穴建物のほうが古い。

平面形態は東辺が西辺に比べて0.7mほど短く各角に丸みをもつ隅丸台形を呈する。規模は南北3.52m、東西3.94m、各辺長は各角が丸みをもつため大凡ではあるが、北辺3.87m、東辺2.20m、南辺3.40m、西辺2.90mを測る。主軸方位は長軸方向でほぼ東を指す。

柱穴、貯蔵穴などの内部施設やカマドなどの施設は痕跡も存在していなかった。

掘方は中央部を径80cmほどの台状に掘り残し、周囲を50~60cmほど掘り込んでいた。周囲の掘り込み面は

IV 検出した遺構と出土した遺物

10cm前後の高低差はみられるがほぼ平坦であった。

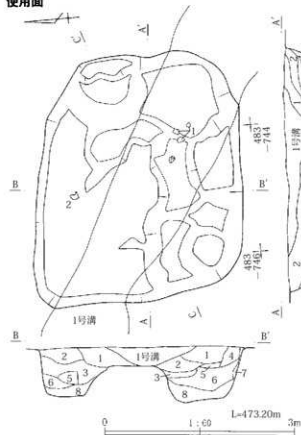
埋没状態は土層断面では人為的な埋め戻しが行われた状態が観察できるが断定するには至らなかった。

遺物は図示できたものは1・2の土師器杯、甕だけであった。なお、掲載した以外の出土土器数量は土師器杯

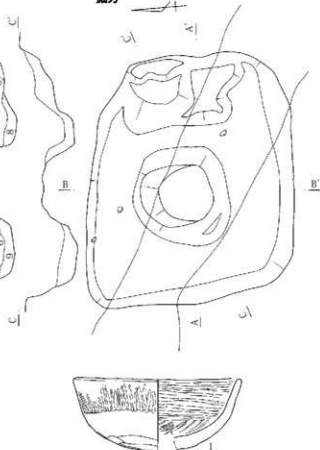
3点、甕29点、須恵器椀2点があった。このうち土師器甕には平安時代の口縁部がコの字状を呈する形態の甕が12点みられた。

本竪穴建物の存続年代は埋没土下位や掘方から出土遺物から7世紀前半代に比定できる。

使用面

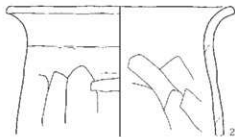


掘方



H区1号竪穴建物

- 1 暗褐色土 Hr FPを5%、黄色粒1%含む。
- 2 暗褐色土 Hr FPを5%含む。
- 3 暗褐色土 Hr FPを5%、ローム大ブロック10%含む。
- 4 褐色土 Hr FPを5%、φ5cm前後のロームブロックを40%含む。
- 5 暗褐色土 Hr FPを1%含む。
- 6 黒褐色土 Hr FPを少量とロームブロックを含む。
- 7 暗褐色土 Hr FPを少量とロームブロックを含む。
- 8 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。
- 9 灰黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。



125図 H区1号竪穴建物遺構図・出土遺物図

H区1号竪穴建物

PL.148

NO.	種器類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	掘方 7/8	口 13.0 高 5.7	細砂粒/良好/灰黄	内面黒色処理。口縁部上半横ナデ後縦方向へラ磨き、下半ナデ、底部へラ削り。内面はへラ磨き。	Ea
2	土師器 甕	埋没上中 口縁-胴部上位片	口 17.4	細砂粒/良好/濃い橙	外面に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部縦方向へラ削り。内面胴部はへラナデ。	

H区4号竪穴建物

本竪穴建物はH区調査区の東寄り、 $X=75,482\sim 75,485$ 、 $Y=-66,753\sim -66,756$ である。残存状態は確認面から床面まで深度が50cm近くと深いことから比較的良好である。他遺構との重複関係は第1面では確認されなかった。

平面形態は各角がやや丸みをもつ隅丸方形を呈する。規模は南北2.45m、東西2.63m、各辺長は各角に丸みがあるため曖昧ではあるが北辺2.20m、東辺2.25m、南辺1.90m、西辺2.25m、壁高は41～49cm、床面積は2.8㎡を測る。主軸方位は $N-5^{\circ}-E$ を指す。

内部施設は柱穴4本と周溝が検出されたが、貯蔵穴は確認できなかった。なお、西辺中央の壁面には壁外に延びる土坑が設けられていた。柱穴は各角寄り、東西辺の壁下からはほとんど間隔をもたないが、南北辺からは30～40cmほど離れた位置である。各柱穴距離はP1-P2が0.83m、P2-P3が1.46m、P3-P4が1.17m、P4-P1が1.25mである。各柱穴規模はP1が径32×28cm、深度22cm、P2が径42×38cm、深度28cm、P3が径38×36cm、深度12cm、P4が径42×37cm、深度22cmである。周溝は北辺のカマド左側とP4から南辺の中程まで、東辺のP1とP2の間で検出した。周溝の大半は壁下に位置するが、西辺のP4から中程までは最大20cmほど壁下より離れていた。規模は幅20～25cm、深度1～5cmである。

西辺中央壁面の土坑は壁外に10cmほど延びる横穴状のものである。規模は径40×20cm、床面より18cmの深

度がある。なお、この土坑の全面には周溝が設けられていることから平時は壁面を押さえるものによって閉じられていたと想定される。この土坑内からは遺物などの出土例はみられなかった。床面は北半は床下土坑が存在するが、南半では掘方底面より1～8cmほどローム粒、ブロックによって埋め戻し踏み固めて硬化面としていた。

カマドは北辺の東寄りに構築されている。残存状態は焼き口部から燃焼部にかけて大きく壊されているが、ソデ部は20～25cmほどの高さを残していた。規模は全長1.14m、幅0.90m、燃焼部幅0.30m程を測る。焼き口手前には長さ30cm、幅、厚さ20cmの垂角礫が出土しており、カマドの補強材として使用されたとみられるが、ソデであったか天井であったかは判断できなかった。

掘方は北半の柱穴P1-P4の間に円柱状の床下土坑が検出された。床下土坑1は径80×75cm、深度27cm、床下土坑2は径94×84cm、深度26cmである。両床下土坑とも内部からは遺物などの出土がみられないことからカマド構築材に使用したⅧ層、Ⅸ層のローム土を採取するためのものと想定される。

埋没状態は土層断面でレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没と判断される。

遺物は図示できたのが土師器杯・甕など5点しかないように散在した状態であった。なお、掲載した以外の出土土器数量は土師器杯4点、甕31点があった。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から7世紀前半代に比定できる。

H区4号竪穴建物

1黒褐色土 Hr-FP含と炭化物をわずかに含む。

2暗褐色土 Hr-FPを多量とローム粒を含む。

4暗褐色土 ローム粒とロームブロックを含む。

5暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。

6灰黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。

カマド

1暗褐色土 Hr-FPとローム粒、焼土粒を含む。

2暗褐色土 1よりも焼土粒多い。

3暗褐色土 Hr-FPを少量とローム粒と焼土粒を多く含む。

4にぶい黄褐色土 ローム粒を多くと焼土粒を少量含む。

5灰黄褐色土 ローム粒と焼土粒を多く含む。

6灰黄褐色土 ローム粒とロームブロックとHr-FP、焼土粒をわずかに含む。

7暗褐色土 ローム粒を少量含む。

8灰黄褐色土 焼土粒とローム粒を含む。

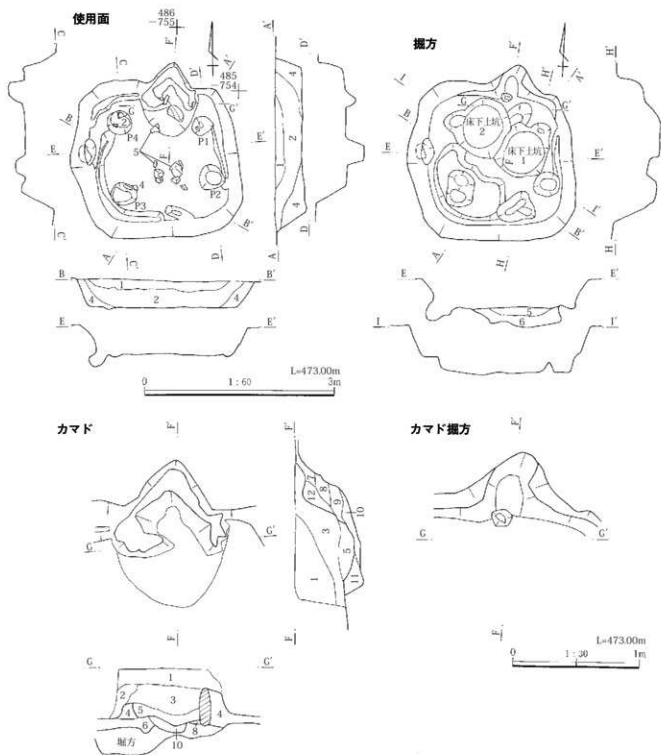
9にぶい黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。

10にぶい黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを多くとHr-FPをわずかに含む。

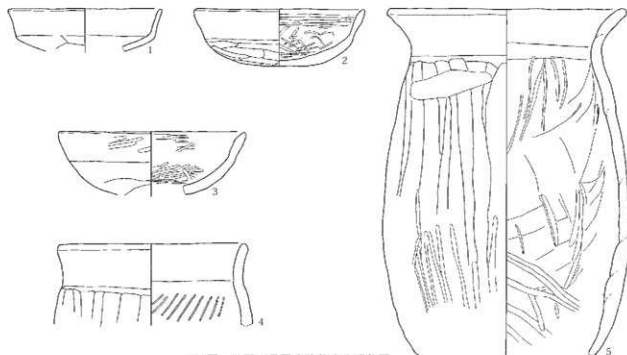
11にぶい黄褐色土 ローム粒、ロームブロックとHr-FPをわずかに含む。

12灰黄褐色土 焼土粒、炭化物を含む。

IV 検出した遺構と出土した遺物



126図 H区4号竪穴建物遺構図



127図 H区4号竪穴建物出土遺物図

PL.148・149

H区4号竪穴建物

NO.	種別	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	埋没土中 口縁部片	口 11.8 稜 11.0	細砂粒/軟質/橙	口縁部は横ナデ、稜下はへら削り。	Ca-2
2	土師器 杯	柱穴P4 2/3	口 13.0 稜 11.6	細砂粒/良好/ ぶい橙	内面黒色処理。口縁部は横ナデ、稜下から底部はへら削り。内面はへら磨き。	Ea
3	土師器 杯	埋没土中 口縁部片	口 14.4	細砂粒/良好/ ぶい黄褐	内面黒色処理。口縁部は横ナデ、下半から底部はへら削り。内面はへら磨き。	Ea
4	土師器 甕	+34 口縁~胴部上位片	口 14.4	粗砂粒/良好/ ぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部は縦方向へら削り。内面胴部はへらナデ後、へら磨き。	
5	土師器 甕	カマド、+6、30 口縁部~胴部下位片	口 18.4	粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、胴部縦方向へら削り、下位にへら磨き。内面胴部はへらナデ後縦なへら磨き。	

H区6号竪穴建物

本竪穴建物は全体2分の1程度を発掘調査したが、残りは発掘調査範囲対象外に存在するため全貌や詳細については不明である。位置はH区調査区の北東部の北端、 $X=75.490\sim 75.494$ - $Y=-66.749\sim -66.752$ である。残存状態は東辺際を重複する遺構によって上半部を欠くが、発掘調査範囲では確認面から床面まで深度も深く比較的良好であった。他遺構との重複関係は東辺際でH区7号竪穴建物との重複が確認された。新旧関係は本竪穴建物のほうが古い。

平面形態は方形または長方形を呈する。規模は南北3.43m、東西2.00m+a、辺長は全長がわかるのが東南辺だけでその長さ2.90mである。壁高は他遺構と重複する北辺を除くと54~82cmである。主軸方位はN-132°

—Eを指す。

内部施設は東辺カマドの右側、東南角で貯蔵穴を検出した。この貯蔵穴を発掘調査したところ内部に底面が2ヶ所みられ、2ヶ所の底面の間が立ち上がることから柱材を引き抜くときに床面付近が壊れて貯蔵穴と柱穴が一体化したものと判断した。柱穴の規模は径45×27cm、深度40cmである。貯蔵穴の規模は径52×42cm、深度57cmである。床面は掘方底面より5~10cmほどローム粒、ブロックによって埋め戻し踏み固めて硬化面としていた。

カマドは東辺のほぼ中央(東辺カマド)と北辺の東寄り(北辺カマド)に構築されている。残存状態は両カマドとも焚き口、燃焼部とも大きく壊され、ソデ部も微かに残るだけである。規模は東辺カマドが全長0.70m、幅0.74m、北辺カマドが全長0.55m、幅0.80mである。両

IV 検出した遺構と出土した遺物

カマドの使用頻度は燃焼部底面の焼土化の状態では北辺カマドのほうが激しいが、東辺カマドは煙道部が壁外に延びる形態を呈していることから後に造られた可能性はあ

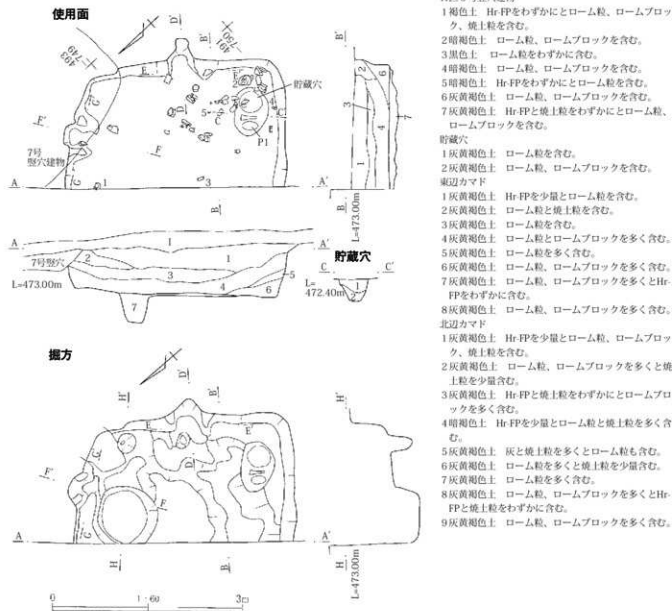
る。掘方は北辺カマド前方に床下土坑が検出された他は床面より10~20cmほど掘り込まれた状態であった。床下土坑は円柱状で規模は径1.03×0.95m、深度50cmである。内部からは遺物などの出土がみられないことからカマド構築材に使用したⅧ層、Ⅸ層のローム土を採取する

ためのものと想定される。

埋没状態は土層断面でレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没と判断される。

遺物は図示できたのが土師器杯・甕など5点しかないが東辺カマド前方から貯蔵穴東側にややまとまった状態であった。なお、掲載した以外の出土土器数量は土師器杯2点、甕90点があった。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から7世紀前半代に比定できる。

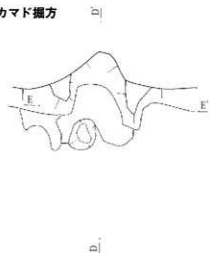


128図 H区6号竪穴建物遺構図(1)

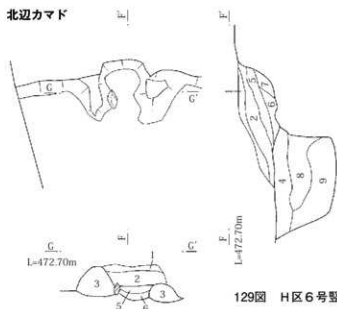
東辺カマド



東辺カマド掘方



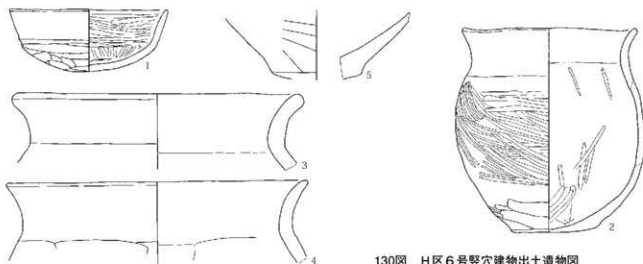
北辺カマド



北辺カマド掘方



129図 H区6号竪穴建物遺構図(2)



130図 H区6号竪穴建物出土遺物図

H区6号竪穴建物

PL149

NO.	種別 器類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	床面 2/3	口 12.2 径 11.0 高 4.9	粗砂粒/良好/ 灰褐色	内面黒色処理、口縁部横ナデ、椀下から底部はヘラ削り、内面はヘラ磨き。	Ec
2	土師器 費	+10 5/6	口 13.5 底 7.0 高 16.1	粗砂粒/良好/ 灰褐色	口縁部横ナデ、胴部はヘラ削り後ヘラ磨き、底部はヘラ削り、内面胴部はヘラナデと部分的なヘラ磨き。	
3	土師器 口縁部片	床面 口縁部片	口 22.0	粗砂粒/良好/ 灰褐色	口縁部横ナデ。	
4	土師器 費	+36 口縁部片	口 23.6	粗砂粒/良好/粗	口縁部横ナデ。	
5	土師器 費	+31 底部片	底 7.0	粗砂粒/良好/ 灰褐色	胴部下位はヘラ削り、内面はヘラナデ。	

I区1号竪穴建物

本竪穴建物の位置はI区調査区の東寄り、X=75.501~75.505、Y=-66.727~-66.731である。残存状態は確認面から床面まで深度があまり深くないが比較的良好であった。他遺構との重複関係は確認されなかった。

平面形態は各角にやや歪みがみられるが東西方向が南北方向に比べて約30cmほど長い長方形を呈す。規模は南北3.43m、東西3.71m、各辺長は北辺3.35m、東辺3.14m、南辺3.45m、西辺3.18m、壁高は確認面から33~47cm、床面積は8.1㎡を測る。主軸方位はN-84°Eを指す。

内部施設は柱穴2本と周溝を検出した。柱穴は南辺壁寄りのP1は東辺から60cm、P2は西辺から40cm離れた位置にある。柱穴間距離は3.80m、規模はP1が径39×36cm、深度20cm、P2が径46×42cm、深度73cmである。周溝はカマドと北辺のごく一部を欠く他は全周する。規模は幅20cm前後、深度4~7cmである。床面は東南部が掘方底面より5~20cmほどロームブロックを主に埋め戻し踏み固めて硬化面としているが、北西部は地山をそのまま踏み固めていた。

カマドは東辺の中央よりやや南に構築されている。残存状態は焚き口、燃焼部、煙道天井とも大きく壊され、ソデ部も高さ10cmほどしか残存していない状態であ

た。規模は全長1.58m、幅1.00m、燃焼部幅0.40mで煙道部は壁外に約40cm延びる。カマド右側にはカマドの補強に使用されていたとみられる角礫が散乱していた。

掘方は中央部にやや規模の大きな床下土坑、その南側に小規模な床下土坑が検出された。また、南側は床面より10cmほど掘り込まれていたが、北側は掘り込みが確認されなかった。床下土坑はともに楕円形を呈し、規模は床下土坑1が径127×105cm、深度20cm、床下土坑2が径83×70cm、深度75cmを測る。両床下土坑とも内部からは遺物などの出土がみられなかった。床下土坑1は掘り込みが浅く他の床下土坑のような用途は想定しにくい、床下土坑2は深度も深いことからカマド構築材に使用したⅧ層、Ⅸ層のローム土を採取するためのものと想定される。

埋没状態は土層断面でレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没と判断される。

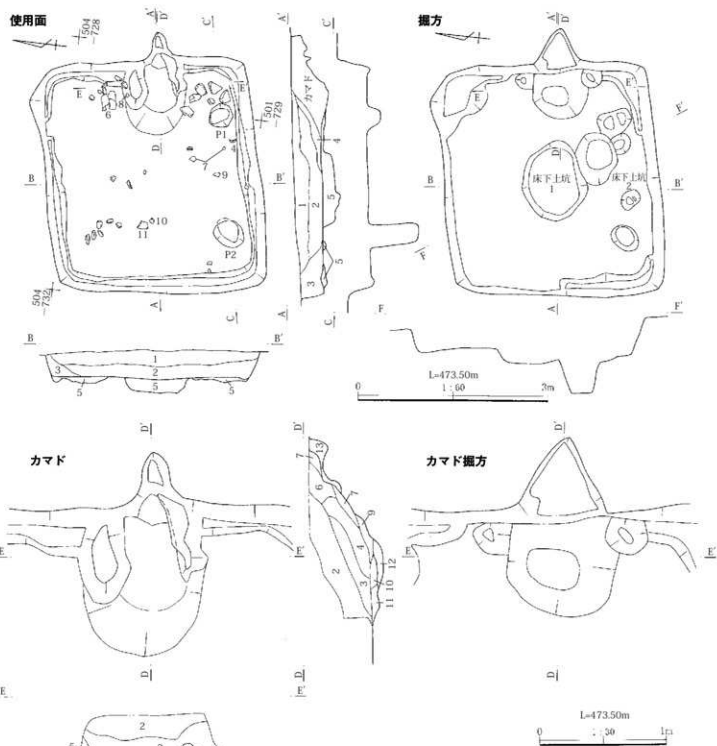
遺物は図示できたのが土師器杯・費など11点しかなく全体的にも散在した状態であった。なお、掲載した以外の出土土器数量は土師器杯10点、費255点、須恵器杯3点、長頸壺2点、費6点があった。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から7世紀前半代に比定できる。

I区1号竪穴建物

- 1黒褐色土 Hr-FPとローム粒を含む。
 - 2暗褐色土 Hr-FPとローム粒、ロームブロックを含む。
 - 3暗褐色土 Hr-FPをわずかにとローム粒を含む。
 - 4にぶい赤褐色土(2SYR4/3) 焼土粒を多くとローム粒を含む。
 - 5暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。
- カマド
- 2褐色土 Hr-FPを少量とローム粒、ロームブロック、焼土粒を含む。
 - 3にぶい赤褐色土 ローム粒、炭化物、焼土粒を多く含む、粘性を有するローム土(ⅧorⅨ)が混入。

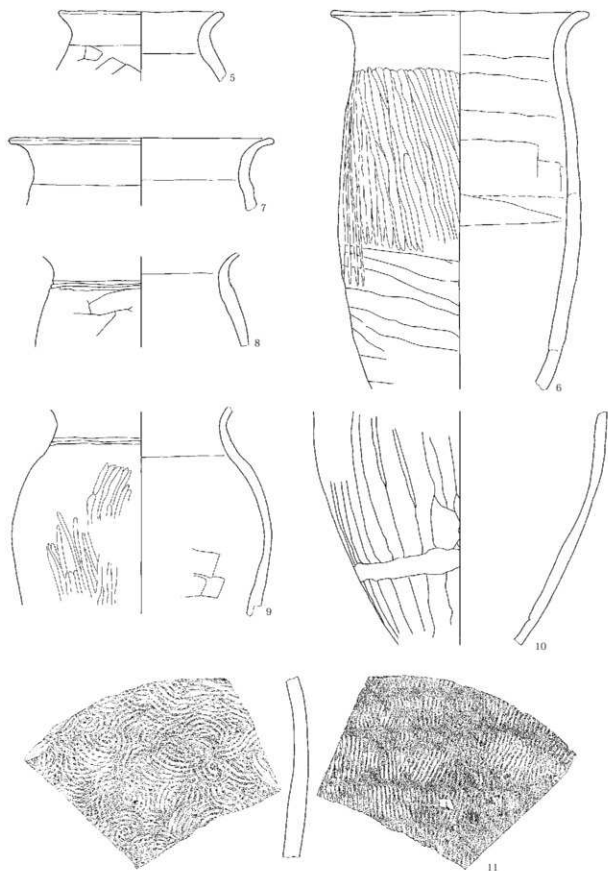
- 4黒褐色土 Hr-FP、焼土粒を少量とローム粒を含む。
- 5灰黄褐色土 灰と焼土粒を多く含む。
- 6にぶい赤褐色土 焼土ブロックを多く含む。
- 7灰黄褐色土 焼土粒を含む、ローム土(ⅧorⅨ)が混入。
- 8にぶい黄褐色土 ローム粒、ロームブロックとHr-FPを少量含む。
- 9明黄褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 10にぶい赤褐色土 焼土粒を多く含む。
- 11褐色土 焼土。
- 12にぶい赤褐色土 焼土粒とローム粒を多く含む。
- 13明黄褐色土 粘性を有するローム土(Ⅷ)が主体。



131図 I区1号竪穴建物遺構図



IV 検出した遺構と出土した遺物



133図 I区1号竪穴建物出土遺物図(2)

I区1号竪穴建物

PL.149

NO.	種別	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	埋没上中 口縁部片	□ 12.8 稜 11.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、椀下はヘラ削り。	Ca-2-2
2	土師器 杯	埋没上中 口縁部片	□ 11.4	細砂粒/良好/ ふい黄橙	内面黒色処理。口縁部上半横ナデ、下半ヘラ削り、 中程に凹縁が1条走る。内面はヘラ磨き。	Ec
3	土師器 杯	埋没上中 口縁部片	□ 11.8	細砂粒/良好/ ふい橙	内面黒色処理。口縁部上位横ナデ、中位ナデ、下位 ヘラ削り。内面はヘラ磨き。	Ec
4	土師器 短頸壺	床面 3/4	■ 10.4 底 2.4	粗砂粒/良好/橙	内面黒色処理。口縁部横ナデ、胴部ヘラ磨き、底部 ヘラ削り。内面胴部・底部はヘラ磨き。	
5	土師器 小型壺	+23 口縁部片	□ 12.6	粗砂粒/良好/ ふい黄	口縁部横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナ デ。	
6	土師器 甕	カマド、+13、27 口縁→胴部下位片	□ 20.0	粗砂粒/良好/ ふい橙	口縁部横ナデ、胴部は上半が縦方向ヘラ磨き、下半 が横方向ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
7	土師器 甕	床面 口縁部片	□ 20.2	粗砂粒/良好/灰 濁	口縁部横ナデ。	
8	土師器 甕	カマド、床面 頸部→胴部上位片		粗砂粒/良好/ ふい橙	口縁部横ナデ、頸部に2~3条の凹縁が走る。胴部 はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
9	土師器 甕	カマド、床面 頸部→胴部中位片		粗砂粒/良好/ ふい橙	口縁部横ナデ、頸部に2~4条の凹縁が走る。胴部 は部分的にヘラ磨き。内面胴部はヘラナデ。	
10	土師器 甕	床面 胴部下半片		粗砂粒/良好/ ふい橙	胴部は縦方向ヘラ削り。下位に横方向の強いナデが 1条走る。内面はヘラナデ。	
11	須恵器 甕	床面 胴部片		粗砂粒/還元焼 灰	外面は平行叩き、内面は同心円状アケテグが残る。	

I区6号竪穴建物

本竪穴建物は全体4分の1程度を発掘調査したが、残り大半は発掘調査範囲対象外に存在するため全貌や詳細については不明である。位置はI区調査区の中程の東端、 $X=75.491\sim 75.494$ - $Y=-66.730\sim -66.734$ である。残存状態は西辺壁を重複する遺構によって欠くが、他の部分は発掘調査範囲では確認ながら床面まで深度が1m近くと深く比較的良好であった。他遺構との重複関係は西辺際でI区3号竪穴建物との重複が確認された。新旧関係は本竪穴建物のほうが古い。

平面形態は方形または長方形を呈する。規模は南北1.70m + a、東西4.12m、辺長は計測可能な北辺が3.80m、壁高は82~91cmを測る。主軸方位はカマドが東辺に構築されているならばN-63°-Eを指す。

内部施設は柱穴1本と周溝が検出された。柱穴は北辺から90cm、西辺から60cmほど内側に位置し、規模は径30×26cm、深度43cmである。周溝はI区3号竪穴建物

と重複する箇所では検出できなかったが、その他の壁下では検出された。規模は幅15cm前後、深度3~7cmである。床面は掘方底面より5~20cmほどロームブロックを主とした土で埋め戻され踏み固められて硬化面としていた。

掘方は15cmほどの部分的に高低差がみられるが、床下土坑などの施設は検出されなかった。

埋没状態は土層断面で土砂が標高の高い東側から多く流入してレンズ状の堆積をしたことが観察できることから自然埋没と判断される。

遺物は図示できたのが土師器杯・甕など2点しかなく全体的にも小破片が散在した状態であった。なお、掲載した以外の出土土器数量は土師器杯1点、甕1点、須恵器甕1点があっただけである。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から6世紀前半代に比定できる。

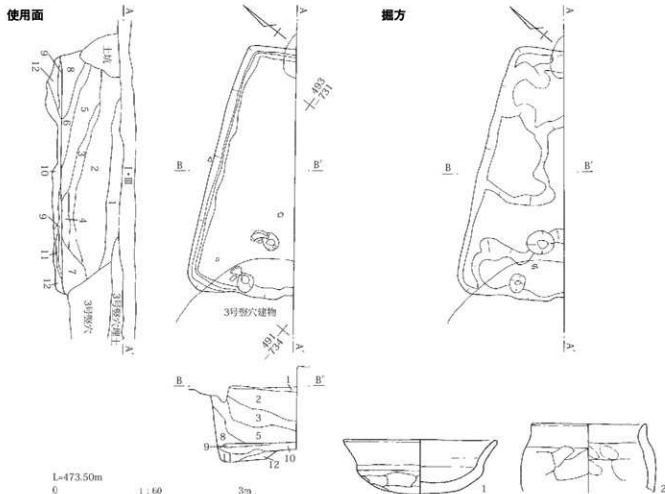
I区6号竪穴建物

- 1 黒褐色土 φ0.5cmのHr-FPを多く含む。
- 2 N層(Hr-FP) 1次堆積。
- 3 黒色土 ローム粒を含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒を多く含む。
- 5 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。
- 6 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。
- 7 暗褐色土 Hr-FPを少量とローム粒を多くとロームブロック、焼土粒、

炭化物を含む。

- 8 暗褐色土 ローム粒、ブロックを多く含む。
- 9 黒褐色土 黒色土とローム粒、ロームブロックを含む。
- 10 黒色土 ローム粒、ロームブロックを含む。
- 11 にふい黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。
- 12 黒色土 ローム粒を少量含む。

IV 検出した遺構と出土した遺物



134図 I区6号竪穴建物遺構図・出土遺物

PL.149

I区6号竪穴建物

NO.	種類	出土位置	残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	掘方 1/2		口 11.8 径 10.0 高 4.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、椀下から底部はヘラ削り。	Db
2	土師器 壺	埋没土中 口縁部片		口 8.8	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。	

J区11号竪穴建物

本竪穴建物では北半部分から垂木材、屋根材などみられる炭化材が出土しており、焼失家屋とみられるが、柱材や梁材などは確認されないことやカマドが大きく壊されていることから廃棄後必要部材を取り除き不要な材を焼却したとみられる。なお、炭化材については代表的なものについて樹種同定を行っている。その結果は363～367頁「V自然化学分析 生品西浦遺跡II竪穴建物出土炭化材の樹種同定」を参照されたい。

位置はJ区調査区の東寄り、X=75.530～75.534-Y=-66.686～-66.689である。残存状態は確認面か

ら床面まで深度が比較的浅かったが良好であった。他遺構との重複関係は確認されなかった。

平面形態はほぼ方形を呈す。規模は南北3.27m、東西3.12m、各辺長は北辺3.00m、東辺3.03m、南辺2.98m、西辺3.07m、壁高は17～40cm、床面積は8.3㎡を測る。主軸方位はN-70°-Eを指す。

内部施設は柱穴1本、貯蔵穴、周溝を検出した。柱穴は北東角寄り、東辺から20cm、北辺から45cm内側に位置し、規模は径35×32cm、深度10cmである。貯蔵穴はカマドの右側、東辺から35cm、南辺から25cmと他の竪穴建物のものより内側に位置する。平面形態は楕円形

を呈し、規模は径52×46cm、深度55cmである。周溝は南辺の中程から西辺の中程までと、北西角部分で検出されたが、南辺の中程以外は壁下より10~15cmほど内側に位置する。規模は幅12~15cm、深度5~13cmである。床面は南半は掘方底面より10cmほどロームブロックを主に埋め戻し踏み固めて硬化面としているが、北半は地山をそのまま踏み固めていた。

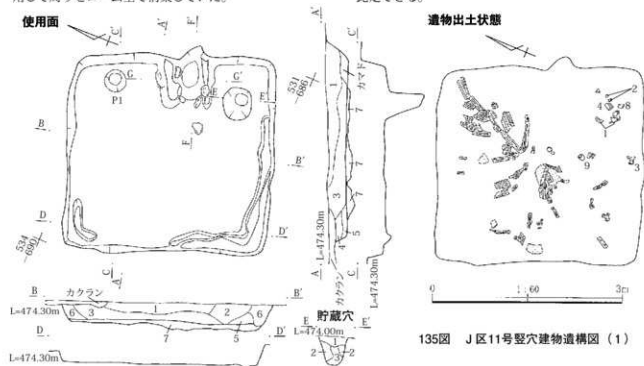
カマドは東辺の中程よりやや東に構築されている。残存状態は焚き口、燃焼部から煙道にかけての天井は大きく壊されているが、ソデ部は20cmほどの高さが残存していた。規模は全長1.05m、幅0.92m、燃焼部幅0.35mであった。ソデ部には15~20cmほどの円礫を補強に使用して固りをローム土で構築していた。

掘方は南半で床面より10cmほど掘り込まれているが、北半では掘り込みが確認できなかった。また、北辺・東辺・南辺の一部で弥生時代の竪穴建物の掘方壁下でみられた径10cmほどの小孔が8カ所みられた。

埋没状態は土層断面の観察では一部不自然な堆積状態もみられるが、これは炭化材の影響によるものとみられることから自然埋没であると判断した。

遺物は貯蔵穴及びその周囲からややまとって出土しているが、全体的には散在的な出土であった。なお、掲載した以外の出土土器数量は土師器杯3点、甕13点、須恵器長頸甕2点、甕5点があった。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から6世紀後半代に比定できる。



135図 J区11号竪穴建物構造図(1)

J区11号竪穴建物

- 1 黒褐色土(10YR2/2) V主体、V・VI混入(約30%)、 ϕ 0.5~3cmのロームブロックを20%含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 1と同様、 ϕ 1~5cmのロームブロックを30%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) V・VI・VIIの混合土(3:3:4)、 ϕ 1~7cmのロームブロックを50%含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/1) Vに近似、 ϕ 1cmのロームブロックを10%含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/2) 3に類似、ロームブロックを70%含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/1) Vに類似、 ϕ 1~5cmのロームブロックを10%含む。
- 7 ロームブロック主体、ブロックの間にVが流れ込む。

貯蔵穴

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒、ロームブロックと焼土を少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒、ロームブロックを含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒、ロームブロックを含む。

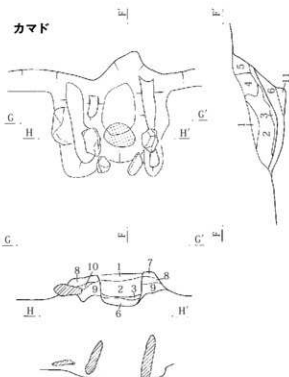
カマド

- 1 黒褐色土(10YR3/1) Vに類似、 ϕ 0.5~1cmのロームブロック、焼土粒を5%含む。
- 2 ロームブロック主体、黒褐色土(V) 20%、焼土ブロック10%含む。
- 3 燃焼部 底面は焼土化している。
- 4 黒褐色土(V) を50%、焼土ブロック10%、ロームブロック20%、灰黄褐色粘土ブロック20%含む。天井崩落。
- 5 黒褐色土(10YR3/1) Vが煙道に流れ込んだもの、ローム粒を1%含む。
- 6 V・VIブロック、焼土ブロックの混合土。
- 7 明赤褐色土(5YR8/5) ローム土の焼土化、 ϕ 2~10cmのVIIブロック主体、V・VIが30~50%混入。
- 8 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒、焼土粒を5%含む。
- 9 黒褐色土(ローム土の固くなったもの、焼土粒を10%含む。
- 10 ローム土、左側は焼土化。
- 11 に近い黄褐色土、ロームブロック。

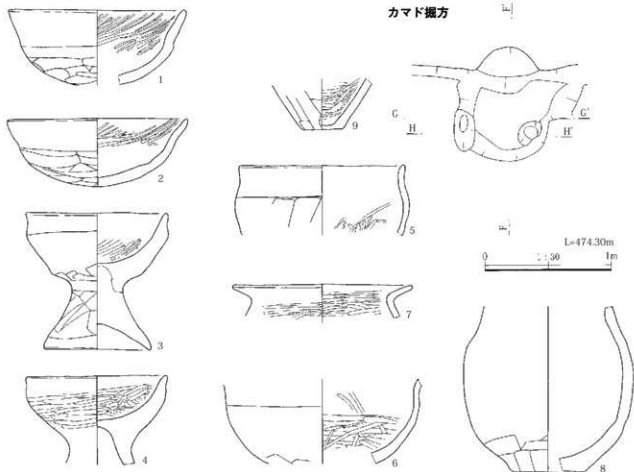
IV 検出した遺構と出土した遺物



136図 J区11号竪穴建物遺構図(2)



カマド掘方



137図 J区11号竪穴建物出土遺物図

J区11号竪穴建物

PL.149

NO.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 要
1	土師器 杯	+7 1/3	口 13.6 高 5.0	粗砂粒/良好/赤 褐色	口縁部横ナデ、稜下から底部はヘラ削り。内面口縁部は斜放射状ヘラ磨き。	En
2	土師器 杯	+23, 32, 6号竪穴 1/2	口 14.0 高 5.4	粗砂粒/良好/赤 褐色	口縁部横ナデ、稜下から底部はヘラ削り。内面口縁部は斜放射状ヘラ磨き。	Ea
3	土師器 高杯	+10 1/2	口 10.8 底 7.0 高 10.7 脚 8.2	粗砂粒/良好/赤 褐色	杯身口縁部は横ナデとナデ、底部はヘラ削り。脚部はヘラナデと横ナデ。杯身内面底部はヘラ削り。	脚部を杯身に差し込むように接合成形。B-3
4	土師器 高杯	+26 杯身	口 10.8	粗砂粒/良好/明 赤褐色	杯身口縁部上半横ナデ、下半から底部はヘラ磨き。脚部との接合部はナデ。杯身内面はヘラ磨き。	B-3
5	土師器 鉢	埋没上中 口縁部~体部上半片	口 12.8	細砂粒/良好/に ぶい褐色	口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。内面体部に雑なヘラ磨き。	
6	土師器 鉢	カマド、埋没上中 口縁部~体部片		細砂粒/良好/に ぶい褐色	口縁部横ナデ、体部はナデ、底部はヘラ削り。内面体部はヘラ磨き。	
7	土師器 壺	埋没上中 口縁部片	口 13.8	細砂粒/良好/赤 褐色	口縁部横ナデ、頸部から下位はヘラ磨き。内面はヘラ磨き。	
8	土師器 壺	+20 底部~胴部	底 5.6	粗砂粒/良好/赤 褐色	胴部はヘラ削りであるが、器面剥離などにより単位などは不明。底部はヘラ削り。	
9	土師器 甕	+24 底部~胴部	底 3.4	粗砂粒/やや軟 質/橙	胴部・底部はヘラ削り。内面胴部はヘラ磨き。	

J区14号竪穴建物

本竪穴建物は北東角の一部だけしか発掘調査が実施できなかった。残りの大半は発掘調査範囲対象外に存在するため全貌や詳細については不明である。位置はJ区調査区の中程の南端、X=75.514~75.518-Y=-66.683~-66.686である。残存状態は確認面から床面まで深度も比較的深いことから良好であった。他遺構との重複関係は調査区内では確認されなかった。

平面形態は方形、または長方形を呈すると想定される。規模は南北、東西とも3.0m以上である。壁高は42~44cmである。主軸方位はN-94°-Eを指す。

内部施設は柱穴1本と周溝、通称「間仕切り溝」を検出した。柱穴は北東部、北辺壁下から1.0m、東辺壁下から0.7m内側に位置する。平面形態は楕円形を呈し、規模は径38×35cm、深度80cmである。柱穴と東辺の間に「間仕切り溝」が検出された。この溝は周溝から10cm内側から柱穴までの間で、規模は全長70cm、幅13cm、深度15~17cmである。周溝は調査した範囲内ではカマド部分を除き全周する。規模は幅15cm、深度3~4cmである。床面は大部分は地山をそのまま踏み固めているが、北東角部分は床面より15~20cmほど掘り下げられロームブロックを主に埋め戻されて硬化面としていた。

カマドは東辺の中程に構築されているが、調査区境の

ため内部の調査はできなかった。

掘方は北東部の一部で床面より15~20cmほど掘り込まれているが、底面は掘削時の凹凸がそのまま残っていた。

埋没状態は土層断面の設定が竪穴建物の平面に対して斜めではあるが、レンズ状に近い堆積が観察できることから自然埋没であると判断される。なお、断面上半はHr-FPが最大30cmの厚さで堆積していた。

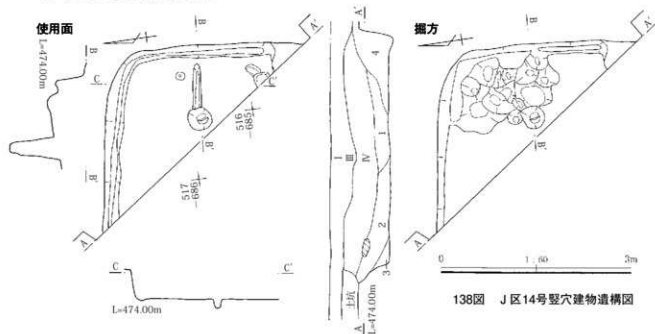
遺物は調査範囲が限られているためわずかで、その出土状態も散在的であった。なお、掲載した以外の出土土器数量は土師器甕6点、須恵器甕4点があった。

本竪穴建物の存続年代は出土物から6世紀前半代に比定できる。

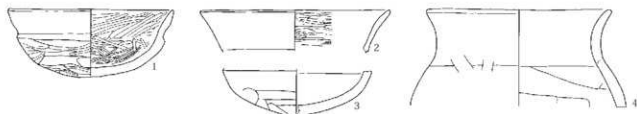
J区14号竪穴建物

- 1 黒褐色土 (10YR3/1) ローム粒、ロームブロックを多く含む。
- 2 黒褐色土 (10YR3/1) ローム粒、ロームブロックを含む。
- 3 明黄褐色土 (2.5Y6/6) 粘土主体、若干の黒色土を含むことからカマド左ソデ端部か。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) Hr-FPとローム粒を少量と粘性ある土を含む。カマドか？

IV 検出した遺構と出土した遺物



138図 J区14号竪穴建物遺構図



139図 J区14号竪穴建物出土遺物図

J区14号竪穴建物

PL.149

NO.	種類	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器	杯	+20	口 12.8 径 11.8 高 5.3	粗砂粒/良好/橙	内面黒色処理。口縁部は横ナデ、稜下から底部はヘラ削り後鈍なヘラ磨き。内面はヘラ磨き。	Ea
2	土師器	杯	埋没上中 口縁部片	口 14.8	細砂粒/良好/明褐色	内面黒色処理。口縁部は横ナデ。内面はヘラ磨き。	Ca-3-2
3	土師器	杯	埋没上中 稜下~底部片		粗砂粒/良好/赤褐色	稜下はヘラ磨きか単位などは不鮮明、底部はヘラ削り。内面はヘラ磨きであるが単位方向不鮮明。	
4	土師器	甕	床面 口縁~胴部上位片	口 14.2	細砂粒/良好/に い・黄褐色	口縁部横ナデ、胴部はナデ。内面胴部はヘラナデ。	

(2) 祭祀(土器集積)

D区1号祭祀

D区調査区では調査区の北側から表土掘削を開始したが、約20mほど進んだ地点で古墳時代の土器が多く出土し始めたためこの箇所の掘削は重機から人力に切り替え遺物を残しながら掘削を行った。掘削は黒色土が堆積するV層上面まで行ったが、V層を掘り込むような遺構は検出されなかった。遺物は141・142・143図、P.L.76・77にみられるようなものが出土しており、その中には手捏ね土器をはじめ多量の土器群と石製模造品の白玉が

出土した。こうした点から土器集積を中心とした祭祀遺構と判断した。

本祭祀の位置はX=75.252~75.255-Y=-66.942~-66.945であるが調査区西側に若干広がるとみられる。残存状態は土師器甕などの大型品は後世の攪拌によって上半部が欠損した状態でその他の土器も壊れた状態であった。重複関係は本祭祀遺構を検出した第1面では確認されておらず単独での占地である。

平面形態は調査時には把握するまでに至らなかったが、遺物分布図からは土器の集積状態から南北の2支群

に大別することが可能であることから最低2回の祭祀行為が行われたと想定される。

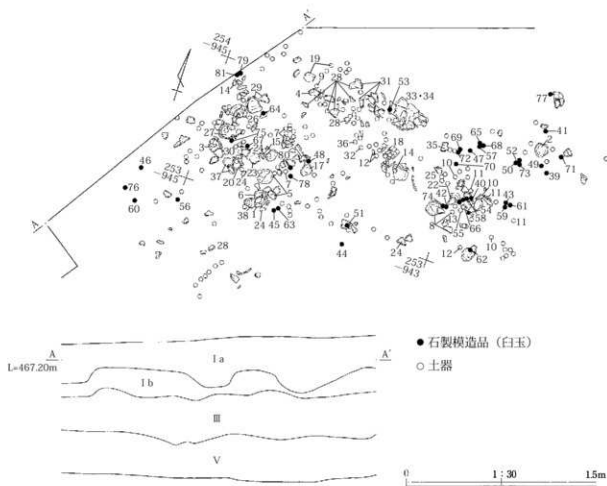
出土した土器群と石製模造品は図示した土器群38点と石製模造品白玉が43点のほか土器片が486点が出土している。この486点の内訳は土師器杯(口縁部が内湾する形態)11点、杯(須恵器杯模倣)44点、高杯5点、小型甕8点、甕418点である。ただし、土器の数え方は1点の破片を1点として数えたため甕などは同一個体であっても破損によって数点になるため、実際の個体数は甕などは30~40点であったとみられる。

石製模造品は白玉だけ、それも滑石製品である。川場村では本遺跡の北側に位置する後山東麓で蛇紋岩の分布が確認されており、沼田市(旧白沢村)寺谷遺跡では蛇紋岩製の石製模造品が多量に出土していることから近くに工房の存在が想定されている。本祭祀では蛇紋岩製の玉

を使用せず遠隔地より滑石を搬入・加工、または製品での搬入が行われており注目される点である。

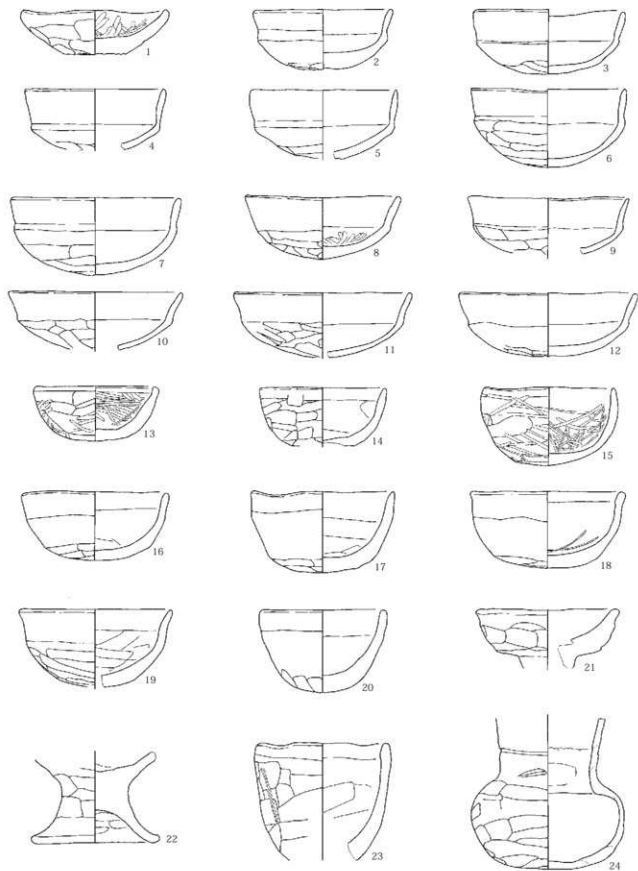
本祭祀における祭祀行為は土器と石製模造品によって行われているが、土器は地表面に並べられるように置かれており、石製模造品は土器と土器の間から多く出土している。こうした出土状態から石製模造品を供えた後に供物を入れた土器を置いたと想定される。

祭祀行為が行われた時期については土器群が置かれた状態を層位から見ると土器の上部も下部もHr-FPを多く含むⅢ層であることからHr-FP堆積後、この軽石が下位のV層といっしょに鈎込まれる時間が経過してから行われていることがわかる。こうした状態や出土している土器群からから6世紀後半代でも前半に近い時期が比定できる。

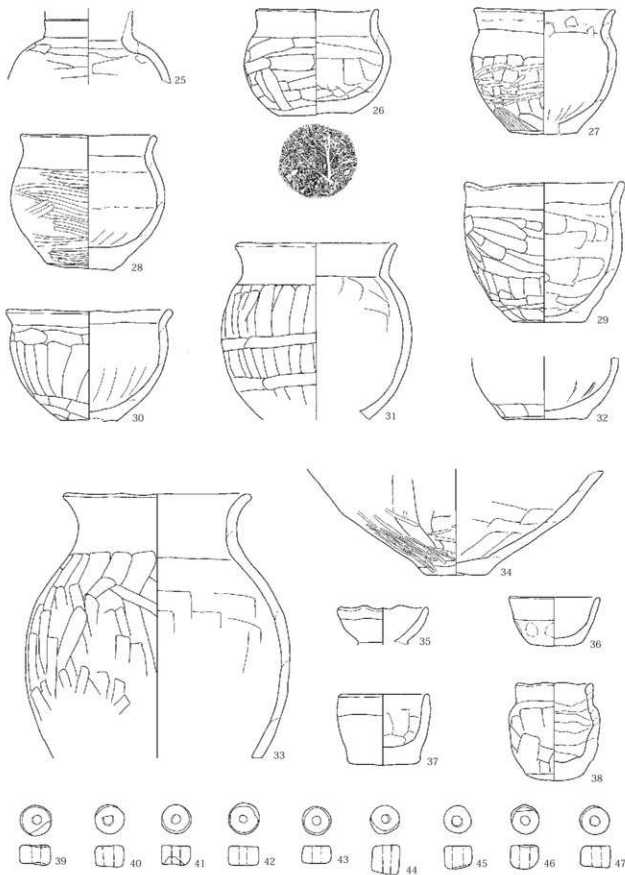


140図 D区1号祭祀遺構図

IV 検出した遺構と出土した遺物



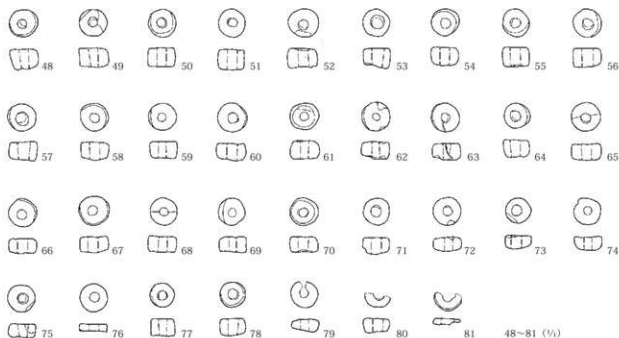
141図 D区1号祭祀出土遺物図(1)



142图 D区1号祭祀出土遺物图(2)

39~47 (1/6)

IV 検出した遺構と出土した遺物



143図 D区1号祭祀出土遺物図(3)

D区1号祭祀(土器集積) 出土位置はグリッドを表記

PL.150・151

NO.	種器種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	253-944 1/3	口 11.2 底 5.9 高 3.5	粗砂粒/良好/ ぶい褐色	口縁部上位ナデ、中位・下位へら削り、底部へら削り。内面はへらナデ後雑なへら磨き。	
2	土師器 杯	254-942 3/4	口 10.6 底 10.2 高 4.7	細砂粒/良好/橙	口縁部上半は横ナデ、横下はナデ、底部はへら削り。	
3	土師器 杯	253-944 3/4	口 11.6 底 11.2 高 5.1	細砂粒/やや軟 質/橙	口縁部上半は横ナデ、横下はナデ、底部はへら削り。	
4	土師器 杯	253-944 1/6	口 10.8 底 10.2	細砂粒/やや軟 質/橙	口縁部上半は横ナデ、横下はナデ、底部はへら削り。	
5	土師器 杯	253-944 1/3	口 11.4 底 10.8 高 5.4	細砂粒/良好/橙	口縁部上半は横ナデ、横下はナデ、底部はへら削り。	
6	土師器 杯	253-944 1/2	口 12.0 底 11.9 高 6.2	細砂粒/良好/橙	口縁部上半は横ナデ、横下から底部はへら削り。	
7	土師器 杯	253-944 1/4	口 13.0 底 12.8 高 6.1	細砂粒/良好/橙	口縁部上半は横ナデ、横下はナデ、ナデ下から底部はへら削り。	
8	土師器 杯	253-942 3/4	口 11.8 底 10.4 高 5.1	細砂粒/良好/ ぶい褐色	口縁部上半は横ナデ、横下から底部はへら削り。内面底部は放射状へら磨き。	
9	土師器 杯	254-944 1/4	口 12.4 底 11.8	細砂粒/良好/橙	口唇端部は平坦面。口縁部上半は横ナデ、横下から底部はへら削り。	
10	土師器 杯	253-942 1/4	口 13.6 底 12.2	細砂粒/良好/橙	口縁部上半は横ナデ、横下から底部はへら削り。	
11	土師器 杯	253-942 1/5	口 13.6 底 12.8 高 5.1	細砂粒/良好/橙	口縁部上半は横ナデ、横下から底部はへら削り。	
12	土師器 杯	253-942 1/3	口 13.6 底 12.6 高 5.0	細砂粒/良好/橙	口縁部上半は横ナデ、横下はナデ、底部はへら削り。	
13	土師器 椀	253-942 1/3	口 9.2 底 6.0 高 4.3	細砂粒/良好/ ぶい褐色	口唇部横ナデ、体部・底部へら削り後雑なへら磨き。内面体部・底部はへら磨き。	
14	土師器 椀	253-943 1/3	口 9.8 底 6.6	細砂粒/良好/ ぶい黄褐色	口縁部は横ナデ、体部・底部はへら削り。内面体部はへらナデ。	
15	土師器 椀	253-944 口縁部1/2次	口 10.0 底 7.0 高 6.2	細砂粒/良好/ ぶい赤褐色	口唇部横ナデ、体部・底部へら削り後雑なへら磨き。内面体部・底部はへら磨き。	
16	土師器 椀 ぼぼ光形	253-944	口 11.2 底 8.2 高 5.4	細砂粒/良好/ ぶい褐色	口縁部横ナデ、体部ナデ。底部へら削り。内面体部はへらナデ。	
17	土師器 椀	253-944 3/4	口 11.0 底 7.8 高 6.4	細砂粒/良好/ 明赤褐色	口縁部横ナデ、体部ナデ。底部へら削り。内面体部はへらナデ。	

NO.	種 類	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
18	土師器 椀	253-943 2/3	口 11.8 底 8.3 高 6.1	細砂粒/良好/ ふい/黄橙	口縁部横ナデ、体部ナデ。底部へう削り。内面体部はへラナデ。	
19	土師器 椀	254-944 1/2	口 11.8 高 6.2	細砂粒/良好/ ふい/赤褐	口縁部横ナデ、体部から底部はへう削り。内面体部から底部はへラナデ。	
20	土師器 椀	253-944 1/2	口 9.6 高 6.5	細砂粒/良好/ ふい/褐	口縁部横ナデ、体部ナデ。底部へう削り。内面体部はへラナデ。	
21	土師器 高杯	埋没上中 杯身部片	口 11.0 底 8.2	粗砂粒/良好/粗	口縁部上半は横ナデ、下半はへう削り、底部はナデ。	
22	土師器 高杯	253-942 脚部片	脚 9.2	細砂粒/良好/ ふい/黄橙	杯身底部から脚部上半はへラナデ、基部は横ナデ。内面脚部はへラナデ。	
23	土師器 鉢	253-944 1/3	口 10.0	細砂粒/良好/粗	口縁部はナデ、体部から底部はへう削り。内面体部はへラナデ。	
24	土師器 皿	253-944 口縁部上半欠	径 7.8 胴 12.0	細砂粒/良好/粗	口縁部から頸部は横ナデ、胴部から底部はへう削り。内面胴部はへラナデ。	
25	土師器 皿	253-943 頸部～胴部上位片	径 7.2	細砂粒/良好/ ふい/褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへう削り。内面胴部はへラナデ。	
26	土師器 短頸壺	253-943～944 口縁部1/3欠	口 8.4 胴 11.6 底 5.8 高 8.5	細砂粒/良好/ ふい/黄褐	口縁部横ナデ、胴部はへう削り。底部は木炭痕が残る。内面胴部はへラナデ。	
27	土師器 小型甕	253-944 1/2	口 10.4 底 5.3 高 9.8	細砂粒/良好/ ふい/黄橙	口縁部横ナデ、胴部上位ナデ、中位から下位は縦方向へう削り後へう磨き。底部へう削り。	
28	土師器 小型甕	252～254-944 1/2	口 10.4 底 5.2 高 10.6	粗砂粒/良好/赤褐	内面に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部へう磨き、底部へう削り。内面胴部はへラナデ。	
29	土師器 小型甕	253-944 1/2	口 12.2 底 5.8 高 11.0	細砂粒/良好/ ふい/黄橙	口縁部横ナデ、胴部上半は縦方向、下半は上位より縦、横、縦方向へう削り。底部へう削り。	
30	土師器 小型甕	253-944 1/3	口 12.8 底 4.5 高 8.7	細砂粒/良好/ ふい/黄褐	口縁部横ナデ、胴部は横、縦、斜め方向のへう削り。底部削離のため不明。内面胴部はへラナデ。	
31	土師器 小型甕	254-943 1/4	口 12.4	細砂粒/良好/ ふい/黄橙	口縁部横ナデ、胴部は縦方向へう削り後、途中に横方向のナデ。内面胴部はへラナデ。	
32	土師器 小型甕	253-943 底部～胴部下位片	底 6.2	細砂粒/良好/ ふい/黄橙	胴部は最下部が横方向へう削り、底部はへう削り。内面胴部はへラナデ。	
33	土師器 甕	254-943 口縁部～胴部片	口 14.4	粗砂粒/良好/ ふい/黄橙	口縁部は横ナデ、胴部は縦方向へう削り。内面胴部はへラナデ。	
34	土師器 甕	254-943 底部～胴部下位片	底 5.0	粗砂粒/良好/粗	胴部は縦方向へう削り後へう磨き、底部はへう削り。内面胴部はへラナデ。	
35	手捏ね土器 椀形	253-943 口縁部片	口 6.6	細砂粒/良好/ ふい/褐	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ。	椀形
36	手捏ね土器 椀形	253-943 2/3	口 6.8 底 3.3 高 3.8	細砂粒/良好/ ふい/粗	口縁部上半は横ナデ、下半から底部はナデ、口縁部下半に指摺痕が残る。	椀形
37	手捏ね土器 椀形	253-944 1/2	口 6.6 底 5.2 高 5.6	細砂粒/良好/ ふい/黄橙	口縁部上半は横ナデ、下半から底部はナデ、内面は比較的強いナデ。	椀形
38	手捏ね土器 壺形	252-944 口縁部1/2欠	口 5.8 底 4.5 高 7.6	粗砂粒/良好/明褐	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部・底部はナデ。	壺形
NO.	種 類	種 類	出 土 位 置	残 存 率	計 測 値	摘 要
39	石製品	模造品 白玉	253-942	完形	径 0.825 長 0.525 孔径 0.265 重 0.49	滑石
40	石製品	模造品 白玉	253-942	完形	径 0.805 長 0.555 孔径 0.265 重 0.57	滑石
41	石製品	模造品 白玉	254-942	下部一部欠	径 0.775 長 0.535 孔径 0.220 重 0.49	滑石
42	石製品	模造品 白玉	253-953	完形	径 0.800 長 0.495 孔径 0.215 重 0.55	滑石
43	石製品	模造品 白玉	253-942	完形	径 0.770 長 0.460 孔径 0.215 重 0.44	滑石
44	石製品	模造品 白玉	252-953	完形	径 0.735 長 0.805 孔径 0.225 重 0.72	滑石
45	石製品	模造品 白玉	252-944	完形	径 0.745 長 0.610 孔径 0.265 重 0.52	滑石
46	石製品	模造品 白玉	252-945	完形	径 0.760 長 0.590 孔径 0.255 重 0.46	滑石
47	石製品	模造品 白玉	253-942	完形	径 0.775 長 0.585 孔径 0.265 重 0.54	滑石
48	石製品	模造品 白玉	253-944	下部欠損	径 0.740 長 0.530 孔径 0.205 重 0.36	滑石
49	石製品	模造品 白玉	253-942	完形	径 0.730 長 0.525 孔径 0.250 重 0.44	滑石
50	石製品	模造品 白玉	253-942	完形	径 0.765 長 0.485 孔径 0.205 重 0.49	滑石
51	石製品	模造品 白玉	253-953	完形	径 0.715 長 0.480 孔径 0.220 重 0.42	滑石
52	石製品	模造品 白玉	253-942	完形	径 0.795 長 0.520 孔径 0.230 重 0.49	滑石
53	石製品	模造品 白玉	254-943	完形	径 0.715 長 0.525 孔径 0.330 重 0.36	滑石
54	石製品	模造品 白玉	254-942	完形	径 0.740 長 0.480 孔径 0.250 重 0.34	滑石
55	石製品	模造品 白玉	253-942	完形	径 0.730 長 0.510 孔径 0.245 重 0.43	滑石
56	石製品	模造品 白玉	252-945	完形	径 0.755 長 0.495 孔径 0.260 重 0.33	滑石

IV 検出した遺構と出土した遺物

NO.	種 類	器 種	出土位置	残存率	計 測 値				摘 要
					径	長	孔径	重	
57	石製品	模造品 白玉	253-942	完形	径 0.735	長 0.475	孔径 0.290	重 0.34	滑石
58	石製品	模造品 白玉	253-942	完形	径 0.740	長 0.470	孔径 0.250	重 0.41	滑石
59	石製品	模造品 白玉	253-942	完形	径 0.715	長 0.445	孔径 0.230	重 0.37	滑石
60	石製品	模造品 白玉	252-945	完形	径 0.765	長 0.410	孔径 0.275	重 0.40	滑石
61	石製品	模造品 白玉	253-942	完形	径 0.735	長 0.470	孔径 0.225	重 0.37	滑石
62	石製品	模造品 白玉	253-942	完形	径 0.740	長 0.445	孔径 0.230	重 0.40	滑石
63	石製品	模造品 白玉	252-944	下部一部欠	径 0.760	長 0.400	孔径 0.200	重 0.37	滑石
64	石製品	模造品 白玉	253-944	完形	径 0.675	長 0.455	孔径 0.240	重 0.24	滑石
65	石製品	模造品 白玉	254-942	完形	径 0.785	長 0.400	孔径 0.245	重 0.37	滑石
66	石製品	模造品 白玉	253-942	完形	径 0.740	長 0.380	孔径 0.245	重 0.32	滑石
67	石製品	模造品 白玉	253-944	完形	径 0.775	長 0.410	孔径 0.260	重 0.33	滑石
68	石製品	模造品 白玉	254-942	完形	径 0.760	長 0.410	孔径 0.215	重 0.40	滑石
69	石製品	模造品 白玉	253-943	完形	径 0.730	長 0.430	孔径 0.220	重 0.36	滑石
70	石製品	模造品 白玉	253-953	完形	径 0.740	長 0.405	孔径 0.215	重 0.34	滑石
71	石製品	模造品 白玉	254-942	下部一部欠	径 0.695	長 0.430	孔径 0.265	重 0.32	滑石
72	石製品	模造品 白玉	253-953	上面一部欠	径 0.740	長 0.335	孔径 0.255	重 0.30	滑石
73	石製品	模造品 白玉	253-942	完形	径 0.715	長 0.295	孔径 0.270	重 0.20	滑石
74	石製品	模造品 白玉	253-953	完形	径 0.700	長 0.360	孔径 0.220	重 0.25	滑石
75	石製品	模造品 白玉	253-944	完形	径 0.705	長 0.360	孔径 0.220	重 0.27	滑石
76	石製品	模造品 白玉	252-945	完形	径 0.745	長 0.200	孔径 0.265	重 0.17	滑石
77	石製品	模造品 白玉	254-942	完形	径 0.640	長 0.455	孔径 0.220	重 0.32	滑石
78	石製品	模造品 白玉	253-944	完形	径 0.660	長 0.430	孔径 0.240	重 0.30	滑石
79	石製品	模造品 白玉	253-944	7/8	径 0.680	長 0.275	孔径 0.220	重 0.18	滑石
80	石製品	模造品 白玉	253-944	1/3	径 - 長 -	孔径 -	重 (0.11)		滑石
81	石製品	模造品 白玉	253-944	1/4	径 - 長 -	孔径 -	重 (0.05)		滑石

(3) 土坑

D区4号土坑

本土坑はD区調査区の中程、X=75.209~75.211-Y=-66.984~-66.985に位置する。残存状態は南側端部を試掘坑によって欠くが他の箇所は良好であった。他遺構との重複関係は確認されなかった。

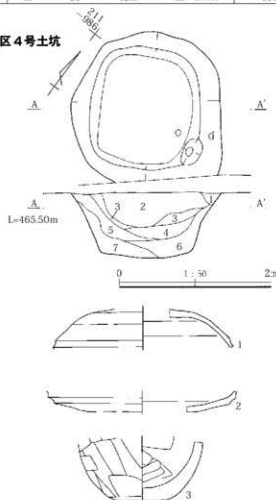
平面形態はほぼ方形、断面形態は逆台形状で底面はわずかな弧状を呈す。規模は南北2.03m、東西2.00m、深さ0.79mを測る。埋没状態は側面と下半部は側面の崩落や周囲からの流れ込みの様子が見られるが、上半部はロームブロックが多く含まれた土砂で埋没していることから人為的に埋め戻された可能性が窺える。

遺物は須恵器高杯小片と同蓋小片、土師器小型壺小片が出土している。

DK区4号土坑

- 1 褐色土(10YR4/4) 軽石が混じる。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ロームブロック、ローム粒を多く含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) $\phi 0.5\sim 4\text{cm}$ のロームブロックを40%含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/2) ロームブロック、ローム粒をまばらに含む。
- 5 暗褐色土(10YR3/3) $\phi 4\text{cm}$ のロームブロックを30%含む。
- 6 黒色土(10YR1/2) ロームブロック、ローム粒をわずかに含む。
- 7 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 2に近い、ロームブロックがやや少ない。

D区4号土坑



144図 D区4号土坑遺構図・出土遺物図

5. 飛鳥・奈良・平安時代

(1) 竪穴建物

C区14号竪穴建物

本竪穴建物は平成15年度の発掘調査で南側5分の1にあたる部分を調査している。その部分は(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第351集「生品西浦遺跡村道生品下り線埋蔵文化財発掘調査報告書」2005年刊行に報告されている。

位置は調査区の南端、X=75.158~75.163-Y=-67.031~-67.036である。残存状態は2次に分かれる調査のため調査区境とカマドが存在していた東辺中央付近はすでに完了した道路工事によって掘削されており、全貌については不明である。重複関係は本竪穴建物を検出した第1面では確認されなかったが、北辺掘削方面でD区117号土坑との重複を確認した。新旧関係は確認状態から本竪穴建物のほうが新しい。平面形態はやや角が丸い方形を呈する。規模は東西3.98m、南北3.84m、北辺3.5m、東辺3.6m、南辺3.2m、西辺3.2m、壁高は確

認面から床面まで58~68cm。床面積は推定8.8㎡を測る。主軸方位はN-120°-Eを指す。

内部施設は貯蔵穴と柱穴が検出されなかったが、周溝を検出した。周溝は北辺の中程では確認されなかったが、カマドを除く他の部分では壁下から検出された。規模は幅15cm前後、深度1~9cmを測る。床面はほぼ平坦で踏み固められ硬化していた。

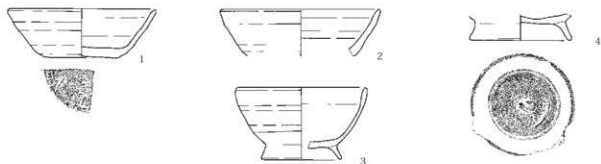
カマドは東辺に構築されていたと想定されるが、道路工事のさいに壊されていた。

掘方は各角部分と西辺際で土坑状の落ち込みが掘り込まれていたが、他の竪穴建物床下土坑のような深いものではなく床面より20~30cmと浅いものであった。

埋没状態は土層断面の観察ではレンズ状の堆積が確認できることから自然埋没であると判断した。

出土遺物はカマド周りなどもっとも遺物の出土がみられる箇所が攪乱を受けているため出土量は少なく図示した須恵器4点の他、土師器杯1点、甕41点、須恵器無台杯7点が出土している。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から8世紀第4四半期に比定できる。



147図 C区14号竪穴建物出土遺物図

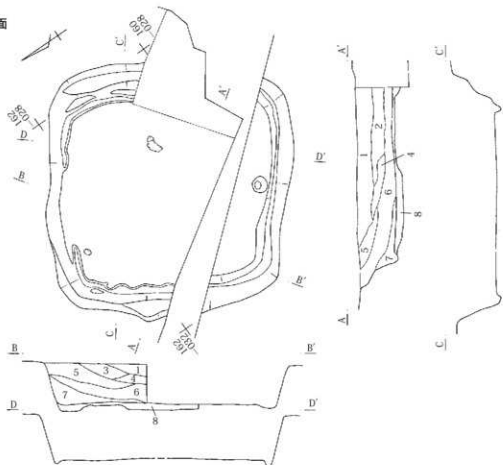
C区14号竪穴建物

PL.151

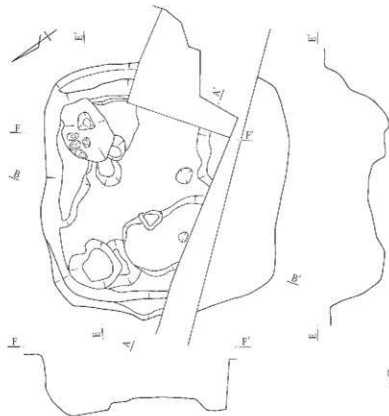
NO.	種	類	器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	須恵器	杯		埋没上中 1/4	口 11.8 底 6.0 高 3.9	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り。	Da-1
2	須恵器	杯		埋没上上位 口縁部片	口 12.6	細砂粒/還元焰 ぎみ/灰濁	ロクロ整形、回転右回りか。	Ad
3	須恵器	椀		埋没上上位 1/6	口 10.5 底 5.6 高 5.8	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部回転ヘラ削り、体部下位は回転ヘラ削り。高台は貼付。	
4	須恵器	無台杯		埋没上 底部	底 7.4	細砂粒・黒色粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部回転ヘラ削り、高台は貼付。	
NO.	種	類	器種	出土位置	残存率	計測値	摘要	
5	土製品		輪郭口	埋没上中	一部片	長 - 幅 - 厚 - 重 -		

IV 検出した遺構と出土した遺物

使用面

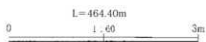


掘方



C区14号型穴建物

- 1 黒褐色土 (10YR2/3) I・III主体、 ϕ 1~3 cmのHr-FPを3%と ϕ 1~2 cmのロームブロックを2%含む。
- 2 黒褐色土 (10YR2/2) I・IIIにVIIが混入、 ϕ 1~2 cmのHr-FPと ϕ 1 cm前後のロームブロックを1%含む。
- 3 黒褐色土 (10YR2/2) 2に類似、焼土ブロックを3%含む。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) V主体、 ϕ 1~2 cmのHr-FPを3%と ϕ 1~5 cmのロームブロックを20%含む。
- 5 黒褐色土 (10YR2/3) 1に類似、1よりロームブロックを5%含む。
- 6 黒褐色土 (10YR2/3) 1と5に類似、5よりロームブロックを10%含む。
- 7 黒色土 (10YR2/1) Vに類似、 ϕ 0.5~2 cmのロームブロック、ローム粒を3%含む。
- 8 黒褐色土 (10YR5/8) ロームブロック主体、黒色土を5%含む (掘方)。



148図 C区14号型穴建物遺構図

D区1号竪穴建物

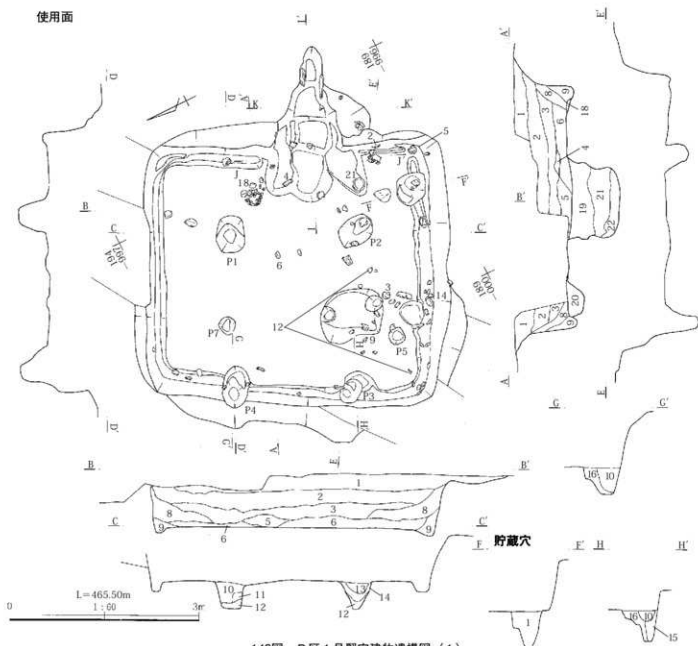
本竪穴建物の位置はD区調査区の中程よりやや南、 $X=75.188\sim 75.194-Y=-66.995\sim -67.001$ である。残存状態は遺跡確認のための試掘調査坑によって一部欠き、西辺から南辺の一部で壁上部の崩落がみられるが比較的良好な状態であった。他遺構との重複関係は第1面の調査時には確認されなかった。

平面形態は南北方向が0.7mほど長い長方形を呈す。規模は南北4.77m、東西4.05m、各辺長は北辺3.90m、東辺4.70m、南辺4.32m、西辺4.52m、壁高は確認面か

ら床面まで76~85cm、床面積は12.7m²を測る。主軸方位は $N-113^{\circ}-E$ を指す。

内部施設は貯蔵穴、柱穴、周溝を検出した。貯蔵穴はカマド右側、南東角壁下に位置し、周溝との重複がみられた。平面形態は楕円形を呈し、西側に段がみられる。規模は径52×45cm、深度56cmを測る。柱穴は主柱穴とみられるものがカマド前の床面に2本と西辺に2本の壁柱穴の4本が確認され、P2の底面では礎板状の礎が置かれていた。それぞれの規模はP1が径58×46cm、深度46cm、P2が径59×43cm、深度52cm、P3が径40×30cm、

使用面



149図 D区1号竪穴建物遺構図(1)

IV 検出した遺構と出土した遺物

深度132cm（壁上から）、P4が径66×38cm、深度121cm（壁上から）を測る。周溝はカマド以外では東南角で15cmほど途切れる以外は全周している。規模は幅18～28cm、深度9～16cmである。床面はほぼ平坦で中央部は固く踏み固められているが、周辺部は踏み固められてはいるが、中央部ほどの固さはみられない。また、P2とP3の間では径100×70cm、深度10cmの楕円形状の浅い凹みがみられ、その南側の壁下には台石と使用された径40cmほどの扁平な円礫が据えられていた。

カマドは東辺の中央より僅かに南に構築されている。残存状態は天井、焚き口部などは壊されているがソデ部の残りは比較的良好である。規模は全長2.44m、全幅1.55m、燃焼部幅0.57m、煙道長1.54mである。ソデはローム土を使って構築されており、右ソデには21の土師器甕を逆さまに置いて補強としている。煙道部の煙出

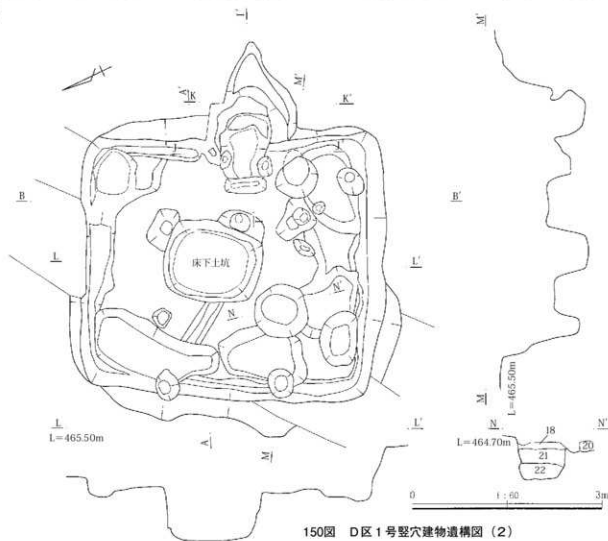
し手前には扁平な礫を立てた状態で補強している。

掘方は周辺部では15～20cmほど掘り込まれローム土と黒色土の混合土で埋め戻され床面としているが、中央部では床下土坑が掘り込まれている箇所以外は地山であるローム土を踏み固めて床面としている。床下土坑は床面のほぼ中央に位置し、隅丸長方形を呈し、規模は長軸1.54m、短軸1.32m、深度1.13mを測る。また、床下土坑はロームブロックを主に若干の黒色土とで埋め戻されている。

埋没状態は土層断面の観察で壁際が周囲からの流れ込み、中央部ではほぼ水平な堆積がみられることから自然埋没である。

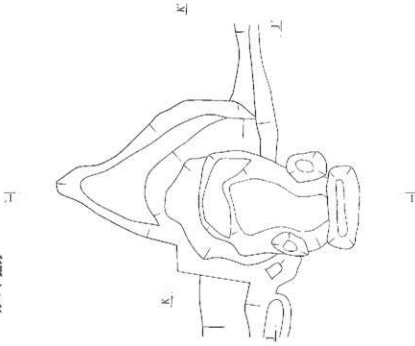
遺物出土状態はカマド周囲と南辺の西よりに多く分布していた。カマド南側からと南辺際からとまって出土している遺物は床面からのものも存在するが、床面より

掘方

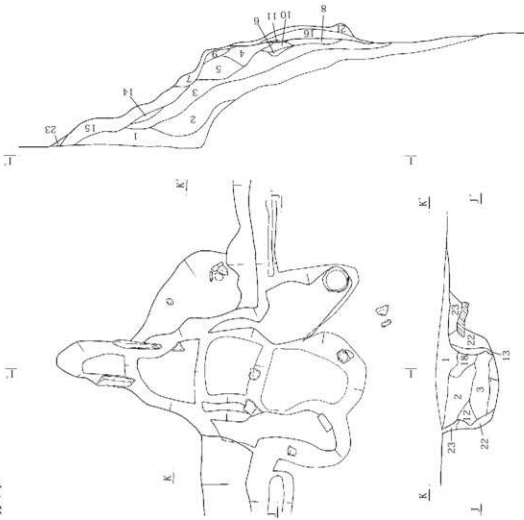


150図 D区1号竪穴建物遺構図(2)

カマド掘方



カマド



151图 D区1号竪穴建物遺構図(3)

IV 検出した遺構と出土した遺物

高い位置からのものもあり壁上を棚として利用していたことが想定される。また、台石の周辺からは34~36などの鉄器が出土している。南西角からは藤編み石に利用されたとみられる長さ10~15cm、径5cm前後の棒状の円礫がまとまって出土している。なお、掲載した以外の

土器数量は土師器杯16点、甕576点、須恵器杯蓋15点、杯身67点、椀3点、盤1点、短頸壺1点、甕22点が出土している。

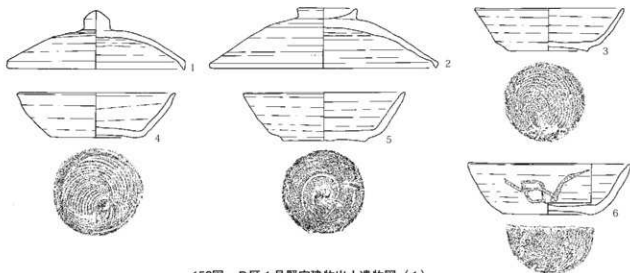
本竪穴建物の存続年代は出土遺物から8世紀第4半期に比定できる。

D区1号竪穴建物

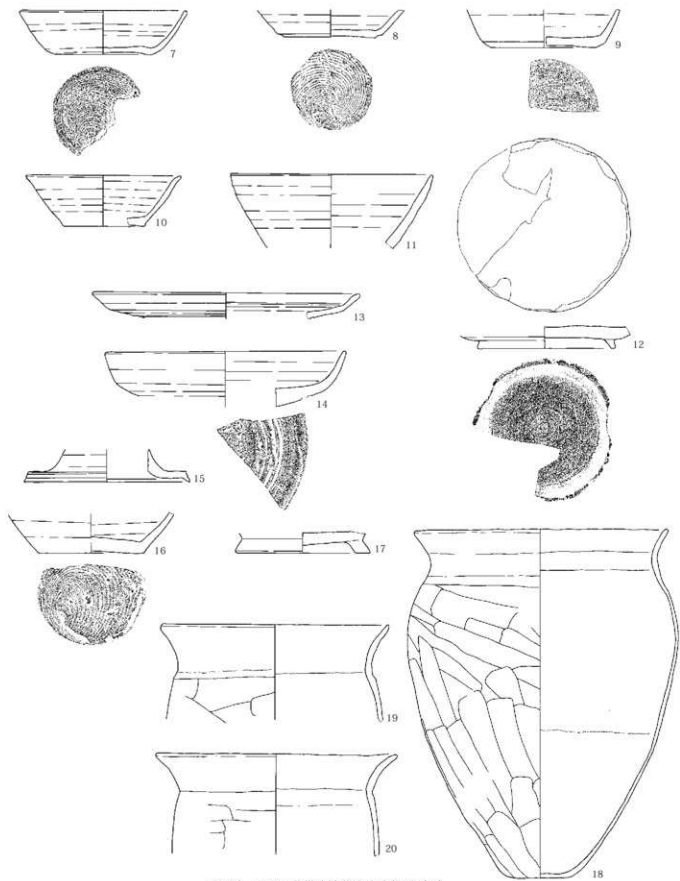
- 1 黒色上(10YR2/1) IIIとVの混合土、φ1~5cmのHr-FPを5%含む。
- 2 暗褐色上(10YR3/3) IIIに類似、Vのブロックを3%とφ1~3cmのHr-FPを5%、φ1~3cmのロームブロックを3%含む。
- 3 暗褐色上 2に類似、2より褐色が強い、φ1~3cmのHr-FP、φ1~3cmのロームブロックを3%含む。
- 4 黒色上(10YR2/1) Vのブロック。
- 5 黒褐色上(10YR2/3) 3に近似、φ1~3・10cmのロームブロックを10%とφ1~3cmのHr-FPを5%含む。
- 6 黒褐色上(10YR3/2) φ1~2cmのロームブロックを3%とφ1cm前後のHr-FPを2%、焼土粒を1%含む。
- 8 黒褐色上(10YR3/2) V主体、φ1~2・5cmのロームブロックを10~20%含む。
- 9 黒褐色上(10YR3/2) 8に類似、8よりロームブロックが細かく、10%と少ない。
- 10 黒色上(10YR2/1) Vに類似、φ1cm前後のHr-FPとφ1~3cmのロームブロックを1~2%含む。
- 11 黒色上(10YR2/1) Iに類似、φ1cm前後のHr-FPとφ1~3cmを1~2%とローム粒を1%含む。
- 12 黄褐色上(2.5Y5/6) VI主体、VとVIがブロック状に混入。
- 13 黒褐色上(10YR2/2) Vに類似、φ1~2cmのロームブロックを5%と焼土粒を1%含む。
- 14 黒褐色上(10YR3/2) Iに類似、φ1cm前後のロームブロックを3%含む。
- 15 黒褐色上(10YR2/2) Vに類似、φ1~2cmのロームブロックを5%含む。
- 16 黒褐色上(10YR2/3) φ1~3cmのロームブロックを10%含む。
- 18 黒褐色上(10YR3/1) III主体、φ1~3cmのロームブロックを10%含む。
- 19 暗灰黄色上(2.5Y4/2) φ1~5cmのロームブロック主体、III・Vを30%含む。
- 20 黒色上(10YR2/1) V主体、φ1~3cmのロームブロックを10%含む。
- 21 黄褐色上(2.5Y5/6) ロームブロック主体、IIIをシミ状に10%含む。
- 22 暗褐色上(10YR3/3) III・V・VIの混合土、ロームブロックを20%含む。

貯蔵穴

- 1 黄褐色上(2.5Y5/6) VI主体、φ1~3cmのロームブロックを20%含む。
- カマド
- 1 明黄褐色上(2.5Y6/6) IとIVの混合土、φ1~2cmのHr-FPを3%とφ1cmのロームブロックを1%含む(竪穴建物埋没上)。
 - 2 黒褐色上(10YR 2/2) IとIV、Vの混合土、φ1cmのHr-FPを1%とφ1~5cmのロームブロックを3~10%、褐色上粘土ブロックを5%と焼土小ブロック1%を含む。
 - 3 明黄褐色上(2.5Y6/6)カマド天井部の崩落土、下部は焼土化しており、黒褐色上ブロックを5%含む。
 - 4 黄褐色上(2.5Y5/3) 砂質土、焼土粒、焼土ブロック、明黄褐色上ブロックを20%含む。
 - 5 3と焼土、IVの混り合った土。
 - 6 焼土
 - 7 黒色上(10YR2/1) IVの流入土か。
 - 8 黒褐色上(10YR2/2) 4と焼土粒の混合土。
 - 9 黒褐色上(10YR2/2) 8と同様。
 - 10 灰オリーブ(7.5Y6/2) 灰。
 - 11 焼土
 - 12 灰黄褐色上(10YR4/2) III・IV・Vの混合土、φ1~2cmロームブロックを3%、焼土粒を1%を含む。
 - 13 3と同じでソデの補強の粘土。
 - 14 灰黄褐色上(10YR4/2) 黄褐色粘土粒、焼土粒を3~5%含む。
 - 15 黒色上(10YR2/1) IIIに類似、焼土粒を1%含む。
 - 16 明赤褐色上(2.5YR5/6) 焼土。
 - 17 黒褐色上(10YR2/2) ロームブロック(φ1~2cm)と14ブロックの混合土、ソデ部焼土化。
 - 18 明黄褐色上(2.5Y6/6) ローム主体、IIIを20%、焼土粒を1%含む。
 - 19 暗褐色上(10YR3/3) ロームブロックを20%含む。
 - 20 暗褐色上(10YR2/2) III・IVの混合土、φ1cmのロームブロックを3%含む。
 - 21 暗褐色上(10YR6/4) φ1~2cmのロームブロックを5%含む。
 - 22 明黄褐色上(2.5Y6/6) ロームを貼り付けている、IIIを10%含む。
 - 23 黒褐色上(10YR3/2) Iに類似、φ1cmのHr-FPを3%と焼土ブロックを1%含む。

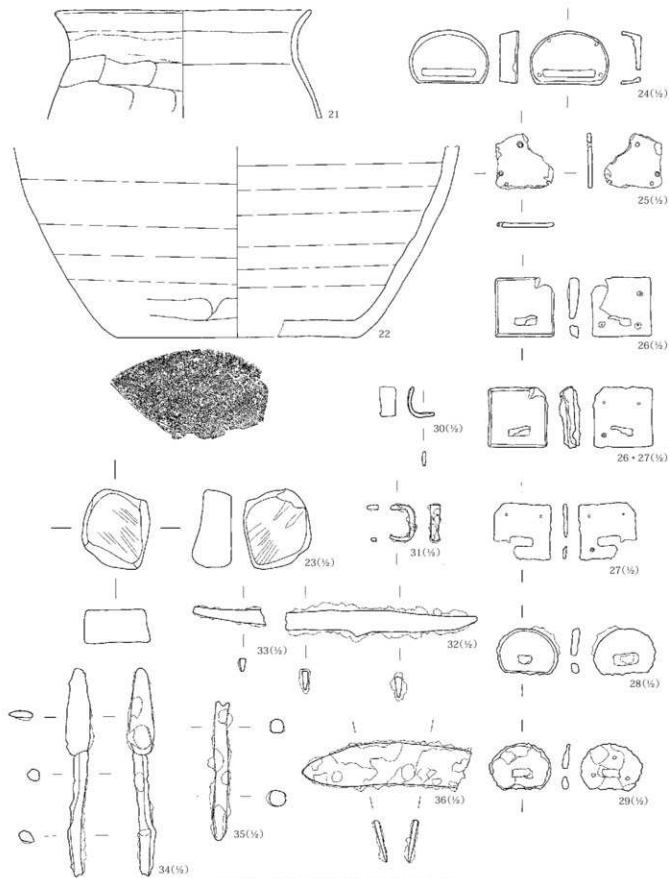


152図 D区1号竪穴建物出土遺物図(1)



153図 D区1号竪穴建物出土遺物図(2)

IV 検出した遺構と出土した遺物



154図 D区1号竪穴建物出土遺物図(3)



155図 D区1号竪穴建物出土遺物図(4)

IV 検出した遺構と出土した遺物

D区1号竪穴建物

PL151・152

NO.	種 類	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値	胎上/焼成/色調	成 形・整 形 的 特 徴	摘 要
1	須恵器 杯蓋	カマド ほぼ完形	口 13.8 幅 2.0 高 4.6	細・粗砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部中央は回転ヘラ削り。	Ca-2
2	須恵器 杯蓋	+24 1/3	口 17.6 幅 5.2 高 4.8	細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部中央は回転ヘラ削り。	内外面に重ね焼き痕。
3	須恵器 杯	+26 完形	口 11.6 底 6.3 高 3.5	細・粗砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	Ca-4
4	須恵器 杯	カマド 1/4	口 12.2 底 7.0 高 3.6	細砂粒/還元焼/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	Ca-3
5	須恵器 杯	床面 完形	口 12.5 底 6.5 高 3.8	粗砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。	Ca-4
6	須恵器 杯	+25 1/2	口 12.6 底 6.8 高 4.0	粗砂粒/還元焼/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	外面口縁部に「史」の墨書。 Ca-2
7	須恵器 杯	柱穴 1/2	口 12.8 底 7.4 高 3.5	細砂粒/還元焼/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	Dc-1
8	須恵器 杯	埋没上位 底部	底 7.2	細砂粒/還元焼/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部回転糸切り。	
9	須恵器 杯	床面 口縁下半～底部片	底 8.2	細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部回転糸切り。口縁部最下部に1段の回転ヘラ削り。	
10	須恵器 杯	埋没上位 1/4	口 12.0 底 6.4 高 4.0	細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部回転糸切り。	混入品 Dc-1
11	須恵器 碗	埋没上位 口縁部片	口 15.8	細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
12	須恵器 盤	+7 底部片	底 13.0	細砂粒・黒色粒/還元焼/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り、高台は貼付。口縁部を打ち欠いている。	秋間古窯跡産物か。
13	須恵器 盤	埋没上位 口縁部片	口 20.8	細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
14	須恵器 盤	+42 口縁部片	口 18.7	粗砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部回転糸切り。高台または脚部は貼付。	
15	須恵器 高盤	埋没上下位 脚部片	脚 13.0	細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形、回転方向不明。	
16	須恵器 鉢	カマド 口縁下位～底部片	底 8.2	粗砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	
17	須恵器 長頸壺	埋没上位 底部片	底 9.4	細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部回転ヘラナデ、高台貼付。	
18	土師器 甕	カマド、床面 胴部一部欠	口 19.8 底 5.0 高 27.3	細砂粒/良好/灰白/澄	口縁部から頸部横ナデ、胴部上位横方向、中位から下位縦方向のヘラ削り。底部ヘラ削り。	Cb-2
19	土師器 甕	掘方 口縁～胴部上位片	口 17.8	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部横ナデ、胴部上位は横方向ヘラ削り。	Ca-3
20	土師器 甕	掘方 口縁～胴部上位片	口 18.4	細砂粒/良好/灰褐	口縁部から頸部横ナデ、胴部上位は横方向ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	Ca-3
21	土師器 甕	カマド右袖 口縁～胴部上位	口 19.8	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部横ナデ、胴部上位は横方向ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	Cb-2
22	須恵器 甕	カマド 胴部下位～底部	底 19.2	粗砂粒/還元焼/灰白	ロクロ整形。底部ヘラ削り、胴部最下位回転ヘラ削り。	
NO.	種 類	器 種	出 土 位 置	残 存 率	計 測 値	摘 要
23	石製品	砥石	床面	完形	長6.2 幅5.1 厚3.2 重135.6	砥沢石
24	銅製品	鐙帯丸軛	床面	完形	長2.4 幅4.2 厚1.0 透2.9×0.4 重19.2	
25	銅製品	鐙帯遠方裏金	床面	右上1/4欠	長2.9 幅3.0 厚0.2 重5.7	遠方裏金を再利用。
26	鉄製品	馬具遠方	埋没上中	右上一部欠	長3.15 幅3.10 厚0.5 透1.2×0.3 重10.8	
27	鉄製品	馬具遠方裏金	埋没上中	左下1/4欠	長3.15 幅3.10 厚0.5 透1.1×0.3 重2.94	
28	鉄製品	馬具丸軛	埋没上中	完形	長2.3 幅3.1 厚0.3 透0.7×0.5 重7.6	
29	鉄製品	馬具丸軛	埋没上中	完形	長2.5 幅3.3 厚0.5 透0.8×0.5 重6.3	裏面に新残る。
30	銅製品	銅金具か	埋没上位	1/3	長(1.5) 幅(0.85) 厚0.15 重1.7	
31	鉄製品	刀装具か	カマド	2/3	長2.1 幅(1.45) 厚0.7 重1.3	
32	鉄器	刀子	+8	柄頭部欠損	長(10.2) 刃長6.3 刃幅1.7 柄幅1.3 厚0.8	錆化が激しい。
33	鉄器	刀子	埋没上位	胴部一部	長(3.6) 幅0.8 厚0.3 重12.6	
34	鉄器	鏝	床面	茎部欠損	長(11.0) 刃部幅1.3 厚0.5 重(15.0)	
35	鉄器	鏝	床面	胴部片か	長(7.4) 幅1.2 厚1.1 重(12.6)	
36	鉄器	鏝	床面	刃部1/2	長(9.0) 幅2.1 厚0.3 重(27.6)	

NO.	種類	器種	出土位置	残存率	計測値			摘要
37	鉄器	壺	埋没上下位	刃部欠損か	長 (7.6)	幅 2.3	柄幅 1.1	厚 0.6 重 (12.4)
38	鉄器	壺	埋没上位	端部欠損	長 (6.2)	幅 2.9	厚 0.8	重 (87.3)
39	鉄器	不明(刀子?)	埋没上下位	一部片	長 (5.7)	幅 1.4	厚 1.0	重 (8.0)
40	鉄器	不明	埋没上下位	一部片	長 (3.0)	幅 1.1	厚 0.6	重 (4.3)

D区1号竪穴建物 出土鉄関連遺物観察表

PL.153

No.	遺物名	出土位置	計測値 (cm)			重量 (g)	磁気度	メタル度	特徴など
			長	幅	厚さ				
41	炉内滓か	埋没上位	2.6	3.5	2.6	40	3	なし	上側に凹痕あり。滓質は密。気泡多い。
42	椀形鐵治滓 (大、含鉄)	+7、カマドの横上	8.7	9.6	6	420	4	H(○)	やや2段さみ。滓質は密。全体的に錆化しており、鉄分が豊富。底部に鉄床土残存。
43	椀形鐵治滓 (大、含鉄)	+14 下層	8.3	8.4	3.9	360	4	H(○)	2段。滓質は密。錆化した含鉄部が内面にあり、鉄分豊富。
44	椀形鐵治滓 (中、含鉄)	埋没土中	9.3	9.8	3.5	330	2	錆化(△)	滓質は密。内面に錆化した含鉄部があり、鉄分豊富。上面左手の高まりは、引口の溶けた粘土質溶着物。
45	椀形鐵治滓 (中、含鉄)	+6	10.7	7.8	3.1	270	5	M(○)	滓質は密。内面に錆化した含鉄部があり、鉄分豊富。上面から側面にかけて酸化土砂に覆われている。
46	椀形鐵治滓 (極小、含鉄)	埋没上下位	3.5	4.4	3	40	2	錆化(△)	ほぼ球形。小形。粘土質溶着物主体であるが、全体的に錆化しており、鉄分が豊富に含まれる。滓質は粗。
47	椀形鐵治滓 (極小、含鉄)	埋没上下位	3.3	4.8	1.6	25	5	錆化(△)	粘土質溶着物主体で、滓質は粗。鉄分も豊富で、錆化した含鉄部に酸化土砂が付着。
48	鉄塊系遺物	埋没上下位	3.9	3.3	2.8	58	5	L(●)	放射線目立つ。酸化土砂付着。
49	鉄塊系遺物	埋没上下位	6.2	5.4	3.6	245	7	特L(☆)	大型。放射線目立つ。上面が平坦で、形状から椀形鐵治滓の可能性もある。酸化土砂付着し不明。
50	羽口 (鐵治)	埋没土中	残存長 3.6	3.4	2.1	24	1	なし	引口先端部片。内径2.5cmを計る。胎土にスサ混入。先端部内径:(2.5)cm、中心部内径:一、中心部外径:一、基部内径:一、基部外径:一
51	羽口 (鐵治)	埋没土中	残存長 12.6	8.9	3.1	800	1	なし	先端部欠損。通風孔の内径は2.1cm。基部から3.2cmでラッパ状に開く。外面にナデあり。胎土にスサは全く粗めを含む。基部に植物の圧痕あり。先端部内径:一、中心部内径:2.1cm、中心部外径:7.8cm、基部内径:4.1cm、基部外径:8.8cm。

D区2号竪穴建物

本竪穴建物は東南部が発掘調査範囲対象外に延びるため全貌を明らかにすることはできなかった。

位置はD区調査区の中程よりやや南の東端、 $X = 75.188 \sim 75.193 - Y = -66.990 \sim -66.994$ である。残存状態は西辺の壁上部の崩落がみられるが比較的良好な状態であった。他遺構との重複関係は第1面の調査時には確認されなかった。

平面形態は南北方向が約1mほど長い長方形を呈す。規模は南北方向5.02m、東西方向4.04m、辺長は北辺が3.36m、西辺が4.20m、壁高は69~74cm、床面積は調査範囲内で10.0㎡を測る。主軸方位は $N-115^\circ-E$ を指す。

内部施設は貯蔵穴と柱穴1本が調査区外に存在するとみられるため確認できなかったが、柱穴3本と周溝を検出した。柱穴はD区1号竪穴建物同様にカマドの前の床

面と西辺に2本の壁柱穴を確認した。それぞれの規模はP1が径19×18cm、深度は床面から21cm、P2が径45×39cm、深度が壁上から87cm、床面から18cm、P3が径47×39cm、深度が壁上から87cm、床面から18cmを測る。周溝は調査範囲内では全周する。規模は幅15~21cm、深度4~13cmを測る。床面はほぼ平坦で中心部ほど固く踏みしめられているが、床下土坑1・2の箇所では周囲より5cmほど窪んだ状態になっていた。

カマドは発掘調査対象外に存在すると想定される。

掘方は中央部では床面より5cm前後、北辺・南辺際では15~20cmほど掘り込まれ、その上に径3cmほどのロームブロックを主体に黒色土が混入した暗灰黄色土で床面を構築している。また、床面のほぼ中央(床下土坑1)とその北西隣(床下土坑2)に床下土坑が確認された。床下土坑1は平面形態がほぼ円形を呈し、規模が径1.05×1.03m、深度0.80mを測る。床下土坑2は楕円形を呈し、

IV 検出した遺構と出土した遺物

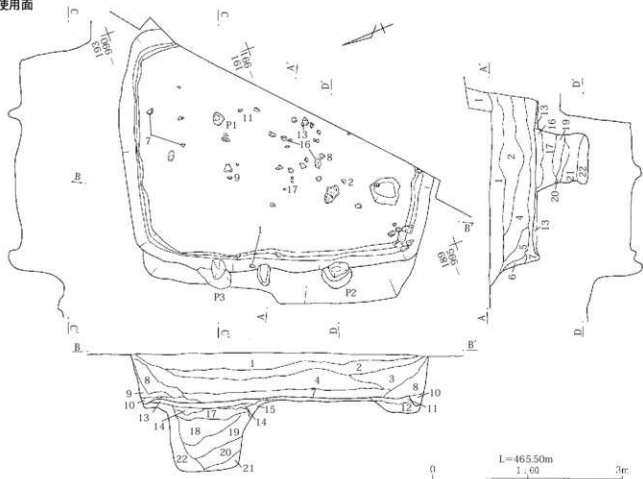
径1.75×1.30m、深度1.06mを測る。1・2とも遺物の出土などはみられず、埋め戻されている土砂はⅦ-1層を主体としていることからカマド構築材として使用するⅦ-3層土を採掘するために掘られたものとみられる。

埋没状態は土層断面の観察で壁際は周囲からの土砂が流れ込んだ三角形、中央部はほぼ水平な堆積であることから自然埋没である。

遺物出土状態はカマドの前とみられる床下土坑1のあたりに集中した分布と南西角の壁下からは5~20cmほどの角礫がまとまった出土がみられた。なお、掲載した以外の土器数量は土師器杯9点、高杯1点、甕546点、須恵器杯蓋8点、杯身100点、甕4点が出土している。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から9世紀第1四半期に比定できる。

使用面

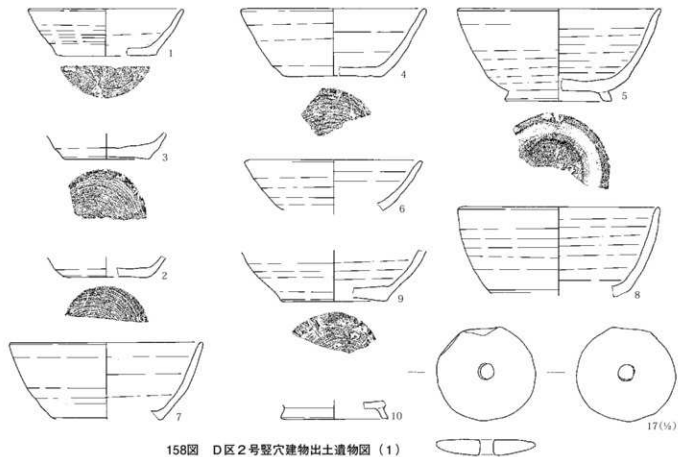
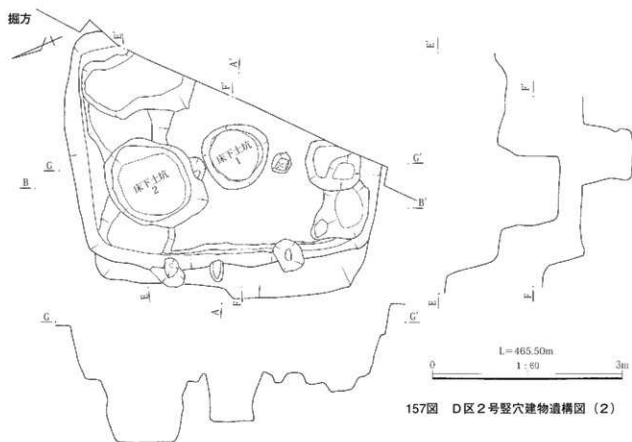


156図 D区2号竪穴建物遺構図(1)

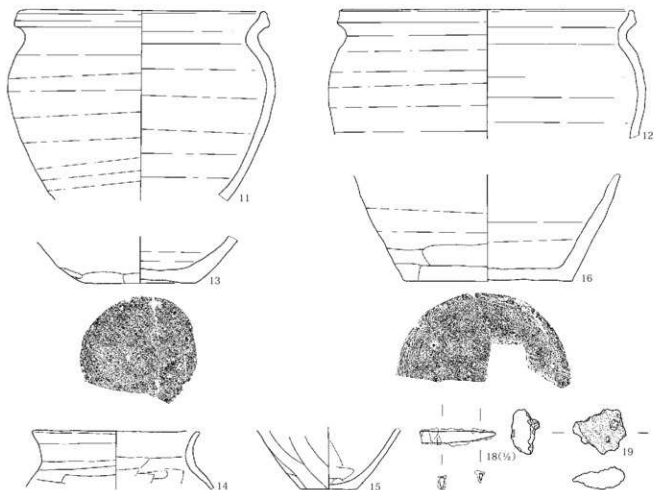
D区2号竪穴建物

- 1 褐色土 Ⅲに類似、Hr-FPを10%含む。
- 2 褐色土 1に類似、Hr-FP、ローム粒を10%含む。
- 3 褐色土 1・2に類似、Hr-FP、ローム粒を5%と軽土粒を1%含む。
- 4 暗褐色土 Hr-FP、ローム粒を5%含む。
- 5 暗褐色土 Hr-FPを若干とφ2~5cmのロームブロックを3%含む。
- 6 褐色土 Hr-FP、ローム粒を5%含む。
- 7 褐色土 φ0.5~1cmのローム粒を20%とHr-FPを2%含む。
- 8 暗黄色土 ローム主体、黒色土を含む。
- 9 暗黄色土 8に類似、ローム上の崩落流れ込みか。
- 10 褐色土 ローム上の流れ込み、黒色土をわずかに含む。
- 11 暗灰黄色土 (2.5Y4/2) φ3cmまでのロームブロック主体。
- 12 黒色土 (2.5Y2/1) φ4cmまでのロームブロック20%とHr-FPを3%含む。

- 13 黄褐色土 (2.5Y5/6) ローム主体。
- 14 オリーブ褐色土 (2.5Y4/4) ロームブロック主体、黒色土を含む。
- 15 黒色土 (10YR1.5/1) Vに近似。
- 16 黒褐色土 (2.5Y3/1) φ5~10cmのロームブロックを5%含む。
- 17 オリーブ黒土 (5Y3/1) φ5~10cmのロームブロックを10%含む。
- 18 褐色土 (10YR4/6) As-BPを10%とφ2cm前後のロームブロックを5%含む。
- 19 黄褐色土 (10YR5/8) As-BPとφ2cm前後のロームブロックを5%含む。
- 20 黒褐色土 (10YR2/3) As-BPを5%含む。
- 21 褐色土 (10YR4/6) ロームブロック主体、ブロックの間に黒色土が流入。
- 22 黄褐色土 (2.5Y5/6) ローム土の崩落土、褐色土を5%含む。



IV 検出した遺構と出土した遺物



159図 D区2号竪穴建物出土遺物図(2)

PL153

D区2号竪穴建物

NO.	種別	出土位置 残存率	計測値	胎上/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	須恵器 杯	+58 1/3	口 11.8 底 8.0 高 3.7	粗砂粒/還元焰 /褐灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	Da-2
2	須恵器 杯	+30 底部片	底 6.4	粗砂粒/還元焰 /灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	
3	須恵器 杯	埋没上位 底部片	底 6.8	粗砂粒/還元焰 /灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	
4	須恵器 椀	埋没上上・中位 1/8	口 14.2 底 7.6 高 5.3	粗砂粒/還元焰 /褐灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	Aa-2
5	須恵器 椀	床直 1/4	口 15.8 底 7.9 高 7.3	粗砂粒/還元焰 /灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切りか。高台は貼付。	Ab
6	須恵器 椀	埋没上中位 口縁部片	口 13.8	粗砂粒/還元焰 /灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。	
7	須恵器 椀	床直 口縁部片	口 15.0 底 8.0	粗砂粒/還元焰 /灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
8	須恵器 椀	床直 口縁部片	口 15.6 底 10.6	粗砂粒/還元焰 /灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
9	須恵器 椀	床直 口縁下半~底部片	底 8.2	小礫・粗砂粒 /還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	
10	須恵器 椀	埋没上位 底部片	底 8.0	粗砂粒/還元焰 /黄灰	ロクロ整形。底部切り離し技法は高台貼付時のナデのため不明。	
11	須恵器 広口壺	床直 口縁~胴部下位片	口 18.8	粗砂粒/還元焰 /灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
12	須恵器 広口壺	埋没上上・中位 口縁~胴部上位片	口 22.6	粗砂粒/還元焰 /灰	ロクロ整形、回転右回りか。	

NO.	種 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
13	須恵器 広口壺	床直 底部片	底 8.8	粗砂粒/還元焼 灰	ロクロ整形。回転右回り。胴部最下位はヘラ削り、 底部ナデ。	
14	土師器 甕	床下 口縁~胴部上位片	口 13.0	細砂粒/良好に ぶい焼	口縁部から胴部は横ナデ、胴部は横方向のヘラ削り。 内面胴部はヘラナデ。	
15	土師器 甕	埋没土上・中位 底部~胴部下位片	底 4.4	細砂粒/良好に ぶい赤焼	胴部は縦方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。 内面胴部はヘラナデ。	
16	須恵器 甕	床直 底~胴下位片	底 13.2	細砂粒/還元焼 灰	ロクロ整形。胴部最下位は2段のヘラ削り、底部は 不定方向のヘラ削り。	
NO.	種 類	器 種	出土位置	残存率	計 測 値	摘 要
17	石製品	紡錘車	床直	ほぼ完形	径 5.0×5.2 厚 0.8 孔径 0.7 重 19.4	流紋岩凝灰岩
18	鉄器	刀子	埋没土上位	刃先部片	長(4.05) 幅 0.8 厚 0.4 重(2.4)	

D区2号竪穴建物 出土鉄関連遺物観察表

PL.153

No.	遺物名	出土位置	計測値(cm)			重量 (g)	磁着度	メタル度	特徴など
			長	幅	厚さ				
19	椀形銀浴淨 (極小、含鉄)	埋没土中	4.3	3.6	2	40	6	I(●)	粘土質主体で発砲している。淨質粗。ほぼ完形。

D区4号竪穴建物

本竪穴建物の位置はD区調査区の南より、 $X=75.171$
 ~ 75.175 - $Y=-67.029 \sim -67.033$ である。残存状態
 は竪穴部の南東角とカマド煙道端部を遺跡確認試掘坑に
 よって欠くが良好な状態であった。他遺構との重複関係
 は第1面の調査時には確認されなかった。

平面形態は南北方向が約1mほど長い長方形を呈す。
 規模は南北方向3.87m、東西方向3.24m、各辺長は北辺
 3.10m、東辺3.46m、南辺3.12m、西辺3.50m、壁高は
 確認面から床面まで49~66cm、床面積は8.6㎡を測る。
 主軸方位は $N-117^{\circ}-E$ を指す。

内部施設は貯蔵穴、柱穴、周溝とも検出した。貯蔵穴
 は東南角のカマド右脇よりやや西側に位置する。平面形
 態は楕円形に近く、規模は径48×38cm、深度60cmを測
 る。なお、貯蔵穴上部から8の土師器甕が出土している。
 柱穴は南辺、北辺のほぼ中程の壁際で検出したP1は径
 30×26cm、深度25cm、P2は径30×26cm、深度15cm
 を測る。なお、P2は形状や深度が浅いことから柱穴と
 しては疑問な点があり、南脇から床面に据えられたよう
 な状態で出土した径40×30cm、厚さ14cmの扁平な円礫
 が群馬県北部でみられる竪穴建物の柱に使用される礎石
 の可能性がもたれるが、上面がやや凸状をしているため
 確信を得るには至らなかった。周溝は東辺のカマド左側
 から北辺の中程、0.8mほど間隔を置いて北辺西より
 から西辺の中程までの間で検出した。規模は幅15cm前後、
 深度5~10cmを測る。床面はほぼ平坦で全体的に踏み

しめられているが、周辺部より中央部の方がより硬化し
 ている。

カマドは東辺の南よりに構築されている。残存状態は
 天井、燃焼部とも壊れ、使用されていた粘土材などの
 土砂がカマド左側に広く散乱した状態で良い状態ではな
 かった。規模は全長1.18m、幅1.35m、燃焼部幅0.60m
 である。左ソデでは燃焼部奥から煙道部にかけて扁平な
 礫を補強のため立てるように使用していた。

掘方は周辺部が中央部よりやや掘り下げられ、北東部
 では床下土坑が検出された。中央部は床面より7~10
 cm、周辺部では20~30cmほど掘り込まれ、若干ローム
 ブロックを含む黒色土(V層土)で埋め戻され床面として
 いる。床下土坑は壁と間隔を開けずに掘り込まれている。
 平面形態は方形を呈し、規模は1.68×1.36m、深度は周
 囲より1mを測る。床下土坑からは遺物の出土などはみ
 られず、埋め戻されている土砂はVII-1層を主体として
 いることからカマド構築材として使用するVII-3層土を
 採掘するために掘られたものとみられる。

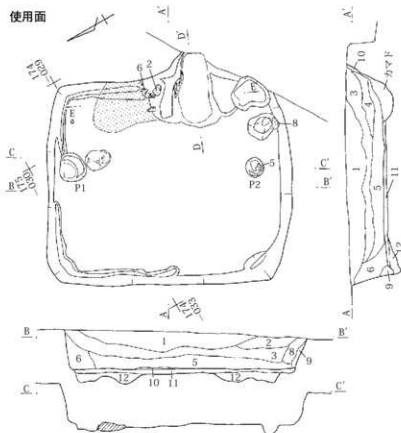
埋没状態は土層断面の観察ではレンズ状の体積がみら
 れることから自然埋没である。

遺物出土状態はカマドの左側にややまとまった出土が
 みられたが、他はまばらな状態であった。なお、掲載し
 た以外の土器数量は土師器杯9点、甕65点、須恵器杯
 3点と少ない。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から9世紀第2四半
 期に比定できる。

IV 検出した遺構と出土した遺物

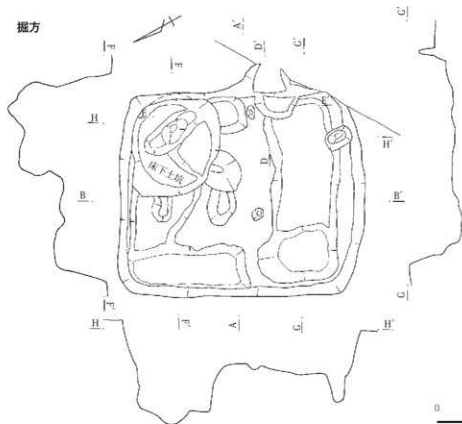
使用面



D区4号竪穴建物

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 1・Ⅲ主体, VI混入, ϕ 1~3cmのHr-FPを5%含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 1・Ⅲ主体, 褐色を帯びている, ϕ 1~2cmのHr-FPを5%含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/3) I・Ⅲ, V, VIの混合土, ϕ 1cmのHr-FPを1%と ϕ 1~3cmのロームブロックを10~20%含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/3) 1・Ⅲ主体, ϕ 0.5cmのHr-FPと0.5~1cmのロームブロックを1%含む。
- 5 黒褐色土(10YR2/2) 1・2主体, ϕ 0.5~2cmのHr-FPを1%と1~3cmのロームブロックを3%含む。
- 6 黒褐色土(10YR2/3) VIに近似, VIが混入, ϕ 0.5cmのローム粒を1%含む。
- 8 黒褐色土(10YR3/2) ϕ 0.5cmのHr-FPを1%と ϕ 0.5~1cmのロームブロックを2%含む。
- 9 黒褐色土(10YR2/2) 8に類似, ϕ 1~2cmのロームブロックを3%含む。
- 10 黒褐色土(10YR3/1) Vと同様, ローム粒を1%含む。
- 11 黒褐色土(10YR3/1) Vに類似, ϕ 0.5cmのロームブロック, ローム粒を3%含む。
- 12 ϕ 2~8cmのロームブロックを60%と黒色土(V)の40%混り合った上。

掘方

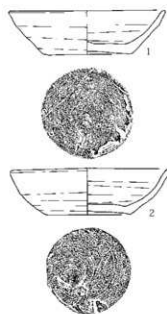
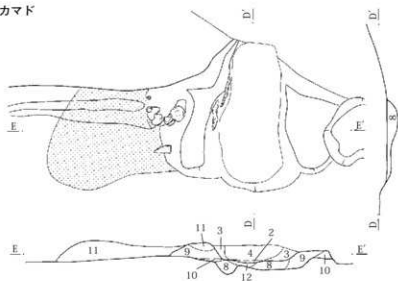


カマド

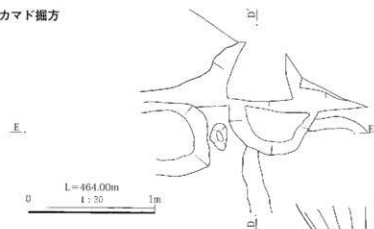
- 2 明黄褐色土(2.5Y6/6) Vを利用したカマド天井部, 下部が焼土化している(崩落している)。
- 3 明黄褐色土(10YR6/6) 2, 4, 焼土の各ブロックの混合土。
- 4 明赤褐色土(5Y5/6) 焼土ブロックからなり, IIIブロック及びロームブロックを5%含む。
- 8 黒色土(10YR2/1) ϕ 1~2cmのロームブロックを3%含む。
- 9 明黄褐色土(2.5Y6/6) 2と同じ, IIIをシミ状に含む(カマドソダ)。
- 10 黒褐色土(10YR3/1) IIIに類似, ϕ 1~2cmのロームブロック20%と焼土ブロックを1%含む。
- 11 黒褐色土(10YR3/1) ϕ 1~5cmのロームブロックを20%含む。
- 12 赤褐色土(2.5YR4/6) 焼土。

160図 D区4号竪穴建物遺構図(1)

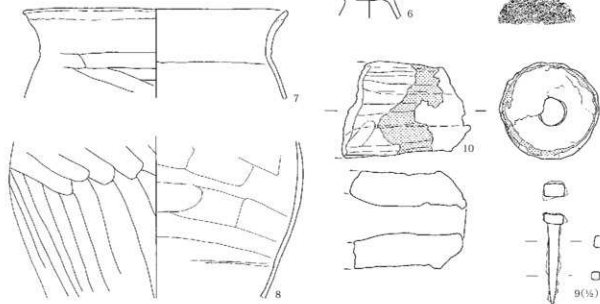
カマド



カマド掘方



161図 D区4号竪穴建物遺構図(2)



162図 D区4号竪穴建物出土遺物図

IV 検出した遺構と出土した遺物

D区4号竪穴建物

PL.153・154

NO.	種類	類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	須恵器	杯	床直 3/5	口 12.0 底 6.6 高 3.5	粗砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	Ca-4
2	須恵器	杯	床直 口縁部一部欠	口 12.2 底 6.6 高 3.7	粗砂粒/還元焰/黒	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	Ca-4
3	須恵器	杯	床直 口縁部片	口 12.0	粗砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。	
4	須恵器	杯	埋没上上位 底部片	底 7.7	粗砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	
5	土師器	壺	P2、上位 3/4	口 8.2 底 7.1 高 9.1	細砂粒/良好/灰黄	内外面に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部縦方向後一部横方向のへう割り。底部砂底か。	
6	土師器	台付甕	カマド左側 底部片	底 3.9	細砂粒/良好/灰 黄	脚部は貼付。胴部下位は縦方向のへう割り、脚部は横ナデ。内面胴部はへうナデ。	
7	土師器	甕	床直・掘方 口縁部片	口 20.6	細砂粒/良好/灰 黄	口縁部横ナデ、胴部上位は横方向、斜め方向のへう割り。内面胴部はへうナデ。	Ca-3
8	土師器	甕	貯蔵穴、下位 胴部片	胴 23.0	細砂粒/良好/灰 黄	内面に輪積み痕が残る。胴部中位は斜め方向、下位は縦方向のへう割り。内面はへうナデ。	
NO.	種類	器種	出土位置	残存率	計測値	摘要	
9	鉄器	釘	埋没上上位	完形	長4.8 幅0.65 厚0.5 頭部1.1×0.6 重6.5		

D区4号竪穴建物 出土鉄関連遺物観察表

PL.154

No.	遺物名	出土位置	計測値 (cm)			重量 (g)	磁着度	メタル度	特徴など
			残存長	幅	厚さ				
10	羽口 (鋳治)	埋没上中	残存長 10.1	7.4	2.7	430	3	なし	先端部片。基部欠損。通風孔部内径2.3cm。外面先端部から基部に向かい直線上のナデ痕あり。胎土にスラはなく、粗砂粒を含む。先端部内径:2.3cm、中心部内径:2.1cm、中心部外径:7.4cm、基部内径:—、基部外径:—

D区7号竪穴建物

本竪穴建物の位置はD区調査区中程の東より、X = 75.213 ~ 75.217 - Y = -66.965 ~ -66.967である。残存状態は比較的良好な状態であった。他遺構との重複関係はD区11号竪穴建物との重複が確認された。新旧関係は本竪穴建物のほうが新しい。

平面形態はやや丸みをもつ方形を呈する。規模は南北方向3.62m、東西3.38m、各辺長は北辺3.08m、東辺2.56m、南辺2.65m、西辺3.04mを測る。壁高は24 ~ 32cmと他竪穴建物に比べて低く、壁の状態も立ち上がり角度も45°前後と緩やかである。床面積は6.9㎡を測る。主軸方位はN-91°-Eを指す。

内部施設は貯蔵穴は検出されなかったが、柱穴とみられるピットと周溝を検出した。柱穴は床面の中央やや北よりに存在し、楕円形を呈し、規模は径70×40cm、深度24cmであった。なお、断面観察では柱痕や抜き取り痕などが確認できないことから柱穴と認定するには疑問が残った。周溝は部分的に途切れるがカマド部分を除いて壁下を全周する。規模は幅15 ~ 25cm、深度4 ~ 8cmである。床面は平坦面で全体的に踏み固められているが、他竪穴建物に比べて固さは弱い状態であった。

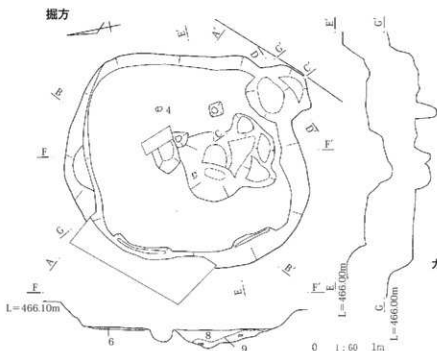
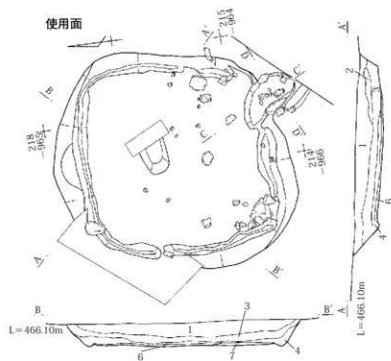
カマドは南辺の東端、南東角に構築されている。残存状態は天井、焚き口部などは全く確認できないほど壊され、ソデも右ソデが僅かに確認できる状態であった。規模は全長1.05m、幅0.65m、燃焼部幅0.4mほどである。燃焼部奥から煙道に移行する部分には地山の崩落を防ぐためにやや扁平な礎を立てるように据えて補強してあった。ソデは他竪穴建物カマドと同様にⅤ-3層土のローム土を使用して構築されている。

掘方はカマド前に径1.5×1.0m、深度30cmほどの不整形の掘込みが存在したが、他は床面より2 ~ 3cmほど掘り込まれているだけであった。床面はⅤ層土の黒色土を主体に若干ロームブロックを混ぜた土で埋め戻して貼床にしてあった。

埋没状態は土層断面の観察ではレンズ状の体積がみられることから自然埋没である。

遺物出土状態は竪穴南半にやや多くみられるが、多くは埋没土中位からの出土である。なお、掲載した以外の土器数量は土師器杯13点、甕63点、須恵器杯16点、甕11点が出土している。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から10世紀第1四半期に比定できる。



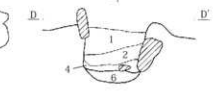
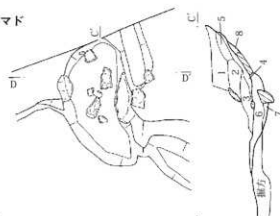
D区7号竪穴建物カマド

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 珪に類似、ローム粒、焼土粒を2%含む。
- 2 明黄褐色土(2.5Y6/6) ローム粒・ブロック(φ0.5cm)主体珪を20%と焼土粒を5%含む。
- 3 黄褐色土(2.5Y5/6) 焼土粒を5%含む、ローム土、天井の崩落土。
- 4 黄褐色土(2.5Y5/6) 3の上に黒褐色土が混入、焼土を10%含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/1) やや粘質土、灰を含むか、焼土粒2~3%含む。
- 6 褐色土(10YR4/4) ローム粒、焼土粒を3%含む。
- 7 赤褐色土(2.5YR4/6) 焼土。
- 8 黒褐色土(10YR3/1) 珪に類似、焼土粒を3%含む。

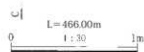
D区7号竪穴建物

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 珪を主体とする。Hr-FPを10%含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 1と同様であるが、Hr-FP粒が小粒になる。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) ローム粒、およびφ3cmのHr-FPを5%含む。
- 4 黒色土(10YR2/1) φ1~3cmのロームブロック、ローム粒を10%とHr-FPを1%含む。
- 6 に赤い黄色土(2.5Y6/4) V主体、珪・Nブロックを30%含む(胎床)。
- 7 黒色土(10YR2/2) 11号竪穴建物埋設上、ローム粒を1%含む(やや硬化面)。
- 8 暗褐色土(10YR3/3) 珪・N・Vの混合土、φ1~2cmのロームブロックを10%、φ0.5cmのHr-FPを1%含む。
- 9 黒褐色土(10YR2/3) 珪・Nの混合土、φ1~3cmのロームブロックを10%、φ0.5~2cmのHr-FPを3%含む。

カマド

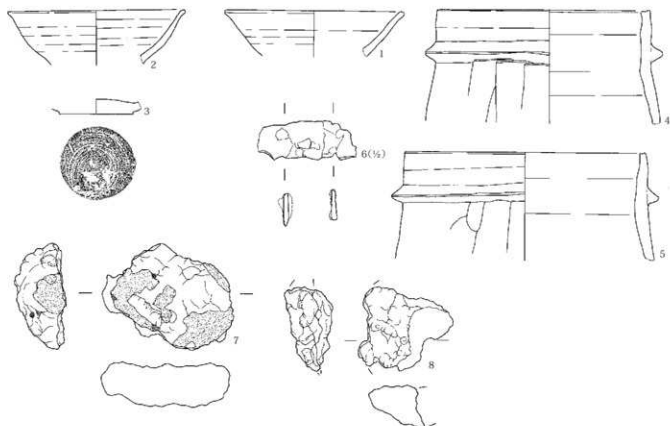


カマド掘方



163図 D区7号竪穴建物遺構図

IV 検出した遺構と出土した遺物



164図 D区7号竪穴建物出土遺物図

D区7号竪穴建物

PL154

NO.	種別	出土位置	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	須恵器 椀	掘方 口縁部片	口 13.8	細砂粒/酸化焙/に ぶい・黄褐色	ロケロ整形、回転右回りか。	
2	須恵器 椀	埋没上上位 口縁部片	口 13.8	粗砂粒/酸化焙/に ぶい・黄褐色	ロケロ整形、回転右回りか。	
3	須恵器 椀	+10 底部	底 5.8	細砂粒/酸化焙/に ぶい・黄褐色	ロケロ整形、回転右回り。底部回転系切り。	
4	須恵器 羽釜	掘方 口縁～胴部上位片	口 16.6 跨 18.6	粗砂粒/酸化焙/に ぶい・黄褐色	ロケロ整形、跨は貼付。胴部は縦方向へラ削り。	
5	須恵器 羽釜	床面 口縁～胴部上位片	口 18.0 跨 21.0	粗砂粒/酸化焙/灰 黄褐色	ロケロ整形、跨は貼付。胴部は縦方向へラ削り。	
NO.	種別	器種	出土位置	残存率	計測値	摘要
6	鉄器	鎌	埋没上中位	刃部中程片	長(4.9) 幅 1.8 厚 0.3 重(11.7)	

D区7号竪穴建物 出土鉄関連遺物観察表

PL154

No.	遺物名	出土位置	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	特徴など
			長	幅	厚さ				
7	碗形鉄治洋 (中、含鉄)	+27	10.4	8.4	3.3	420	6	L(●)	洋質密、内面に鈍化した含鉄部があり、鉄分豊富、ほぼ完形。
8	碗形鉄治洋 (中、含鉄)	+14	7.3	6.6	3.3	160	6	H(○)	洋質は比較的密であるが、内面に気泡あり。約1/4残存。

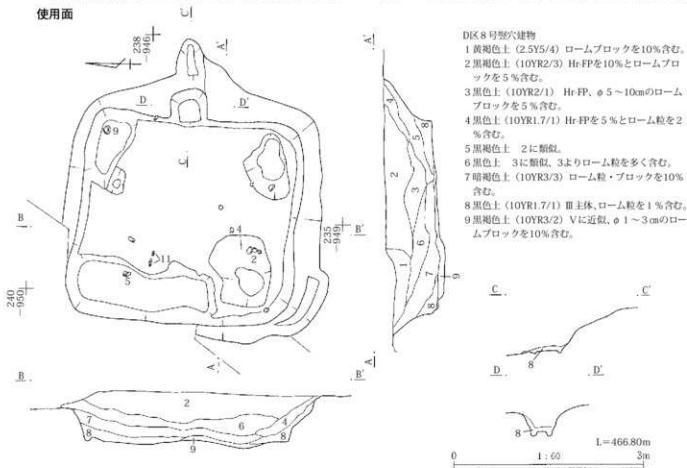
D区8号竪穴建物

本竪穴建物は調査当初に床面が平面、断面でも検出できない状態であった。また、底面付近では明らかに埋め戻されたと判断される土砂が確認でき、カマドも残存状態が不良ではあるが検出できたためどのような状態で廃棄したのか検討を要した。その結果、掘方底面に鋤先が刺さった状態で出土していること、カマドに焼土がみられないことから明らかに埋め戻された土砂が確認できることなどから竪穴建物の掘方段階での掘削作業を終えた後、床面を構築するための多少の土砂を埋め戻し始めたところで廃棄したものと判断した。

位置はD区調査区中程よりやや北、 $X=75.235\sim 75.239$ — $Y=-66.946\sim -66.950$ である。残存状態は北西角部分の上半を遺跡調査有無の確認調査試掘坑によって欠くが比較的良好である。他遺構との重複関係は第1面の調査時には確認されなかった。

平面形態は東辺が多少の丸みをもつがほぼ方形を呈す

使用面



165図 D区8号竪穴建物遺構図(1)

る。規模は南北方向4.05m、東西方向4.10m、各辺長は北辺3.30m、東辺3.70m、南辺3.67m、西辺4.12m、壁高は床面が存在しないので途中まで埋め戻された状態で確認面からの深度が74~86cm、壁下での床面想定面積は9.2㎡を測る。主軸方位は $N-91^{\circ}-E$ を指す。

内部施設は床面が構築されていないため明確ではないが、カマド右側に貯蔵穴ではないかとみられる落ち込みが検出されている。この落ち込みは平面形態が不整形、規模が径110×66cm、深度21cmである。

カマドは東辺のほぼ中央に構築される途中であった。燃焼部は底面が溝がまわるように掘り込まれた後5cmほどローム土で埋め戻され平坦な面が作られていた。燃焼部と煙道とは約30cmほどの段になるように高低差が設けられていた。この段階での規模は全長1.40m、幅0.56m、煙道長0.70mを測る。

掘方は周辺部を不整形の土坑状に20~30cmほど掘り込みローム土を主体とする土で5cmほど埋め戻された状

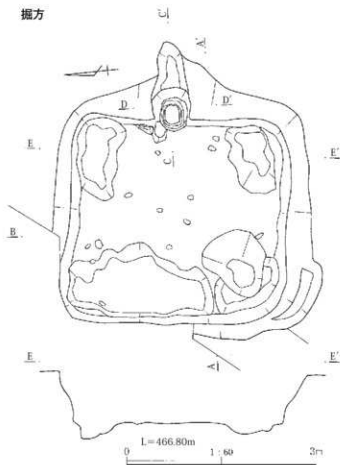
IV 検出した遺構と出土した遺物

態であった。

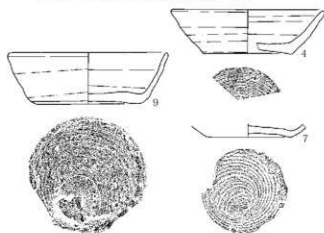
埋没状態は東西方向の土層断面ではレンズ状の堆積が観察されたが、南北方向の土層断面では両側から土砂が流れ込んだ状態が観察され、中央部が不自然な状態であることから人為的な埋め戻しが行われた可能性も窺える。

遺物出土状態は中央部より周辺部の底面よりやや高い

掘方



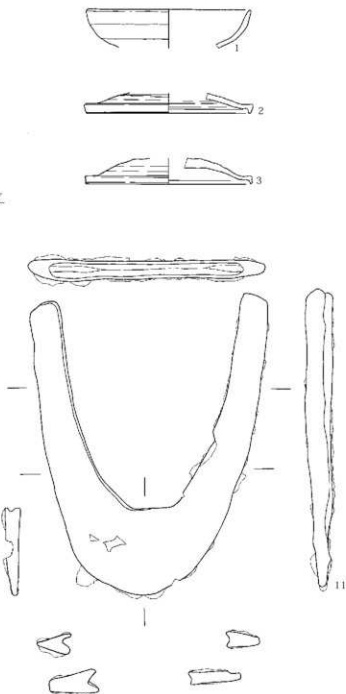
166図 D区8号竪穴建物遺構図(2)

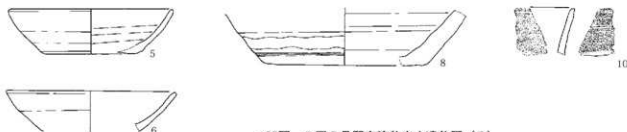


167図 D区8号竪穴建物出土遺物図(1)

位置から遺物が見られることから埋没過程で混入したとみられるものがある。その中で11の鉄器鋤先は底面に差し込まれた状態で竪穴掘削の途中でそのまま廃棄された可能性がある。

本竪穴建物の構築時の年代は出土遺物から9世紀中葉の年代が想定される。





168図 D区8号竪穴建物出土遺物図(2)

D区8号竪穴建物

PL.154

NO.	種類	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	埋没上下位 口縁部小片	口 12.6 底 10.8	細砂粒/良好/粗	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	H-4
2	須恵器 杯蓋	+10、埋没上中位 口縁部片	口 12.8	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
3	須恵器 杯蓋	中位 口縁部片	口 12.8	細砂粒・小礫/還 元焰/黄灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
4	須恵器 杯	+4 1/6	口 11.8 底 7.0 高 3.5	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転系切り。	Da-2
5	須恵器 杯	+36、埋没上中位 口縁部片	口 12.6 底 8.2 高 3.5	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部回転系切り。	Da-2
6	須恵器 杯	埋没上中位・上位 口縁部片	口 13.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
7	須恵器 杯	埋没上位 底部	底 6.6	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部回転系切り。	
8	須恵器 甕	埋没上中 胴部下位片	底 13.0	粗砂粒/還元焰/灰 黄褐	ロクロ整形、底部ヘラ削り。	
9	須恵器 杯	+22 2/3	口 12.4 底 8.2 高 4.0	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転系切り。	混入品か。 Ca-3
10	須恵器 ハソウ	埋没上中位 口縁部小片		細砂粒/還元焰/オ リーブ黒	ロクロ整形、区画内縁の上位は全面波状文。	混入品
NO.	種類	器種	出上位置	計測値	摘要	
11	鉄器	蹴先	掘方(-6)	完形	長 23.7 幅 18.8 厚 1.5~2.0 重 430.9 刺さった状態で 出土。	

D区10号竪穴建物

本竪穴建物は竪穴建物の北西角部の一部分だけ発掘調査できたもので大半は発掘調査範囲対象外に存在するため全貌や詳細については不明である。なお、調査範囲内では北辺東端が北東角と同様な形態を呈することから角部分に相当するとみられる。

本竪穴建物の位置はD区調査区中程の東より、 $X = 75.209 \sim 75.212 - Y = -66.967 \sim -66.970$ である。残存状態は調査範囲内では壁上部が若干崩落しているが壁下部や床面は比較的良好な状態であった。他遺構との重複関係は第1面の調査時には確認されなかった。

平面形態は南北方向が長い長方形を呈する。規模は南北方向、東西方向とも3.05m以上、北辺は3.0mほどと想定される。壁高は104~117cmを測る。主軸方位はカマドが東辺に構築されているならば $N-90^{\circ}-E$ を指

す。

内部施設は柱穴と周溝が検出された。柱穴は北辺中程の壁面に位置する壁柱穴である。平面形態は楕円形を呈し、規模は径 36×32 cm、深度は確認面から140cm、床面からは25cmである。周溝は西辺の北端で25cmほど途切れる箇所があるが、その他では全周している。規模は幅13~20cm、深度4~8cmである。床面は床下土坑上面以外は地山のVII層上面をそのまま踏み固めて硬化面としている。

カマドは調査範囲内では検出されなかった。

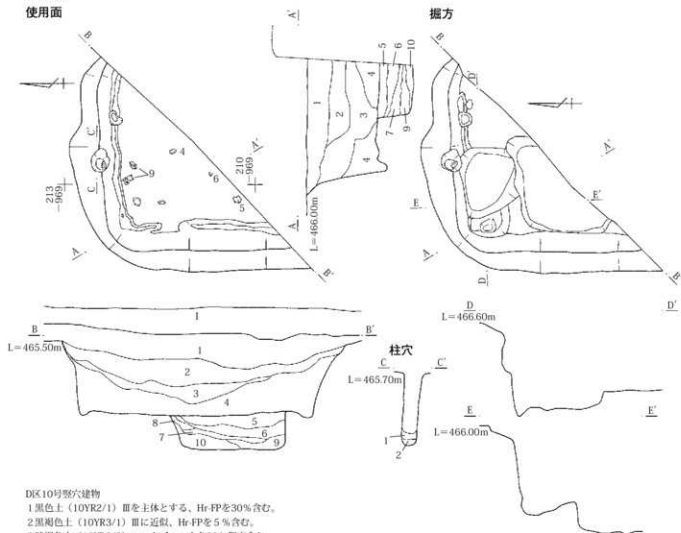
掘方は北西角部分が20~40cmほどの土坑状に掘り込まれているほか、西辺壁際に床下土坑が検出された。床下土坑は東南部が発掘調査対象外に延びるが、平面形態は矩形を呈し、規模は長軸1.60m、短軸1.50m、深度0.56mである。床下土坑からは遺物の出土などはみられ

IV 検出した遺構と出土した遺物

ず、埋め戻されている土砂はⅢ層やⅦ-1層を主体としていることからカマド構築材として使用するⅦ-3層土を採掘するために掘られたものとみられる。

埋没状態は土層断面の観察では上半はレンズ状の堆積がみられることから自然埋没であると判断されるが、下半はほとんどⅤ層とⅦ層のロームブロックが混在した土で埋没しており、一部不自然な堆積がみられることから周堤帯にもられていた土を人為的に埋め戻した可能性が窺える。

使用面



D区10号竪穴建物

- 1 黒色土 (10YR2/1) Ⅲを主体とする、Hr-FPを30%含む。
- 2 黒褐色土 (10YR3/1) Ⅲに近似、Hr-FPを5%含む。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロックを20%程度含む。
- 4 黒褐色土 (10YR2/3) ロームブロックを40%程度含む。
- 5 黄褐色土 (10YR5/8) ロームブロック主体、黒色土を5%含む。
- 6 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロックを10%含む。
- 7 明黄褐色土 (10YR6/8) Ⅶ主体。
- 8 黒褐色土 (10YR2/2) ロームブロック、ローム粒を10%含む。
- 9 黒色土 (10YR2/1) φ1cmほどのロームブロックを10%含む。
- 10 明黄褐色土 (10YR2/1) Ⅶ層主体。

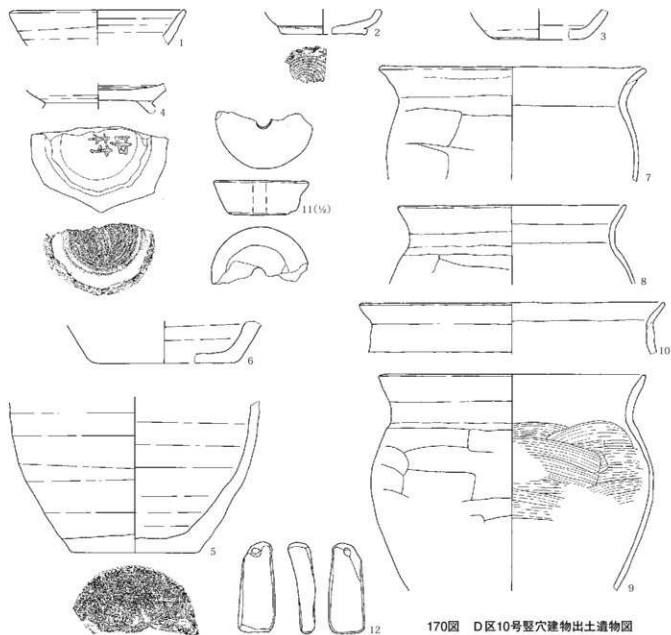
※3、4は周堤帯盛土を人為的に埋めたものと考えられる。

柱穴

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒を均一に含む。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒を均一にとロームブロックを3%含む。

0 1 60 3m

169図 D区10号竪穴建物遺構図



170図 D区10号竪穴建物出土遺物図

D区10号竪穴建物

PL.154

NO.	種別	出土位置 残存率	計測値	胎上/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	須恵器 杯	埋没上下位 口縁部片	口 13.6	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
2	須恵器 杯	埋没上下位 底部片	底 6.4	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部回転糸切り、糸切りをやり直した痕跡有り。	
3	須恵器 杯	埋没上下位 底部片	底 6.6	細砂粒/還元焰/浅黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部回転糸切り。	
4	須恵器 椀	+42 底部片	底 8.4	粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部回転糸切り。高台は貼付。	底面に「中村」の墨書。
5	須恵器 長頸壺	+45 胴部下位～底部片	底 10.2 胴 19.6	粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部はヘラナデ。	
6	須恵器 短頸壺	+31 胴部下位～底部片	底 11.0	粗砂粒/酸化焰/明赤褐	ロクロ整形、回転右回りか。底部はヘラナデ。	
7	土師器 甕	床下土坑 口縁～胴部上位片	口 20.6	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部上位は横方向へラ削り。内面胴部はヘラナデ。	Ca-3

IV 検出した遺構と出土した遺物

NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
8	土師器 甕	床下土坑 口縁-胴部上位片	口 17.6	細砂粒/良好/ぶ い期	口縁部横ナデ、頸部ナデ。胴部は横方向へう割り。 内面胴部はヘラナデ。	Cb-2
9	土師器 甕	+16、埋没上下位 口縁-胴部上位片	口 20.6 胴 22.2	細砂粒/良好/ぶ い期	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向、中位 は縦方向へう割り。内面胴部はヘラナデ。	Cb-3
10	土師器 甕	床下土坑 口縁部片	口 23.8	細砂粒/良好/赤 褐色	輪積み痕が残る。口縁部横ナデ。	Ca-3
NO.	種類	器種	出土位置	残存率	計測値	摘要
11	石製品	紡錘車	埋没上下位	1/2	上径(5.0) 下径(3.3) 厚 2.8 孔径 0.8 重 29.2	変質デイサイト
12	石製品	砥石	埋没下位	完形	長 7.3 幅 2.8 厚 1.6 重 44.6	砥沢石

D区13号竪穴建物

本竪穴建物は竪穴建物の南西角部の一部分だけ発掘調査できたもので大部分は発掘調査範囲対象外に存在するため全貌や詳細については不明である。

位置はD区調査区中程の東端、D区7号竪穴建物の東隣、X = 75.215 ~ 75.217 - Y = -66.961 ~ -66.963 である。残存状態は調査範囲内では良好であった。他遺構との重複関係はD区11号竪穴建物と重複が確認された。新旧関係は本竪穴建物のほうが新しい。

平面形態は方形か長方形を呈すると想定される。規模は計測できる箇所がないが、北辺1.5m以上、西辺2.0m以上、壁高は確認面から床面まで20~29cmを測る。主軸方位は東辺にカマダが構築されていると想定されるとN-97°-Eを指す。

内部施設は周溝が検出された。周溝は北西角のこく僅

かな間が途切れるが、その他では壁下で検出され、幅は10~20cm、深度5cm前後である。床面は踏み固めてはあるが、他竪穴建物の中央部にみられるような硬化面ではなかった。カマダは調査範囲内では検出されていない。

掘方は床面から15cmほど掘り込まれているが、調査範囲内ではほぼ平坦でV層とVI層を主に混ぜ合わせた土を踏み固めている。

埋没状態は土層断面の観察ではほぼ水平な堆積が確認できることから自然埋没と判断される。

遺物出土状態は埋没土中から若干の土師器杯、甕と須恵器杯などの破片が出土しているが、大部分は重複するD区11号竪穴建物のものとみられる。

本竪穴建物の存在年代は出土した灰輪陶器小瓶から10世紀前半半代に想定される。



D区13号竪穴建物

- 1 黒色土 (10YR2/1) IIIを主体とするが、やや黒味がかっている。
- 2 黒褐色土 (10YR2/3) Hr-PPを10%含む。
- 3 黒色土 (10YR2/1) ロームブロック、ローム粒を1%含む。
- 4 黒色土 (10YR2/1) V主体、φ1~2cmのロームブロックを10%含む。
- 5 褐色土 (10YR4/3) VとVIIの混合土。

171図 D区13号竪穴建物遺構図・出土遺物図

PL.154

D区13号竪穴建物

NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	灰輪陶器 小瓶	埋没土上位 底部片	底 5.0	微砂粒/還元輪/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	底面にへう描き。

D区18号竪穴建物

本竪穴建物は調査当初、多量の鉄滓や鞆羽口、焼土、炭化物などが出土したためD区1号工房として調査を進めたが、竪穴建物に鍛冶工房から排出したものを廃棄したことが判明したため新たにD区18号竪穴建物と呼称することとし、D区1号工房は欠番とした。

位置はD区調査区東半部、X=75.183~75.188-Y=-67.004~-67.009である。残存状態は遺構全体が調査範囲内に存在し、確認面から床面まで深度も深く良好な状態であった。他遺構との重複関係は第1面の調査時には確認されなかった。

平面形態は東西方向が30cmほど長い長方形を呈す。規模は南北方向3.40m、東西方向3.74m、各辺長は北辺3.36m、東辺3.06m、南辺3.54m、西辺3.15m、壁高は85~99cm、床面積は7.1㎡を測る。

内部施設は貯蔵穴、柱穴、周溝を検出した。貯蔵穴はカマド右、南東角に位置し、平面形態は楕円形を呈し、規模は径56×50cm、深度77cmである。柱穴は床面中央部よりやや北東部によった箇所に位置し、平面形態は楕円形を呈し、規模は径30×22cm、深度19cmである。周溝は各角部分で検出されたがその間は大きく途切れている。規模は幅13~15cm、深度10~14cmである。床面は平坦で踏み固められているが、周辺部より中央部がより硬化している。

カマドは東辺の中央より僅かに南に構築されている。残存状態は天井、焚き口部などは壊されているがソデ部の残りは比較的良好である。規模は全長1.84m、幅1.17m、燃焼部幅0.60m、煙道部長1.36mを測る。ソデはローム土を使用して構築され、燃焼部天井には長さ65cm、径15cmの礫を補強に使用していたが、カマドを壊したときにカマド前方に落とされている。煙道部は燃焼部より30cmほどの比高差をもつ段が設けられその先は緩やかな傾斜で煙出しへと上がっていく。煙道部天井の燃焼部寄りでは比較的扁平な割石を列べその上に大きな礫を掛けるように使用して煙道側壁面、天井の補強としていた。

掘方は四隅角にそれぞれ床下土坑が検出された他は床面より5~8cmほど掘り込まれているだけでほぼ平坦で

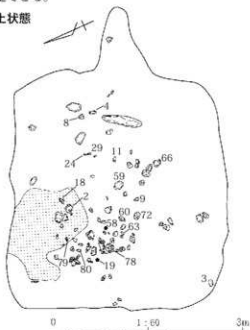
あった。各床下土坑の形態、規模は次の通りである。床下土坑1は楕円形に近い形態で規模は径1.30×1.03m、深度0.30m、床下土坑2は楕円形を呈し、規模は径1.08×0.86m、深度1.25m、床下土坑3は楕円形を呈し、規模は径1.36×1.02m、深度0.59m、床下土坑4は楕円形に近い形態で規模は径0.98×0.78m、深度1.13mである。床下土坑からは床下土坑3から礫の出土はみられたが、土器などの遺物出土はみられず、埋め戻されている土砂はⅢ層やⅦ-1層を主体としていることからカマド構築材として使用するⅦ-3層土を採掘するために掘られたものとみられる。また、床下土坑2では埋め戻された後に貯蔵穴が再度掘られている。

埋戻状態は土層断面の観察では地山のⅢ、Ⅴ~Ⅶ層の土を主に焼土や炭化材、鉄滓を含んだ土が周囲から交互に重なるような堆積をみることができることから人為的な埋め戻しと判断される。

出土遺物状態は確認面から床面まで多くの鉄滓、鞆羽口等が出土しているが、これらは隣接する鍛冶工房からの廃棄とみられる。なお、掲載した以外の土器数量は土師器杯2点、甕921点、須恵器杯蓋10点、杯身172点、椀7点、甕37点、灰軸陶器長頸壺1点などがある。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から9世紀第1四半期に比定できる。

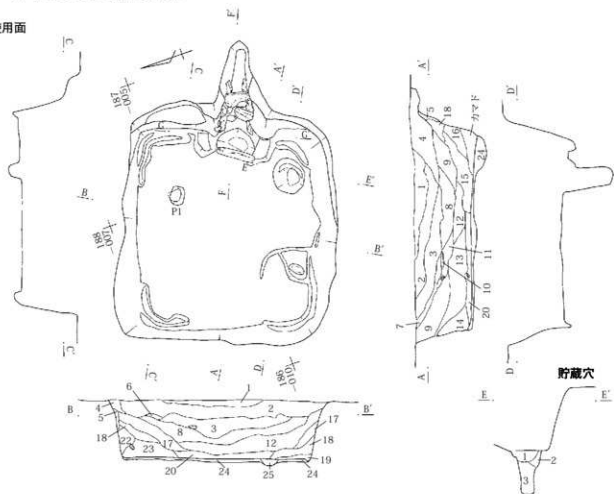
遺物出土状態



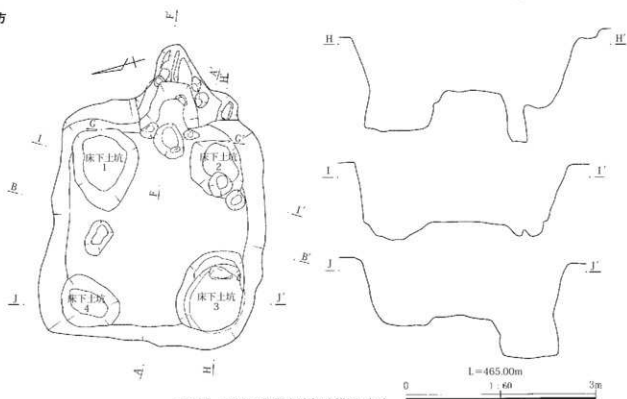
172図 D区18号竪穴建物遺構図(1)

IV 検出した遺構と出土した遺物

使用面



掘方



173図 D区18号竪穴建物遺構図(2)

D区18号竪穴建物

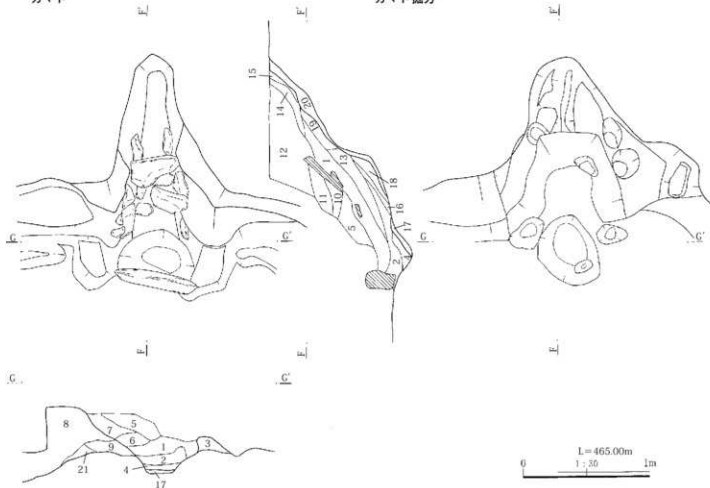
- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) ϕ 1~3cmのHr-FPを10%と ϕ 3~7cmのロームブロックを5%含む。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) Ⅲ主体、 ϕ 1~2cmのHr-FPを5%と ϕ 1~3cmのロームブロックを3%含む。鉄屑を多く出している。
- 3 黄褐色土 (10YR5/6) V主体、 ϕ 2~5cmのロームブロックを10%含む。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) Ⅱに類似、2よりロームブロックを10%含む。
- 5 黒褐色土 (10YR3/1) Vの崩落土。
- 6 暗褐色土 (10YR3/3) Ⅲ・Vの混合土、 ϕ 0.5cm前後のHr-FPを2%、 ϕ 0.5~1cmのロームブロック、焼土粒を各1%含む。
- 7 黒色土 (10YR2/1) ⅢとVの混合土、 ϕ 0.5~1cm Hr-FPを1%と炭化物を3%含む。
- 8 黒褐色土 (10YR2/2) IV主体、 ϕ 1~3cmのHr-FPを3%と ϕ 0.5~3cm前後のロームブロックを1%含む。
- 9 灰黄褐色土 (10YR4/2) ⅢとVIの混合土、1~3cmのHr-FPを3%と ϕ 1~2cmのロームブロックを2%含む。
- 10 黒色土 (10YR2/1) Ⅲに類似、8よりHr-FPを10%と多く含む。
- 11 黒褐色土 (10YR2/2) ϕ 3~10cmのロームブロックを10%含む。
- 12 黒褐色土 (10YR3/2) Ⅲ・V・VIの混合土、 ϕ 1~3cmのHr-FPを3%と ϕ 3~10cmのロームブロックを10~20%含む。
- 13 黒褐色土 (10YR2/2) I主体、Vを含む、 ϕ 1~3cmのHr-FPを5%、 ϕ 0.5~2cmのロームブロック、ローム粒を1%含む。
- 14 黒褐色土 (10YR2/2) Ⅲに類似、13よりHr-FPやロームブロックが少

ない。

- 15 黒色土 (10YR2/1) V主体、 ϕ 0.5~3cmのロームブロックを30%と焼土粒、にぶい赤褐色粘土ブロックを5%含む。
 - 16 黒色土 (10YR2/2) V主体、 ϕ 0.5~3cmのロームブロックを20%と一部に焼土ブロックを含む。
 - 17 黒褐色土 (10YR3/2) Ⅱに類似、12よりロームブロックが10%と少ない。
 - 18 黒色土 (10YR2/1) Vの崩落土、ローム粒を1%含む。
 - 19 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒、焼土粒を1~2%含む。
 - 20 黒褐色土 (10YR3/2) Ⅱ・17に類似、17よりロームブロックが3%と少ない。
 - 22 黒色土 (10YR2/1) V主体、 ϕ 1~2cmのロームブロックを5%含む。
 - 23 黒色土 (10YR2/1) V主体、 ϕ 2~8cmのロームブロックを10~20%含む。
 - 24 暗褐色土 (10YR3/3) VとVIの混合土、3~5cmのロームブロックを20%含む。
 - 25 黒褐色土 (10YR2/2) V主体、 ϕ 3~10cmのロームブロックを10~20%含む。
- 貯蔵穴
- 1 黒褐色土 (10YR2/3) Ⅲ&ロームブロックの混合土 (80:20)。
 - 2 明黄褐色土 (2.5YR6/6) 3の埋没段階で壁のロームが崩壊した上。
 - 3 黒褐色土 (10YR3/1) Ⅲ主体、0.5~1cmのロームブロックを3~5%含む。

カマド

カマド掘方



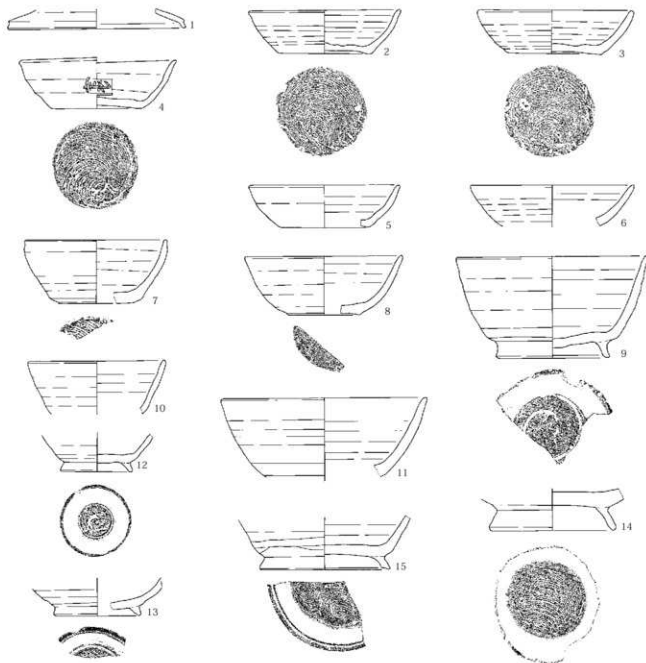
174図 D区18号竪穴建物遺構図(3)

IV 検出した遺構と出土した遺物

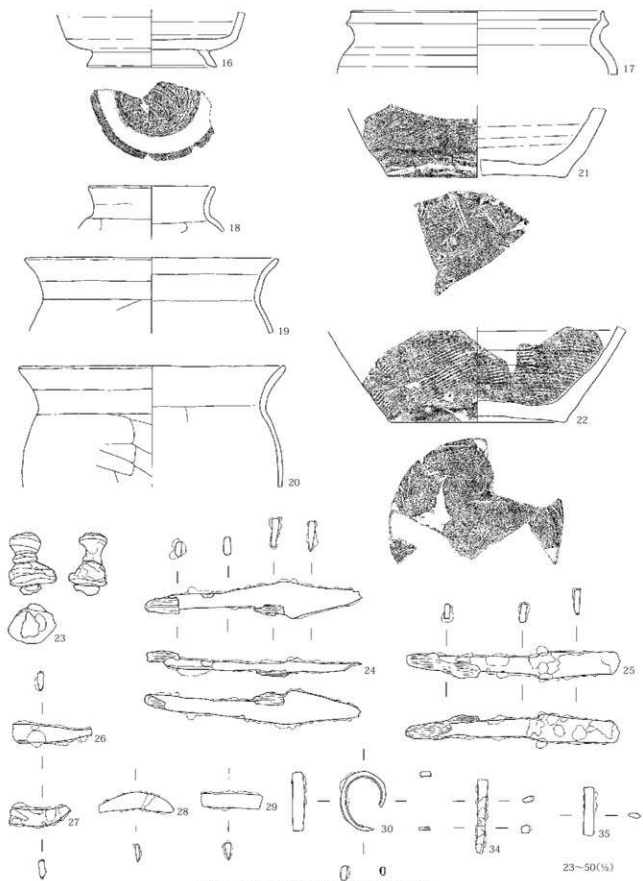
D区18号竪穴建物カマド

- 1 黄褐色土 (2.5Y5/6) 天井の崩落土、焼上ブロック30%、 ϕ 1cmのHr-FPを1%含む。
 2 黄褐色土 (10YR5/6) ロームブロック、Ⅲブロック、焼土粒の混合土 (30 : 50 : 20)。
 3 黄褐色土 (2.5Y5/6) 1に近似、1よりやや暗い色調。
 4 黒色土 (10YR1.7/1) 灰。
 5 暗褐色土 (10YR3/3) Ⅲ・Ⅳ・Ⅴの混合土、焼上ブロックを10%含む。
 6 黒褐色土 (10YR3/1) Ⅲとロームブロック20%、焼上ブロックを10%含む。
 7 黒褐色土 (10YR2/2) Ⅲとロームブロック20%、焼上ブロックを5%含む。
 8 黒色土 (10YR2/1) Ⅲとロームブロック30%。
 9 ロームブロック

- 10 暗褐色土 (10YR3/3) 5に類似、5より焼上ブロックを10%含む。
 11 黒褐色土 (10YR3/2) Ⅲ主体、 ϕ 1~2cmのロームブロック、焼土粒を5%含む。
 12 黒褐色土 (10YR2/2) 1とⅢの混合土、 ϕ 1~3cmのHr-FPを5%含む。
 13 黄褐色土 (2.5Y6/6) 天井部の崩落土、Ⅲのブロックを20%含む。
 14 黄褐色土 (2.5Y6/6) 天井部の崩落土、Ⅲを30%含む。
 15 黒褐色土 (10YR3/1) Ⅲの流れ込みか、焼上を3%含む。
 16 黒褐色土 (10YR3/1) Ⅲの流れ込みか、ロームブロックを10%含む。
 17 赤色土 (10YR4/8) 焼上。
 18 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) Ⅳ・Ⅴの混合土、焼土粒を1~2%含む。
 19 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 18に類似、焼土粒を5%含む。
 20 黒色土 (10YR2/1) Ⅲに類似、1の小ブロック、焼土粒3%含む。やや粘質土。
 21 黒褐色土 (10YR3/2) Ⅲに類似、ロームブロックを5%含む。

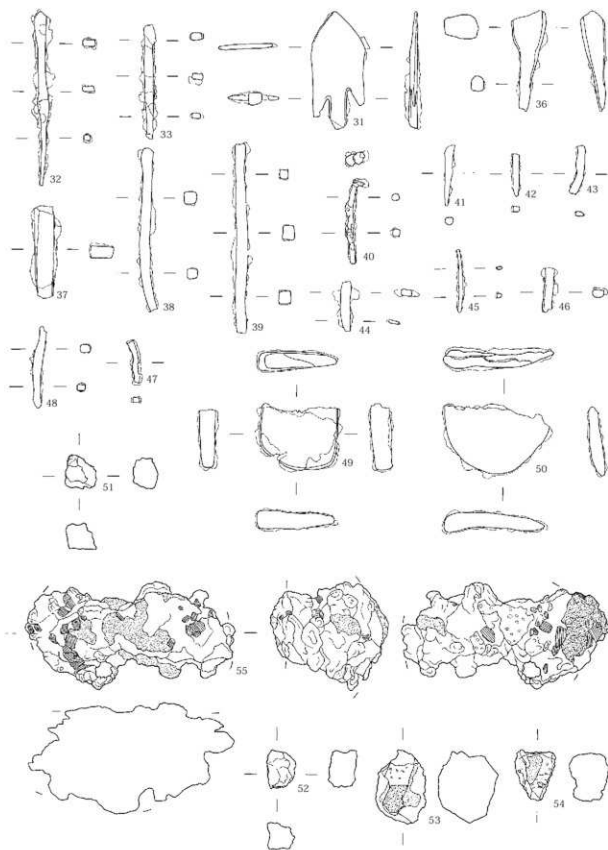


175図 D区18号竪穴建物出土遺物図(1)

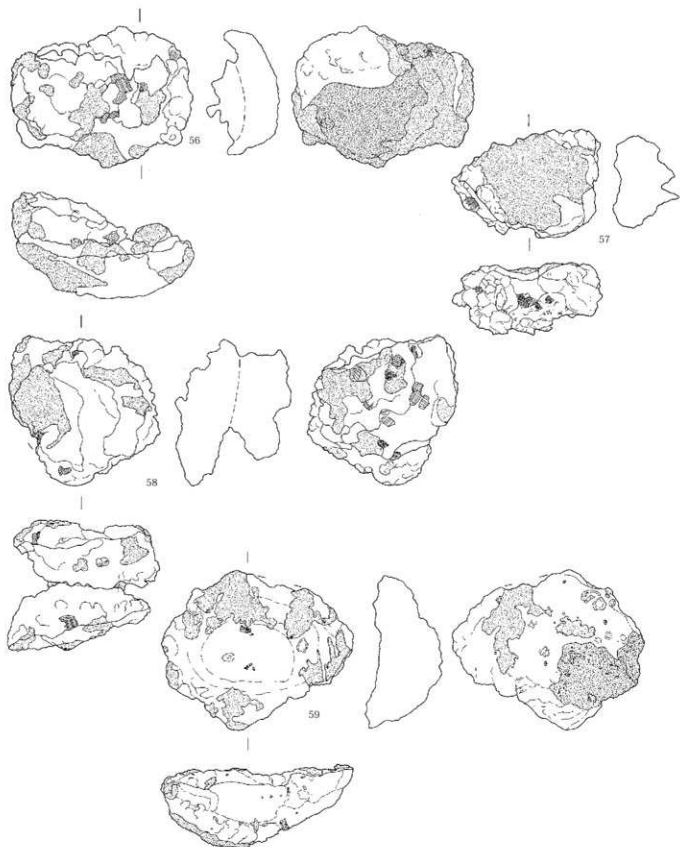


176图 D区18号竖穴建物出土遺物图(2)

IV 検出した遺構と出土した遺物

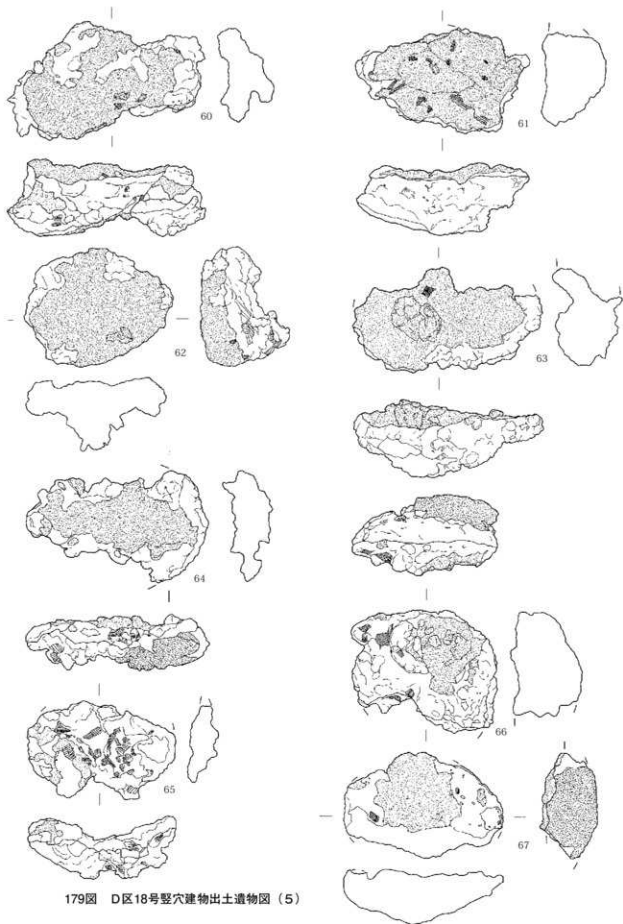


177図 D区18号竪穴建物出土遺物図(3)

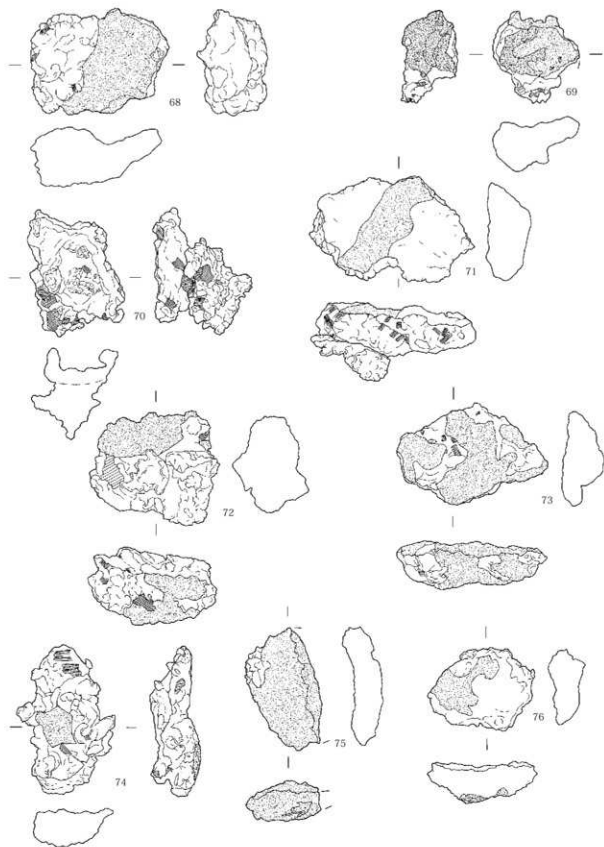


178図 D区18号竪穴建物出土遺物図(4)

IV 検出した遺構と出土した遺物

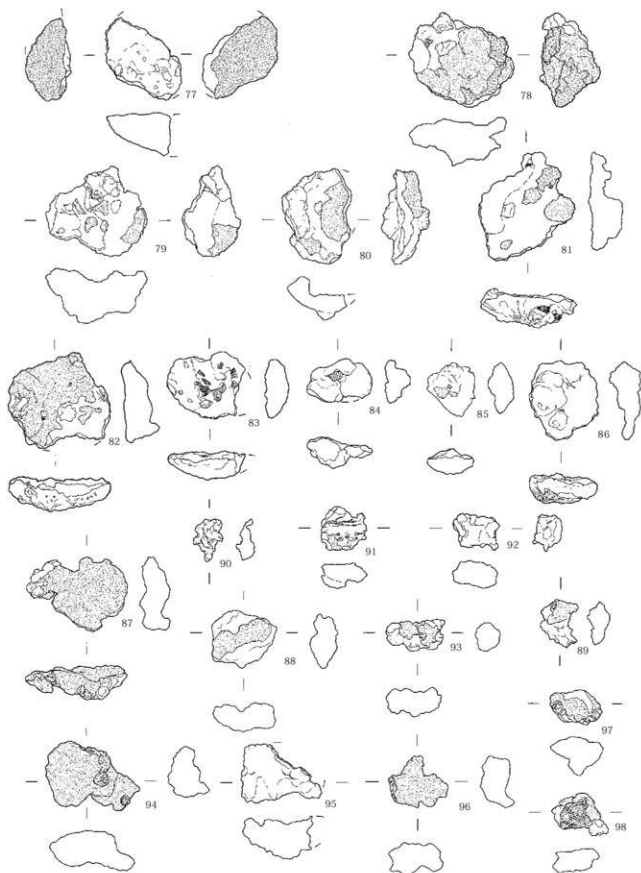


179図 D区18号竪穴建物出土遺物図(5)

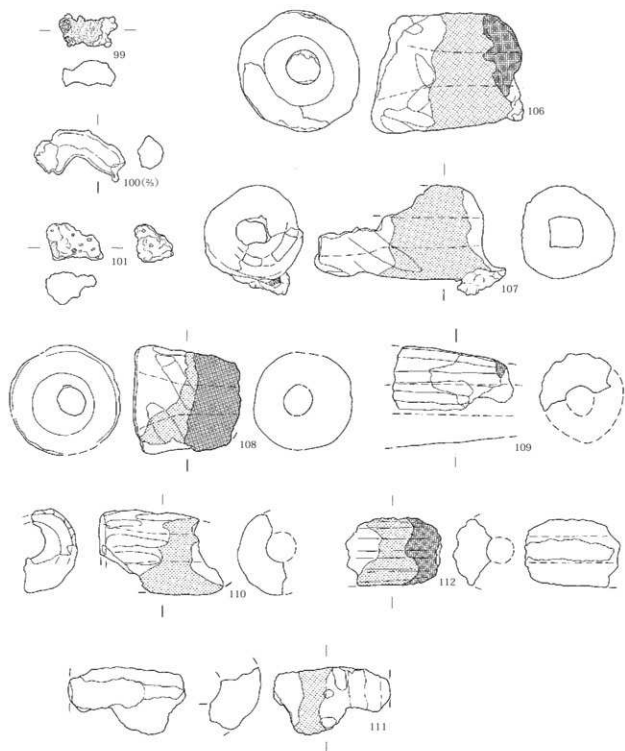


180图 D区18号竖穴建物出土遺物图(6)

IV 検出した遺構と出土した遺物



181図 D区18号竪穴建物出土遺物図(7)



182図 D区18号竪穴建物出土遺物図(8)

IV 検出した遺構と出土した遺物

D区18号竪穴建物

PL154・155

NO.	種 類	出上位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
1	須恵器 杯蓋	埋没上位 口縁部片	口 13.8	細砂粒/還元焼/灰	口クロ整形、回転方向不明。	
2	須恵器 杯	+20、中位 完形	口 11.8 底 7.2 高 3.5	細砂粒/還元焼/浅 黄	口クロ整形、回転右回り。底部回転系切り。	Ca-3
3	須恵器 杯	床下土坑、+20 ほぼ完形	口 12.0 底 7.4 高 3.4	細砂粒/還元焼/灰 白	口クロ整形、回転右回り。底部回転系切り。	Ca-3
4	須恵器 杯	カマド、+40 4/5	口 12.0 底 7.0 高 4.0	細砂粒/還元焼/明 黄褐	口クロ整形、回転右回り。底部回転系切り。	外面口縁部に左 文字「家」の墨書。
5	須恵器 杯	埋没上 口縁部1/4	口 11.8 底 7.0 高 3.3	細砂粒/還元焼/明 黄褐	口クロ整形、回転右回り。底部回転系切りか。	Ca-3
6	須恵器 杯	埋没上位 口縁部片	口 12.6	細砂粒/還元焼/灰 白	口クロ整形、回転右回りか。	Ca-4
7	須恵器 椀	確認面 1/6	口 10.8 底 6.0 高 5.1	細砂粒/還元焼/灰 白	口クロ整形、回転右回り。底部回転系切り。	Aa-1
8	須恵器 椀	確認面 1/6	口 12.2 底 5.8 高 4.6	細砂粒/還元焼/灰 白	口クロ整形、回転右回り。底部回転系切り。	Aa-2
9	須恵器 椀	+14、確認面 1/4	口 14.8 底 10.2 高 8.0 台 8.4	粗砂粒/還元焼/灰 白	口クロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。高台 は貼付。	Ab
10	須恵器 椀	埋没上 口縁部片	口 10.8	細砂粒/還元焼/灰 白	口クロ整形、回転右回りか。	Ab
11	須恵器 椀	+14、60 口縁部片	口 16.0 底 9.6	細砂粒/還元焼/灰 白	口クロ整形、回転右回りか。口縁部最下部は回転ヘラ 削り。	Ab
12	須恵器 椀	埋没上 底部～口縁下位片	底 5.2 台 5.4	細砂粒/還元焼/灰 白	口クロ整形、回転右回りか。底部切り離し技法は高台 貼付時のナデで不明。	Ab
13	須恵器 椀	埋没上 底部～口縁下位片	底 6.6 台 6.6	細砂粒/還元焼/灰 白	口クロ整形、回転右回りか。底部回転系切り。高台 は貼付。口縁部下位は回転ヘラ削り。	Ab
14	須恵器 椀	カマド 底部～口縁下位片	底 9.0 台 9.4	粗砂粒/還元焼/灰 オリーブ	口クロ整形、回転右回りか。底部回転系切り。高台 は貼付。	Ab
15	須恵器 椀	埋没上 底部～口縁下位片	底 9.4 台 10.0	細砂粒/還元焼/灰 白	口クロ整形、回転右回り。底部は高台貼付時のナデ で不明。口縁部下位は2段の回転ヘラ削り。	Ab
16	須恵器 椀	埋没上中位 底部～口縁下位片	底 10.8 台 10.0	粗砂粒/還元焼/灰 白	口クロ整形、回転右回りか。底部回転系切り。高台 は貼付。	
17	須恵器 広口盃	埋没上 口縁部片	口 19.8	細砂粒/還元焼/灰 白	口クロ整形。	
18	土師器 甕	+25 口縁～胴部上位片	口 9.6	細砂粒/良好/橙	口縁部輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部は横 方向ヘラ削り。	
19	土師器 甕	+12 口縁～胴部上位片	口 19.6	細砂粒/良好/赤赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ。胴部は横方向ヘラ削り。	Cb-2
20	土師器 甕	埋没上中 口縁～胴部上半片	口 20.6	細砂粒/良好/褐	口縁部から頸部は横ナデ。胴部上半は横方向、中位 は縦方向ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	Cb-1
21	須恵器 甕	埋没上位 底部～胴部下位片	底 14.0	粗砂粒/還元焼/灰 オリーブ	口クロ整形、回転右回りか。底部不定方向、胴部最 下位横方向ヘラ削り。胴部叩き痕が残る。	
22	須恵器 甕	埋没上位 底部～胴部下位片	底 14.8	粗砂粒/還元焼/灰 白	口クロ整形、回転右回りか。底部不定方向ヘラ削り。 胴部は平行明き、最下部ナデ。	
NO.	種 類	器 種	出上位置	残 存 率	計 測 値	摘 要
23	鉄製品	吊り手金具	埋没上中	取手部分	長(3.3) 幅 2.55 厚 2.1 重(10.3)	
24	鉄器	刀子	+26	対先部欠損	長(11.5) 幅 2.1 厚 0.6 柄長 6.6 重(18.7)	柄部に木質部残。
25	鉄器	刀子	+6	対先部欠損	長(11.3) 幅 1.5 厚 0.35 柄長 6.9 重(16.9)	柄部に木質部残。
26	鉄器	刀子	埋没上中	対先部片	長(4.2) 幅 1.0 厚 0.3 重(3.0)	
27	鉄器	刀子	確認面-10	対先部片	長(3.25) 幅 1.25 厚 0.35 重(3.0)	
28	鉄器	刀子	埋没上下位	対先部片	長(4.0) 幅 0.9 厚 0.2 重(3.6)	
29	鉄器	刀子	+22	対中程部片	長(3.3) 幅 1.0 厚 0.5 重(2.6)	
30	鉄製品	刀装具	確認面-0~10	1/4	長 3.1 幅 0.6 厚 0.3 重(4.3)	
31	鉄器	長頸圓括脚菓籠	床面	胴部	長(6.2) 幅 2.8 厚 0.7 対長 5.7 重(18.4)	残存状態良好。
32	鉄器	籠	確認面-70~80	茎部～頸部	長(9.3) 幅 0.6 厚 0.3 茎長 4.0 重(9.1)	
33	鉄器	籠	カマド	頸部片	長(6.1) 幅 0.6 厚 0.3 重(4.2)	
34	鉄器	籠	確認面-50~60	頸部片	長(3.95) 幅 0.65 厚 0.4 重(1.7)	
35	鉄器	籠	埋没上中	頸部片	長(2.6) 幅 0.8 厚 0.25 重(1.0)	
36	鉄器	壺	埋没上中位	柄部	長(5.0) 幅 1.8 厚 1.2 重(19.7)	
37	鉄器	用途不明	埋没上中	一部片	長(4.9) 幅 1.15 厚 0.6 重(18.8)	棒状、残存状態良好。
38	鉄器	用途不明	埋没上中	一部片	長(8.6) 幅 0.6 厚 0.6 重(11.5)	棒状、残存状態良好。

NO.	種類	器種	出土位置	残存率	計測値			摘要	
39	鉄器	用途不明	埋没上中	一部片	長(10.0)	幅 0.7	厚 0.6	重(16.9)	棒状、残存状態良好。
40	鉄器	釘	埋没上中	先端部欠損	長(4.5)	幅 0.3	厚 0.3	頭部 0.8×0.6 重(3.0)	
41	鉄器	釘	埋没上中位	先端部片	長(3.1)	幅 0.4	厚 0.35	重(1.3)	
42	鉄器	釘	確認面-40~50	先端部片	長(2.25)	幅 0.35	厚 0.3	重(1.0)	
43	鉄器	釘	埋没上中位	中位破片	長(2.6)	幅 0.6	厚 0.25	重(0.6)	
44	鉄器	釘	埋没上中	中位破片	長(2.6)	幅 0.55	厚 0.3	重(1.2)	
45	鉄器	釘	確認面-20~30	中位破片	長(3.4)	幅 0.3	厚 0.3	重(0.8)	
46	鉄器	釘	確認面-0~10	中位破片	長(2.4)	幅 0.6	厚 0.4	重(2.4)	
47	鉄器	釘	埋没上中	中位破片	長(2.4)	幅 0.4	厚 0.3	重(1.7)	
48	鉄器	釘	確認面-70~80	中位破片	長(4.35)	幅 0.65	厚 0.5	重(2.4)	
49	鉄製品	鉄塊?	確認面-70~80	一部片か	長(4.6)	幅 6.5	厚 1.3	重(168.5)	残存状態良好。
50	鉄製品	鉄塊?	確認面-70~80	一部片か	長(8.7)	幅 5.8	厚 1.9	重(160.4)	残存状態良好。

D区18号竪穴建物 出土鉄関連遺物観察表

PL.155~158

No.	遺物名	出土位置	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	特徴など
			長	幅	厚さ				
51	ワグネタイト系遺物	埋没土上位	2.4	2.7	2.1	30	5	なし	暗青灰色。割れ口シャープ。細かい気泡あり。
52	ワグネタイト系遺物(含鉄)	埋没土上位	2.3	3.1	2.1	40	5	錆化(△)	暗青灰色。割れ口シャープ。
53	妙内洋	確認面から30~40cm	4	5.7	4.8	240	4	なし	洋質は密。上面には錆化した含鉄部が多く、酸化土砂が多く付着する。側面の割れ口シャープ。
54	妙内洋	確認面から20~30cm	3.1	3.8	3.1	55	4	なし	妙内洋の付着した妙内洋。表面に含鉄部があり、錆化している。酸化土砂付着。
55	椀形鏡治洋(特大、含鉄)	+10	16.6	8.5	9.2	760	5	錆化(△)	粘土質溶解物主体。洋質は粗。表面は含鉄による錆化あり、鉄分豊富。底部に妙床土付着。
56	椀形鏡治洋(特大、含鉄)	確認面から70~80cm	14.3	11.2	6.5	1000	3	H(○)	2段さみ。洋質は密。内面に錆化した含鉄部があり、鉄分豊富。底部に妙床土付着。
57	椀形鏡治洋(大)	+7	11.7	8.5	5.2	480	2	なし	洋質は密。内面に錆化した含鉄部があり、鉄分豊富。上面に酸化土砂付着。
58	椀形鏡治洋2個体(大、含鉄)	+9	11.9	11.8	10.4	990	6	錆化(△)	2個体の椀形鏡治洋の底部同士が、酸化土砂により付着している。上部の椀形鏡治洋は、洋質は密。内面に錆化した含鉄部があり、鉄分豊富。下部の椀形鏡治洋は、粘土質溶解物主体であるが全体的に錆化しており鉄分豊富。洋質は粗。
59	椀形鏡治洋(大、含鉄)	床面	15.2	12.4	6.2	940	2	錆化(△)	ほぼ完形。洋質は密。内面に錆化した含鉄部があり、鉄分豊富。表面に多量の酸化土砂付着。
60	椀形鏡治洋(大、含鉄)	+13	15.5	9.3	6.1	580	3	錆化(△)	粘土質溶解物主体で、洋質はやや密。内面に錆化した含鉄部があり、鉄分豊富。2段さみ。
61	椀形鏡治洋(大、含鉄)	+6	13.6	8.3	5.4	540	3	錆化(△)	上面全面に酸化土砂。洋質は密。内面に錆化した含鉄部があり、鉄分豊富。
62	椀形鏡治洋(大、含鉄)	確認面から70~80cm	11.1	9.4	7	530	3	錆化(△)	洋質は密。内面に錆化した含鉄部あり、鉄分豊富。上面から右側にかけて酸化土砂付着。
63	椀形鏡治洋(大、含鉄)	床面	15	8.3	4.9	480	5	錆化(△)	洋質は密。内面に錆化した含鉄部あり、鉄分豊富。表面に酸化土砂付着。
64	椀形鏡治洋(大、含鉄)	埋没土中位	14.5	8.9	3.5	380	5	錆化(△)	扁平で大型。洋質は密。内面から表面に錆化した含鉄部あり、鉄分豊富。底部右側に妙床土付着。
65	椀形鏡治洋(大、含鉄)	確認面から30~40cm	11.7	7.8	3.3	300	4	錆化(△)	洋質は密。内面に錆化した含鉄部あり、鉄分豊富。上側欠損。破面に溶着部あり。擦痕直後の欠損の可能性大。
66	椀形鏡治洋(大、含鉄)	+8	11.6	9.7	5.6	560	3	H(○)	洋質は密。内面に錆化した含鉄部あり、鉄分豊富。表面に酸化土砂。底部に妙床土付着。
67	椀形鏡治洋(大、含鉄)	確認面から50~60cm	12.6	8.4	4	470	3	H(○)	洋質は密。内面に錆化した含鉄部あり、鉄分豊富。底部に妙床土の残存良好。上面に含鉄部が集中し酸化土砂が付着。
68	椀形鏡治洋(大、含鉄)	埋没土中位	10.9	8.4	4.5	450	4	M(○)	洋質は密。内面に錆化した含鉄部あり、鉄分豊富。扁平。ほぼ完形。
69	椀形鏡治洋(中)	確認面から60~70cm	6.8	7.2	3.8	200	2	なし	洋質は密。内面に錆化した含鉄部あり、鉄分豊富。上面に含鉄部が集中し酸化土砂が付着。酸化土砂中に鋭利な欠損あり。下面左側に妙床土残存。
70	椀形鏡治洋(中)	埋没土中	7.7	10	7.8	190	2	なし	洋質はやや粗。2段さみ。上段は流動状であるが、鉄分豊富。全体的に錆化。下段は粘土質溶解物主体。
71	椀形鏡治洋(中、含鉄)	+13	12.5	8.3	6.2	360	4	錆化(△)	扁平。ほぼ完形。底部に洋が付着し、2段さみ。
72	椀形鏡治洋(中、含鉄)	床面	10.2	9.1	6	340	3	錆化(△)	上面やや左手に、羽江型部記号の粘土質溶解物あり。洋質は粗。内面に錆化した含鉄部あり、鉄分豊富。上面とも酸化土砂が付着する。
73	椀形鏡治洋(中、含鉄)	埋没土中位	11.8	8.1	3.9	350	5	H(○)	洋質は密。内面に錆化した含鉄部あり、鉄分豊富。ほぼ完形。酸化土砂付着。

IV 検出した遺構と出土した遺物

No.	遺物名	出土位置	計測値 (cm)			重量 (g)	磁着度	メタル度	特徴など
			長	幅	厚さ				
74	椀形鍔治洋 (中、含鉄)	埋没土上位	7.9	11.8	4	220	4	H(○)	ほぼ完形。洋質は粗。全体的に錆化しており、鉄分豊富。下面に炉土上の残存あり。
75	椀形鍔治洋 (中、含鉄)	埋没土上位	5.7	9.7	3.4	190	6	M(○)	残存約1/2。鉄分豊富で洋質は密。内面に錆化した含鉄部あり。表面はほぼ酸化土砂に覆われている。
76	椀形鍔治洋 (中、含鉄)	確認面から 10cm	8	6.4	3.2	180	5	M(○)	ほぼ完形。洋質は密。内面に錆化した含鉄部あり、鉄分豊富。下面の一部に炉土上残存。上面に酸化土砂あり。
77	椀形鍔治洋 (小)	確認面から 10cm	5.9	6.5	3.3	90	2	なし	粘土質土主体。炉土上付着。
78	椀形鍔治洋 (小、含鉄)	床面	8.3	7.4	4.4	190	5	錆化 (△)	ほぼ完形。粘土質溶物主体で、全体的に錆化しており、鉄分が豊富に含まれる。洋質は粗。酸化土砂に覆われている。
79	椀形鍔治洋 (小、含鉄)	+13	8	7.1	3.3	140	6	錆化 (△)	ほぼ完形。粘土質溶物主体で、洋質は粗い。全体的に錆化しており、鉄分豊富。
80	椀形鍔治洋 (小、含鉄)	+11	5.4	7.5	2.3	140	6	錆化 (△)	右側に破面があるが、ほぼ完形。粘土質溶物主体であるが、全体的に錆化しており、鉄分豊富。洋質は粗。
81	椀形鍔治洋 (小、含鉄)	埋没土中	7.8	7.5	2.5	150	5	H(○)	ほぼ完形。上面平坦。粘土質溶物主体であるが、全体的に錆化しており、鉄分豊富。洋質はやや密。上面に大型の鍛造割片、無面に木炭痕あり。
82	椀形鍔治洋 (小、含鉄)	埋没土中	8	6.7	2.7	150	4	H(○)	下側面に破面があるが、ほぼ完形。上面平坦。粘土質溶物主体であるが、全体的に錆化しており、鉄分豊富。洋質はやや密。
83	椀形鍔治洋 (極小)	確認面から 30~40cm	6.1	5.4	2.1	80	2	なし	右側に破面があるが、ほぼ完形。上面平坦。粘土質溶物主体であるが、全体的に錆化しており、鉄分豊富。洋質はやや密。上面に木炭痕あり。
84	椀形鍔治洋 (極小、含鉄)	埋没土中	5.2	3.4	2	40	3	錆化 (△)	上部にやや破面があるが、ほぼ完形。上面平坦。粘土質溶物主体であるが、全体的に錆化しており、鉄分豊富。洋質は粗。
85	椀形鍔治洋 (極小、含鉄)	埋没土中	3.8	4.3	2	30	3	錆化 (△)	上面平坦。粘土質溶物主体であるが、全体的に錆化しており、鉄分豊富。洋質はやや密。上面に酸化土砂付着。
86	椀形鍔治洋 (極小、含鉄)	確認面から 40~50cm	5.4	6.1	2.5	100	6	H(○)	ほぼ完形。上面平坦。上面左に粘土質溶物付着。頸口部の溶指か。粘土質溶物主体であるが、全体的に錆化しており、鉄分豊富。洋質は粗。
87	椀形鍔治洋 (極小、含鉄)	確認面から 40~50cm	8	5.9	2.3	90	4	H(○)	ほぼ完形。上面平坦。粘土質溶物主体であるが、全体的に錆化しており、鉄分豊富。洋質は粗。
88	椀形鍔治洋 (極小、含鉄)	確認面から 20~30cm	5.1	4.5	2	80	4	L(●)	椀形鍔治洋であるが、金属鉄が豊富に残存。粘土質溶物が主体であるが、洋質が密で比重が高い。
89	椀形鍔治洋 (極小、含鉄)	確認面から 30~40cm	3	3.8	1.8	20	5	L(●)	椀形鍔治洋であるが、金属鉄が豊富に残存。粘土質溶物が主体であるが、洋質が密で比重が高い。酸化土砂中に鍛造割片あり。
90	鍛治洋	確認面から 10cm	2.4	3.3	1.5	10	2	なし	粘土質溶物主体。
91	鉄塊系遺物	確認面から 80~90cm	3.5	3.5	1.9	38	7	L(●)	放射割れが目立つ。上面平坦で、底部椀状の形状であるため、椀形鍔治洋の可能性もある。
92	鉄塊系遺物	確認面から 40~50cm	4.1	2.5	2	35	6	L(●)	粘土質溶物主体で、ほとんど放射割れがないが、残存する金属鉄が豊富。形状からすると、椀形鍔治洋の可能性もある。
93	鉄塊系遺物	確認面から 30~40cm	4.5	2.4	2.1	30	7	L(●)	放射割れが目立つ。粘土質溶物も含まれる。表面に酸化土砂付着。
94	鉄塊系遺物	確認面から 20~30cm	7.4	5.5	2.8	168	7	特L (☆)	金属鉄の残存が豊富であるが、形状からすると、椀形鍔治洋の可能性もある。
95	鉄塊系遺物	埋没土上位	6.3	4.7	2.8	121	7	特L (☆)	金属鉄の残存が豊富であるが、形状からすると、椀形鍔治洋の可能性もある。右側破面。
96	鉄塊系遺物	確認面から 20~30cm	4.7	4	2.6	75	6	特L (☆)	酸化土砂に覆われている。酸化土砂中に鍛造割片あり。
97	鉄塊系遺物	埋没土中	4	2.7	3	48	7	特L (☆)	酸化土砂に覆われている。放射割れ目立つ。椀形鍔治洋の可能性もある。
98	鉄塊系遺物	確認面から 60~70cm	4.4	3.4	1.7	47	6	特L (☆)	酸化土砂に覆われている。放射割れ目立つ。椀形鍔治洋の可能性もある。
99	鉄塊系遺物	確認面より 10cm	5.5	2.6	2.1	39	7	特L (☆)	酸化土砂に覆われている。放射割れ目立つ。椀形鍔治洋の可能性もある。
100	粘土質溶物	埋没土上位	3.5	1.8	1.2	10	1	なし	粘土質溶物主体。ほぼ完形。
101	再結合洋 (含鉄)	埋没土上位	4.4	3	2.5	30	4	錆化 (△)	靱状の洋、鍛造割片を含む再結合洋。
106	頸口 (鍛治、含鉄)	埋没土中	残存長 11.6	9.6	3.3	750	4	錆化 (△)	基部がやや欠けているものの、ほぼ完形。先端部溶指。通風孔内径は2.7cmの直線状で、基部から約5cmでラッパ状に開く。表面に指おさえ痕あり。胎土にスサはなく、粗砂粒を含む。頸部割離。先端部内径：2.7cm、中心部内径：2.7cm、中心部外径：9.0cm、基部内径：5.2cm、基部外径：10.2cm。

102~105は鍛造割片、PLのみ

No.	遺物名	出土位置	計測値 (cm)			重量 (g)	磁着度	メタル度	特徴など
			長	幅	厚さ				
107	羽口 (銅治、含鉄)	埋没土中	残存長 15.1	8.3	2.5	500	3	錆化 (△)	基部の一部と先端部が残存する。先端部浴槽。通風孔断面が方形で、外面底部が平坦である特徴を持つ。但し、羽口先端部の浮の付着を観察すると、外面の平坦面を水平に設置しているのではなく、通風孔の平坦面を水平にして使用している様である。内径は2.4cmで基部から5.1cmでラッパ状に開く。胎土にスサはなく、粗砂粒を含む。頸部に銅形鍍治の破片あり。先端部内径:2.5cm、中心部内径:2.4cm、中心部外径:7.4cm、基部内径:(4.0)cm、基部外径:(7.0)cm。
108	羽口 (銅治)	埋没土中	残存長 8.5	8.6	3.2	460	3	なし	先端部がやや欠けているもの、ほぼ完好。先端部浴槽。通風孔内径は2.1~2.3cmの直線状で、基部から約3cmでラッパ状に開く。表面に指おさえ、ナズ痕あり。胎土にスサはなく、粗砂粒を含む。先端部内径:2.1cm、中心部内径:2.3cm、中心部外径:7.6cm、基部内径:5.4cm、基部外径:8.6cm。
109	羽口 (銅治)	床面	残存長 10.1	5	2.6	175	1	なし	先端部周辺。内径は約2.3cmの直線状。表面に先端部から基部に向けて、直線上のナズ痕あり。胎土にスサはなく、粗砂粒を含む。先端部内径:(2.3)cm、中心部内径:-、中心部外径:-、基部内径:-、基部外径:-
110	羽口 (銅治)	埋没土中	残存長 9.8	6.4	2.7	165	1	なし	基部残存。内径は約2.3cm。表面に先端部から基部に向けて、直線上のナズ痕あり。胎土にスサはなく、粗砂粒を含む。先端部内径:-、中心部内径:(2.3)cm、中心部外径:(7.0)cm、基部内径:(4.0)cm、基部外径:(5.0)cm。
111	羽口 (銅治)	埋没土中	残存長 9.2	5.4	3.5	128	1	なし	基部の一部が残存。先端部欠損。内径不明。通風孔は5.7cmでラッパ状に開く。表面に指おさえ痕あり。胎土にスサはなく、粗砂粒を含む。先端部内径:-、中心部内径:-、中心部外径:-、基部内径:(4.0)cm、基部外径:(8.0)cm。
112	羽口 (銅治)	埋没土中	残存長 7.6	5.3	2.6	100	1	なし	先端部周辺。内径は約2.1cmの直線状。表面に先端部から基部に向けて、直線上のナズ痕あり。胎土にスサはなく、粗砂粒を含む。先端部内径:-、中心部内径:(2.1)cm、中心部外径:-、基部内径:-、基部外径:-

D区19号竪穴建物

本竪穴建物は大部分が発掘調査範囲対象外に存在し、調査可能な範囲は北西角の一部だけであった。また、遺構の検出も2面を調査中に確認したため確認面から床面までの深度はほとんどない状態である。

位置は調査区の中央より南よりの東端、 $X=75.183 \sim 75.185$ 、 $Y=-66.998 \sim -67.000$ である。残存状態は調査範囲内では良好であった。重複関係は北壁中程でD区20号竪穴建物との重複が確認された。新旧関係は遺構確認時の状況や土層断面の観察から本竪穴建物のほうが古い。平面形態は全貌が不明ではあるが方形または長方形を呈すると想定される。規模は測定可能な範囲で北辺1.80m、西辺2.15m、確認面から床面までの深度は図上ではほとんどないがV層上面からの深度は50cmほどを測る。主軸方位は $N-105^{\circ}-E$ を指す。

内部施設は柱穴を1本と周溝を検出している。柱穴は西辺の北西角よりで2分の1が壁外に存在する壁柱穴と呼称される形態のものである。規模は径28cm、深度78cmを測る。周溝は北辺の一部で途切れるが調査範囲ではほぼ全域で確認された。規模は幅20cm前後、深度10~15cmを測る。床面は調査範囲が壁際ではあるが比較的

固く踏み固められていた。

カマドは調査区内では確認されなかった。掘方は床面より15cm前後掘り込まれているが、ほぼ平坦面であった。埋没状態は土層堆積観察面の設定が竪穴建物平面上を斜めに横断する状態のため不明確な点もあるがレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると判断した。

遺物出土状態は埋没土中から土師器甕、須恵器杯・甕等がみられるが、調査した範囲が狭いため出土量自体は総数35点と少なく小破片が多いため図示可能なものも3点と少なかった。

本竪穴建物の存続時期は出土遺物から8世紀第4四半期から9世紀第1四半期に比定できる。

D区20号竪穴建物

本竪穴建物は大部分が発掘調査範囲対象外に存在し、調査可能な範囲は北西角の一部だけであった。また、遺構の検出も2面を調査中に検出したD区19号竪穴建物の確認作業中に重複する遺構が存在することを確認したため隣接地との安全対策のため残しておいた箇所を拡幅して調査を行った。

位置はD区調査区の中央より南よりの東端、 $X=$

IV 検出した遺構と出土した遺物

75.184~75.186-Y = -67.996~-67.998である。残存状態は調査範囲内では良好であった。重複関係は西北壁中程でD区19号竪穴建物との重複が確認された。新旧関係は遺構確認時の状況や土層断面の観察から本竪穴建物のほうが新しい。平面形態は全貌が不明ではあるが方形または長方形を呈すると想定される。規模は測定可能な範囲で北辺1.00m、西辺1.74m、確認面から床面までの深度は50cmほどを測るが、土層断面では1.00m前後あることが確認できた。主軸方位はN-75°-Eを指す。

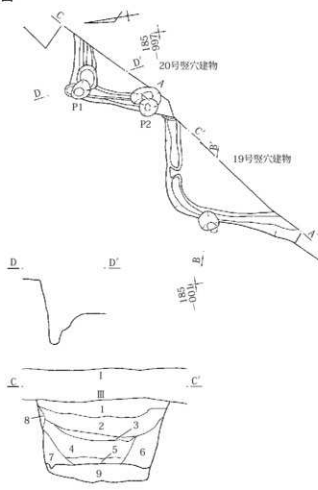
内部施設は柱穴を2本と周溝を検出している。柱穴は北西角(P1)と西辺の北西角より(P2)で一部が壁外に存在する壁柱穴と呼称される形態のものである。柱穴はそれぞれ重複した状態が観察できることから建て替えが行われた可能性がある。規模はP1新が径30×28cm、深度

45cm、P1旧が径36×30cm、深度20cm、P2新が径30×28cm、深度49cm、P2旧が径48×30cm、深度35cmを測る。周溝は調査範囲内では全域で壁下から確認された。規模は幅12~18cm、深度1~12cmを測る。床面は調査範囲が壁際ではあるが比較的固く踏み固められていた。

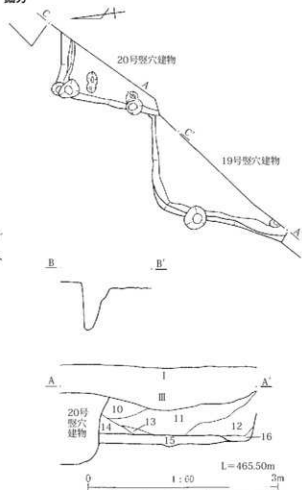
カマドは調査区内では確認されなかった。掘方は床面より25cm前後掘り込まれているが、ほぼ平坦面であった。埋没状態は土層堆積観察面の設定が竪穴建物平面上を斜めに横断する状態のため不明確な点もあるがレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると判断した。

遺物出土状態は埋没土中から図示した土師器器が出土しただけである。本竪穴建物の存続時期は重複関係にあるD区19号竪穴建物から9世紀第2四半期以降に比定できる。

使用面



掘方



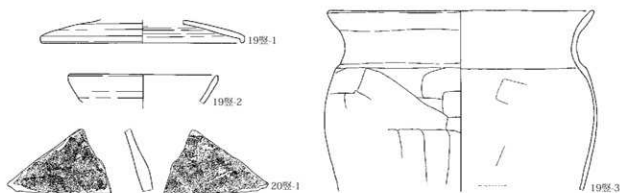
183図 D区19号竪穴建物・20号竪穴建物遺構図

D区20号竪穴建物

- 1 黒褐色上 (10YR2/3) I・IIに類似、 ϕ 1~2cmのHr-FPを3~5%と ϕ 0.5cmのロームブロックを1%含む。
 2 灰黄褐色上 (10YR4/2) (I・II)・V・VI・VIIブロックの混合上、 ϕ 1cmのHr-FPを3%と ϕ 1cmのロームブロックを5%、 ϕ 3cmの黒色土ブロックを1%含む。
 3 黒色上 (10YR2/1) Vに類似、 ϕ 1cmのHr-FP3%とローム粒1%含む。
 4 にぶい黄褐色上 (10YR4/3) 2に類似、ロームブロックが ϕ 0.5~3cmと大きく、5%と多い。
 5 にぶい黄褐色上 (10YR4/3) 4に類似、ロームブロックを10%多く含む。
 6 黒褐色上 (10YR3/3) 4、5に類似、ロームブロック5%含む。
 8 VIの崩落上、黒色土を5%含む。
 9 黒褐色上 (10YR3/2) 2~3cmロームブロックを20%含む、掘方。

D区19号竪穴建物

- 10 黒褐色上 (10YR2/2) II・Vの混合上、 ϕ 1~2cmのHr-FPを3%、 ϕ 2~4cmのロームブロックを10%含む。
 11 黒褐色上 (10YR3/2) V主体、 ϕ 0.5cmのHr-FPを1%と ϕ 1cmのロームブロックを3%含む。
 12 黒褐色上 (10YR3/2) 3に類似、焼土ブロックを10%含む。
 13 黒褐色上 (10YR3/1) V主体、 ϕ 0.5~2cmのロームブロックを1%含む。
 14 明黄褐色上 (2.5Y6/6) ϕ 3~10cmのVIIのブロック主体、その間にVが20%混入。
 15 黒褐色上 (10YR3/2) 2~3cmロームブロックを20%含む、掘方。
 16 黒褐色上 (10YR2/2) 1~3cmのロームブロックを10%含む。



184図 D区19号竪穴建物・20号竪穴建物出土遺物図

D区19号竪穴建物

NO.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	須恵器 杯蓋	埋没上下位 口縁部片	口 15.6	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。天井部中央は回転へら削り。	
2	須恵器 杯	埋没上下位 口縁部片	口 11.6	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
3	土師器 甕	埋没上下位 口縁~胴部上半片	口 20.6 胴 21.6	細砂粒/良好/ふい堀	口縁部から頸部は横ナデ。胴部上半は横方向、中位は縦方向へら削り。内面胴部はへらナデ。	Cb-2

D区20号竪穴建物

NO.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器 甕	埋没上中 胴部上位小片		細砂粒/良好/灰濁	外面はへら削りか、内面はへらナデ。	

E区1号竪穴建物

本竪穴建物は4分の3程度は発掘調査を行ったが、残りの部分は発掘調査範囲対象外に存在するため全貌や詳細については不明である。

位置はE区調査区の南東端、X=75.271~75.275-Y=-66.917~-67.920である。残存状態は調査範囲内では比較的良好であった。他遺構との重複関係は確認されなかった。

平面形態は角に丸みがあり、辺が膨らむ隅丸長方形を呈する。規模は南北3.47m+ α 、東西2.37m+ α 、辺長は北辺が2.6m、西辺が3.1mほどである。壁高は確認面から34~40cmである。主軸方位は東辺にカマドが構築されていると想定されることからN-110°-Eを指す。

内部施設は柱穴1本と周溝を検出した。柱穴は竪穴建物の中央よりやや北寄りに位置する。平面形態は楕円形に近く、規模は径73×53cm、深度99cmである。周溝

IV 検出した遺構と出土した遺物

は0.7mから2.5mの長さで途切れ途切れの状態で壁下から10~20cmほど離れた内側で検出した。規模は幅15~18cm、深度7~10cmである。なお、西辺寄りに検出した土坑状の落ち込みは床面で硬化面が検出できなかったことから床面段階で調査したが、周囲もあまり硬化していない状態であったことから床下土坑の可能性もみられる。床面は北半と東辺寄りではローム土とV層の黒色土を混合した土で2~5cmほどの厚さで貼床を行い硬化面としていたが、南西部分では地山をそのまま使用しており床面もあまり硬化させていなかった。

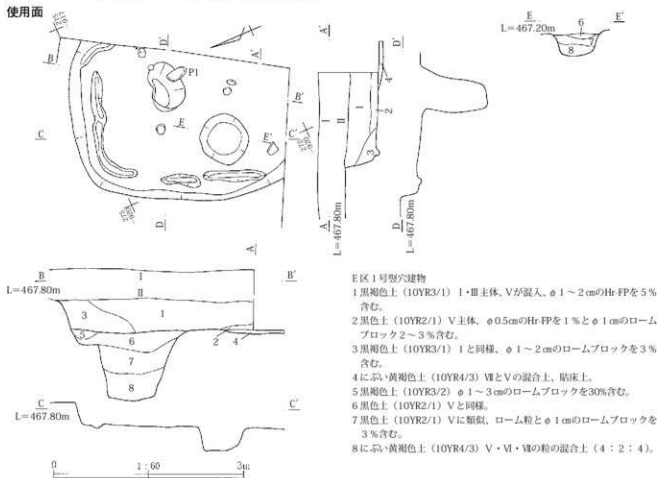
掘方は南西部では確認されなかったが、その他では床面から5cm程度掘り込まれていた。また、北東部(床下土坑1)と南西部(床下土坑2)では床下土坑を検出した。床下土坑1は楕円形を呈し、規模は径154×135cm、深度106cmと大型のものであった。床下土坑2はほぼ円形で径77×72cm、深度41cmである。両床下土坑とも遺使用面

物の出土などはみられず、埋め戻されている土砂はV層やVII-1層を主体としていることからカマド構築材として使用するVII-3層土、VIII層土を採掘するために掘られたものとみられる。

埋没状態は土層断面で壁付近に周囲から流れ込んだ土が若干三角形に堆積した後、III層に近い土砂で短期間に埋没した様子が観察できることから自然埋没と想定される。

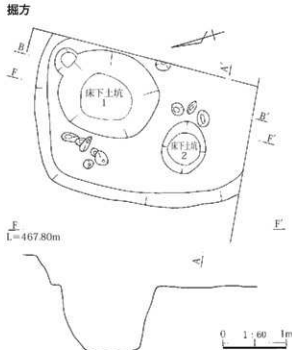
遺物は出土量が少なく散在的で出土位置も床面や掘方内からはほとんどなく埋没土中からであった。なお、掘載した以外の土器数量は土師器杯3点、台付甕24点、甕86点、須恵器椀26点、長頸壺6点、甕10点、羽釜8点などがある。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から10世紀第1四半期に比定できる。



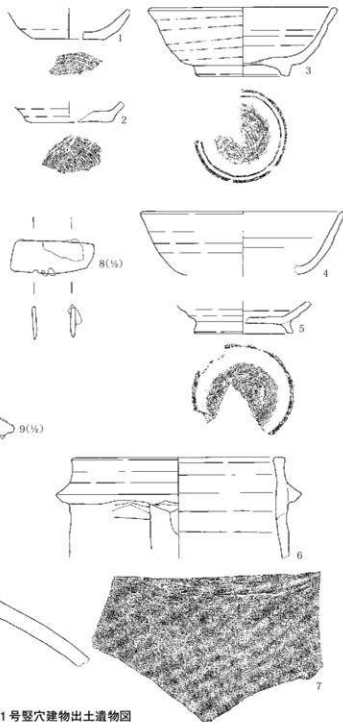
185図 E区1号竪穴建物遺構図(1)

掘方



L=467.80m

186図 E区1号竪穴建物遺構図(2)



187図 E区1号竪穴建物出土遺物図

E区1号竪穴建物

PL.158

NO.	種別	出土位置 残存率	計測値	胎上/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	須恵器 杯	埋没土中 口縁下位~底部片	底 5.6	細砂粒/還元焙焼/ 濁灰	ロク口整形、回転右回りか。底部回転糸切り。	
2	須恵器 杯	埋没土中 口縁下位~底部片	底 6.8	細砂粒/還元焙/灰	ロク口整形、回転右回りか。底部回転糸切り。	
3	須恵器 椀	埋没土中 1/2	口 14.2 底 9.2 高 5.4 台 6.6	粗砂粒/還元焙/灰	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り。高台は 貼付。	Ab
4	須恵器 椀	埋没土中 口縁部小片	口 15.6 底 9.6	粗砂粒/還元焙/灰	ロク口整形、回転右回りか。	

IV 検出した遺構と出土した遺物

NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
5	須恵器 椀	埋没上中 底部片	底 7.4 台 7.0	細砂粒/還元焰 /灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。高台は 貼付。	
6	須恵器 羽釜	埋没上中 口縁部~胴部上位片	口 15.0 跨 19.3	粗砂粒/酸化焰 /浅黄	ロクロ整形、跨は貼付、胴部は跨へ向けての履方向 へラ削り。	
7	須恵器 類	埋没上中 胴部上位片		細砂粒/還元焰 /灰	外面の叩き直はナデで不鮮明、内面にアテ貝殻が残 る。	
NO.	種類	器種	出土位置	残存率	計測値	摘要
8	鉄器	刀子	埋没上中	刃部中程片	長 (4.3) 幅 1.6 厚 0.25 重 (6.5)	
9	鉄器	刀子	埋没上中	刃先片	長 (2.8) 幅 1.2 厚 0.3 重 (3.0)	
10	鉄器	鎌	埋没上中	完形	長 12.3 幅 3.1 厚 0.2 重 31.5	

E区3号竪穴建物

本竪穴建物の位置はE区調査区の中央よりやや南寄り、 $X = 75,289 \sim 75,293 - Y = -66,914 \sim -66,917$ である。残存状態は確認面から床面まで深度がやや浅い状態であったが比較的良好であった。他遺構との重複関係は東辺部分でE区12号竪穴建物との重複が確認された。新旧関係は本竪穴建物のほうが新しい。

平面形態は南東角が明確ではないがほぼ長方形を呈す。規模は南北3.71m、東西2.96m、各辺長は北辺2.60m、東辺3.40m、南辺2.85m、西辺3.30m、壁高は35~48cm、床面積は7.9㎡を測る。主軸方位は $N-115^\circ-E$ を指す。

内部施設は柱穴1本、貯蔵穴、周溝を検出した。柱穴は中央よりやや北西部によった位置にあり、平面形態は楕円形に近い不整形、規模は径 70×32 cm、深度36cmである。貯蔵穴は北西角際に位置し、平面形態は隅丸方形で規模は径 56×53 cm、深度31cmである。周溝は東辺のカマド左側から北辺、西辺の南西角までの最大で検出した。途中、北辺中央部で0.7m、東辺で1箇所と北西角で約10cmほど途切れる箇所はある。規模は幅20cm前後、深度3~7cmである。床面は掘方底面より5~8cmほどV層、VI層、VII層の混合土で埋め戻し踏み固め硬化面としていた。

カマドは東辺の中央よりやや南寄りに構築されていた。残存状態は焼き口や燃焼部から煙道部の天井が大きく壊された状態であったが、両ソデの残存状態や補強に使用された礫は散逸せずカマド内に残っていた。規模は全長1.00m、幅0.90m、燃焼部幅0.45m、煙道部は壁外に45cmほど延びる。燃焼部左寄りには長さ30cm、径5

cmの円柱状の礫が支脚として立てられたまま残っていた。その位置から見ると本来は右寄りにも立てられ一对で機能していたと想定される。ソデをはじめ天井には多くの礫が芯としてまた補強として使用されていた。特に焼き口部上部の補強には長さ50cm、幅20cm、厚さ15cmの大きめな垂角礫が、燃焼部や煙道部の天井には一辺20~40cmの扁平な礫が使用されていた。燃焼部内からはカマドに掛けられていたとみられる6の須恵器羽釜片と2の須恵器椀が出土している。

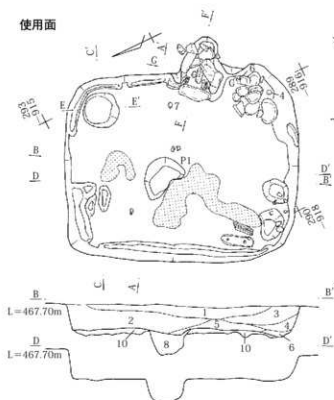
掘方は全体的には床面より5~8cmほど掘り下げられており、底面は掘削時の凹凸が残る。また、南東角と北西角際には床下土坑が検出された。南東角の床下土坑1は平面形態が矩形を呈し、規模は 100×85 cm、深度23cmである。北西角の床下土坑2は平面形態が楕円形で、壁側の側面は横に掘り込まれた状態である。規模は径 130×120 cm、深度110cmである。両床下土坑とも遺物の出土などはみられず、床下土坑2では側面も掘り込んでいることなどからカマド構築材として使用するVII-3層土、VIII層土を採掘するために掘られたものとみられる。

埋没状態は周囲からの流れ込んだ状態が各辺方向によって異なるなどやや不自然点があるが、中央部ではIII層に近い土砂で短期間に埋没した様子が観察できることから自然埋没と想定される。

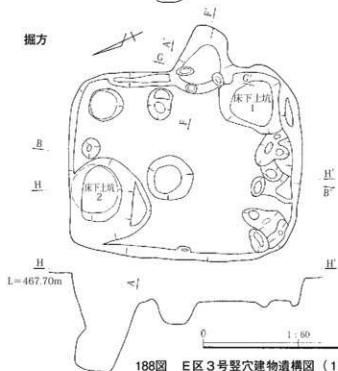
遺物は出土量が少なく散在的であった。また、西辺寄りでは焼土、炭化材なども出土しているが、床面より10cmほど高位に位置しており、後の廃棄が竪穴建物廃棄後の場所での廃材焼却などの可能性がみられる。南東角では径20~40cmの円礫がまとめられた状態で出土

しているが、これも床面から15~20cmほど高位に位置していることから重複する遺構に伴う礫群であった可能性はある。なお、この礫群については調査時にも重複する遺構の存在が想定されたため平面及び断面でも精査したが確認できなかった。なお、掲載した以外の土器数量

使用面



掘方



188図 E区3号竪穴建物遺構図(1)

は土師器杯6点、甕104点、黒色土器椀2点、須恵器椀39点、長頸壺2点、壺13点、羽釜12点、鉄滓などがある。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から10世紀第1四半期に比定できる。

E区3号竪穴建物

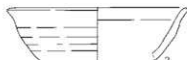
- 1 黒褐色土(10YR2/2) IIIに類似、 ϕ 1cmのHr-FPを5%と ϕ 1cmのロームブロックを1%含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) Iに類似、1よりHr-FPが2~3%と少なく、ロームブロックを2~3%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) ϕ 1cmのHr-FPを1%と ϕ 1cmのロームブロックを10%含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/1) V主体、 ϕ 0.5cmのHr-FPを1%と ϕ 1~2cmのロームブロックを5%含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/1) ϕ 0.5cmのHr-FPを1%と ϕ 1~2cmのロームブロックを3%含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/1) ϕ 1cmのロームブロックを5%含む。
- 7 黒褐色土(10YR3/1) ϕ 0.5cmのHr-FPを1%とローム粒を1%含む。
- 8 黒褐色土(10YR3/1) V主体、 ϕ 3~10cmのロームブロックを30%含む。
- 9 灰黄褐色土(10YR4/2) V・VI・VIIの混合土、粘床土、硬化面。
- 10 褐色土(10YR4/1) ϕ 3~10cmのロームブロック主体、V・VIが30%混入。

貯蔵穴



貯蔵穴

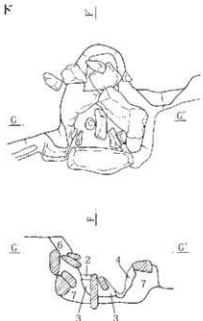
- 1 黒褐色土(10YR3/1) V主体、 ϕ 1~2cmのHr-FPを3%と ϕ 1cmのロームブロックを1%含む。
 - 2 明黄褐色土(2.5Y6/6) VIIブロック主体、V・VIが10~20%混入。
- カマド
- 1 VIブロック
 - 2 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を1%含む。
 - 3 明黄褐色土(10YR6/6) ロームの小ブロック主体、黒色土を20%含む。
 - 4 明黄褐色土(2.5YR6/6) 天井部の崩落土か。
 - 5 黒褐色土(10YR2/2) 焼土粒を5%含む。
 - 6 黒褐色土(10YR2/2) 焼土粒を3%含む。
 - 7 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロックを10%含む。



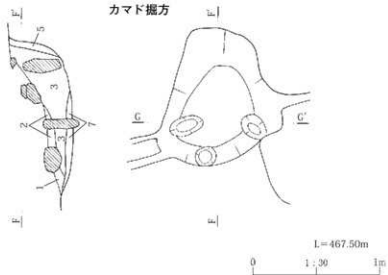
189図 E区3号竪穴建物出土遺物図(1)

IV 検出した遺構と出土した遺物

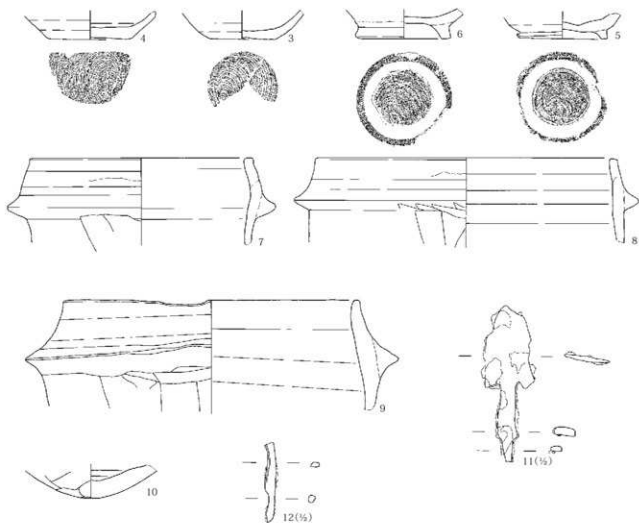
カマド



カマド掘方



190図 E区3号竪穴建物遺構図(2)



191図 E区3号竪穴建物出土遺物図(2)

E区3号竪穴建物

PL.158

NO.	種 類	出 上 位 置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
1	須恵器 杯	埋没上中 1/6	口 12.6 底 6.0 高 3.5	粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	Dc-2
2	須恵器 椀	カマド 口縁部片	口 13.8	粗砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。	B-1
3	須恵器 椀	埋没上中 底部へ口縁下半片	底 5.4	粗砂粒/酸化焰/こ ぶい黄褐色	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	
4	須恵器 椀	+40 底部片	底 6.4	粗砂粒/酸化焰/こ ぶい赤褐色	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	
5	須恵器 椀	床面 底部	底 6.8 台 6.5	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り、高台は貼付。	
6	須恵器 椀	+18 底部	底 7.2 台 6.0	粗砂粒/酸化焰/灰 黄褐色	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り、高台は貼付。	
7	須恵器 羽釜	+7 口縁部~胴部上位片	口 16.2 跨 21.0	粗砂粒/酸化焰/こ ぶい黄褐色	ロクロ整形、口縁部に輪積み痕が残る。跨は貼付。胴部は跨へ向けての縦方向のヘラ削り。	
8	須恵器 羽釜	床面 口縁部~胴部上位片	口 22.6 跨 27.0	粗砂粒/酸化焰/こ ぶい黄褐色	ロクロ整形、口縁部に輪積み痕が残る。跨は貼付。胴部は跨へ向けての縦方向のヘラ削り。	
9	須恵器 羽釜	カマド 口縁部~胴部上位片	口 22.6 跨 29.6	粗砂粒/酸化焰/こ ぶい黄褐色	ロクロ整形、跨貼付時の歪み大。胴部は跨へ向けての縦方向のヘラ削り。	
10	須恵器 羽釜	埋没上中 底部片		粗砂粒/還元焰 きみ/灰黄	底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
NO.	種 類	器 種	出 上 位 置	残 存 率	計 測 値	摘 要
11	鉄器	有頸陶杖三角形鐵	床面	全部欠損	長(8.3) 幅 2.5 刃厚 0.3 刃長(4.3) 重(138)	
12	鉄器	釘	+15	先端部片	長(4.2) 幅 0.5 厚 0.4 重(2.5)	

E区4号竪穴建物

本竪穴建物の位置はE区調査区の中央より南寄り、X=75.294~75.298-Y=-66.908~-66.912である。残存状態は各壁上部がやや崩落し壁の角度が60°前後とやや緩やかになっているが、確認面から床面までの深さも良好であった。他遺構との重複関係は確認されなかった。

平面形態は確認面では壁上部の崩落があるため本来の状態を留めていないとみられる。床面では東西が南北より20cmほど長い長方形を呈する。規模は確認面では南北が3.76m、東西が3.60m、床面では南北2.77m、東西2.98mと南北と東西の長さが逆転する。各辺長は北辺3.50m、東辺3.30m、南辺3.90m、西辺3.70m、壁高は確認面から62~79cm、床面積は6.1㎡を測る。主軸方位はN-114°-Eを指す。

内部施設は貯蔵穴と周溝を検出した。貯蔵穴は南東角に位置し、平面形態は楕円形を呈す、規模は径67×53cm、深度20cmである。周溝は東辺のカマド左側から北辺、西辺、南辺の貯蔵穴まで巡っている。竪穴建物廃棄時に使用部材を抜き取るためか床面を壊した様子が窺え、そのため幅は本来より広がっているとみられる。規模は幅

15~20cm、深度は10~20cmと他の竪穴建物の周溝より幅が広く、深い状態であった。床面は掘方底面より15~20cmほどロームブロックや黒色土で埋め戻して表面を踏み固め硬化面としている。

カマドは東辺の東南角寄りに構築されている。残存状態は焚き口や燃焼部から煙道部の天井、両ソデ上部とも大きく壊された状態であった。規模は全長1.27m、幅1.23m、燃焼部幅0.45m、煙道部は壁外に延びるが、煙道部付近の壁上部が破壊または崩落しているため詳細は不明である。カマド内には補強に使用されたとみられる礫が3点みられるが、大部分はカマドを壊したときに中央南寄りに廃棄されたとみられる。

掘方は床面より15~20cmほど掘り込まれており、底面は掘削時の凹凸が残る。また、中央部と北東角、その西側に3基の床下土坑が検出された。中央部の床下土坑1は平面形態が楕円形を呈し、側面が全体的に横に掘り込まれていた。規模は径100×92cm、深度98cmである。北東角の床下土坑2は平面形態が楕円形を呈し、東側の側面が横に掘り込まれていた。規模は径120×87cm、深度80cmである。床下土坑2の西側に位置する床下土坑3は平面形態がやや歪んだ楕円形を呈し、北側の側面が

IV 検出した遺構と出土した遺物

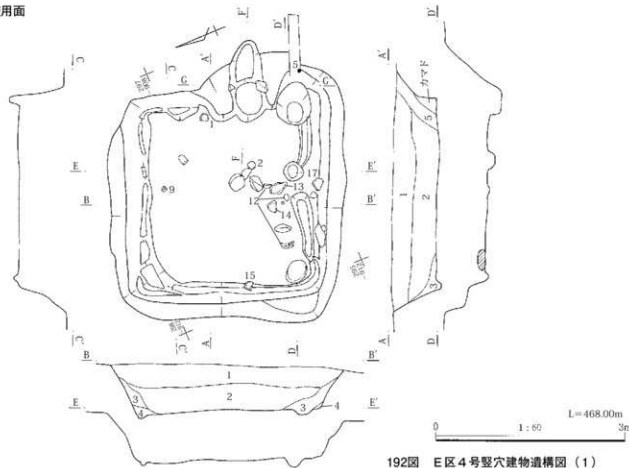
横に掘り込まれていた。規模は径115×83cm、深度80cmである。3基の床下土坑とも遺物の出土などはみられず、側面も掘り込んでいることなどからカマド構築材として使用するⅦ-3層土、Ⅷ層土を採掘するために掘られたものとみられる。

埋没状態は土層断面で壁際に壁が崩落したときの土砂が三角形形状に堆積した後、Ⅲ層に近い土砂で短期間に埋

没したことが観察できることから自然埋没と判断される。

遺物は遺物量も少なく散在的な出土状態であった。なお、掲載した以外の土器数量は土師器甕126点、須恵器杯12点、杯蓋2点、碗3点、甕5点などがある。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から9世紀第1四半期に比定できる。



192図 E区4号竪穴建物遺構図(1)

E区4号竪穴建物

- 1 黒褐色土(10YR3/2) Ⅲ主体、ローム粒を1%、φ1~2cmのHr-FPを5%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 1と同様、φ1cmのロームブロック1%とφ1~2cmのHr-FPを3%含む。
- 3 黒色土(10YR2/1) Vの崩落上。
- 4 黒褐色土(10YR3/1) V主体、φ1cmのロームブロックを5%含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/2) φ0.5~1cmのHr-FPを1%とφ1~2cmのロームブロック10%含む。

掘方

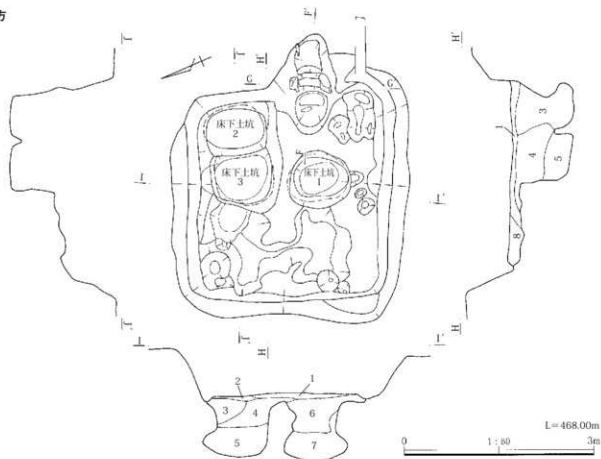
- 1 黒褐色土(10YR2/2) φ1cmのロームブロックを10%含む、陥床上。
- 2 黄褐色土(10YR5/6) φ1~3cmのロームブロック主体、黒色土ブロックを20%と焼土粒を5%含む、陥床上。
- 3 黒色土(10YR2/1) Vに類似、φ5cmのロームブロックを30%含む。
- 4 黄褐色土(10YR5/6) Ⅶ-1主体、黒色土が20%ほど混入。
- 5 黄褐色土(10YR5/6) 4に類似、黒色土が5%ほど混入。
- 6 黒色土(10YR2/1) 3と同様。

- 7 黄褐色土(10YR5/6) 5と同様。
- 8 明黄褐色土(2.5Y6/6) Ⅶ-1ブロック主体、黒色土を30%含む。上面床面、硬化面。

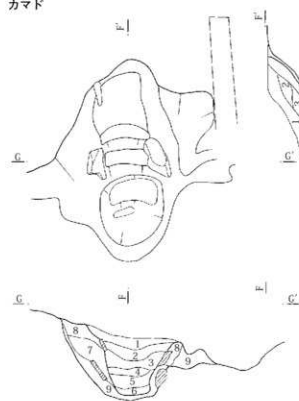
カマド

- 1 明黄褐色土(2.5Y6/6) Ⅶ主体(φ3~5cmのロームブロック)、Vを30%とHr-FPを3%含む。
- 2 明黄褐色土(2.5Y6/6) Ⅶ-3主体、天井部の崩落上。
- 3 明黄褐色土(2.5Y6/6) 2と同様、Vを20%含む。
- 4 明黄褐色土(2.5Y6/6) と黒色土(10YR2/1) の混合上。
- 5 赤褐色土(2.5YR4/6) 焼上、灰黄褐色土を20%含む。
- 6 黒色土(10YR2/1) 灰。
- 7 明黄褐色土(2.5Y6/6) と黒色土(10YR2/1) の混合上。
- 8 明黄褐色土(2.5Y6/6) 2と同様。
- 9 黒色土(10YR2/1) Vのなか・M主体、ロームブロックを5%含む。
- 10 赤褐色土(2.5Y4/6) 焼上。
- 11 黒色土(10YR2/1) Vに類似、ローム粒を5%含む。
- 12 黒褐色土(10YR3/1) VとⅧブロックの混合上。

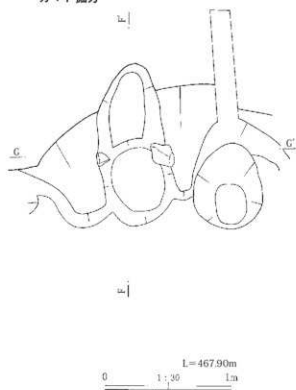
掘方



カマド

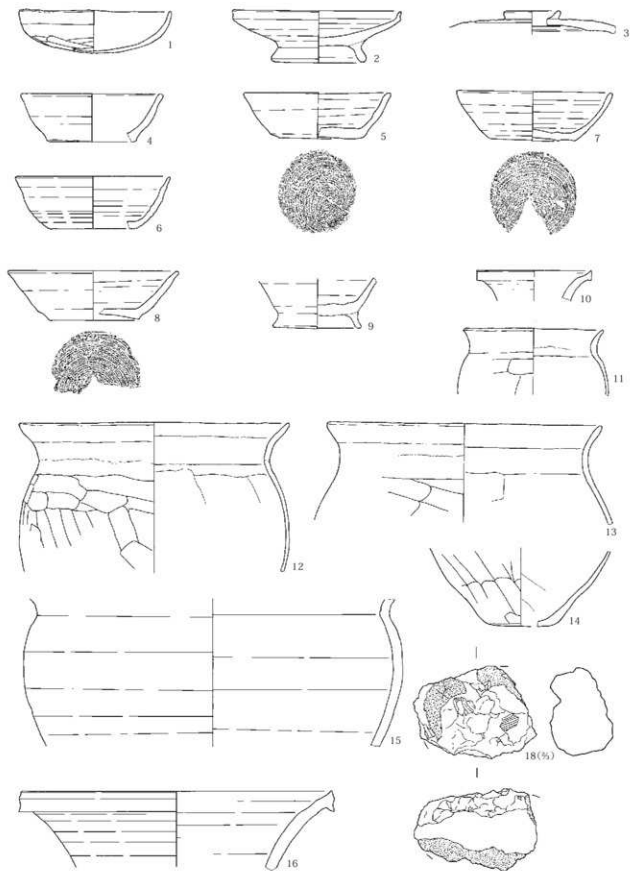


カマド掘方



193図 E区4号竪穴建物遺構図(2)

IV 検出した遺構と出土した遺物



194図 E区4号竪穴建物出土遺物図(1)



195図 E区4号竪穴建物出土遺物図(2)

E区4号竪穴建物

PL.158・159

NO.	種別	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
			口	高			
1	土師器 杯	+10 完形	口 11.9	高 3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	H-3
2	須恵器 皿	+25、上位 口縁部一部欠	口 13.0 台 6.8	底 6.6 高 4.1	粗砂粒/還元焰 /浅黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部ナデ、高台は貼付。	蓋の可能性もあり。
3	須恵器 杯蓋	埋没上位 天井部片	口 4.0		細砂粒/還元焰 /灰	ロクロ整形、回転右回りか。掴みは貼付。天井部掴み周辺は回転ヘラ削り。	
4	須恵器 杯	埋没上中 口縁部1/6	口 10.8 高 3.8	底 6.4 高 4.1	粗砂粒/還元焰 燻/黄灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り。	Da-1
5	須恵器 杯	+30、上位 3/4	口 11.4 高 3.7	底 6.0 高 3.7	細砂粒/還元焰 /灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り。	Da-1
6	須恵器 杯	上位 1/6	口 12.0 高 4.2	底 7.0 高 4.2	細砂粒/酸化焰 ぎみ/黄灰	ロクロ整形、回転右回りか。	Da-1
7	須恵器 杯	上位 1/4	口 12.0 高 4.0	底 7.0 高 4.0	細砂粒/還元焰 /黄灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り。	Db-1
8	須恵器 杯	埋没上中 1/3	口 13.2 高 3.9	底 7.2 高 3.9	細砂粒/酸化焰 ぎみ/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り。	Da-2
9	須恵器 椀	床面 底部~口縁下位片	底 6.4	台 6.0	細砂粒/還元焰 /灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り、高台は貼付。	Ab
10	土師器 長頸壺	埋没上中 口縁部片	口 9.0		細砂粒/還元焰 /灰	ロクロ整形。	
11	土師器 甕	埋没上中 口縁~胴部上位片	口 10.4		細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部横ナデ、胴部は横方向ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
12	土師器 甕	床面 口縁~胴部上半片	口 21.0	胴 21.2	細砂粒/良好/に ぶい橙	頸部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部上位横、中位縦方向ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。	Ab-1
13	土師器 甕	カマド、床面 口縁~胴部上位片	口 21.4		細砂粒/良好/に ぶい橙	頸部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部上位は横方向ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	Ab-2
14	土師器 甕	掘方、床面 底部~胴部下位片	底 6.0		細砂粒/良好/に ぶい橙	胴部は斜め方向ヘラ削り。内面はヘラナデ。	
15	須恵器 広口壺	+10 頸部~胴部片			粗砂粒/還元焰 /灰	ロクロ整形。	
16	須恵器 甕	埋没上位 口縁部片	口 24.4		細砂粒・白色粒 /還元焰/灰	ロクロ整形。	
17	須恵器 甕	+30、上位 胴部片			粗砂粒/還元焰 /灰	外面には格子目状甲き痕、内面には同心円状アテ具痕が残る。	

E区4号竪穴建物 出土鉄関連遺物観察表

PL.159

No.	遺物名	出土位置	計測値 (cm)			重量 (g)	磁着度	メタル度	特徴など
			長	幅	厚さ				
18	炉内洋(含鉄) か椀形鍛冶洋 (極小、含鉄)	埋没上位	4.8	3.3	2.5	70	4	●	炉床土の付着した椀形鍛冶洋。他の椀形鍛冶洋に比べ、炉床の発色が厚く炉内洋の可能性もある。

E区6号竪穴建物

本竪穴建物は3分の2ほどは発掘調査できたが、残りの部分は発掘調査対象外に存在するため全貌や詳細については不明である。

位置はE区調査区の中央部の西端、 $X=75.203\sim 75.208$ 、 $Y=-66.907\sim -66.911$ である。残存状態は確認面から床面まで深度が30cmほどと浅いわりには比較的良好であった。他遺構との重複関係は南東部でE区5号竪穴建物との重複が確認された。新旧関係は本竪穴建物のほうが新しい。

平面形態は北辺がやや屈曲するが方形または長方形を呈するとみられる。規模は南北 $2.83m+\alpha$ 、東西 $4.32m$ 、辺長は計測可能な辺が東辺だけである。東辺は $4.12m$ 、なお、北辺は $2.80m+\alpha$ 、南辺は $2.67m+\alpha$ である。壁高は $31\sim 37cm$ である。主軸方位は $N-116^{\circ}-E$ を指す。

内部施設は柱穴2本と貯蔵穴、周溝を検出した。柱穴は南東角寄り(P1)と中央部東寄り(P2)に位置するが、建物に対して斜めに設置されるため柱穴としては疑問視される点がある。柱穴P1は南辺壁下から7cm、東辺壁下から60cm、P2は北辺壁下から135cm、東辺壁下から85cmほど内側に位置する。柱穴間距離は2.15mである。規模はP1が径 $24\times 23cm$ 、深度41cm、P2が径 $40\times 33cm$ 、深度32cmである。貯蔵穴は東南角、東辺壁下に位置し、平面形態は不整形を呈し、規模は $75\times 46cm$ 、深度10cmでは。貯蔵穴より上位からは土師器甕、須恵器羽釜などの胴部小片が出土していたが、内部から遺物の出土はみられなかった。周溝は東辺のカマド左側から北辺にかけて検出されたが、南辺では確認されなかった。規模は幅10cm前後、深度 $3\sim 4cm$ である。床面は掘方底面から10cmほどロームブロックなどによって埋め戻され踏まれていたが硬化面とまではなっていなかった。

カマドは東辺の南寄りに構築されていた。残存状態は焚き口、燃焼部・煙道部の天井が大きく壊された状態でソデも10cmほどの高さでしか残っていなかった。規模は全長 $1.27m$ 、幅 $1.02m$ 、燃焼部幅 $0.50m$ で煙道部は壁外に70cmほど延びる。ソデ部は両側ともやや細長い垂角礫を補強のため芯材として使用し、その周りをⅦ-3

層やⅧ層などのローム土で固めていた。また、燃焼部底面は3cmほどの厚さで焼土化していた。

掘方は床面より $10\sim 15cm$ ほど掘り下げられており、底面は掘削時の凹凸が残る。床下土坑などの施設は中央部(床下土坑1)とカマド前方(床下土坑2)で床下土坑が検出された。床下土坑1は平面形態が楕円形で規模は径 $115\times 90cm$ 、深度 $55cm$ である。床下土坑1は遺物の出土などはみられず、埋め戻されていた土砂もⅤ層やⅦ-1層のブロックであることからカマド構築材として使用するⅦ-3層土、Ⅷ層土を採掘するために掘られたものとみられる。床下土坑2は平面形態が楕円形で規模は径 $58\times 42cm$ 、深度 $20cm$ と小規模であるが、内部からは土師器甕や須恵器羽釜などの破片が出土した。出土した遺物はすべて破片で7、10、11のように図示できたものもあるが、ほとんどは胴部片などで図示、掲載はできなかった。

埋没状態は土層断面で床面や壁付近にⅤ層の流れ込みによる堆積が若干みられるが、大部分はⅢ層に近い土砂によって短期間に埋没したことが観察できることから自然埋没と判断される。

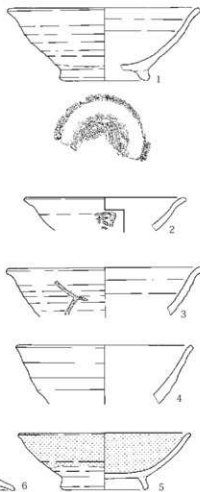
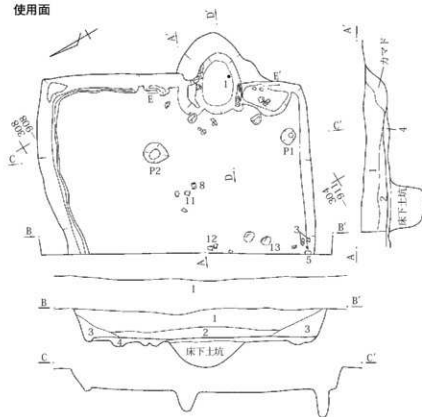
遺物は散在的な出土状態であったが、その中でも南半に多くみられた。なお、掲載した以外の土器数量は土師器杯2点、甕212点、須恵器碗、甕、羽釜などがある。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から10世紀第1四半期に比定できる。

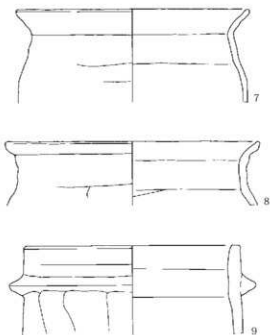
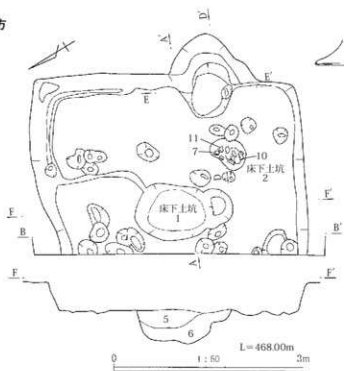
E区6号竪穴建物

- 1 黒褐色土(10YR3/1) IIIに類似、Ⅴが2割ほど混入、 $\phi 1\sim 2cm$ のHr-FPを5%含む。
- 2 黒色土(10YR2/1)Ⅴと同様、 $\phi 1cm$ のHr-FPを1%含む。
- 3 黒色土(10YR2/1)2と同様、 $\phi 1cm$ のHr-FPを2%含む。
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2)Ⅴ・Ⅵ・Ⅷの混合土、床面あまり硬化していない。
- 5 黒褐色土(10YR3/1)Ⅴ主体、 $\phi 3\sim 10cm$ のロームブロックを30%含む。
- 6 褐灰色土(10YR4/1) $\phi 3\sim 10cm$ のロームブロック主体、Ⅴ・Ⅵが混入。

使用面



掘方

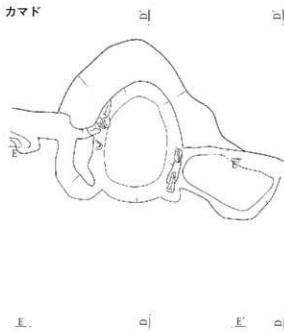


196図 E区6号竪穴建物遺構図(1)

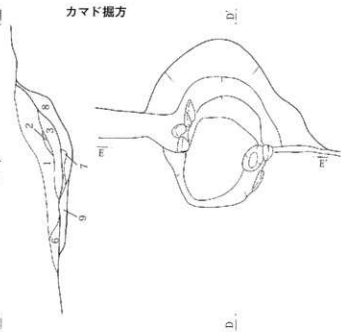
197図 E区6号竪穴建物出土遺物図(1)

IV 検出した遺構と出土した遺物

カマド



カマド掘方

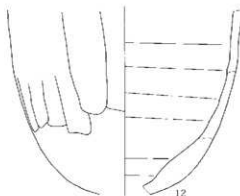
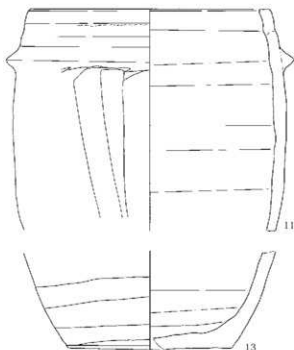
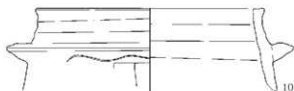


198図 E区6号竪穴建物遺構図(2)

L=468.00m
0 1:50 1m

E区6号竪穴建物カマド

- 1 黄褐色土 (10YR5/6) VIブロックとVIIブロックの混合土、焼土を1%含む。天井部の破壊された一部。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) V・VIの流れ込み。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) Ⅲに類似、 ϕ 1cmのHr-FPを3%と焼土粒を1%含む。
- 4 黒色土 (10YR2/1) 竪穴建物埋没上。
- 5 黒褐色土 (10YR3/2) 竪穴建物埋没上。
- 6 ロームブロックと黒褐色土の混合土。天井部の破壊された一部。
- 7 明赤褐色土 (2.5YR5/8) 焼土、燃焼部底面。
- 8 黒褐色土 (10YR3/1) V主体、ローム粒を3%含む。
- 9 褐灰色土 (10YR4/1) V・VI主体、ロームブロックを5%含む。
- 10 灰黄褐色土 (10YR5/2) V・VI主体、 ϕ 1~3cmのロームブロックを10%含む。
- 11 黒褐色土 (10YR3/2) Vに類似、 ϕ 1~2cmのロームブロックを2%含む。
- 12 灰黄褐色土 (10YR4/2) 10に類似、焼土粒を3%含む。



199図 E区6号竪穴建物出土遺物図(2)

E区6号竪穴建物

PL159

NO.	種別	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	須恵器 椀	カマド 1/5	口 14.8 底 6.9 高 5.8 台 6.2	粗砂粒/酸化塩/白 み/にぶい黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	B-2
2	須恵器 椀	床下土坑 口縁部小片	口 12.2	細砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形。	外面口縁部に墨書、判読不能。
3	須恵器 椀	床面 口縁部片	口 14.8	粗砂粒/酸化塩/白 み/にぶい黄	ロクロ整形、回転右回りか。	外面口縁部に「人」を横線に墨書。
4	須恵器 椀	掘方 口縁部小片	口 13.8	粗砂粒/酸化塩/白 み/にぶい黄	ロクロ整形。	
5	灰軸陶器 椀	+10 1/3	口 13.2 底 6.8 高 4.5 台 6.0	微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部はナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号式期
6	土師器 台付壺	カマド 脚部	脚 8.8	細砂粒/良好/にぶ い黄	脚部は横ナデ。	
7	土師器 壺	掘方 口縁部片	口 18.0	細砂粒/良好/にぶ い黄	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は横方向へ削り。	Cb-4
8	土師器 壺	+20 口縁~胴部上位片	口 19.8	細砂粒/良好/にぶ い黄	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は横方向へ削り。内面胴部にはヘラナデ。	Cb-4
9	須恵器 羽釜	埋没上中 口縁~胴部上位片	口 16.0 跨 19.4	粗砂粒/酸化塩/白 み/にぶい黄	ロクロ整形、跨は貼付。胴部は跨へ向けての縦方向のヘラ削り。	
10	須恵器 羽釜	掘方 口縁~胴部上位片	口 16.2 跨 22.6	粗砂粒/酸化塩/灰 黄	ロクロ整形、跨は貼付。胴部は跨へ向けての縦方向のヘラ削り。	
11	須恵器 羽釜	+8、掘方 口縁~胴部上半片	口 17.2 跨 22.6	粗砂粒/酸化塩/白 み/にぶい黄	ロクロ整形、外面口縁部に輪積み直が残る、跨は貼付。胴部は跨へ向けての縦方向のヘラ削り。	
12	須恵器 羽釜	+8 胴部下半片		粗砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、内面に輪積み直が残る。胴部は縦方向へ削り、底部付近は摩滅のため不鮮明。	
13	須恵器 壺	+10 底部~胴部下位片	底 13.0	粗砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部切り難し技法不明。胴部下位は回転へ削り。	

E区9号竪穴建物

本竪穴建物は東南角から東辺の中程までがE区発掘調査対象外に存在するため全体を発掘調査できなかったため一部不明、不鮮明な点があるが、ほぼ全貌は明らかである。

位置はE区調査区の中央よりやや北よりの東端、X=75.319~75.322-Y=-66.890~-66.892である。残存状態は確認面から床面まで深度が浅いわりには比較的良好であった。他遺構との重複関係は確認されなかった。

平面形態は隅丸長方形を呈する。規模は南北2.57m、東西2.40m、各辺長は東辺、南辺は推定であるが、北辺2.20m、東辺2.30m、南辺2.05m、西辺2.35m、壁高21~33cm、床面積は4.3㎡を測る。主軸方位は南東部の状況から本竪穴建物にはカマドが構築されていないと想定されるのでN-10°-Eを指す。

内部施設は柱穴、貯蔵穴は確認できなく、周溝のみが検出された。周溝は北辺と西辺では北東角、北西角、南西角付近では設けられておらず、東辺では北半、南半では東半だけに設置されていた。規模は幅15~20cm、深

度5~6cmである。床面は床下土坑が掘られている部分以外は地山をそのまま踏み固めていた。

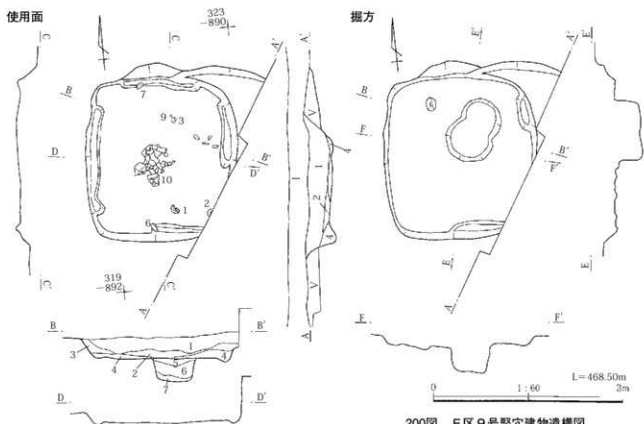
掘方は中央よりやや北東寄りて床下土坑が検出された。床下土坑は中程にくびれがみられる瓢箪形を呈し、規模は103×76cm、深度43cmである。床下土坑内部からは他の竪穴建物床下土坑と同様に遺物の出土などはみられず、埋め戻されていた土砂もV層やVII-1層のブロックであるが、本竪穴建物にはカマドが構築されていないと想定されることから目的用途は不明である。

埋没状態は壁、床面付近に周囲からの流れ込みが若干みられるが、大部分はIII層によって短期間に埋没した様子が観察できることから自然埋没であると判断した。

遺物は床面中央に10の須恵器壺が据え付けられていたほか壁際からの出土が目立ったが全体的には散在的な出土であった。なお、掲載した以外の土器数量は土師器杯5点、甕38点、須恵器杯8点、甕7点、羽釜1点などがある。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から8世紀第2四半期に比定できる。

IV 検出した遺構と出土した遺物

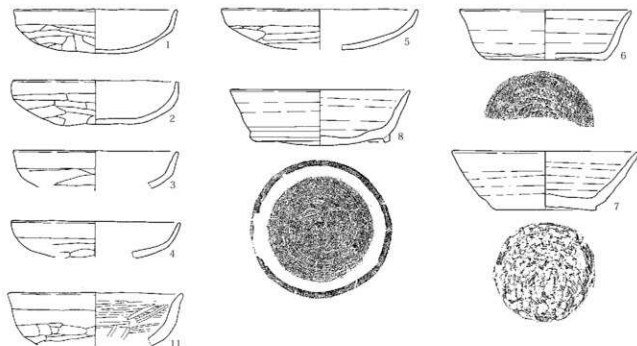


200図 E区9号竪穴建物遺構図

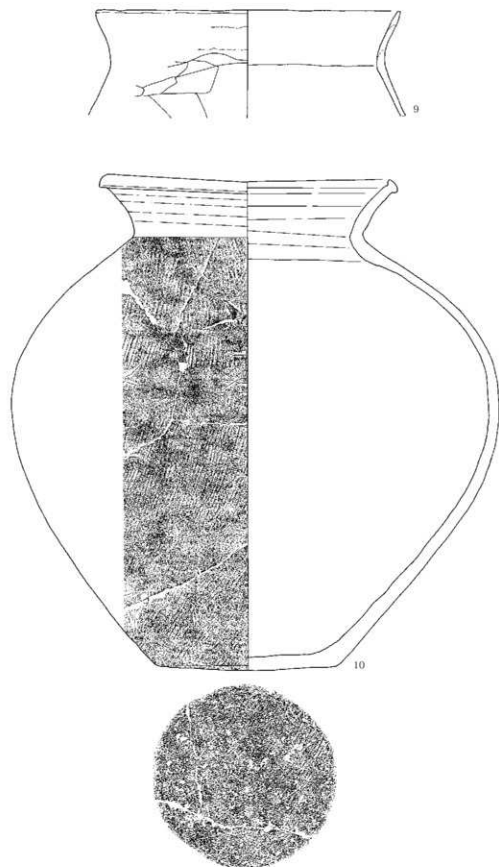
E区9号竪穴建物

- 1 オリーブ褐色土 (2.5Y4/4) 黒色土とローム土の混合土。
- 2 黒色土 (10YR2/1) ロームブロックを10%含む。
- 3 黒褐色土 (2.5Y3/2) ϕ ~ 5cmのロームブロックを20%含む。
- 4 オリーブ黒色土 (5Y3/2) ローム粒を20%含む、粘質土。

- 5 黒色土 (2.5Y2/1) ϕ 1~2cmのローム粒・ブロックとHr-FPを2~3%含む。
- 6 黒色土 (10YR2/1) ローム粒、Hr-FPを2~3%含む。
- 7 黒褐色土 (10YR3/2) ϕ 1~5cmのロームブロックを20%含む。



201図 E区9号竪穴建物出土遺物図 (1)



202図 E区9号竪穴建物出土遺物図(2)

E区9号竪穴建物

NO.	種 器 類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	床面 ほぼ完形	□ 12.6 高 3.4	細砂粒/良好/に ぶいぬ	口縁部上半横ナデ、中に僅かにナデが残り、下半 から底部はへう削り。	H-2
2	土師器 杯	床面 ほぼ完形	□ 13.0 高 3.5	細砂粒/良好/に ぶいぬ	口縁部上半は横ナデ、下半から底部はへう削り。	H-2
3	土師器 杯	+11 口縁部片	□ 12.8	細砂粒/良好/に ぶいぬ	口縁部上半横ナデ、中に僅かにナデが残り、下半 から底部はへう削り。	Ca-3
4	土師器 杯	埋没土中 口縁部片	□ 13.0	細砂粒/良好/に ぶいぬ	口縁部上半横ナデ、中に僅かにナデが残り、下半 から底部はへう削り。	Cb
5	土師器 杯	埋没土中 1/4	□ 15.2	細砂粒/良好/に ぶいぬ	口縁部上半横ナデ、中に僅かにナデが残り、下半 から底部はへう削り。	Cb
6	須恵器 杯	床面 1/2	□ 13.2 底 高 3.9	細砂粒・黒色粒 /還元焼/灰	口縁部はへう削り。底部はへう削り、回転 へう削り。	Ca-1
7	須恵器 杯	+8 ほぼ完形	□ 14.4 底 高 4.7	細砂粒/還元焼 /灰	口縁部はへう削り、回転へう削りか。器面の割れが有り不鮮 明であるが、底部は回転削り。	Db-1
8	須恵器 杯	+10 完形	□ 14.0 底 高 4.4 台 10.2	細砂粒/還元焼 /灰	口縁部はへう削り、回転へう削り。底部は回転へう削り。 高台は附片か。	秋間古堂跡群産 か。Cb
9	土師器 甕	+10 口縁~胴部上位片	□ 23.6	細砂粒/良好/明 赤焼	口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部は 横方向へう削り。内面胴部はへう削り。	Ca-1
10	須恵器 甕	埋没土中 胴部~底部欠	□ 22.2 底 胴 38.3 高 39.0	細砂粒/還元焼 /灰	口縁部は口縁部整形。胴部底部には平行明き痕。内 面胴部にはアデ具痕が残るがナデで不鮮明。	
11	土師器 杯	床下土坑 口縁部片	□ 13.4	細砂粒/良好/に ぶいぬ	口縁部上位は横ナデ、中位はナデ、下位はへう削り。 内面はへう削り。	混入品か。 Ec

E区10号竪穴建物

本竪穴建物は3分の2ほどは発掘調査できたが、残りの部分は発掘調査対象外に存在するため全貌や詳細については不明である。

位置はE区調査区の中央北よりの西端、X=75.324~75.328-Y=-66.895~-66.898である。残存状態は重複する遺構によって南辺付近を欠くが、他の調査範囲内では比較的良好であった。他の遺構との重複は南辺部分でE区10号溝との重複が確認された。新旧関係は本竪穴建物のほうが古い。

平面形態は東西に長い長方形であると想定される。規模は南北2.68m、東西2.50m+α、辺長は東辺が2.63m、北辺が2.50m+α、壁高は21~38cmを測る。主軸方位はカマドが北辺に構築されているならばN-60°-Eを指す。

内部施設は調査範囲内では確認できなかった。床面は掘方底面より8~20cmほどローム土を主とした土砂で埋め戻され踏み固められているが、北東部は硬化面としていないためか掘方にある窪みの範囲で周囲より10cmほど低くなっていた。

掘方は北東角、南東角が径1.0mほどで深さ20cmほど

周囲より掘り込まれていたが、床下土坑などの施設は確認されなかった。

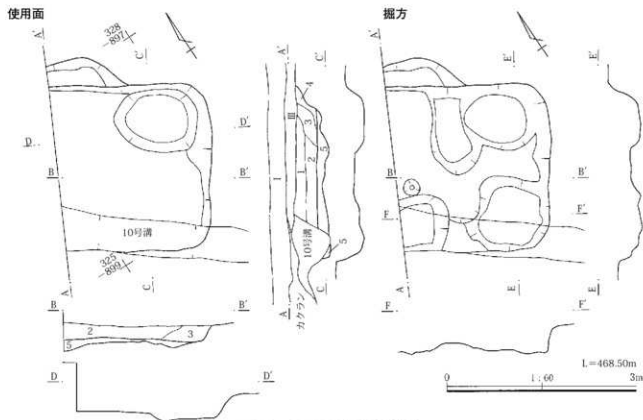
埋没状態は土層断面から壁付近が崩落土などの堆積があった後水平堆積が観察できることから自然埋没であると判断した。

遺物は図示可能なものは出土しておらず、他にも土師器甕1点、須恵器甕2点の出土があっただけである。

本竪穴建物の存続年代は埋没土や建物の形態などから10世紀前半代に比定できる。

E区10号竪穴建物

- 1 黒褐色土 (10YR3/1) IIIとIVの混合土 (6:4)、φ1cmのHr-PPを1%含む。
- 2 黒褐色土 (10YR3/1) 5と同様、φ0.5cmのHr-PPを1%含む。
- 3 黒色土 (2.5Y2/1) φ~5cmのロームブロックを20%含む。
- 4 VとVIの崩落土。
- 5 黒褐色土 (10YR/2) φ1cmのロームブロックを5%含む、掘方。



203図 E区10号竪穴建物遺構図

E区12号竪穴建物

本竪穴建物は重複する他遺構との遺構確認の段階で埋没土の識別が困難であり、カマド同士が隣接しており本来3軒であった竪穴建物を2軒と誤認したため南東部分の壁を失った状態になり全貌や詳細について不明な点がある。

位置は調査区の中央より南寄り、 $X=75,287\sim 75,291$ — $Y=-66,912\sim -66,915$ である。残存状態は本来は良好であったと思われる。他遺構との重複関係はE区3号竪穴建物、E区11号竪穴建物との重複が確認された。新旧関係は本竪穴建物のほうが3号竪穴建物より古く、11号竪穴建物より新しい。

平面形態は南西角が約1.0mほど斜めに取り付く五角形状ではあるが、相対としては方形に近い。規模は推定の部分が多いが、南北3.67m、東西3.53m、各辺長は北辺3.00m、東辺3.40m、南辺3.00m、西辺3.15m、南辺と西辺の斜め部分が0.85m、壁高は52～59cm、床面積は推定8.8㎡である。主軸方位は $N-80^{\circ}-W$ を指す。

内部施設は柱穴、貯蔵穴は確認できなかったが、周溝

は検出した。周溝は壁下に位置し、規模は幅10～15cm、深度6～8cmである。床面はローム土や黒色土を混入した土で掘方を埋め戻し、踏み固めて硬化面としていた。

カマドは西辺の中程に構築されていた。残存状態は焚き口、燃焼部の天井が大きく壊された状態であったが、ソデは左側が20cm、右側が30cmほど残っていた。なお、煙道部は重複するE区3号竪穴建物によって欠く。

規模は全長 $1.10m + a$ 、幅は1.03m、燃焼部幅は0.45mである。カマドの構築にあたっては焚き口部の天井やソデの芯材として垂角礫を使用していた。焚き口部天井に使用されていた礫はカマド前に落とされた状態で検出され、大きさは長さ60cm、幅27cm、厚さ10cmのやや扁平な礫であった。

掘方は底面に掘削時の凹凸が残り、北辺のほぼ中央壁際に床下土坑が検出された。床下土坑は平面形態が長方形を呈し、側面の底部付近は若干横方向に掘り込まれていた。規模は $1.08 \times 0.84m$ 、深度80cmである。床下土坑は遺物の出土などはみられず、埋め戻されていた土砂もV層やVII-1層のブロックであることからカマド構築

IV 検出した遺構と出土した遺物

材として使用するⅦ-3層土、Ⅷ層土を採掘するために掘られたものとみられる。

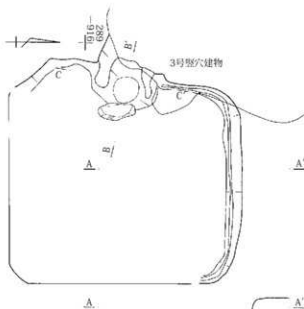
埋没状態は一部でしか観察できないため明確ではないが、ほぼ水平な堆積が観察されたことから自然埋没であると判断される。

遺物はカマドの周辺から土師器杯、甕、須恵器杯が出

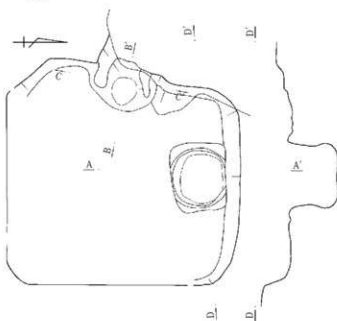
土しているが、甕の比率が高いが、出土した部位は口縁部が多い。なお、掲載した以外の土器数量は土師器杯2点、甕23点、須恵器杯、甕などがある。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物などから8世紀第3四半期に比定できる。

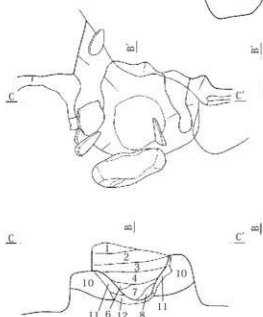
使用面



掘方



カマド

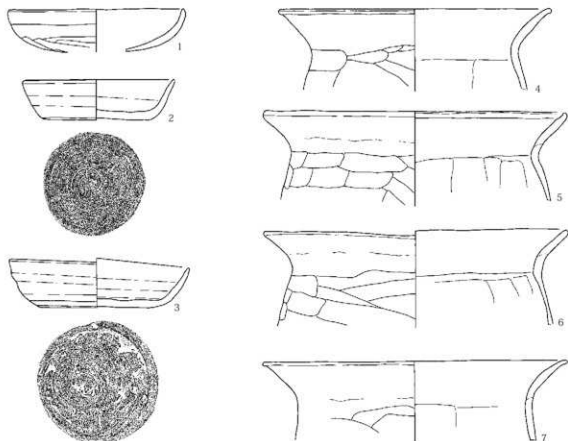


E区12号竪穴建物カマド

- 1 ⅦブロックとⅤブロックの混合法(6:4)。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)Ⅴ主体、φ1~3cmのロームブロックを10%含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)Ⅴ・Ⅵ・Ⅶの混合法、φ2~3cmのロームブロックを5%含む。
- 4 明黄褐色土(2.5Y6/6)Ⅶ-3に類似、天井の崩落土。
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2)3と同様、焼土粒を5%含む。
- 6 赤褐色土(2.5Y4/8)焼土。
- 7 灰黄褐色土(10YR4/2)3と同様、焼土粒を5%含む。
- 8 赤褐色土(2.5Y4/8)焼土。
- 9 黒色土(10YR2/1)Ⅴに類似、ロームブロック・ローム粒を3%含む。
- 10 明黄褐色土(2.5Y6/6)Ⅶに類似、黒色土を含む。
- 11 赤褐色土(2.5Y4/8)焼土、10の焼土化したもの。
- 12 赤褐色土(2.5Y4/8)焼土。



204図 E区12号竪穴建物遺構図



205図 E区12号竪穴建物出土遺物図

PL.159

E区12号竪穴建物

NO.	種器 類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	埋没上中 口縁部片	口 13.6	細砂粒 / 良好 / に ぶい赤褐	口縁部上位は横ナデ、中位はナデ、下位から底部は ヘラ削り。	H-3
2	須恵器 杯	床面 完形	口 11.8 底 8.2 高 3.2	細砂粒 / 還元焼 / 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	Ca-1
3	須恵器 杯	床面 完形	口 14.0 底 8.5 高 3.9	細砂粒 / 還元焼 / 黄灰	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転ヘラ削り、口 縁部最下部は回転ヘラ削り。	Ca-1
4	土師器 甕	埋没上中 口縁~胴部上位片	口 21.0	細砂粒 / 良好 / 褐	口縁部横ナデ、胴部上位は横方向ヘラ削り。内面胴 部はヘラナデ。	Ca-2
5	土師器 甕	床面 口縁~胴部上位	口 23.4	細砂粒 / 良好 / 明 赤褐	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部 上位横方向ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	Ca-2
6	土師器 甕	床面 口縁~胴部上位	口 23.6	細砂粒 / 良好 / 赤 褐	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部 上位横方向ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	Ca-2
7	土師器 甕	床面 口縁~胴部上位	口 23.6	細砂粒 / 良好 / 赤 褐	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部 上位横方向ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	Ca-2

E区13号竪穴建物

本竪穴建物は大部分がE区発掘調査対象外に存在し、調査可能な範囲は北西角の一部だけであった。また、遺構の検出も2面を調査中に確認したため一部は確認面から床面までの深度はほとんどない状態である。位置は調査区の南部の東端、X=75.278~75.281-Y=-66.913~-66.914である。残存状態は調査範囲内では

良好であった。他遺構との重複関係は確認できなかった。

平面形態は角に丸みがみられることから隅丸方形または隅丸長方形を呈するとみられる。規模は南北3.0m以上である以外は計測不能である。壁高は50cmほどである。

内部施設は周溝だけが検出できた。周溝は幅15cm前後、深度7~10cmである。床面は掘方底面より10~15

IV 検出した遺構と出土した遺物

cmほどロームブロックを主とする土砂で埋め戻され踏み固められて硬化面としていた。

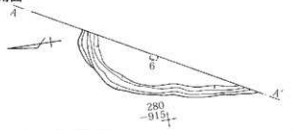
掘方はほぼ平坦であるが、掘削時の凹凸が若干残る。

埋没状態は土層断面から壁際にV層の黒色土が流れ込み、または壁の崩落土が三角堆積した後III層が短期間に埋め戻した状態が観察できることから自然埋没と判断した。

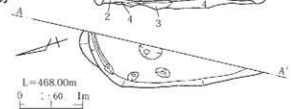
遺物は発掘調査範囲が限られていたが、出土量は多く図示できた遺物も6点あった。なお、掲載した以外の土器数量は土師器杯4点、高盤3点、甕8点、須恵器杯2点、羽釜5点などがあつた。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から10世紀第1四半期に比定できる。

使用面



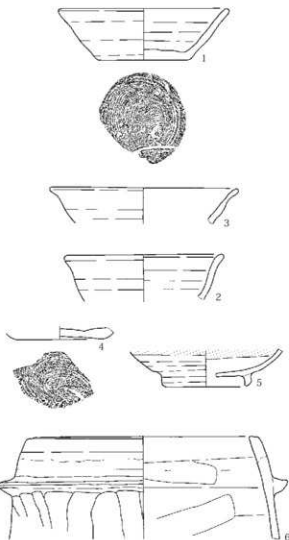
掘方



206図 E区13号竪穴建物遺構図

E区13号竪穴建物

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) IIIに類似、IIIよりHr-PPが少ない。
- 2 明黄褐色土 (2.5Y6/6) VIブロック主体、Vを5%含む。
- 3 黒色土 (2.5Y2/1) Vに類似、Hr-PPを1%含む。
- 4 明黄褐色土 (2.5Y6/6) VIブロック主体、Vを10%含む。



207図 E区13号竪穴建物出土遺物図

E区13号竪穴建物

PL.159

NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	須恵器 杯	埋没上中 1/3	口 13.0 底 7.2 高 4.0	細砂粒/還元焰 /黄灰	ロクロ整形、回転左回り。底部回転糸切り。	Dc-1
2	須恵器 椀	埋没上中 口縁部小片	口 12.0	細砂粒/酸化焰 /灰黄	ロクロ整形。	B-2
3	須恵器 椀	埋没上中 口縁部小片	口 14.2	細砂粒/酸化焰 /黄灰	ロクロ整形。	B-1
4	須恵器 椀	埋没上中 底部片	底 7.0	細砂粒/酸化焰 /黒褐	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	
5	灰釉陶器 椀	埋没上中 底部~口縁下平片	底 7.0 台 7.2	微砂粒/還元焰 /灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式期
6	須恵器 羽釜	床面 口縁~胴部上位片	口 16.4 跨 22.6	細砂粒/酸化焰 /灰黄褐	ロクロ整形、外面口縁部に輪轆み痕が残る。跨は貼付。胴部は跨へ向けての縦方向のヘラ削り。	

F区1号竪穴建物

本竪穴建物の位置はF区南寄りの東端、 $X=75.379$ ～ 75.383 ・ $Y=-66.847$ ～ -66.851 である。残存状態は確認面から床面まで深度も深く良好であった。他遺構との重複関係は確認されなかった。

平面形態はほぼ長方形を呈する。規模は南北3.96m、東西3.02m、各辺長は北辺2.30m、東辺3.50m、南辺2.80m、西辺3.70m、壁高は67～78cm、床面積は7.2㎡を測る。主軸方位は $N-120^{\circ}-E$ を指す。

内部施設は主柱穴4本と補助柱穴1本、周溝を検出した。主柱穴は4隅に配置されているが、東辺際の柱穴間(P4-P1)距離と西辺よりの柱穴間(P2-P3)距離とでは40cmほど西辺側が長い台形状の配置である。柱穴間距離はP1-P2が1.20m、P2-P3が2.40m、P3-P4が1.50m、P4-P1が2.00mである。各柱穴の規模はP1が径65×58cm、深度52cm、P2が径56×52cm、深度67cm、P3が径67×60cm、深度35cm、P4が径50×48cm、深度47cm、P5が径30×23cm、深度11cmである。なお、P1とP4は側面の一部が大きく抉られていることから柱材を抜き取ったとみられる。周溝は東辺のカマド左側から北辺、西辺の南西角の手前0.7m地点までと南辺から東辺のカマド右側にかけて検出した。規模は幅15cm前後、深度1～5cmである。床面は床下土坑部分の地山をそのまま踏み固めて使用していた。

カマドは東辺の南東角寄りに構築されている。残存状態は焚き口、燃焼部から煙道部にかけての天井、ソデ上半部が大きく壊された状態であった。また、左ソデの一部は床面に張り出すような状態であるが、ソデが壊

されたことによって粘土が移動したことによると考えられる。規模は全長1.52m、幅1.25m、燃焼部幅0.58m、燃焼部の一部と煙道部は壁内に75cmほど延びる。なお、本竪穴建物内ではカマドの補強に使用されたと思われる大型の礫の出土が見られなかった。

掘方は柱穴P2、P3、P4の周りが大きく掘り込まれ床下土坑であったが、他の箇所は掘り込みなどは確認されなかった。各床下土坑は平面形態、規模は次の通りである。床下土坑1は平面形態が楕円形を呈し、規模が径1.41×1.02m、深度0.70m、床下土坑2は平面形態が不整形を呈し、規模が径1.32×1.30m、深度0.34m、床下土坑3は平面形態が楕円形を呈し、規模が径1.16×0.95m、深度0.47mである。床下土坑3は遺物の出土などはみられず、埋め戻されていた土砂もV層やVII-1層のブロックであることからカマド構築材として使用するVII-3層土、VIII層土を採掘するために掘られたものとみられる

埋没状態は土層断面で周辺部がレンズ状、中央部がほぼ水平な堆積が観察されたことから自然埋没であると判断した。

遺物は中央部からの出土は少なく周辺部にやや多い傾向がみられたが、それでも散在的な出土であった。なお、甕の破片の大部分はカマド及びカマド周囲からの出土である。掲載した以外の土器数量は土師器杯18点、甕392点、黒色土器碗4点、須恵器杯23点、杯蓋1点、碗2点、甕20点などがある。

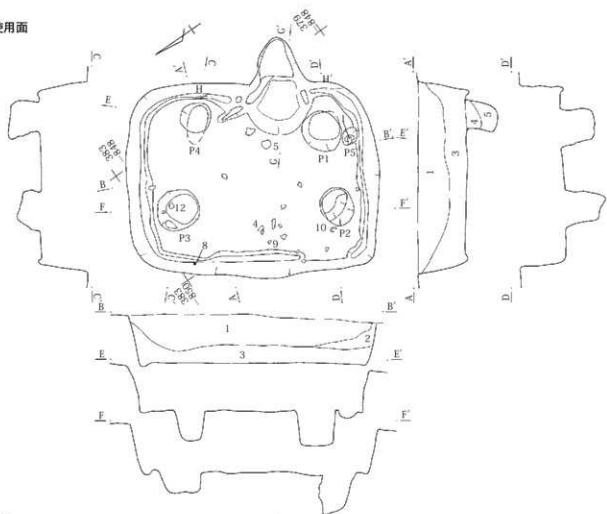
本竪穴建物の存続年代は出土遺物などから8世紀第4四半期に比定できる。

カマド

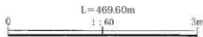
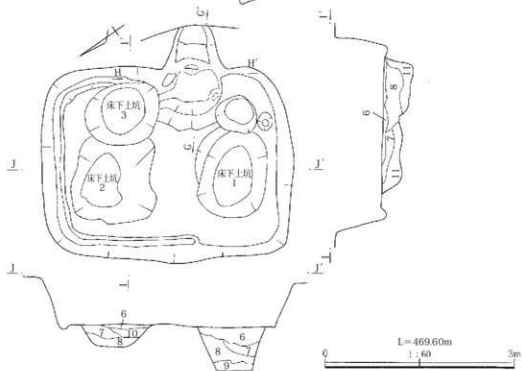
- 1 暗褐色土 Hr-FPとローム粒、ロームブロックを含み、下部に焼土粒を10%含む。
- 2 暗褐色土 Hr-FPとローム粒、ロームブロックを含み、下部に焼土粒を10%含む。
- 3 暗褐色土 Hr-FPを3%とローム粒を3%含む。
- 4 暗褐色土 Hr-FPを1%とローム粒を10%含む。
- 5 にぶい黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを10%含む。
- 6 にぶい黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。
- 7 にぶい黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。
- 8 にぶい黄褐色土 ロームブロックを10%含む。
- 9 にぶい黄褐色土 ローム粒を10%含む。
- 10 明黄褐色土 ローム粒、ロームブロック主体。
- 11 明黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。

IV 検出した遺構と出土した遺物

使用面

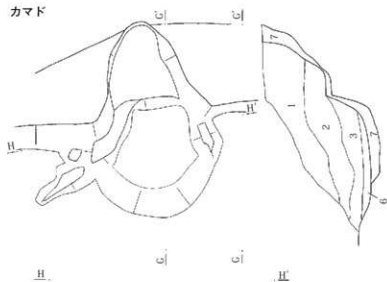


掘方

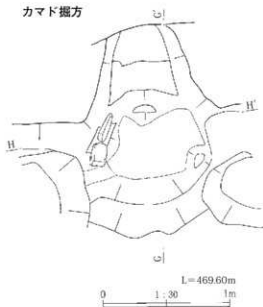


208図 F区1号竪穴建物遺構図(1)

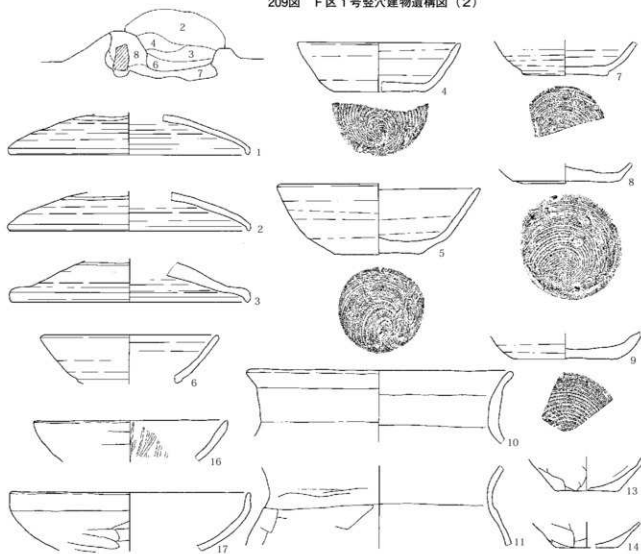
カマド



カマド掘方

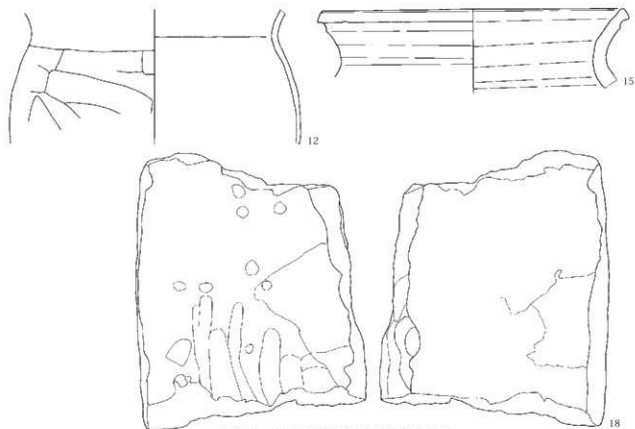


209図 F区1号竪穴建物遺構図(2)



210図 F区1号竪穴建物出土遺物図(1)

IV 検出した遺構と出土した遺物



211図 F区1号竪穴建物出土物図(2)

F区1号竪穴建物

PL.160・161

NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	須恵器 杯蓋	床面 1/6	口 18.6	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部中央は回転ヘラ削り。	
2	須恵器 杯蓋	埋没上中 口縁部片	口 18.8	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部中央は回転ヘラ削り。	
3	須恵器 杯蓋	埋没上中 口縁部片	口 18.4	粗砂粒/酸化焰 ざみ/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。天井部中央は回転ヘラ削り。	
4	須恵器 杯	+61 1/4	口 12.6 底 7.4 高 3.9	細砂粒/酸化焰 ざみ/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	Ca-3
5	須恵器 椀	+23 3/4	口 15.6 底 7.0 高 5.6	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り。	Ac
6	須恵器 椀	埋没上中 口縁部片	口 13.6	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
7	須恵器 椀	埋没上中 底部~口縁下位片	底 6.6	細砂粒/還元焰焼 /濁灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
8	須恵器 椀	+42 底部	底 7.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
9	須恵器 椀	+59 底部片	底 8.0	細砂粒/酸化焰 ざみ/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
10	土師器 甕	+34, 39 口縁部片	口 20.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、胴部はヘラ削り。	Cb-4
11	土師器 甕	カマド 頸部~胴部上位片		細砂粒/良好/橙	頸部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	Cb-2
12	土師器 甕	+24 頸部~胴部上位片		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	頸部は横ナデ、胴部は横方向ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	Cb-2
13	土師器 甕	埋没上中 底部	底 5.0	細砂粒/良好/にぶ い褐	胴部・底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
14	土師器 甕	柱穴P1 底部片	底 5.1	細砂粒/良好/にぶ い褐	胴部・底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	

NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
15	須恵器 甕	埋没上中 口縁部片	□ 23.4	粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。	
16	土師器 杯	埋没上中 口縁部片	□ 15.0	細砂粒/良好/ぶ い赤橙	口縁部上半は横ナデ、下半はヘラ削り。内面に斜放射状暗文。	1
17	土師器 杯	埋没上中 口縁部片	□ 18.4	細砂粒/良好/ぶ い赤橙	口縁部上半は横ナデ、中位から底部はヘラ削り。	H-3
NO.	種類	器種	出土位置	残存率	計測値	摘要
18	石製品	カマドソデ石	カマドソデ	ほぼ完形	長 21.5 幅 17.0 厚 10.2 重 4500	未履結凝灰岩

F区2号竪穴建物

本竪穴建物は全体を発掘調査できた竪穴建物の一つである。その立地は台地から段丘崖へ移行し始める台地端部であり、集落の中でもっとも西に位置していたとみられる。なお、本竪穴建物は当初古墳時代に位置づけたが、出土遺物から飛鳥時代に位置づけられる。図版では変更ができなかったため古墳時代の項目のまま掲載してある。

発掘調査区での位置はF区の中程の東より、X = 75.393 ~ 75.398 - Y = -66.835 ~ -66.840である。残存状態は確認面から床面まで深度も比較的深いこともあり良好であった。他遺構との重複関係は確認されなかった。

平面形態は方形に近いが、南辺・西辺が北辺・東辺に比べて30~40cmほど長いため歪んだ形状である。規模は南北3.99m、東西4.03m、各辺長は北辺3.50m、東辺3.60m、南辺3.92m、西辺3.88m、壁高は51~71cm、床面積は10.6㎡を測る。主軸方位はN-133°-Eを指す。

内部施設は柱穴4本、貯蔵穴、周溝を検出した。柱穴はP1が貯蔵穴の西側、東辺壁下から20cm内側、P2が5~10cmと壁下に近い位置、P3が西辺から50cm、北辺から15cm、P4が北辺から40cm、東辺から60cmと不規則な配置である。柱穴間距離もP1~P2が2.00m、P2~P3が2.73m、P3~P4が1.73m、P4~P1が2.37mである。各柱穴の規模はP1が径65×55cm、深度74cm、P2が径45×37cm、深度33cm、P3が径45×37cm、深度50cm、P4が径37×37cm、深度87cmである。貯蔵穴は南東角に位置し、平面形態は楕円形を呈す。また、P1との間はP1の柱材を抜き取るときに壊れたためか底面付近しか壁が残っておらず、埋没

状態もP1側から土砂が流れ込んだ状態が観察できることから人為的に埋め戻された可能性も窺えた。規模は径65×61cm、深度81cmである。周溝はカマド部分と使用されなくなったカマドが構築されていた北辺の中程の0.9mほどで確認できなかった他は全周していた。規模は幅10~15cm、深度4~10cmである。床面は掘方をほとんど埋め戻し上にローム土を主体とする土砂を2~5cmほどさらに入れて踏み固めて硬化面としていた。

カマドは東辺中程と北辺中程に構築されているが、北辺のカマドは途中で使用されなくなったのか北辺の壁と一体化した状態であったが、周囲に比べて焼土、焼土粒が多く観察されたことからカマドが存在することが確認された。東辺のカマドは焚き口及び燃焼部から煙道部にかけての天井が大きく壊され、両ソデも20cmほどの高さが残るだけであった。規模は東辺カマドが全長2.37m、幅2.03m、燃焼部幅0.9mである。北辺のカマドは煙道部の痕跡だけが残り、焚き口、燃焼部、ソデなどはすべて撤去された状態であった。規模は床面の燃焼部の痕跡とみられる箇所までの全長0.92m、幅0.60mである。

掘方は周辺部が柱穴間の内側より10~15cmほど深く掘り込まれている他、中央部より西側に大型の床下土坑を検出した。床下土坑はほぼ円柱状に近い形態で掘り込まれており、規模は径1.20×1.25m、深度53cmである。内部からは遺物などの出土がみられないことからカマド構築材に使用したⅧ層、IX層のローム土を採取するためのものと想定される。

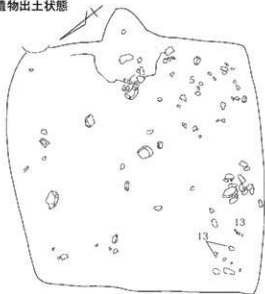
埋没状態は土層断面でレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没と判断されるが、貯蔵穴、P1の埋没状態と整合性がみられない。こうした状態から廃棄段階では柱穴や貯蔵穴を中心に埋め戻され、その後は自然埋没によって判断される。

IV 検出した遺構と出土した遺物

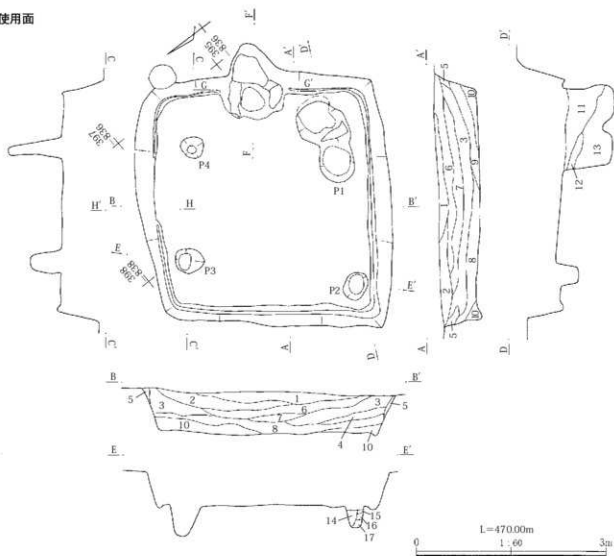
遺物はカマド右側、貯蔵穴周辺、南辺寄りから多く出土しているが、中央から北側はわずかな出土であった。また、出土した土器類は細片が多く図示可能なものも少なかった。なお、掲載した以外の出土土器数量は土師器杯7点、甕145点、須恵器長頸壺3点、甕20点があった。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から7世紀第3四半期に比定できる。

遺物出土状態

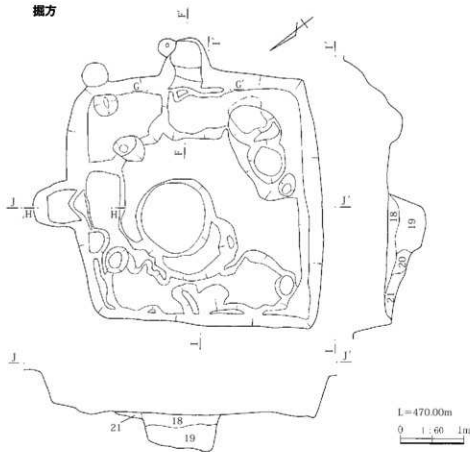


使用面



212図 F区2号竪穴建物遺構図(1)

掘方

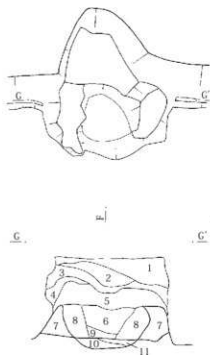


F区2号竪穴建物

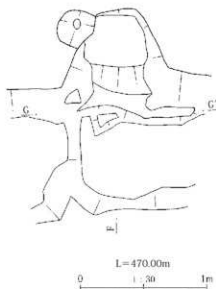
- 1 黒褐色土 直径1cm大のHr-FPを多くとローム粒を含む。
- 2 黒褐色土 1よりもローム粒を多く含む。
- 3 黒褐色土 直径1~3cmのHr-FPを多量に含む。
- 4 黒褐色土 2よりもHr-FPは少なく、ローム粒を含む。
- 5 黄褐色土 VIの崩落土。
- 6 暗褐色土 Hr-FPを少量とローム粒をやや多く含む。
- 7 黒色土 Hr-FPとローム粒を少量含む。
- 8 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック、Hr-FP、炭化物を含む。
- 9 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多くとHr-FPはわずかにと黒色土を少量、焼土粒、炭化物を含む。
- 10 黒褐色土 Hr-FPを少量含む。
- 11 暗褐色土 ローム粒を含む、貯蔵穴。
- 12 黒褐色土 ローム粒を少量含む、貯蔵穴。
- 13 黒褐色土 ローム粒とロームブロックを含む、貯蔵穴。
- 14 黒褐色土 Hr-FPを多く含む、柱穴P2。
- 15 黄褐色土 ロームブロックとローム粒を多くと焼土粒も含む、柱穴P2。
- 16 黄褐色土 Hr-FPを少量とローム粒を多くとロームブロック含む、柱穴P2。
- 17 に近い黄褐色土 ロームブロックを多く含む、柱穴P2。

- 18 に近い黄褐色土 ローム粒とロームブロックを多く含む、掘方。
- 19 に近い黄褐色土 ローム粒とロームブロックを含む、掘方。
- 20 に近い黄褐色土 ローム粒とロームブロックを1よりは多く含む、掘方。
- 21 に近い黄褐色土 ローム粒とロームブロックを1よりやや多く含む、掘方。

東辺カマド



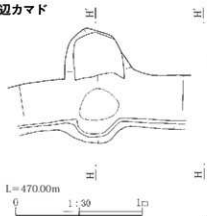
東辺カマド掘方



213図 F区2号竪穴建物遺構図(2)

IV 検出した遺構と出土した遺物

北辺カマド



北辺カマド掘方



214図 F区2号竪穴建物遺構図(3)

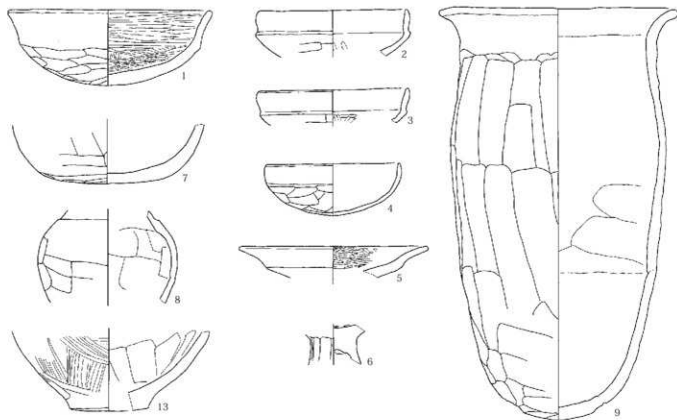
東辺カマド

- 1 黒褐色土 Hr-FPとローム粒を含む。
- 2 暗褐色土 Hr-FPを少量とローム粒を多く含む。
- 3 暗褐色土 Hr-FPを1%とローム粒とロームブロックを多量にと焼土粒と黒色土を含む。
- 4 暗褐色土 Hr-FPとローム粒、ロームブロック、焼土ブロックを含む。
- 5 灰黄褐色土 焼土粒と灰を多く含む。
- 6 明黄褐色土 ローム主体上、天井部崩壊上。
- 7 明黄褐色土 ローム主体上、締まりと粘性あり、カマドのソデ部。
- 8 にぶい黄褐色土 ローム粒とロームブロックを多く含む。
- 9 暗赤灰色土(2.5YR3/1) 焼土粒、焼土ブロック、炭化物、灰を含む。
- 10 にぶい黄褐色土 ロームブロックを多く含む、掘方埋土。

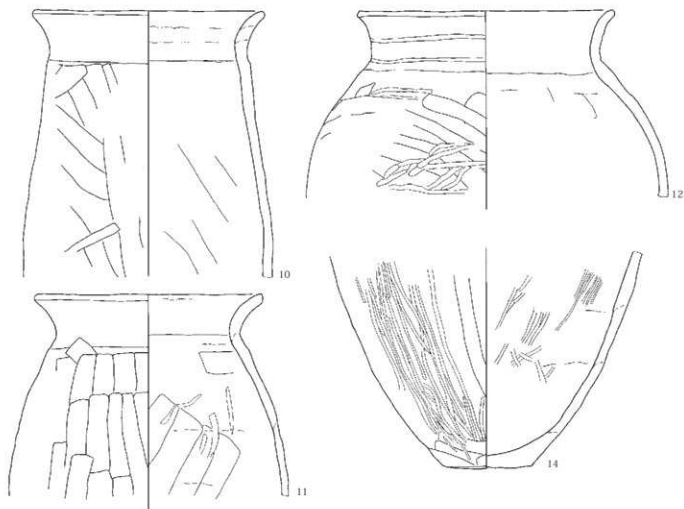
- 11 にぶい褐色土(2.5YR6/4) 焼土がほとんどである。
- 12 明赤褐色土(2.5YR5/6) 焼土を多く含む。
- 13 にぶい黄褐色土 焼土粒を少量含む。

北辺カマド

- 1 黒褐色土 Hr-FPを少量含む。
- 2 暗褐色土 Hr-FP、ローム粒、焼土粒を含む。
- 3 暗褐色土 Hr-FPをわずかにとローム粒、ロームブロック、焼土粒、炭化物を含む。
- 4 にぶい黄褐色土 締まりは弱い、ローム粒、焼土粒、焼土ブロック、炭化物を含む。
- 5 にぶい黄褐色土 焼土粒と焼土ブロックを多く含む。
- 6 暗赤褐色土 焼土粒、焼土ブロック、炭化物、灰を含む。



215図 F区2号竪穴建物出土遺物図(1)



216図 F区2号竪穴建物出土遺物図(2)

F区2号竪穴建物

PL.148

NO.	種器類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	貯蔵穴他 ほぼ完形	口 15.8 稜 14.2 高 6.0	粗砂粒/良好/暗灰 黄	内面黒色処理。口縁部横ナデ、稜下から底部はヘラ 削り。内面はヘラ磨き。	Eb-3
2	土師器 杯	埋没上中 口縁部片	口 11.6 稜 12.2	細砂粒/良好/黒褐	内外面黒色処理。口縁部は横ナデ、稜下はヘラ削り。 内面底部は放射状ヘラ磨き。	Ec
3	土師器 杯	埋没上中 口縁部片	口 11.8 稜 11.6	細砂粒/良好/黒褐	内外面黒色処理。口縁部は横ナデ、稜下はヘラ削り。 口縁部はヘラ磨き。	Ec
4	土師器 杯	カマド、貯蔵穴 1/2	口 10.2 高 4.0	細砂粒/やや軟質/ 橙	口縁部上半は横ナデ、下半から底部はヘラ削り。 内面はヘラ磨き。	H-1
5	土師器 高杯	+30 杯身口縁部片	口 14.4	細砂粒/良好/橙	内面黒色処理。口縁部横ナデ、稜下から底部はナデ。 内面はヘラ磨き。	
6	土師器 高杯	埋没上中 脚部片	脚 3.6	細砂粒/良好/ふい ろ	杯身内面黒色処理。脚部はヘラ削り。杯身内面はヘ ラ磨き。	
7	土師器 鉢	柱穴P2、掘方 底部片	底 10.6	粗砂粒/良好/ふい ろ	体部、底部ともヘラ削り。	
8	土師器 壺	掘方 胴部片		細砂粒/良好/ふい ろ	胴部上位はナデ、中位はヘラ削り。内面胴部はヘラ ナデ。	
9	土師器 甕	カマド、他 7/8	口 18.4 高 32.7	粗砂粒/良好/ふい ろ黄橙	内面胴部輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部縦方 向、底部縦方向ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	B
10	土師器 甕	カマド、他 口縁~胴部上半片	口 17.8	細砂粒/良好/灰黄 褐	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部縦 方向ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	B
11	土師器 甕	貯蔵穴 口縁~胴部上半片	口 17.4	粗砂粒/良好/ふい ろ	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部縦 方向ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	A

IV 検出した遺構と出土した遺物

NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
12	土師器 甕	カマド、貯蔵穴他 口縁～胴部上半片	口 19.4	粗砂粒/良好/ぶ い橙	口縁部横ナデで2条の凹線が巡る。胴部横方向へラ 削りと部分的にへラ磨き。内面胴部はへラナデ。	
13	土師器 甕	床面、+16、20、25 底部～胴部下位片	底 6.2	細砂粒/良好/灰褐	胴部はへラ削り後へラ磨き、底部はへラ削り。内面 はへラナデ。	
14	土師器 甕	カマド、貯蔵穴、掘方 底部～胴部下半片	底 7.0	細砂粒/良好/褐灰	胴部はへラ削り後へラ磨き、底部はへラ削り。内面 はへラナデと部分的なへラ磨き。	

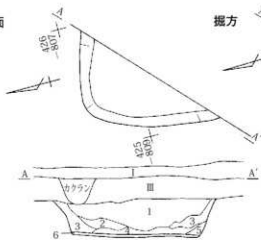
G区1号竪穴建物

本竪穴建物は大部分がG区発掘調査対象外に存在し、調査可能な範囲は北西角の一部だけであったため全貌や詳細については不明である。

位置はG区調査区の中央部の東端、X=75.423～75.425-Y=-66.807～-66.808である。残存状態は確認面から床面まで深度が40cm近く残っており比較的良好であった。他遺構との重複関係は北西角の上部で近代の溝と重複する。新旧関係は本竪穴建物のほうが古い。

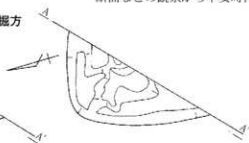
平面形態は方形、または長方形を呈すると想定される。規模は大部分が計測できないが、壁高は33～39cmである。

使用面



217図 G区1号竪穴建物遺構図

掘方



G区1号竪穴建物

- 1黒褐色土 (10YR2/2) ϕ 0.5～2cmのHr-FPを5～10%含む。
- 2黒褐色土 (10YR3/2) V・VIの崩落上、Hr-FPを1%を含む。
- 3暗褐色土 (10YR3/3) V・VIの崩落上、ロームブロックを5%含む。
- 4黒褐色土 (10YR3/1) Vの崩落上。
- 5黒褐色土 (10YR3/1) IIIに類し、V・VIが20%混入。
- 6明黄褐色土 (2.5Y6/6) ローム上土体、黒色土を10～20%含む。

G区2号竪穴建物

本竪穴建物は遺構確認の段階では大型土坑ではないかと判断したが、土坑にしては規模が大きく底面が平坦な状態であることから平面形態も完成しない掘削途中に廃棄された竪穴建物と判断した。しかし、決定的な確証を得るにはいたらなかった。

位置はG区調査区の南東部、X=75.418～75.423-Y=-66.814～-66.818である。残存状態は南東部辺

の上部を重複する遺構で欠くが良好な状態であるとみられる。他遺構との重複関係は南東片で土坑との重複が確認された。新旧関係は本竪穴建物のほうが古い。

平面形態は全体が矩形を呈する。規模は南西～北西間が5.83m、南東～北東間が2.72mである。確認面から底面までの深度は18～58cmである。

底面は北西辺の内側50cmの箇所に溝状の落ち込みが検出された。規模は全長2.55m、幅30cm前後、深度3

～12cmである。

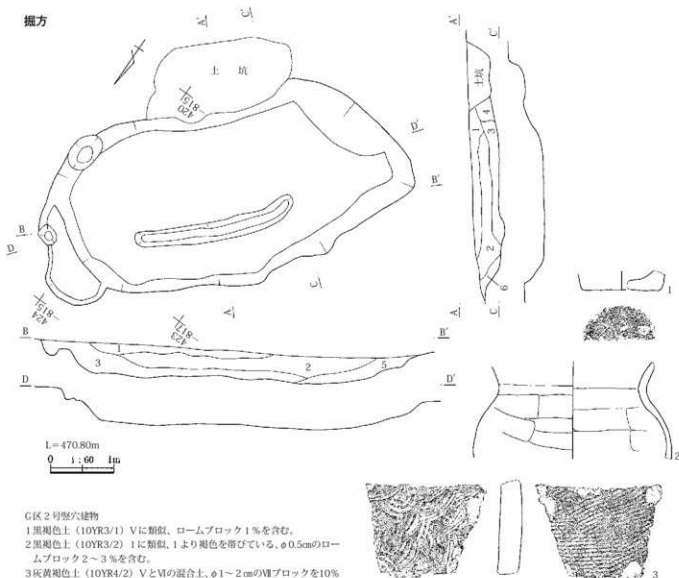
埋没状態は土層断面からレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没と判断した。

遺物は図示できた須恵器壺、甕、土師器甕の3点以

外に土師器甕の小片が出土しているだけである。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から9世紀代に比定できる。

掘方



G区2号竪穴建物

- 1 黒褐色上 (10YR3/1) Vに類似、ロームブロック1%を含む。
- 2 黒褐色上 (10YR3/2) Iに類似、1より褐色を帯びている。φ0.5cmのロームブロック2～3%を含む。
- 3 灰黄褐色上 (10YR4/2) VとVIの混合上、φ1～2cmのVIIブロックを10%含む。
- 4 黒褐色上 (10YR3/2) V主体、φ1cmのロームブロックを5～10%含む。
- 5 暗褐色上 (10YR3/2) V主体、φ1～3cmのロームブロックを10%含む。
- 6 暗褐色上 (10YR3/2) 5に類似、5よりロームブロックがφ1～5cmと大きく30%含む。

218図 G区2号竪穴建物構図・出土遺物図

G区2号竪穴建物

PL.161

NO.	種器類	出土位置 残存率	計測値	胎上/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	須恵器壺	埋没上中 底部	底 6.0	細砂粒/酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形、底部ナデ。	
2	土師器甕	埋没上中 口縁～胴部上半片		細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部は横方向へラ削り。内面胴部はへラナデ。	
3	須恵器甕	埋没上中 胴部片		粗砂粒/還元焰/灰	外面は平行叩き、内面は同心円状アテ具痕が残る。	

H区2号竪穴建物

本竪穴建物の位置はH区調査区の中程よりやや東寄り、 $X = 75.482 \sim 75.485 - Y = -66.748 \sim -66.751$ である。残存状態は確認面から床面まで深度が比較的深いこともあり良好である。他遺構との重複関係は第1面では確認されなかった。

平面形態は隅丸長方形を呈する。規模は南北4.96m、東西5.84m、各辺長は各角が丸みをもつため角々間が曖昧ではあるが北辺5.20m、東辺4.60m、南辺5.00m、西辺4.30m、壁高は53～64cm、床面積は4.3㎡を測る。主軸方位は $N-72^{\circ}-E$ を指す。

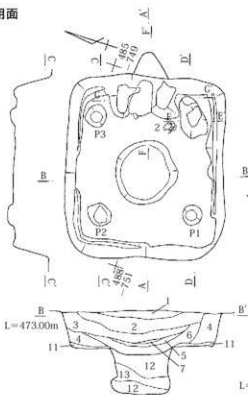
内部施設は柱穴3本、貯蔵穴、周溝を検出した。貯蔵穴は南東角に位置している。平面形態はやや細長い不整形を呈し、東側に段をもつ。規模は径 1.30×0.84 m、深度33cmである。なお、東側の段の深度は柱穴と同様な値であることから柱穴が崩壊して貯蔵穴と一体化した可能性が想定される。柱穴は南西角、北西角、北東角の各角寄り、各辺壁下からは10～70cmほど内側に位置する。柱穴間距離はP1-P2が2.90m、P2-P3が3.20m、P3-貯蔵穴東の段が3.00m、貯蔵穴東の段-

P1が3.50mである。規模はP1が径 65×62 cm、深度10cm、P2が径 78×67 cm、深度17cm、P3が径 72×62 cm、深度10cmである。周溝は南辺、西辺の中程から北辺の西寄り、北辺の中程から東辺のカマドまでの間で検出された。規模は幅5～10cm、深度2～5cmである。床面は床中央の掘方に存在する床下土坑部分以外は掘方底面より10cmほどロームブロックを主とする土を再度入れ踏み固めて硬化面としているが、床下土坑上部は床下土坑を埋め戻した土をそのまま踏み固めているため周囲より5cmほど低い状態であった。

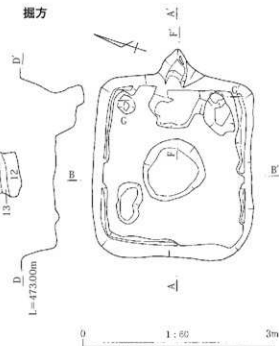
カマドは東辺のほぼ中央に構築されている。残存状態は焚き口、天井が大きく壊されているが、ソデ部は高さ20～30cmほどの残存が確認された。規模は全長1.03m、幅1.01m、燃焼部幅0.35mを測る。

掘方は床下土坑部分以外は床面より10cmほど掘り下げられ、底面はあまり凹凸がみられない状態であった。床下土坑は竪穴のほぼ中央に位置し、ほぼ円柱状に掘り込まれており、規模は径 2.06×1.85 m、深度0.72mである。内部からは遺物などの出土がみられないことからカマド構築材に使用したⅣ層、Ⅴ層のローム土を採取する

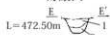
使用面



掘方



貯蔵穴



219図 H区2号竪穴建物遺構図(1)

ためのものと想定される

埋没状態は土層断面で南側壁際の堆積に不自然な状態がみられるが、その他はほぼレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没と判断される。

出土遺物は少なく散在的な状態で図示できた遺物も土

H区2号竪穴建物

- 1 黒褐色土 Hr-PPと炭化物をわずかに含む。
- 2 暗褐色土 Hr-PPを多量とローム粒を含む。
- 3 暗褐色土 Hr-PPを極めて多量にとローム粒を含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。
- 5 暗褐色土 Hr-PPとロームブロックを多く含む。
- 6 暗褐色土 Hr-PPをわずかにとローム粒と焼土粒を含む。
- 7 黒色土 Hr-PPを少量含む。
- 8 暗褐色土 Hr-PP、ローム粒、焼土粒、ロームブロックを含む。
- 11 灰黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを多くとHr-PPをわずかに含む。
- 12 灰黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを多くとAs-BPを含む。
- 13 灰黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを多くとAs-BPを多く含む。

貯蔵穴

- 1 暗褐色土 Hr-PP、ローム粒を含む。
- 2 灰黄褐色土 Hr-PPをわずかにとローム粒を多く含む。

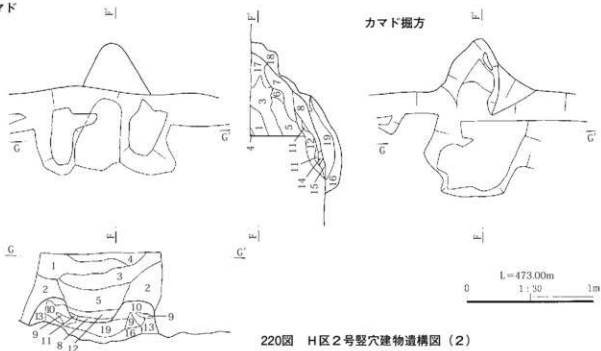
カマド

師器杯、甕の3点と少ない。なお、掲載した以外の出土土器数量は土師器甕38点があっただけである。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から8世紀第1半期に比定できる。

- 1 暗褐色土 Hr-PPを多くとローム粒を含む。
- 2 暗褐色土 Hr-PPを多くとローム粒を含む。
- 3 灰黄褐色土 Hr-PPとローム粒、ロームブロックを多くと焼土粒をわずかに含む。
- 4 暗褐色土 Hr-PPとローム粒、焼土粒を含む。
- 5 灰黄褐色土 Hr-PPとロームブロックを含む。
- 6 明黄褐色土 ロームブロック主体。
- 7 灰黄褐色土 ローム粒が多い。
- 9 橙色土 焼土粒とロームブロックが多い。
- 10 明黄褐色土 粘性のあるローム主体、ソデ部。
- 11 焼土ブロック主体。
- 12 灰黄褐色土 ローム粒多い、焼土粒と灰を含む。
- 13 灰黄褐色土 ローム粒とロームブロックを含む。
- 14 灰黄褐色土 ローム粒、焼土粒、灰を含む。
- 15 灰黄褐色土 ローム粒と焼土粒を含む。
- 16 暗褐色土 Hr-PP、ローム粒、ロームブロックを含む。
- 17 暗褐色土 Hr-PP、ローム粒を含む。
- 18 暗褐色土 Hr-PP、ローム粒、ロームブロックを含む。
- 19 明赤褐色土 焼土ブロックが多い。

カマド

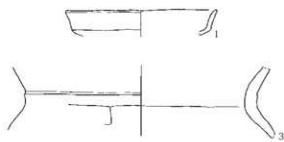


220図 H区2号竪穴建物遺構図(2)

H区2号竪穴建物

NO.	種器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器杯	埋没土中 口縁部小片	口 11.8 径 10.8	細砂粒/良好/明褐色	口縁部横ナデ、底部へラ削り。	Ca-4
2	土師器甕	床面 頸部~胴部中段片	径 16.8	粗砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナデ、胴部は縦方向へラ削り。内面胴部はへラナデ。	Ca-1
3	土師器甕	埋没土中 頸部片	径 18.2	粗砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナデ、胴部は横方向へラ削り。内面胴部はへラナデ。	

IV 検出した遺構と出土した遺物



221図 H区2号竪穴建物出土遺物図

H区3号竪穴建物

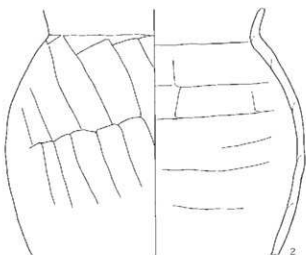
本竪穴建物の位置はH区北西部、X=75.477～75.481-Y=-66.749～-66.753である。残存状態は確認面から床面まで深度が1.0mほど深く良好であった。他遺構との重複関係は確認されなかった。

平面形態は隅丸方形を呈する。規模は南北3.52m、東西3.83m、各辺長は各角が丸いため曖昧であるが、北辺3.10m、東辺2.50m、南辺3.30m、西辺2.90m、壁高は86～100cm、床面積は7.5㎡を測る。主軸方位はN-30°-Eを指す。

内部施設は主柱穴、貯蔵穴、周溝とも確認されなかったが、壁柱穴と階段ではないかとみられる段を検出した。壁柱穴は各角と北辺の中程、階段状の段左側の計5箇所で見出された。壁への掘り込みは確認面と床面の中間から掘り込まれている。平面形態は楕円形状で規模は長軸27～37cm、短軸15～25cm、深度は確認面から38～64cmである。段は北辺の東寄り、平面形態は三日月状で規模は長さ65cm、最大幅15cmで床面から45cmの高さに設けられていた。床面は掘方底面から40cm前後埋め戻した後2～3cmの厚さに黒灰色シルトを敷きつめて踏み固

H区3号竪穴建物

- 1黒褐色土 Hr-FPを5%含む。
- 2黒褐色土 褐色土を20%含む。
- 3黒褐色土 φ5cm前後のロームブロックを10%とHr-FPを5%含む。
- 4黒褐色土 φ5cm前後のロームブロックを20%とHr-FPを5%含む。
- 5黒褐色土 φ5cm前後のロームブロックを含む。
- 6暗褐色土 Hr-FPを5%含む。
- 7黒褐色土 Hr-FPを10%含む。
- 8暗褐色土 Hr-FPを10%含む。
- 9黒褐色土 φ5cm前後のロームブロックを20%含む。



めている。なお、この黒灰色シルトは基本的な堆積土では確認できない土である。

カマドは構築されておらず、炉も確認できなかった。

掘方は床面から45cmほど掘り込まれているが、底面は掘削時の凹凸もみられずほぼ平坦であった。掘方を埋め戻している土砂はHr-FPを含んでいないV層を主に10～40%ほどロームブロックが混ぜられたものであった。

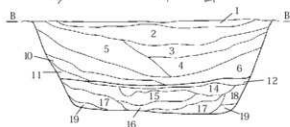
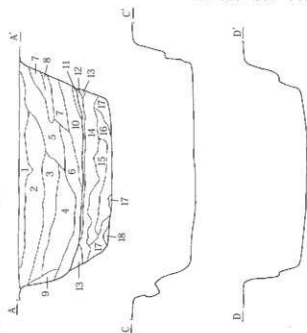
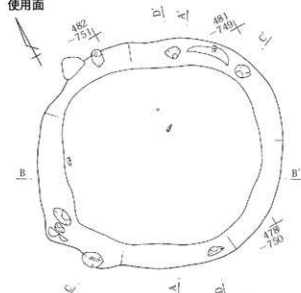
埋没状態は土層断面から上位に堆積した1・2は自然埋没であると判断されるが、中位・下位は周囲からの土砂で埋没した様子は観察できるが、5の土のような不自然な堆積がみられることから人為的に埋め戻された可能性も窺える。

遺物は図示したものは7点あるが、出土位置は埋没土中位から上位にかけてである。その中でも他の土器と時間的な差が大きい6・7は後に廃棄されたものとみられる。なお、掲載した以外の土器数量は土師器壘68点、須恵器杯17点、壘15点がある。

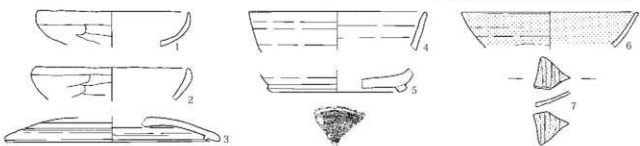
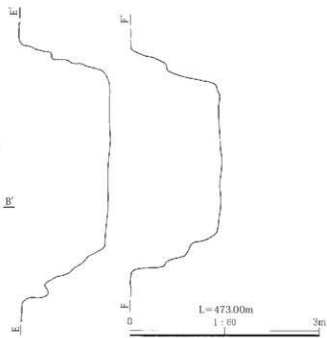
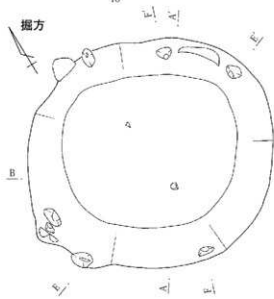
本竪穴建物の存続年代は出土遺物から8世紀第1四半期に比定できる。

- 10黒褐色土 φ5cm前後のロームブロックを20%含む。
- 11黒褐色土 φ5cm前後のロームブロックを20%と黄色粒を20%含む。
- 12黒灰色シルト やや粘質、夾雑物なし。床面。
- 13黒灰色シルト やや粘質、黄色粒を5%含む。
- 14黒褐色土 φ5cm前後のロームブロックを40%含む。
- 15黒褐色土 φ5cm前後のロームブロックを20%含む。
- 16黒褐色土 φ5cm前後の褐色土ブロックを10%含む。
- 17黒褐色土 φ1～3cmのロームブロックを40%含む。
- 18黒褐色土 As-BPを5%含む。
- 19黒褐色土 As-BPを10%含む。

使用面



掘方



222図 H区3号型穴建物遺構図・出土遺物図

H区3号竪穴建物

NO.	種 器 類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	埋没土中 口縁部小片	□ 12.0	細砂粒/良好/ ふいね	口縁部上半は横ナデ、下半はへう削り。	H-2
2	土師器 杯	埋没土中 口縁部小片	□ 12.1	細砂粒/良好/粗	口唇部横ナデ、口縁部へう削り。	H-2
3	須恵器 杯蓋	埋没土中 口縁部小片	□ 16.6	細砂粒/還元焼 灰	クロロ整形、回転右回りか。天井部は中程まで回転 へう削り。	
4	須恵器 杯	埋没土中 口縁部小片	□ 13.8	細砂粒/還元焼 灰	クロロ整形。	Cb
5	須恵器 杯	埋没土中 底部片	底 10.8 台 9.6	細砂粒/還元焼 灰	クロロ整形、回転右回りか。底部は回転へう削り、 高台は貼付。	Cb
6	灰釉陶器 椀	埋没土中 口縁部小片	□ 13.6	微砂粒/還元焼 灰白	クロロ整形、施釉方法はハケ塗りか。	光ヶ丘1号窯式 期 混入品
7	灰釉陶器 皿	埋没土中 口縁部小片		微砂粒/還元焼 灰白	クロロ整形、施釉方法不明。	混入品

H区5号竪穴建物

本竪穴建物は一部を視乱によって欠くため詳細については不明な点があった。

位置はH区調査区の中央部の西端、X=75.467～75.471-Y=-66.771～-66.774である。残存状態は前記のように一部を視乱によって欠くが、その他の箇所は比較的良好であった。他遺構との重複関係は確認されなかった。

平面形態はカマドが構築されている北辺が山状の細長い五角形を呈する。規模は南北3.07m、東西2.58m、各辺長は一部推定の部分があるが、北辺2.50m、東辺2.70m、南辺2.50m、西辺2.50m、壁高は25～39cm、床面積は推定5.2㎡を測る。主軸方位はN-52°-Eを指す。

内部施設は主柱穴、貯蔵穴、周溝とも確認されなかった。床面は中央部が黒色土とローム土を混合した土で踏み固められていたが、周辺部では明確な床面が確認されなかった。

カマドは北辺の中ほどに構築されている。残存状態は焚き口、燃焼部から煙道部にかけての天井、ソデも補強に使用されていた礫はそのまゝの状態が残っているがソデ部自体は5～10cmほどの高さしか残らないほど大きく壊されていた。規模は全長0.98m、幅1.23m、燃焼部幅0.40mである。前記のようにカマドの構築のさいには礫を補強に使用していたとみられ、カマド左前方には長さ35cmほどの垂角礫や扁平な礫が散乱した状態で出土し

ていた。

掘方は床面より5cmほど掘り込まれており、底面には掘削時の凹凸が残る。また、北西部で床下土坑が検出された。床下土坑は壁下から10～15cmほど内側で、平面形態が楕円形に近く、規模は径132×87cm、深度30cmである。床下土坑からは遺物などは出土していないが、他の竪穴建物の床下土坑のように深度がⅦ-3層やⅧ層まで達していないため、カマド材の採取のためではない用途が考慮される。

埋没状態は土層断面でレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没であると判断した。

遺物は図示できたものが1の須恵器椀だけのように全体的に少量であった。なお、掲載した以外の土器数量は土師器杯2点、甕8点、須恵器杯1点だけであった。

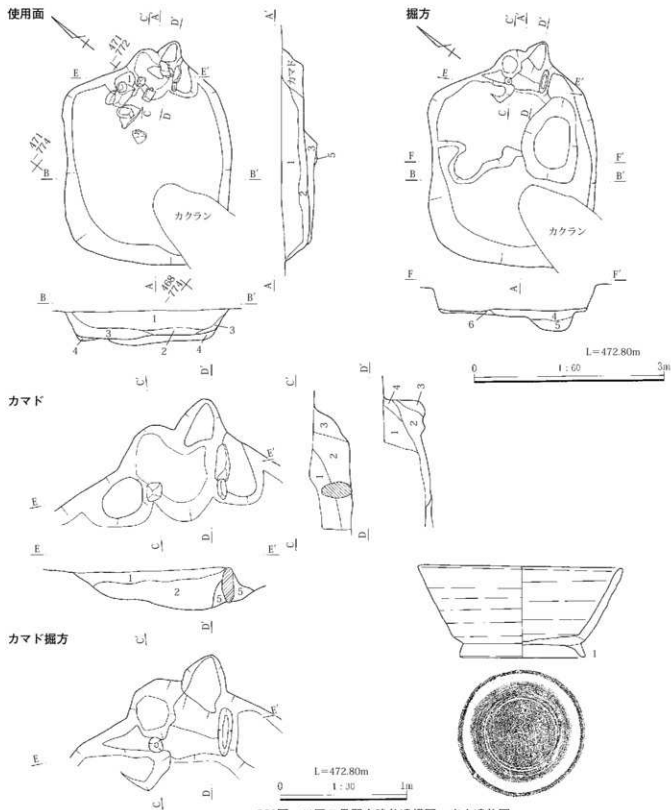
本竪穴建物の存続年代は出土遺物から8世紀第4四半期に比定できる。

H区5号竪穴建物

- 1 黒褐色土 Hr-PPと炭化物を1～2%含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒を含む。
- 4 暗褐色土 Hr-PPとローム粒、ロームブロックを含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。
- 6 暗褐色土 Hr-PPとローム粒、ロームブロックを10%含む。

カマド

- 1 暗褐色土 Hr-PP 3%、ローム粒を含む。
- 2 暗褐色土 Hr-PP わずか、ローム粒と焼土粒を含む。
- 3 暗褐色土 Hr-PP わずか、ローム粒を含む。
- 4 灰黄褐色土 ローム粒を含む。
- 5 白い黄褐色土 ローム粒を含む、粘性ややあり。



223図 H区5号竪穴建物遺構図・出土遺物図

PL.161

H区5号竪穴建物

NO.	種 器 種	出土位置 残存率	計測値	胎上/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	須 器 種	カマド ほぼ完形	口 15.6 高 7.2 底 9.3 台 9.6	粗砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転左回り。底部回転糸切り、高台は貼付。	Ab

H区7号竪穴建物

本竪穴建物は大部分を発掘調査できたが、北辺側の一部がH区発掘調査対象外に存在する。また、西辺で重複するH区6号竪穴建物との新旧関係を明確にとらえられなかったため結果的に欠いてしまうとともに東辺では重複する遺構や攪乱によって欠く部分があるため全貌や詳細については不明点がある。

位置はH区調査区の北東端、 $X=75.492\sim 75.496$ 、 $Y=-66.747\sim -66.750$ である。残存状態は確認面から床面まで深度が浅いわりには比較的良好であった。他の遺構との新旧関係は東辺の南側でH区10号土坑、西辺でH区6号竪穴建物との重複が確認された。新旧関係は本竪穴建物のほうがH区10号土坑より古く、H区6号竪穴建物より新しい。

平面形態は長方形を呈する。規模は推定の部分があるが、南北3.57m、東西2.58m、各辺長は北辺が推定2.50m、東辺が推定3.40m、南辺が2.50m、西辺が推定3.40m、壁高は31~35cm、床面積は指定6.3㎡を測る。主軸方位は $N-70^{\circ}-E$ を指す。

内部施設は貯蔵穴と周溝を検出した。貯蔵穴は南東角壁下に位置し、平面形態は矩形に近く、規模は径63×62cm、深度27cmである。周溝は南辺と北辺の北東角付近を除く壁下で検出された。南辺の状況からすると西辺

壁下でも設置されていた可能性が高い。規模は幅15~20cm、深度は5~9cmである。床面は地山であるVII-1層をそのまま踏み固めて使用しているが、周辺部は中央部に比べて硬化面になっていない。

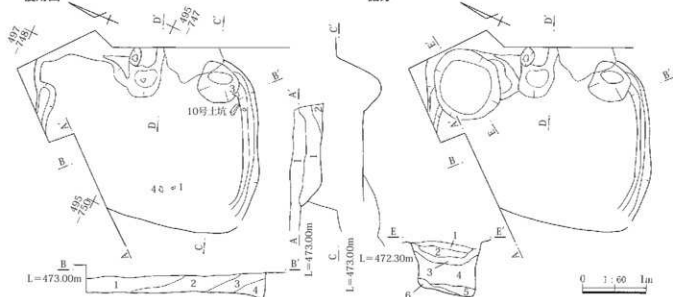
カマドは東辺のほぼ中央に構築されている。残存状態は上半部を攪乱によって欠くだけでなく、焚き口、燃焼部の天井だけでなくソデも大きく壊された状態で左ソデの一部と燃焼部の痕跡が残るだけであった。規模は煙道部の一部が壁外に延びるが全長 $0.80m + \alpha$ 、幅0.80mである。なお、燃焼部から煙道部へ移行する箇所では小規模な落ち込みがみられることから、ソデや煙道部では補強のために礎が使用されていたとみられる。

掘方は床面で記したように地山をそのまま使用しているが、北東角で床下土坑が検出された。床下土坑は平面形態が円形に近く、規模が径108×103cm、深度80cmである。この床下土坑からは遺物の出土などはみられず、埋め戻されていた土砂もIII層やV層、VII-1層のブロックであることからカマド構築材として使用するVII-3層土、VIII層土を採掘するために掘られたものとみられる。

埋没状態は確認面から床面までがやや浅いため不明確な点もあるが、土層断面では壁付近から順次埋没した様子が観察できることから自然埋没であると判断した。

遺物はごくわずかな量しか出土しておらず、図示した

掘方



224図 H区7号竪穴建物遺構図(1)

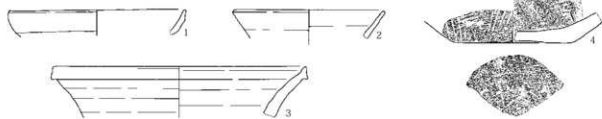
ものも小片である。なお、掲載した以外の土器数量は土師器杯1点、甕22点、須恵器杯2点、甕4点だけであった。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から8世紀後半代に比定できる。

カマド



225図 H区7号竪穴建物遺構図(2)



226図 H区7号竪穴建物出土遺物

H区7号竪穴建物

NO.	種器 類種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	床面 口縁部片	口 13.8	細砂粒/良好/橙	口縁部上半は横ナデ、下半はヘラ削り。	
2	須恵器 椀	埋没上中 口縁部片	口 11.8	細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形。	
3	須恵器 甕	床面 口縁部片	口 19.8	細砂粒/還元焼/灰 黄	ロクロ整形。	
4	須恵器 甕	床面 底部片	底 9.4	粗砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形。胴部は引き後へら削り、底部は回転へら削り。内面には同心円状アテ具痕が残る。	

I区2号竪穴建物

本竪穴建物は全体を発掘調査することができたが、北辺の一部を攪乱、南西部を重複する溝や土坑群によって各部分が多くあるため詳細については不明点がある。

位置はI区調査区の北東部、X=75.499~75.505-Y=-66.732~-66.738である。残存状態は攪乱や重複する遺構によって一部を欠くが、その他では比較的良好であった。他の遺構との重複関係はI区4号溝、I区

H区7号竪穴建物

- 黒褐色土 Hr FPとローム粒、ロームブロックを含む。
- 褐色土 Hr FPを1%とローム粒、ロームブロック、焼土粒を含む。
- 黒色土 ローム粒を1%含む。
- 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。

床土坑

- 1に多い黄褐色土 Hr FP 3%含む。ローム粒、ロームブロックを含む。
- 暗褐色土 Hr FPを3%とローム粒、ロームブロックを含む。
- 暗褐色土 ローム粒を含む。
- 黒色土 ローム粒を1%含む。
- 明黄褐色土 ローム粒、ロームブロックが10%含む。
- 明黄褐色土 ローム粒、ロームブロックが30%含む。

カマド

- 黒褐色土 Hr FP、ローム粒を含む。
- 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。
- 暗褐色土 ローム粒を含む。
- 暗褐色土 Hr FPを3%と粘性のあるローム土 (Ⅱ or Ⅲ) を含む。
- 灰黄褐色土 粘性のあるロームブロック (Ⅱ or Ⅲ) を含む。
- 灰黄褐色土 Hr FPを1%とローム粒と焼土粒を含む。
- 暗褐色土 ローム粒を含む。

13号土坑、14号土坑、15号土坑、16号土坑との重複が確認された。新旧関係は本竪穴建物のほうが重複する遺構の中でもっとも古い。

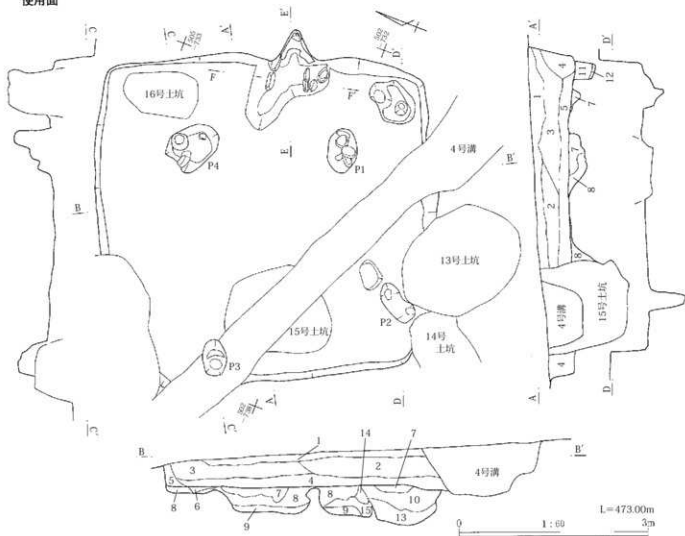
平面形態は長方形を呈し、規模は一部推定ではあるが、南北5.86m、東西5.16m、各辺長は北辺5.20m、東辺5.00m、南辺4.50m、西辺4.80m、壁高は36~69cm、床面積は推定22.5㎡を測る。主軸方位はN-67°-Eを指す。

IV 検出した遺構と出土した遺物

内部施設は柱穴4本と貯蔵穴を検出した。柱穴は東辺側は東辺から0.85m、南辺側から1.10mと比較的規則的に配置されている。これに対して西辺側は東辺側に対応するような配置ではあるがP2が南辺壁下、西辺から0.50m、P3が西辺から0.10m、北辺から1.10mとやや不規則な配置である。柱穴間の距離はP1-P2が2.50m、P2-P3が3.10m、P3-P4が3.60m、P4-P1が2.50mである。各柱穴の規模はP1が径70×45cm、深度52cm、P2が径68×35cm、深度61cm、P3が径55×38cm、深度58cm、P4が径80×61cm、深度64cmである。また、P1では利根沼田地域でよく見ることのできる礎石状の径20cmほどのやや扁平な円礫が底面に据えられていた。P2、P3、P4の底面

には柱痕跡が確認され、柱自体の径は12~15cmであったと推定される。貯蔵穴は南東角に位置し、平面形態は不整形を呈し、規模は径76×58cm、深度20cmである。床面は中央部では比較的踏み固められ硬化面になっていたが、周辺部は掘方にロームブロックが混ざった黒色土を埋め戻しているだけであまり踏み固められていない状態であった。

カマドは東辺の中央に構築されている。残存状態は焚き口、燃焼部から煙道部にかけての天井、ソデも補強に使用されていた礫はそのままの状態に残っているがソデ部自体全く残らないほど大きく壊されていた。規模は全長1.80m、幅1.15m、燃焼部幅0.40mである。煙道部は壁外に50cmほど延びる。カマドの周辺には多くの礫が



227図 Ⅰ区2号竪穴建物遺構図(1)

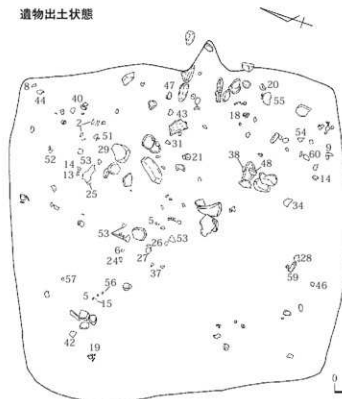
出土していることからカマドの構築にあたってはソデの補強に多くの礫が使用されているように焚き口部や燃焼部の天井にも多くの礫が使用されていたとみられる。

掘方は床面より10~20cmほど掘り込まれており底面は掘削時の凹凸が激しい。また、中央部には南北に床下土坑が3基検出された。床下土坑1は平面形態が楕円形を呈し、規模が径92×86cm、深度42cm、床下土坑2は床下土坑3と重複するように掘られており、平面形態は楕円形、規模は径63×55cm、深度40cm、床下土坑3は平面形態が円形に近く、径は54×50cm、深度60cmである。床下土坑1と2からは遺物の出土はみられなかったが、床下土坑3からは10数点の土器片が出土している。出土した土器は土師器甕などの細片ばかりであった。

1区2号竪穴建物

- 1黒褐色土 Hr-PPとローム粒、焼土粒を含む。
- 2黒褐色土 Hr-PPとローム粒、焼土粒、炭化物を含む。
- 3褐色土 Hr-PPとローム粒、焼土粒を含む。
- 4褐色土 3に類似、Hr-PPとローム粒、焼土粒、炭化物を含む。
- 5褐色土 Hr-PPを3%とローム粒、焼土粒、ロームブロックを含む。
- 6褐色土 ローム粒を10%とHr-PPと炭化物を含む。
- 7暗褐色土 上層にHr-PPを3%とローム粒、ロームブロック、焼土粒、炭化物を3%含む。

遺物出土状態



228図 1区2号竪穴建物遺構図(2)

埋没状態は土層断面でほぼ水平な堆積が観察できることから自然埋没であると判断した。

遺物は東半のカマド周辺から多く出土しているが、ほとんどが小片で完形になるものは皆無であった。遺物は比較的床面や床面に近い高さからの出土が多く後に廃棄されたものではなく、本竪穴建物に伴うものと判断した。なお、掲載した以外の土器数量は土師器杯37点、甕1920点、須恵器杯122点、杯蓋8点、碗6点、短頸壺7点、甕61点と他の竪穴建物に比べると多い、数量であった。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から8世紀第4四半期に比定できる。

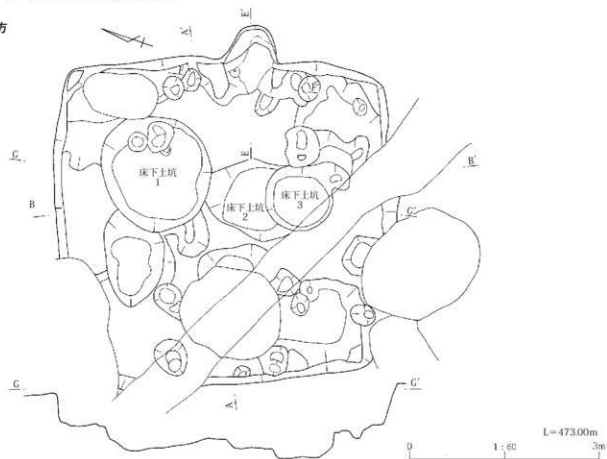
- 8にふい黄褐色土 ローム粒、As-PPを含むロームブロックを10%含む。
- 9にふい黄褐色土 8に類似、ローム粒、As-PPを含むロームブロックを10%含む。
- 10褐色土 ローム粒、ロームブロック、焼土粒を10%含む。
- 11暗褐色土 Hr-PP、焼土粒、ローム粒を含む。
- 12にふい黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。
- 13暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを10%含む。
- 14黒褐色土 Hr-PPとローム粒、ロームブロック、黒色土を含む。
- 15黒褐色土 14に類似、14よりも黒色土を多く含む。

カマド

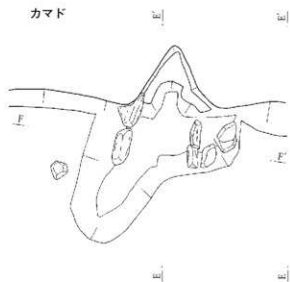
- 1黒褐色土 Hr-PP、ローム粒と焼土粒を3%含む。
- 2暗褐色土 Hr-PPとローム粒、焼土粒と炭化物を10%含む。
- 3褐色土 ローム粒と焼土粒と炭化物を10%含む、粘性を有するローム土が混入。
- 4にふい赤褐色土 ローム粒と炭化物と焼土粒を10%含む、粘性を有するローム土が混入。
- 5褐色土 ローム粒と焼土粒、炭化物を含む、粘性を有するローム土が混入。
- 6褐色土 焼土粒と炭化物ローム粒を含む、粘性を有するローム土が混入。
- 7褐色土 Hr-PPを3%とローム粒を含む、粘性を有するローム土が混入。
- 8灰黄褐色土 灰主体、ローム粒、焼土粒、炭化物を含む。
- 9にふい赤褐色土 焼土主体。
- 10にふい黄褐色土 ローム粒と灰、焼土粒を10%含む。
- 11ロームブロック
- 12にふい黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを10%と灰を含む。
- 13暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを10%含む。
- 14暗褐色土 ローム粒、ロームブロックとHr-PPをわずかに含む。
- 15明黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを10%含む。
- 16明黄褐色土 VII-1主体、黒色土をわずかに含む。

IV 検出した遺構と出土した遺物

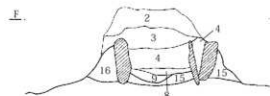
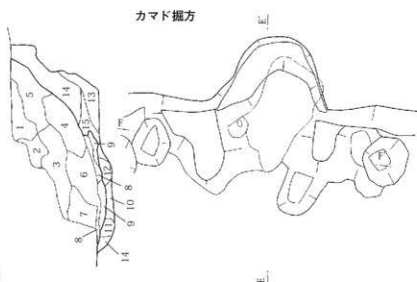
掘方



カマド

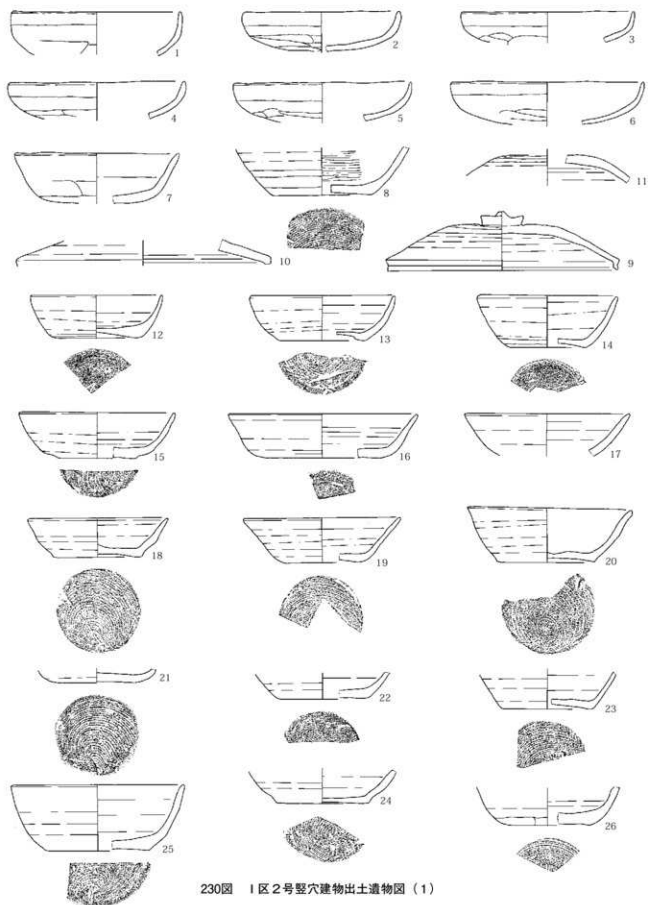


カマド掘方



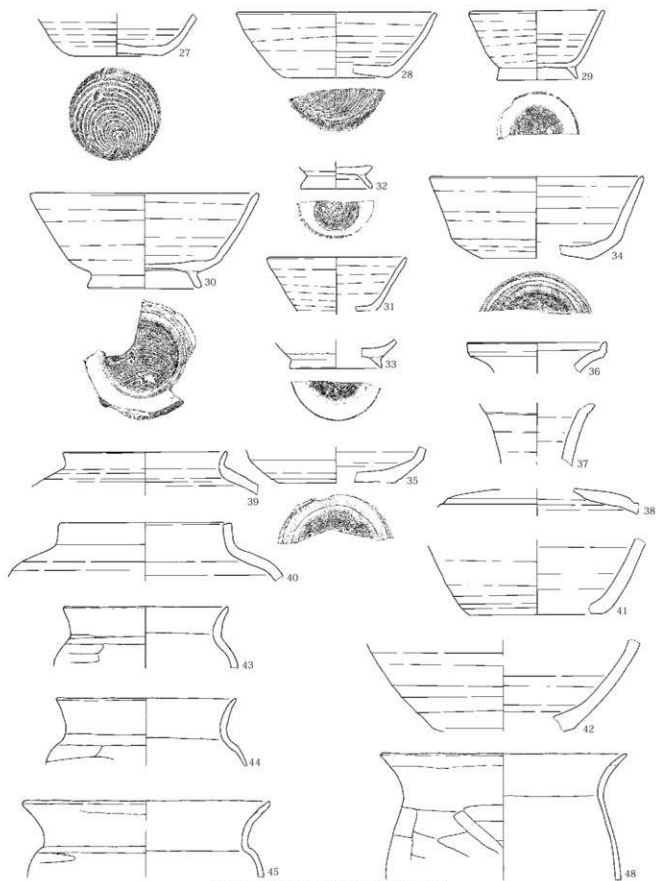
L=473.00m
0 1:30 1m

229図 I区2号竪穴建物遺構図(3)

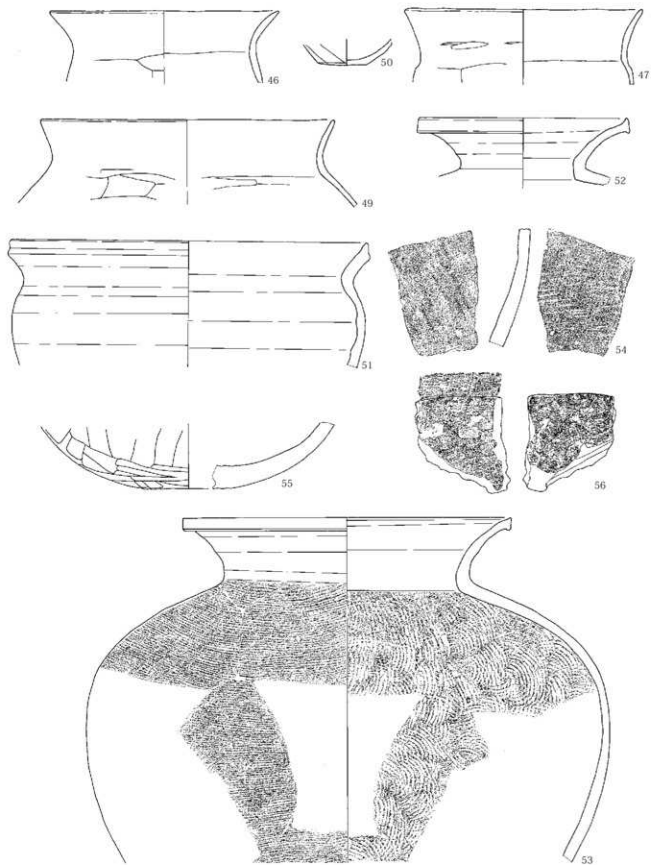


230圖 I区2号竪穴建物出土遺物圖(1)

IV 検出した遺構と出土した遺物

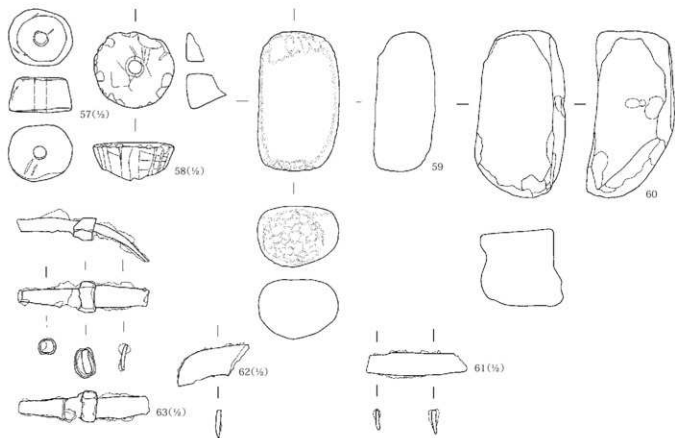


231図 I区2号竖穴建物出土遺物図(2)



232図 Ⅰ区2号竪穴建物出土遺物図(3)

IV 検出した遺構と出土した遺物



233図 I区2号竪穴建物出土遺物図(4)

I区2号竪穴建物

PL.161・162

NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	埋没上中 口縁部片	口 13.0	細砂粒/良好/にぶ い期	口縁部上位は横ナデ、中位はナデ、下位はへら削り。	H-3
2	土師器 杯	カマド、床面 1/3	口 12.0 高 3.1	細砂粒/良好/にぶ い期	口縁部上位は横ナデ、中位はナデ、下位はへら削り。	H-2
3	土師器 杯	埋没上中 口縁部片	口 13.4	細砂粒/良好/粗	口縁部上位は横ナデ、中位はナデ、下位はへら削り。	H-3
4	土師器 杯	床面 口縁部片	口 13.4	細砂粒/良好/粗	口縁部上位は横ナデ、中位はナデ、下位はへら削り。	H-3
5	土師器 杯	+8、17 1/5	口 13.8	細砂粒/良好/明赤 期	口縁部上位は横ナデ、中位はナデ、下位はへら削り。	H-3
6	土師器 杯	+13 1/6	口 14.8	細砂粒/良好/にぶ い期	口縁部上位は横ナデ、中位はナデ、下位はへら削り。	H-3
7	土師器 杯	埋没上中 口縁部片	口 12.8 底 9.0 高 3.9	細砂粒/良好/浅黄 期	口縁部上半は横ナデ、下半はへら削り、底部はへら削り。	I
8	黒色土器 椀	床面 底部~口縁下半片	底 7.8	細砂粒/酸化端/に ぶい黄粒	内面黒色処理。ロクロ整形、底部回転系切り、口縁部下位回転へら削り。内面はへら磨き。	
9	須恵器 杯蓋	床面 1/2	口 18.0 横 3.3 高 4.7	粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部中央は回転へら削り。握みは貼付。	
10	須恵器 杯蓋	埋没上中 天井部片		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転方向不明。口縁端部は磨りつぶしている。	
11	須恵器 杯蓋	埋没上中 天井部片		粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部中央は回転へら削り。	
12	須恵器 杯	埋没上中 1/5	口 10.2 底 6.6 高 3.4	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転系切り。口縁部最下部は回転へら削り。	Ca-3
13	須恵器 杯	床面 1/6	口 11.2 底 6.8 高 3.5	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転系切り。	Ca-3

NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎上/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考
14	須恵器 杯	+11 1/6	口 11.0 底 6.0 高 4.1	細砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り。口 縁部最下部は回転へら削り。	Ca-3
15	須恵器 杯	+7 1/6	口 12.2 底 6.2 高 3.6	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り。	Ca-3
16	須恵器 杯	埋没上中 1/8	口 14.8 底 9.6 高 3.5	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転へら削り。	Ca-3
17	須恵器 杯	埋没上中 口縁部片	口 12.8	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形。	
18	須恵器 杯	+55 2/3	口 10.8 底 6.8 高 3.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	Db-1
19	須恵器 杯	掘方 1/3	口 12.2 底 6.0 高 3.5	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	Dc-1
20	須恵器 杯	+34 1/3	口 12.8 底 7.5 高 4.4	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
21	須恵器 杯 底部	+50	底 6.2	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
22	須恵器 杯 底部片	掘方	底 7.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
23	須恵器 杯	埋没上中 底部~口縁下半片	底 7.0	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
24	須恵器 杯	床面 底部~口縁下半片	底 7.2	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
25	須恵器 椀	+11 1/5	口 13.4 底 8.0 高 5.2	粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	Aa-1
26	須恵器 椀	+10 底部~口縁下半片	底 6.5	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転へら削り。 口縁部最下部は回転へら削り。	
27	須恵器 椀	床面 底部~口縁下半片	底 7.0	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
28	須恵器 椀	床面 1/3	底 8.0	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	Aa-2
29	須恵器 椀	床面 1/2	口 10.4 底 6.0 高 6.4 台 6.2	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。	Ab
30	須恵器 椀	埋没上中 1/3	口 17.8 底 8.8 高 7.5 台 8.6	粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台 は貼付。	Ab
31	須恵器 椀	カマド、+12 1/5	口 10.8 底 6.2	細砂粒/還元焰/橙	ロクロ整形、回転右回りか。底部はナデ、高台は貼 付であるが剥落。	Ab-2
32	須恵器 椀 底部片	埋没上中 底部片	底 4.8 台 5.6	粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。	Ac
33	須恵器 椀 底部片	埋没上中 底部片	底 7.0 台 7.2	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高台 は貼付。	
34	須恵器 椀 椀縁	+10 1/3	口 16.8 底 8.6	粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部はナデ、高台は貼 付であるが剥落。	
35	須恵器 椀 椀縁	埋没上中 底部片	底 9.2	粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り、高 台は貼付であるが剥落。	
36	須恵器 長頸壺	埋没上中 口縁部片	口 10.8	粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。	
37	須恵器 長頸壺	+12 口縁部下半片		粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。	
38	須恵器 長頸壺	+28 胴部上位片		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。外面には使用時の摩滅 がみられる。	
39	須恵器 短頸壺	+14 口縁部片	口 12.8	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。	
40	須恵器 短頸壺	床面 口縁部片	口 13.6	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。	
41	須恵器 短頸壺	埋没上中 胴部下半片	底 10.4	細砂粒/還元焰/灰 オリーブ	ロクロ整形。胴部最下部は3段の回転へら削り。	
42	須恵器 壺	床面 胴部下半片	底 11.2	細砂粒・黒色粒 /還元焰/灰	ロクロ整形。胴部最下部は3段の回転へら削り。	
43	土師器 甕	+12 口縁~胴部上位片	口 12.8	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部横ナデ、胴部横方向へら削り。内面胴部はへ らナデ。	内面に保付着。
44	土師器 甕	+32 口縁~胴部上位片	口 14.0	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部横ナデ、胴部横方向へら削り。内面胴部はへ らナデ。	

IV 検出した遺構と出土した遺物

NO.	種 類	出 土 位 置	計 測 値	胎上/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
45	土師器 甕	掘方 口縁～胴部上位片	□ 19.2	粗砂粒/良好/橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部横方向へう割り。内面胴部はヘラナデ。	
46	土師器 甕	+26 口縁～胴部上位片	□ 17.8	粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、胴部横方向へう割り。内面胴部はヘラナデ。	
47	土師器 甕	+26 口縁～胴部上位片	□ 18.6	粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、胴部横方向へう割り。内面胴部はヘラナデ。	
48	土師器 甕	+18 口縁～胴部上位片	□ 19.2	粗砂粒/良好/橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部横方向へう割り。内面胴部はヘラナデ。	Ca-2
49	土師器 甕	口縁～胴部上位片	□ 23.0	粗砂粒/良好/赤褐	口縁部横ナデ、胴部横方向へう割り。内面胴部はヘラナデ。	Ca-3
50	土師器 甕	カマド 底部	底 3.6	粗砂粒/良好/ぶい黄橙	胴部・底部ともへう割り。内面はヘラナデ。	Cb-1
51	須恵器 広口壺	+25 口縁～胴部上位片	□ 28.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。	
52	須恵器 壺	+11 口縁部～頸部片	□ 16.2	粗砂粒/還元焰/灰 オリーブ	ロクロ整形。	
53	須恵器 甕	+7、10、44 口縁～胴部上位片	□ 25.8	粗砂粒/還元焰/ぶい赤褐	口縁部はロクロ整形、胴部はカキ目。内面胴部は同心円状アテ具痕が残る。	
54	須恵器 甕	床面 胴部下位片		粗砂粒/還元焰/灰 白	外面は平行叩き痕が残るが、内面はナデのためアテ具痕は不鮮明。	
55	須恵器 甕	床面 底部片		粗砂粒/還元焰/灰	外面はへう割り。内面は僅かにアテ具痕が残る。	
56	土製品 埴	+16 端部片		含有物無/還元焰/ ぶい黄橙	側面はへう割り。表裏はナデ。	
NO.	種 類	器 種	出 土 位 置	残 存 率	計 測 値	摘 要
57	石製品	紡錘車	床面	完形	上径 3.3×2.9 厚 1.9 孔径 0.6 重 25.6	紙沢石
58	石製品	紡錘車	埋没土中	下半欠損	上径 4.2×4.0 厚(2.1) 孔径 0.7 重(18.8)	凝灰岩泥岩
59	石器	礫石	床面	完形	長 11.0 幅 6.4 厚 4.8 重 485	粗粒輝石安山岩
60	石製品	礫石	+11	完形	長 13.2 幅 6.1 厚 5.9 重 860	砂岩
61	鉄器	刀子	埋没土中	刃部片	長(5.3) 幅 1.5 厚 0.2 重(9.6)	
62	鉄器	鎌	埋没土中	刃先片	長(4.0) 幅 1.5 厚 0.25 重(4.0)	
63	鉄器	工具(用途不明)	埋没土中	柄～刃部?片	長(7.3) 幅 1.5 厚 1.1 重(15.0)	装着具残存。

I区3号竪穴建物

本竪穴建物は発掘調査を行えたのが全体の3分の1ほどで残りは発掘調査範囲対象外に存在するため全貌、詳細については不明である。

位置はI区調査区の南東部の東端、 $X=75,488\sim 75,492$ 、 $Y=-66,732\sim -66,736$ である。残存状態は確認面から床面までの深度も50cm以上と深く比較的良好であった。他遺構との重複関係はI区6号竪穴建物との重複が確認された。新旧関係は本竪穴建物のほうが新しい。

平面形態は北西角は比較的明確であるが、北東角は丸みが強く曖昧である。規模は南北 $3.00m+a$ 、東西 $3.93m$ 、辺長は北辺が $3.00m$ 、西辺が $3.00m+a$ 、壁高は $58\sim 76cm$ を測る。主軸方位は東辺にカマドが構築されているとみられるので $N-106^{\circ}-E$ を指す。

内部施設は柱穴2本と周溝を検出した。柱穴はP1が西辺の壁に位置する「壁柱穴」と呼称される形態であ

る。P2は北東角より北辺壁下から68cm、東辺壁下から18cm内側である。柱穴間距離は3.08mである。規模はP1が径 $42\times 32cm$ 、深度が床面から42cm、確認面から103cm、P2が径 $30\times 30cm$ 、深度20cmである。なお、P1は底面から20cm上位に上面が平坦な垂角礫を据えていた。周溝は北東角から北辺、西辺にかけて検出した。規模は幅15cm前後、深度 $2\sim 9cm$ である。床面は床下土坑とその周辺を除き地山をそのまま踏み固めていた。

カマドは調査対象範囲で長さ40cmほどの垂角礫が出土しており、これらの礫がカマドに補強として使用されたものとみられることから東辺に構築されたと想定される。

掘方は北西角寄りで床下土坑が検出された以外は地山をそのまま使用している。床下土坑は平面形態が矩形を呈し、規模は径 $110\times 108cm$ 、深度81cmである。この床下土坑からは遺物の出土などはみられず、埋め戻されていた土砂もⅢ層やⅤ層、Ⅶ～Ⅰ層のブロックであること

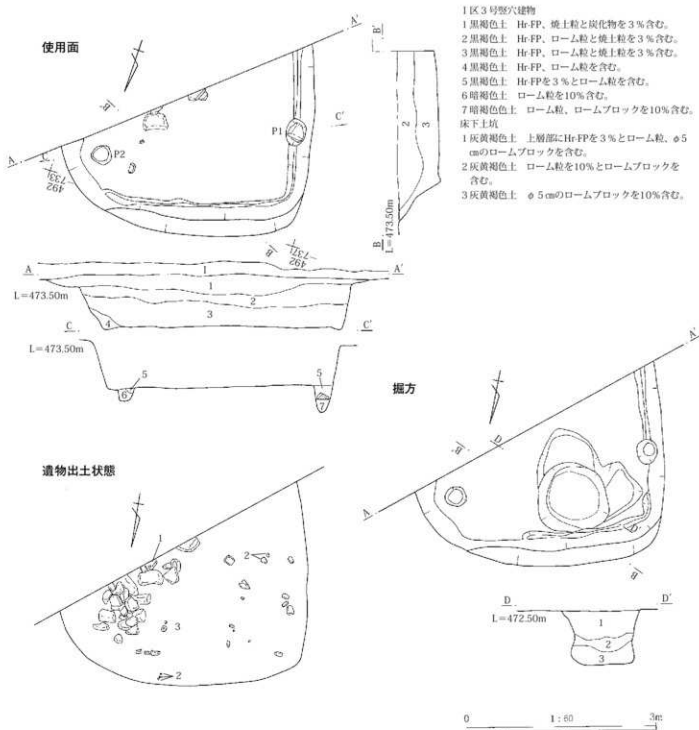
からカマド構築材として使用するⅦ-3層土、Ⅷ層土を採掘するために掘られたものとみられる。

埋没状態は土層断面でほぼ水平な堆積が観察できることから自然埋没であると判断した。

遺物はわずかな量しか出土しておらず散在的な出土状

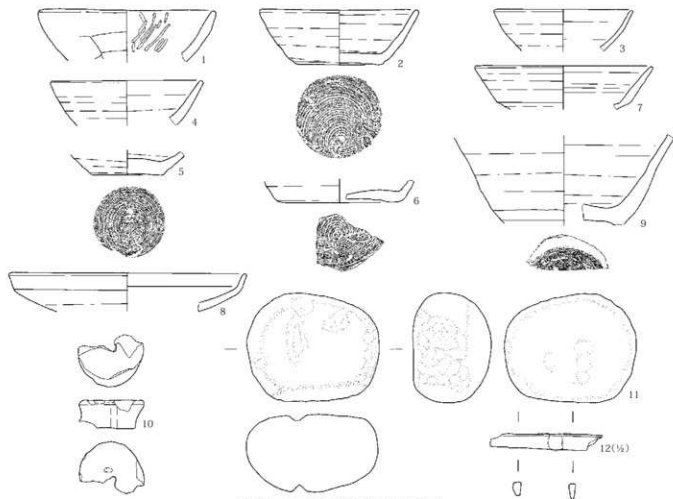
態であった。なお、掲載した以外の土器数量は土師器杯6点、甕135点、須恵器杯19点、長頸壺3点、甕5点だけであった。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から9世紀第1四半期に比定できる。



234図 I区3号竪穴建物遺構図

IV 検出した遺構と出土した遺物



235図 I区3号竪穴建物出土遺物図

I区3号竪穴建物

PL.162

NO.	種 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎上/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考
1	土師器 杯	+40 口縁部片	口 13.4	細砂粒/良好/ ぶい・橙	口縁部上半は横ナデ、下半はへら削り。内面は雑な 斜放射状暗文。	I
2	須恵器 杯	床面、+65 2/3	口 12.2 底 6.6 高 4.3	細砂粒/酸化燻 /橙	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り。	Ba-1
3	須恵器 杯	埋没上中 口縁部片	口 10.6	細砂粒/還元燻 /灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
4	須恵器 杯	埋没上中 口縁部片	口 11.6	細砂粒/還元燻 /灰	ロクロ整形、回転右回りか。	Ca-4
5	須恵器 杯	床面 底部	底 5.4	細砂粒/還元燻 /灰	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り。	
6	須恵器 杯	埋没上中 底部片	底 9.0	細砂粒/還元燻 /灰	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り。	
7	須恵器 椀	埋没上中 口縁部片	口 13.8	細砂粒/還元燻 /灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
8	須恵器 盤	埋没上中 口縁部片	口 18.6	細砂粒/還元燻 /暗灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
9	須恵器 壺	埋没上中 胴部下半片	底 10.0	粗砂粒/還元燻 /灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部はナデ、高台は胎 付。胴部最下部は回転へら削り。	器種は短頸壺か。
10	土製品 紡錘車	掘方 1/3	径 5.1 孔 0.5	細砂粒/良好/ ぶい・赤褐色	底面・側面ともナデ。	
NO.	種 類	器 種	出土位置	残存率	計 測 値	備 考
11	石製品	多孔石	埋没上中	完形	長 105 幅 8.5 厚 6.1 重 720	粗粒輝石安山岩
12	鉄器	刀子	埋没上中	柄部片	長 (5.5) 幅 0.8 厚 0.4 重 (4.5)	

I区4号竪穴建物

本竪穴建物は竪穴建物全域を発掘調査できたが、南辺から西辺にかけては中世から近代の土坑との重複や遺構形状の確認が不鮮明であったため想定の部分がある。

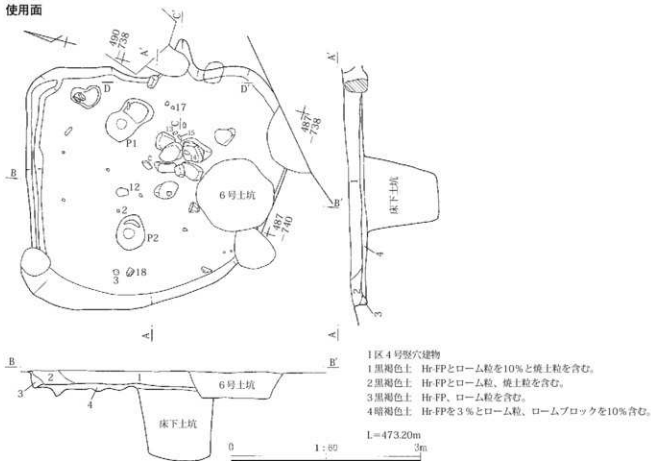
位置はI区調査区南東部、 $X=75.487\sim 75.491$ — $Y=-66.737\sim -66.741$ である。残存状態は北辺から東辺にかけては確認面から床面まで深度が狭いわりには比較的良好であったが、南辺から西辺については遺構形状も不鮮明な状態であった。他遺構との重複関係はI区6号土坑、7号土坑などや数基の小規模な土坑との重複が確認された。新旧関係は土坑番号の付けられていない土坑より本竪穴建物のほうが古いが、I区6号土坑、7号土坑とは不明確である。

平面形態は南辺から西辺については遺構形状も不鮮明な状態であるが、本来は方形に近い形態であったと想定される。規模は南北4.10m、東西3.85m、各辺長は北辺3.70m、東辺3.65m、南辺と西辺は推定2.7m、壁高は使用面

北辺と東辺で22~38cm、床面積は現状で11.2㎡、想定で12.4㎡を測る。主軸方位は $N-70^{\circ}-E$ を指す。

内部施設は柱穴2本と周溝を検出した。P1は北辺から1.00m、東辺から0.60m、P2は北辺から1.10m、西辺から0.70mほど内側に位置する。柱穴間距離は1.70m、規模はP1が径80×43cm、深度63cm、P2が径57×48cm、深度84cmである。周溝は北辺壁下に位置する。規模は10~20cm、深度4~7cmである。床面は掘方底面より5cmほどロームブロックを混ぜたⅢ層・Ⅴ層で埋め戻し踏み固めて硬化面としていた。

カマドは東辺の中央よりやや南に構築されている。残存状態は焚き口、燃焼部の天井やソデを全く残さない状態まで壊れている。規模は使用面でほとんど残っていないため掘方での計測で全長1.07m、幅0.92mである。煙道部は壁外に40cm延びる。なお、掘方では左ソデにあたる部分で補強のために使用された礫が残っていたが、カマドの前方床面にも多くの亜角礫が散乱した状態で出



236図 I区4号竪穴建物遺構図(1)

IV 検出した遺構と出土した遺物

土していた。これらの礫も焼き口や燃焼部、ソデ部の補強に使用されていた礫とみられる。

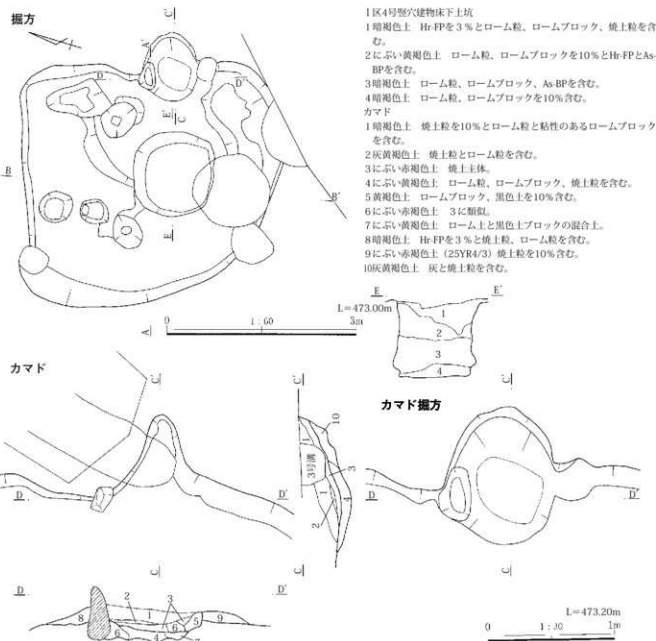
掘方は床面より5~20cmほど掘り込まれており、掘削時の凹凸が多く残り、中央部に床下土坑が検出された。床下土坑は平面形態が楕円形を呈し、底面付近の側面はわずかではあるが横に掘り込まれていた。規模は径137×128cm、深度124cmである。この床下土坑からは遺物の出土などはみられず、側面も横に掘り込まれていることからカマド構築材として使用するⅦ-3層土、Ⅷ層土

を採掘するために掘られたものとみられる。

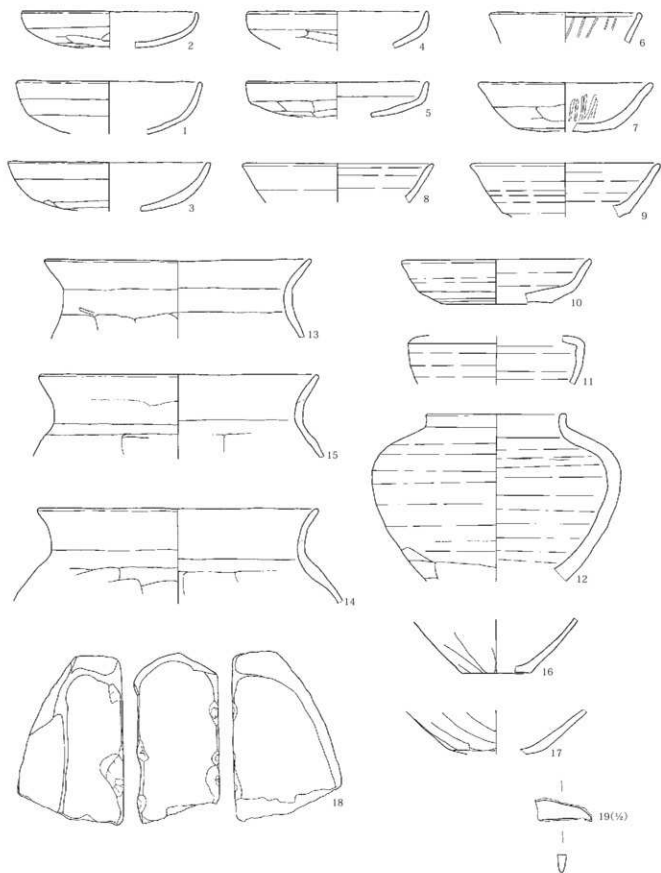
埋没状態は土層断面でほぼ水平な堆積が観察できることから自然埋没であると判断した。

遺物は礫が比較的多く出土していたが、土器などはわずかな量しか出土しておらず散在的な出土状態であった。なお、掲載した以外の土器数量は土師器杯17点、甕75点、須恵器杯9点、杯蓋3点、甕4点だけであった。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から8世紀第4四半期に比定できる。



327図 1区4号竪穴建物遺構図(2)



238图 I区4号壑穴建物出土器物图

I区4号竪穴建物

PL162

NO.	種 類	出 土 位 置	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
1	土師器 杯	+11 1/6	□ 14.2	細砂粒/良好/濁	口縁部上位は横ナデ、中位はナデ、下位から底部はヘラ削り。	H-3
2	土師器 杯	+10 口縁部片	□ 13.8	細砂粒/良好/橙	口縁部上位は横ナデ、中位はナデ、下位から底部はヘラ削り。	H-2
3	土師器 杯	+15 1/4	□ 15.6	細砂粒/良好/に ぶい赤褐色	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	H-4
4	土師器 杯	埋没上中 口縁部片	□ 14.0	細砂粒/良好/に ぶい濁	口縁部上半は横ナデ、下半はヘラ削り。	H-2
5	土師器 杯	カマド 口縁部片	□ 14.0	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部上半は横ナデ、下半から底部はヘラ削り。	H-2
6	土師器 杯	埋没上中 口縁部片	□ 11.4	細砂粒/良好/赤 濁	口縁部横ナデ、内面は斜放射状暗文。	I
7	土師器 杯	埋没上中 口縁部小片	□ 13.4 底 8.0 高 3.8	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部上半は横ナデ、下半から底部はヘラ削り。内 面口縁部は斜放射状暗文。	I
8	須恵器 杯	埋没上中 口縁部片	□ 14.8	細砂粒/還元焼 灰	ロクロ整形、内面口唇部に重ね焼き痕がみられる。	
9	須恵器 杯	カマド 口縁部片	□ 14.8	細砂粒/還元焼 灰	ロクロ整形、回転右回りか。	Ca-4
10	須恵器 杯	埋没上中 口縁部片	□ 14.6 底 8.8 高 3.5	細砂粒/還元焼 灰/浅黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部はヘラ削り、口縁 部最下部は回転ヘラ削り。	Ca-4
11	須恵器 平盤	埋没上中 胴部小片	■ 14.0	細砂粒/還元焼 灰	ロクロ整形。	Cb-2
12	須恵器 短頸壺	床面 1/4	□ 10.0 胴 19.6	粗砂粒/還元焼 灰	ロクロ整形、回転右回りか。胴部最下部にヘラ削り。	Cb-2
13	土師器 甕	カマド、+13 口縁部片	□ 20.6	細砂粒/良好/に ぶい赤濁	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向ヘラ削 り。内面胴部はヘラナデ。	
14	土師器 甕	床面 口縁~胴部上位片	□ 21.8	細砂粒/良好/暗 赤濁	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向ヘラ削 り。内面胴部はヘラナデ。	
15	土師器 甕	+12 口縁部片	□ 21.6	細砂粒/良好/橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部 上位横方向ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
16	土師器 甕	カマド 胴部下位片	底 5.4	細砂粒/良好/に ぶい赤濁	胴部下位、底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
17	土師器 甕	カマド、+17 胴部下位片	底 7.6	細砂粒/良好/に ぶい黄濁	胴部下位、底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
NO.	種 類	器 種	出 土 位 置	残 存 率	計 測 値	摘 要
18	石製品	砥石	+12	1/2	長 (13.5) 幅 8.4 厚 6.1 重 (860)	粗粒輝石安山岩
19	鉄器	不明	埋没上中	一部片	長 (2.9) 幅 1.2 厚 0.45 重 (3.6)	

I区5号竪穴建物

本竪穴建物は大部分が発掘調査範囲対象外に存在し、発掘調査が行えたのは北西辺際のごく一部だけであった。そのため遺構の全貌や詳細については不明である。また、規模が小さいこともあり調査当初は土坑の可能性もみられたが、壁下に周溝が巡ることが確認できたことから竪穴建物と判断した。

位置はI区調査区の北東部東端、X = 75.498 ~ 75.499 - Y = -66.724 ~ -66.725である。残存状態は調査範囲内では良好であった。他遺構との重複関係は確認されなかった。

平面形態は北東辺がやや弧状であることから隅丸長

方形または隅丸方形を呈するとみられる。規模は南北2.00m、辺長は北西辺が1.80m、壁高は50cm前後である。主軸方位は北東辺にカマドが構築されているならばN-45°-Eを指す。

内部施設は周溝を検出した。周溝は北西角では確認できなかったが、他の壁下では検出され、規模は幅15cm前後、深度2~3cmである。床面は掘方底面より10cmほどロームブロックが混ぜられた土で埋め戻されて踏み固められていた。

掘方は存在するが詳細については不明である。

埋没状態は土層断面の設定が端部なため明確ではないがほぼ水平な堆積が観察できることから自然埋没と判断

される。

遺物は土師器製の胴部小片が出土しているが、図示できるものではなかった。この他に周溝際の床面からやや細長い磨網石とみられる礫が出土しただけであった。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物などから7世紀第後半から8世紀初頭に比定できる。

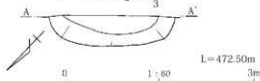
1区5号竪穴建物

- 1黒褐色土 ⅢよりもHr-PP少なく、ローム粒を10%含む。
 2黒褐色土 1よりもHr-PP少なく、ローム粒少ない。
 3暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを10%含む。

使用面



掘方



239図 1区5号竪穴建物遺構図

J区2号竪穴建物

本竪穴建物は発掘調査範囲内に全域が存在するが、北東部の4分の1ほどを掘乱によって欠くため全貌や詳細については不明である。

位置はJ区調査区の南東部の東端、X=75.518～75.521-Y=-66.681～-66.684である。残存状態は前記のように掘乱によって欠く部分があり、確認面から床面まで深度が非常に浅いため良好な状態ではない。他遺構との重複関係は北側で掘乱との重複が確認されたが、遺構との重複は確認されなかった。

平面形態は台形状に近い形態である。規模は南北2.99m、東西3.62m、各辺長は北辺が推定3.5m、東辺も推定3.0m、南辺3.60m、西辺2.45m、壁高6～16cm、床面積は推定7.3㎡を測る。主軸方位は北辺にカマドが構築されていればN-2°-W、東辺ならばN-90°-Eを指す。

内部施設は周溝を検出した。周溝は一部途切れる箇所がみられるが、本来は巡っていたとみられる。規模は幅17～20cm、深度2～7cmである。床面は掘方底面より5～10cmほどロームブロックを混ぜたⅢ層を主体とする暗褐色土で埋め戻されて踏み固められ硬化面としていた。

カマドは掘乱によって欠くとみられる。その根拠はⅦ-3層、Ⅷ層を採取したとみられる床下土坑が存在することによる。

掘方は床面より5～10cmほど掘り込まれており、底面は掘削時の凹凸が残る。また、中央部では床下土坑が

検出された。床下土坑は平面形態が楕円形を呈し、規模は径147×113cm、深度は113cmである。この床下土坑からは遺物の出土などはみられないことから前記のようにカマド構築材として使用するⅦ-3層土、Ⅷ層土を採掘するために掘られたものとみられる。

埋没状態は確認面から床面まで非常に浅いため土層断面での観察では不明な点があり、断定はできないが、自然埋没であると想定される。

遺物は土器などはわずかな量しか出土しておらず散在的な出土状態であった。なお、掲載した以外の土器数量は土師器杯3点、甕47点、須恵器碗2点であった。

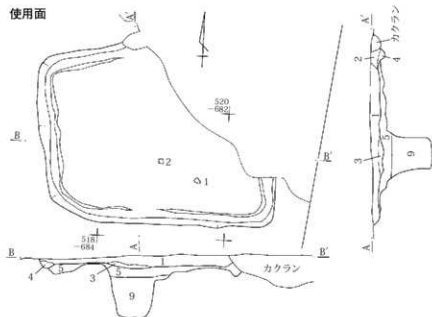
本竪穴建物の存続年代は出土遺物から8世紀第後半代に比定できる。

J区2号竪穴建物

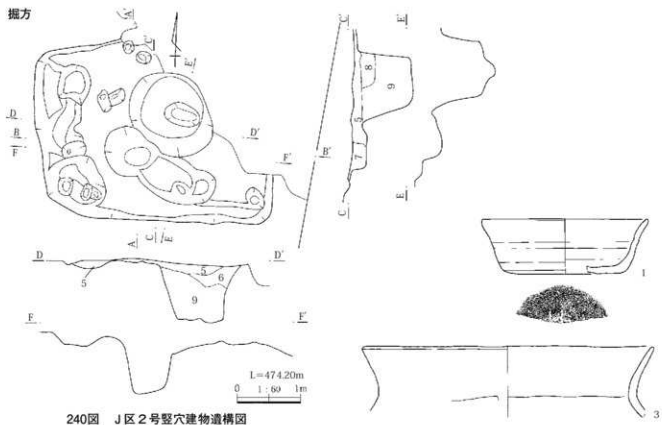
- 1黒褐色土 (10YR2/2) ⅢとⅤの混合土 (3:7)、φ1cmのHr-PPを3%とφ0.5cmのロームブロックを1%含む。
 2黒褐色土 (10YR2/3) Ⅴの崩落土? φ0.3～0.5cmのロームブロックを1%含む。
 3黒褐色土 (10YR2/3) 2に類似、ロームブロックは1より少ない。
 4暗褐色土 (10YR3/3) Ⅴ主体、ローム粒、φ1cm前後のブロックを10%含む。
 5黒褐色土 (10YR1/3) Ⅴ主体、Ⅶブロック (φ2～5cm) を20%含む。
 6黒褐色土 (10YR1/3) Ⅴ主体、φ1～2cmのⅦ-1ブロックを5～10%含む。
 7黒褐色土 (10YR1/3) Ⅴ主体、φ1～5cmのⅦ-1ブロックを10%含む。
 8黒褐色土 (10YR1/3) Ⅴ主体、φ2～10cmのⅦ-1ブロックを30%含む。
 9黒褐色土 (10YR1/3) Ⅴ主体、φ3～10cmのⅦ-1ブロックを50%含む。

IV 検出した遺構と出土した遺物

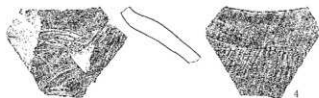
使用面



掘方



240図 J区2号竪穴建物遺構図



241図 J区2号竪穴建物出土遺物図

J区2号竪穴建物

PL.162

NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	須恵器 杯	床面 1/4	口 12.8 底 9.6 高 4.3	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部はへら削り。	Ca-1'
2	土師器 甕	床面 口縁部片	口 21.6	細砂粒/良好/ぶ い粗	内面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部 へら削り。内面胴部はへらナデ。	Ca-2
3	土師器 甕	掘方 口縁部片	口 22.8	細砂粒/良好/粗	口縁部横ナデ、胴部横方向へら削り。内面胴部はへ らナデ。	Ca-2
4	須恵器 甕	床直 胴部上位小片		細砂粒/酸化焰/ぎ み/黒灰	外面は平行明き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	

J区4号竪穴建物

本竪穴建物は上部からの攪乱によって床面及び掘方の中程までを欠くため全貌、詳細について不明である。なお、本竪穴建物は当初南北に竪穴建物と確認されたことから攪乱であるが竪穴建物の確認や写真撮影のため掘方底面付近の高さまでの掘削を予定していたが、下部になると土師類が出土するようになり土質も攪乱の状態からⅢ層やⅤ層にロームブロックが混入した状態であるが、比較的固く締まった状態であることから竪穴建物掘方の埋め戻した土とみられ、竪穴建物と判断した。

位置はJ区調査区の南東部の東端、X=75.519～75.524-Y=-66.680～-66.684である。残存状態は

掘方

前記のように攪乱によって大部分を欠くため良好な状態ではない。他遺構との重複関係は確認されなかった。

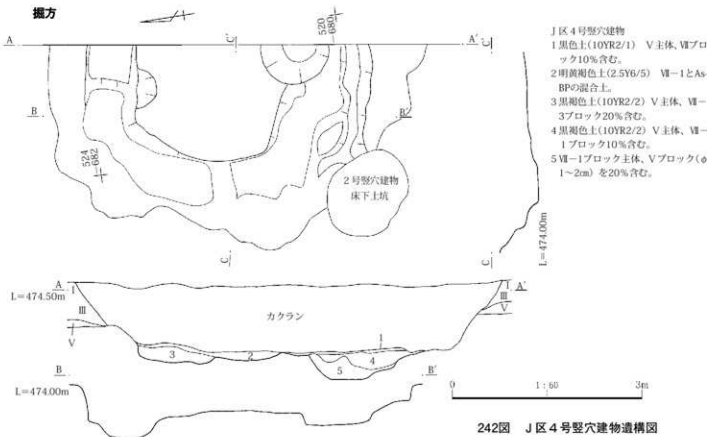
平面形態は確認できない。規模もほとんど不明であるが、南北4.50m以上、東西3.00m以上である。

内部施設は南側で周溝のような痕跡がみられたが確認には至らなかった。

掘方は周辺部が幅1.0m前後で中央部より20～40cmほど掘り下げられた状態であった。

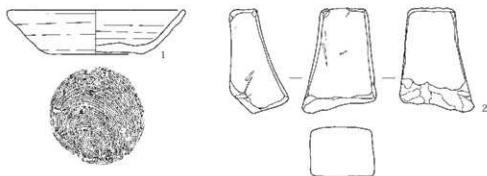
遺物はわずかな量しか出土していないが、図示した他に土師器甕などの破片がみられた。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から9世紀後半代に比定できる。



242図 J区4号竪穴建物遺構図

IV 検出した遺構と出土した遺物



243図 J区4号竪穴建物出土遺物図

J区4号竪穴建物

PL162

NO.	種類	器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	須恵器	杯	掘方 2/3	口 13.8 底 7.6 高 3.4	細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	Ch-3
2	石製品	砥石	掘方	掘方	残存率 下端部欠	計測値 長(8.3) 幅 5.6 厚 4.0 重(227.8)	砥石

J区6号竪穴建物

本竪穴建物の位置はJ区調査区の東南部、X = 75.526~75.530 - Y = -66.687~-66.691である。残存状態は一部を重複する土坑などで欠けが良好であった。他遺構との重複関係は南西角でJ区21号土坑との重複が確認された。新旧関係は本竪穴建物のほうが古いとみられるが、断定するには至らなかった。

平面形態は東西方向に比べて南北方向が20cmほど長いがほぼ方形を呈する。規模は南北5.72m、東西5.47m、各辺長は北辺5.00m、東辺4.95m、南辺5.10m、西辺5.20m、壁高62~78cm、床面積は20.1㎡を測る。主軸方位はN-123°-Eを指す。

内部施設は柱穴5本、貯蔵穴、周溝を検出した。柱穴は中央部に3本と北西角寄り、南西角寄りに各1本と不規則な配置である。規模はP1が径82×76cm、深度49cm、P2が径47×34cm、深度31cm、P3が径68×52cm、深度51cm、P4が径55×54cm、深度22cm、P5が径38×32cm、深度66cmである。P2では底面から22cmの高さに径18cmほどのやや扁平の円礫が据えられていた。貯蔵穴は東辺の南端に位置する。一般的なものと異なり壁側面に掘り込まれて設置されていた。規模は入口が幅80cm、高さ52cm、奥行き30cm、床面からの深度は35cmである。周溝はカマドと貯蔵穴部分を除き全周する。規模は幅15~20cm、深度6~13cmである。床面は掘方底面から10cmほどロームブロックが多量に混ぜられたⅢ

層、V層の土によって埋め戻され踏み固められて硬化面としていた。

カマドは東辺の貯蔵穴の北側に構築されていた。残存状態は焼き口や燃焼部から煙道部の天井は壊されていたが、ソデ部は左ソデが25cm、右ソデが30cmほど残っていた。規模は全長1.38m、幅1.32m、燃焼部幅0.35mである。なお、煙道部は30cmほど壁外に延びる。右ソデ部では補強のために細長い角礫を立てるように据えていた。ソデ上部にも数点の礫が出土しているほかカマド右前方部の床面にも散乱した状態で多くの礫が出土していることからカマドの構築にあたっては多くの礫が補強に使用されたとみられる。

掘方は床面より中央部で10~15cm、周辺部で20~50cmほど掘り下げられており、周辺部は掘削時の凹凸が残っていた。また、床下土坑もカマド前方、北辺中程の壁際、西辺中程の壁寄りで3基検出された。床下土坑1は平面形態が楕円形を呈し、規模は径140×125cm、深度34cm、床下土坑2は平面形態が楕円形を呈し、規模は径128×108cm、深度28cm、床下土坑3は平面形態が楕円形を呈し、規模は径103×98cm、深度39cmである。これらの床下土坑からは遺物の出土などはみられないことからカマド構築材として使用するⅦ-3層土、Ⅷ層土を採掘するために掘られたものとみられる。なお、本竪穴建物は床面より5cmほど下がったところでⅦ-2層が確認できることから他の調査区のように床下土坑を深く

掘り込む必要性がなかったとみられる。

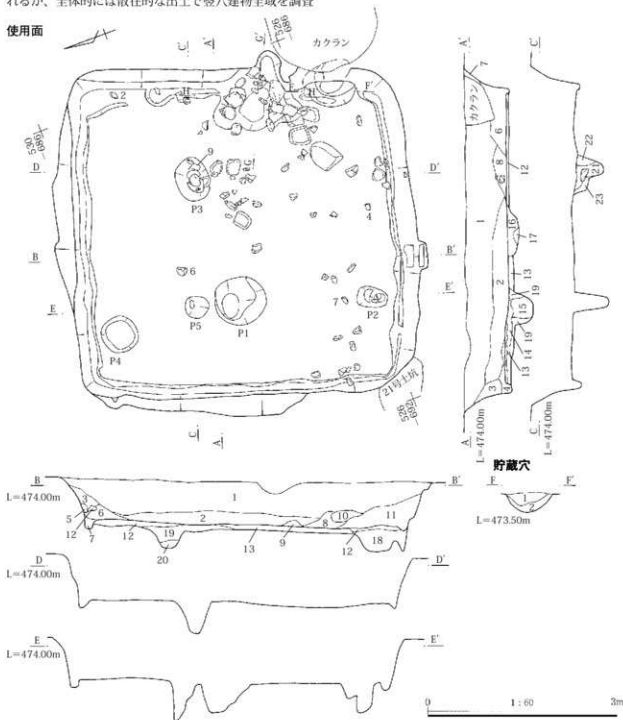
埋没状態は土層断面で壁付近では三角状の堆積、中央部では水平堆積が観察できることから自然埋没と判断した。

遺物は東半のカマド前方にややまとまった出土がみられるが、全体的には散在的な出土で竪穴建物全域を調査

できた割には遺物量は少ない。なお、掲載した以外の土器数量は土師器杯36点(うち内面黒色処理されたもの7点)、甕186点、須恵器椀1点、甕6点であった。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から7世紀第3四半期に比定できる。

使用面



244図 J区6号竪穴建物遺構図(1)

IV 検出した遺構と出土した遺物

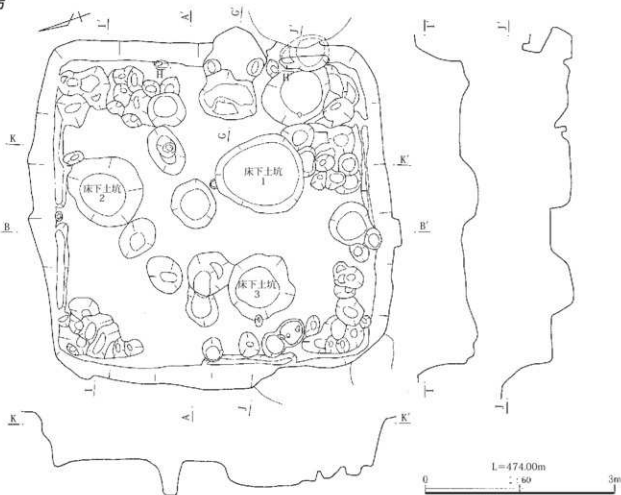
J区6号竪穴建物

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) III主体, ϕ 1~3cmのHr-FPを10%と ϕ 1~5cmのロームブロックを1~2%含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) Iに類似, ϕ 1cm前後のHr-FPを3%と ϕ 1cmのロームブロックを1%含む。
- 3 黒褐色土 (10YR2/2) V主体, VI混合 (6:2), ϕ 0.5cmのロームブロックを1%含む。
- 4 黒褐色土 (10YR2/2) VとVIの混合土 (8:2), ϕ 1~2cmのロームブロックを5%含む。
- 5 明黄褐色土 (10YR6/8) VI・VIIにVが混入。
- 6 黒褐色土 (10YR2/2) 3に類似, ロームブロックを10%含む。
- 7 明黄褐色土 (10YR6/8) ロームの崩落土, BP・Vが混入。
- 8 におい黄褐色土 (10YR4/2) III・VIIの混合土 (7:3), ϕ 3cmのロームブロック20%含む。
- 9 ロームブロックにVがしみ状に混入。
- 10暗褐色土 (10YR3/4) 硬土化したもの, 硬土ブロック5%含む。
- 11黒褐色土 (10YR2/3) V主体, IIIが混入, ϕ 1cmのHr-FPとロームブロックを1~3%含む。
- 12黒褐色土 (10YR3/1) Vブロック60%, VIIブロック40%の混合土 (上面床面)。
- 13VとVIIのブロック (5:5) からなるHr-FPを3%含む (上面床面)。
- 14VIIブロック主体, Vブロックを30%。
- 15VII-3主体, VII+As-BP・Vブロックを各10~20% (As-BPは崩落か)。
- 16VII-3ブロック, VII-1ブロックを各30~40%, As-BP (黒みがかった) ブロックが30~20%混入。
- 17VII-3主体, Vを10%混入。
- 185に類似, As-BP (黒みがかった) 30~40%混入。
- 19黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒を1~2%含む。
- 20明黄褐色土 (2.5Y6/6) VII-1ブロック, VII-2を含む。
- 21黒褐色土 (10YR3/1) V主体, ϕ 1~3cmのロームブロックを10%含む。
- 22明黄褐色土 (2.5YR6/6) ロームブロック主体, Vが30%混入。
- 23黒褐色土 (10YR3/1) V主体, ϕ 1~2cmのロームブロックを5%含む。

貯蔵穴

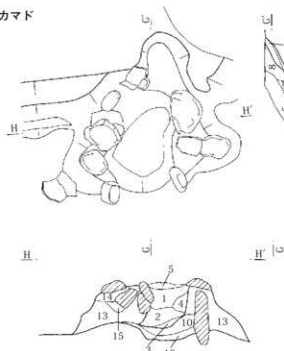
- 1 黒褐色土 (10YR3/1) Vと同様, ローム粒を1%含む。
- 2 明黄褐色土 (2.5YR6/6) ローム土, Vが20%混入。

掘方

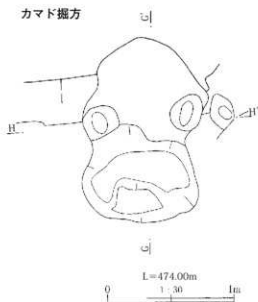


245図 J区6号竪穴建物遺構図(2)

カマド



カマド掘方

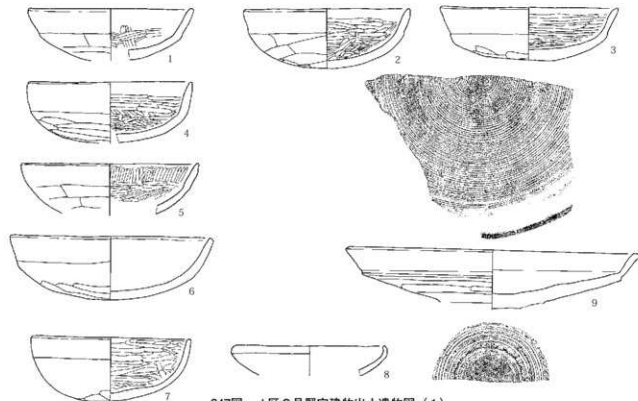


246図 J区6号竪穴建物遺構図(3)

J区6号竪穴建物 カマド

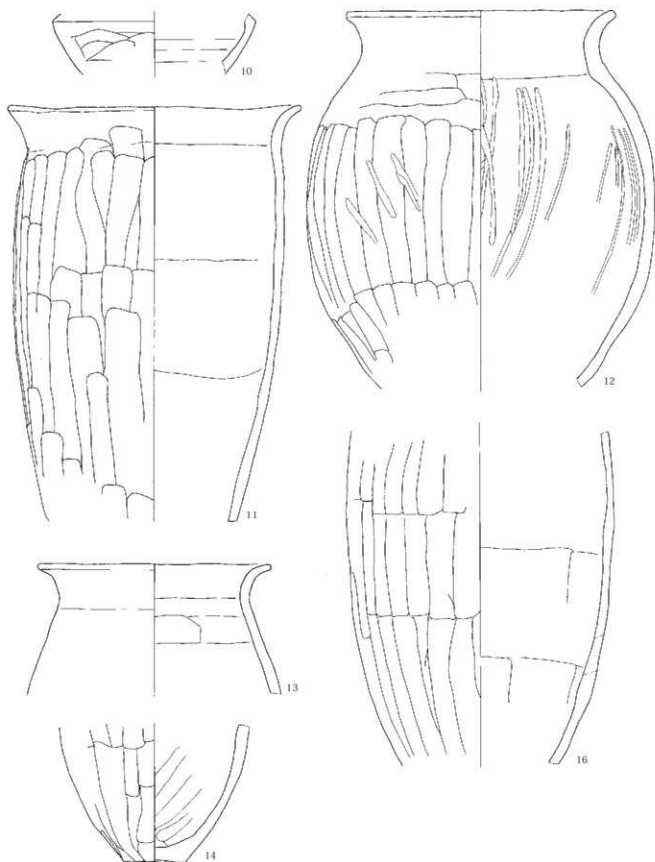
- 1 黄褐色土 (2.5YR5/4) ローム主体、天井崩壊土、焼土粒、黒色土を5%含む。
 2 1の焼土化したもの(天井の崩壊土)下部が焼土化。
 3 1と焼土、Vが混在したもの。
 4 Iブロック主体、Vブロック30%混入。
 5 V・黄褐色粘土ブロック、焼土粒の混入上(3:5:2)。
 6 Vの小ブロック、φ1~3cmのロームブロックを、黄褐色粘土小ブロック、焼土ブロック(2:2:5:1)。
 7 黄褐色粘土の小ブロック主体、Vの小ブロックを30%。

- 8 黒褐色土(10YR3/1)V主体、φ1~3cmのロームブロックを10%。
 9 黒褐色土(10YR2/2)V主体、φ0.5cmのHr-FPを1%とロームブロック2~3%含む。
 10 明黄褐色土 上部が焼土化。
 11 にふい・黄褐色土 焼土ブロック、黒褐色土、ロームブロックの混入上。
 12 明黄褐色土 焼土ブロックを5%含む。
 13 明黄褐色土 Vを10%含む。
 14 にふい・黄褐色土 φ0.5cmのロームブロックを30%含む。
 15 明黄褐色土 焼土ブロックを20%含む。

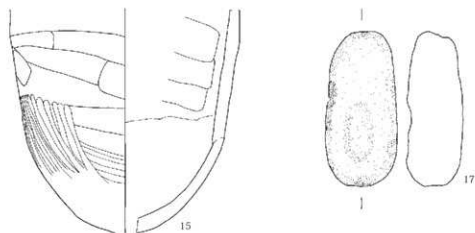


247図 J区6号竪穴建物出土遺物図(1)

IV 検出した遺構と出土した遺物



248図 J区6号竪穴建物出土遺物図(2)



249図 J区6号竪穴建物出土遺物図(3)

J区6号竪穴建物

PL.162・163

NO.	種 類	出上位置	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
1	土師器 杯	埋没上中 口縁部片	口 12.6 径 11.0	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	内面黒色処理。口縁部は横ナデ、 内面はへら磨き。	Eb-4
2	土師器 杯	+8 1/2	口 13.0 径 12.0 高 4.7	粗砂粒/良好/黒	内外面黒色処理。口縁部は横ナデ、 稜下から底部はへら削り。内面はへら磨き。	Eb-4
3	土師器 杯	+40 3/4	口 13.8 径 12.2 高 4.2	粗砂粒/良好/灰黄 褐	内面黒色処理。口縁部は横ナデ、 稜下はナデ、底部はへら削り。内面はへら磨き。	Eb-4
4	土師器 杯	床面 1/4	口 12.8 高 4.8	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	内面黒色処理。口縁部上半は横ナデ、 下半から底部はへら削り。内面底部はへら磨き。	Eb-4
5	土師器 杯	+40 口縁部片	口 13.8	粗砂粒/良好/濁灰	内面黒色処理。口縁部上半は横ナデ、 下半から底部はへら削り。内面底部はへら磨き。	Eb-4
6	土師器 杯	床面 5/6	口 15.6 高 5.0	粗砂粒/良好/灰黄 褐	内面黒色処理。口縁部上半は横ナデ、 下半はナデ、底部はへら削り。内面底部はへら磨き。	Eb-4
7	土師器 杯	カマド、床面 3/4	口 12.2 高 5.1	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	内面黒色処理。口縁部上半は横ナデ、 下半はナデ、底部はへら削り。内面はへら磨き。	Eb-4
8	土師器 杯	貯蔵穴 口縁部片	口 11.6	細砂粒/良好/橙	口唇部横ナデ、口唇部下はへら削り。	H-1
9	須恵器 高盤	+10 杯身 1/3	口 22.6 底 8.2	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。脚部は 貼付。稜下は回転へら削り。内面は カキ目。	
10	須恵器 平瓶	埋没上中 胴部片	胴 16.0	細砂粒/還元焰/灰 黄褐	ロクロ整形、胴部はへら削り。	
11	土師器 甕	カマド 1/2	口 22.8	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、胴部は縦方向へら削り。 内面胴部はへらナデ。	B
12	土師器 甕	カマド 口縁~胴部	口 20.6 胴 27.4	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部横ナデ、胴部上位は横、中位から 下位は縦方向へら削り。内面胴部は部分 的なへら磨き。	B
13	土師器 甕	埋没上中 口縁部~胴部上位片	口 18.0	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部横ナデ、胴部上位はナデ。内面 胴部はへらナデ。	
14	土師器 甕	カマド他 底部~胴部下	底 4.8	粗砂粒/良好/にぶ い橙	胴部は縦方向へら削り、底部はへら削り。 内面胴部はへらナデ。	B
15	土師器 甕	カマド、柱穴 胴部下片		粗砂粒/良好/濁灰	胴部中位は縦方向へら削り、下位はへら 磨き。内面胴部はへらナデ。	
16	土師器 甕	カマド、柱穴 胴部下片		粗砂粒/良好/にぶ い橙	胴部は縦方向へら削り。内面胴部はへら ナデ。	B
NO.	種 類	器 種	出上位置	残 存 率	計 測 値	摘 要
17	石器	敲石	掘方	完形	長 12.2 幅 5.7 厚 4.4 重 381	粗砂輝石安山岩

J区7号竪穴建物

本竪穴建物の位置はJ区調査区の中央より東寄り、 $X=75.536\sim 75.539-Y=-66.691\sim -66.694$ である。残存状態はカマド煙道部が擾乱によって欠くとともに確認面から床面まで深度が浅いためあまり良好ではない。他遺構と重複関係は南辺でJ区13号竪穴建物との重複が確認された。新旧関係は本竪穴建物のほうが新しい。

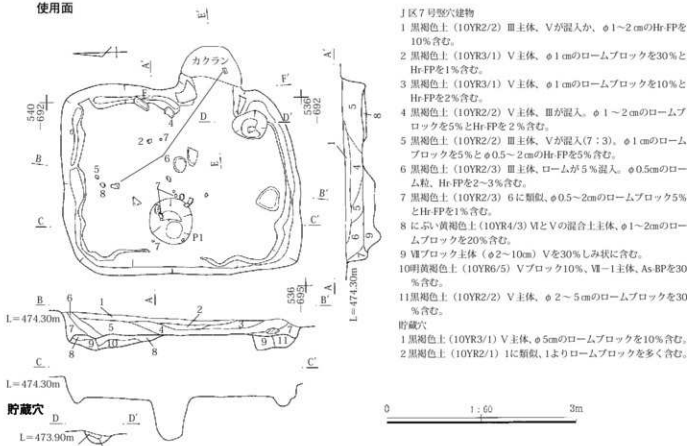
平面形態は南東角が曖昧な形状ではあるが、ほぼ長方形を呈する。規模は南北3.68m、東西2.98m、各辺長は北辺2.90m、東辺3.20m、南辺2.80m、西辺3.30m、壁高は23~47cmである。床面積は7.0㎡を測る。主軸方位は $N-90^{\circ}-E$ を指す。

内部施設は柱穴1本、貯蔵穴、周溝を検出した。柱穴は西辺中程寄りに位置する。規模は径75×68cm、深度67cmである。貯蔵穴は東南角に位置する。平面形態は楕円形に近く、規模は径54×45cm、深度24cmである。周溝はカマド部分と北西角のわずかな間を除き全周する。平面形態に凹凸が激しい状態がみられる。規模は幅使用面

20cm前後、深度3~11cmである。床面は中央部が地山をそのまま踏み固めて使用しているが、周辺部は掘方底面から10~20cmほどロームブロックを混ぜたV層やIII層で埋め戻して踏み固めている。

カマドは東辺のやや南寄りに構築されている。残存状態は焚き口、燃焼部の天井、ソデ部の上部は大きく壊された状態であった。規模は全長推定1.20m、幅1.20m、燃焼部幅0.60mである。このカマドでは補強に使用された礫は残存していなかった。また、カマド周辺部でも礫の出土がみられないことから何か別な素材を使用したか粘土やローム土だけで構築されたとみられる。

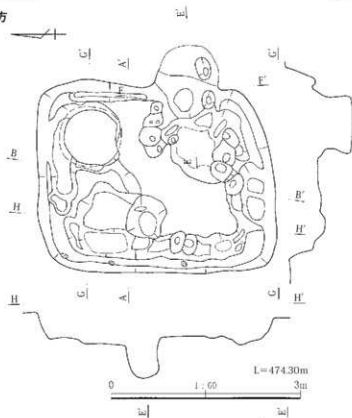
掘方は中央部では存在していないが、北半部や西辺、南辺の壁際幅50cmほどとカマド前部では床面から10~20cmほど掘り下げられていた。また、北東部では床下土坑が検出された。床下土坑は平面形態が円形に近く、底部付近では側面を横に掘り込んでいた。規模は径105×85cm、深度70cmである。この床下土坑からは遺物の出土などはみられないことからカマド構築材として使用



するⅦ-3層土、Ⅷ層土を採掘するために掘られたものとみられる。

埋没状態は土層断面で壁付近では三角状の堆積、中央部ではレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没と判断した。

掘方



遺物は散在的な出土で全体的にも遺物量は少量であった。なお、掲載した以外の土器数量は土師器杯6点、甕48点、須恵器椀1点、碗1点、甕5点であった。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から9世紀第2四半期に比定できる。

J区7号竪穴建物 カマド

1 黒褐色土 (10YR3/1) V主体、 ϕ 1cmのHe-FPを1%と ϕ 1~2cmのロームブロック5%含む。

2 ロームブロック50%と焼土ブロック10%主体、間にVが混入。

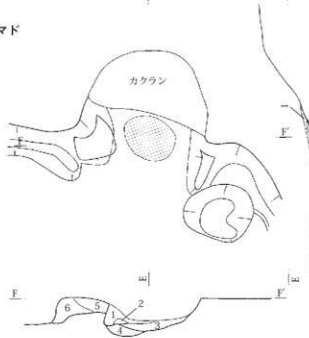
3 ロームブロック70%と焼土ブロック10%にVが混入。

4 ロームブロック主体、Vが10~20%混入。

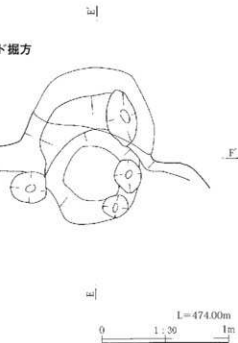
5 明黄褐色土 (2.5Y6/6) Ⅶ-3に類似、黒色土を5%含む。

6 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) VIとVの混合土。

カマド

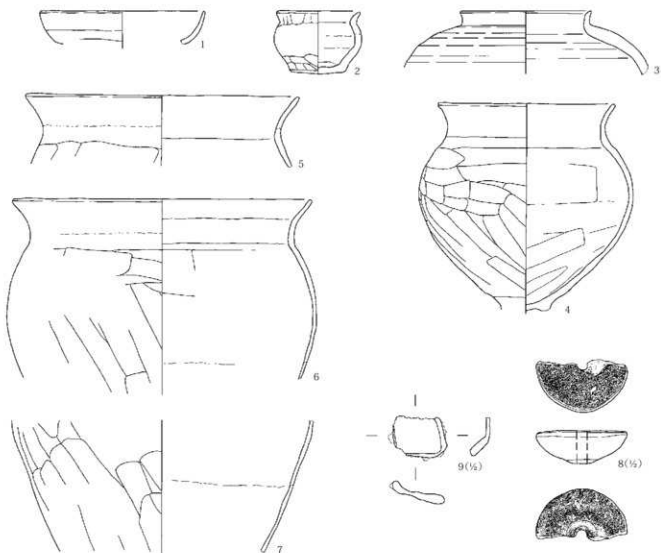


カマド掘方



251図 J区7号竪穴建物遺構図(2)

IV 検出した遺構と出土した遺物



252図 J区7号竪穴建物出土遺物図

J区7号竪穴建物

PL163

NO.	種 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
1	土師器 杯	埋没土中 口縁部片	口 12.6	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	H-4
2	土師器 小型壺	+25 1/2	口 6.2 底 4.4 胴 6.8 高 5.0	細砂粒/良好/浅黄 橙	頸部は縦方向ヘラ削り、胴部上半はナデ、下半は横 方向ヘラ削り、底部はナデ。	Cb-1
3	須恵器 須恵壺	埋没土中 口縁~胴部上位片	口 10.2	細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形。	Cb-2
4	土師器 台付甕	+14 1/3	口 13.6 胴 16.8	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部横ナデ、胴部上半横方向、下半斜め方向ヘラ 削り。底部横ナデ、内面胴部ヘラナデ。	
5	土師器 甕	+8 口縁部片	口 21.4	細砂粒/良好/にぶ い橙	頸部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部横方向 ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
6	土師器 甕	+9、カマド 口縁~胴部上半片	口 23.2 胴 24.4	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	内外面に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部上位 横、中位斜めヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。	
7	土師器 甕	+8、10、20 胴部片		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	内面胴部中に輪積み痕が残る。胴部は斜め方向ヘ ラ削り。内面はヘラナデ。	
8	土製品 紡錘車	+5 1/2	上径 4.8 下径 1.6 厚 1.7 孔 0.5	細砂粒/良好/にぶ い橙	表裏、側面とも非常に平滑になるようにナデられて いる。	
NO.	種 類	器 種	出土位置	残 存 率	計 測 値	摘 要
9	鉄器	鎌	埋没土中	端部片	長(2.1) 幅(2.9) 厚(4.0) 重(3.7)	

J区8号竪穴建物

本竪穴建物位置はJ区調査区のほぼ中央、 $X=75.530$ ～ 75.533 ・ $Y=-66.669$ ～ -66.700 である。残存状態は確認面から床面まで深度が浅いが比較的良好であった。他遺構との重複関係は東南角、南辺中程、西辺中程で土坑との重複が確認された。新旧関係は本竪穴建物のほうが古い。

平面形態は南辺が途中で折れ曲がる五角形状を呈する。規模は南北3.15m、東西2.73m、各辺長は北辺2.65m、東辺2.40m、南辺は東側1.40m、南辺西側1.50m、西辺1.75m、壁高は20～34cm、床面積は4.1㎡を測る。主軸方位は $N-80^{\circ}-E$ を指す。

内部施設は貯蔵穴、周溝、棚状施設を検出した。貯蔵穴は東辺の南東角に位置する。東辺の上部が崩落しているためか壁外に延びるような形状をとる。平面形態は楕円形を呈し、規模は 105×72 cm、深度21cmである。内部からは5の土師器甕が出土している。周溝は西辺の北半でしか検出されなかった。規模は幅10cm、深度6～10cmである。棚状施設は東辺のカマド北側に設けられている。床面から10cmほどの高さを幅72cm、奥行き25cmほど掘り残す状態であるが、北側と南側では5cmほどの段差がみられる。床面は床下土坑部分を除き地山を踏み固めてそのまま利用している。

カマドは東辺の中程に構築されている。残存状態は焚き口、燃焼部天井などは大きく壊された状態であった。規模は全長0.78m、幅0.80m、燃焼部幅0.40mである。

J区8号竪穴建物

- 1黒褐色土(10YR3/2)ⅢとⅤの混合土(7:3)。φ0.5～1cmのHr-PPを3%とφ0.5～1cmのロームブロックを3～5%含む。
- 2黒褐色土(10YR3/2)Ⅰに類似、1よりHr-PPが1%と少ないが、φ0.5～3cmのロームブロックを5～7%含む。
- 3黒褐色土(10YR3/2)Ⅰ・Ⅱに類似、φ0.5cmのロームブロックを3%とHr-PPを1%未満含む。
- 4黒褐色土(10YR2/3)Ⅴ～Ⅵの混合土。φ0.3～3cmのロームブロックを20%含む。Hr-PPは1%。
- 5黒褐色土(10YR2/3)Ⅴ～Ⅵの混合土。φ0.5～1cmのロームブロックを20%含む。
- 6黒褐色土(10YR2/2)Ⅴ～Ⅵの混合土。φ0.3～0.5cmのHr-PPを1%とφ0.5～5cmのロームブロックを10%と炭化物を1%含む。
- 7にぶい・黄褐色土(10YR4/3)Ⅴ～Ⅵの混合土。φ0.5～1cmのロームブロックを5%含む。
- 8黒褐色土(10YR2/3)Ⅴ～Ⅵの混合土。φ0.5cmのHr-PPを1%とφ0.5～3cmのロームブロックを5～10%含む。

カマドの構築には左ソデに長さ40cm、右ソデに60cmの角柱状の垂角礫、その礫の上に長さ55cmの角柱状の礫を渡すように焚き口上部の補強に使用されており、これらの礫は比較的原位置に近い状態で検出された。この他にもソデの奥や天井にも多くの礫が使用されていた。なお、7の土師器甕はカマドに掛けられて使用されていたものとみられる。

掘方はカマド前方の床面中央と北東角から2基の床下土坑と東辺の北半や南辺、西辺壁下から不規則な配置ではあるが、径7～8cm、深度10cmほどの小孔が検出された。床下土坑1は平面形態が楕円形を呈し、規模は径 84×59 cm、深度38cmである。床下土坑2は平面形態が楕円形を呈し、規模は径 103×45 cm、深度31cmである。これらの床下土坑からは遺物の出土などはみられないことからカマド構築材として使用するⅦ-3層土、Ⅷ層土を採掘するために掘られたものとみられる。

埋没状態は土層断面で壁際に三角形の堆積、中央部にレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没と判断した。

遺物はカマドや貯蔵穴からややまとまった出土がみられるが、全体的には散在的で遺物量は少量であった。なお、掲載した以外の土器数量は土師器杯1点、甕136点、須恵器杯4点、長頸壺1点、甕6点であった。

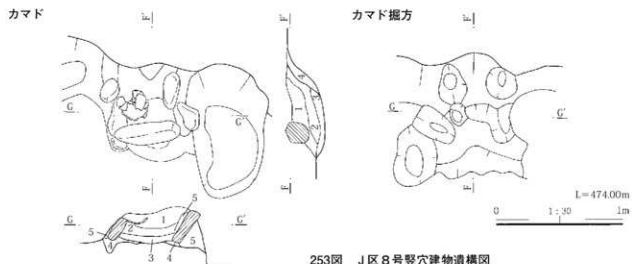
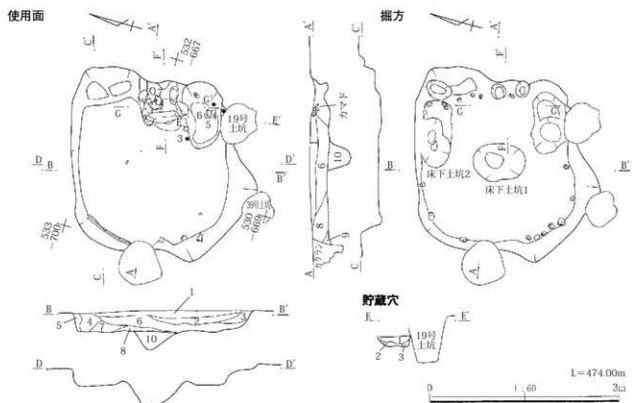
本竪穴建物の存続年代は出土遺物から9世紀第4四半期に比定できる。

- 9 黒褐色土(10YR2/3)Ⅷに類似、8よりロームブロックを10%と多く含む。Hr-PPは含まない。
- 10 黒褐色土(10YR2/2)Ⅴ主体、φ2～5cmのⅦBブロックを30～40%含む(上面床面)。

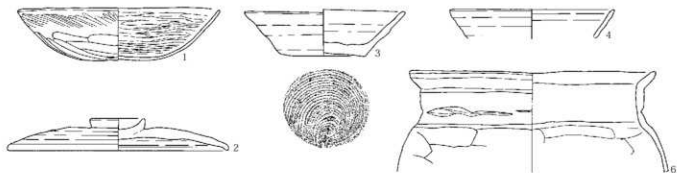
貯蔵穴

- 1 暗褐色土(10YR3/3)φ1cmのロームブロックを5%と焼土粒1%含む。
 - 2 ロームブロック主体、1を30%含む。
 - 3 1に類似、焼土粒含まず。
- カマド
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒、ローム粒、Hr-PPを1%含む。
 - 2 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒、ローム粒を2%含む。
 - 3 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒を1%、φ0.5cmのロームブロックを3%含む。
 - 4 にぶい・黄褐色土(10YR4/3)ⅤとⅦ-1の混合土(3:2)、ロームブロックを30%、焼土粒を20%含む。
 - 5 黒褐色土(10YR2/2)Ⅴ主体、ローム粒を3%、焼土ブロックを1%含む。

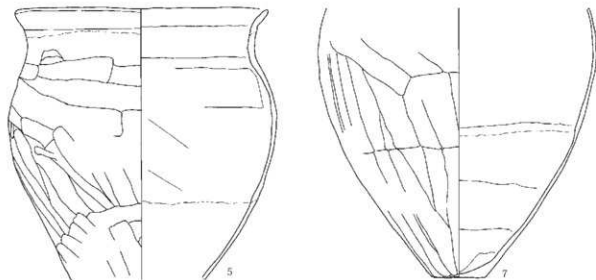
IV 検出した遺構と出土した遺物



253図 J区8号竪穴建物遺構図



254図 J区8号竪穴建物出土遺物図(1)



255図 J区8号竪穴建物出土遺物(2)

J区8号竪穴建物

PL.163・164

NO.	種器 類種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	黒色土器 杯	+15、住居内土坑 1/3	口 15.8	底 5.8	細砂粒/良好/ 深い黄褐色	内面黒色処理。口縁部上位はヘラ磨き、中位はナデ、 下位から底部はヘラ削り、内面はヘラ磨き。	
2	須恵器 杯蓋	埋没土中 1/4	口 17.2	高 4.2	細砂粒/還元焼 /灰黄	ロクロ整形、回転右回り。揃みは貼付。	
3	須恵器 杯	+10 完形	口 12.2	底 3.7	細砂粒/還元焼 /灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	Bb-3
4	須恵器 杯	埋没土中 口縁部片	口 12.8		細砂粒/還元焼 /灰黄	ロクロ整形。	
5	土師器 甕	貯蔵穴、床面 口縁~胴部下位	口 19.8	胴 21.0	細砂粒/良好/ 深い橙	内外面に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部ヘラ 削り。内面胴部はヘラナデ。	Cb-3
6	土師器 甕	カマド 口縁~胴部上位片	口 23.0		細砂粒/良好/ 深い橙	口縁部横ナデ、胴部横方向ヘラ削り。内面胴部はヘラ ナデ。	Cb-3
7	土師器 甕	カマド 底部~胴部下手	底 4.0	胴 22.0	細砂粒/良好/ 深い赤褐色	内面に輪積み痕が残る。胴部、底部ヘラ削り。内面 胴部はヘラナデ。	

J区10号竪穴建物

本竪穴建物は東辺の南側3分の2を幅1.5mほどの範囲が発掘調査範囲対象外に存在する。この範囲にはカマドや貯蔵穴が含まれるため全貌や詳細については不明な点がある。

位置はJ区調査区南端、X=75.519~75.526-Y=-66.701~-66.708である。残存状態は確認面から床面まで深度も深く良好であった。遺構との重複関係は確認されなかった。

平面形態は北東角が93°と若干広角であるが、南北に長い長方形を呈する。規模は南北6.50m、東西5.68m、各辺長は北辺5.65m、東辺は推定6.00m、南辺は推定5.00m、西辺6.20m、壁高は62~101cm、床面積は推定28.5㎡である。主軸方位は東辺にカマドが構築されて

いるとみられることからN-126°-Eを指す。

内部施設は主柱穴4本(柱穴P2は掘方調査時に調査区境界でわずかに確認した。)入口梯子柱穴1本、周溝を検出した。主柱穴は各辺壁下から1.0mほど内側で長方形に配置されている。各柱穴間の距離はP1~P2が3.00m、P2~P3が2.40m、P3~P4が3.15m、P4~P1が2.63mである。各柱穴の規模はP1が径89×77cm、深度109cm、P3が径72×57cm、深度83cm、P4が径81×73cm、深度89cmである。梯子穴は西辺壁下際に位置し、P5の南側で周溝が途切れることから判断した。P5は径43×40cm、深度16cmである。床面は中央部に比べて周辺部が4~16cmほど低い状態であった。また、掘方底面からは2~10cmほどロームブロックと黒色土を混ぜた土砂で埋め戻し踏み固めて硬化面と

IV 検出した遺構と出土した遺物

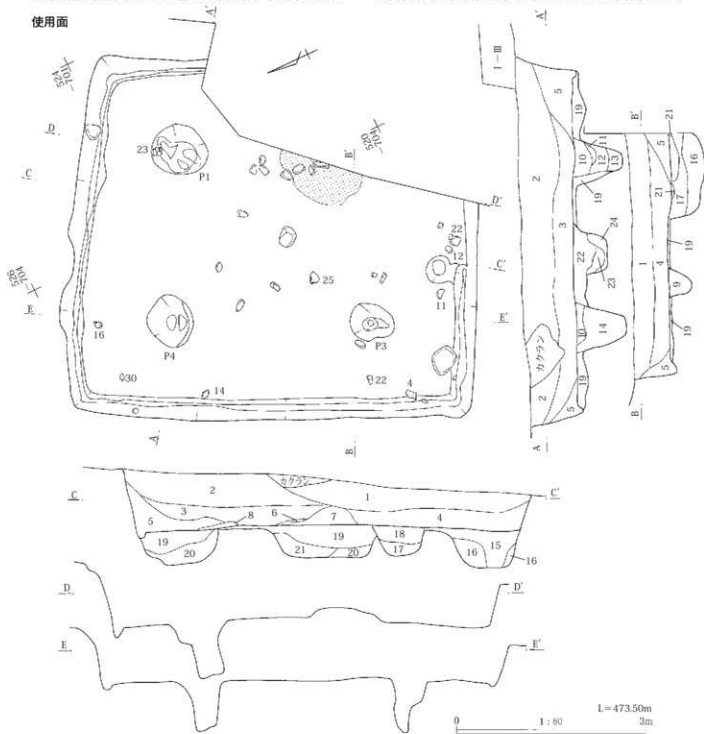
していた。

カマドは発掘調査範囲対象外に存在するが東側の調査区境界付近でカマドの破壊された土とみられる焼土を含むローム土が確認できることから東辺に構築されているとみられる。

掘方では床下土坑を6基検出した。床下土坑以外では各角付近で掘削時の凹凸が激しく残るが、中央部の各床

使用面

下土坑の間は比較的平坦で床面から2~5cmほどしか掘り込まれていなかった。床下土坑は北辺中央壁際、北東角際、西辺中央壁際、南辺中央壁際に各1基と中央部に2基位置する。平面形態は楕円形を呈する。規模は床下土坑1が径194×160cm、深度58cm、床下土坑2が径135×112cm、深度76cm、床下土坑3が径183×133cm、深度78cm、床下土坑4が径190×140cm、深度56cm、



256図 J区10号竪穴建物遺構図(1)

床下土坑5が径140×118cm、深度58cm、床下土坑6が径155+α×110cm、深度64cmである。これらの床下土坑からは床下土坑5で径10~20cmの礫が5点ほど出土しているだけでその他では遺物の出土などはみられなかった。こうした状況からすべての床下土坑には当てはまらないが、カマド構築材として使用するⅦ-3層土、Ⅷ層土を採掘するために掘られたものとみられる。

埋没状態は土層断面で中央部の7はカマドの破壊された土が残るため不自然であるが、壁付近では三角状の堆

積、中央部ではレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没と判断した。

遺物はカマド、貯蔵穴及びその周辺の遺物が集中する箇所が発掘調査範囲対象外のため散在的な出土であった。なお、掲載した以外の土器数量は土師器杯45点、甕348点、須恵器杯51点、杯蓋4点、鉢1点、長頸壺他瓶類5点、甕39点であった。

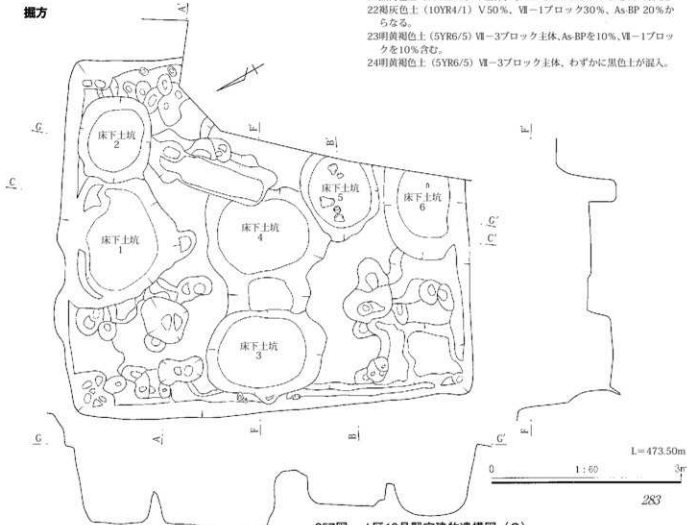
本竪穴建物の存続年代は出土遺物から8世紀第3四半期に比定できる。

J区10号竪穴建物

- 1黒褐色土 (10YR2/3) Ⅲ主体、Vが20~30%混入。φ1~2cmのHr-FPを5~7%、φ0.5~1cmのロームブロックを2~3%含む。
- 2黒褐色土 (10YR2/2) Ⅰに類似、1よりHr-FPを10%と多く含む。
- 3黒褐色土 (10YR2/3) Ⅲ・V・Ⅵの混合土(3:5:2)。φ1~2cmのHr-FPを5%とφ1~2cmのロームブロックを3%含む。
- 4黒褐色土 (10YR2/3) 3と同様、3よりHr-FP、ロームブロックが少ない。
- 5黒褐色土 (10YR2/3) 3・4と同様、Hr-FPを2~3%、ロームブロックを5%含む。
- 6黒色土ブロックとロームブロックの混合土(3:7)。
- 7暗褐色土 (10YR3/3) V主体、φ1~2cmのロームブロックを10%と焼土粒ブロックを3%含む。
- 8明黄褐色土 (2.5YR6/6) ロームブロック主体。

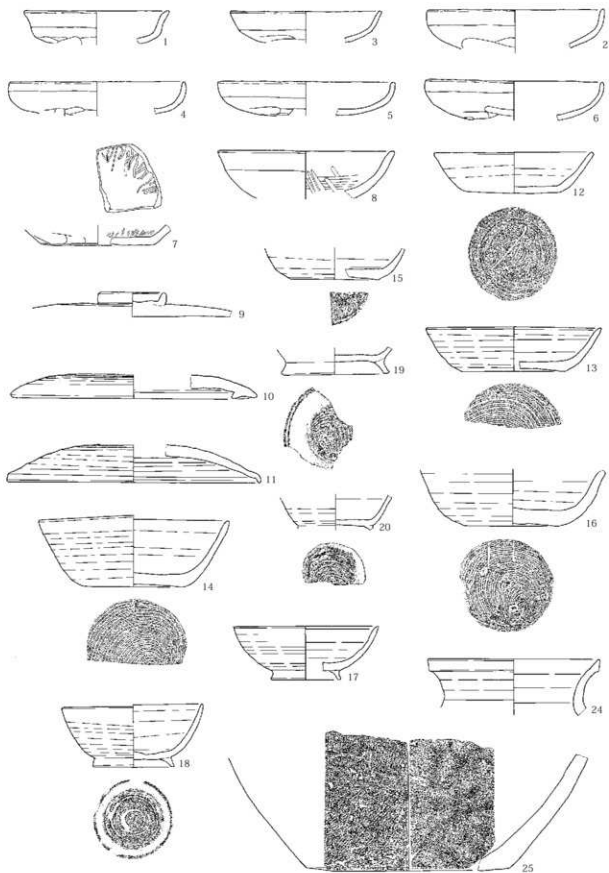
- 9暗褐色土 (10YR3/3) Ⅲ・V・Ⅵの混合土(2:4:4)。φ1cmのHr-FPを1%とφ10cmのロームブロックを20%含む。
- 10黒褐色土 (10YR3/2) Hr-FPとローム粒を含む。
- 11黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒が主体。
- 12明黄褐色土 (10YR6/6) ローム粒、ロームブロック、As-BPが主体。
- 13黒褐色土 (10YR3/2) しまりがかなり強い。
- 14黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒を含む。
- 15褐色土 (10YR4/1) V主体、Ⅵが混入(掘方15~24)。
- 16As-BPブロック30%、Ⅶ-1ブロック20%、VとⅦの混合土50%からなる。
- 17Ⅶ-1ブロック主体、V30%、As-BP10%からなる。
- 18Ⅶ-1ブロック主体、As-BP20%、V・Ⅶの混合土30%からなる。
- 1918に類似、18よりVを10%含む。
- 2019に類似、19よりVを多く含む。
- 21黒褐色土 (10YR2/2) V主体、φ1~3cmのⅦブロックを10%含む。
- 22褐色土 (10YR4/1) V50%、Ⅶ-1ブロック30%、As-BP20%からなる。
- 23明黄褐色土 (5YR6/5) Ⅶ-3ブロック主体、As-BPを10%、Ⅶ-1ブロックを10%含む。
- 24明黄褐色土 (5YR6/5) Ⅶ-3ブロック主体、わずかに黒色土が混入。

掘方

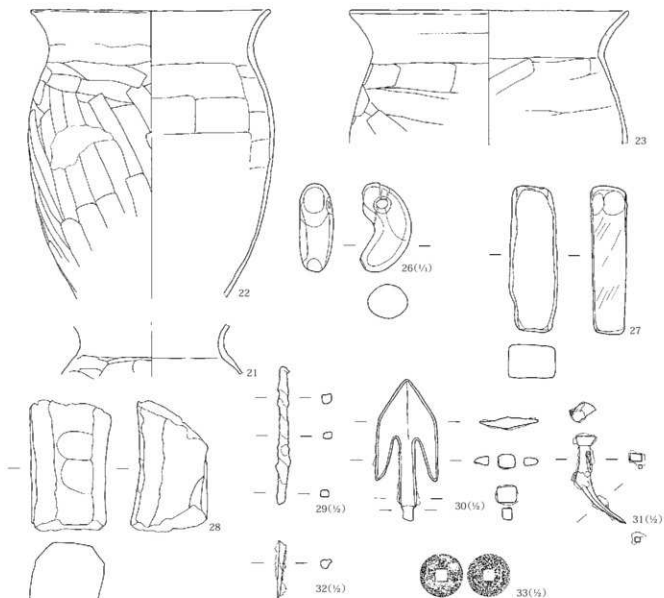


257図 J区10号竪穴建物遺構図(2)

IV 検出した遺構と出土した遺物



258図 J区10号竪穴建物出土遺物図(1)



259図 J区10号竪穴建物出土遺物図(2)

J区10号竪穴建物

PL.164

NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	埋没上中 口縁部片	口 11.2	細砂粒/良好/ぶ い黄褐色	口縁部上位は横ナデ、中位はナデ、下位はヘラ削り。	Ch
2	土師器 杯	埋没上中 口縁部片	口 13.8	細砂粒/良好/灰黄 褐色	口縁部上位は横ナデ、中位はナデ、下位はヘラ削り。	H-3
3	土師器 杯	掘方 口縁部片	口 11.8	細砂粒/良好/褐色	口縁部上半は横ナデ、下半上位はナデと下位はヘラ削り。	H-3
4	土師器 杯	+7 口縁部片	口 13.6	細砂粒/良好/褐色	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	H-3
5	土師器 杯	埋没上中 口縁部片	口 13.6	細砂粒/良好/褐色	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	H-3
6	土師器 杯	埋没上中 口縁部片	口 13.8	細砂粒/良好/褐色	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	I
7	土師器 杯	埋没上中 底部片	底 8.8	細砂粒/良好/褐色	口縁部下位・底部ともヘラ削り。内面は底部周辺から口縁部にかけて雑な放射状暗文。	甲斐型杯?

IV 検出した遺構と出土した遺物

NO.	種 類	出 土 位 置	計 測 値	胎上/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
8	黒色土器 杯	埋没上中 口縁部片	口 13.4	細砂粒/良好/ぶ い濁	内面の黒色は二次焼成により消失。口縁部上半横ナ デ、下半ナデ。内面ヘラ磨き。	
9	須恵器 杯蓋	埋没上中 揃・天井部片	揃 5.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。揃みは貼付。天井部中央 は回転ヘラ削り。	
10	須恵器 杯蓋	埋没上中 口縁部片	口 19.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部中程までは回転 ヘラ削り。	
11	須恵器 杯蓋	+20 1/2	口 19.8	細砂粒/還元焰/ぶ い・黄濁	ロクロ整形、回転右回り。天井部中程までは回転 ヘラ削り。	
12	須恵器 杯	床面 ほぼ完形	口 12.4 底 7.2 高 3.3	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転ヘラ削り。	Ca-3
13	須恵器 杯	埋没上中 1/4	口 13.6 底 8.0 高 3.5	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	Ca-3
14	須恵器 椀	+30 1/3	口 14.8 底 8.0 高 5.6	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	Aa-1
15	須恵器 椀	埋没上中 口縁下半～底部片	底 7.0	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転方向不明。底部は回転糸切り。	Aa-1
16	須恵器 椀	+30 底部～口縁部片	底 7.6	細砂粒・小礫/還 元焰/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	Aa-1
17	須恵器 椀	埋没上中 1/10	口 10.2 底 5.2 高 4.2 台 5.3	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転方向不明。底部は高台貼付時のナ デで切り離し技法不明。	Ab
18	須恵器 椀	揃方 ほぼ完形	口 10.9 底 6.2 高 4.9 台 6.4	粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。高 台は貼付。	Ab
19	須恵器 椀	埋没上中 底部片	底 7.8 台 7.6	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。高台 は貼付。	Ab
20	須恵器 椀	埋没上中 底部片	底 6.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。高台 は貼付。	Ab
21	土師器 台付甕	埋没上中 頸部～胴部上位片		細砂粒/良好/濁	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴 部はヘラナデ。	
22	土師器 甕	床面、+10 口縁部～胴部片	口 18.6 胴 19.4	細砂粒/良好/明赤 濁	外面頸部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部 はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	Ca-2
23	土師器 甕	柱穴P1 口縁～胴部上位片	口 21.6	細砂粒/良好/粗	外面頸部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部 はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	Ca-2
24	須恵器 甕	埋没上中 口縁部片	口 13.4	細砂粒/還元焰/灰 黄濁	ロクロ整形。	
25	須恵器 甕	+50 胴部下位片	底 12.0	粗砂粒/還元焰/灰	外面は平行叩き痕が残る。内面ナデ。	
NO.	種 類	器 種	出 土 位 置	残 存 率	計 測 値	摘 要
26	石製品	勾 玉	埋没上中	端部僅かに欠	長 2.36 幅1.32 厚 0.90 孔 0.28 重 2.53	デイスイト系灰岩
27	石製品	砥石	埋没上中	完形	長 11.5 幅 3.8 厚 2.6 重 247	期稜輝石安山岩
28	石製品	砥石	埋没上中	両端部欠損	長 (10.4) 幅 6.4 厚 5.3 重 (470)	変質安山岩
29	鉄製品	紡錘車	埋没上中	上部軸部片	長 (7.2) 幅 0.7 厚 0.45 重 (4.8)	
30	鉄器	有頸圓缺三角形鐵	+40	刃部～頸部	長 (7.4) 幅 3.3 厚 0.8 刃長 5.2 重 (4.9)	
31	鉄器	釘	埋没上中	ほぼ完形	長 4.8 幅 0.6 厚 0.4 頭部 1.2×0.7 重 3.4	混入品の可能性あり。
32	鉄器	釘	床面	先端部片	長 (3.1) 幅 0.6 厚 0.5 重 (0.7)	
33	鉄質	不明	埋没上中位	完形	径 2.28 厚 0.09 外半径 0.27 孔 0.61 重 1.43	混入品

J区12号竪穴建物

本竪穴建物の位置はJ区調査区のほぼ中央、X = 75.526～75.531 - Y = -66.699～-66.703である。残存状態は元宅地のため造成が行われたのか表土から確認、確認面から床面まで深度が浅いため良好な状態ではなかった。他遺構との重複関係はカマド部分で土坑と北辺や北東角で抜根痕との重複が確認された。新旧関係は本竪穴建物のほうが古い。

平面形態は西辺がやや弧状を呈するがほぼ長方形を

呈する。規模は南北4.88m、東西3.80m、各辺長は北辺3.30m、東辺4.30m、南辺3.50m、西辺4.70m、壁高は20～32cm、床面積は14.8㎡を測る。主軸方位はN-90°-Eを指す。

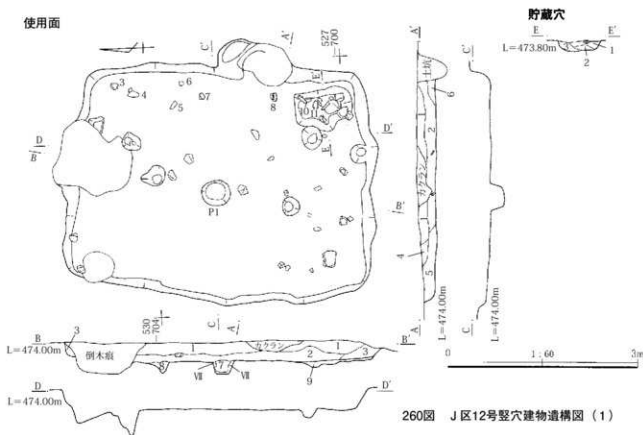
内部施設は柱穴1本と貯蔵穴を検出した。柱穴はほぼ中央に位置し、規模は径45×38cm、深度21cmである。この他にも柱穴ではみられる掘り込みが数カ所で見出されたが、深度が浅いなどで柱穴である確証はえられなかった。貯蔵穴は南東角に位置し、平面形態は長方形に

近い、規模は91×53cm、深度22cmである。床面は床下土坑部分を除きほぼ全面で地山をそのまま踏み固めて使用していた。

カマドは東辺の中央よりやや南寄りに構築されているが、その上部に土坑が掘削されているため大部分が欠く状態であった。残っていたのは地山が円形状に焼土化していることから燃焼部下部とみられる箇所であった。なお、土坑北側の段状にみられる箇所は煙道部の一部である可能性もあるが、燃焼部との位置関係からすると疑問符が付くため断定には至らなかった。

掘方は貯蔵穴に隣接する位置と南西部寄りで床下土坑を2基検出した。床下土坑1は貯蔵穴と重複するような位置のため楕円形の4分の1を欠くような形態である。

使用面



260図 J区12号竪穴建物遺構図(1)

J区12号竪穴建物

- 1 黒褐色土(10YR2/3)ⅢとⅤの混合土(5:5)。φ1~2cmのロームブロックを5%とφ1cmのロームブロックを3%含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/3)Ⅴ・ⅥとⅢの混合土(5:3:2)。φ0.5cmのHr-FPを1~2%とφ1cmのロームブロックを3%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)ⅢとⅤの混合土(7:3)。φ1~3cmのHr-FPを5%含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/3)2に類似。
- 5 黒褐色土(10YR3/2)1・2に類似、Hr-FP、ロームブロックを3%含む。

規模は径75×60cm、深度14cm、床下土坑2は平面形態が楕円形を呈し、規模は径100×80cm、深度15cmである。これらの床下土坑からは遺物の出土などはみられないが、深度もわずかしかないため他の竪穴建物の床下土坑のようにカマド構築材を採取するためとはみられない。

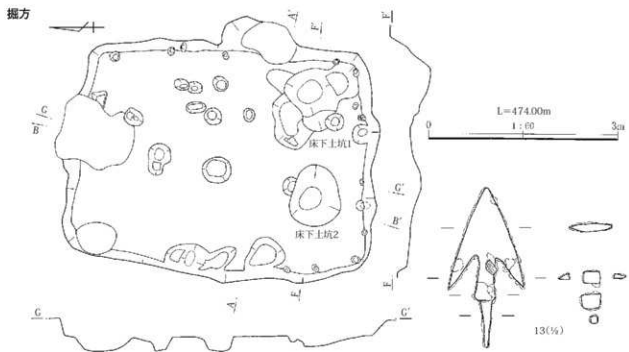
埋没状態は土層断面で壁際に三角形の堆積、中央部にほぼ水平な堆積が観察できることから自然埋没と判断した。

遺物は散在的な出土で土器などの遺物量は少量であった。なお、掲載した以外の土器数量は土師器椀1点、甕7点、須恵器甕5点だけであった。

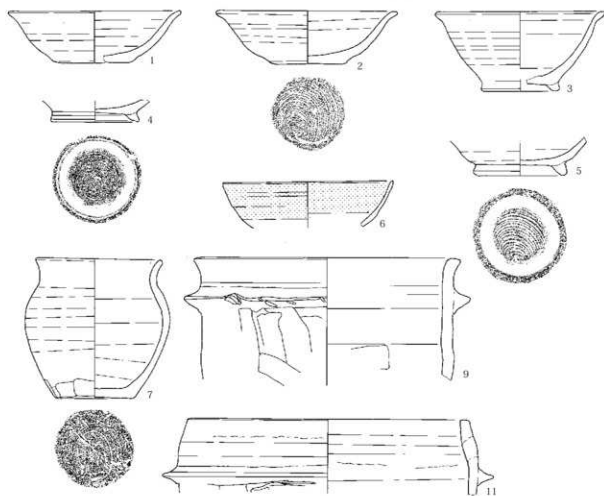
本竪穴建物の存続年代は出土遺物から10世紀第2四半期に比定できる。

- 6 黒褐色土(10YR2/3)2に近似。φ2~5cmのロームブロックを20%含む。
 - 7 黒褐色土(10YR3/1)Ⅴに類似。φ0.5cmのロームブロックを10%含む。
 - 8 黒褐色土(10YR3/1)Ⅴに類似。ローム粒を1~2%含む。
 - 9 黒褐色土(10YR2/2)Ⅴ主体、Ⅵ混入(6:4)。Ⅶ粒ブロックを2~3%含む。掘方。
- 貯蔵穴
- 1 黒褐色土(10YR2/2)Ⅴと同様。ローム粒1%含む。
 - 2 黒褐色土(10YR2/3)Ⅴ主体。φ1~5cmのロームブロックを10%含む。
 - 3 ロームブロック主体、Ⅴが30%混入。

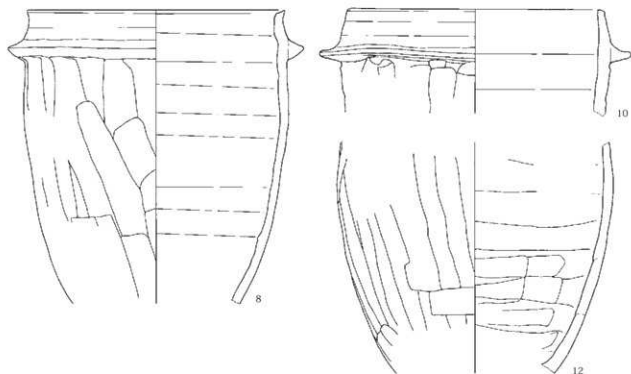
IV 検出した遺構と出土した遺物



261図 J区12号竪穴建物遺構図(2)



262図 J区12号竪穴建物出土遺物図(1)



263図 J区12号竪穴建物出土遺物図(2)

J区12号竪穴建物

PL.165

NO.	種類	器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	須恵器	椀	+20 1/5	口 13.2 底 6.4 高 4.1	細砂粒/酸化焰 ぞみ/灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転系切り。	De-3
2	須恵器	椀	+20 完形	口 14.0 底 5.8 高 4.4	細砂粒/還元焰 /灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り。	De-3
3	須恵器	椀	貯蔵穴 1/6	口 13.0 底 6.0 高 6.3 台 5.2	細砂粒/還元焰 /灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切りである が、高台内側は高台貼付時のナデで消失。	B-1
4	須恵器	椀	床面 底部	底 6.8 台 6.8	細砂粒/還元焰 /灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り。高台 は貼付。	
5	須恵器	椀	床面 底部~口縁下半	底 7.0 台 6.6	粗砂粒/還元焰 /灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り。高台 は貼付。	内面焼成。
6	灰釉陶器	椀	埋没上中 口縁部片	口 13.4	夾雑物無/還元 焰/灰白	ロクロ整形。施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯式附
7	土師器 小型甕	甕	+8 口縁部1/2欠	口 9.8 胴 11.0 底 6.2 高 11.1	細砂粒/良好/ ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。胴部最下部はへら削り、 底部は回転系切り。	北陸系ロクロ甕。
8	須恵器	羽釜	貯蔵穴、床面、+10 口縁~胴部上位片	口 20.2 跨 22.2	粗砂粒/酸化焰 /灰黄	ロクロ整形。跨は貼付。胴部は跨へ向けての縦方向 へら削り。	
9	須恵器	羽釜	埋没上中 口縁~胴部上位片	口 18.6 跨 22.6	粗砂粒/酸化焰 /ぶい黄橙	ロクロ整形。跨は貼付。胴部は跨へ向けての縦方向 へら削り。	
10	須恵器	羽釜	埋没上中 口縁~胴部上位片	口 19.4 跨 24.6	粗砂粒/還元焰 /灰白	ロクロ整形。跨は貼付。胴部は跨へ向けての縦方向 へら削り。	
11	須恵器	羽釜	埋没上中 口縁~胴部上位片	口 21.0 跨 26.0	粗砂粒/酸化焰 /ぶい黄橙	内外面に輪積み面が残る。ロクロ整形。跨は貼付。 胴部は跨へ向けての縦方向へら削り。	
12	須恵器	羽釜	貯蔵穴 胴部片		粗砂粒/酸化焰 /ぶい黄	ロクロ整形。胴部は縦方向へら削り。内面下半はへ らナデ。	
NO.	種類	器種	出土位置	残存率	計測値	摘要	
13	鉄器	有頸圓胴三角形鐵	床面	対部~頸部	長(8.4) 幅 4.1 厚 1.0 対長 5.2 重(23.1)		

J区13号竪穴建物

本竪穴建物の位置はJ区調査区のほぼ中央、X = 75.529 ~ 75.534 - Y = -66.694 ~ -66.698である。残存状態は元宅地のため造成が行われたのか表土から確認面、確認面から床面までが浅いため良好な状態ではなかった。他遺構との重複関係は北東部でJ区7号竪穴建物、北西部で土坑との重複が確認された。新旧関係は竪穴建物と土坑より本竪穴建物のほうが古い。

平面形態は南辺が他の辺比べて1.0~1.2mほど短い矩形を呈する。規模は南北3.74m、東西3.68m、各辺長は北辺が推定3.70m、東辺が推定3.70m、南辺2.60m、西辺3.50m、壁高は20~33cm、床面積は11.2㎡を測る。主軸方位はN-60°-Eを指す。

内部施設は柱穴1本と貯蔵穴を検出した。柱穴は北西部の南辺から60cm、西辺から50cm内側に位置する。規模は径39×34cm、深度13cmである。深度が非常に浅いため柱穴かどうかは疑問が残る。貯蔵穴は南辺の中程に位置する。調査時には壁外に延びることから重複する遺構ではないかと想定したが、土層断面では明確な区分が確認されなかったことや2の土師器杯と竪穴建物内から出土した土器との時間差がみられないことから貯蔵穴とした。なお、通常の貯蔵穴とは形態や位置が異なることから用途については検討の余地があると思われる。形態は不整形形を呈し、規模は径100×80cm、深度23cmである。

J区13号竪穴建物

- 1 黒褐色土 (10YR2/3) III主体、φ1~2cmのHr-FPを5%、φ1cm前後のロームブロックを2~3%含む。
 - 2 暗褐色土 (10YR3/3) III・V・Mの混合土 (4:4:2)、φ1cmのHr-FP、ロームブロックを3%含む。
 - 3 黒褐色土 (10YR2/2) V主体、φ0.5cmのHr-FPとロームブロックを1~2%含む。
 - 4 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) V・VI・VIIの混合土、φ1cmのロームブロックを10%含む。
 - 5 黒褐色土 (10YR2/2) V主体、φ10cmのロームブロックを10%含む。
 - 6 明黄褐色土 (2.5YR6/5) VII-1主体、Vブロックを10~20%含む。
 - 7 VII-1ブロック (φ2~20cm) 主体、VI・Vブロック(2:1)を30%含む。床下土坑、上面床面。
 - 8 黒褐色土 (10YR3/1) V主体、φ2~5cmのVIIブロックを30%含む。
 - 9 VII-1ブロック主体、Vブロックを20%とHr-FPを1%含む。
- カマド
- 1 黒褐色土 (10YR2/2) Vに類似、焼土粒、ローム粒を5~7%含む。
 - 2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) φ1~3cmのロームブロックを主体、黒

床面は床下土坑部分と北西角付近を除き地山をそのまま踏み固めて使用している。

カマドは東辺の南端に構築されている。残存状態は焚き口や燃焼部、煙道部の天井は大きく壊され、ソデもごくわずかが残る状態であった。規模は全長0.87m、幅0.90m、燃焼部幅0.54m、煙道部は壁外に45cm延びる。

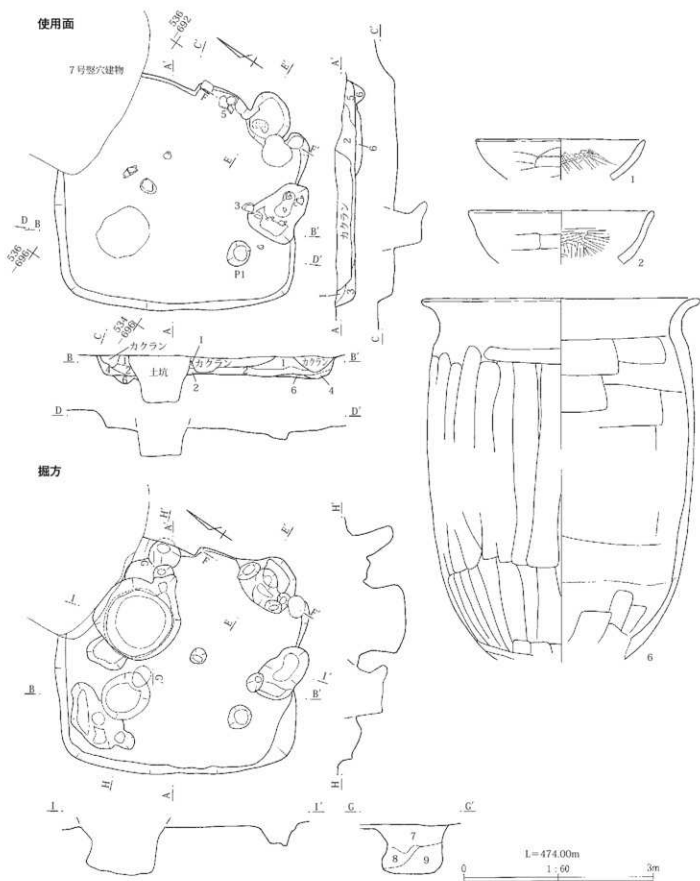
掘方は北東部に位置する床下土坑と北西角付近以外は地山をそのまま使用しているため存在しない。北西角付近は長さ2.0m、幅0.5mほどの範囲が深度10~15cmほど掘り込まれており、底面には掘削時の凹凸が若干残る。床下土坑は平面形態が楕円形に近く、底部付近の側面は横に掘り込まれていた。規模は径1.28×1.20m、深度76cmである。この床下土坑からは遺物の出土などはみられないことからカマド構築材として使用するVII-3層土、VIII層土を採掘するために掘られたものとみられる。

埋没状態は土層断面で上部が攪乱を受けているため不明確な点が多いが水平堆積とみられる箇所が観察できることから自然埋没と判断した。

遺物はカマドや貯蔵穴からややまとまった出土がみられるが、全体的には散在的で遺物量は少量であった。なお、掲載した以外の土器数量は土師器碗1点、甕7点、須恵器甕5点だけであった。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から7世紀第4四半期に比定できる。

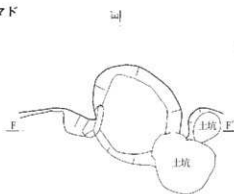
- 褐色土40%と焼土粒10%含む。
- 3 黒褐色土 (10YR3/1) Vの流れ込み、焼土粒なし。
- 4 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 天井の崩落土、焼土ブロック30%と黄灰褐色粘土ブロック20%含む。
- 5 黒褐色土 (10YR2/2) V主体、黄灰褐色粘土ブロック30%、焼土ブロック20%、Vブロック20%からなる。
- 6 ロームブロック40%、V40%、焼土ブロック20%、ソデの崩壊土。
- 7 明黄褐色土 (2.5Y6/5) ローム主体、Vを20%混入、ソデの下部?
- 8 暗褐色土 (10YR3/3) V主体、焼土粒10%とφ0.5~2cmのロームブロックを3%含む。
- 9 VI・VIIの混合土、左ソデの構築土。
- 10 ロームブロック。
- 11 10に類似、ロームブロック30%含む。
- 12 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) VとVIIの混合土、ローム粒10%含む。
- 13 赤褐色土 焼土。
- 14 明黄褐色土 (2.5Y6/6) VII主体、5%ほどVが混入、上部は焼土化。燃焼部底面か。



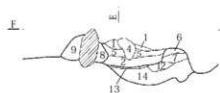
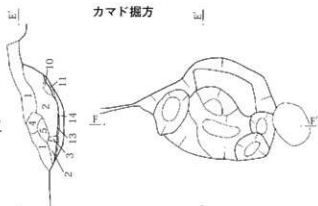
264図 J区13号竪穴建物遺構図(1)・出土遺物図(1)

IV 検出した遺構と出土した遺物

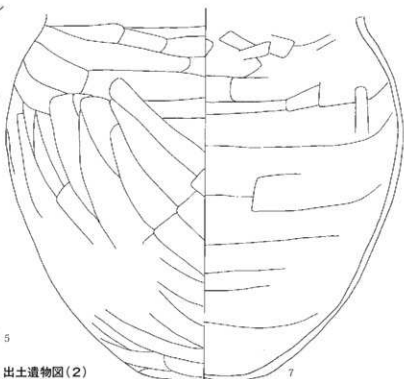
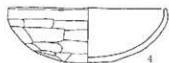
カマド



カマド掘方



L=474.00m
0 1.30 1m



265図 J区13号竪穴建物遺構図(2)・出土物図(2)

PL.165

J区13号竪穴建物

ND.	種 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
1	土師器 杯	埋没上中 口縁部片	口 13.0	細砂粒/良好/にぶ い黄	内面黒色処理。口縁部上半は横ナデ、下半はヘラ削り。内面はヘラ磨き。	Eb-4
2	土師器 杯	貯蔵穴 口縁部片	口 14.2	細砂粒/良好/にぶ い黄	内面黒色処理は2次焼成のため消失か。口縁部上半横ナデ、下半ヘラ削り。内面はヘラ磨き。	Eb-4
3	土師器 杯	床面 口縁部片		細砂粒/良好/にぶ い黄	内面黒色処理。口縁部上半は横ナデ、下半はヘラ削り後ヘラ磨き。内面はヘラ磨き。	
4	土師器 杯	カマド 1/2	口 12.2 高 4.2	細砂粒/良好/粗	口唇部は横ナデ、口縁部から底部はヘラ削り。	H-4
5	須恵器 杯蓋	+6 完形	口 16.8 横 4.4 高 3.8	細砂粒/還元焰/灰 白	ロケロ整形、回転左回り。掴みは貼付。天井部中程までは回転ヘラ削り。	
6	土師器 甕	カマド 口縁~胴部	口 21.4	粗砂粒/良好/にぶ い黄	口唇部は横ナデ、胴部は縦方向ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
7	土師器 甕	カマド、床直 頸部~底部	胴 31.2 底 6.4	細砂粒/良好/粗	頸部は横ナデ、胴部から底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

J区15号竪穴建物

本竪穴建物は発掘調査を行った範囲が全体の4分の1程度で大部分は発掘調査範囲対象外に存在するため全貌や詳細については不明である。また、本竪穴建物からは大量の炭化材が出土している。出土した炭化材は大部分が屋根材としての垂木が占めるが、一部には柱材や梁または桁材とみられるものも存在した。炭化材については代表的なものについて樹種同定を行っている。その結果は363～367頁「V自然科学分析 生品西浦遺跡II竪穴建物出土炭化材の樹種同定」を参照されたい。なお、本竪穴建物ではカマドが発掘調査範囲対象外に存在するため建物の焼失状況などについては不明である。

位置はJ区調査区中央よりやや西寄りの南端、 $X = 75.513 \sim 75.518 - Y = -66.708 \sim -66.710$ である。残存状態は調査範囲内では掘損によって北辺の上位を一部欠くが比較的良好であった。他遺構との重複関係は西辺で縄文時代の落し穴J区54号土坑との重複が確認された。新旧関係は当然本竪穴建物の方が新しい。

平面形態は方形または長方形を呈する。規模は南北 $3.00m + a$ 、東西 $5.52m$ 、辺長は北辺が $3.00m + a$ 、西辺が $5.50m$ 、壁高が $40 \sim 44cm$ を測る。主軸方位はカマドが東辺に構築されているならば $N-105^\circ-E$ を指す。

内部施設は柱穴2本と周溝を検出した。柱穴は各辺壁下から $1.0m$ ほど内側に配置されている。柱穴間距離は $2.63m$ 、規模は南側のP1が径 $27 + a \times 32cm$ 、深度 $69cm$ 、P2が径 $43 \times 36cm$ 、深度 $47cm$ である。周溝は発掘調査範囲内では全周する。規模は幅 $15 \sim 18cm$ 、深度 4

$\sim 14cm$ である。床面は中央部では地山をそのまま踏み固めているが、周辺部では掘方や床下土坑が存在するためV層に多量のロームブロックを混ぜた土で埋め戻して踏み固め硬化面としていた。

掘方は床面で記したように柱穴間の外側だけで確認され、北辺壁際では床下土坑が検出された。掘方は床面より $15 \sim 25cm$ ほど掘り込まれ、底面は北西角付近は比較的平坦であったが、南西角付近は掘削時の凹凸がそのまま残っていた。床下土坑は北辺壁直下に位置し、平面形態は楕円形を呈する。底面付近の側面では横に掘り込まれており、壁面側は壁面より $15cm$ ほど掘り込まれていた。規模は径 $160 + a \times 105cm$ 、深度 $64cm$ である。この床下土坑からは遺物の出土などはみられないが、深度もわずかしかないため他の竪穴建物の床下土坑のようにカマド構築材を採取するためとはみられない。

埋没状態は土層断面で中央北半部で土坑状の掘り込みがみられなど一部の堆積状態に不自然な点が観察できるが、その他では壁際が三角形の堆積、中央部にほぼ水平な堆積が観察できることから自然埋没と判断した。

遺物は炭化材以外は南西角付近でややまとまった出土が確認されたが、全体的には散在的な出土状態であった。なお、掲載した以外の土器数量は土師器杯3点、甕71点、黒色土器杯1点、須恵器杯蓋1点、壺5点、甕3点であった。

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から8世紀第1四半期に比定できる。

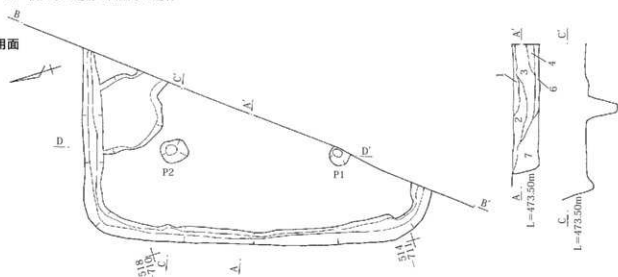
J区15号竪穴建物

- 1黒褐色土(10YR2/3) V～VIの混合土(4:3:3)、 $\phi 0.5 \sim 5cm$ のロームブロック20%と $\phi 5cm$ の焼上ブロック(ロームの焼上化)を3%含む。
- 2黒褐色土(10YR2/2) III主体、 $\phi 1 \sim 2cm$ のHr-FPを3%と $\phi 1cm$ 前後のロームブロックを3%含む。
- 3黒褐色土(10YR2/2) 2に類似、2よりロームブロックが5%と多く炭化材を含む。
- 4黒褐色土(10YR3/1) V～VIの混合土、 $\phi 1cm$ のHr-FPを1%、 $\phi 3cm$ のロームブロックを1%、炭・焼上粒を含む。
- 5黒褐色土(10YR2/3) V～VI主体、 $\phi 1 \sim 2cm$ のHr-FPを1～2%と $\phi 0.5cm$ のロームブロックを2%、焼上粒・炭化材を含む。
- 6黒色土(10YR2/1) 5に類似、焼上粒・炭化材・灰を多量に含む。
- 7暗褐色土(10YR3/3) V～VIの混同土、炭化材を多量に含む。

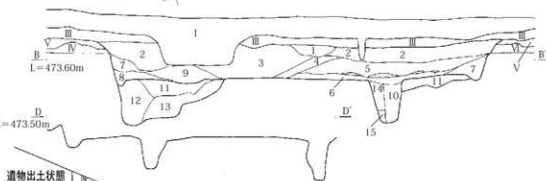
- 8暗褐色土(10YR3/3) 7に類似。
- 9黒褐色土(10YR2/3) 2・3に類似、焼上ブロック・炭化材を10%含む。
- 10明黄褐色土(2.5Y6/6) VII主体(ブロック状)、Vが10～20%混入。
- 11黒褐色土(10YR3/1) V主体、 $\phi 2 \sim 5cm$ のVII-1ブロックを30～40%、炭化物を1%含む(掘方11～15)。
- 12にぶい黄褐色土(10YR5/3) VとVIの混合土(3:7)、 $\phi 5cm$ のVIIブロックを20%含む。
- 13 $\phi 3 \sim 10 \cdot 20cm$ のVIIブロック主体、ブロックの間にVが30%混入。
- 14にぶい黄褐色土(10YR4/3) VI・VIIの混合土? $\phi 1 \sim 3cm$ のVII-1ブロックを30%含む、掘方。
- 15灰黄褐色土(10YR4/2) V～VIの混合土(2:2:6)、 $\phi 1cm$ のVII-1ブロックを10%含む。

IV 検出した遺構と出土した遺物

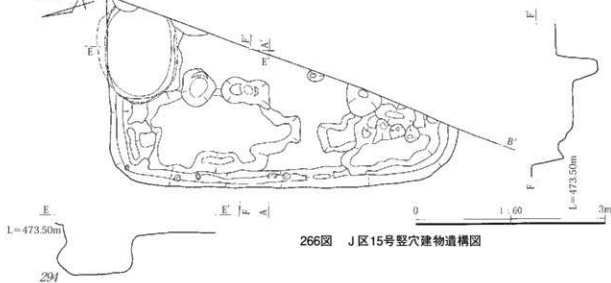
使用面



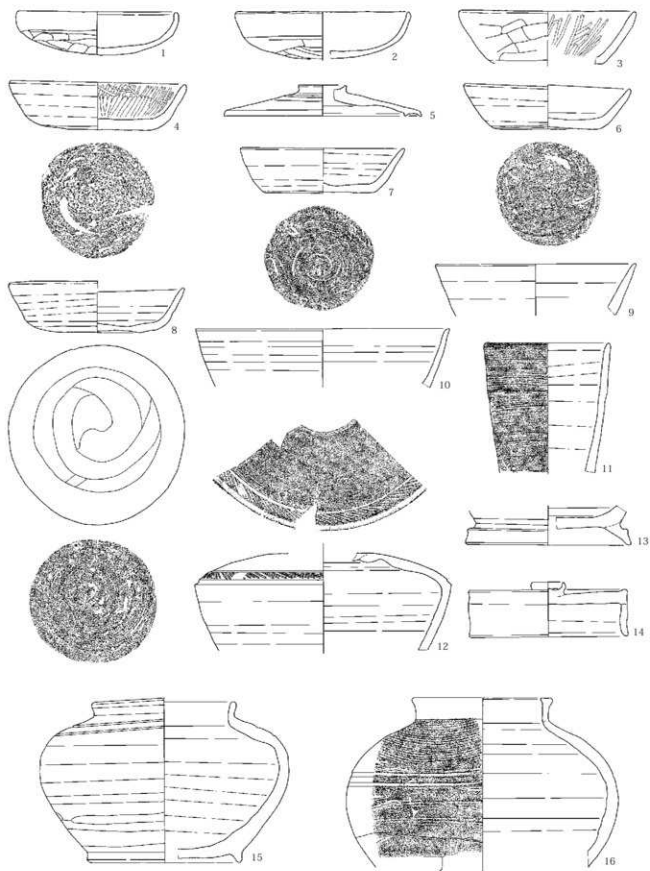
遺物出土伏態



掘方

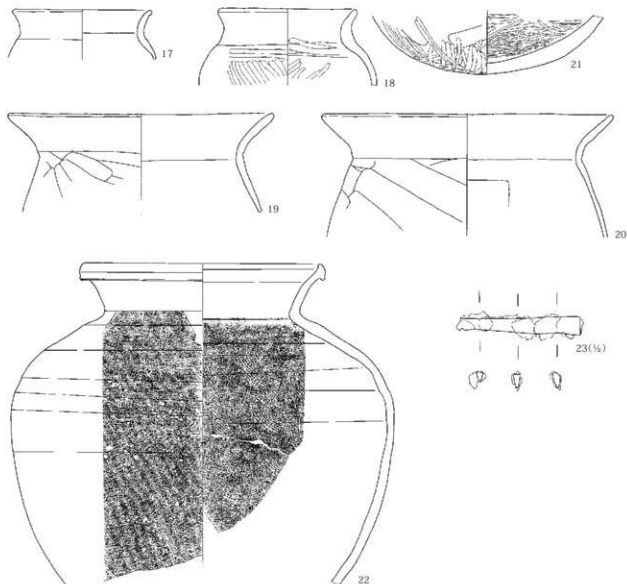


266図 J区15号竪穴建物遺構図



267图 J区15号竖穴建物出土遺物图(1)

IV 検出した遺構と出土した遺物



268図 J区15号竪穴建物出土遺物図(2)

J区15号竪穴建物

PL.165・166

NO.	種器類種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	+9 完形	口 12.4 高 3.4	細砂粒/良好/ぶい黄褐色	口縁部上半は横ナデ、下半から底部はへら削り。	H-2
2	土師器 杯	埋没上中 1/4	口 13.4 高 3.7	細砂粒/良好/ぶい黄褐色	口縁部上半は横ナデ、下半から底部はへら削り。	H-2
3	土師器 杯	埋没上中 口縁部片	口 13.6 底 9.4	粗砂粒/良好/明褐色	口唇部横ナデ、口縁部へら削り。内面口縁部は雑な斜放射状暗文。	1
4	黒色土器 杯	+19 ほぼ完形	口 13.6 底 9.2 高 3.8	粗砂粒/酸化焰/ぶい黄褐色	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部回転へら削り。内面へら磨き。	
5	須恵器 杯蓋	+30 1/3	口 15.4 横 3.6 高 2.4	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。握みは貼付、天井部は端部手前まで回転へら削り。	
6	須恵器 杯	+34 完形	口 13.0 底 8.2 高 3.5	粗砂粒/酸化焰/明黄褐色	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転へら削り。	Ca-1
7	須恵器 杯	+9 完形	口 12.8 底 8.4 高 3.5	粗砂粒/還元焰/暗灰黄	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転へら削り。	Ca-1
8	須恵器 杯	+6 完形	口 13.7 底 10.0 高 4.0	粗砂粒/酸化焰/暗	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転へら削り。	Ca-1

NO.	種 類	出 土 位 置	計 測 値	胎上/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
9	須恵器 椀	埋没上中 口縁部片	口 15.6	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形。	
10	須恵器 椀	埋没上中 口縁部片	口 19.8	粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。	
11	須恵器 長頸壺	埋没上中 口縁部片	口 9.6	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。口縁部上半にカキ目。	
12	須恵器 長頸壺	埋没上中 胴部片	胴 20.0	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回りか。胴部胴縁部に凹線による区画。その間に判文が記される。	
13	須恵器 長頸壺	埋没上中 底部片	底 11.6 台 12.8	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。高台は貼付。底部はナデ。	
14	須恵器 短頸壺蓋	+11,10号竪穴建物 3/4	口 12.2 横 2.4 高 4.3	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部ヘラナデ。天井部と口縁部の間に輪積み痕が残る。	
15	須恵器 短頸壺	+17, 30 1/3	口 11.8 胴 19.6 底 12.2 高 13.0	粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付、胴部は回転ヘラ削り。胴部に凹線が2条走る。	
16	須恵器 短頸壺	埋没上中 口縁~胴部片	口 9.2 胴 21.4	細砂粒・黒色粒 /還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。胴部は下位が回転ヘラ削り。中位・上位にカキ目。	
17	土師器 小型甕	埋没上中 口縁~胴部上位片	口 10.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ。胴部は横方向ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
18	土師器 小型甕	+17 口縁~胴部上位片	口 10.4	粗砂粒/良好/暗褐	内面黒色処理。口縁部は横ナデ。胴部はヘラ磨き。内面胴部はヘラナデ後ヘラ磨き。	
19	土師器 甕	床面 口縁~胴部上位片	口 20.6	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部上位は斜め方向ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	Ca-1
20	土師器 甕	+33 口縁~胴部上位片	口 22.6	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部上位は斜め方向ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	Ca-1
21	土師器 甕	+15 底部片		粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	外面はヘラ削り後ヘラ磨き。内面はヘラ磨き。	
22	須恵器 甕	+15, 30, 38 口縁~胴部片	口 18.6 胴 30.0	細砂粒/還元焰/灰 黄	口縁部ロクロ整形。胴部は平形印直線をナデ削っている。内面胴部も同心円状アテ具痕が残る。	
NO.	種 類	器 種	出 土 位 置	残 存 率	計 測 値	摘 要
23	鉄器	刀子	埋没上中	柄~刃部片か	長(7.7) 幅 1.3 厚 0.4 重(6.5)	

J区16号竪穴建物

本竪穴建物は発掘調査前に家屋が存在していたため南半を攪乱によって欠くとともに家屋の基礎などによって上部を造成され表土を削られた状態であった。そのため全貌や詳細については不明である。なお、西辺壁下での周溝の様相から南端が南西角にあたる想定される。

位置はJ区調査区の東部、J区3号竪穴建物と7号竪穴建物の間、 $X=75.535\sim 75.541$ 、 $Y=-66.687\sim -66.691$ である。残存状態は前記のように確認面から床面まで深度が非常に浅いため良好な状態ではなかった。他の遺構との重複関係は攪乱との重複は確認されたが、中近世以前の遺構との重複は確認されなかった。

平面形態はほぼ長方形を呈する。規模は南北4.28m、東西3.37m、各辺長は北辺3.70m、東辺2.00m+a、西辺4.05m、壁高は17~24cm、床面積は推定11.8㎡を測る。主軸方位は長軸方向でN-140°-Eを指す。

内部施設は周溝を検出した。周溝は西辺の一部で確認できなかったが、この付近は上部の攪乱が床面及びその

下部まで及んでいるためとみられ、本来はカマドが構築されている部分を除き全周するとみられる。規模は幅15~20cm、深度5cm前後である。床面はVII-1層のロームブロックを主体に若干のV層の黒色土を混ぜた土を2~5cmほど埋め戻して踏み固めて硬化面としていた。カマドは東辺や東辺の延長上の攪乱内外で痕跡などもみられないことから南辺に構築されたか元々構築されていなかった可能性がある。

掘方は中央部や北東角、北西角付近で5~15cmの浅い掘り込みが検出されたが、床下土坑のような施設は検出されなかった。

埋没状態は確認面から床面まで20cm前後と深度が浅いため土層断面でも中央部は単一土の確認しかできないが壁際では三角形の堆積が観察できることから自然埋没と判断した。

遺物は散在的な出土で土器などの遺物量は少量であった。なお、掲載した以外の土器数量は土師器杯4点、甕13点だけであった。

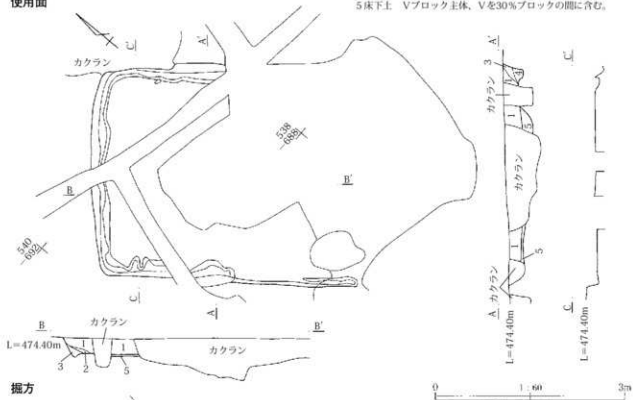
IV 検出した遺構と出土した遺物

本竪穴建物の存続年代は出土遺物から8世紀前半以降に比定できる。

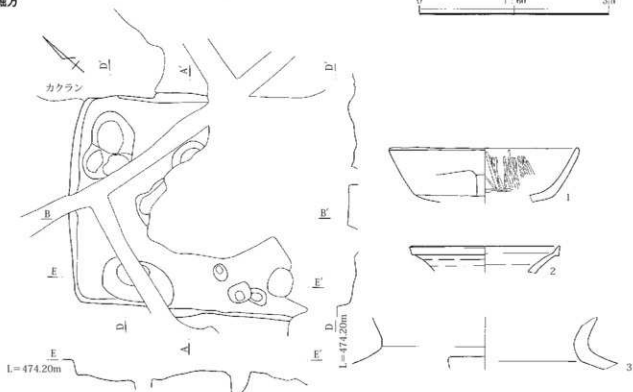
J区16号竪穴建物

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) Ⅲ主体、 ϕ 1cmのHr-FPを3%と ϕ 1cmのロームブロックを2~3%含む。
- 2 ⅢとⅤブロックの混合土 (7:3)。
- 3 黒褐色土 (10YR3/1) Ⅲ・Ⅴの混合土、 ϕ 0.5cmのHr-FPを1%含む。
- 4 ⅢとⅤブロックの混合土 (5:5)。
- 5 床下土 Ⅴブロック主体、Ⅴを30%ブロックの間に含む。

使用面



掘方



269図 J区16号竪穴建物遺構図

270図 J区16号竪穴建物出土遺物図

J区16号竪穴建物

NO.	種器類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	埋没土中 口縁部片	□ 14.6 底 10.8	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部上半は横ナデ、下半から底部はへら削り。内面口縁部は斜放射状暗文。	1
2	須恵器 長頸壺	埋没土中 口縁部片	□ 11.8	細砂粒/還元焼/灰	ロクロ整形。	
3	土師器 甕	+5 頸部片		細砂粒/良好/ぶい黄褐色	口縁部横ナデ、胴部へら削り。内面胴部はへらナデ。	

(2) 掘立柱建物

F区1号掘立柱建物

本掘立柱建物はF区調査区の中央部、 $X=75.380\sim 75.387-Y=-66.852\sim -66.858$ に位置する。残存状態は良好であった。他遺構との重複関係は確認されなかった。

平面形態はわずかな歪みがみられるが南北方向に長い長方形を呈する。規模は梁行2間×桁行3間、梁行の北側柱列が2.92m、南側柱列3.10m、桁行の東側柱列5.60m、西側柱列5.45m、側柱列内の面積は16.3㎡を測る。なお、桁行の方位は $N-30^{\circ}-E$ を指す。

柱間距離は梁行が1.33～1.65m、桁行が1.70～1.93m、各柱穴は柱を抜き取っているためか平面形態が楕円形状を呈するものが多く、断面形態も片方の側面の途中に段をもつものが多い。規模は最大が柱穴P1、最小が柱穴P4であるが、概ね径が50cm前後である。深度は44～72cmで、底面の標高は468.61～468.81mの間である。柱痕はP10の土層断面で確認できたものが径18cmであるが、底面の状態が良好なものの径が20～25cmであることから実際の柱は径20～25cmの太さであったと想定される。

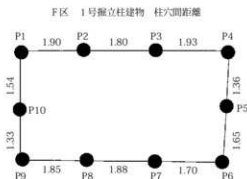
遺物は出土していない。

本掘立柱建物存続年代は出土遺物がないため明確にできないが、形態や柱穴の状態などから奈良時代から平安時代前期に比定できる。また、本掘立柱建物の東側柱列とF区2号掘立柱建物の西側柱列がほぼ揃えられていることからF区2号掘立柱建物と同時代に存在していたと想定される。

F区1号掘立柱建物柱穴

単位 cm

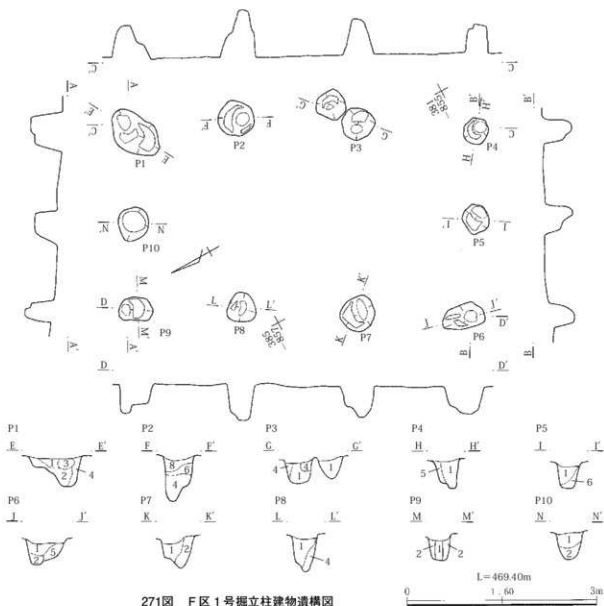
柱穴NO.	平面形態	長径	短径	深度	底面標高(m)
P1	不整形	92	56	53	468.81
P2	円形	57	56	72	468.60
P3	楕円形	52	50	57	468.71
P4	楕円形	41	37	46	468.81
P5	楕円形	46	42	44	468.80
P6	楕円形	68	38	45	468.73
P7	楕円形	53	52	48	468.68
P8	不整形	46	46	60	468.61
P9	楕円形	53	37	46	468.74
P10	矩形	49	46	51	468.74



F区1号掘立柱建物

- 1 黒褐色土 Hr-FPを5%含む。
- 2 黒褐色土 Hr-FPを5%、 $\phi 1\sim 2$ cmのロームブロックを10%含む。
- 3 黒褐色土 Hr-FPを5%、 $\phi 1\sim 2$ cmのロームブロックを20%含む。
- 4 黒褐色土 Hr-FPを5%、 $\phi 5$ cm前後のロームブロックを10%含む。
- 5 黒褐色土 Hr-FPを5%、 $\phi 1\sim 2$ cmのロームブロックを20%含む。
- 6 黒褐色土と $\phi 5$ cm前後のロームブロックの混合土。
- 8 暗褐色土 Hr-FPを5%、 $\phi 1\sim 2$ cmのロームブロックを10%含む。

IV 検出した遺構と出土した遺物



271図 F区1号掘立柱建物遺構図

F区2号掘立柱建物

本掘立柱建物はF区調査区の中央部、X=75.385～75.391-Y=-66.843～-66.851に位置する。残存状態は良好であった。他遺構との重複関係は確認されなかった。

平面形態は歪みがみられるが東西方向に長い長方形を呈する。規模は梁行2間×桁行3間で東に庇が設置されている。身舎部分は梁行の西側柱列3.68m、東側柱列3.80m、桁行の北側柱列5.67m、南側柱列5.65m、側柱列内の面積は21.3㎡を測る。庇部分は梁行3.81m、庇幅は北側0.80m、南側1.31m、身舎、庇を併せた側柱列内の面積は25.4㎡を測る。桁行の方位はN-70°-Wを指

す。

身舎部分の柱間距離は梁行が1.84～1.93m、桁行が1.43～2.16mと差があるが大部分は1.8～2.0m前後である。各柱穴は柱を抜き取っているためか平面形態が楕円形状を呈するものが多く、断面形態も片方の側面の途中に段をもつものが多い。規模は最大が柱穴P4、最小が柱穴P8であるが、概ね径が70cm前後である。深度は58～88cmで、底面の標高は468.65～469.06mと差がみられる。柱痕は確認できなかったが、底面の状態から径20～25cmであると想定される。

遺物は柱穴P7から土師器杯が出土しているだけである。なお、この土器は古墳時代後半代に比定されるもの

であることから混入した可能性がある。

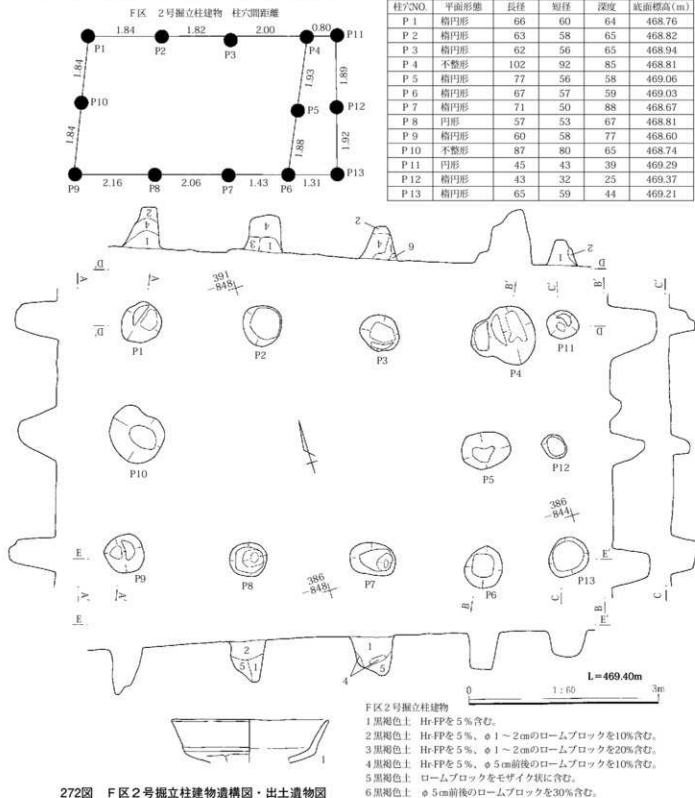
本掘立柱建物存続年代は共伴する出土遺物がないため明確にできないが、形態や柱穴の状態などから奈良時代から平安時代前期に比定できる。また、本掘立柱建物の

西側柱列とF区1号掘立柱建物の東側柱列がほぼ揃えられていることからF区1号掘立柱建物と同時代に存在していたと想定される。

F区2号掘立柱建物柱穴

単位 cm

柱穴NO.	平面形態	長径	短径	深度	底面標高(m)
P 1	楕円形	66	60	64	468.76
P 2	楕円形	63	58	65	468.82
P 3	楕円形	62	56	65	468.94
P 4	不整形	102	92	85	468.81
P 5	楕円形	77	56	58	469.06
P 6	楕円形	67	57	59	469.03
P 7	楕円形	71	50	88	468.67
P 8	円形	57	53	67	468.81
P 9	楕円形	60	58	77	468.60
P 10	不整形	87	80	65	468.74
P 11	円形	45	43	39	469.29
P 12	楕円形	43	32	25	469.37
P 13	楕円形	65	59	44	469.21



272図 F区2号掘立柱建物遺構図・出土遺物図

F区2号掘立柱建物

NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	柱穴P7 口縁部片	口 12.2 横 10.4	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、横はナデ、横下はへう削り。	

F区3号掘立柱建物

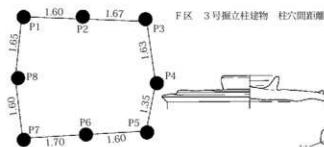
本掘立柱建物はF区調査区の中央部、X=75.389～75.394-Y=-66.839～-66.843に位置する。残存状態は良好であった。他遺構との重複関係は土坑やピットとの重複を確認した。新旧関係については本掘立柱建物柱穴との直接の重複がないため不明である。

平面形態は梁行の中間に位置する柱穴がやや外側に位置するため多角形状に見えるが実際は南北に長い長方形を呈するとみられる。規模は梁行2間×桁行2間、梁行の北側柱列が3.20m、南側柱列2.87m、桁行の東側柱列3.30m、西側柱列3.30m、側柱列内の面積は10.0㎡を測る。なお、桁行の方位はN-32°-Eを指す。

柱間距離は梁行が1.35～1.65m、桁行が1.60～1.70m、各柱穴は柱を抜き取っているためか平面形態が楕円

F区3号掘立柱建物柱穴

柱穴NO.	平面形態	長径	短径	深度	底面標高(m)
P1	円形	38	36	40	469.38
P2	楕円形	49	45	44	469.29
P3	円形	43	37	50	469.17
P4	不整形	48	37	23	469.40
P5	楕円形	52	44	48	469.14
P6	楕円形	53	44	39	469.26
P7	楕円形	38	36	48	469.18
P8	楕円形	48	46	33	469.40



F区3号掘立柱建物

- 1 黒褐色土 Hr-FPを5%含む。
2 黒褐色土 Hr-FPを5%、φ1～2cmのロームブロックを10%含む。
3 黒褐色土 Hr-FPを5%、φ1～2cmのロームブロックを20%含む。

273図 F区3号掘立柱建物遺構図・出土遺物図

F区3号掘立柱建物

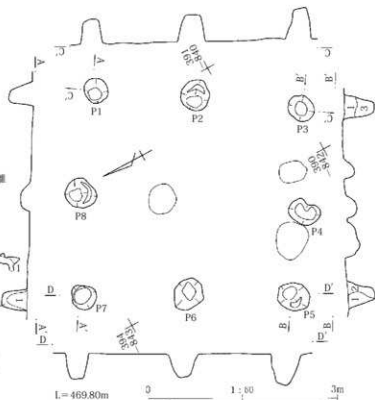
PL.166

NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	須恵器 短頸壺蓋	柱穴P2 天井部	口径 12.0 横 4.2	細砂粒/還元焼/灰白	ロケ口整形、回転左回りか。横み、凸部、罫は貼付。	

形状を呈するものが多く、断面形態も柱穴P5やP8のように片方の側面の途中に段をもつものがある。規模は最大が柱穴P6、最小が柱穴P1・P7であるが、概ね径が40～50cm前後である。深度は23～50cmで、底面の標高は469.14～469.40mの間である。柱痕は確認できなかったが、底面の状態から径20cm前後であると想定される。

遺物は柱穴P2から須恵器短頸壺蓋片が出土している。

本掘立柱建物存続年代は出土土器とはほぼ同様な年代が比定されるが、この土器は8世紀中葉から9世紀代にかけて生産されているため詳細な時期については明確にできない。また、本掘立柱建物の方位と南側に位置するF区1号・2号掘立柱建物の方位とは同じく直交することから同時期に存在していたと想定される。



(3) 工房

D区2号工房

本工房は遺構確認面での平面形態は方形を呈することから当初、竪穴建物として調査を開始したが、底面が中心部に向けて傾斜しており、中心部とみられる部分が炉状を呈しており通常の竪穴建物とは異なっていた。また、出土遺物には多くの鉄滓や鞆羽口などがみられることから鍛冶工房と判断した。遺構は半分以上が発掘調査範囲対象外に存在するため全貌や詳細については不明である。

位置はD区調査区の南半中程の東端、 $X=75.175\sim 75.179$ — $Y=-67.007\sim -67.010$ である。残存状態は調査範囲内では比較的良好な状態であった。他遺構との重複関係は確認されなかった。

平面形態は長方形または方形を呈すとみられる。規模は南北4.45m、東西3.00m+ α 、辺長は北辺3.00m、西辺3.50m、深度は確認面から鍛冶炉までが103cmを測る。主軸方位は $N-18^{\circ}-E$ を指す。

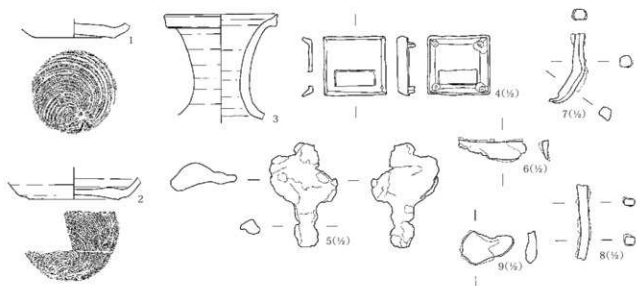
内部からは鍛冶炉、作業場とみられる土坑状の平坦面、北辺際に上屋を設けていたとみられる柱穴を4本検出した。鍛冶炉は遺構のほぼ中央に位置し、平面形態は東西に長い隅丸長方形を呈する。規模は長軸90cm、短軸75cm、深度は周囲より30cmである。炉内は段差がみられ、東側が西側底面より13cmほど高いが東側底面が焼土し

ていた。作業場とみられる土坑状の平坦面は炉の北東隣に位置し、底面は最大7cmの高低差はあるが、ほぼ平坦である。規模は長軸140cm、短軸80cm、鍛冶炉より10cmほど高く、周囲より19cmほど低い。また、この作業場からは11の椀形鍛冶滓、33・35の鞆羽口が出土している。柱穴は北辺際に直線的に配置されていたが、わずかながら検出できた南辺では痕跡がみられないことから上屋は北側から南側地表面に架けただけのものの可能性がみられる。柱穴間距離はP1～P2が75cm、P2～P3が90cm、P3～P4が60cmである。各柱穴の規模はP1が径60×47cm、深度41cm、P2が径56×33cm、深度46cm、P3が径68×37cm、深度55cm、P4が径41×37cm、深度49cmである。底面は地山をそのまま使用しているが、各辺側面から鍛冶炉・作業場にかけて緩斜面になっている。なお、傾斜角は断面の設定が辺に対してやや斜めであったことから明確ではないが、北辺側がもっとも急な傾斜であった。

埋没状態は土層断面でレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没と判断した。

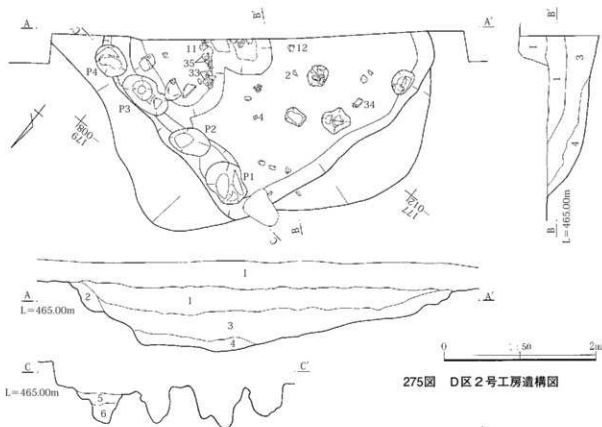
遺物は作業場の西側に台石とみられる円礫や鍛冶滓、鞆羽口などがまとまって出土しているが、その他では散在的な出土である。

本工房の存続年代は出土土器から9世紀後半代に比定できる。



274図 D区2号工房出土遺物図(1)

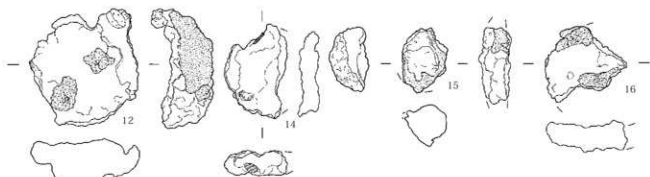
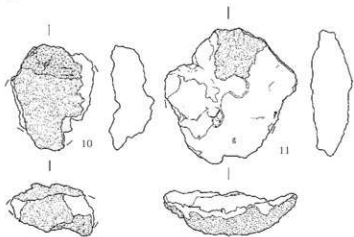
IV 検出した遺構と出土した遺物



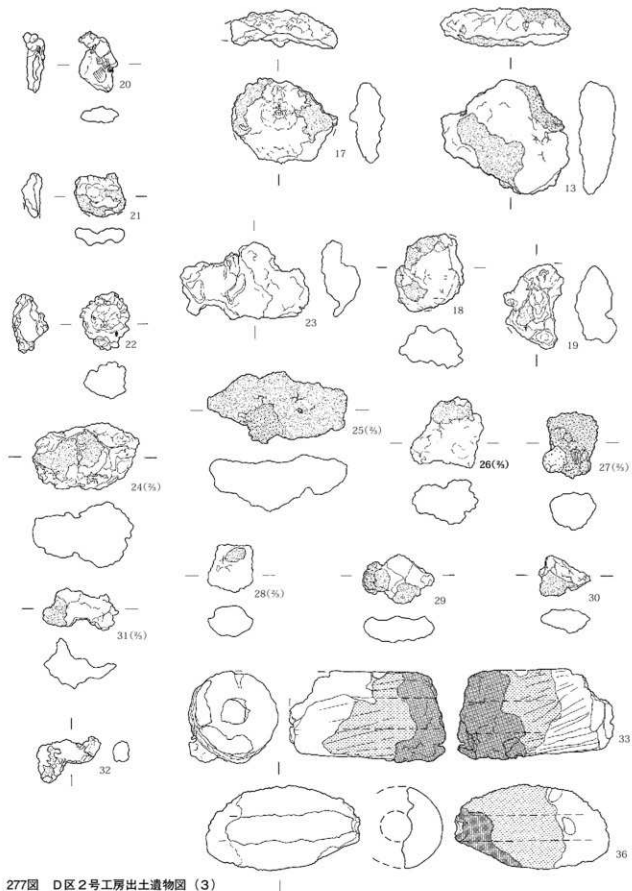
275図 D区2号工房遺構図

D区2号工房

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) I・Ⅲに類似、I・Ⅲより褐色を帯びている。φ1～3cmのHr-FPを20%含む。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) I・Ⅲに類似、φ1～3cmのロームブロックを5%含む。
- 3 黒褐色土 (10YR2/2) Ⅰに類似、Ⅰより黒色を帯びている。φ1～3cmのHr-FPを10～20%含む。
- 4 黒褐色土 (10YR2/2) Vに類似、Ⅴが混入のためやや褐色を帯びている。Ⅴ・Ⅵの崩落流れ込みによる。
- 5 黒褐色土 (10YR3/2) I・Ⅲ・Ⅴの混じり合ったもの、φ1～2cmのHr-FPを10%含む。
- 6 黒褐色土 (10YR2/2) V主体、φ0.5～2cmのロームブロックを20%含む。

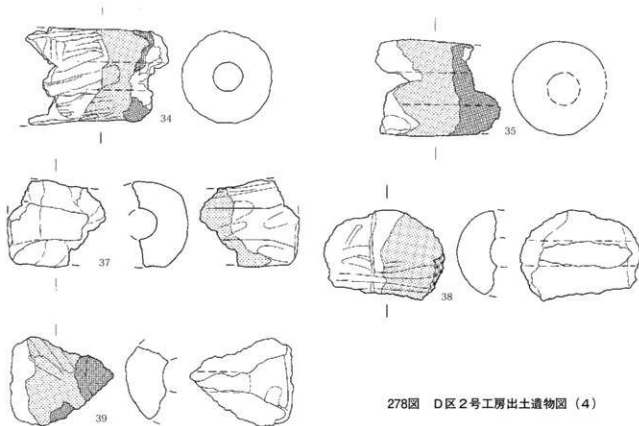


276図 D区2号工房出土遺物図(2)



277図 D区2号工房出土遺物図(3)

IV 検出した遺構と出土した遺物



278図 D区2号工房出土遺物図(4)

D区2号工房

PL.166

NO.	種別	器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	須恵器	杯	埋没上中 底部	底 6.4	細砂粒/還元焼/灰白	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り。	
2	須恵器	杯	+20 底部片	底 7.0	細砂粒/還元焼/灰	ロク口整形、回転右回り。底部回転糸切り。	
3	須恵器	長頸壺	埋没上中 口縁部~頸部片	口 8.4	細砂粒/還元焼/灰	ロク口整形、回転右回り。	
NO.	種別	器種	出土位置	残存率	計測値	摘要	
4	銅製品	袴帯遣方	+15	完形	高3.1 幅3.3 厚0.6 器厚0.2 透2.0×0.7 重13.9	残存状態良好。	
5	鉄製品	用途不明	埋没上上位	ほぼ完形	長5.5 幅3.5 厚1.2 重26.8		
6	鉄器	刀子か	埋没上中	断部片	長(3.6) 幅1.1 厚0.5 重(3.6)		
7	鉄器	釘	埋没上中	頭部~上半欠	長(3.75) 幅0.65 厚0.6 重(5.9)		
8	鉄器	釘	埋没上中位	両端部欠損	長(4.0) 幅0.55 厚0.4 重(2.9)		
9	鉄器	不明	埋没上中	一部片か	長(1.7) 幅(2.7) 厚(0.6) 重(4.7)		

D区2号工房 出土鉄関連遺物観察表

PL.167

No.	遺物名	出土位置	計測値 (cm)			重量 (g)	磁着度	メタル度	特徴など
			長さ	幅	厚さ				
10	椀形鍛冶滓 (中, 含鉄)	埋没上中	6.5	8.4	3.6	220	4	M(○)	右側と左側が欠損。滓質は密。上側部に含鉄部あり。底部に発泡したか床土が残存。
11	椀形鍛冶滓 (中, 含鉄)	作業場底面	10.6	10.4	3.4	440	4	L(●)	上面左側に、羽口の頸部の溶出した粘土質溶解物が付着。滓質は密。内面に錆化した含鉄部あり。鉄分豊富。下面全体に初床土付着。
12	椀形鍛冶滓 (中, 含鉄)	+20	8.7	9.5	3.8	300	4	L(●)	ほぼ完形。粘土質主体であるが、滓質は密。内面に錆化した含鉄部あり。鉄分豊富。底部上半に初床土付着。
13	椀形鍛冶滓 (中, 含鉄)	埋没上中	10.2	9.1	2.8	350	7	L(●)	形状は椀形鍛冶滓であるが、ほぼ錆化した金属鉄。放射割れ目立つ。左側にある粘土質溶解物は、羽口の溶出か。
14	椀形鍛冶滓 (小)	埋没上中	5	7.5	1.6	80	2	なし	残存ほぼ1/2。粘土質主体。一部に錆化した含鉄部あり。

5. 飛鳥・奈良・平安時代

No.	遺物名	出土位置	計測値 (cm)			重量 (g)	磁気度	メタル度	特徴など
			長	幅	厚さ				
15	椀形銅治洋 (小、含鉄)	埋没土中	5	3.5	3.1	60	4	錆化 (△)	上下面と下側以外は破面。上半は含鉄。下半は粘土質溶解物主体。上面中央に含鉄部が突出するが、周縁には酸化土砂付着。
16	椀形銅治洋 (小、含鉄)	埋没土中	6.5	6	2.5	100	4	H(○)	残存約 2/3。上半中央に含鉄部あり。大半は粘土質溶解物主体で、滓質は粗。底部中央割断。
17	椀形銅治洋 (小、含鉄)	埋没土中	8.3	6.4	2.9	170	4	M(○)	下部欠損。滓質は密。内面に錆化した含鉄部があり、鉄分豊富。
18	椀形銅治洋 (小、含鉄)	埋没土中	5.6	5.3	3.1	138	5	M(○)	右側欠損。上半は含鉄。下半は粘土質溶解物主体。酸化土砂中に鐵造刺片あり。
19	椀形銅治洋 (小、含鉄)	埋没土中	6.7	4.2	3.2	110	5	L(●)	残存約 1/2。上半は含鉄。下半は粘土質溶解物主体。左側の粘土質溶解物は羽口の溶損か。
20	椀形銅治洋 (極小)	埋没土中	3.1	4.8	1.3	15	2	なし	極小。粘土質溶解物主体。表面に木炭痕あり。
21	椀形銅治洋 (極小、含鉄)	埋没土中	3.8	3.3	1.4	20	3	錆化 (△)	極小。粘土質溶解物主体。内面に少量の含鉄あり。上面に酸化土砂付着。
22	椀形銅治洋 (極小、含鉄)	埋没土中	4.2	4	2.8	50	4	M(○)	ほぼ完形。上半中央に含鉄部あり。大半は粘土質溶解物主体で、滓質は粗。左側面に割断面あり。
23	銅治洋	埋没土中	5.1	3.1	1.4	20	2	なし	粘土質溶解物主体であるが、全体的に錆化。鉄分が豊富に含まれる。滓質は粗。
24	鉄塊系遺物	埋没土中	4	2.6	2.5	39	4	L(●)	放射割れ目立つ。表面に酸化土砂付着。
25	鉄塊系遺物	埋没土中	5.5	2.8	2	38	4	L(●)	放射割れ目立つ。表面に酸化土砂付着。
26	鉄塊系遺物	埋没土中	2.7	2.7	1.7	17	4	L(●)	放射割れ目立つ。表面に酸化土砂付着。
27	鉄塊系遺物	埋没土中	2	2.4	1.5	16	4	L(●)	放射割れ目立つ。表面に酸化土砂付着。
28	鉄塊系遺物	埋没土中	1.7	1.9	1.2	7	3	L(●)	放射割れ目立つ。表面に酸化土砂付着。
29	鉄塊系遺物	埋没土中	5.6	3.9	2.1	84	6	特L (☆)	放射割れ目立つ。表面に酸化土砂付着。形状から椀形銅治洋の可能性あり。
30	鉄塊系遺物	埋没土中	4	2.8	1.9	45	5	特L (☆)	放射割れ目立つ。表面に酸化土砂付着。
31	鉄塊系遺物	埋没土中	3	1.6	1.8	8	4	特L (☆)	放射割れ目立つ。表面に酸化土砂付着。
32	鉄塊系遺物	埋没土中	5	3.6	1.4	58	7	特L (☆)	放射割れ目立つ。表面に酸化土砂付着。下部面に粘土質溶解物付着。
33	羽口 (銅治)	作業場底面	残存長 12.3	7.3	2.5	440	2	なし	先端部から基部の一部が残存。通風孔内径 2.5cm。基部側の通風孔は欠損しており、内径の形状は不明。外面に斜め方向のナデ痕あり。胎土にスサはなく、粗砂粒を含む。 先端部内径：2.5cm 中心部内径：2.5cm 中心部外径：6.9cm 基部内径：— 基部外径：(6.7)cm
34	羽口 (銅治)	周辺傾斜地 底面	残存長 11.3	7.6	2.5	460	1	なし	先端部及び基部は欠損。基部側は欠損しており通風孔の形状は不明。内径 2.2cm。外面に斜め方向のナデ痕あり。胎土にスサはなく、粗砂粒を含む。 先端部内径：— 中心部内径：2.2cm 中心部外径：7.1cm 基部内径：— 基部外径：—
35	羽口 (銅治)	作業場底面	残存長 9.8	7.5	2.8	350	2	なし	先端部よりの羽口の体部片。中心部の内径 2.6cm。胎土にスサはなく、粗砂粒を含む。 先端部内径：— 中心部内径：(2.6)cm 中心部外径：(7.5)cm 基部内径：— 基部外径：—
36	羽口 (銅治)	埋没土中	残存長 12.2	6.7	2.4	195	2	なし	先端部の一部が残存。通風孔内径 2.0cm。基部側の通風孔の形状不明。指痕あり。胎土にスサはなく、粗砂粒を含む。 先端部内径：(1.0)cm 中心部内径：(2.0)cm 中心部外径：(6.5)cm 基部内径：— 基部外径：—
37	羽口 (銅治)	埋没土中	残存長 7.8	6.9	2.6	150	1	なし	基部の一部残存。通風孔内径 2.5cm。通風孔は基部より 2.8cm でラッパ状に開く。外面にナデ痕あり。胎土にスサはなく、粗砂粒を含む。 先端部内径：— 中心部内径：(2.5)cm 中心部外径：(6.2)cm 基部内径：— 基部外径：—
38	羽口 (銅治)	埋没土中	残存長 9.5	6.6	2.6	150	1	なし	先端部よりの体部片。通風孔内径 2.0cm。外面にナデ痕あり。胎土にスサはなく、粗砂粒を含む。 先端部内径：— 中心部内径：(2.0)cm 中心部外径：(6.6)cm 基部内径：— 基部外径：—
39	羽口 (銅治)	埋没土中	残存長 8.1	6.9	3	130	2	なし	基部の一部残存。通風孔内径 2.8cm。通風孔は基部より 3.6cm でラッパ状に開く。外面にナデ痕。基部内面に指痕あり。胎土にスサはなく、粗砂粒を含む。 先端部内径：— 中心部内径：2.8cm、中心部外径：5.8cm、基部内径：—、基部外径：—

F区1号工房

本工房は当初、土坑として調査を開始したが、中心部付近に炉が存在し、周囲から鉄滓や鞆羽口などが出土していることから鍛冶工房と判断した。遺構は半分以上が発掘調査範囲対象外に存在するため全貌や詳細については不明である。

位置はF区調査区の北部の西端、 $X=75.410\sim 75.414$ 、 $-Y=-66.829\sim -66.832$ である。なお、本工房の西側は約2~3mで河岸段丘崖の急傾斜地になる。この急斜面を利用して鉄製品の生産によって排出された鉄滓などの廃棄を容易にするためこの崖際を選択したものとみられる。残存状態は西側や上部を攪乱によって欠くが、その他の部分は比較的良好な状態であった。他遺構との重複関係は確認されなかった。

平面形態は隅丸長方形または隅丸方形を呈するとみられる。規模は南北 $2.58m + \alpha$ 、東西 $3.25m$ 、辺長は東辺 $2.50m + \alpha$ 、南辺 $3.25m$ 、側面の深度は確認面から底面まで $16\sim 36cm$ を測る。主軸方位は $N-40^{\circ}-W$ を指す。

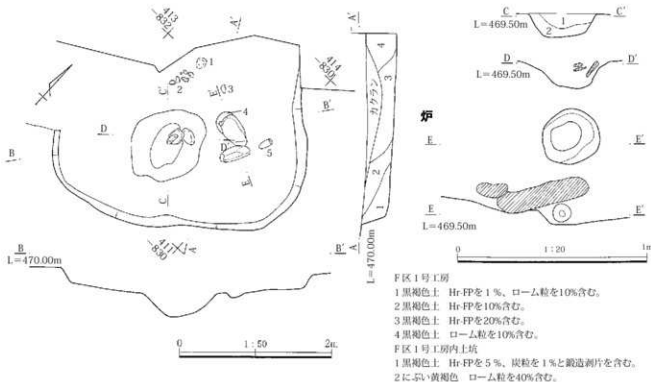
内部からは炉、土坑状の落ち込みを検出した。炉は中心部よりやや東辺によった位置である。平面形態はほぼ

円形を呈し、断面形態は浅い弧状を呈する。規模は径 $27\times 25cm$ 、深度 $8cm$ である。炉は周辺部だけに焼土がみられ、中央部底面では変化がみられなかった。また、上部には台石に使用されたとみられる長さ $50cm$ 、幅 $25cm$ 、厚さ $10cm$ の垂角礫が覆うように出土し、その礫の下からは4の鞆羽口が出土している。土坑状の落ち込みは炉の西側に位置し、平面形態は不整形、断面形態は歪んだ逆台形状を呈する。規模は径 $112\times 91cm$ 、深度 $37cm$ である。この落ち込みから西側面上部からは径 $20cm$ 前後のやや扁平や円礫が3点出土している。底面は若干の高低差はあるが、ほぼ平坦である。なお、底面は地山をそのまま使用している。

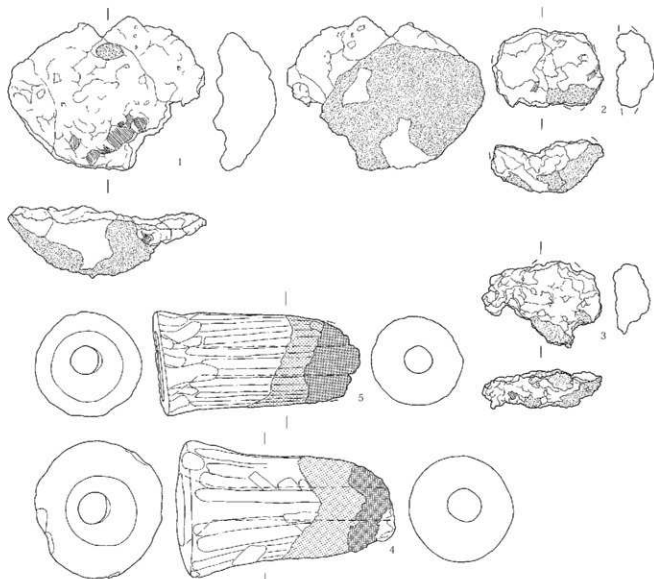
埋没状態は土層断面から東側からの土砂で埋没した状態が観察できるが自然埋没か人為的に埋め戻されたかは判断できなかった。

遺物は鉄滓や鞆羽口が出土しただけで土器などの出土はみられなかった。

本工房の存続年代は出土土器がないため明確ではないが9世紀以降に比定できる。



279図 F区1号工房遺構図



280図 F区1号工房出土遺物図

F区1号工房 出土鉄関連遺物観察表

PL.168

No.	遺物名	出土位置	計測値 (cm)			重量 (g)	磁着度	メタル度	特徴など
			長	幅	厚さ				
1	楕形鍛冶滓 (特大, 含鉄)	底面	15.6	12.2	5.2	860	4	錆化 (△)	左側に羽口の接着痕あり。滓質は密。全体的に錆化しており、鉄分豊富。ほぼ完成。形床上付着。
2	楕形鍛冶滓 (中)	底面	8.9	6.2	2.9	230	4	なし	粘土質溶解物主体であるが、全体的に錆化しており、鉄分が豊富に含まれる。滓質やや密。
3	楕形鍛冶滓 (中, 含鉄)	底面	9.5	6.8	2.9	150	6	錆化 (△)	上側側欠損であるが、ほぼ完成。粘土質溶解物主体であるが、全体的に錆化しており、鉄分が豊富に含まれる。滓質は粗。酸化土砂付着。
4	羽口 (鍛冶)	炉内	残存長 17.2	10.7	3.2	1110	3	なし	先端部の一部が欠損しているが、ほぼ完成。通風孔内径は2.5cm。基部から3.2cmでラッパ状に開く。外面先端部から基部にかけて直線上のナズ痕。胎土にスサはなく、粗砂粒を含む。先端部内径: 2.8cm, 中心部内径: 2.5cm, 中心部外径: 8.3cm, 基部内径: 5.7cm, 基部外径: 10.7cm。
5	羽口 (鍛冶)	底面	残存長 16.4	8.3	2.6	840	2	なし	先端部の一部が欠損しているが、ほぼ完成。通風孔内径は2.2cm。基部から2.8cmでラッパ状に開く。外面先端部から基部にかけて直線上のナズ痕。ラッパ上に開く基部外面に指痕あり。胎土にスサはなく、粗砂粒を含む。外面基部側に平坦面あり。先端部内径: 2.4cm, 中心部内径: 2.2cm, 中心部外径: 7.4cm, 基部内径: 8.4cm, 基部外径: 5.4cm。

(4) 採掘坑

F区1号採掘坑

本採掘坑は発掘調査対象範囲外に大部分が存在するため全貌や詳細については不明点がある。なお、本遺構は確認時において多数の土坑が重複しているような状態であったが、E区での採掘坑の形態と類似していることや側面を横方向に掘削していることなどから採掘坑と判断した。

位置はF区調査区の北部の西端、 $X=75.407\sim 75.410$ 、 $-Y=-66.833\sim -66.836$ である。なお、本採掘坑の西側はすぐに河岸段丘崖の急傾斜地になる。この急斜面を利用して平坦面からの掘り込みではなく斜面地から掘り込み省力化を図ったとみられる。残存状態は一部を重複する土坑によって欠くが調査範囲内では良好であった。他遺構との重複関係はF区8号土坑との重複を確認



281図 F区1号採掘坑遺構図

F区2号採掘坑

本採掘坑は発掘調査対象範囲外に大部分が存在するため全貌や詳細については不明点がある。なお、本遺構は確認時において方形の形態が確認できたが、掘削後底面が多数の土坑が重複しているような状態であったことや土層断面での重複が認められないことから採掘坑と判断した。

位置はF区調査区の北部の西端、 $X=75.414\sim 75.418$ 、 $-Y=-66.821\sim -66.828$ である。なお、本採掘坑の西側はすぐに河岸段丘崖の急傾斜地になる。この急斜面を利用して平坦面からの掘り込みではなく斜面地から掘り込み省力化を図ったとみられる。残存状態は一部を重複する土坑によって欠くが調査範囲内では良好であっ

た。新旧関係は本採掘坑のほうが古い。

平面形態は多数の土坑が集合したような形態であった。調査区内での規模は確認面で南北1.20m、東西3.50m、深度は最深部で確認面より68cmである。南西部の側面は70cmほど横に掘り込まれていた。底面は10cmほどの高低差はみられるが、比較的平坦面である。

埋没状態はⅦ-3層やⅦ層を採掘するため側面を掘り進むためⅢ層を主体とした土と、Ⅶ-1がそのまま崩落した土が交互に観察できた。

遺物は図示できるものはないが、土師器と須恵器の細片が出土している。

本採掘坑の年代は出土遺物からでは明確でないが、隣接して存在するF区2号・3号採掘坑とあまり変わらない年代が比定できる。

た。他遺構との重複関係はF区47号土坑との重複を確認した。新旧関係は本採掘坑のほうが古い。

平面形態は比較的方形に近い形態で掘り込まれている。調査区内での規模は確認面で南北4.50m、東西5.50m、深度は最深部で108cmである。底面は前記のように土坑状の凹凸が連続する。

埋没状態はⅦ-3層やⅦ層を採掘するため側面を掘り進むためⅢ層を主体とした土と、Ⅶ-1のブロックが混在した土で埋没していた。

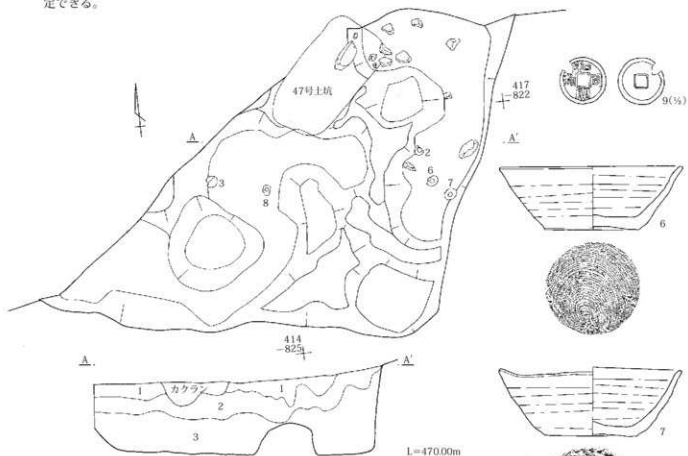
遺物は須恵器皿、杯、椀などが出土しているが、本採掘坑が埋没仕切れない窪地で存在していたときに廃棄されたものとみられる。なお、出土位置は不明であるが和同開珎が出土しているが、県内で出土している和同開珎

は比較的状态が良好であるが、ここから出土したものは状態が悪く脆弱であった。

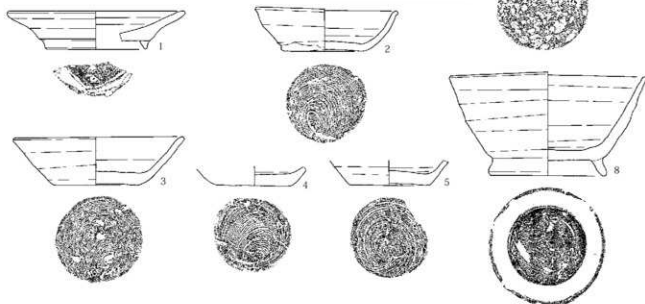
本探掘坑の年代は出土遺物から9世紀後半代以前に比定できる。

F区2号探掘坑

1 黒褐色土 Hr FPを5%含む。

2 黒褐色土: ϕ 5cm前後のロームブロックを20%、 ϕ 5cmの黒色土ブロックを20%含む。3 黒褐色土: ϕ 5cm前後のロームブロックを10%含む。

282図 F区2号探掘坑遺構図



283図 F区2号探掘坑出土遺物図

F区2号探掘坑

PL168

NO.	種 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
1	須恵器 皿	埋没上中 1/6	口 13.6 底 8.8 高 3.0 台 8.0	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロク口整形、回転右回りか。底部は回転糸切り。 高台は貼付。	内面は非常に使 い込まれて平滑。
2	須恵器 杯	底面 7/8	口 11.0 底 6.4 高 3.5	粗砂粒/酸化焰 み/にぶい黄橙	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り。内 面口縁部と底部の境は強いナデ。	
3	須恵器 杯	+20 2/3	口 13.6 底 6.6 高 3.7	細砂粒/還元焰/浅 黄	ロク口整形、回転左回り。底部は回転糸切り。	
4	須恵器 杯	埋没上中 底部	底 5.6	細砂粒/還元焰焼 /にぶい黄橙	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
5	須恵器 杯	埋没上中 底部	底 6.0	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
6	須恵器 椀	+6 口縁部1/5欠	口 14.2 底 7.4 高 4.8	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
7	須恵器 椀	+40 口縁部一部欠	口 14.2 底 7.2 高 5.4	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
8	須恵器 椀	+62 口縁部1/5欠	口 15.2 底 8.8 高 8.1 台 9.0	粗砂粒/還元焰軟 質/灰白	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り、高 台は貼付。	
NO.	種 類	器 種	出土位置	残存率	計 測 値	摘 要
9	銭貨	和同開珎	埋没上中	左上部一部欠	径 2.490 厚 0.145 孔 0.600 重 (1.1)	

F区3号探掘坑

本探掘坑は発掘調査対象範囲外に大部分が存在するため全貌や詳細については不明な点がある。なお、本遺構は確認時において大型の土坑のような状態であったが、F区1号探掘坑の形態と類似していることや側面を横方向に掘削していることなどから探掘坑と判断した。

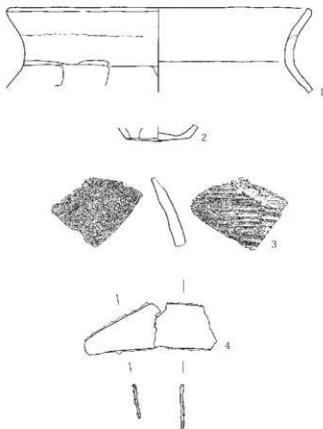
位置はF区調査区の南部の西端、X=75.372~75.375-Y=-66.867~-66.869である。なお、本探掘坑の西側はすぐに河岸段丘崖の急傾斜地になる。この急斜面を利用して平坦面からの掘り込みではなく斜面地から掘り込み省力化を図ったとみられる。残存状態は一部を重複する近代の土坑によって欠くが調査範囲内では良好であった。他遺構との重複関係は確認されなかった。

平面形態は大型の土坑のような状態であった。調査区内での規模は確認面で南北3.50m、東西1.10m、深度は最深部で確認面より114cmである。西部の側面はわずかではあるが横に掘り込まれていた。底面は10cmほどの高低差はみられるが、比較的平坦面である。

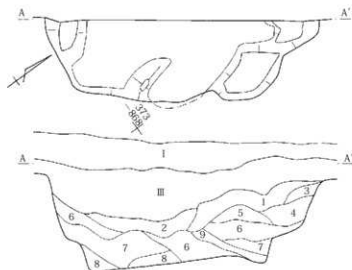
埋没状態はⅦ-3層やⅧ層を採掘するため側面を掘り進むためⅢ層を主体とした土と、Ⅶ-1がそのまま崩落した土が交互に観察できた。

遺物は土師器裏などが出土するが、本探掘坑が埋没仕切れない窪地で存在していたときに廃棄されたものとみられる。

本探掘坑の年代は出土遺物から9世紀後半代以前に比定できる。



284図 F区3号探掘坑出土遺物図



F区3号探掘坑

- 1 黒褐色土 III主体。
- 2 黒褐色土 1に類似、Hr-FPを5%、φ5cm前後のロームブロックを10%含む。
- 3 黒褐色土 2に類似、φ1~2cmのロームブロックを10%、黄色粒を5%含む。
- 4 黒褐色土 2に類似、φ5cm前後のロームブロックを20%含む。
- 5 にぶい褐色土 VIIの崩落土。
- 6 褐色土とφ5cm前後のロームブロックをの混合土。
- 7 φ5cm前後のロームブロックを主体、φ5cmの黒色土ブロックを10%含む。
- 8 暗褐色粘質土 VII-3層土のブロック。
- 9 黒褐色土 2に類似、2よりロームブロックを多く含む。

L=469.00m 0 1:50 2m

285図 F区3号探掘坑遺構図

F区3号探掘坑

PL.168

NO.	種別	種類	出土位置	残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器	甕	埋没土中 口縁~胴部上位片		口 23.4	細砂粒/良好/にぶい相	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面胴部ヘラナデ。	
2	土師器	甕	埋没土中 底部		底 5.0	細砂粒/良好/にぶい赤褐	底部・胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
3	須恵器	甕	埋没土中 胴部片			細砂粒/還元焰/オリブ斑	外面は平行引き痕、内面は微かにアケ貝痕が残る。	
NO.	種別	種類	出土位置	残存率	計測値	摘要		
4	鉄器	鎌	埋没土中			刃先片	長(7.0) 幅 2.5 厚 2.0 重(8.6)	

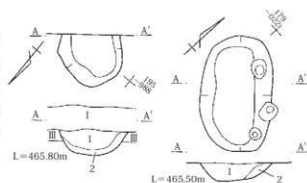
(5) 土坑

飛鳥時代・奈良時代・平安時代に比定できる土坑は31基検出した。これらの土坑をこの時代に比定した根拠は出土遺物、特に出土した土器による。このうちE区6号~10号土坑、12号、13号土坑は探掘坑との重複関係から探掘坑の一部ではないかと想定したが、断面観察と出土遺物に中世遺物が混在していないことから判断した。

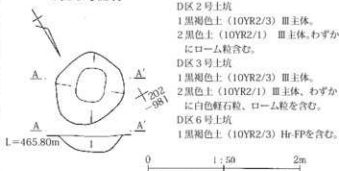
特徴的な土坑にはE区5号土坑、F区7号土坑、J区17号土坑がある。この土坑は3基とも形態や規模に共通点が見られる。形態は平面が円形に近く、断面が逆円錐状を呈し、規模も径2.30m~3.00m、深度も1.17m~1.50mと大規模なものであったが、性格などについては明らかではない。この他ではJ区24号土坑は規模が大きく、多くの遺物が出土している。遺物の出土は上位から下位までみることができたが、底面付近では少ないことから後に廃棄されたものとみられる。

D区2号土坑

D区3号土坑



D区6号土坑



286図 D区2号・3号・6号土坑遺構図

D区2号土坑

- 1 黒褐色土 (10YR2/3) III主体。
- 2 黒色土 (10YR2/1) III主体、わずかにローム粒含む。

D区3号土坑

- 1 黒褐色土 (10YR2/3) III主体。
- 2 黒色土 (10YR2/1) III主体、わずかに白色軽石粒、ローム粒を含む。

D区6号土坑

- 1 黒褐色土 (10YR2/3) Hr-FPを含む。

IV 検出した遺構と出土した遺物

4表 飛鳥・奈良・平安時代土坑一覧

区	土坑NO.	重複関係		形態		計測値			摘要
		新	古	平面	断面	長径	短径	深度	
D区	2号土坑			楕円形	半円形状	(70)	86	35	
	3号土坑			楕円形	逆台形状	152	95	24	9 C. 後半
	6号土坑	5号土坑		楕円形	逆台形状	96	88	20	
	8号土坑			楕円形	逆台形状	62	48	32	
	9号土坑			不整形	逆台形状	170	130	31	9 C. ~10 C.
	34号土坑			円形	柱状	40	36	58	8 C. 後半
	36号土坑			矩形	柱状	46	44	78	
E区	5号土坑			円形	円錐状	(128)	252	150	9 C. 前半
	6号土坑	1号探掘坑		隅丸長方形	箱形状	190	133	70	8 C. 後半
	7号土坑	1号探掘坑		隅丸長方形	箱形状	160	113	8	鉄製紡錘車
	8号土坑	1号探掘坑		矩形	箱形状	153	128	28	
	9号土坑	1号探掘坑		隅丸長方形	箱形状+OH	122	82	38	9 C. 後半
	10号土坑	1号探掘坑		楕円形	箱形状+OH	147	105	118	石製模造品白玉
	12号土坑	1号探掘坑		不整形	逆台形状	(172)	172	67	
F区	13号土坑	1号探掘坑		不整形	箱形状	(120)	193	52	
	7号土坑			楕円形	円錐状	300	285	160	9C. ~10C.
H区	4号土坑			多角形	逆台形状	167	142	50	
	5号土坑			楕円形	逆台形状	63	(23)	37	
I区	37号土坑	土坑		楕円形	逆台形状+段	55	52	52	8 C. 後半
	6号土坑	4号壑穴建物	7号土坑	矩形	逆台形状	134	126	27	8 C. 後半
	7号土坑	4号壑穴建物、6号土坑		楕円形	逆台形状	145	125	27	
J区	16号土坑		2号壑穴建物	矩形	箱形状	118	68	61	
	11号土坑		1号壑穴建物	楕円形	箱形状	(147)	105	55	
	17号土坑	22号土坑		楕円形	逆円錐状	232	204	117	9 C.
	22号土坑		17号土坑	隅丸長方形	逆台形状	142	77	77	8 C. 後半
	23号土坑			円形	逆台形状	30	28	10	8 C. 後半
	24号土坑	18号・67号土坑		楕円形	逆台形状	183	180	150	
	37号土坑			円形	逆台形状	47	47	28	
49号土坑		17号壑穴建物	円形	逆台形状	108	104	29		
55号土坑	撥乱		不整形	半円形状	90	85	35		



287図 D区8号・9号・34号・36号土坑遺構図

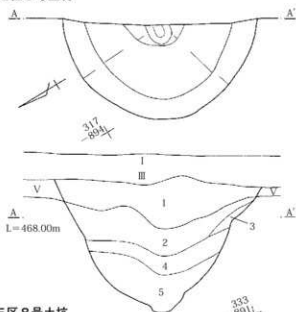
D区土坑 (3号・10号・34号土坑)

NO.	須臾器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	須臾器 杯	D区3号土坑 口縁部片	口 12.8 底 8.4 高 3.5	粗砂粒/還元焰/灰 オリーブ	ロク口整形、回転方向不明。底部は回転糸切り。	
2	須臾器 甕	D区10号土坑 口縁部~胴部片		粗砂粒/酸化焰/こ ぶい粗	外面はわずかに平行引き筋、内面は同心円状アテ具 痕が残る。	
3	須臾器 甕	D区10号土坑 胴部片		粗砂粒/還元焰/灰	外面は平行引き筋、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
4	須臾器 甕	D区10号土坑 底部~胴部下位片	底 15.6	粗砂粒/還元焰/灰	胴部最下部と底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
5	須臾器 椀	D区34号土坑 口縁部片	口 9.0 底 5.4	粗砂粒/還元焰/灰	ロク口整形。	

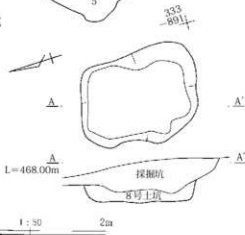


288図 D区3号・10号・34号土坑出土遺物図

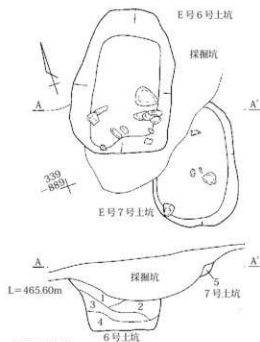
E区5号土坑



E区8号土坑



E区6・7号土坑

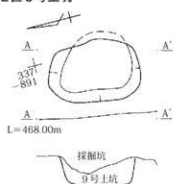


- E区5号土坑
 1 暗褐色土 (10YR3/3) IIIにVIが混入、Hr-PPを3%とローム粒を1%含む。
 2 黒褐色土 (10YR3/1) IIIとVの混合上、Hr-PPを5%含む。
 3 黒褐色土 (10YR3/1) Hr-PPを1%含む。
 4 黒褐色土 (10YR3/1) Hr-PPを50%含む。
 5 黒色土 (10YR2/1) Vの流れ込みか、Hr-PPを1%含む。
- E区6号土坑
 1 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒、Hr-PPを各1%含む。
 2 黄褐色土 (10YR5/8) ロームブロックからなる。
 3 黄褐色土 (10YR5/8) ローム土を主体とする。
 4 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒を3%含む。
 5 黒色土 (10YR2/1) ローム粒を3%含む。
- ※ 1～4は6号土坑埋没上 5は7号土坑埋没上

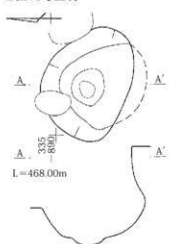
289図 E区5号・6号・7号・8号土坑遺構図

IV 検出した遺構と出土した遺物

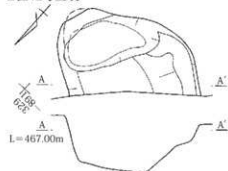
E区9号土坑



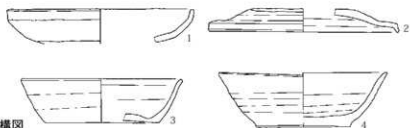
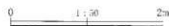
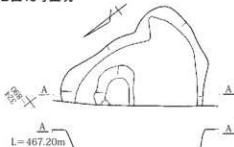
E区10号土坑



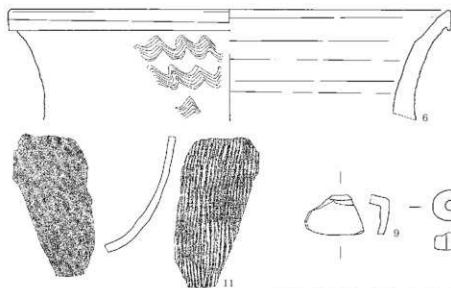
E区12号土坑



E区13号土坑



290图 E区9号・10号・12号・13号土坑遺構図



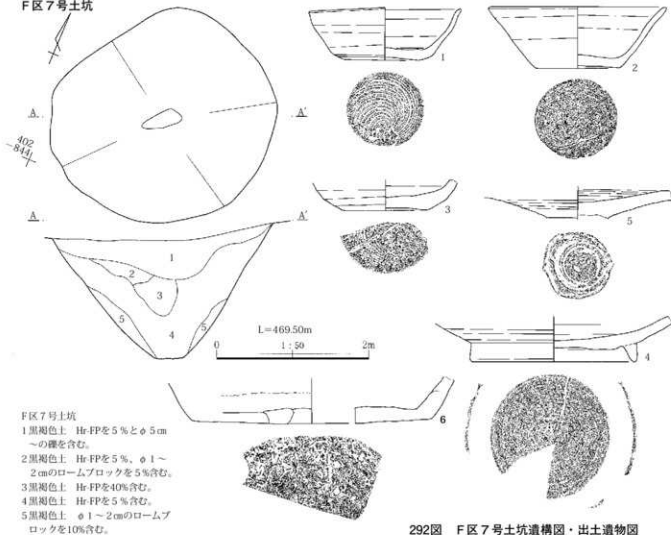
291图 E区5号・6号・7号・9号・10号・13号土坑出土遺物図

E区土坑(5号・6号・7号・9号・10号・13号土坑)

PL.168

NO.	種 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
1	土師器 杯	E区5号土坑 口縁部片	口 14.4	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部上位は横ナデ、中位・下位はナデ、底部はへら削り。	
2	須恵器 杯蓋	E区6号土坑 口縁部片	口 14.6	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。天井部中央付近は回転へら削り。	
3	須恵器 杯	E区6号土坑 1/8	口 12.4 底 8.8 高 3.4	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転方向不明。外面に自然釉が付着のため底部の整形不明。	
4	須恵器 杯	E区6号土坑 1/3	口 13.0 底 7.4 高 4.3	細砂粒/還元焰/灰 にぶい黄褐色	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
5	須恵器 壺	E区6号土坑 胴部片		細砂粒/還元焰/灰	外面はカキ目。	
6	須恵器 甕	E区6号土坑 口縁部片	口 34.5	粗砂粒/還元焰/オリブ黒	外面に3段の波状文。	
8	須恵器 杯	E区9号土坑 1/6	口 12.2 底 7.0 高 4.1	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
9	須恵器 平瓶	E区9号土坑 胴部小片		細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形。胴部に自然釉が付着。	
11	須恵器 甕	E区13号土坑 胴部片		粗砂流/還元焰/灰	外面には平行叩き痕が残る。	
NO.	種 類	器 種	出土位置	残存率	計 測 値	摘 要
10	石製品	模造品 白玉	E区10号土坑	一部欠損	径 0.795 長 0.420 孔径 0.280 重 0.43	滑石
7	鉄製品	紡錘車	E区7号土坑	軸部内端欠	長(11.1) 輪径 3.5 輪厚 0.2 軸径 0.3 重(16.3)	

F区7号土坑



292図 F区7号土坑遺構図・出土器物

F区7号土坑

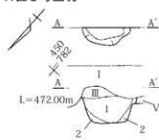
PL.168

NO.	種器 類種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	須恵器 杯	埋没土中 4/5	口 11.8 底 6.0 高 4.1	細砂粒/酸化焙ぎ み/灰黄橙	ロクロ整形回転左回り。底部は回転糸切り。	
2	須恵器 椀	埋没土中 1/4	口 13.8 底 6.6 高 4.8	細砂粒/還元焙/灰	ロクロ整形回転左回り。底部は回転糸切り。	
3	須恵器 椀	埋没土中 底部片	底 6.8	細砂粒/酸化焙ぎ み/灰黄橙	ロクロ整形回転右回り。底部は回転糸切り。口縁部 最下部回転へら削り。	
4	須恵器 盤	埋没土中 底部片	底 13.0 台 12.6	細砂粒/還元焙/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後回転 へら削り。高台は貼付。	
5	須恵器 高盤	埋没土中 底部片		細砂粒/還元焙/灰	ロクロ整形、回転右回りか。脚部は貼付。	
6	須恵器 甕	埋没土中 底部片	底 18.8	粗砂粒/還元焙/灰	ロクロ整形、底部へらナデ。	

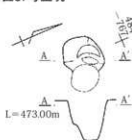
H区4号土坑



H区5号土坑



H区37号土坑



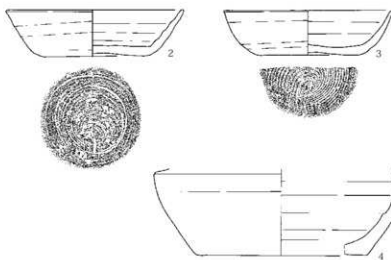
293図 H区4号・5号・37号土坑遺構図

H区4号土坑

- 1 黒褐色土 Hr-PP、ローム粒を含む。
2 黒褐色土 1よりもローム粒を10%と
多く含む。
3 暗褐色土 ローム粒を含む。
4 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック
を含む。

H区5号土坑

- 1 黒褐色土 Hr-PP、ローム粒を含む。
2 暗褐色土 ローム粒を含む。



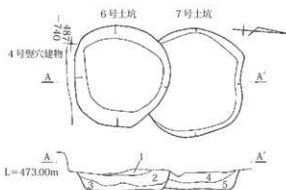
294図 H区37号・38号・39号土坑出土遺物図

H区土坑

PL.169

NO.	種器 類種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
2	須恵器 杯	H区37号土坑 ほぼ完形	口 13.6 底 8.2 高 3.7	細砂粒/還元焙/灰 黄	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り後中心 部の僅かな部分を残し回転へら削り。	
3	須恵器 杯	H区38号土坑 1/4	口 13.2 底 8.0 高 3.5	粗砂粒/還元焙/黄 灰	ロクロ整形、回転左回りか。底部は回転糸切り。	
4	須恵器 平盤	H区39号土坑 胴部片	胴 20.0 底 13.4	粗砂粒/酸化焙ぎ み/灰黄橙	ロクロ整形。	

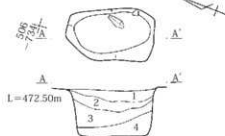
I区6・7号土坑



I区6号土坑・7号土坑

- 1 黒褐色土 Hr-FP、ローム粒を含む。
 2 黒褐色土 1よりもローム粒を10%と多く含む。
 3 暗褐色土 ローム粒を含む。
 4 暗褐色土 Hr-FP、ローム粒、ロームブロックを含む。
 5 暗褐色土 ローム粒を含む。

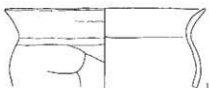
I区16号土坑



I区16号土坑

- 1 にぶい黄褐色土 Hr-FPをわずかと黄土粒、炭化物、ローム粒を含む。
 2 にぶい黄褐色土 黄土粒を少量とローム粒、ロームブロックを10%含む。
 3 にぶい黄褐色土 黄土粒をわずかとローム粒、ロームブロックを10%含む。
 4 にぶい黄褐色土 炭化物を3%とローム粒、ロームブロックを10%含む。

0 1:50 2m

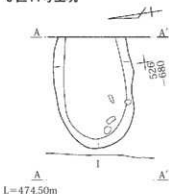


295図 I区6号・7号土坑遺構図、16号土坑遺構図・出土遺物図

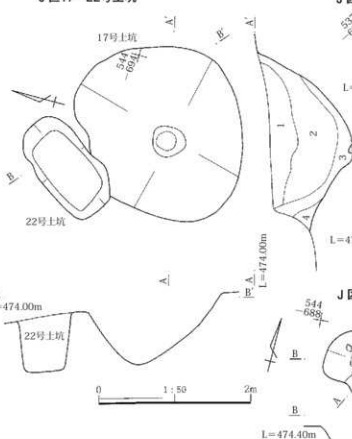
I区16号土坑

NO.	種別	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器 甕	埋没上中 口縁~胴部中位片	口 15.6	細砂粒/良好/橙	口縁部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

J区11号土坑



J区17・22号土坑



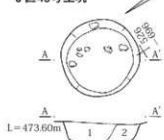
J区23号土坑



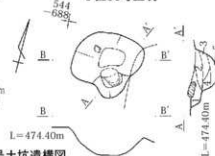
J区37号土坑



J区49号土坑



J区55号土坑



296図 J区11号・17号・22号・23号・37号・49号・55号土坑遺構図

IV 検出した遺構と出土した遺物

J区11号土坑

- 1 黒褐色土 (10YR3/1) V主体、面が若干混入、 ϕ 1cmのHr-FPを3%含む。
- 2 黒褐色土 (10YR2/2) V主体、面が若干混入、 ϕ 5cmのロームブロックを30%含む。
- 3 黒褐色土 (10YR2/3) V主体、 ϕ 1~3cmのロームブロックを30%含む。

J区17号土坑

- 1 黒褐色土 (10YR3/1) Hr-FPを5%含む。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) Hr-FPは3%、ローム粒、ブロックを含む。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒、ロームブロックを10%含む。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) 3に類似、ローム粒、ブロックを多く含む。

J区22号土坑

- 1 褐色土 (10YR4/3) V・VI・VIIの混入? (3:3:4)、 ϕ 2~10cmのロームブロックを30%含む。ただし、中位が多く、上下は少ない。

J区23号土坑

- 1 黒褐色土 (10YR3/1) Hr-FPとローム粒を含む。

J区37号土坑

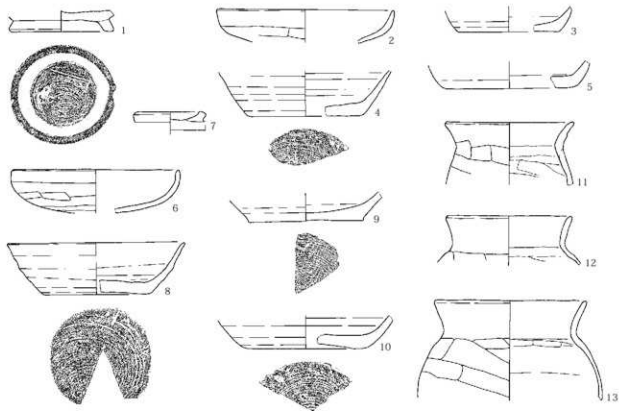
- 1 黒褐色土 (10YR3/1) Hr-FPとローム粒を含む。
- 2 黒褐色土 (10YR3/1) ローム粒、ロームブロックを10%含む。
- 3 黒褐色土 (10YR3/1) ローム粒、ロームブロックを10%含む。

J区49号土坑

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) V主体、 ϕ 1cmのHr-FPを0.5%、 ϕ 0.5~1cmのロームブロックを5%含む。
- 2 黒褐色土 (10YR2/3) V主体、 ϕ 1~2cmのロームブロックを3~5%含む。

J区55号土坑

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) Vに近似、 ϕ 2~3cmの焼土ブロックを5%と ϕ 1cmのロームブロックを3%含む。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) VとVIIの混合土、 ϕ 1cmのロームブロックを10%含む。
- 3 明黄褐色土 (2.5Y6/6) VIIブロック主体、Vを30%含む。
- 4 黒褐色土 (10YR2/2) V主体、 ϕ 1~2cmのロームブロックを30%含む。
- 5 黒褐色土 (10YR2/2) V主体、 ϕ 1~2cmのロームブロックを10%含む。



297図 J区11号・17号・22号土坑出土遺物図

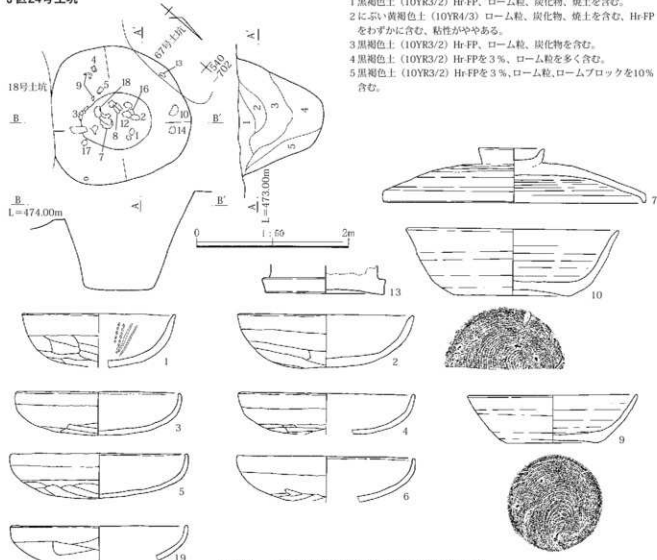
J区土坑 (11号・17号・22号土坑)

PL.169

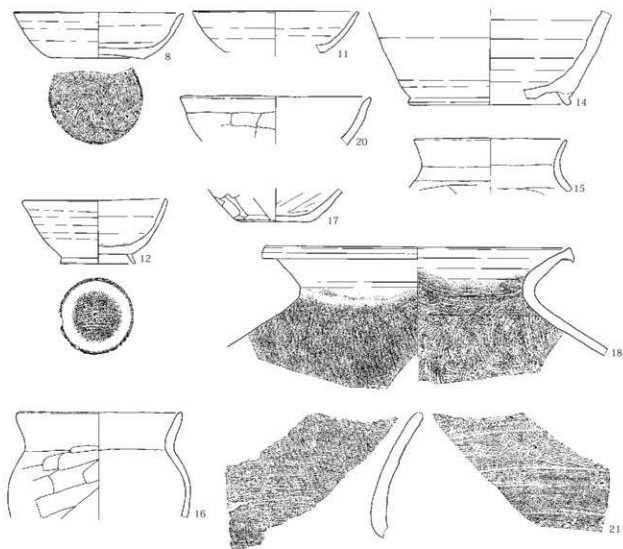
NO.	種別	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	須恵器 椀	J区11号土坑 底部	底 7.6 台 7.8	粗砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り、底部は貼付。	口縁部を打ち欠いている。
2	土師器 杯	J区17号土坑 口縁部片	口 13.8	細砂粒/良好/橙	口縁部上平は横ナデ、下半から底部はヘラ削り。	
3	須恵器 杯	J区17号土坑 底部片	底 8.0	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転方向不明。口縁部最下部は回転ヘラ削り、底部も回転ヘラ削りか。	
4	須恵器 杯	J区17号土坑 口縁下半~底部片	底 9.0	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り。	

NO.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備要
5	須恵器 杯	J区17号土坑 口縁下半～底部片	底 10.0	細砂粒/還元焰/灰 黄	口クロ整形、回転方向不明。底部はヘラナデ。	
6	土師器 杯	J区22号土坑 1/6	口 13.0 高 3.5	細砂粒/良好/ぶ い黄褐	口縁部上位は横ナデ、中位はナデ、下位から底部は ヘラ削り。	
7	須恵器 杯蓋	J区22号土坑 揃み	揃 5.7	細砂粒/還元焰/灰	口クロ整形、回転左回り。揃みは貼付。	
8	須恵器 杯	J区22号土坑 1/2	口 13.8 底 8.2 高 4.1	細砂粒/還元焰/灰 白	口クロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
9	須恵器 杯	J区22号土坑 口縁下半～底部片	底 9.0	細砂粒/還元焰/灰	口クロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り。	
10	須恵器 杯	J区22号土坑 口縁下半～底部片	底 9.6	粗砂粒/還元焰/灰	口クロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り。	
11	土師器 甕	J区22号土坑 口縁～胴部上位片	口 9.8	粗砂粒/良好/ぶ い黄褐	内面頸部に輪積り痕が残る。口縁部横ナデ、胴部上 位横方向へラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
12	土師器 甕	J区22号土坑 口縁～胴部上位片	口 9.8	細砂粒/良好/灰褐	口縁部横ナデ、胴部上位横方向へラ削り。内面胴部 はヘラナデ。	
13	土師器 甕	J区22号土坑 口縁～胴部上位片	口 11.8	細砂粒/良好/灰褐	口縁部横ナデ、胴部上位横方向へラ削り。内面胴部 はヘラナデ。	

J区24号土坑



IV 検出した遺構と出土した遺物



299図 J区24号土坑出土遺物図(2)

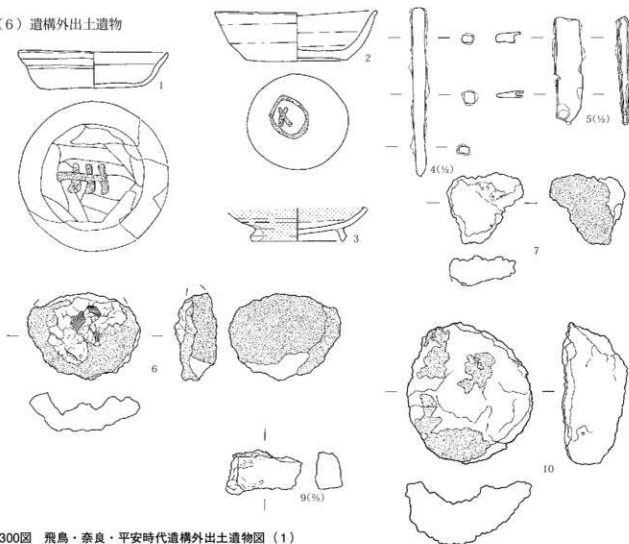
PL.169

J区24号土坑

NO.	種別	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	+105 1/5	□ 11.8 高 4.2	粗砂粒/良好/橙	口縁部上半は横ナデ、下半から底部はヘラ削り。内面に斜放射状暗文が残る。	
2	土師器 杯	+50 3/4	□ 13.6 高 4.2	粗砂粒/良好/ふい相	口縁部上位は横ナデ、中位はナデ、下位から底部はヘラ削り。	
3	土師器 杯	+106 1/3	□ 12.8 高 3.4	細砂粒/良好/明褐色	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	
4	土師器 杯	+136 1/4	□ 13.6	細砂粒/良好/明褐色	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	
5	土師器 杯	+131 1/4	□ 13.8 高 3.6	細砂粒/良好/橙	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	
6	土師器 杯	埋没土中 1/6	□ 13.8	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	
7	須恵器 杯蓋	+42 口縁部1/4欠	□ 20.4 横 5.0 高 4.3	粗砂粒/還元焼成/灰	ロクロ整形、回転左回り。摘みは取付、天井部中央は回転ヘラ削り。	月夜野古窯跡群産
8	須恵器 杯	+66 2/3	□ 13.0 底 7.2 高 3.6	粗砂粒/還元焼成/灰	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り。	月夜野古窯跡群産
9	須恵器 杯	+105、149 口縁部一部欠	□ 13.2 底 7.2 高 3.8	細砂粒/還元焼成/灰白	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り。	
10	須恵器 杯	+103 1/2	□ 16.4 底 9.0 高 5.3	粗砂粒/還元焼成/灰	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り。	月夜野古窯跡群産

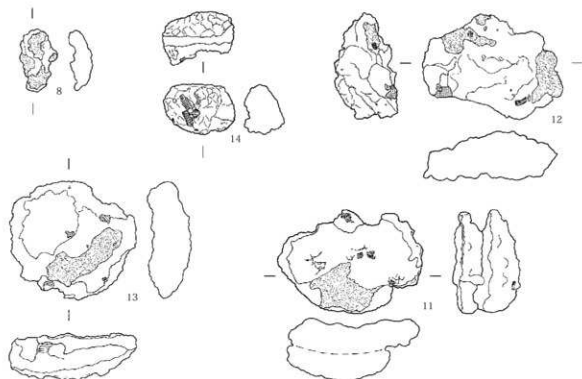
NO.	器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
11	須恵器 杯	埋没土中 口縁部片	口 12.8	細砂粒/還元焼 /灰白	ロクロ整形。	
12	須恵器 椀	+63 口縁部1/4欠	口 11.2 底 5.6 高 5.1 台 5.8	粗砂粒/還元焼 /灰	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	月夜野古窯跡群産
13	須恵器 深鉢	+65 底部	底 8.2 台 9.2	粗砂粒/還元焼 /灰	ロクロ整形、回転左回りか。底部は回転ヘラ削りか。	月夜野古窯跡群産
14	須恵器 長頸壺	+101 底部~胴部下位片	底 12.2 高 12.4	粗砂粒/還元焼 /灰黄	ロクロ整形、回転左回りか。底部は回転ヘラ削り、高台は貼付。	月夜野古窯跡群産
15	土師器 甕	埋没土中 口縁部片	口 11.8	細砂粒/良好/褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
16	土師器 甕	+103 口縁~胴部上半片	口 12.8	細砂粒/良好/こ ぶい赤褐	口縁部は横ナデ、胴部上半は横方向ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
17	土師器 甕	+106 底部片	底 6.0	細砂粒/良好/こ ぶい赤褐	胴部・底部ともヘラ削り。内面はヘラナデ。	
18	須恵器 甕	+124 口縁~胴部上位片	口 23.8	細砂粒/還元焼 /灰白	口縁部ロクロ整形、胴部は外面に平行吹き痕、内面に同心円状アテ具痕が残る。	
19	土師器 杯	J区67号土坑 口縁部片	口 13.6	細砂粒/良好/明 褐	口縁部上半は横ナデ、下半から底部はヘラ削り。	
20	土師器 杯	J区67号土坑 口縁部片	口 14.8	細砂粒/良好/こ ぶい橙	口縁部上位は横ナデ、中位・下位はヘラ削り。	
21	須恵器 甕	J区67号土坑 口縁部片		粗砂粒/還元焼 /灰白	ロクロ整形。口縁部上半に2段の波状文。	

(6) 遺構外出土遺物



300図 飛鳥・奈良・平安時代遺構外出土遺物図(1)

IV 検出した遺構と出土した遺物



301図 飛鳥・奈良・平安時代遺構外出土遺物図(2)

飛鳥・奈良・平安時代遺構外出土遺物

PL.169

NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	J区1層	口 11.9 底 8.0 高 3.1	細砂粒/良好/橙	口縁部上半は横ナデ、下半はナデ、底部はへう削り。	外面に底部に「生」の黒書。
2	須恵器 杯	E区1号探掘坑内	口 12.6 底 8.0 高 4.0	粗砂粒/還元焼/灰黄	ロク口整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	外面に底部に「田」の黒書。
3	灰釉陶器 椀	D区200-987G 口縁下半~底部片	底 7.0 台 7.0	微砂粒/還元焼/灰	ロク口整形、回転右回り。底部はナデ、高台は貼付。施釉方法は刷毛塗りか。	光ケ丘1号窯式別
NO.	種類	器種	出土位置	残存率	計測値	摘要
4	鉄器	長頸三角鏝(端方造)	D区32号土坑	対部~頸部上半	長(8.9) 幅1.0 厚0.8 刃長1.3 重(10.3)	
5	鉄器	鋤先	H区	側部片	長(5.4) 幅1.5 厚0.5 重(10.2)	時期不詳。

遺構外出土鉄関連遺物観察表

PL.169

No.	遺物名	出土位置	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	特徴など
			長	幅	厚さ				
6	椀形鉄治洋(小、含鉄)	D区遺構外	8.9	7	2.3	180	2	H(○)	土割欠損。全体的に錆化しており、鉄分が豊富に含まれる。洋質はやや粗。底部に灰土付着。
7	椀形鉄治洋(極小)	D区遺構外	6	5.4	2.1	60	2	なし	薄手。土割欠損。全体的に錆化しており、鉄分が豊富に含まれる。洋質はやや粗。底部に灰土付着。
8	鉄塊系遺物	D区200-978	3	5	1.8	27	6	L(●)	酸化土砂付着。
9	鉄塊系遺物	D区遺構外	2.9	1.8	1.6	12	5	L(●)	放射割れ目立つ。洋部は観察できない。
10	椀形鉄治洋(大、含鉄)	J区1号探掘坑	11.2	10	5	650	4	L(●)	ほぼ完形。全体的に錆化しており、洋質は密。内面に錆化した含鉄部があり、鉄分豊富。放射割れ目立つ。底部に灰土付着。
11	椀形鉄治洋(大、含鉄)	J区9号土坑	11.4	8.3	5.3	500	5	L(●)	2段。洋質は密。錆化しており鉄分豊富。ほぼ完形。
12	椀形鉄治洋(大、含鉄)	J区1号探掘坑	10.8	7.1	4.6	450	6	H(○)	羽口の頸部残存。洋質は密。内面に錆化した含鉄部があり、鉄分豊富。左側に粘土質溶着物。右側に含鉄部。
13	椀形鉄治洋(中、含鉄)	J区1号探掘坑	9.9	9.3	3.6	400	5	H(○)	ほぼ完形。洋質は密。内面に錆化した含鉄部があり、鉄分豊富。
14	椀形鉄治洋(極小)	J区1号探掘坑	5.7	4.4	3.1	85	4	なし	灰土付着。他の椀形鉄治洋と比べ灰土上の発泡が厚く、これが平足だとすれば、灰内洋の可能性もある。本足痕は小。

6. 中世・近世

(1) 掘立柱建物

H区1号掘立柱建物

本掘立柱建物は東南部を重複する遺構によって欠けたため全貌や詳細について不明である。位置はH区調査区の東南部、 $X=75.448\sim 75.454$ 、 $Y=-66.785\sim -66.790$ である。残存状態は調査範囲内では良好であった。他遺構との重複関係はH区1号室、2号溝との重複を確認した。新旧関係は本遺構のほうが古い。

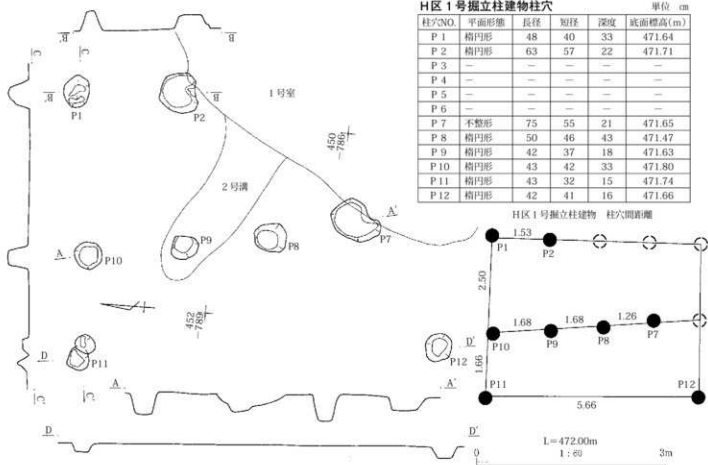
平面形態は全体ではほぼ長方形を呈するが、身舎部分は歪んだ形態をとるとみられる。規模は梁行1間×桁行4間に庇が付けられている。なお、庇の柱は梁行の延長線上だけしか設けられていないことから間に礎石などが置かれていなければ機能しないため庇自体が設けられていたか否か疑問点がある。庇を含んだ全体の規模は

梁行4.20m、桁行5.60mほどである。身舎梁行の北側柱列が2.50m、桁行の東側柱列は推定5.52m、西側柱列は推定5.75m、庇は全長5.66m北側の幅が1.66mを測る。なお、桁行の方位は $N-6^{\circ}-W$ を指す。

柱間距離は梁行が2.50m、桁行が1.18~1.68m、各柱穴は平面形態が楕円形状を呈するものが多い。規模は最大が柱穴P7、最小が柱穴P11であるが、概ね径が40cm前後である。深度は15~43cmで、底面の標高は471.63~471.80mの間である。柱痕は確認されなかった。

遺物は出土していない。

本掘立柱建物存続年代は出土遺物がないため明確にできないが、形態や柱穴の状態などから中世以降に比定できる。また、柱穴の規模が小規模であることや柱穴間距離が最大で132mの開きがあるなど不揃いであることから居住用の建物ではなく、一時的な作業用や納屋としての建物であったと想定される。



302図 H区1号掘立柱建物遺構図

H区2号掘立柱建物

本掘立柱建物はH区調査区の中央部、 $X=75.468\sim 75.473$ — $Y=-66.763\sim -66.767$ に位置する。残存状態は良好であった。他遺構との重複関係は確認されなかった。

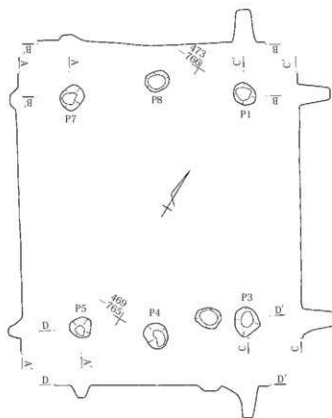
平面形態は梁行の中間に位置する柱がやや外側に位置するがほぼ長方形を呈する。規模は確認時では梁行2間×桁行2間であるが、桁行が3.50m以上と柱穴間の間隔が開くことから中間に礎石を設けるなどの柱穴によらない方法がもちいられていたと想定され、本来は梁行2間×桁行2間であったと想定される。梁行の北側柱列が2.72m、南側柱列2.62m、桁行の東側柱列3.50m、西側柱列3.66m、側柱列内の面積は9.8㎡を測る。なお、桁

行の方位は $N-33^{\circ}-W$ を指す。

柱間距離は梁行が1.25～1.40m、各柱穴は平面形態が楕円形状を呈する。規模は最大が柱穴P3、最小が柱穴P1、P8であるが、概ね径が 45×35 cm前後である。深度は15～51cmで、底面の標高は472.29～472.65mの間である。柱痕は確認されなかった。

遺物は出土していない。

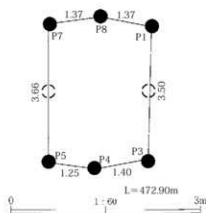
本掘立柱建物存続年代は出土遺物がないため明確にできないが、形態や柱穴の状態などから中世以降に比定できる。また、柱穴の規模が小規模であることや柱穴間距離が不揃いであることから居住用の建物ではなく、一時的な作業用や納屋としての建物であったと想定される。



H区2号掘立柱建物柱穴

柱穴NO.	平面形態	長径	短径	深度	底面標高(m)
P 1	楕円形	38	32	51	472.37
P 2	—	—	—	—	—
P 3	楕円形	47	38	51	472.36
P 4	楕円形	42	34	23	472.65
P 5	楕円形	46	33	22	472.29
P 6	—	—	—	—	—
P 7	楕円形	48	33	16	472.35
P 8	楕円形	38	32	15	472.38

H区2号掘立柱建物 柱穴間距離



303図 H区2号掘立柱建物遺構図

I区1号掘立柱建物

本掘立柱建物はI区調査区の中央部、 $X=75.491\sim 75.499$ — $Y=-66.735\sim -66.742$ に位置する。残存状態は良好であった。他遺構との重複関係はI区1号溝、2号溝、4号土坑、8号土坑と重複するが、柱穴と直接重複するのは柱穴P6と2号溝だけであった。重複する

他遺構との新旧関係は明確でない。

平面形態は梁行の南辺が北辺に比べて30cmほど短いが南北方向に長い長方形を呈する。規模は梁行2間×桁行3間、梁行の北側柱列が4.92m、南側柱列4.60m、桁行の東側柱列5.63m、西側柱列6.00m、側柱列内の面積は16.0㎡を測る。なお、桁行の方位は $N-24^{\circ}-W$ を指す。

柱間距離は梁行が1.75～2.85m、桁行が1.60～2.40m、各柱穴は平面形態が楕円形状を呈するものが多く、断面形態は箱形状を呈す。規模は最大が柱穴P2、最小が柱穴P10であるが、概ね径が40cm前後である。深度は12～59cmで、底面の標高は472.65～473.01mの間である。柱痕は確認されなかった。

遺物は出土していない。

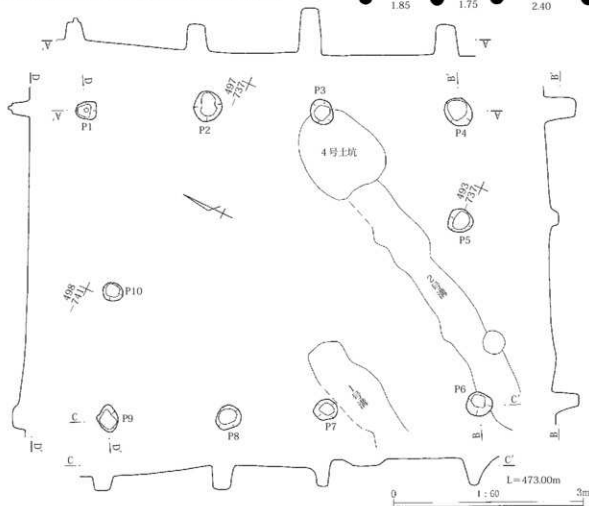
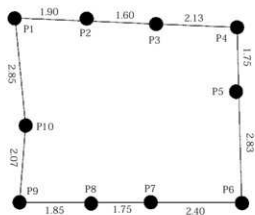
Ⅰ区1号掘立柱建物柱穴

柱穴NO.	平面形態	長径	短径	深度	底面標高(m)
P1	楕円形	38	29	35	472.65
P2	楕円形	47	43	45	472.73
P3	楕円形	42	34	59	472.66
P4	楕円形	47	39	48	472.76
P5	楕円形	40	38	12	473.01
P6	楕円形	42	38	43	472.69
P7	楕円形	38	30	32	472.68
P8	楕円形	38	37	28	472.73
P9	楕円形	40	32	20	472.70
P10	楕円形	32	27	13	472.82

単位 cm

本掘立柱建物存続年代は出土遺物がないため明確にできないが、形態や柱穴の状態などから中世以降に比定できる。また、柱穴の規模が小規模であることや柱穴間距離が最大で80cmの開きがあるなど不揃いであることから居住用の建物ではなく、一時的な作業用や納屋としての建物であったと想定される。

Ⅰ区1号掘立柱建物 柱穴間距離



304図 Ⅰ区1号掘立柱建物遺構図

(2) 採掘坑

E区1号採掘坑

本採掘坑は発掘調査対象範囲外に一部が存在するため全貌や詳細については不明な点がある。なお、本遺構は確認時において多数の土坑が重複しているような状態であったが、断面観察では重複が確認されないことや一部の側面で横に掘り込まれた状態が見られることから採掘坑と判断した。

位置はE区の北部の西端、 $X=75.332\sim 75.352-Y=-66.883\sim -66.895$ である。なお、本採掘坑の西側はすぐに河岸段丘崖の急傾斜地になる。この急斜面を利用して平坦面からの掘り込みではなく斜面地から掘り込み省力化を図ったとみられる。残存状態は調査範囲内では良好であった。遺構との重複関係はE区4号、6号～10号、12号、13号土坑との重複を確認した。新旧関係は4号土坑との関係は明確にできなかったが、他の土坑より本採掘坑のほうが新しい。

平面形態は非常に大型で端部では土坑状の形態をとる凹凸がみられた。調査区内での規模は確認面で南北23.0m、東西7.0m、深度は概ね確認面から2.0m前後である。底面は西側から東側にかけて土坑状の形態で階段状に掘り込まれている。

埋没状態はⅦ-3層やⅧ層を採掘するため側面を掘り進むためⅢ層を主体とした土と、Ⅶ-1のブロックが混在した土で埋没してしていた。

遺物は上面で多くの近世、近代陶磁器が散乱していたが、これは埋没後の廃棄とみられる。なお、採掘坑埋没土中からは銭貨「寛永通宝」が出土している他、須恵器や土師器がみられた。

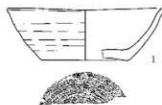
本採掘坑の年代は出土遺物から17世紀代から掘削が行われていたと想定される。



305図 E区1号採掘坑遺構図

E区1号採掘坑

1 黒褐色土 Hr-FPを1%、φ5cm前後のロームブロックを5%含む。
2 VII-1、-2の流れ込み。



306図 E区1号採掘坑出土物図

E区1号採掘坑

PL.170

NO.	種類	出土位置	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	須恵器 杯	埋没土中 1/5	口 12.2 底 6.8 高 4.1	細砂粒/還元焼/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り。	
2	銭貨	寛永通宝	埋没土中	残存率	計 測 値	摘要
3	鉄器	鎌	埋没土中	先端部片	径 2.51 厚 0.13 外郭 0.37 孔 0.56 重 3.21 長 (5.7) 幅 2.4 厚 0.6 重 (7.8)	

J区1号採掘坑

本採掘坑は発掘調査対象範囲外に大部分が存在するため全貌や詳細については不明な点がある。なお、本遺構は確認時において大型の土坑状の形態が確認できたが、掘削後側面が横方向に大きく掘削されている状態であったことや土層断面での重複が認められないことから採掘坑と判断した。

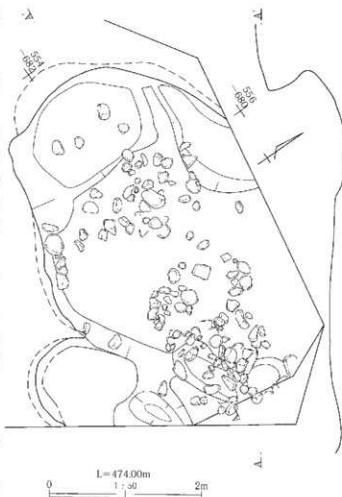
位置はJ区調査区の北部の西端、X=75.551~75.555 - Y=-66.676~-66.681である。なお、本採掘坑の北側はすぐに河岸段丘崖の急傾斜地になる。この急斜面を利用して平坦面からの掘り込みではなく斜面地から掘り込み省力化を図ったとみられる。残存状態は調査範囲内では良好であった。遺構との重複関係はJ区8号、9号土坑との重複を確認した。新旧関係は本採掘坑のほうが新しい。

平面形態は大型の楕円形に近い形態で掘り込まれている。調査区内での規模は確認面で南北4.30m、東西4.80m、深度は最深部で111cmである。底面は周辺部で多少の段差がみられるが、比較的平坦であった。

埋没状態はVII-3層やVIII層を採掘するため側面を掘り進むためIII層を主体とした土と、VII-1のブロックが混在した土で埋没していた。

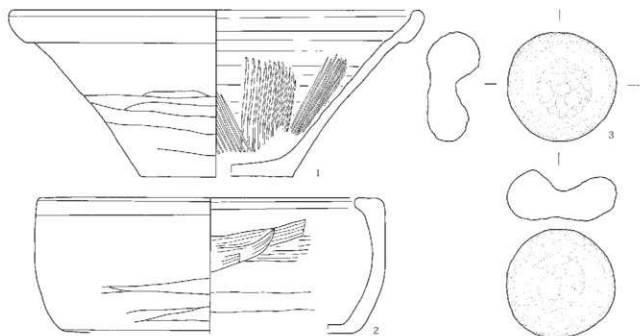
遺物は近世陶器や土師器杯、石製品などと多量の礫が出土しているが、大部分は本採掘坑が埋没仕切れない窪地で存在していたときに東側から廃棄されたものである。

本採掘坑の年代は出土物から18世紀代に比定でき



307図 J区1号採掘坑遺構図

IV 検出した遺構と出土した遺物



308図 J区1号探掘坑出土遺物図

J区1号探掘坑

PL.170

NO.	種類	器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	軟質陶器	掘り鉢	埋没土中 1/2	口 32.0 底 12.0 高 13.2	細砂粒 / 還元焼 / 灰黄	ロクロ整形。回転方向不明。体部下半は回転へら削り。底部回転糸切りか。内外面に縦軸輪軸。	
2	軟質陶器	火鉢	埋没土中 1/10	口 26.6 底 22.4 高(10.7)	細砂粒 / 酸化焼 ぎみ / 灰黄褐	ロクロ整形。回転方向不明。口唇部・体部下半は回転へら削り。底部は砂底か。	
NO.	種類	器種	出土位置	残存率	計測値	摘要	
3	石製品	凹石	埋没土中	完形	径 8.6 厚 4.2 凹径 6.6 凹深 1.7 重 350	粗粒輝石安山岩	

J区2号探掘坑

本探掘坑は発掘調査対象範囲外に約2分の1が存在するため全貌や詳細については不明な点がある。なお、本遺構は確認時において大型の土坑状の形態が確認できたが、掘削後底面が多数の土坑が重複しているような状態であったことや側面が横方向に大きく掘削されている状態であったこと、土層断面での重複が認められないことから探掘坑と判断した。ただし北側の礫を出土した土坑は別遺構であることが土層断面から判断される。

位置はJ区調査区の中程の西端、X=75.525~75.530-Y=-66.710~-66.716である。なお、本探掘坑の北西側はすぐに河岸段丘崖の急傾斜地になる。この急斜面を利用して平坦面からの掘り込みではなく斜面地から掘り込み省力化を図ったとみられる。残存状態は調査範囲内では良好であった。遺構との重複関係は北側で礫を多く出土する遺構番号を付与していない土坑との重複

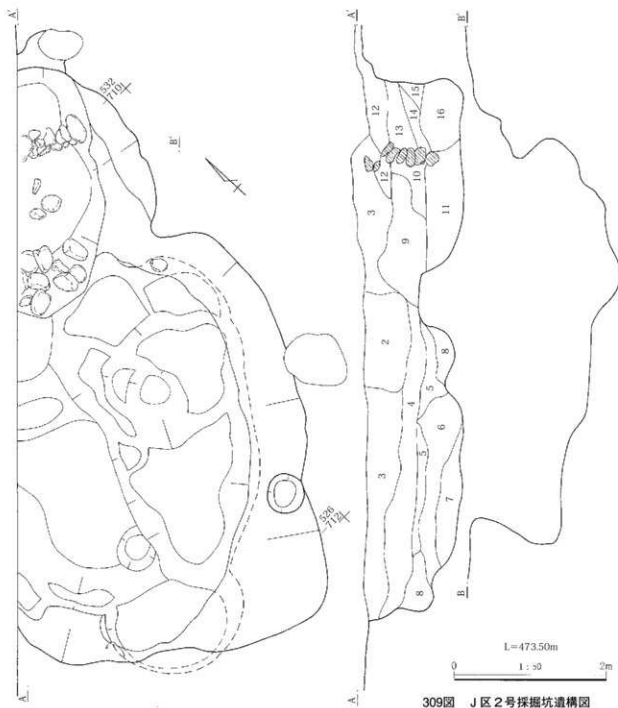
を確認した。新旧関係は本探掘坑のほうが新しい。

平面形態は大型の楕円形に近い形態で掘り込まれている。調査区内での規模は確認面で南北5.50m、東西3.80m、深度は最深部で161cmである。底面は中央部と周辺部では80cm前後の段差がみられ凹凸が激しい。また、側面は全体的に横方向に掘り込まれ、一部では50cm以上掘り込まれていた。

埋没状態はⅦ-3層やⅦ層を採掘するため側面を掘り進むためⅢ層を主体とした土と、Ⅶ-1のブロックが混在した土で埋没してしていた。

遺物は近世陶器小片や石製品などが出土しているが、大部分は本探掘坑が埋没仕切れない窪地で存在していたときに廃棄されたものである。

本探掘坑の年代は出土遺物が少ないため明確ではない。



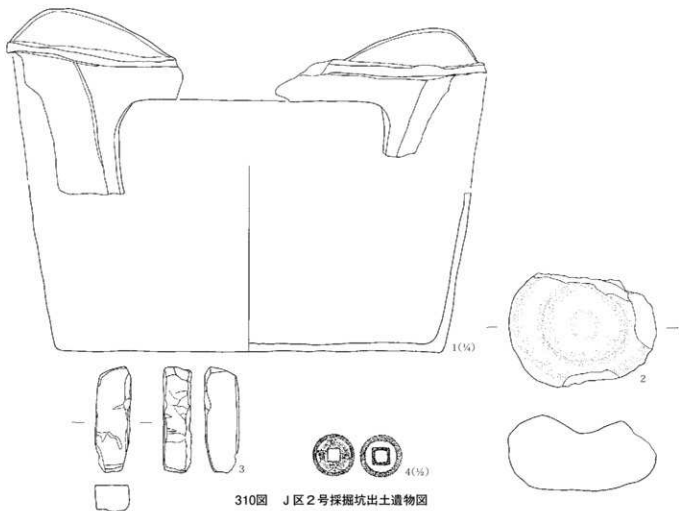
309図 J区2号探掘坑遺構図

J区2号探掘坑

- 2 褐色土 (10YR4/4) 根の跡。
- 3 暗褐色土 (10YR3/4) Hr-FPを5%含む。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) III・VIIの混合土 (2:8)、 ϕ 1~2cmのロームブロックを10%含む。
- 5 明黄褐色土 (2.5Y6/5) VII主体、Vブロック30%混入、Hr-FPを1%含む。
- 6 黒褐色土 (10YR2/2) V主体、Hr-FPを1%と ϕ 1~5cmのロームブロックを10%含む。
- 7 明黄褐色土 (2.5Y6/5) VII主体、VIIの崩落土、Vがしみ状に20%含む。
- 8 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) VIIにVが混入 (7:3)、Hr-FPを1%含む。
- 9 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 砂質土、ローム粒を3%含む。
- 10 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 砂質土、ローム粒1%を含む。

- 11 黒褐色土 (10YR2/2) V主体、VIIが混入 (8:2)、ロームブロックを3%含む。
- 12 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) VII主体、Vがしみ状に混入 (8:2)、Hr-FPを5%含む。
- 13 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) VIIにVが帯状に混入 (7:3)、Hr-FPを3%含む。
- 14 暗褐色土 (10YR3/3) III・VIIの混合土 (2:8)、 ϕ 1~2cmのロームブロックを10%含む。
- 15 明黄褐色土 (2.5Y6/5) VII主体、VIIの崩落土、Vがしみ状に10%含む。
- 16 黒褐色土 (10YR3/2) 6に類似、V主体、15よりVIIの混入率が多く含む。

IV 検出した遺構と出土した遺物



310図 J区2号探掘坑出土遺物図

J区2号探掘坑

PL.170

NO.	種別	器種	出土位置	残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	軟質陶器	カマド	底面付近	部分片		粗砂粒/酸化焙/褐	内外面ともヘラナデ。	
NO.	種類	器種	出土位置	残存率	計測値		摘要	
2	石製品	凹石	埋没土中	外縁一部欠	径 11.5×9.0	厚 6.0 孔径 6.5	重 (790)	粗粒輝石安山岩
3	石製品	砥石	埋没土中	完形か	長 (8.4)	幅 2.7 厚 2.1	重 (75.5)	デイサイト凝灰岩
4	銭貨	寛永通宝	埋没土中	完形	径 2.28	厚 0.11 外郭 0.27	孔 0.62 重 2.17	

(3) 土坑・室

中世及び近世に比定した土坑は65基検出した。これらの土坑をこの時代に比定した根拠は出土遺物、特に出土した陶磁器、「寛永通宝」などの銭貨による。

特徴的な土坑にはE区1号土坑、G区3号土坑、F区47号土坑、F区3号土坑、J区3号、10号、65号、94号、97号土坑がある。E区1号土坑とG区3号土坑はやや大きな礫が確認面近くから出土しており墓坑の可能性が窺えたが骨・歯などはみられなかった。F区47号土

坑は平面形態が長方形で側面が焼土化しており火葬跡の可能性が窺えたがここでも骨片などはみられなかった。F区3号土坑、J区3号、10号、65号、94号、97号土坑では平面形態が鍵穴状やこれに近い形態で断面に段を有し、一部で側面を掘り込んだような形態がみられることと土層断面で底面付近にローム土がそのまま崩落した様子が観察できることから地下室と判断した。また、この他の土坑でも貯蔵用のものではとみられるものもあるが、確証を得るまでには至らなかった。

H区1号室はH区調査区の南部、X=75.446~75.452

5表 中世以降土坑一覧

区	土坑NO.	重複関係		形態		計測値			摘要
		新	古	平面	断面	長径	短径	深度	
DK	1号土坑			楕円形	箱形状	114	76	62	
	5号土坑		6号土坑	隅丸長方形	逆台形状	158	132	32	
	7号土坑			矩形	逆台形状	95	74	25	
EK	33号土坑			隅丸矩形	箱形状	155	107	60	
	1号土坑			楕円形	逆台形状	132	128	33	土位に多量の礫
	3号土坑			楕円形	弧状	145	138	32	
	4号土坑			楕円形	逆台形状+OH	236	(100)	136	
FK	37号土坑		7号溝	矩形	逆台形状+段	424	362	155	
	2号土坑	1号溝		楕円形?	箱形状+段	(230)	(140)	118	
	3号土坑	1号溝	4号、5号、6号土坑	鍵穴状	逆台形状+段	264	225	150	地下室
	4号土坑	3号土坑		矩形	逆台形状	145	(70)	20	
	5号土坑	3号、6号土坑		矩形	逆台形状	164	135	67	
	6号土坑	1号溝、3号、5号土坑		楕円形	逆台形状	175	162	151	
	10号土坑	1号溝		楕円形	逆台形状	84	78	26	
GK	47号土坑		2号探掘坑	長方形	箱形状	167	88	35	側面一部破土化
	1号土坑			長方形+凸	箱形状	163	128	37	
	2号土坑			長方形+凸	箱形状	122	88	43	
	3号土坑			矩形	箱形+OH	192	175	68	土位に多量の礫
	4号土坑		12号土坑	楕円形	箱形+OH	193	180	150	中位に多量の礫
	8号土坑		2号竪穴建物	楕円形	逆台形状+段	222	104	35	
HK	10号土坑			楕円形	箱形状	225	182	93	
	8号土坑	1号室		不整形	箱形状	83	61	22	
IK	10号土坑			不整形	逆台形状+OH	136	118	74	
	5号土坑			楕円形	箱形+OH	206	175	162	
	8号土坑			楕円形	箱形+OH	150	102	52	
	9号土坑			矩形	箱形+OH	140	140	154	
	13号土坑			楕円形	箱形+OH	204	152	200	
	15号土坑			矩形	逆台形状+OH	173	148	79	
JK	31号土坑			楕円形	箱形+OH	172	150	82	
	3号土坑		5号竪穴建物	楕円形	袋状	250	(123)	162	地下室
	4号土坑			楕円形	箱形状	185	157	72	
	6号土坑			不整形	箱形状+段	248	(92)	25	土位に多量の礫
	7号土坑			楕円形	逆台形状	182	(111)	43	
	8号土坑	1号探掘坑、9号土坑		隅丸長方形	箱形	(115)	103	17	
	9号土坑	1号探掘坑	8号土坑	楕円形	箱形状+OH	147	126	83	
	10号土坑		15号土坑、1号竪穴建物	長方形	袋状	265	167	192	地下室
	13号土坑			楕円形	箱形状	82	76	17	
	15号土坑	10号土坑	1号竪穴建物	楕円形	逆台形状	(172)	147	32	
	19号土坑		8号竪穴建物	楕円形	逆台形状	66	57	75	
	20号土坑		21号土坑、17号竪穴建物	矩形	逆台形状+OH	128	98	82	
	21号土坑	20号土坑	6号、17号竪穴建物	楕円形	箱形状	107	95	84	
	25号土坑		44号土坑(縄文)	楕円形	箱形状+OH	(172)	125	138	下位に多量の礫
39号土坑		8号竪穴建物	楕円形	逆台形状	52	56	55		
47号土坑		24号土坑	楕円形	逆台形状	248	168	55		
50号土坑		17号竪穴建物	円形	箱形+OH	88	88	95		
53号土坑			楕円形	逆台形状+段	(117)	152	31		
59号土坑			楕円形	弧状	195	136	24		
60号土坑		61号土坑	隅丸長方形	箱形	332	156	52		
61号土坑	60号土坑		隅丸長方形	箱形	295	187	37		
65号土坑	土坑		鍵穴状	OH+段	205	145	155	地下室	
66号土坑	土坑		不整形	箱形状	(200)	181	67		
67号土坑		24号土坑	卵形状	逆台形状	202	125	68		
75号土坑			楕円形	逆台形状+段	327	136	184		
76号土坑	97号、98号土坑		楕円形か	逆台形状+段	190	124	117		
77号土坑			楕円形	逆台形状	285	134	162		
78号土坑			楕円形	逆台形状	94	88	27		
79号土坑			矩形	逆台形状	87	85	16		
90号土坑			矩形	逆台形状	160	122	54		
91号土坑			双円状	箱形+段	50	39	20		
92号土坑			楕円形	逆台形状+段	128	65	54		
94号土坑			鍵穴状	逆台形状+段	330	224	97	地下室	
95号土坑			不整形	逆台形状	172	156	44		
97号土坑	98号土坑?	76号土坑	不整形	箱形状+段	331	360	187	地下室	
98号土坑	97号土坑?	76号土坑	楕円形	逆台形状+段	357	282	74	礫が大量に廃棄	
104号土坑			隅丸長方形	箱形	145	88	26		

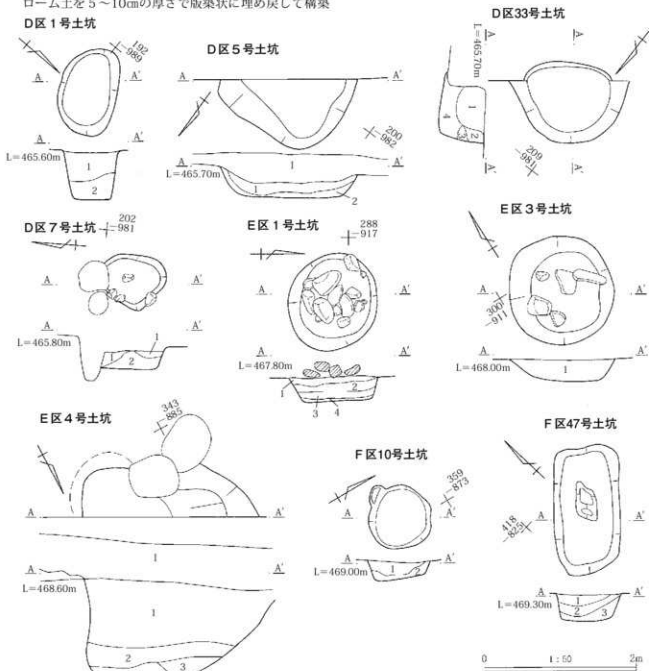
IV 検出した遺構と出土した遺物

—Y—66.783～66.787に位置する。残存状態は良好である。他遺構との重複関係はH区1号掘立柱建物との重複を確認した。新旧関係は本室のほうが新しい。平面形態は長方形の本体に小規模な方形の突出部をもつ形態である。規模は全長6.20m、幅3.10m、深度は確認面から1.27mである。なお、突出部は全長1.00m、幅1.20mで出入りのための階段であった。本体は側面に円礫を積み上げて壁面を構築していた。底面は黒色土やローム土を5～10cmの厚さで版築状に埋め戻して構築

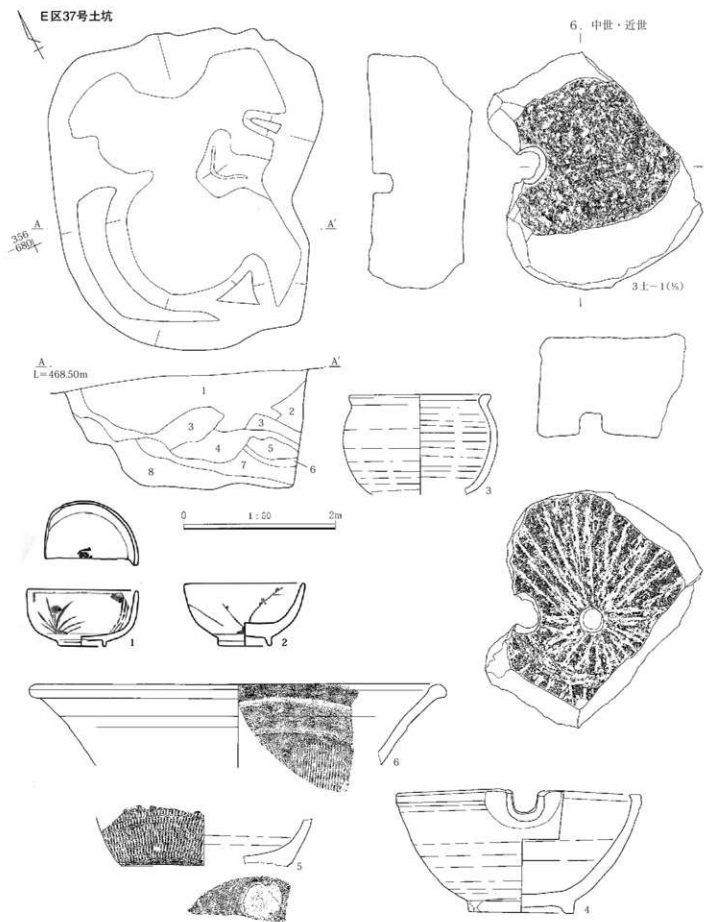
している。天井部はローム土を掘り残す形状ではなく上屋を設けていたとみられる。

遺物は陶磁器、銭貨、鉄器など多種多様なものが出土しているが、比較的上位からの出土も多く、埋没過程で窪地になっていたところに不要品を廃棄した可能性が窺えた。

本室の年代は出土した遺物から18世紀代に比定できる。

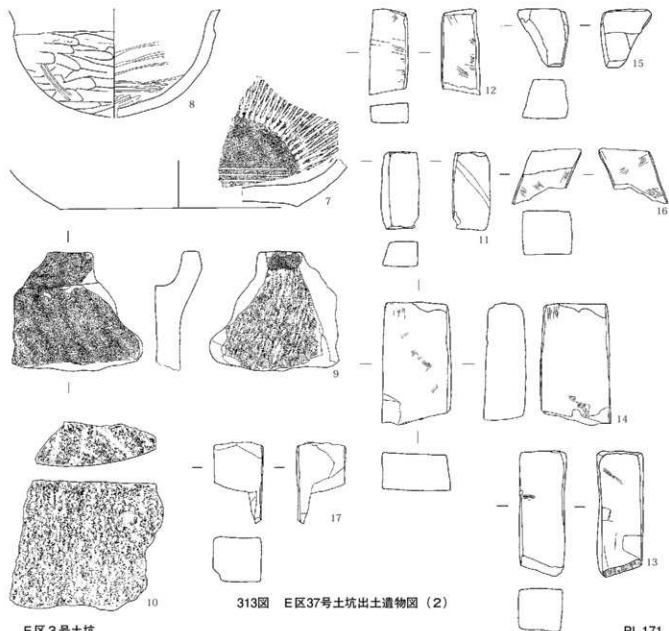


311図 D区1号・5号・7号・33号・E区1号・3号・4号・F区10号・47号土坑遺構図



312图 E区37号土坑遗構図・出土遺物図(1)、3号土坑出土遺物図

IV 検出した遺構と出土した遺物



313図 E区37号土坑出土遺物図(2)

PL.171

E区3号土坑

NO.	種別	器種	出土位置	残存率	計測値	摘要
1	石製品	石臼	埋没上中	2/3、外縁欠損	径 32.0 高 (13.0) 重 (13.300)	粗粒輝石安山岩

E区37号土坑

PL.170・171

NO.	種別	出土位置	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	磁器 椀	埋没上中 1/3	口 8.6 底 3.6 高 4.4	夾雑物なし/還元焼/白	染付、外面草花文、内面見込み圓縁、路不明。	
2	磁器 椀	埋没上中 1/2	口 9.3 底 4.0 高 4.9	黒色微粒/還元焼/白	染付、外面草花文、底面の路不明、貫付無縁。	
3	陶器 壺	埋没上中 口縁~胴部下位片	口 10.0 胴 12.0	細砂粒/還元焼/灰黄	ロクロ成形・整形、外面は胴部近くまでと内面は全面に褐釉が施釉。	常滑窯産か。
4	陶器 片口鉢	埋没上中 完形	口 18.4 底 8.2 高 9.2	細砂粒/還元焼/灰白	ロクロ成形・整形、回転右回り。底部回転へら削り、高台は削りだし。内外面に灰釉が施釉。	
5	軟質陶器 脚付き鉢	埋没上中 底部~体部下位片	底 13.0	細砂粒/還元焼/灰オリーブ	ロクロ整形、回転方向不明。底部はへら削り、3本または4本の脚が貼付。体部外面は平行叩き。	
6	軟質陶器 溜り鉢	埋没上中 口縁部片	口 31.8	細砂粒/還元焼/灰黄	ロクロ整形、回転方向不明。内外面を褐釉にて施釉。	

NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
7	軟質陶器 磨り鉢	埋没上中 底部片	底 18.8	粗砂粒/酸化焰 /にふい赤褐	ロクロ成形。回転方向不明。底部は砂底。内面底部 にも強い磨目が入る。	
8	土器類 丸瓦	埋没上中 体部一底部片		細砂粒/良好/に ふい褐	内面は黒色処理。口縁部は横ナデ。体部はヘラ削り。 内面は雑なヘラ磨き。	古墳時代後期
9	土製品 大瓦	埋没上中 上端部片		細砂粒/還元焰 /灰	型作り。外面はヘラナデ。内面の磨跡不鮮明。	
NO.	種類	器種	出土位置	残存率	計測値	摘要
10	石製品	石臼(下臼)	埋没上中	縁部小片	径 - 高 - 重 (369)	粗粒輝石安山岩
11	石製品	砥石	埋没上中	完形	長 6.0 幅 3.0 厚 2.0 重 51.2	流紋岩
12	石製品	砥石	埋没上中	下半部欠損	長 (6.7) 幅 3.0 厚 1.6 重 (60.1)	流紋岩
13	石製品	砥石	埋没上中	下端部欠損	長 (9.9) 幅 3.6 厚 3.3 重 (235)	デイサイト
14	石製品	砥石	埋没上中	下端部欠損	長 (9.3) 幅 5.4 厚 2.9 重 (300)	デイサイト
15	石製品	砥石	埋没上中	完形	長 4.6 幅 3.5 厚 3.1 重 77.0	流紋岩
16	石製品	砥石	埋没上中	両端部欠損	長 (4.2) 幅 3.8 厚 3.4 重 (77.2)	デイサイト
17	石製品	砥石	埋没上中	両端部欠損	長 (6.5) 幅 3.8 厚 3.5 重 (42.4)	デイサイト

D区1号土坑

1 黒褐色土 (10YR2/2) IとIIIの混合土 (50:50か)、 ϕ 1~3cmのロームブロックを20%含む。

2 黒色土 (10YR2/1) III主体、 ϕ 0.5~2cmのロームブロックを1~2%含む。

D区5号土坑

1 黒褐色土 Hr-FPを10%含む。

2 黒色土 Hr-FPを3%とローム粒を5%含む。

D区7号土坑

1 黒色土 Hr-FPを5%含む。

2 黒色土 Hr-FPを3%とローム粒を5%含む。

D区33号土坑

1 黒褐色土 (10YR3/1) I・IIとVの混入土、 ϕ 1cmのローム粒を1%含む。

2 黒褐色土 (10YR3/1) Iと同様、 ϕ 1~3cmのロームブロックを5%含む。

3 黒褐色土 (10YR3/1) Vの崩落土。

4 黒褐色土 (10YR3/1) VIの崩落土。

E区1号土坑

1 黒褐色土 (10YR3/2) 砂質土、 ϕ 1cmのロームブロックを3%と焼土粒を1%含む。

2 明黄褐色土 (2.5Y6/6) VII主体、炭化材と焼土ブロックを5%とIを10%含む。

3 黒褐色土 (10YR3/1) 砂質土、 ϕ 1~3cmのロームブロックを3%含む。

4 黒褐色土 (10YR3/2) ϕ 1~2cmの黒褐色土ブロックを5%含む。

E区3号土坑

1 黒褐色土 (10YR2/2) ϕ 5cmのロームブロックを20~30%含む。

E区4号土坑

1 黒褐色土 (10YR3/1) IIIと同様、Vを30%含む。

2 黒褐色土 (10YR3/1) Iと同様、 ϕ 1cmロームブロックを5%含む。

3 黒褐色土 (10YR3/2) VとIIIの混合土 (7:3)。

4 黒褐色土 (10YR3/2) 3に類似、3よりロームが少ない。

E区37号土坑

1 黒褐色土 Hr-FPと礫を20%、炭化物を5%含む。

2 褐色土 ϕ 1~2cmのロームブロックを10%含む。

3VIIの崩落土。

4 灰褐色土 ϕ 1~2cmのロームブロックを10%含む。

5 灰褐色土 ϕ 5cm前後のロームブロックを10%含む。

6 黒褐色土 ϕ 1~2cmのロームブロックとAs-BPを含む。

7 黒褐色土 ϕ 5cm前後のロームブロックを含む。

8VIIの崩落土

F区10号土坑

1 黒褐色土 Hr-FPをわずかに含む。

2 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。

F区47号土坑

1 黒褐色土 焼土ブロックを5%と炭化物を5%、ローム粒を20%含む。

2 黒褐色土 焼土粒を5%と炭化物を5%、ローム粒を20%含む。

3 黒褐色土 焼土粒を10%と炭化物を5%、ロームブロックを30%含む。

F区2号土坑

1 黒褐色土 夾雑物は少ないが、小円礫を含む。

2 黒褐色土 ロームブロック多く含む。

3 黒褐色土 ロームブロックをやや多く含む。

4 明黄褐色土 VIIと同様。

5 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。

F区3号土坑

1 黒褐色土 夾雑物は少ないが、小円礫を含む。

2 黒褐色土 ロームブロック多く含む。

3 黒褐色土 ロームブロックをやや多く含む。

4 明黄褐色土 VIIと同様。

5 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。

6 明黄褐色土 As-BPを含むロームブロックを含む。

7 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。

8 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。

G区1号土坑

1 灰黄褐色土 (10YR4/2) ϕ 1~3cmのVIIブロックを20%含む。

2 黒色土 (10YR2/1) ローム粒を3%含む。

3 黄褐色土 (2.5Y5/6) VIIブロック。

G区2号土坑

1 灰黄褐色土 (10YR4/2) ϕ 0.5~1cmのVIIブロックを10%含む。

G区3号土坑

1 灰黄褐色土 (10YR4/2) ϕ 1~5cmのVIIブロックを30%含む。

2 灰黄褐色土 (10YR4/2) ϕ 1~3cmのVIIブロックを20%含む。

3 黒色土 (10YR2/1) ローム粒を3%含む。

4 褐色土 (10YR4/6) ローム土主体。

G区10号土坑

1 黒褐色土 (2.5Y3/1) ロームブロックを50%とHr-FPを1%含む。

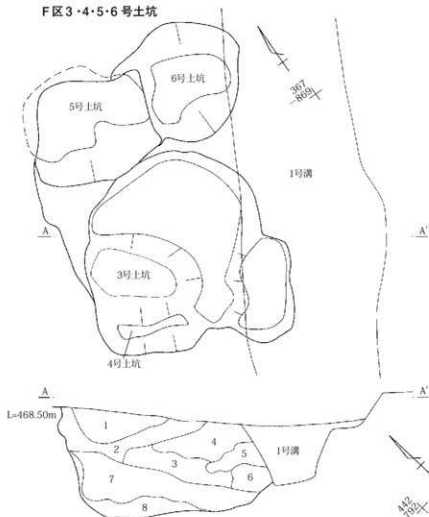
2 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロックを10%とHr-FPを1%含む。

3 黒色土 (2.5Y2/1) 1%のローム粒を含む。

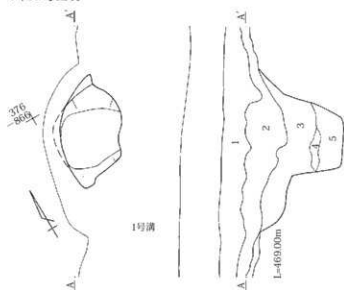
4 褐色土 (10YR4/6) ローム土主体。

IV 検出した遺構と出土した遺物

F区3・4・5・6号土坑



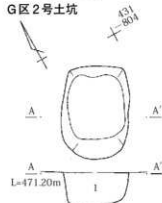
F区2号土坑



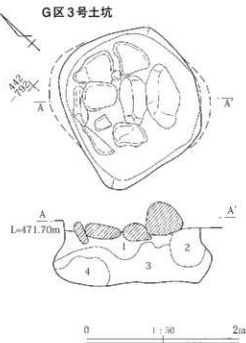
G区1号土坑



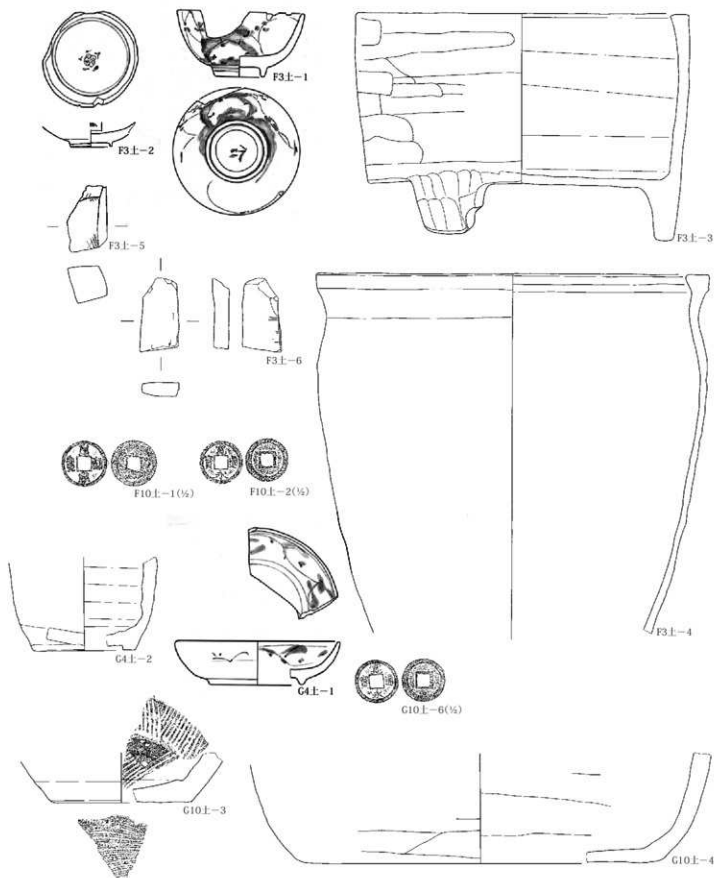
G区2号土坑



G区3号土坑

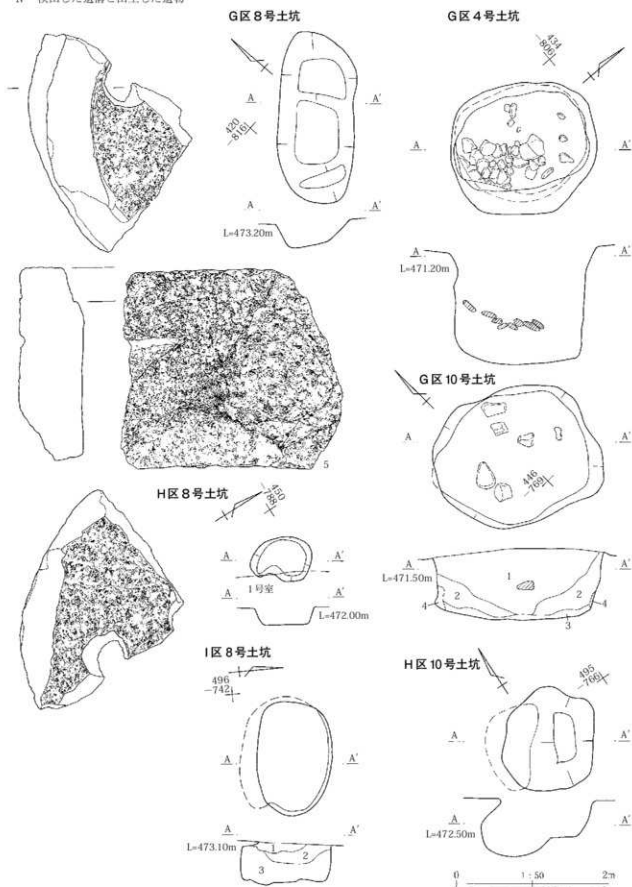


314図 F区2号～6号・G区1号～3号土坑遺構図



315图 F区3号・10号・G区4号・10号土坑出土遗物图

IV 検出した遺構と出土した遺物



316図 G区4号・8号・10号・H区8号・10号・I区8号土坑遺構図、G区10号土坑出土遺物図

F区3号土坑

PL.171

NO.	種類	器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	磁器	罎	埋没上中 口縁部の一部欠	口 10.0 底 4.0 高 5.1	夾雑物なし/還元焰/白	染付、外面草花文、高台内に不明跡。	
2	磁器	罎	埋没上中 底部	底 3.2	夾雑物なし/還元焰/白	染付、外面格子目文、内面見込み二重圓縁、崩れた五弁花文を散く。	
3	軟質陶器	火鉢	埋没上中 2/3	口 26.0 底 24.4 高 17.8	粗砂粒/酸化焰 ぎみにふい粉	三足。輪積みによる成形。外面体部ヘラナデ、底部は砂底。	
4	軟質陶器	甕	埋没上中 口縁~胴部中位片	口 31.0	粗砂粒/酸化焰 /灰	内外面とも器面剥離。	
NO.	種類	器種	出土位置	残存率	計測値	摘要	
5	石製品	砥石	埋没上中	両端部欠損	長 (5.0) 幅 3.1 厚 2.8 重 (53.8)	「政和通宝」か。	
6	石製品	砥石	埋没上中	両端部欠損	長 (5.6) 幅 3.0 厚 1.2 重 (35.7)	流紋岩	

F区10号土坑

PL.172

NO.	種類	器種	出土位置	残存率	計測値	摘要
1	銭貨	渡来銭	埋没上中	完形	径 2.46 厚 0.11 外郭 0.24 孔 0.67 重 3.28	「政和通宝」か。
2	銭貨	寛永通宝	埋没上中	完形	径 2.31 厚 0.11 外郭 0.23 孔 0.67 重 1.97	

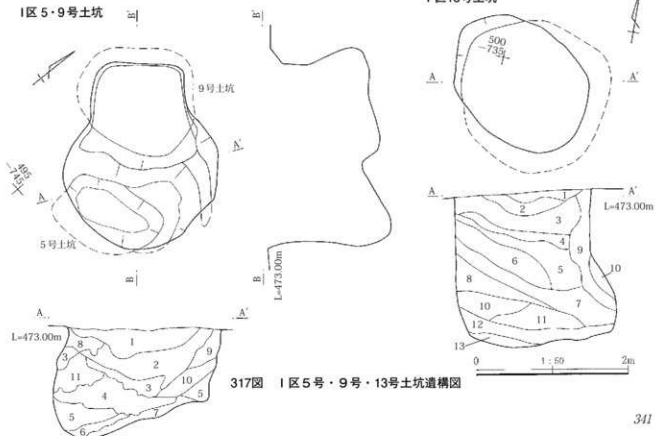
G区土坑(4号・10号土坑)

PL.172

NO.	種類	器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	磁器	皿	G区4号土坑 1/8	口 12.4 底 7.0 高 3.4	夾雑物なし/還元焰/白	染付、内外面口縁部に草花文。	
2	陶器	瓶	G区4号土坑 底部~胴部下位片	底 7.8	細砂粒/還元焰 /灰	ロクロ整形、回転方向不明。高台は削りだし。外面は二次焼成を受けている。	
3	軟質陶器	揉り鉢	G区10号土坑 底部片	底 10.8	細砂粒/還元焰 /灰黄	底部にも磨目。内外面に和輪が施施。	
4	軟質陶器	火鉢	G区10号土坑 底部片	底 26.2	細砂粒/酸化焰 /ふい粉	体部はナデ、底部は砂底。	
NO.	種類	器種	出土位置	残存率	計測値	摘要	
5	石製品	石臼(上E)	G区10号土坑	一部片	径 - 高 20.8 重 (8,400)	粗粒輝石安山岩	
6	銭貨	寛永通宝	G区10号土坑	完形	径 2.34 厚 0.13 外郭 0.24 孔 0.66 重 2.98		

I区5・9号土坑

I区13号土坑



317図 I区5号・9号・13号土坑遺構図

IV 検出した遺構と出土した遺物

H区8号土坑

暗褐色土 Hr-FPとローム粒、ロームブロックを含む。

I区5号・9号土坑

- 1 暗褐色土 Hr-FPを少量とローム粒、ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土 Hr-FPをわずかとローム粒、ロームブロックを多く含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを少量含む。
- 4 灰黄褐色土 ϕ 5cmのロームブロックを含む。
- 5 明黄褐色土 ロームブロックとAs-BP主体。しまりなし。
- 6 灰黄褐色土 ロームブロック主体。
- 7 明黄褐色土 ロームブロック主体。
- 8 灰黄褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 9 灰黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。
- 10 灰黄褐色土 4よりもロームブロックを多く含む。
- 11 灰黄褐色土 ロームブロック主体。

I区8号土坑

- 1 暗褐色土 Hr-FPとローム粒を含む。
- 2 黒褐色土 Hr-FPとローム粒を少量含む。しまりはやや強い。
- 3 黒褐色土 Hr-FPをわずかとローム粒、ロームブロックを少量含む。

I区13号土坑

- 1 暗褐色土 Hr-FPを少量とローム粒、ロームブロックと焼土粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土 Hr-FPとローム粒、ロームブロック多く含む。
- 3 暗褐色土 Hr-FPをわずかとローム粒、ロームブロックを多く含む。
- 4 黒褐色土 Hr-FPをわずかとローム粒、ロームブロックを少量含む。

5 黒褐色土 4よりもHr-FPが少なく、炭化物を含む。

6 暗褐色土 Hr-FPをわずかとローム粒を少量含む。

7 暗褐色土 6よりもローム粒を多く含む。

8 暗褐色土 2と同じ。

9 にぶい黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。

10 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックをやや多く含む。

11 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックをやや多く含む。

12 黒褐色土 Hr-FPをわずかとローム粒、ロームブロックを少量含む。

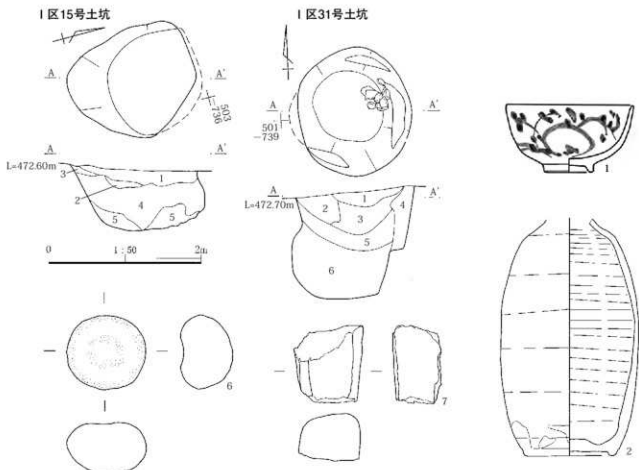
13 灰黄褐色土 ローム粒を含む。

I区15号土坑

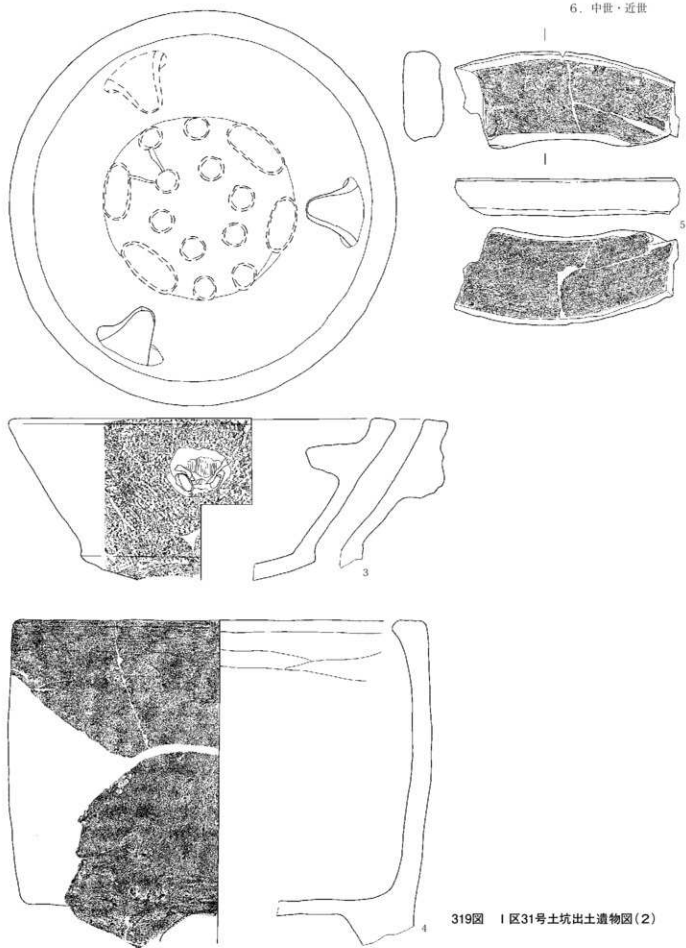
- 1 暗褐色土 ϕ 5cm前後の黒褐色土ブロックを10%と ϕ 1~2cmのロームブロックを5%含む。
- 2 暗褐色土 ϕ 5cm前後のロームブロックを40%含む。
- 3 黒褐色土 黄色粒を5%含む。
- 4 暗褐色土 ϕ 1~2cmの黒褐色土ブロックを10%と ϕ 1~5cm前後のロームブロックを30%含む。
- 5 暗褐色土 ϕ 1~2cmのロームブロックを含む。

I区31号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒を少量含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを少量含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒をやや多く含む。
- 5 黒褐色土 黒色土(V)主体。
- 6 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを少量含む。

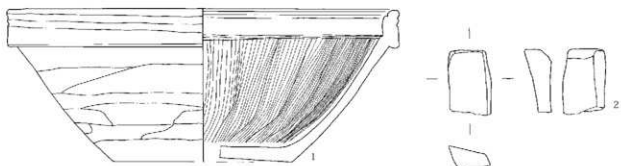


318図 I区15号・31号土坑遺構図・31号土坑出土遺物図(1)



319图 I区31号土坑出土遗物图(2)

IV 検出した遺構と出土した遺物



320図 I区3号・5号土坑出土遺物図

I区土坑(3号・5号土坑)

PL.172

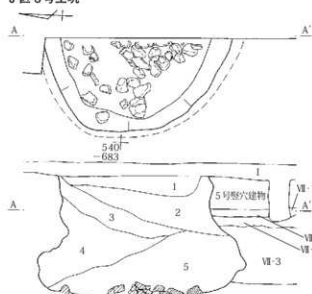
NO.	種類	出土位置	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	陶器 部り鉢	I区5号土坑 1/2	口 30.6 底 14.0 高 12.1	小磯, 粗砂粒 /酸化焙/赤褐	ロクロ整形, 回転方向不明。底部・体部はヘラ削り。 見込み部にも磨目(単位8本)	
NO.	種類	器種	出土位置	残存率	計測値	摘要
2	石製品	砥石	I区3号土坑	下半部欠損	長(5.2) 幅 3.3 厚 1.8 重(44.9)	砥石
3	銅製品	用途不明	I区5号土坑	一部片	長 - 幅 - 厚 - 重 -	鍛造品

I区31号土坑

PL.172

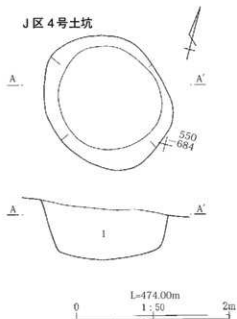
NO.	種類	出土位置	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	陶器 鉢	埋没土中 口唇部一部欠	口 10.0 底 3.6 高 5.3	微砂粒/還元焙 /灰黄	染付外面草花文。登付け無施。	
2	陶器 器	埋没土中 2/3	底 7.0	微砂粒/還元焙 /灰黄	ロクロ整形, 回転右回りか。高台は削りだし。施釉 は胴部下位を除き全面。	
3	軟質陶器 火鉢	埋没土中・他遺構 3/4	口 28.0 底 18.4 高(12.7)	粗砂粒/酸化焙 /にぶい相	体部上位に魚面状把手が一对。内面に鋼受けが3ヶ 所。外面は叩きぬが残る。	
4	軟質陶器 火鉢	埋没土中 1/5	口 31.8 底 31.0 高(25.6)	粗砂粒/酸化焙 /にぶい相	三足、脚部は貼付。体部は底部付近にヘラ削りが残 る。	
5	土製品 環状	埋没土中 一部片		粗砂粒/酸化焙 /にぶい相	表裏ともナデ。	
NO.	種類	器種	出土位置	残存率	計測値	摘要
6	石製品	凹石	埋没土中	完形	径 6.1×5.7 厚 4.0 孔径 2.5 孔径 0.3 重 176.6	粗粒輝石安山岩
7	石製品	砥石	埋没土中	両端部欠損	長(6.0) 幅 5.0 厚 3.7 重(176.6)	変質安山岩

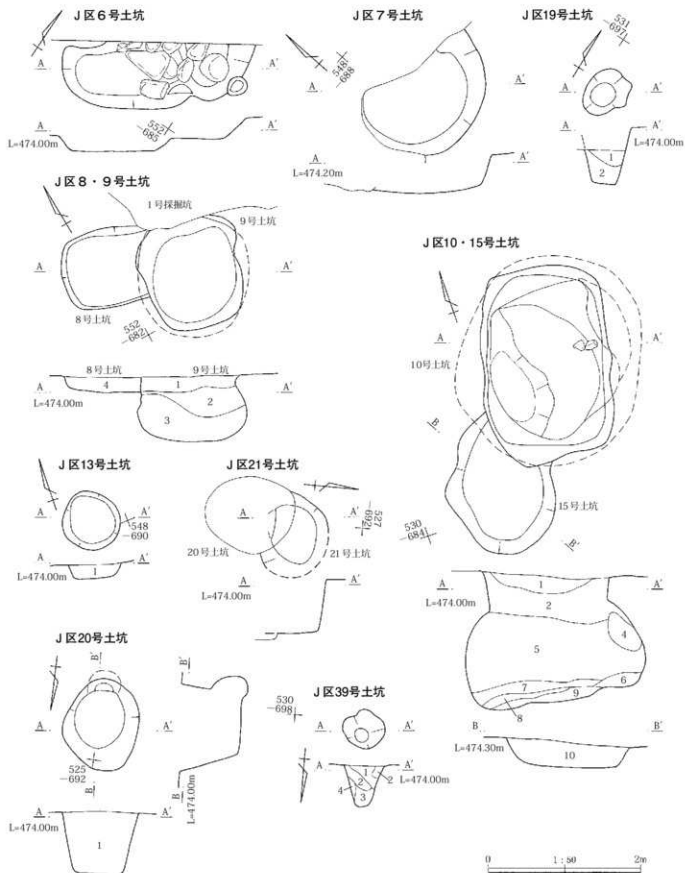
J区3号土坑



321図 J区3号・4号土坑遺構図

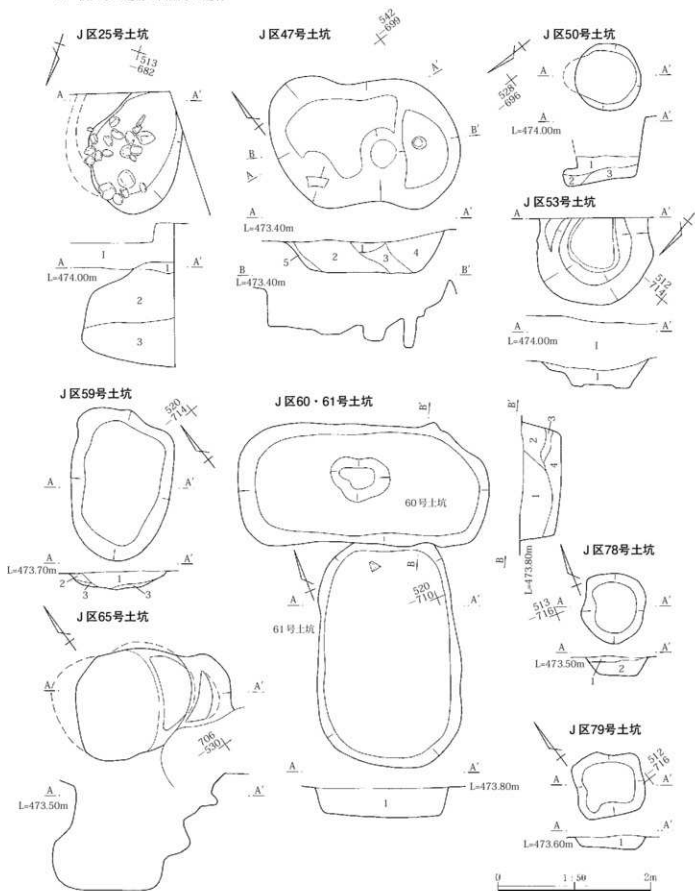
J区4号土坑



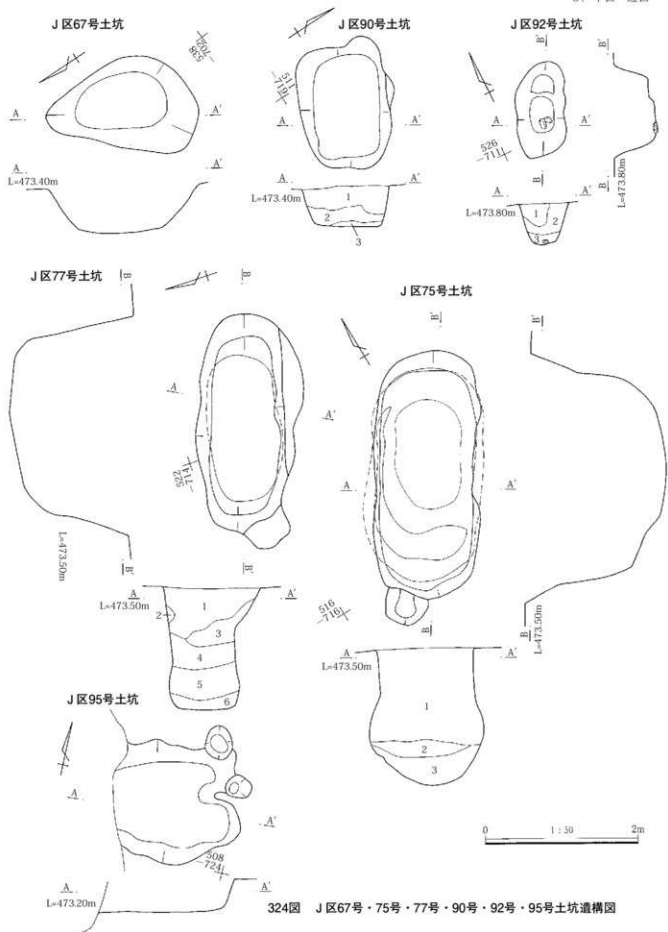


322图 J区6号~10号·13号·15号·19号~21号·39号土坑遗構图

IV 検出した遺構と出土した遺物

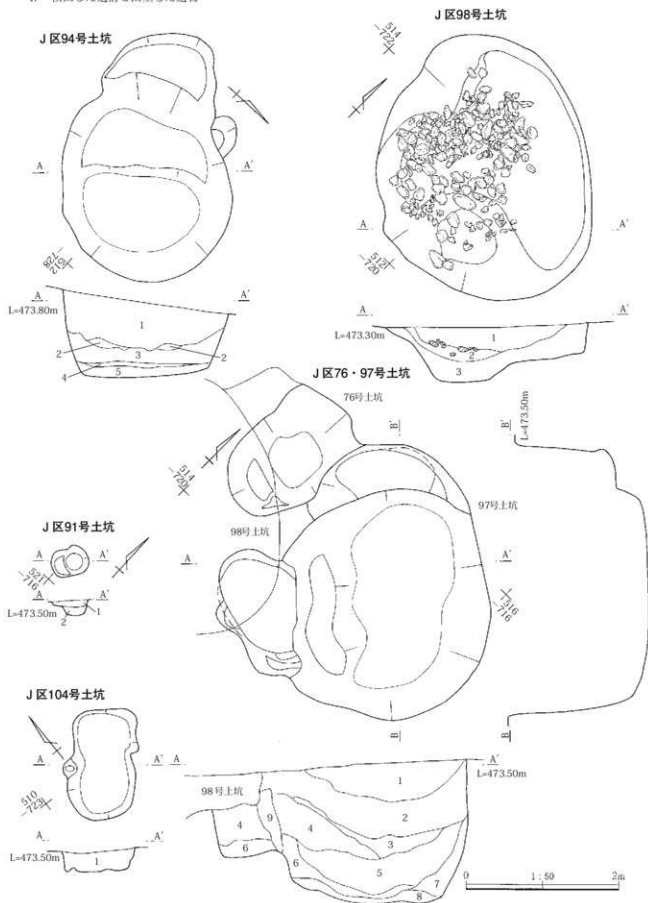


323図 J区25号・47号・50号・53号・59号～61号・65号・78号・79号土坑遺構図



324图 J区67号·75号·77号·90号·92号·95号土坑遺構図

IV 検出した遺構と出土した遺物



325図 J 区76号・91号・94号・97号・98号・104号土坑遺構図

J区3号上坑

- 1黒褐色土 (10YR3/2) Hr-FPとローム粒を含む。ロームブロックは7%含む。
- 2黒褐色土 (10YR3/2) ややしまる。Hr-FPとローム粒を5%含む。
- 3黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒、ロームブロックが10%とHr-FPを3%含む。
- 4黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒、ロームブロックを20%とHr-FPを1%、As-BPを3%含む。
- 5黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒とHr-FPを含む。

J区4号上坑

- 1黒褐色土 (10YR3/2) Hr-FPを5%とローム粒を10%含む。
- J区8号上坑
- 4暗褐色土 (10YR3/3) VとVIの混合土? ϕ 2~5cmのロームブロック20%含む。

J区9号上坑

- 1黒褐色土 (10YR3/2) Hr-FPとローム粒、ロームブロックを含む。
- 2黒褐色土 (10YR2/2) V主体か、ローム土10~20%混入。 ϕ 1~3cmのロームブロック5%含む。
- 3黒褐色土 (10YR3/2) 2と同様、2よりやや黒い。 ϕ 1~2cmと ϕ 5cmのロームブロックを3%含む。

J区10号・15号上坑

- 1黒褐色土 (10YR3/2) IIIに類似、Hr-FPを5%と ϕ 1~3cmのロームブロックを5%含む。
- 2黒褐色土 (10YR3/2) Iに類似、1よりロームブロックが3%少ない。4As-FPとVII-2、VIIIの崩落土。
- 5黒褐色土 (10YR2/2) IIIに類似、 ϕ 0.5~1cmのHr-FPを1%と ϕ 0.5~1cmのロームブロックを2~3%含む。
- 6明黄褐色土 (2.5Y6/6) VII-1ブロック主体、黒褐色土を30~50%ブロックの間に含む。
- 7黒褐色土 (10YR2/2) Iに類似、Hr-FPを0.5%、 ϕ 1~5cmのロームブロック30%含む。
- 8黒褐色土 (10YR2/2) 3に類似、Hr-FPを1%。ロームブロックを30%含む。
- 9淡い黄色土 (2.5Y6/4) VII-3の小ブロック化したもの、黒褐色土を10%含む。
- 10黒褐色土 (10YR2/2) III主体、Vが混入。 ϕ 0.5~1cmのHr-FPを10%含む。

J区13号上坑

- 1黒褐色土 (10YR3/2) ロームブロックを含む。

J区19号上坑

- 1黒褐色土 (10YR3/2) Hr-FPとローム粒、ロームブロックを含む。
- 2黒褐色土 (10YR3/2) Hr-FPをわずかとローム粒、ロームブロックを多く含む。

J区20号上坑

- 1黒褐色土 (10YR3/2) 上位にHr-FPを1%、全体的にローム粒、ロームブロックを3%含む。

J区25号上坑

- 1にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ローム土を多く含む。
- 2黒褐色土 (10YR3/1) Hr-FPを10%とローム粒を3%含む。
- 3黒褐色土 (10YR3/1) Hr-FPを3%とローム粒を1%含む。

J区39号上坑

- 1黒褐色土 (10YR3/1) Hr-FPとローム粒を含む。
- 2黒褐色土 (10YR3/1) Hr-FP、ローム粒を10%含む。
- 3黒褐色土 (10YR3/1) Iと同じ。
- 4黒褐色土 (10YR3/1) ローム粒、ロームブロックを多く含む。

J区47号上坑

- 1黒褐色土 (10YR3/2) Hr-FPを3%とロームブロックを多く含む。
- 2黒褐色土 (10YR3/2) Hr-FPを3%とローム粒を含む。
- 3黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒、ロームブロックを多く含む。
- 4ロームブロック主体、As-BPも含む。
- 5黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒、ロームブロックを多く含む。

J区50号上坑

- 1黒褐色土 (10YR2/2) V主体、 ϕ 1~2cmのロームブロックを5%、Hr-FPを1%含む。
- 2黒褐色土 (10YR2/2) Iと同様、1よりロームブロックを10%と多く含む。
- 3黒褐色土 (10YR2/2) 1・2に類似、ロームブロックを10%含む。

J区53号上坑

- 1黒褐色土 (10YR3/1) Hr-FPとローム粒を含む。
- J区59号上坑
- 1黒褐色土 (10YR3/2) I・IIに類似、 ϕ 2~3cmのロームブロックを3%含む。
- 2VIの崩落土。
- 3VとVIの混合土、 ϕ 1~3cmのロームブロックを10%含む。

J区60号上坑

- 1黒褐色土 (10YR2/2) IIIに類似。
- 2暗褐色土 (10YR3/3) III~VIIの混合土。
- 3VIIの流れ込み
- 4黒褐色土 (10YR2/3) III~Vの混合土。

J区61号上坑

- 1黒褐色土 (10YR3/1) I・IIに類似、砂質土、 ϕ 1cmのHr-FPを3%含む。
- J区75号上坑

- 1黒褐色土 (10YR2/2) IIIと同様、 ϕ 1~2cmのHr-FPを5%含む。
- 2黒褐色土 (10YR3/2) III・Vの混合土。 ϕ 1~3cmのロームブロック10%含む。
- 3黒褐色土 (10YR3/2) ロームブロックを30%含む。

J区76号上坑

- IIIによる埋没であるが、Hr-FPを30%と多く含む。

J区77号上坑

- 1黒褐色土 (10YR2/2) IIIに類似、 ϕ 1~3cmのロームブロック5%含む。
- 2VIIの崩落土、Vを30%含む。
- 3黒褐色土 (10YR3/1) V主体、Hr-FPを1%、ロームブロックを20%含む。
- 4にぶい黄褐色土 (10YR4/3) Vとロームブロックの混合土 (6:4)。
- 5黒褐色土 (10YR3/1) V主体、ロームブロックを30%含む。
- 6ロームの流れ込み、黒色土を10%含む。

J区78号上坑

- 1黒褐色土 (10YR2/2) III主体、IIIとHr-FPを70%含んだ上層が帯状に堆積。
- 2黒褐色土 (10YR3/1) Vに類似、III混在。 ϕ 1cmのHr-FPを1%含む。

J区79号上坑

- 1暗褐色土 (10YR3/3) III主体、V混入。 ϕ 1~2cmのHr-FPを3%、 ϕ 0.5cmのロームブロックを2%含む。

J区90号上坑

- 1暗褐色土 (10YR4/3) V・VIIの混合土 (5:5)。 ϕ 0.5cmのHr-FPを1%、 ϕ 1~2cmのロームブロックを20%含む。
- 2暗褐色土 (10YR4/3) Iに類似、ロームブロックを5~10%含む。
- 3暗褐色土 (10YR3/3) 2に類似、 ϕ 1~3cmのロームブロックを10%含む。

J区91号上坑

- 1黒褐色土 (10YR3/2) III・V・VIIの混合土、Hr-FPを1%、ローム粒を3%含む。
- 2黒褐色土 (10YR3/2) V・VIIの混合土。 ϕ 1cmのロームブロックを20%含む。

J区92号上坑

- 1黒褐色土 (10YR3/1) V・VII-1の混合土 (5:5)。 ϕ 1~2cmのロームブロックを20%含む。
- 2黒褐色土 (10YR3/1) Iに類似、1よりVII-1が多く含む (4:6)。
- 3黒褐色土 (10YR3/1) Iに類似、ロームブロックを10%含む。

IV 検出した遺構と出土した遺物

J区94号土坑

1にふい黄褐色土(10YR4/3) V・VIの混合土(3:7)。Hr-FPを1%、 ϕ 1~2cmのロームブロックを3%含む。

2にふい黄褐色土(10YR4/3) 1に類似、Hr-FP含まず、ロームブロック20%含む。

3明黄褐色土(2.5Y6/6) ローム土の流れ込み、As-BPを10%含む。

4黒褐色土(10YR3/1) V・VIの混合土(7:3)。

5VI-3、VIIの流れ込み。

J区97号土坑

1黒褐色土(10YR3/1) Hr-FP、ローム粒を含む。

2黒褐色土(10YR3/2) Hr-FPとローム粒、ロームブロックを含む。

3黒褐色土(10YR3/2) ローム粒、ロームブロック主体、As-BPも含む。

4黒褐色土(10YR3/1) Hr-FPはわずか、ローム粒、ロームブロックを含む。

5黒褐色土(10YR3/2) ローム粒、ロームブロックを多く含む。

6明黄褐色土(2.5Y6/6) VI-1と同様、黒褐色土を含む。

7にふい黄褐色土(10YR5/3) VI-1主体、黒褐色土を10~20%含む。

8黒褐色土(10YR2/2) V主体、IIIを含む、流れ込みか。

9明黄褐色土(2.5Y6/6) VI-1と同様、黒褐色土を含む。

J区98号土坑

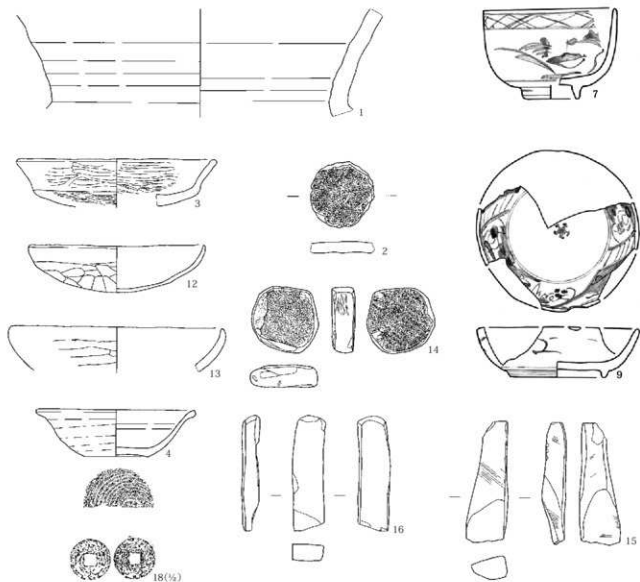
1黒褐色土(10YR3/1) Hr-FP、ローム粒を含む。

2黒褐色土(10YR3/2) Hr-FPとローム粒、ロームブロックを含む。

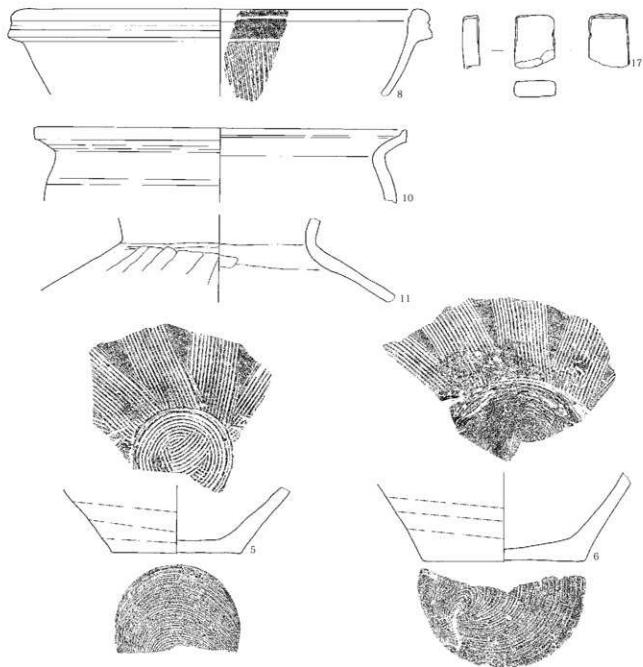
3黒褐色土(10YR3/1) Hr-FPはわずか、ローム粒、ロームブロックを含む。

J区104号土坑

1黒褐色土(10YR3/2) Hr-FPを1%とローム粒、ロームブロックを10%、炭化物を含む。



326図 J区10号・47号・65号・94号・98号・104号土坑出土遺物図



327図 J区25号・94号・98号・104号土坑出土遺物図

J区土坑 (10号・25号・47号・65号・94号・98号・104号)

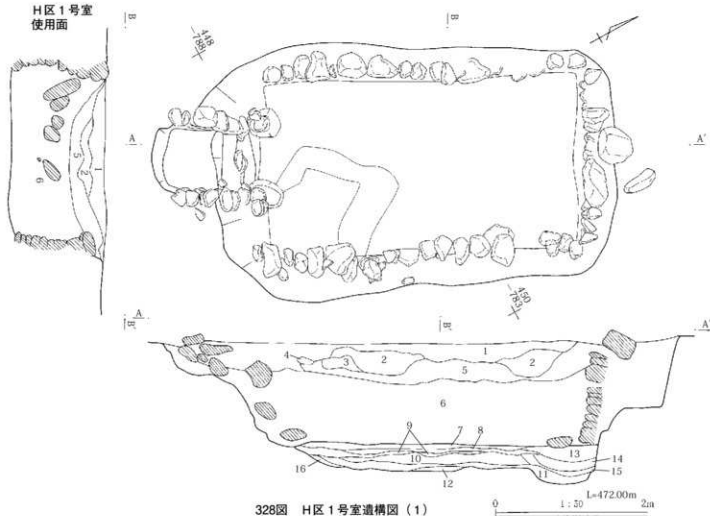
PL.173

NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	軟質陶器 甕	J区10号土坑 口縁部片		粗砂粒/還元焰 /灰黄	ロクロ整形。	
2	須恵器 甕?	J区10号土坑 不明	径 5.0 厚 0.8	粗砂粒/還元焰 /灰	甕胴部片か。小円盤状に周囲を打ち欠いている。	二次的な利用が 窺える。
3	土師器 杯	J区10号土坑 口縁部片	口 15.4	細砂粒/良好/ ふい黄橙	内面黒色処理。内外面ともヘラ磨き。	混入品
4	須恵器 杯	J区10号土坑 1/3	口 12.2 底 5.0 高 3.7	粗砂粒/還元焰 /灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	混入品
5	軟質陶器 罐り鉢	J区25号土坑 底部～体部下半片	底 10.2	粗砂粒/還元焰 /灰黄	内面にも丁寧な磨目(単位16)。	

IV 検出した遺構と出土した遺物

NO.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
6	軟質陶器 塗り鉢	J区25号土坑 底部~体部下半片	底 12.4	粗砂粒/還元焰/ 灰黄	内面見込み外周に櫛目(単位16)。	
7	磁器 椀	J区47号土坑 1/3	口 10.2 底 4.2 高 7.1	微砂粒/還元焰/ 灰	染付。外面口唇部に格子目文、口縁部には草花文。	
8	軟質陶器 塗り鉢	J区94号土坑 口縁部片	口 31.6	粗砂粒/還元焰/ 赤褐	外面体部はヘラナデ。	
9	磁器 皿	J区98号土坑 3/4	口 12.4 底 7.4 高 3.9	夾雑物なし/還 元焰/灰白	染付。内外面口縁部には草花文。底部路不明。見込 み部二重圏線と五弁花コンニャク印判。	
10	軟質陶器 甕	J区104号土坑 口縁部片	口 29.4	粗砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形。	
11	軟質陶器 甕	J区104号土坑 胴部上位片		粗砂粒/還元焰/ 灰	胴部は縦方向のヘラナデ。	
12	土器 杯	J区104号土坑 1/3	口 13.8 高 3.7	細砂粒/良好/褐	口縁部上位横ナデ。下位から底部はヘラ削り、横ナ デとヘラ削りの間に僅かにナデ。	混入品
13	土器 杯	J区104号土坑 口縁部片	口 16.6	細砂粒/良好/粗	口唇部横ナデ、口縁部はヘラ削り、横ナデとヘラ削 りの間に僅かにナデ。	混入品
NO.	種類	器種	出土位置	残存率	計測値	摘要
14	石製品	砥石	J区94号土坑	完形	長 5.2 幅 5.1 厚 1.8 重 66.5	デイサイト凝灰岩
15	石製品	砥石	J区94号土坑	完形	長 9.5 幅 3.1 厚 1.8 重 51.2	砥沢石
16	石製品	砥石	J区98号土坑	下部部欠損	長(9.0) 幅 2.4 厚 1.3 重(51.9)	砥沢石
17	石製品	砥石	J区98号土坑	下部部欠損	長(4.2) 幅 3.2 厚 1.2 重(31.4)	砥沢石
18	銭貨	寛永通宝	J区65号土坑	完形	径 2.23 厚 0.12 外郭 0.22 孔 0.60 重 2.03	

H区1号室
使用面

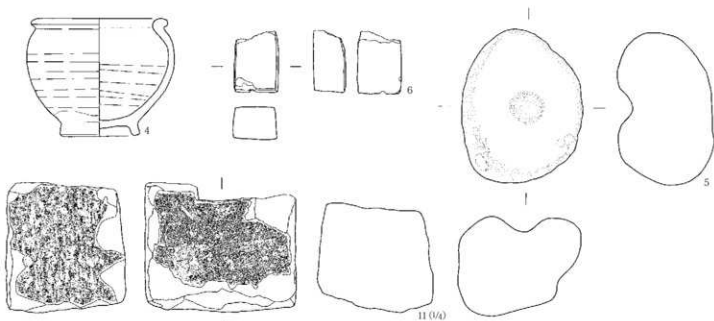
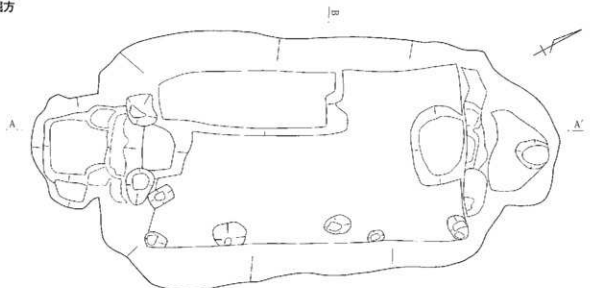


H区1号室

- 1 黒褐色土 φ1~3cmのロームブロックを10%、炭粒1%、Hr-FP5%含む。
 2 黒褐色土 φ1~3cmのロームブロックを10%、φ5cm前後のロームブロックを5%含む。
 3 黄褐色土小ブロック 黒褐色土大ブロックを10%、φ5cm前後のロームブロックを10%含む。
 4 黒褐色土 φ1~3cmのロームブロックを10%、黒褐色土小ブロック20%含む。
 5 黄褐色土小ブロック+黒褐色土小ブロック。
 6 黒褐色土小ブロック φ1~3cmのロームブロックを20%、石垣の崩落石多く混入。

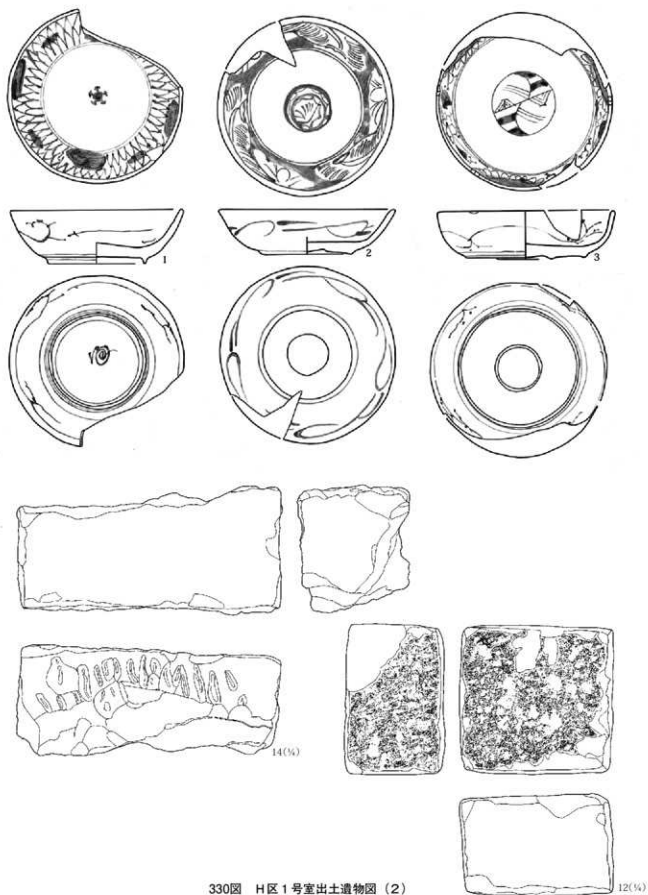
- 7 暗褐色土 ロームブロックを層状に含む。床面か。
 8 暗褐色土 φ1~3cmのロームブロックを10%含む。
 9 暗褐色土 φ5cm前後のロームブロックを20%含む。
 10 オリーブ褐色土 ロームを層状に20%含む。
 11 褐灰色土 Hr-FPを1%含む。
 12 褐灰色土 黒褐色土・ローム土を層状に20%含む。
 13 黄褐色土 VII主体、Hr-FPを5%含む。
 14 褐灰色土 黒褐色土小ブロック20%含む。
 15 黒褐色土 φ1~3cmのロームブロックを1%含む。
 16 オリーブ褐色土 φ5cm前後のロームブロックを20%、黒褐色土の大ブロック10%含む。

掘方



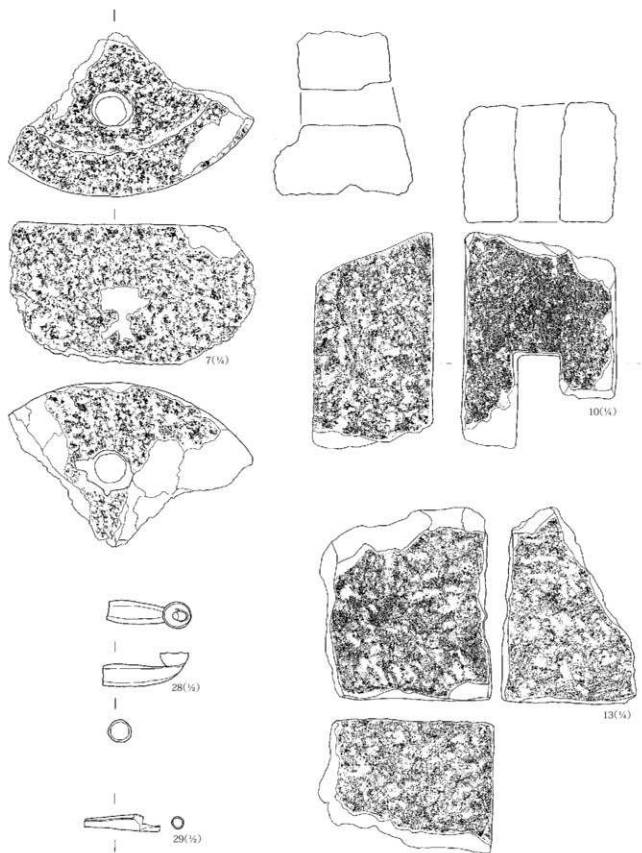
329図 H区1号室遺構図(2)・出土遺物図(1)

IV 検出した遺構と出土した遺物



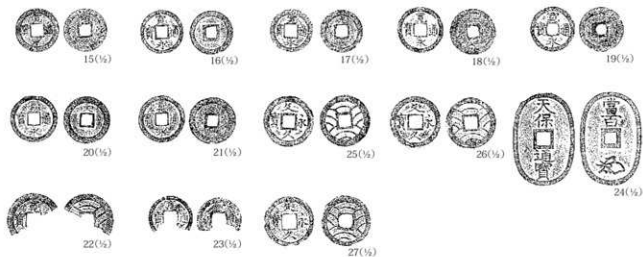
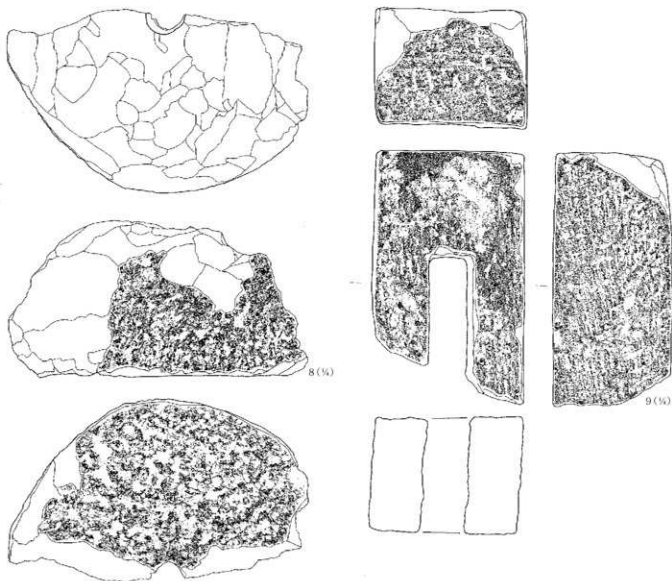
330図 H区1号室出土遺物図(2)

12(%)



331图 H区1号室出土器物图(3)

IV 検出した遺構と出土した遺物



332図 H区1号室出土遺物図(4)

H区1号室

PL173~175

NO.	種 類	出土位置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘 要
1	磁器 皿	埋没上中 4/5	口 13.2 底 7.4 高 4.2	夾雑物なし/還元焼/白	染付、外面草文、底部路不明、内面菊弁文、見込み部二重圈線と五弁花コシニャク印付。	
2	磁器 皿	埋没上中 口縁部の横一部欠	口 13.8 底 7.0 高 3.6	夾雑物なし/還元焼/白	底部は施釉が施されていない。染付、外面葉文、内面草文、見込み部路不明。	
3	磁器 皿	埋没上中 口縁部の一部欠	口 13.8 底 9.3 高 3.7	夾雑物なし/還元焼/白	底部外周部は施釉が施されていない。染付、外面草文、内面草文、見込み部路不明。	
4	陶器 壺	埋没上中 4/5	口 10.0 底 5.0 高 9.3	微砂粒/還元焼/黄白	口クロ整形、回転右回りの。高台は削りだし。外面胴部下位・底部は施釉が施されていない。	
NO.	種 類	器 種	出土位置	残 存 率	計 測 値	摘 要
5	石製品	凹石	底面	完形	長 12.2 幅 9.6 厚 7.6 孔径 3.0 重 1.100	粗粒輝石安山岩
6	石製品	砥石	埋没上中	下端部片	長 (4.8) 幅 3.5 厚 2.6 重 (81.1)	流紋岩
7	石製品	石臼(上臼)	埋没上中	1/6	径 35.0 高 14.5 縁幅 5.5 重 (5,500)	粗粒輝石安山岩
8	石製品	石臼(下臼)	埋没上中	1/3	径 36.0 高 15.0 縁幅 一 重 (1,100)	粗粒輝石安山岩
9	石製品	用途不明	埋没上中	1/2	長 (26.6) 幅 16.0 厚 12.0 重 (6,700)	粗粒輝石安山岩
10	石製品	用途不明	埋没上中	1/3	長 (22.0) 幅 16.0 厚 12.5 重 (5,800)	粗粒輝石安山岩
11	石製品	用途不明	埋没上中	1/4	長 (13.2) 幅 16.0 厚 12.5 重 (3,820)	粗粒輝石安山岩
12	石製品	外縁化榎石	埋没上中	完形	径 16.0 幅 15.8 厚 10.0 重 3,750	粗粒輝石安山岩
13	石製品	外縁化榎石	埋没上中	一部欠損	長 23.0 幅 17.5 厚 13.2 重 5,400	溶結凝灰岩
14	石製品	外縁化榎石	埋没上中	一部欠損	長 28.0 幅 13.4 厚 11.7 重 4,850	溶結凝灰岩
15	鉄貨	寛永通宝	埋没上中	完形	径 2.29 厚 0.11 外郭 0.30 孔 0.61 重 2.29	
16	鉄貨	寛永通宝	埋没上中	完形	径 2.31 厚 0.12 外郭 0.27 孔 0.58 重 2.17	
17	鉄貨	寛永通宝	埋没上中	完形	径 2.27 厚 0.12 外郭 0.29 孔 0.63 重 3.92	
18	鉄貨	寛永通宝	埋没上中	完形	径 2.45 厚 0.14 外郭 0.30 孔 0.60 重 3.23	
19	鉄貨	寛永通宝	埋没上中	完形	径 2.37 厚 0.12 外郭 0.26 孔 0.56 重 2.71	
20	鉄貨	寛永通宝	埋没上中	完形	径 2.48 厚 0.14 外郭 0.26 孔 0.59 重 3.22	
21	鉄貨	寛永通宝	埋没上中	完形	径 2.50 厚 0.13 外郭 0.28 孔 0.57 重 3.56	
22	鉄貨	寛永通宝	埋没上中	1/2	径 一 厚 0.12 外郭 0.38 孔 0.67 重 2.20	
23	鉄貨	寛永通宝	埋没上中	3/4	径 2.30 厚 0.10 外郭 0.19 孔 0.69 重 1.38	
24	鉄貨	天保通宝	埋没上中	完形	径 4.92×2.30 厚 0.26 外郭 0.27 孔 0.62 重 20.68	
25	鉄貨	文久通宝	埋没上中	完形	径 2.67 厚 0.10 外郭 0.33 孔 0.64 重 2.48	
26	鉄貨	文久通宝	埋没上中	完形	径 2.67 厚 0.10 外郭 0.30 孔 0.69 重 2.57	
27	鉄貨	文久通宝	埋没上中	完形	径 2.67 厚 0.10 外郭 0.25 孔 0.76 重 2.91	
28	銅製品	キセル	埋没上中	完形	長 6.5 高 2.1 径 1.2 重 7.3	
29	銅製品	キセル	埋没上中	飛い口部片	長 (4.0) 高 一 径 1.2 重 7.4	

(4) 溝

E区7号溝

本溝はE区調査区北西部を縦断するように掘削されている。座標はX=75.345~75.357-Y=-66.875~-66.884である。残存状態は比較的良好である。他遺構との重複関係はF区40号・37号土坑との重複を確認した。新旧関係は37号土坑より本溝のほうが古く、40号土坑より新しい。

平面形態はほぼ直線的で、断面形態は逆台形状を呈する。規模は全長14.95m、確認面での幅0.86~1.20m、底面幅0.36~0.58m、深度57~79cmを測る。走行はN-30°-Eを指す。

底面は北側から南へごく緩やかな傾斜を示しているが南から5mほどの地点に25cmほどの高低差をもつ段差によって南側が1段低くなっている。標高467.63~

468.00mで高低差は最大で37cmある。底面はほぼ平坦で水流の影響を受けた様子はみられなかった。

埋没状態は示した土層断面によると両側から土砂が流れ込んだ様子が観察されることから自然埋没と判断される。

遺物はほとんど出土していない。

本溝の存続年代は出土遺物がほとんどないため重複する遺構や埋没土状況から近世と想定したい。

F区1号溝

本溝はF区調査区南西部を縦断するように掘削されている。座標はX=75.356~75.382-Y=-66.859~-66.875である。残存状態は比較的良好である。他遺構との重複関係はF区2号・3号・5号土坑との重複を確認した。新旧関係は本溝のほうが新しい。

平面形態はほぼ直線的で、断面形態は逆台形状を呈す

IV 検出した遺構と出土した遺物

る。規模は全長29.70m、確認面での幅1.04~1.54m、底面幅0.42~0.62m、深度86~112cmを測る。

底面は北側から南へごく緩やかな傾斜を示しているが南から3mほどの地点で段差によってまた30cmほど高くなる。標高467.85~468.20mで高低差は最大で37cmある。底面はほぼ平坦で水流の影響を受けた様子はみられなかった。

埋没状態は示した土層断面のように地点によって若干異なる埋没状態が観察されたが堆積の状態から自然埋没と判断される。

遺物は石製品砥石が出土しているだけで陶磁器などの出土はみられなかった。

本溝の存続年代は出土遺物がほとんどないため重複する遺構や埋没土状況から近世としか比定できない。

なお、本溝南端とE区7号溝北端は東西方向に30cmほどの間隔しか離れておらず、溝自体の形態がほぼ同一であることや走行が一致することから同一時期に存在していた可能性が高い。

G区4号溝

本溝はG区調査区南半の中間、X=75.437~75.540-Y=-66.797~-66.803に位置する。残存状態は比較的良好である。他遺構との重複関係は確認されなかった。

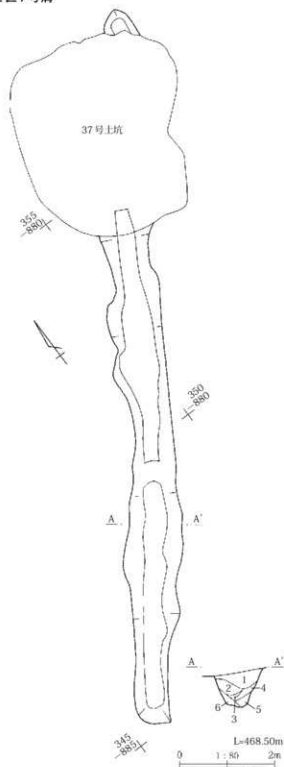
平面形態はほぼ直線的で、断面形態は逆台形状を呈する。規模は全長6.50m、確認面での幅64~52cm、底面幅37~42cm、深度10cm前後を測る。走行はN-63°-Wを指す。

底面から10cmほど上位からは10~40cm大の亜角礫や角礫が溝幅で密に敷き込まれていた。底面は地形と同様に東から西への傾斜を示し、東側と西側との高低差は77cmである。なお、底面はほぼ平坦で水流の影響を受けた様子はみられなかった。

遺物は礫の間から陶磁器が出土しているが、その量はわずかであった。

本溝の存続年代は出土遺物から18世紀代に比定できる。

E区7号溝

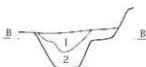
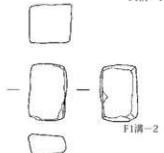
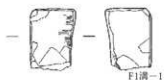
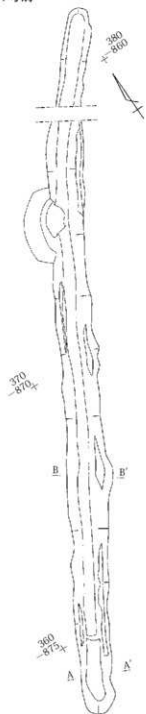


333図 E区7号溝遺構図

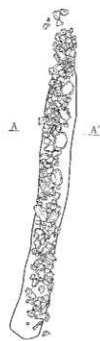
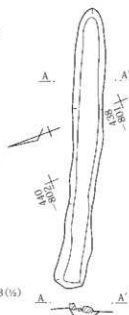
E区7号溝

- 1 黒褐色土 φ 1~2cmのロームブロックを20%含む。
- 2 黒褐色土 φ 5cm前後のロームブロックを5%含む。
- 3 黒褐色土 φ 1~2cmのロームブロックを5%含む。
- 4 VIIの崩落土
- 5 灰褐色粘質土 φ 5cm前後のロームブロックを10%含む。
- 6 灰褐色粘質土 Sと同様。

F区1号溝

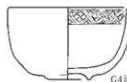
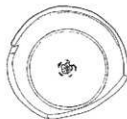


G区4号溝



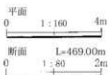
L=471.70m
0 1:80 2m

23(%)



F区1号溝

- 1 暗褐色土 表上にローム粒、ロームブロックを含む。
- 2 黒褐色土 Hr-FPを10%含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック多く含む。
- 4 黒褐色土 夾雑物は少ないが、小石混じり。



334図 F区1号・G区4号溝遺構図・出土遺物図

I区4号溝

本溝はI区調査区の中程、 $X=75.499\sim 75.504-Y=-66.731\sim -66.741$ に位置し、調査区西側に延びる。残存状態は比較的良好である。他遺構との重複関係はI区2号竪穴建物、15号土坑との重複を確認した。新旧関係はI区2号竪穴建物より本溝のほうが新しいが、15号土坑との関係は明らかではない。

平面形態はほぼ直線的で、断面形態は箱形を呈する。規模は調査区内の全長15.20m、確認面での幅62~72cm、底面幅37~46cm、深度60~80cmを測る。走行はN-65°-Wを指す。

底面は地形と同様に東から西への緩やかな傾斜を示し、東側と西側との高低差は50cmである。なお、底面はほぼ平坦で水流の影響を受けた様子はみられなかった。

埋没状態は土層断面でほぼⅢ層によって短期間に埋没することが観察された。

遺物は須恵器杯などが出土しているが、これらの遺物はI区2号竪穴建物に伴うものが本溝の掘削によって本溝のほうへ移動したものである。このため明確に本溝に伴うとみられる遺物は図示した石製品砥石だけである。

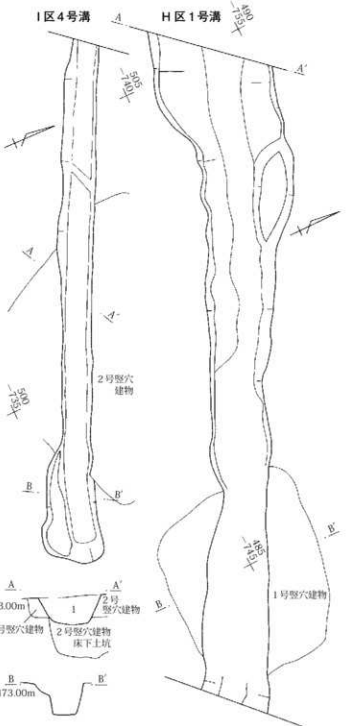
本溝の存続年代は重複する遺構や埋没土状況から中世から近世の間に想定したい。

H区1号溝

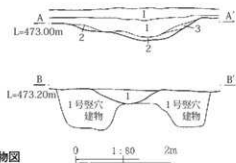
- 1 暗褐色土 φ 5cm前後のロームブロックを40%含む。
- 2 暗褐色土 φ 5cm前後のロームブロックを10%、φ 1~2cmのロームブロックを20%含む。
- 3 黒褐色土 φ 5cm前後のロームブロックを10%含む。

I区4号溝

- 1 暗褐色土 φ 5cm前後のロームブロックを10%含む。



335図 H区1号・I区4号溝遺構図・出土遺物図



F区1号溝

PL.175

NO.	種類	器種	出土位置	残存率	計測値	摘要
1	石製品	砥石	埋没土中	下半部欠損	長(4.9) 幅 3.6 厚 3.1 重(105.4)	流紋岩
2	石製品	砥石	埋没土中	下半部欠損	長(4.5) 幅 2.4 厚 1.7 重(39.7)	砥沢石
3	銭貨	寛永通宝	埋没土中	完形	径 2.82 厚 0.12 外郭 0.38 孔 0.67 重 3.74	
4	銭貨	寛永通宝	埋没土中	完形	径 2.84 厚 0.12 外郭 0.38 孔 0.59 重 4.24	
5	銭貨	寛永通宝	埋没土中	完形	径 2.82 厚 0.13 外郭 0.36 孔 0.65 重 4.81	
6	銭貨	寛永通宝	埋没土中	完形	径 2.82 厚 0.12 外郭 0.39 孔 0.62 重 4.88	

G区4号溝

PL.175

NO.	種類	器種	出土位置	残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	陶器	灯明受皿	埋没土中 1/2		口 9.0 底 3.6 高 1.9	細砂粒/還元焰/灰黄	内外面に掲輪を施輪。	
2	磁器	椀	埋没土中 2/3		口 9.4 底 3.2 高 5.7	夾雑物なし/還元焰/白	染付、内面口唇部に菱形文、見込み部には二重の圈線と崩れた五弁花を描く。	

H区1号溝

PL.175

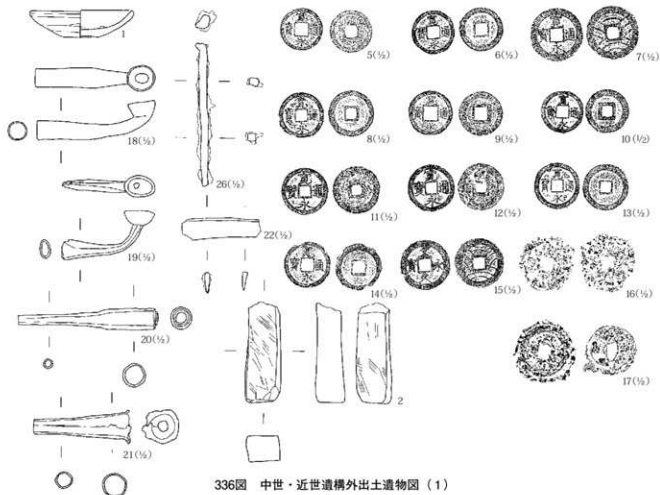
NO.	種類	器種	出土位置	残存率	計測値	摘要
1	石製品	砥石	埋没土中	両端部欠損	長(6.7) 幅 2.7 厚 2.0 重(63.5)	砥沢石

I区4号溝

PL.175

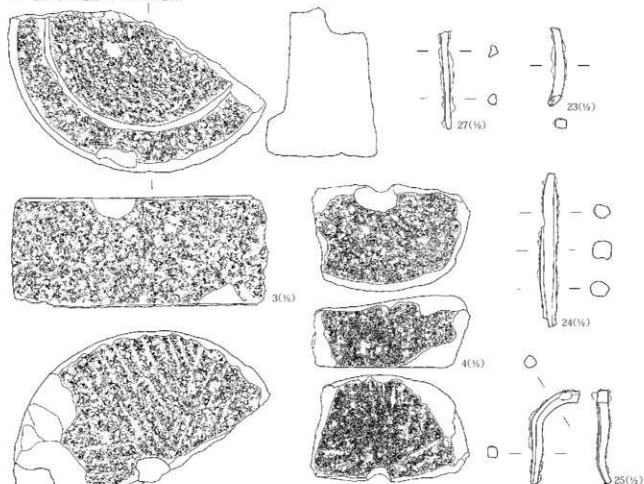
NO.	種類	器種	出土位置	残存率	計測値	摘要
1	石製品	砥石	埋没土中	両端部欠損	長(6.1) 幅 3.7 厚 2.7 重(110.1)	砂岩

(5) 遺構外出土遺物



336図 中世・近世遺構外出土遺物図(1)

IV 検出した遺構と出土した遺物



337図 中世・近世遺構外出土遺物図(2)

PL.175・176

中世・近世遺構外出土遺物

NO.	種別	類	出土位置	残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	陶器	皿	E区	完形	口 8.0 底 2.8 高 2.1	微砂粒/酸化焙 きみ/灰黄	ロクロ整形。回転右回り。底部回転ヘラ削り。内面にトチン跡が残る。灰軸が施軸。	
2	石製品	砥石	E区	土端部欠損				
3	石製品	石臼(上臼)	G区	1/3				
4	石製品	石臼(下臼)	J区	1/5				
5	鉄貨	寛永通宝	F区	完形				
6	鉄貨	寛永通宝	H区	完形				
7	鉄貨	寛永通宝	J区16号壑穴建物	完形				
8	鉄貨	寛永通宝	J区1号土坑	完形				
9	鉄貨	寛永通宝	J区1号土坑	完形				
10	鉄貨	寛永通宝	J区12号土坑	完形				
11	鉄貨	寛永通宝	J区12号土坑	完形				
12	鉄貨	寛永通宝	J区30号土坑	完形				
13	鉄貨	寛永通宝	J区	完形				
14	鉄貨	寛永通宝	J区	完形				
15	鉄貨	文久通宝	H区	完形				
16	鉄貨	不明	J区18号土坑	完形				
17	鉄貨	不明	J区30号土坑	完形				
18	銅製品	キセル	E区	完形				
19	銅製品	キセル	F区	完形				
20	銅製品	キセル	F区1号壑穴建物	完形				
21	銅製品	用途不明	E区	部位不明				
22	鉄器	刀子	I区	対面片				
23	鉄器	用途不明(棒状)	J区17号壑穴建物	両端部欠損				
24	鉄器	用途不明(棒状)	J区	両端部欠損				
25	鉄器	釘	J区10号土坑	両端部欠損				
26	鉄器	釘	J区18号土坑	先端部欠損				
27	鉄器	釘	J区18号土坑	両端部欠損				

V 自然科学分析

生品西浦遺跡Ⅱ 竪穴建物出土炭化材の樹種同定

1. はじめに

生品西浦遺跡Ⅱは、群馬県利根郡川場村大字生品地内に所在する縄文時代の狩猟場、古墳時代中期～平安時代の集落からなる。古墳時代中期～平安時代の竪穴建物からは、柱材や棟材、垂木、屋根材などの建築部材が炭化材として出土した。ここでは、建築部材の一部である炭化材や屋根材について樹種同定を行い、樹種選択や木材利用について検討した。

2. 試料と方法

試料は、古墳時代中期のD区5号竪穴建物16点、古墳時代後期のD区16号竪穴建物41点とJ区11号竪穴建物17点、古墳時代のE区2号竪穴建物18点、平安時代のJ区15号竪穴建物21点の合計113試料である。

すべての炭化材試料は、カッターなどを用いて3断面（横断面・接線断面・放射断面）を採取し、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し銀ペーストを塗布した後、金蒸着を行った。観察および同定は、走査型電子顕微鏡（日本電子製 JSM-5900LV型）を使用した。なお、炭化材の残り試料は、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団に保管されている。

3. 結果

各竪穴建物から出土した炭化材の樹種を検討した結果、常緑針葉樹のモミ属、落葉広葉樹のコナラ属コナラ亜属コナラ節およびクヌギ節（以下、コナラ節およびクヌギ節と呼ぶ）、クリ、ニレ属、ケヤキ、エノキ属、カエデ属、ケンボナシ属、単子葉植物の10分類群が検出された。

D区5号竪穴建物（古墳時代中期）では、全体的にはエノキ属が6点と多く、その他モミ属4点、クリ3点、コナラ節2点、カエデ属が1点検出された。主な部材では、柱材がエノキ属とカエデ属、垂木がモミ属とクリ、垂木受け材がモミ属とコナラ節、屋根材がモミ属であった。なお、板材としてモミ属・クリ・エノキ属、複数破

片が出土したカマド内からはいずれもコナラ節が検出された。

D区16号竪穴建物（古墳時代後期）では、全体的にはエノキ属が27点と多く、その他モミ属2点、コナラ節4点、カエデ属1点、ケンボナシ属5点、単子葉類2点が検出された。主な部材では、柱材がコナラ節・エノキ属・ケンボナシ属、棟材がいずれもエノキ属、梁または桁材がモミ属・エノキ属・コナラ節・ケンボナシ属、垂木または垂木材はエノキ属が多くその他にモミ属・カエデ属・ケンボナシ属、垂木受け材がエノキ属、屋根材がコナラ節・エノキ属・ケンボナシ属および草本単子葉類であった。なお、板材としてコナラ節、貯蔵穴内からエノキ属が検出された。

E区2号竪穴建物（古墳時代）では、全体的にニレ属が10点と多く、その他モミ属5点、クリ4点が検出された。主な部材では、柱材と横材がニレ属、棟材と垂木材がクリとニレ属、屋根材がモミ属であった。なお、板材としてモミ属、クリ、ニレ属が検出された。

J区11号竪穴建物（古墳時代後期）では、ニレ属が14点と多く、その他単子葉類3点が検出された。主な部材では柱材、棟材、垂木、垂木受け材がいずれもニレ属、屋根材がニレ属と草本単子葉類であった。

J区15号竪穴建物（平安時代）では、全体的にクヌギ節が12点と多く、その他モミ属1点、コナラ節4点、ケヤキ3点、ケンボナシ属1点が検出された。主な建築部材では、柱材がモミ属とクヌギ節、棟材がコナラ節とクヌギ節、垂木および垂木材がコナラ節とクヌギ節およびケヤキ、垂木受け材がコナラ節とケヤキ、屋根材がケンボナシ属であった。なお、板材としてクヌギ節とケヤキが検出された。

建築部材の樹種構成は、竪穴建物ごとに異なった樹種を利用している様子が明瞭に示され、平安時代のJ区15号竪穴建物は、クヌギ節を主体とし、次いでコナラ

V 自然科学分析

節やケヤキが利用される樹種構成であった。

6表 竪穴建物出土炭化材の樹種同定結果

出土遺構	部材名称	モミ属	コナラ節	クヌギ節	クリ	ニレ属	ケヤキ	エノキ属	カエデ属	ケンボナシ属	単子葉類	総計
D区5号竪穴建物 (古墳時代中期)	柱材				1			2	1			3
	垂木	1										2
	垂木受け材	1	1									2
	屋根材	1			2			4				7
	板材	1										1
	カマド内		1									1
D区16号竪穴建物 (古墳時代後期)	柱材		1					1		1		3
	棟材							3				3
	梁or桁材	1	1					3				6
	垂木									1		1
	垂木材	1						11	1	1		14
	垂木受け材							1				1
	屋根材		1					7		1	2	11
板材		1									1	
	貯蔵穴							1				1
E区2号竪穴建物 (古墳時代)	柱材					1						1
	棟材				1	2						3
	横材				1	1						1
	垂木材				2	5						7
	屋根材	1										1
	板材	4			1	1						6
J区11号竪穴建物 (古墳時代後期)	柱材							2				2
	棟材							3				3
	垂木							6				6
	垂木受け材							2				2
	屋根材					1					3	4
J区15号竪穴建物 (平安時代)	柱材	1		4								5
	棟材		2	3								5
	垂木						1					1
	垂木材		1	2								3
	垂木受け材		1				1					2
	屋根材								1			1
	板材			3			1					4
総計		12	10	12	7	24	3	33	2	6	5	114

以下に同定根拠とした材組織の特徴を記載し、材の3方向の組織写真を提示した。

(1)モミ属 *Abies* マツ科 写真1 1a-1c(J15号№27)

仮道管、放射柔細胞からなり樹脂細胞をもたない針葉樹である。早材から晩材への移行はゆるやかである。放射柔細胞の壁は厚く放射断面において細胞壁に数珠状肥厚が見られる。分野壁孔は小型のスピ型とヒノキ型があり、1分野に1～5個である。放射組織は比較的高い。

モミ属は、常緑高木の針葉樹であり、暖帯から温帯下部の山地に普通に見られるモミ、温帯上部の高山に生育するウラジロモミ・シラベ・アオモリトドマツ、北海道の山地に生育するトドマツの5種がある。材は、やや軽軟で加工は容易であるが保存性は低い。

(2)コナラ属コナラ亜属コナラ節 *Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 写真1 2a-2c(J15号№39)

年輪の始めに大型の道管が配列し除々に径を減じ、晩材部では薄壁の角ばった小型の道管が火炎状にかつ放射方向に配列する環孔材である。道管の穿孔は単一である。放射組織は単列および集合放射組織から構成される。

コナラ節は暖帯から温帯に生育する落葉高木でカシワ、ミズナラ、コナラ、ナラガシワがある。材は、加工がややしく乾燥すると割れや狂いが易く、薪炭材などに用いられる。

(3)コナラ属コナラ亜属クヌギ節 *Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科 写真1 3a-3c(J15号№28)

年輪の始めに大型の道管が1～3層程度配列し、晩材部では小型の丸い道管が単独で放射方向に配列する環孔材である。放射組織は、同性単列のものと集合放射組織から構成される。

クヌギ節は、落葉高木であり、クヌギとアベマキがあ

る。材は重厚で割裂性が良く、薪炭材などに用いられる。
(4)クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 写真1
4a-4c(D5号№249)

年輪の始めに大型の道管が配列し、晩材部は非常に小型の道管が火炎状に配列する環孔材である。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単穿孔である。放射組織は単列同性、2～13細胞高である。

クリは、北海道西南部以南の暖帯から温帯下部の山野に普通に生育する落葉高木である。材は、粘りがあり耐久性に優れ、土木材や木造家屋の土台などに用いられる。
(5)ニレ属 *Ulmus* ニレ科 写真2 5a-5c(J11号№17)

年輪の始めに大型の道管が1～2列配列し、その後小型の道管が集合して配列している環孔材である。道管の穿孔は単穿孔、小道管の内腔にらせん肥厚がある。放射組織は同性1～7細胞幅、5～33細胞高であり、紡錘形である。

ニレ属は、落葉高木であり、温帯に多いハルニレ・オヒョウ、暖帯の荒地や川岸に普通に見られるアキニレがある。材は、利用範囲が広く、器具材や家具材あるいは土木材などに用いられる。

(6)ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科
写真2 6a-6c(J15号№37)

年輪の始めに中型の道管が1～2列配列し、その後小型の道管が集合して接線状・斜状に配列する環孔材である。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、小道管にはらせん肥厚がある。放射組織は、異性1～7細胞幅、3～35細胞高である。上下端や縁に結晶細胞がある。

ケヤキは暖帯下部から温帯の山中や川岸に生育する落葉高木である。材は、やや重くて硬いが切削加工は困難ではなく、建築材や容器などに用いられる。

(7)エノキ属 *Celtis* ニレ科 写真2 7a-7c(D16号№56)

中型の道管が1～2層配列し、その後非常に小型の道管が多数集合し塊状・斜状・接線状に配列する環孔材である。道管の壁孔は小型で交互状に密在し、穿孔は単穿孔である。小道管の内腔にはらせん肥厚が見られる。放射組織は異性2～7細胞幅、5～34細胞高であり、鞘細胞からなる。

エノキ属は、落葉性の高木であり、本州以南の低地か

ら山地に普通に生育するエノキ、北海道以南の山地に生育するエゾエノキなどがある。材は、硬いが強くなく狂い易いが、建築材や薪炭材などに用いられる。

(8)カエデ属 *Acer* カエデ科 写真2 8a-8c(D5号№340)

小型の道管が単独または2～3個が放射方向に複合して散在する散孔材である。年輪界は不明瞭で、帯状の柔組織が顕著である。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、内腔に細いらせん肥厚がある。放射組織は、同性1～4細胞幅、3～37細胞高である。

カエデ属は、暖帯から温帯の山地や谷間に生育し、落葉広葉樹林の主要構成樹であり、約26種があり多くの変種が知られている。材は、硬く緻密で割れにくく、保存性は中程度であり、家具材や床柱などに用いられる。

(9)ケンボナシ属 *Hovenia* クロウモドキ科 写真2
9a-9c(J15号№36)

年輪の始めに中型の道管が1～2列配列し、除々に径を減じてゆき、晩材部は単独または放射方向に2～3個複合した非常に小型で厚壁の道管が散在し、晩材部では周囲状に小道管を取り巻く環孔材である。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単穿孔である。放射組織は異性、1～4細胞幅、7～55細胞高である。

ケンボナシ属は、温帯から暖帯に生育する落葉高木である。本州・四国に分布するケンボナシと北海道から九州に広く分布するケンボナシがある。材は、切削加工などは容易であり、狂いや割れは少なく建築材や家具材あるいは楽器材などに利用される。

(10) 単子葉 *monocotyledoneae* 写真2 10a(D16号№27)

やや硬質の稈の破片であり、稈の中心部は中空である。稈の外周は厚壁細胞層が取り巻く。維管束は不整中心柱で同心円状に均質に配置する。維管束は中心側に原生木部、その左右に後生木部2個、外側に後生篩部からなり、維管束の周りには繊維細胞からなる維管束鞘が見られる。外形は直径2～4mm、厚み1mm以下であり、単子葉の草本類の茎と考えられる。

単子葉の草本類には、ヨシ属やササ類を含むイネ科やカヤツリグサ科あるいはイグサ科などがある。

4. 考察

古墳時代中期～平安時代の竪穴建物から出土した炭化

V 自然科学分析

材を検討した結果、常緑針葉樹のモミ属、落葉広葉樹のコナラ属、クヌギ節、クリ、ニレ属、ケヤキ、エノキ属、カエデ属、ケンボナシ属、単子葉植物の10分類群が検出された。このうち、モミ属、コナラ属、クリ、ニレ属、ケヤキ、エノキ属、カエデ属、ケンボナシ属など山地に生育する樹木が特徴的に検出された。このことから、当時周辺にはこれら樹木を含む温帯樹木群が生育していたと推定されるが、建物部材としてはこれら一部の樹木を選択的に利用した結果を示すものである。

なお、平安時代のJ区15号竪穴建物は、クヌギ節を主体とした樹木が利用されていたが、少なくともクヌギ節は二次林要素を示す樹木であることから、周辺植生は二次林化が進んでいたものと考えられる。この周辺植生の二次林化は、6世紀中葉に噴火した榛名ニッ岳伊香保テフラ（Hr-FP）の影響や人為による強い植生干渉が考えられる。

（藤根 久・佐々木由香（パレオ・ラボ））

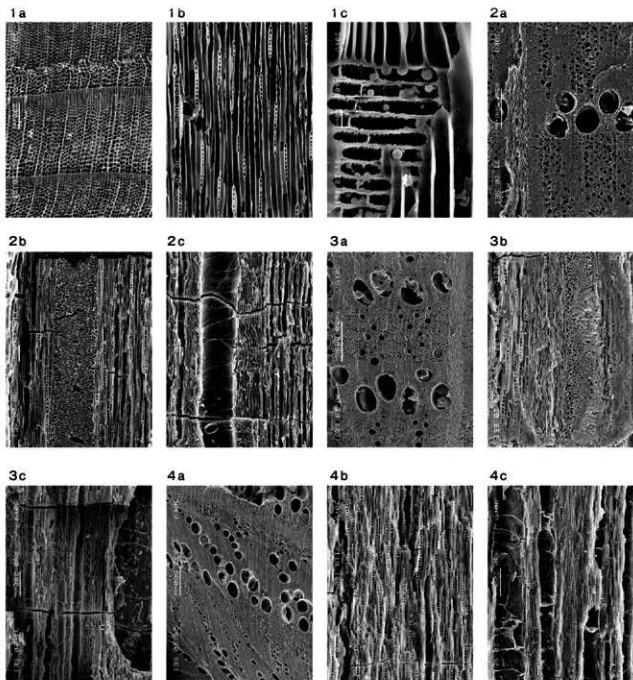


写真1 木材組織の走査型電子顕微鏡写真(1)

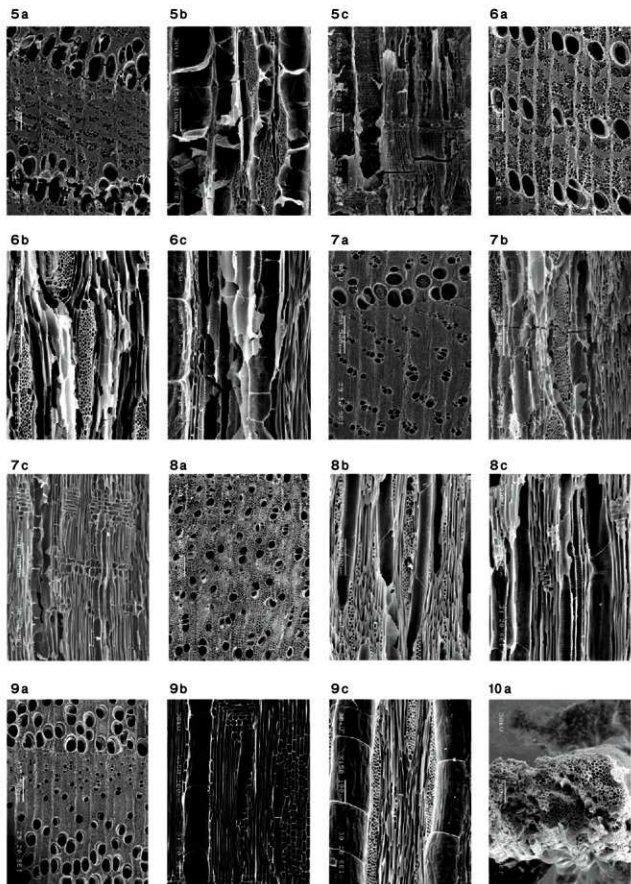


写真2 木材組織の走査型電子顕微鏡写真(2)

VI 調査の成果と課題

生品西浦遺跡の鉄・鉄器生産関連遺物

はじめに

生品西浦遺跡では、9世紀後半の鍛冶工房2軒と、8世紀後半代から9世紀前半代の竪穴住居跡から多量の鉄滓が出土した。鉄生産関連遺物の大部分はD区18号竪穴建物からの出土であるが、遺物は、遺構埋没中の覆土からの出土であり、直接遺構に伴うものではなく、周辺、おそらくD区2号鍛冶工房から混入したものである。本報告書では、生品西浦遺跡周辺でどのような工程の鉄生産が行われていたか推定するために、出土した鉄生産関連遺物を、分類・整理し、報告した。

出土した鉄関連遺物の遺構ごとの傾向は、本稿内に構成図として示した⁽¹⁾。

出土鉄生産関連遺物の特徴

生品西浦遺跡では、総量30.242kg（うち羽口が7.357kg）の鉄生産関連遺物が出土した。大部分は椀形鍛冶滓を中心とする鍛冶工程に関連した鉄生産関連遺物である。以下に遺物ごとにその特徴を示す。

鍛冶滓 椀形鍛冶滓は、比較的大形で、表面に黒錆が滲み錆化したものが多い。金属鉄が椀形鍛冶滓中に多く含まれていたことを示す。椀形鍛冶滓の上面に羽口の頸部が付着したこともある。

製錬滓 注目されるのはD区18号竪穴建物、D区1号竪穴建物から出土しているマグネタイ系遺物、炉内滓といった製錬工程で生成される鉄生産関連遺物である。出土した製錬滓は、いずれも小形で、製鉄炉の炉内で生成した炉内滓である。流動滓や炉壁の混入がないことから、製鉄炉の操作で排滓されたものが混入したとは考えにくく、出土した炉内滓は、鉄素材として鍛冶工房に持ち込まれた素材に付着していたものと考えられる。

羽口 羽口は内径2～3cmの中に収まる、鍛冶用の羽口である。殆どの羽口の胎土にスサはなく、粗砂粒を混入

して製作している。羽口の頸部に椀形鍛冶滓の破片が付着しているものもある。

まとめ

近年の研究成果により、県内で検出される箱形炉は8世紀前半代までで、その後は、竪形炉を中心とした製鉄遺跡が展開することが明らかになってきており、9世紀後半段階においては、在地の竪形炉で砂鉄原料から生成された鉄素材が多くあったと考えられる。

おそらく生品西浦遺跡で使用されていた鍛冶用の鉄素材の多くも、在地の竪形炉で生成され、搬入されていたと考えられる。

前述したとおり、生品西浦遺跡で出土した製錬系の遺物は、炉壁や流動滓がないことから、搬入された鉄塊に付着したものであると考えられる。これは、生品西浦遺跡に搬入された鉄素材は、半製品に近い素材ではなく、炉内生成物が付着するような成分調整が必要な滓混じりの素材であったことを推察させ、生品西浦遺跡では製鉄炉で生成された滓混じりの鉄塊の成分調整を行う精錬鍛冶工程からの鉄器生産が行われていたと考えることができる。

生品西浦遺跡で出土した製錬系の滓は、多量に出土した鍛冶系の遺物に対して、僅かであるが、これらの遺物は生品西浦遺跡周辺で行われていた鉄器生産を推定する重要な示唆を与えている。「鍛冶工房から出土した鉄滓であれば鍛冶滓」といった先入観があると、製錬工程の遺構がない本遺跡のような鍛冶工房から出土した鉄滓を製錬滓と認識することは難しい。鍛冶工房や住居内から出土する製錬滓は見逃されやすく、注意が必要である。

竪形炉による製鉄に関しては、鋤型との供伴例が多いことから、鉄生成を推定する研究者が多いが、竪形炉の炉内でどのように鉄生成されていたか論じた意見

は少ない。

近年の製鉄実験を援用した鉄生産関連遺物の研究成果によれば、箱形炉による古代製鉄の様相が活発な製鉄実験により明らかになってきている一方、竪形炉に関しては、実験例も少なく、未解明部分が多い。

今後は、検出された竪形炉の諸要素を厳密に復元し、操業に関しては、製鉄炉の構築から操業をコントロールできる技術者を参入させた竪形炉による操業実験を行うなどの方法をとりながら、出土遺物や実験生成物を比較検討していく必要がある。

(財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 笹澤泰史)

引用・参考文献

- 穴澤義功 2003「古代製鉄に関する考古学的考察」『近世たたら製鉄の歴史』丸善ブレット
- 穴澤義功 2005「鉄関連遺物の発掘調査から遺物整理・分析資料抽出への指針案」『鉄関連遺物の分析評価に関する研究報告』(社)日本鉄鋼協会 社会鉄鋼工学会
- 笹澤泰史 2007「群馬県における古代製鉄遺跡の出現と展開」『研究紀要25』財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 笹澤泰史 2008「群文2号炉及び3号炉による竪形炉の製鉄実験報告 実験から推測する竪形炉における鉄生成のメカニズム」『研究紀要26』財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 真鍋成史編 2002「古墳時代の鉄製錬・鍛冶再現実験記録」交野市教育委員会
- 村上恭通 2007「古代国家成立過程と鉄器生産」青木書店
- 村上恭通・真鍋成史・北野重・大迫和人・新海正博・上村武・世田朋孝・大澤正己・木原明 2008「古墳時代の・奈良時代における製鉄技術の復元的研究」『日本考古学協会第74回総会』日本考古学協会

註

鉄関連遺物については、磁石(強力磁石TAJIMA PUP-M, 特定の標準磁石)と特殊金属探知器による分類と、肉眼観察による考古学的な分類を行った。

磁着度、メタル度、構成図は、穴澤2005に従った。

- (1) 磁着度 鉄関連遺物分類用の特定の「標準磁石」を用いて、資料との反応の程度を数値化したもの。数値が大きいくほど、磁石との反応が強い。
- (2) メタル度 特殊金属探知器により金属の量を分類したもの。鉄化(△)、H(○)、M(◎)、L(●)、特L(☆)の順で金属成分が多いことを示す。

※本分類では金属探知機で特L(☆)以上かつ洋の付着が観察できないものを鉄風系遺物とした。また、マグネタイト系遺物は炉内洋の一つであるが、炉内洋の特徴的な洋であるので、細分してマグネタイト系遺物とした。マグネタイト系遺物は、砂鉄(鉄鉱石)が還元されずに、まとまったものや、生成鉄が微素の多い高温域で再び四酸化三鉄(マグネタイト)になったマグネタイト主体の炉内洋である。光沢のある灰～青灰色で、強磁性であるが、金属探知機に反応しないという特徴がある。

(3) 構成図 報告書に掲載した鉄生産関連遺物をまとめて表にした図。

遺構ごとにまとめてあり、遺物は製錬→鍛冶と工程の順にならべている。遺跡でどのような鉄生産関連遺物が出土しているか一瞥できる。

出土土器について

はじめに

生品西浦遺跡の発掘調査では竪穴建物、掘立柱建物、祭祀、工房、採掘坑、土坑、溝など多くの遺構を検出した。そのなかでは竪穴建物が主体を占める遺構である。竪穴建物は67軒を検出し、村道下り線に伴う発掘調査（以後、本報告書の生品西浦遺跡Ⅱに対する呼称として1次調査と略す）での21軒を加算すると88軒とこの地域で発掘調査した遺跡の中でも多くの竪穴建物を検出している遺跡である。

検出された竪穴建物は弥生時代6軒、古墳時代37軒、飛鳥・奈良・平安時代45軒で、これらの竪穴建物からは土器、石器、鉄器など多くの遺物が出土している。

土器については今日多くの研究者によって編年研究をはじめ多方面にわたる研究が行われている。群馬県における土器編年は若干の相違点はみられるがほぼ研究者の間でも一致をみることができる。生品西浦遺跡が発掘調査された利根・沼田地域においても奈良・平安時代の土器については昭和村系井宮前遺跡、みなかみ町村主遺跡や沼田市戸神諏訪遺跡などで発掘調査担当者等によって報告書作成のなかで遺跡での土器変遷を発表している。こうした中で古墳時代の土器について十分な検討が行われておらず系井宮前遺跡で土器変遷が行われているのと松本 保氏や田中広明氏によって若干の研究が行われているだけである。

こうした現状のため利根沼田地域での古墳時代の竪穴建物や土器の年代間は榛名二ツ岳軽石(Hr-FP)などの降下・堆積状態などを援用した比定にとどまっている。こうした背景には利根沼田地域から出土する土器群には群馬県南部の平野部で出土する土器様相とは異なっていることに起因する点が多い。生品西浦遺跡でも群馬県南部の平野部でみられる土器群とともに器壁が厚く、内面を黒色処理した土器群が出土している。こうした土器群を含めて生品西浦遺跡での土器変遷を行うことによって生品西浦遺跡での古墳時代から平安時代の様相を明らかにすることが可能だと考えられる。

1. 土器の分類

出土した土器群には土師器、須恵器、灰釉陶器がある。土師器には杯、椀、高杯、鉢、短頸壺、甕、小型壺、甕、

壺が出土している。須恵器には杯、椀、高杯、盤、鉢、平瓶、短頸壺、長頸壺、羽釜、甕が出土している。灰釉陶器には椀、皿、小瓶が出土している。このように土師器と須恵器には多様な器種をみることができ、分類では各竪穴建物から普遍的に出土する杯、高杯、甕、須恵器では杯、椀などを主に行う。なお、分類・細分した土器については本稿で図示するのが本筋であるが、紙面の関係でできないため観察表の摘要欄に提示した。

土師器 土師器は古墳時代から平安時代の各時代の竪穴建物から普遍的に出土しているが、平安時代の竪穴建物からは食膳具の出土は少なく大部分が甕であった。

杯 形態によってA～Iの9形態に大別できる。

杯A 杯Aは丸底の底部から丸みをもって立ち上がる口縁部、そして外に開く短い口唇部、この口唇部は内面に小さく弧状を呈し、一般的に内斜口縁杯と呼称されるものである。本遺跡から出土した杯Aは底部から口縁部に移行する部分に相違点をみることが可能である。A-1は比較的底部から口縁部の移行部分に張りをもつ形態。C区3号竪穴建物10・11、D区5号竪穴建物1に代表されるが出土量はわずかである。A-2は底部から口縁部にかけて丸みをもつため元々不明瞭な底部と口縁部の境がより明瞭ではない形態。C区3号竪穴建物9、5号竪穴建物3に代表されるがこの形態も出土量はわずかである。A-3はA-2に比べ底部から口縁部にかけての丸みが少ないためよりストレートな形態。D区3号竪穴建物1・2などに代表され、杯Aの中では比較的出土量がみられる。

杯B 杯Bは丸底の底部から丸みをもって立ち上がる口縁部、そして口縁部上半が内湾、内湾ぎみの形態、一般的に内湾口縁杯と呼称されるものである。杯Bは口唇部の形態でBaとBbに区分できる。Baは口縁部から口唇部にかけて緩やかな弧状を呈して移行する形態。口唇部の内湾状態や器高/口径比によってさらに3形態に細分できる。Ba-1はD区3号竪穴建物5、C区3号竪穴建物14、Ba-2はD区5号竪穴建物4、C区5号竪穴建物8・9、Ba-3はC区3号竪穴建物12などに代表される。Bbは口縁部と口唇部に明確とは言えないが屈曲点がみられる形態。この形態も内湾の状態と器高/口径比によってさらに2形態に細分できる。Bb-1はD区

5号竪穴建物5・6、Bb-2はD区9号竪穴建物4に代表される。

杯C 杯Cは丸底底部と口縁部の境に稜をもち、口縁部が稜から直線的で垂直または若干開きながら立ち上がる形態、一般的に須恵器杯蓋模倣杯と呼称されるものである。杯Cは器高/口径比によってCaとCbの2区分が可能である。Caは器高/口径比が大きく、本来の杯形態を保っているのに対してCbは器高/口径比が小さく盤状を呈する形態のものである。

Caは口縁部や口唇部の形態によってさらに4形態に細分ができる。Ca-1は模倣元である須恵器杯蓋の形態を忠実に写しており、口唇部に狭い平坦面を有する形態である。口縁部は稜からほぼ垂直に立ち上がるものとわずかに外に開く形態がみられる。D区5号竪穴建物7～9、D区14号竪穴建物2・3、C区3号竪穴建物5・6に代表される。Ca-2はCa-1と同様であるが、口唇部は平坦面ではなく丸みをもつ形態。D区9号竪穴建物5・6、16号竪穴建物2、C区7号竪穴建物5などに代表されるCa-3は口縁部上半がやや外反する形態、この形態は時間的変化で器高が低くなり、外反や口縁部の外形が強くなる。1段階としてはD区9号竪穴建物9、15号竪穴建物2、16号竪穴建物1に代表される。2段階としてはA区1号竪穴建物3・4に代表される。3段階としてはJ区10号竪穴建物1・3、E区9号竪穴建物3に代表される。Ca-4は底部と口縁部の間の稜がほとんど形骸化した形態。J区6号竪穴建物6に代表される。

Cbは前述のように器高/口径比が小さく、口縁部が外傾しながら立ち上がる形態。E区9号竪穴建物4・5に代表される。なお、平野部ではCbには口縁部が外反するものが多くみられるが本遺跡では確認されなかった。

杯D 杯Dは杯Cに類似した形態で口縁部が外反するため当初杯Ca-3の時間的変化の中でとらえられたのではと考えたが、杯Ca-1と共存するものが多く存在するため時間的変化ではなく他の要素によって成立した形態と判断した。杯Dは丸みをもつ小ぶりの底部と大きく外反する口縁部の間に稜または変換点を有する。一部には内面、内外面にへら磨きが施され、内面黒色処理されたものもみられる。杯Dは底部の形態によってDaとDb、Dcに3区分できる。

Daは小ぶりな底部で口縁部が大きく外反、外傾する。さらに口縁部の外反、外傾の形態によって細分が可能である。D区3号竪穴建物3・4、5号竪穴建物2、C区4号竪穴建物4・5に代表される。

DbはDaに比べて底部が大きく、比較的平底に近い形態である。D区6号竪穴建物1・2、15号竪穴建物1、17号竪穴建物1に代表される。

Dcは比較的器高が高く、器壁が厚い形態である。C区5号竪穴建物12・15に代表されるが、榎Aに近い形態である。

杯E 杯Eも杯Cに類似した形態であるが、丸みをもつ底部と外形または外反する口縁部の間にごく弱い稜、変換点を有する形態である。また、Eは多くの形態が時間的変化の中で器高/口径比が小さくなるのに対してあまり変化がみられない。また、内面、内外面にへら磨きが施され、内面黒色処理されたものもみられる。

Eは口縁部の形態によってEaとEb、Ecの3区分できる。Eaは口縁部上半が外反する形態。D区6号竪穴建物5、11号竪穴建物6・7に代表される。

Ebは口縁部が外傾する形態でEの中でもっとも多く占める。また、Ebは口縁部の外傾と稜の状態によって4区分に細分できる。Eb-1はC区4号竪穴建物1・2、Eb-2はA区1号竪穴建物5～9、Eb-3はF区2号竪穴建物1、J区6号竪穴建物3、Eb-4はJ区6号竪穴建物4に代表される。

Ecは口縁部がわずかに外傾するが、外面が弧状を呈することから杯Fに近い形態である。E区2号竪穴建物1・2、I区1号竪穴建物2・3、J区14号竪穴建物1に代表される。

杯F 杯Fは杯Cに類似した形態であるが、丸みをもつ底部とほぼ垂直に立ち上がる口縁部でその間に強い稜をもつ形態、口縁部は中間が膨らみ、外面は弧状を呈する。出土量はわずかである。C区2号竪穴建物2・3、D区16号竪穴建物3、F区2号竪穴建物2・3が確認されている。

杯G 杯Gは須恵器杯身模倣とみられる形態である。その形態は丸みをもつ底部とやや内傾した口縁部を有し、底部と口縁部の間に強い稜をもつ形態、出土量はごくわずかである。D区11号竪穴建物8・9、C区6号竪穴建物3が確認されている。

杯H 杯Hは丸底の底部から丸みをもって口縁部が立ち上がる。時間的経過とともに口縁部や底部の形態に変化がみられる。初期のものは口縁部上半、口唇部が内湾するが、時間の経過によって口縁部が垂直直みに立ち上がり、器高が浅くなるにつれて底部の丸みがなくなる。また、口縁部の整形も初期は口唇部付近までヘラ削りが施され、横ナデの幅が狭いが、徐々に横ナデの幅が広がり、横ナデとヘラ削りの幅が逆転する状態になる。その次には口縁部上半が横ナデ、下半がナデで底部へ移行する状態になる。H-1にはJ区6号竪穴建物8、13号竪穴建物4、H-2にはF区2号竪穴建物4、E区9号竪穴建物1・2、H-3にはH区3号竪穴建物1・2、H-4にはD区8号竪穴建物1、E区12号竪穴建物1、I区2号竪穴建物1~6、J区10号竪穴建物2・4~6、15号竪穴建物1・2が該当する。

杯I 杯Iは底部がわずかに弧状をなすかほぼ平底。底部と口縁部の境は明瞭である。口縁部はほぼ直線的でやや開き直みに立ち上がる。出土した1の多くは内面に放射状暗文が施されている。本来は口縁部の開き方や底径による変化がみられるが今回の調査で出土したものではほとんどみることができない。該当するものにはI区2号竪穴建物7、3号竪穴建物1、4号竪穴建物6・7、J区10号竪穴建物7、J区15号竪穴建物3、J区16号竪穴建物1がある。

椀 椀には平底、平底に近い丸底の底部から開く体部、若干外傾する口縁部からなる椀A、土師器杯Bの器高が深くなった椀B、平底直みの底部から若干丸みをもち立ち上がる体部とわずかに外反する口唇部からなる椀C、椀Cに近い形態ではあるが、口唇部が外反しない椀Dの4形態がある。椀は出土量がわずかなためそれぞれの形態での細分を行うことができないため大別にとどめる。なお、椀DはD区9号竪穴建物12だけしか確認されていない。

椀A 椀Aは底部が丸底直みか平底を呈し、体部と口縁部の境にごく弱い稜を有する形態。C区3号竪穴建物15、15号竪穴建物1、D区6号竪穴建物6・7に代表される。

椀B 椀Bは土師器杯B同様に口縁部が内湾、または垂直気味に立ち上がる。底部は丸底気味または底部の中心部のごく小径で平底化している形態。C区5号竪穴建物

7、D区9号竪穴建物10・11に代表される。

椀C 椀Cは底部が丸底直みで体部はわずかに開きながら立ち上がり口縁部はわずかに外反する形態。C区4号竪穴建物6、5号竪穴建物10に代表される。

高杯 高杯は脚部から大きく開く口縁部で中程に稜をもつ形態の高杯A、高杯Aと同様であるが、稜の上部はAのように大きく開かず若干外傾しながら立ち上がる高杯B、杯身部分は杯Eに近い形態をもつが、稜は非常に明瞭なものである高杯C、杯身は杯Aと同様な形態の高杯D。杯身は杯Bと同様な高杯E。杯身は杯Cと同様な高杯F。杯身は鉢状の形態を呈する高杯Gに大別できる。形態の判別できる高杯のうちD~Gはそれぞれ1点ずつ、A・Bも出土量がわずかで、大部分はC形態である。なお、高杯Bは形態によって3形態に細分が可能である。Cは稜の状態によって2形態と杯身の器高によって細分が可能であるが、杯身の器高によるものは口縁部片だけしか出土していないため明瞭ではない。

各形態の該当または代表的なものは次のものである。AにはC区3号竪穴建物23、B区2号竪穴建物4が該当する。B-1はD区3号竪穴建物8、B-2はD区3号竪穴建物9・10、B-3にはJ区11号竪穴建物3・4が該当する。C-1はD区15号竪穴建物3~6に代表される。C-2はC区7号竪穴建物6、D区11号竪穴建物16に代表される。DはC区3号竪穴建物20、EはC区3号竪穴建物21、FはC区5号竪穴建物16、GはC区3号竪穴建物19が該当する。

鉢 鉢は口縁部、底部の形態に大別できるが、全体の出土量はわずかにある。なお、全体の形態は椀に類似しており、椀より注量の大きなものを鉢とした。なお、有孔鉢については形態の違う3個体が出土しているだけなので参考にとどめる。全体の形態が椀Aに類似した形態をA、椀Bと同様・類似した口縁部形態が内湾、直線的なものをB、椀口縁部が外反するものをC形態とする。

鉢A 鉢Aは丸底のものをAa、平底のものをAbとする。Aaにはやや底部が突出するAa-2が確認される。Aa-1にはE区5号竪穴建物3・4、Aa-2にはD区11号竪穴建物20・21が該当する。Abは底径によって区分ができるがC区9号竪穴建物3（底径小）とD区11号竪穴建物19（底径大）の2点しか出土していない。

鉢B 鉢Bは口縁部が内湾するBaはC区3号竪穴建物

16、口縁部が直立きみに立ち上がるBbはD区3号竪穴建物11、15号竪穴建物9、口縁部上半が屈曲し、底部が平底のBcはC区6号竪穴建物6が該当する。

鉢C 鉢Cは丸底に近いCaと底部と体部の区分が可能なCbに区分することができる。CaはC区3号竪穴建物17、D区3号竪穴建物12、16号竪穴建物8が該当する。CbはC区5号竪穴建物15、D区11号竪穴建物12・13が該当する。

甕 甕は胴部の形状によって煮沸用と貯蔵用に大別できる。しかし、貯蔵用の甕は個体差が多く、それぞれの個体ごとの数量が少ないのでここでは煮沸用の甕を取り扱う。煮沸用の甕は口縁部が胴部の中程、下位上部に胴部最大径をもつA、器高が高くなり胴部にほとんど膨らみをもたないで底部に至るB、胴部上位に最大径をもつCに区分する。

甕A 甕Aはほとんどの個体で口縁部がくの字に開くが、口縁部の幅は広狭と差が激しい。胴部の最大径はほぼ中位にくるものが多いが、一部に下半上位にくるものがみられる。また、胴部の整形はハケ目とヘラ削りによるものがみられる。そしてハケ目・ヘラ削りとも縦方向だけのものと胴部上位に斜め方向に施したものとあり、細部でのグループ分けが難しいほど千差万別である。一応甕Aとして一括して取り扱う。甕Aは古墳時代の竪穴建物で煮沸用と使用された甕が該当し、D区11号竪穴建物31、16号竪穴建物21、17号竪穴建物7、A区1号竪穴建物16、C区2号竪穴建物28、6号竪穴建物10などに代表される。

甕B 甕Bは一般的に長胴甕と呼称されるものである。口縁部は頸部から大きく外反する。胴部はわずかに膨らみをもつ程度で最大径は口径を超えることはない。底部は丸底かやや平底化している。胴部の整形は縦方向に2～3段のヘラ削りが施されている。F区2号竪穴建物9・10、J区6号竪穴建物11などに代表される。

甕C 甕Cは頸部が「くの字」状、「コの字」状を呈する。胴部最大径を胴部上位に有し、底部はごく小径の平底の形態である。整形は胴部に特徴や変化がみられ、上位が斜め方向、横方向で中位は若干斜めか縦方向のヘラ削り、下位は斜め方向のヘラ削りが施され、器壁が非常に薄く仕上げられているものである。

口縁部から頸部の形状によって大別ができる。口縁部が「くの字」状を呈するものをCa、口縁部が「コの字」状を呈するものをCbとする。

甕Ca 甕Caは形態や整形は前記のとおりであるが、口縁部の形態と胴部の整形によって3形態に細分ができる。Ca-1は胴部上位の整形が斜め方向のヘラ削りが施されたものでJ区15号竪穴建物19・20が該当する。Ca-2は口縁部の形態が明瞭な「くの字」状を呈し、胴部上位の整形が横方向に2～3段施されているものである。E区12号竪穴建物4～7、J区10号竪穴建物23などに代表される。Ca-3はCa-2に類似するが頸部が明瞭な屈曲ではなくわずかに幅をもち外反ぎみの形態になるものでCb-1への移行段階ともみられる。D区1号竪穴建物19・20、J区10号竪穴建物22などに代表される。

甕Cb 甕Cbは形態や整形は前記のとおりであるが、口縁部の形態によって4形態に細分ができる。Cb-1は口縁部上位の屈曲部が明確ではなく外反状を呈する形態。I区4号竪穴建物13～15、C区12号竪穴建物8、D区18号竪穴建物20、4号竪穴建物7などに代表される。Cb-2は頸部上位の屈曲部も比較的明瞭ではあるが、頸部が垂直ではなく若干開きぎみな形態。C区1号竪穴建物6、D区1号竪穴建物21、10号竪穴建物8、F区1号竪穴建物11・12などに代表される。Cb-3は口縁部から頸部がもっとも明瞭な「コの字」状を呈する形態である。C区1号竪穴建物7、12号竪穴建物1～3に代表される。Cb-4は器壁がやや厚くなり、頸部がやや内傾する形態。E区6号竪穴建物7・8、F区1号竪穴建物14、J区8号竪穴建物5・6に代表される。

須恵器 須恵器は古墳時代に比定される竪穴建物からは甕が若干と平瓶、1次調査から杯蓋が出土しているだけである。また、飛鳥・奈良・平安時代でも飛鳥時代の竪穴建物からは複数の器種が出土していない。須恵器が土器の中で比率を高めるのは奈良時代後半から平安時代にかけて特に平安時代の食器がすべてを占めるようになる。こうした状況のため古墳時代から飛鳥時代の須恵器は提示するだけにとどまるが、奈良時代から平安時代にかけては大別、細分を提示することが可能であった。

杯A 杯Aは合子状の蓋と身からなる形態である。出

VI 調査の成果と課題

土例は1次調査C区3号竪穴建物18の杯蓋だけである。この杯蓋は陶邑編年MT15(注3)に平行する段階と想定される。

杯B 杯Bは器高/口径比が比較的大きい値を示し、底部が緩い丸みを呈する形態であるが、今回の調査では細片を確認しただけで図示できるものは出土していない。

杯C 杯Cは器高/口径比が55~70と比較的大きな値を示し、器高が低めで底部が平底、口縁部は直線的でやや外傾する形態である。Cは高台の有無によってCaとCbに2区分できる。

杯Caは底部の整形がへら削り、回転系切りのままの状態と口縁部の外傾の状態によって5区分に細分が可能である。Ca-1は底部がへら削りで底径/口径比が60以上の値を示す形態、E区12号竪穴建物2・3、I区2号竪穴建物16、J区15号竪穴建物6~8などに代表される。Ca-2は底部が糸切りで底径/口径比が55~65の値を示す形態、D区1号竪穴建物1、18号竪穴建物3、J区10号竪穴建物13などに代表される。Ca-3は底部が糸切りで底径/口径比が60以下の値を示す形態、D区1号竪穴建物4、J区4号竪穴建物1などに代表される。

Ca-4は底部からごくわずかに立ち上がった所から水平方向に開き口縁部に立ち上がる疑似高台状を呈する形態、C区14号竪穴建物1、D区1号竪穴建物5などに代表される。Ca-5は口縁部が大きく開き中程に稜を有する稜椀を低くした形態、I区3号建物7、4号竪穴建物9・10などがある。

杯CbはCaの形態に高台を添付したものであるが、生品西浦遺跡では図示できたものはE区9号竪穴建物8、H区3号竪穴建物5だけであった。なお、E区9号竪穴建物8は底部が丸底を呈し、底部が高台より突出した形態で美濃須衛古窯跡群の影響を受けたものである。この製品は胎土の特徴から安中市秋間古窯跡群で生産されたものとみられる。

杯D 杯Dは杯Cに比べて器高がやや高く回転系切りによる底部から大きく開く口縁部が立ち上がる形態、口縁部の形態で3区分が可能である。Daは口縁部が直線的な形態、Dbは口縁部がやや丸みをもって立ち上がる形態、Dcは口縁部が上位で外反する形態。それぞれは底

径/口径比によって細分が可能である。DaはC区12号竪穴建物1・2、J区8号竪穴建物3、DbはC区12号竪穴建物6、E区4号竪穴建物5、DcはD区1号竪穴建物10、J区12号竪穴建物1・2に代表される。

椀A 椀Aは平底の底部から直線的、または体部にわずかな丸みをもち立ち上がる口縁部をもつ形態。Aは高台の有無によってAaとAbに2区分できる。Aa・Abとも底径/口径比によって細分が可能である。また、体部中位に稜をもつ稜椀のAc、体部がやや湾曲するAdに区分できる。AaはI区2号竪穴建物25、J区10号竪穴建物14、AbはD区18号竪穴建物9、H区5号竪穴建物1、AcはI区2号竪穴建物34、AdはJ区10号竪穴建物17に代表される。

椀B 椀Bは須恵器杯Dの器高が高くなった形態。本来は無台と有台のものが存在するはずであるが、今回の調査では無台のものはみられない。Bも杯Dと同様に底径/口径比によって細分が可能である。Bb-1はJ区12号竪穴建物3、Bb-2はE区6号竪穴建物1、C区1号竪穴建物3に代表される。

2. 共存関係

前項で分類した土器は各形態によって個体数に差があるが、各竪穴建物に戻して共存関係をみると7表のようになる。共存関係では数軒の竪穴建物で後世の混入とみられる土器もあるため可能な限り床面やカマド、貯蔵穴から出土したものを中心に扱うこととした。なお、表の作成にあたっては紙面の関係もあり竪穴建物を3区分して掲載した。

古墳時代 古墳時代の竪穴建物から出土した土器群はもっとも普遍的に出土している器種が土師器杯と甕であるが、甕は個体差が多いため杯を軸に共存関係をみることにする。

古墳時代の竪穴建物から出土した杯はA~Gがみられるが、F・Gは出土量がわずかであるため、A~Eとの共存関係を主にみることにする。

土師器杯AはD区3号竪穴建物、5号竪穴建物、C区3号竪穴建物、5号竪穴建物、9号竪穴建物と出土している竪穴建物が少ないが、共存関係は杯Bや杯Ca-1、-2、3-1、Da、Ea、高杯はA、Bなどとの共存が確認できる。また、杯Bも杯Aと同一の竪穴建物とD区

5号竪穴建物、9号竪穴建物、14号竪穴建物、C区3号竪穴建物、5号竪穴建物から出土しているが、共伴関係は杯Aと同じ形態が確認できる。

杯Cはもっとも多くの個体数が確認できる器形である。Ca-1やCa-2では杯A・Bと同様な共伴関係を確認できるが、Ca-3では杯A・Bとの共伴関係は少なくなり、各器種のCa-2やCa-3との共伴が確認できるだけである。その他の器種では杯Eや高杯Cとの共伴が確認できる。

飛鳥～奈良時代初頭 この時代の土器群は仏教伝来とともに搬入された金属器が土器にも多大な影響を与えるようになり、「律令的土器」・「宮都的土器」と呼ばれる土器群が出現するが、まだ古墳時代の土器様相が強く残る。共伴関係にも両者の様相をみることができ、古墳時代の土器が多く出土する。この時代でも土師器杯を基軸に共伴関係をみることにする。

この時代の竪穴建物から出土した杯はCa-4、Eb-3・4、F、H-1が出土している。

杯EbはF区2号竪穴建物、I区6号竪穴建物、J区6号竪穴建物から出土しており、杯H-1と裏Bと共伴関係が確認できる他、F区2号竪穴建物では杯Fとの共伴が確認できる。この他杯EはJ区10号竪穴建物から出土しており、ここでは土師器杯Ca-4、H、須恵器杯蓋・身Ca-3、椀Aa-1、Ad、土師器裏Ca-2との共伴関係が確認できる。杯Ca-4はこの他H区2号竪穴建物から出土しているが、ここからの土器出土量は少なく裏Ca-1と共伴が確認できただけである。

奈良～平安時代 この時代は飛鳥～奈良時代初頭に比べ古墳時代の土器はほとんどみることができなくなる。そのため竪穴建物から普遍的に出土する土器は土師器杯Hや須恵器杯C、土師器裏C、羽釜などである。そのためこれらの土器を基軸に共伴関係をみることにする。

土師器杯Hは-1が飛鳥～奈良時代初頭に限られるため2～4についてみていくこととする。

杯H-2はE区9号竪穴建物、H区3号竪穴建物から出土しており、須恵器カエリのある杯蓋、Cbや土師器杯Ca-4、Ec、H-2、須恵器杯Ca-1、土師器裏Ca-1との共伴が確認できる。H-3はD区8号竪穴建物をはじめ8軒と多くの竪穴建物から出土しており、土師

器杯H-4、I、須恵器杯Ca-1～3、Da-1、土師器裏Ca-3、Cb-1～3との共伴が確認できる。H-4はI区4号竪穴建物、J区10号竪穴建物、13号竪穴建物から出土していることからH-3と同様な共伴関係をみることができる。

土師器裏はCa-1がE区9号竪穴建物、J区15号竪穴建物から出土しているが、杯H-2・3が出土していることから杯Hと同様な共伴関係が確認できる。Ca-2はD区4号竪穴建物、E区12号竪穴建物、I区2号竪穴建物、J区2号竪穴建物、10号竪穴建物から出土しており、土師器杯Cb、Ec、H-2・3、須恵器杯Ca-1・2、Da-1、Db、椀Aなどとの共伴が確認できる。Ca-3はD区1号竪穴建物、10号竪穴建物、J区4号竪穴建物から出土しているが、裏Cb-1・2とも共伴している。Cb-1はD区10号竪穴建物をはじめ6軒の竪穴建物から出土しており、土師器杯H-3、I、Ca-3・5、Da-1、Acとの共伴が確認できる。Cb-2はD区1号竪穴建物など6軒の竪穴建物から出土しているが、土師器杯が共伴するのはE区4号竪穴建物だけである。この他に共伴するのは須恵器杯Ca-3・4、Da-1、Dc-1、Db椀Aa-1、Ab、Adが確認できる。Cb-3はJ区8号竪穴建物、C区8号竪穴建物、12号竪穴建物から出土しており、須恵器杯Da-2、Db、B-1との共伴が確認できる。Cb-4はE区6号竪穴建物から出土しており、羽釜、須恵器椀B-1との共伴が確認できる。

羽釜はD区7号竪穴建物をはじめ7軒の竪穴建物から出土しており、須恵器杯B-1・2、Da-2、Dc-1～3、椀Aa-2との共伴が確認できる。

3. 土器の変遷

1項で行った土器の分類と2項で確認した出土土器の共伴関係から生品西浦遺跡における竪穴建物出土土器の変遷は以下のとおりである。

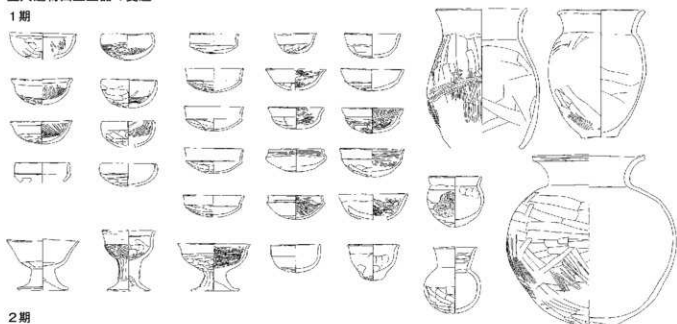
土器の変遷には比較的長期にわたって形態的变化を見せながら存続する土器を基軸に共伴する土器によって変遷を組み立ててみることにした。生品西浦遺跡で基軸となりえる土器は共伴関係でも提示した土師器杯C、杯E、杯H、裏C、須恵器杯C・Dなどである。

これらをもとに土器変遷を列べると340図・341図(変

VI 調査の成果と課題

竪穴建物出土土器の変遷

1期



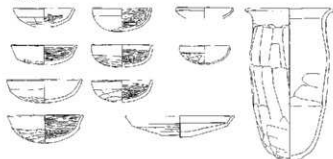
2期



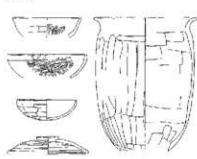
3期

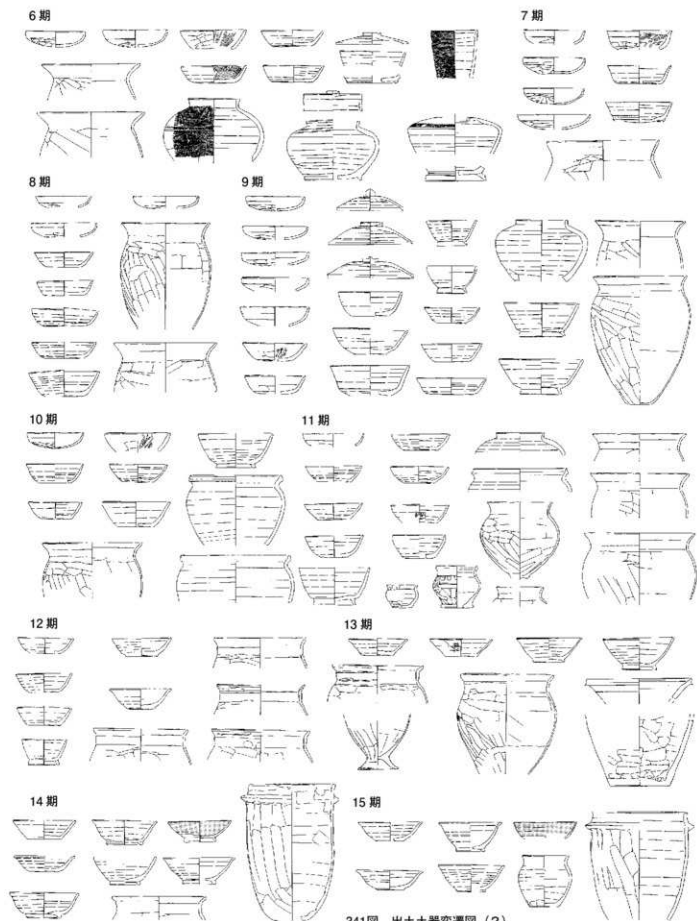


4期



5期





遷園では期によって破片だけの出土しかないため西川原古墳群出土の土器で補完した)のようになり、それぞれの各期の共伴関係は以下のとおりである。

1期 土師器杯A、B、Ca-1、-2、-3-1、Da、Db、Ea、高杯A、B、甕Aとの共伴関係がみられる。この共伴関係のなかでも杯A、B、Caの共伴関係を見ると3グループほどに分類できるが、共伴例が少ないため現状では可能性にとどめたい。

2期 杯Ca-3-1、-3-2、Ea、Ec、F、杯高杯B-3、椀C、甕A(ヘラ削り)との共伴関係がみられる。

3期 杯Ca-3-2・3、Da、Db、Ea、Eb、F、G、椀A、鉢A、甕A(ヘラ削り)との共伴関係がみられる。

4期 土師器杯Eb-3、-4、H-1、甕Bとの共伴関係がみられる。

5期 土師器杯Eb-4、H-2、甕Bとの共伴関係がみられる。

6期 土師器Ca-4、H-2・3、I、甕Ca-1、須恵器杯Ca-1・2、杯蓋(カエリ無)、Cbとの共伴関係がみられる。

7期 土師器杯H-2・3、甕Ca-1、須恵器杯Ca-1、Cb、Da-2、との共伴関係がみられる。

8期 椀H-2・3、I、甕Ca-1・2、須恵器杯Ca-1・3、椀Aa-1、Adとの共伴関係がみられる。

9期 土師器杯H-3・4、甕Ca-3、Cb-1、須恵器杯Ca-2~5、Da-1・2、Dc-1、椀Aa・Abとの共伴関係がみられる。

10期 土師器杯H-3、甕Cb-1・2、須恵器杯Ca-3~4、杯蓋(カエリ無)、Da-2、Db、椀Aa、Abとの共伴関係がみられる。

11期 土師器杯H-4、甕Cb-1・2、須恵器Ca-3・4、Dc-2、杯蓋(カエリ無)、椀Aa-1、Abとの共伴関係がみられる。

12期 土師器甕Cb-2・3、須恵器杯蓋(カエリ無)、椀Adとの共伴関係がみられる。

13期 土師器甕Cb-4、須恵器杯Da-2、Db、椀B-2との共伴関係がみられる。

14期 須恵器杯Da-2、Db、Dc-1、羽釜、灰軸陶器大原2号窯式期の製品との共伴関係がみられる。

15期 須恵器D-3、B-1、羽釜、灰軸陶器大原2号窯式期との共伴関係がみられる。

4. 年代の比定

生品西浦遺跡からは実年代を比定できる資料は出土していないが、今までの土器編年の援用や竪穴建物埋没土におけるHr-1Pの堆積状況などから各期の年代は次のようになると思われる。

1期 6世紀前半、**2期** 6世紀後半、**3期** 7世紀前半、**4期** 7世紀第3四半期、**5期** 7世紀第4四半期、**6期** 8世紀第1四半期、**7期** 8世紀第2四半期、**8期** 8世紀第3四半期、**9期** 8世紀第4四半期、**10期** 9世紀第1四半期、**11期** 9世紀第2四半期、**12期** 9世紀第3四半期、**13期** 9世紀第4四半期、**14期** 10世紀第1四半期、**15期** 10世紀第2四半期に比定できる。

この各期の年代はあくまで今までの研究成果の援用であり地域的な特質を十分に生かしているとは言えない。そのため多少の前後が生じる可能性はあるが、四半世紀を超えることはないと考えられる。

5. 地域特質—土師器杯D、杯Eについて

群馬県北部、利根沼田では県南部の平野部と様相を異にする土器がみられる。その土器群は1期~5期に見られる土師器杯D、Eである。

土師器杯DとEについては松本 保がみなかみ町諏訪遺跡から出土したこの一群の土器を検討し「諏訪型」(松本 保1988「古墳時代後期における群馬県北部の土器様相」『東国史論』3号群馬考古学研究会)、また、田中広明が古墳時代から律令期への土器変化をとらえる中で利根沼田の土器群について論考し、「後田型」(田中広明1995「関東西部における律令制成立までの土器様相と歴史的動向」『東国土器研究』4号東国土器研究会)と命名した土器である。これらの土器については地理的条件や弥生時代に南東北系の土器が搬入されていることなどから南東北との関係が指摘されているが、その出自は明確ではない。利根沼田での生品西浦遺跡1期以前の竪穴建物の検出例は数少ないが、昭和村森下中田遺跡や沼田市寺谷遺跡で確認されている。これらの遺跡では5世紀中葉の竪穴建物が検出されており、ここからは杯D・Eの出土は確認できない。こうした点から杯E・Dの出現は5世紀後葉であると考えられるが、この時期に該当する竪穴建物が明確でないため今後の課題としたい。

なお、紙面の関係で注、引用・参考文献は省略させていただきます。

集落の変遷について

はじめに 生品西浦遺跡では2次6年にわたる発掘調査で弥生時代から平安時代にかけて竪穴住居を88軒検出した。北西に隣接する西川原古墳群でも竪穴建物5軒を検出し、計93軒に及ぶ竪穴建物を検出している。これらの竪穴住居の出土土器を基に前節で出土土器の変遷を行った。その結果、生品西浦遺跡の竪穴住居から出土した土器は15期の変遷を提示できた。土器の変遷では6世紀から7世紀前半は半世紀ごと、7世紀後半から10世紀前半代では四半世紀の年代を与えることができた。6世紀から7世紀前半は半世紀ごとの設定や各期の軒数が限られているため確実に継続しているかどうかは明確ではないが、集落の範囲や周辺に造築されている古墳群の様相から生品西浦遺跡地域での集落は6世紀前半代から10世紀前半代にかけては竪穴住居が連続と継続すると考えられる。今回、土器変遷で得られた15期にわたる変遷をもとに集落変遷をみると以下のとおりである。

集落の変遷 弥生時代後期後半 J区1号竪穴建物、3号竪穴建物、5号竪穴建物、9号竪穴建物、17号竪穴建物が該当する。この他、1次調査B区3号竪穴建物があり、計6軒が検出されているが、いずれも台地縁辺部でありB区とJ区とは600m近い距離があることから同一集落ではあるが別個の集団が複数存在していた可能性がある。

6世紀前半には土器変遷1期の土器を出土しているD区3号、5号、6号、9号、11号、14号、15号、16号、17号、I区6号、J区14号、C区6号、7号、9号、11号、15号、16号竪穴建物の17軒が該当する。

6世紀後半には土器変遷2期の土器を出土しているD区12号、E区2号、11号、J区11号、B区1号、2号、C区10号竪穴建物の7軒が該当する。

7世紀前半には土器変遷3期の土器を出土しているE区5号、H区1号、4号、6号、I区1号、C区2号竪穴建物の6軒が該当する。なお、6世紀後半から7世紀にかけてとみられる竪穴建物にA区1号、2号竪穴建物がみられるが現状ではどちらもと言及できない。

7世紀第3四半期には土器変遷4期の土器を出土しているF区2号、J区6号竪穴建物が該当する。この2軒は土器全体の様相は古墳時代の様相が強いが土器器杯H

1を出土していることからこの時期に比定した。

7世紀第4四半期には土器変遷5期の土器を出土しているJ区13号竪穴建物が該当する。

8世紀第1四半期には土器変遷6期の土器を出土しているH区2号、3号、J区15号竪穴建物が該当する。

8世紀第2四半期には土器変遷7期の土器を出土しているE区9号竪穴建物が該当する。

8世紀第3四半期には土器変遷8期の土器を出土しているE区12号、J区10号竪穴建物が該当する。

8世紀第4四半期には土器変遷9期の土器を出土しているC区14号、D区1号、F区1号、H区5号、I区2号、4号竪穴建物が該当する。

9世紀第1四半期には土器変遷10期の土器を出土しているD区2号、E区4号、I区3号、C区12号竪穴建物が該当する。

9世紀第2四半期には土器変遷11期の土器を出土しているD区4号、10号、18号、J区7号竪穴建物が該当する。

9世紀第3四半期には土器変遷12期の土器を出土しているD区19号、C区13号、西川原古墳群B区1号、3号竪穴建物が該当する。

9世紀第4四半期には土器変遷13期の土器を出土しているJ区8号、C区1号竪穴建物が該当する。

10世紀第1四半期には土器変遷14期の土器を出土しているD区7号、E区1号、3号、6号、13号、C区8号、西川原古墳群B区2号、4号竪穴建物が該当する。

10世紀第2四半期には土器変遷15期の土器を出土しているJ区12号、西川原古墳群B区5号竪穴建物が該当する。

以上、生品西浦遺跡の集落変遷について概観してみたが、生品西浦遺跡では時期によって竪穴住居の盛衰が見られる。また、分布も6世紀代には南側に集中するなど時期によって偏在する傾向もみられた。時期による竪穴建物の盛衰は発掘調査範囲が限られていることや集落の西端であることなどに起因すると考える。分布の偏在は南から北へ集落が拡大したことによるとも推察できる。こうした集落の変遷から「生品」では古墳時代後半から現在に至るまで継続的に集落が営まれていたと窺える。



342圖
生品西浦遺跡
集落變遷圖(1)

彌生時代

6C. 前半

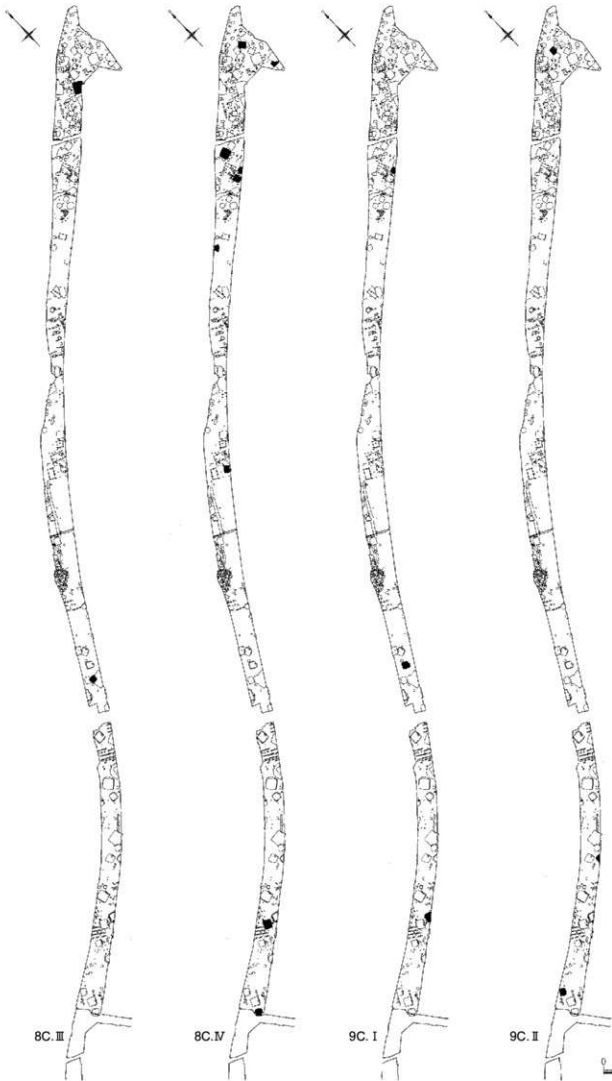
6C. 後半

7C. 前半

0 1:2,000 50m

343圖
生品西浦遺跡
集落變遷圖(2)





344图
 生品西浦遺跡
 集落変遷図(3)

0 1:2,000 50m



345图
 生品西浦遺跡
 集落変遷図(4)

9C. III

9C. IV

10C. I

10C. II

0 1:2,000 50m

報 告 書 抄 録

書名ふりがな	なましなにしうらいせきⅡ
書名	生品西浦遺跡Ⅱ
副書名	一般県道富士山横塚線地方特定道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	463
編著者名	神谷佳明、笹澤泰史
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20090316
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橋町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	なましなにしうらいせき
遺跡名	生品西浦遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんとなぐんかわばむらなましなあざにしうら・にしかわはら
遺跡所在地	群馬県利根郡川場村生品字西浦・西川原
市町村コード	10444
遺跡番号	0021
北緯（日本測地系）	
東経（日本測地系）	
北緯（世界測地系）	364034
東経（世界測地系）	1390519
調査期間	20050401-20050930/20060601-20061130/20070701-20070917/ 20071018-20071031
調査面積	7.060
調査原因	道路建設
種別	集落/生産/祭祀/採掘/狩猟
主な時代	旧石器/縄文/弥生/古墳/飛鳥・奈良・平安/中世/近世
遺跡概要	集落-竪穴建物6-掘立柱建物6-土坑122+土師器+須恵器+灰釉陶器+石製品+金属製品/生産-鍛冶工房2+石器工房2-鍛冶関連遺物+金属製品+石器/祭祀-土器集積-土師器+石製模造品/採掘-採掘坑6+土師器+須恵器+陶器+石製品+金属製品/狩猟-落し穴139+石器
特記事項	弥生時代後期後半、古墳時代後期～平安時代の集落、鍛冶工房、採掘坑から和同開珎
要約	この地域は古代利根郡男信郷の一部に比定される。縄文時代は狩猟場として利用されていたが、弥生時代後期後半に一時集落が営まれるが、本格的に集落が営まれ始めるのは古墳時代中期後半からで、それ以降は連続と現代に続く。この地域での集落形成を考える上で重要な調査資料となる。特筆される遺物には利根沼田地域で初出の「和同開珎」や板型鉄滓・輪羽口などの鍛冶関連遺物があげられる。

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第463集

生品西浦遺跡Ⅱ 本文編

一般国道富士山横塚線地方特定道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2009(平成21)年3月10日 印刷

2009(平成21)年3月16日 発行

発行／編集 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地の2

電話 0279-52-2511 (代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷 上毎印刷工業株式会社

生品西浦遺跡Ⅱ

一般県道富士山横塚線地方特定道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

図版編

二〇〇九

群馬県沼田土木事務所
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



利根郡川場村

生品西浦遺跡Ⅱ

一般県道富士山横塚線地方特定道路整備事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

図版編

2009

群馬県沼田土木事務所
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

利根郡川場村

生品西浦遺跡Ⅱ

一般県道富士山横塚線地方特定道路整備事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

図 版 編

2009

群馬県沼田土木事務所
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

図 版 目 次

PL.NO.	キャプション	方向	PL.NO.	キャプション	方向
PL 1	遺跡地遠景	西から	PL 9	D区 50号土坑	北から
	遺跡地遠景	南から		D区 50号土坑上層断面	西から
PL 2	遺跡地近景	南から	D区 51号土坑	南から	
	周辺遺跡 生品西油遺跡		D区 51号土坑	西から	
	周辺遺跡 西川原古墳群 B区全景		D区 52号土坑	北から	
	周辺遺跡 生品前原遺跡の現存する古墳		D区 52号土坑上層断面	東から	
	基本的な層序 180-004	西から	D区 53号土坑	西から	
	基本的な層序 513-713	西から	D区 53号土坑上層断面	北から	
遺 構			PL10	D区 54号土坑	北から
旧石器時代				D区 54号土坑上層断面	東から
PL 3	D区旧石器調査全景	西から	D区 55号土坑	北から	
	D区旧石器調査全景	北東から	D区 55号土坑上層断面	東から	
PL 4	D区旧石器出土状態	北から	D区 56号土坑	西から	
	D区旧石器出土状態	北から	D区 56号土坑上層断面	北から	
	D区旧石器出土状態	北から	D区 57号土坑	北から	
	D区旧石器出土状態	近接	D区 57号土坑上層断面	西から	
	D区旧石器出土状態	近接	PL11	D区 58号土坑	北から
	D区旧石器出土状態	近接		D区 58号土坑上層断面	西から
	D区旧石器出土状態	近接	D区 59号土坑	南から	
	D区旧石器出土状態	近接	D区 59号土坑上層断面	西から	
PL 5	H・I区旧石器調査全景	北東から	D区 60号土坑	北から	
	H・I区旧石器調査全景	北東から	D区 60号土坑上層断面	東から	
	H区旧石器出土状態	北から	D区 61号土坑	東から	
	I区旧石器出土状態	南から	D区 62号土坑	北から	
	I区旧石器出土状態	南から	PL12	D区 62号土坑	西から
	I区旧石器出土状態	南から		D区 63号土坑	北から
	J区旧石器出土試掘坑		D区 63号土坑	西から	
	J区旧石器出土状態		D区 64号土坑	北から	
縄文時代～弥生時代 全景			D区 64号土坑上層断面	東から	
PL 6	D区縄文時代～弥生時代面全景	南から	D区 65号土坑	北から	
	D区縄文時代～弥生時代面全景	北から	D区 65号土坑	東から	
	E区縄文時代～弥生時代面全景	南から	D区 66号土坑	南から	
	F区縄文時代～弥生時代面全景	北東から	PL13	D区 66号土坑上層断面	東から
	H区縄文時代～弥生時代面全景	北東から		D区 67号土坑	北から
	I区縄文時代～弥生時代面全景	北東から	D区 67号土坑上層断面	東から	
縄文時代			D区 68号土坑	北から	
PL 7	DK 41号土坑	北から	D区 68号土坑上層断面	東から	
	DK 42号土坑	南から	D区 69号土坑	南から	
	DK 43号土坑	南から	D区 69号土坑上層断面	西から	
	DK 43号土坑上層断面	東から	D区 70号土坑	北から	
	DK 44号土坑	北から	PL14	D区 70号土坑上層断面	東から
	DK 44号土坑上層断面	西から		D区 71号土坑	北から
	DK 45号土坑	南から	D区 71号土坑上層断面	東から	
	DK 45号土坑上層断面	西から	D区 72号土坑	東から	
	PL 8	DK 46号土坑	北から	D区 73号土坑	北から
		DK 46号土坑上層断面	西から	D区 73号土坑上層断面	東から
DK 47号・49号土坑		南から	D区 74号土坑	北から	
DK 47号土坑		西から	D区 74号土坑上層断面	南から	
DK 47号土坑上層断面		東から	PL15	D区 75号土坑	東から
DK 49号土坑上層断面		東から		D区 75号土坑上層断面	南から
DK 48号土坑	北から	D区 76号土坑	北から		
DK 48号土坑上層断面	東から	D区 76号土坑上層断面	西から		

PL NO.	キャプション	方向	PL NO.	キャプション	方向
	DK 77 号土坑	南から		D 区 107 号土坑	東から
	DK 77 号土坑上層断面	東から		D 区 108 号土坑	北から
	DK 78 号土坑	北から		D 区 108 号土坑	東から
PL.16	DK 78 号土坑上層断面	西から		D 区 109 号土坑	南から
	DK 79 号土坑	北から		D 区 109 号土坑	東から
	DK 79 号土坑上層断面	東から		D 区 110 号土坑	北から
	DK 80 号土坑	北から		D 区 110 号土坑上層断面	西から
	DK 80 号土坑上層断面	東から	PL.23	D 区 111 号土坑	北から
	DK 81 号土坑	北から		D 区 111 号土坑上層断面	東から
	DK 81 号土坑上層断面	西から		D 区 112 号土坑	北から
	DK 82 号・83 号土坑	東から		D 区 112 号土坑上層断面	西から
DK 82 号・83 号土坑	北から		D 区 113 号土坑	北から	
PL.17	DK 82 号・83 号土坑上層断面	南から		D 区 113 号土坑	東から
	DK 84 号土坑	北から		D 区 114 号土坑	北から
	DK 84 号土坑上層断面	西から		D 区 114 号土坑	東から
	DK 85 号土坑	北から	PL.24	D 区 115 号土坑	北から
	DK 85 号土坑上層断面	東から		D 区 115 号土坑	東から
	DK 86 号土坑 (右 75 号土坑)	北から		D 区 116 号土坑	東から
	DK 86 号土坑	西から		D 区 116 号土坑上層断面	北から
	DK 87 号土坑	北から		D 区 117 号土坑	北から
PL.18	DK 87 号土坑上層断面	西から		D 区 117 号土坑	東から
	DK 88 号土坑	北から		D 区 117 号土坑上層断面	西から
	DK 88 号土坑上層断面	東から		D 区 119 号土坑	東から
	DK 89 号土坑	東から	PL.25	D 区 120 号土坑	東から
	DK 89 号土坑上層断面	南から		D 区 121 号土坑	東から
	DK 90 号土坑	北から		E 区 21 号土坑	東から
	DK 90 号土坑上層断面	西から		E 区 21 号土坑	北から
	DK 91 号土坑	北から		E 区 22 号土坑	南から
PL.19	DK 91 号土坑上層断面	東から		E 区 22 号土坑	東から
	DK 92 号土坑	北から		E 区 24 号土坑	西から
	DK 92 号土坑上層断面	西から		E 区 24 号土坑上層断面	東から
	DK 93 号土坑	南から	PL.26	E 区 25 号土坑	東から
	DK 93 号土坑上層断面	西から		E 区 25 号土坑	北から
	DK 94 号土坑	南から		E 区 26 号土坑	東から
	DK 95 号土坑	北から		E 区 26 号土坑	北から
	DK 95 号土坑上層断面	北から		E 区 27 号土坑	東から
PL.20	DK 96 号土坑	北から		E 区 27 号土坑	北から
	DK 96 号土坑上層断面	東から		E 区 28 号土坑	西から
	DK 99 号土坑	北から		E 区 28 号土坑	北から
	DK 99 号土坑上層断面	東から	PL.27	E 区 29 号土坑	東から
	DK 100 号土坑	北から		E 区 30 号土坑	西から
	DK 100 号土坑上層断面	西から		F 区 1 号土坑	東から
	DK 101 号土坑	北から		F 区 1 号土坑上層断面	北から
	DK 101 号土坑上層断面	東から		F 区 16 号土坑	東から
PL.21	DK 102 号・103 号土坑	北から		F 区 16 号土坑上層断面	北から
	DK 102 号・103 号土坑上層断面	東から		F 区 24 号土坑	南から
	DK 104 号土坑	北から		F 区 24 号土坑上層断面	東から
	DK 104 号土坑上層断面	東から	PL.28	F 区 25 号土坑	北から
	DK 105 号土坑	北から		F 区 25 号土坑上層断面	東から
	DK 105 号土坑上層断面	東から		F 区 26 号土坑	南から
	DK 106 号土坑	北から		F 区 26 号土坑上層断面	南から
	DK 106 号土坑	東から		F 区 27 号土坑	南西から
PL.22	DK 107 号土坑	北から		F 区 27 号土坑上層断面	南から

PL NO.	キャプション	方向	PL NO.	キャプション	方向
	FK 28 号土坑	南から		HK 23 号土坑	南東から
	FK 28 号土坑上層断面	東から		HK 23 号土坑上層断面	南東から
PL.29	FK 29 号土坑	南から		HK 24 号土坑	南から
	FK 29 号土坑上層断面	南西から		HK 24 号土坑上層断面	南から
	FK 34 号土坑	北から	PL.36	HK 25 号土坑	東から
	FK 34 号土坑上層断面	北から		HK 28 号土坑	北から
	FK 35 号土坑	東から		HK 29 号土坑	南東から
	FK 35 号土坑上層断面	西から		HK 29 号土坑	南西から
	FK 36 号土坑	南から		HK 30 号土坑	北から
FK 36 号土坑上層断面	東から	HK 30 号土坑上層断面		南から	
FK 39 号土坑	南西から	HK 31 号土坑		西から	
PL.30	FK 39 号土坑上層断面	西から		HK 33 号土坑	東から
	FK 40 号土坑	南東から	PL.37	HK 33 号土坑上層断面	東から
	FK 40 号土坑上層断面	東から		HK 34 号土坑	南から
	FK 41 号土坑	北東から		HK 34 号土坑上層断面	北から
	FK 41 号土坑上層断面	北から		HK 35 号土坑	西から
	FK 42 号土坑	東から		HK 36 号土坑	北から
	FK 42 号土坑上層断面	東から		HK 36 号土坑上層断面	北から
FK 43 号土坑	北西から			I 区 3 号土坑 (左 2 号土坑)	南東から
PL.31	FK 43 号土坑上層断面	東から		I 区 3 号土坑上層断面	東から
	FK 44 号土坑	西から	PL.38	I 区 18 号土坑	北西から
	FK 44 号土坑上層断面	西から		I 区 18 号土坑上層断面	北西から
	GK 11 号土坑	北東から		I 区 19 号土坑上層断面	南東から
	GK 11 号土坑上層断面	東から		I 区 21 号土坑上層断面	南東から
	GK 12 号土坑	南から		I 区 22 号土坑	北から
	GK 12 号土坑上層断面	東から		I 区 22 号土坑上層断面	南から
GK 13 号土坑	北から	I 区 24 号土坑		南から	
PL.32	GK 13 号土坑	東から	PL.39	I 区 25 号土坑	南から
	GK 14 号土坑	南から		I 区 25 号土坑遺物出土状態	南から
	GK 14 号土坑上層断面	西から		I 区 25 号土坑遺物出土状態	近接
	GK 16 号土坑	南から		I 区 26 号土坑	南から
	GK 16 号土坑	西から		I 区 27 号土坑	南から
	HK 11 号土坑	南から		I 区 27 号土坑上層断面	南から
	HK 11 号土坑上層断面	北から		I 区 28 号土坑	東から
PL.33	HK 12 号土坑	北西から		I 区 30 号土坑	北東から
	HK 12 号土坑上層断面	東から		I 区 30 号土坑上層断面	南から
	HK 13 号土坑	東から	PL.40	J 区 38 号土坑	南西から
	HK 13 号土坑上層断面	北から		J 区 38 号土坑上層断面	北東から
	HK 14 号土坑	南から		J 区 44 号土坑	北東から
	HK 14 号土坑上層断面	東から		J 区 54 号土坑	北東から
	HK 15 号・16 号土坑	西から		J 区 54 号土坑上層断面	北から
HK 15 号土坑上層断面	西から	J 区 107 号土坑		東から	
HK 17 号土坑	北西から	J 区 108 号土坑		北西から	
PL.34	HK 17 号土坑上層断面	南東から		J 区 109 号土坑	北から
	HK 18 号土坑	南東から	弥生時代		
	HK 18 号土坑上層断面	東から	PL.41	J 区 1 号竪穴建物	北西から
	HK 19 号土坑	西から		J 区 1 号竪穴建物遺物出土状態	北東から
	HK 19 号土坑上層断面	東から		J 区 1 号竪穴建物上層断面	南東から
	HK 20 号土坑	南東から		J 区 1 号竪穴建物貯蔵穴	北東から
	HK 20 号土坑上層断面	南東から		J 区 1 号竪穴建物貯蔵穴上層断面	北から
HK 21 号土坑	南西から	J 区 1 号竪穴建物炉		南東から	
HK 21 号土坑上層断面	南東から	J 区 1 号竪穴建物掘方		北東から	
PL.35	HK 22 号土坑	南から		J 区 1 号竪穴建物掘方壁下小孔列	北東から
	HK 22 号土坑上層断面	南から	PL.42	J 区 5 号竪穴建物	南東から

PL NO.	キャプション	方向	PL NO.	キャプション	方向
	J区 5号竪穴建物	北西から		D区 3号竪穴建物カマド	西から
	J区 5号竪穴建物遺物出土状態	北西から		D区 3号竪穴建物カマド土層断面	南から
	J区 5号竪穴建物土層断面	南西から	PL.53	D区 3号竪穴建物カマド掘方	西から
	J区 5号竪穴建物H	北西から		D区 3号竪穴建物掘方	西から
	J区 5号竪穴建物H掘方	南から		D区 5号竪穴建物	南から
	J区 5号竪穴建物掘方	南東から		D区 5号竪穴建物遺物出土状態	南から
	J区 5号竪穴建物掘方	北西から		D区 5号竪穴建物コモ編石出土状態	南から
PL.43	J区 3号竪穴建物	西から		D区 5号竪穴建物土層断面	西から
	J区 3号竪穴建物炭化材・埴土検出状態	西から		D区 5号竪穴建物貯蔵穴	南から
	J区 3号竪穴建物遺物出土状態	北から		D区 5号竪穴建物貯蔵穴土層断面	南から
	J区 3号竪穴建物遺物出土状態	近接	PL.54	D区 5号竪穴建物カマド廃棄状態	南から
	J区 3号竪穴建物掘方	西から		D区 5号竪穴建物カマド	南から
	J区 9号竪穴建物	北西から		D区 5号竪穴建物カマド土層断面	西から
	J区 9号竪穴建物遺物出土状態	近接		D区 5号竪穴建物カマド掘方	南から
	J区 9号竪穴建物掘方	西から		D区 5号竪穴建物掘方	南から
PL.44	J区 17号竪穴建物	南東から		D区 6号竪穴建物	南から
	J区 17号竪穴建物	北東から		D区 6号竪穴建物遺物出土状態	南から
	J区 17号竪穴建物遺物出土状態	南東から		D区 6号竪穴建物遺物出土状態	南から
	J区 17号竪穴建物遺物出土状態	近接	PL.55	D区 6号竪穴建物遺物出土状態	西から
	J区 17号竪穴建物土層断面	北から		D区 6号竪穴建物土層断面	東から
PL.45	J区 17号竪穴建物貯蔵穴	南東から		D区 6号竪穴建物カマド	南から
	J区 17号竪穴建物貯蔵穴土層断面	南東から		D区 6号竪穴建物カマド	西から
	J区 17号竪穴建物種子穴	北西から		D区 6号竪穴建物カマド土層断面	東から
	J区 17号竪穴建物H	北西から		D区 6号竪穴建物カマド掘方	南から
	J区 17号竪穴建物H掘方	北東から		D区 6号竪穴建物掘方	南から
	J区 17号竪穴建物H掘方土層断面	北東から		D区 9号竪穴建物遺物出土状態	東から
	J区 17号竪穴建物掘方	南東から	PL.56	D区 9号竪穴建物	南から
	J区 17号竪穴建物掘方土層断面	北から		D区 9号竪穴建物土層断面	西から
	古墳時代～中世 全景			D区 9号竪穴建物種子穴	南から
PL.46	D区古墳時代以降面全景	垂直		D区 9号竪穴建物カマド	南から
	D区古墳時代以降面全景	北から		D区 9号竪穴建物カマド土層断面	東から
PL.47	D区古墳時代以降面全景	北東から	PL.57	D区 9号竪穴建物カマド土層断面	南から
	D区古墳時代以降面全景	南西から		D区 9号竪穴建物カマド掘方	南から
	E区古墳時代以降面全景	垂直		D区 9号竪穴建物掘方	南から
PL.48	E区古墳時代以降面全景	北東から		D区 9号竪穴建物掘方土層断面	西から
	E区古墳時代以降面全景	南西から		D区 11号竪穴建物	西から
	E-2区古墳時代以降面全景	南から		D区 11号竪穴建物遺物出土状態	西から
	F区古墳時代以降面全景	南から		D区 11号竪穴建物土層断面	北から
PL.49	F区古墳時代以降面全景	垂直		D区 11号竪穴建物カマド	西から
	H区古墳時代以降面全景	垂直	PL.58	D区 11号竪穴建物カマド土層断面	北から
PL.50	I区古墳時代以降面全景	垂直		D区 11号竪穴建物カマド掘方	西から
	H区古墳時代以降面全景	北東から		D区 11号竪穴建物掘方	西から
	I区古墳時代以降面全景	北東から		D区 12号竪穴建物(周堤帯掘方含む)	北から
PL.51	J区古墳時代以降面全景	垂直		D区 12号竪穴建物(周堤帯掘方含む)	南から
	J区古墳時代以降面全景	南西から		D区 12号竪穴建物(竪穴部分)	北から
	J区古墳時代以降面全景	垂直		D区 12号竪穴建物掘方	北から
	J区古墳時代以降面全景	西から		D区 14号竪穴建物	西から
	古墳時代		PL.59	D区 14号竪穴建物遺物出土状態	西から
PL.52	D区 3号竪穴建物	西から		D区 14号竪穴建物柱穴内観	西から
	D区 3号竪穴建物遺物出土状態	西から		D区 14号竪穴建物掘方	北から
	D区 3号竪穴建物土層断面	西から		D区 14号竪穴建物床下土坑断面	東から
	D区 3号竪穴建物貯蔵穴	西から		D区 15号竪穴建物	西から
	D区 3号竪穴建物貯蔵穴土層断面	西から		D区 15号竪穴建物	南から
	D区 3号竪穴建物カマド廃棄状態	西から		D区 15号竪穴建物貯蔵穴周辺遺物出土状態	西から

PL NO.	キャプション	方向	PL NO.	キャプション	方向
PL.60	DK 15 号整六建物貯蔵穴	東から	PL.68	F 区 2 号整六建物北辺カマド	南から
	DK 15 号整六建物カマド	西から		F 区 2 号整六建物北辺カマド上層断面	西から
	DK 15 号整六建物カマド	南から		F 区 2 号整六建物扉方	西から
	DK 15 号整六建物カマド扉方	西から		F 区 2 号整六建物扉方上層断面	西から
	DK 15 号整六建物扉方	南から		H 区 1 号整六建物	北から
PL.61	DK 16 号整六建物	西から	H 区 1 号整六建物上層断面	南から	
	DK 16 号整六建物遺物出土状態	西から	H 区 1 号整六建物扉方	北から	
	DK 16 号整六建物遺物出土状態	南から	H 区 1 号整六建物扉方上層断面	東から	
	DK 16 号整六建物遺物出土状態	西から	H 区 2 号整六建物	南西から	
	DK 16 号整六建物上層断面	西から	H 区 2 号整六建物上層断面	南東から	
PL.62	DK 16 号整六建物貯蔵穴	南から	PL.69	H 区 2 号整六建物貯蔵穴	南西から
	DK 16 号整六建物カマド	西から		H 区 2 号整六建物カマド廃棄状態	南西から
	DK 16 号整六建物カマド上層断面	南から		H 区 2 号整六建物カマド	南西から
	DK 16 号整六建物カマド扉方	西から		H 区 2 号整六建物カマド上層断面	南から
	DK 16 号整六建物扉方	西から		H 区 2 号整六建物カマド扉方	南西から
PL.63	DK 16 号整六建物上層断面	南から	PL.70	H 区 2 号整六建物扉方	南西から
	DK 17 号整六建物	南から		H 区 2 号整六建物床土上土	南西から
	DK 17 号整六建物	東から		H 区 2 号整六建物床土上土上層断面	南西から
	DK 17 号整六建物遺物出土状態	東から		H 区 4 号整六建物	西から
	DK 17 号整六建物上層断面	東から		H 区 4 号整六建物遺物出土状態	西から
PL.64	DK 17 号整六建物カマド	南から	PL.71	H 区 4 号整六建物上層断面	南から
	DK 17 号整六建物カマド扉方	南から		H 区 4 号整六建物カマド	南から
	DK 17 号整六建物扉方	東から		H 区 4 号整六建物カマド扉方	南から
	E 区 2 号整六建物	北から		H 区 4 号整六建物扉方	南から
	E 区 2 号整六建物遺物出土状態	南から		H 区 4 号整六建物扉方上層断面	北西から
PL.65	E 区 2 号整六建物上層断面	東から	PL.72	H 区 4 号整六建物床土上土	東から
	E 区 2 号整六建物貯蔵穴上層断面	北から		H 区 6 号整六建物	東から
	E 区 2 号整六建物扉方	北から		H 区 6 号整六建物上層断面	東から
	E 区 2 号整六建物扉方	西から		H 区 6 号整六建物貯蔵穴	北西から
	E 区 5 号整六建物 (左は 6 号整六建物)	南から		H 区 6 号整六建物貯蔵穴上層断面	北西から
PL.66	E 区 5 号整六建物遺物出土状態	南から	PL.73	H 区 6 号整六建物北辺カマド	南西から
	E 区 5 号整六建物上層断面	南から		H 区 6 号整六建物北辺カマド上層断面	南から
	E 区 5 号整六建物カマド	南から		H 区 6 号整六建物北辺カマド扉方	南西から
	E 区 5 号整六建物カマド焚き口	東から		H 区 6 号整六建物東辺カマド	北西から
	E 区 5 号整六建物カマド上層断面	東から		H 区 6 号整六建物東辺カマド上層断面	西から
PL.67	E 区 5 号整六建物カマド扉方	南から	PL.74	H 区 6 号整六建物東辺カマド扉方	北西から
	E 区 5 号整六建物カマド上層断面	南から		H 区 6 号整六建物扉方	南東から
	E 区 5 号整六建物カマド	南から		H 区 6 号整六建物床土上土	北西から
	E 区 7 号整六建物	北から		I 区 1 号整六建物	南から
	E 区 7 号整六建物	西から		I 区 1 号整六建物遺物出土状態	南から
PL.68	E 区 7 号整六建物上層断面	西から	PL.75	I 区 1 号整六建物上層断面	西から
	E 区 7 号整六建物扉方	北から		I 区 1 号整六建物カマド	西から
	E 区 11 号整六建物	西から		I 区 1 号整六建物カマド上層断面	南から
	E 区 11 号整六建物上層断面	西から		I 区 1 号整六建物カマド扉方	西から
	E 区 11 号整六建物扉方	西から		I 区 1 号整六建物扉方	西から
PL.69	E 区 11 号整六建物	西から	PL.76	I 区 1 号整六建物上層断面	南から
	E 区 11 号整六建物上層断面	西から		I 区 1 号整六建物扉方	南から
	E 区 11 号整六建物扉方	西から		I 区 1 号整六建物上層断面	南から
	E 区 11 号整六建物床土上土	北から		I 区 1 号整六建物床土上土	東から
	F 区 2 号整六建物	西から		I 区 6 号整六建物	北西から
PL.70	F 区 2 号整六建物	南から	PL.77	I 区 6 号整六建物遺物出土状態	西から
	F 区 2 号整六建物遺物出土状態	南から		I 区 6 号整六建物扉方	北西から
	F 区 2 号整六建物遺物出土状態	西から		I 区 6 号整六建物上層断面	北西から
	F 区 2 号整六建物上層断面	南から		J 区 11 号整六建物	南西から
	F 区 2 号整六建物東辺カマド	西から		J 区 11 号整六建物炭灰化材等検出状態	北西から
PL.71	F 区 2 号整六建物東辺カマド	北から	PL.78	J 区 11 号整六建物炭灰化材等検出状態	南西から
	F 区 2 号整六建物東辺カマド上層断面	北から		J 区 11 号整六建物東層断面	北西から
	F 区 2 号整六建物東辺カマド	西から			
	F 区 2 号整六建物東辺カマド	西から			
	F 区 2 号整六建物東辺カマド	西から			

PL NO.	キャプション	方向	PL NO.	キャプション	方向
PL.76	J区 11号竪穴建物貯蔵穴	南西から	PL.82	D区 7号竪穴建物カマド	西から
	J区 11号竪穴建物貯蔵穴上層断面	南西から		D区 7号竪穴建物掘方	北から
	J区 11号竪穴建物カマド	南西から		D区 8号竪穴建物	西から
	J区 11号竪穴建物カマドソデ補強の礎	南西から		D区 8号竪穴建物遺物出土状態	西から
	J区 11号竪穴建物カマド掘方	南西から		D区 8号竪穴建物U字状掘出し土状態	北から
	J区 11号竪穴建物掘方	南西から		D区 8号竪穴建物上層断面	南から
	J区 14号竪穴建物	北から		D区 8号竪穴建物掘方	西から
	J区 14号竪穴建物	北から		D区 10号竪穴建物	北から
	J区 14号竪穴建物上層断面	北東から		D区 10号竪穴建物	南から
	J区 14号竪穴建物掘方	北から		PL.83	D区 10号竪穴建物上層断面
PL.77	DK 1号祭祀	南から	D区 10号竪穴建物貯蔵穴上層断面	東から	
	DK 1号祭祀	東から	D区 10号竪穴建物掘方	北から	
	DK 1号祭祀	北から	D区 10号竪穴建物掘方	西から	
	DK 1号祭祀	近接	D区 13号竪穴建物	北から	
	DK 1号祭祀	近接	D区 13号竪穴建物上層断面	西から	
	DK 4号土坑	東から	D区 18号竪穴建物遺物出土状態	西から	
	DK 4号土坑上層断面	西から	D区 18号竪穴建物遺物出土状態	南から	
	EK 40号土坑	南西から	PL.84	D区 18号竪穴建物	西から
	EK 40号土坑上層断面	西から	D区 18号竪穴建物上層断面	南から	
	EK 40号土坑遺物出土状態	近接	D区 18号竪穴建物焼上・鉄滓夜袋状態	西から	
PL.78	J区 5号土坑	北西から	D区 18号竪穴建物貯蔵穴	西から	
	J区 106号土坑	東から	D区 18号竪穴建物カマド	西から	
	飛鳥・奈良・平安時代		PL.85	D区 18号竪穴建物カマド掘方	西から
	CK 14号竪穴建物	西から	D区 18号竪穴建物掘方	西から	
	CK 14号竪穴建物	南から	D区 18号竪穴建物床下土坑上層断面	西から	
	CK 14号竪穴建物上層断面	西から	D区 19号竪穴建物	北から	
	CK 14号竪穴建物掘方	西から	D区 19号竪穴建物上層断面	北西から	
	DK 1号竪穴建物	西から	D区 19号竪穴建物掘方	北から	
	DK 1号竪穴建物遺物出土状態	西から	D区 20号竪穴建物	北から	
	DK 1号竪穴建物遺物出土状態	近接	D区 20号竪穴建物掘方	西から	
PL.79	DK 1号竪穴建物上層断面	西から	PL.86	E区 1号竪穴建物	西から
	DK 1号竪穴建物貯蔵穴	西から	E区 1号竪穴建物	北から	
	DK 1号竪穴建物柱穴P3上層断面	北から	E区 1号竪穴建物遺物出土状態	西から	
	DK 1号竪穴建物カマド	西から	E区 1号竪穴建物上層断面	西から	
	DK 1号竪穴建物カマド上層断面	南から	E区 1号竪穴建物貯蔵穴上層断面	西から	
	DK 1号竪穴建物カマド掘方	西から	E区 1号竪穴建物掘方	西から	
	DK 1号竪穴建物掘方	西から	E区 3号竪穴建物	西から	
	DK 1号竪穴建物床下土坑上層断面	北から	E区 3号竪穴建物遺物出土状態	西から	
	DK 1号竪穴建物床下土坑上層断面	西から	PL.87	E区 3号竪穴建物上層断面	西から
	DK 2号竪穴建物	西から	E区 3号竪穴建物カマド	西から	
PL.80	DK 2号竪穴建物	北から	E区 3号竪穴建物カマド天井部礫除去後	西から	
	DK 2号竪穴建物上層断面	西から	E区 3号竪穴建物カマド上層断面	西から	
	DK 2号竪穴建物焼上層検出状態	西から	E区 3号竪穴建物カマド掘方	西から	
	DK 2号竪穴建物掘方	北から	E区 3号竪穴建物掘方	西から	
	DK 2号竪穴建物床下土坑上層断面	北から	E区 4号竪穴建物	西から	
	DK 4号竪穴建物	西から	E区 4号竪穴建物遺物出土状態	北から	
	DK 4号竪穴建物上層断面	西から	PL.88	E区 4号竪穴建物上層断面	南から
	DK 4号竪穴建物カマド	西から	E区 4号竪穴建物カマド	西から	
	DK 4号竪穴建物カマド上層断面	南から	E区 4号竪穴建物カマド掘方	西から	
	DK 4号竪穴建物カマド掘方	西から	E区 4号竪穴建物掘方	西から	
PL.81	DK 4号竪穴建物掘方	西から	E区 6号竪穴建物	西から	
	DK 7号竪穴建物	北から	E区 6号竪穴建物	北から	
	DK 7号竪穴建物遺物出土状態	北から	E区 6号竪穴建物遺物出土状態	西から	
	DK 7号竪穴建物上層断面	南から	E区 6号竪穴建物遺物出土状態	北から	

PL NO.	キャプション	方向	PL NO.	キャプション	方向
PL.89	E区 6号型穴建物上層断面	東から	PL.96	H区 5号型穴建物カマドソデ補強壁	南西から
	E区 6号型穴建物カマド	西から		H区 5号型穴建物カマド	南西から
	E区 6号型穴建物カマド周辺遺物出土状態	西から		H区 5号型穴建物	南東から
	E区 6号型穴建物カマド	西から		H区 5号型穴建物床下土坑上層断面	東から
	E区 6号型穴建物	西から		H区 7号型穴建物	西から
	E区 6号型穴建物方上層断面	北から		H区 7号型穴建物上層断面	北東から
	E区 9号型穴建物	北から		H区 7号型穴建物カマド	南西から
	E区 9号型穴建物遺物出土状態	北から		H区 7号型穴建物カマド上層断面	南から
	E区 9号型穴建物上層断面	北から		H区 7号型穴建物カマド	西から
PL.90	E区 9号型穴建物	北から	PL.97	I区 2号型穴建物	南西から
	E区 9号型穴建物方	北から		I区 2号型穴建物遺物出土状態	南西から
	E区 10号型穴建物	東から		I区 2号型穴建物上層断面	南西から
	E区 10号型穴建物方	東から		I区 2号型穴建物方P 2	西から
	E区 10号型穴建物	南から		I区 2号型穴建物方P 4	西から
	E区 10号型穴建物上層断面	東から		I区 2号型穴建物カマド	西から
	E区 10号型穴建物方	東から		I区 2号型穴建物カマド上層断面	南から
	E区 12号型穴建物	東から		I区 2号型穴建物カマド	西から
	E区 12号型穴建物遺物出土状態	北東から		I区 2号型穴建物カマド上層断面	南から
PL.91	E区 12号型穴建物上層断面	北から	PL.98	I区 2号型穴建物カマド	西から
	E区 12号型穴建物カマド	東から		I区 2号型穴建物カマド方	西から
	E区 12号型穴建物カマド上層断面	北から		I区 2号型穴建物方	西から
	E区 12号型穴建物カマド方	東から		I区 2号型穴建物方上層断面	西から
	E区 12号型穴建物方	東から		I区 3号型穴建物	北から
	E区 13号型穴建物	南から		I区 3号型穴建物遺物出土状態	北から
	E区 13号型穴建物上層断面	西から		I区 3号型穴建物上層断面 (左6号型穴建物)	西から
	E区 13号型穴建物方	北から		I区 3号型穴建物方P 1	西から
	PL.92	F区 1号型穴建物		西から	PL.99
F区 1号型穴建物遺物出土状態		西から	I区 3号型穴建物床下土坑上層断面	南から	
F区 1号型穴建物上層断面		西から	I区 4号型穴建物	南西から	
F区 1号型穴建物カマド		西から	I区 4号型穴建物遺物出土状態	南西から	
F区 1号型穴建物カマド上層断面		南西から	I区 4号型穴建物上層断面	北西から	
F区 1号型穴建物カマドソデ補強壁		南西から	I区 4号型穴建物カマド	南西から	
F区 1号型穴建物カマド		西から	I区 4号型穴建物カマド上層断面	南から	
F区 1号型穴建物方		西から	I区 4号型穴建物カマド方	西から	
F区 1号型穴建物方上層断面		北から	I区 4号型穴建物方	西から	
PL.93	F区 1号型穴建物床下土坑上層断面	北から	PL.100	I区 4号型穴建物床下土坑上層断面	南東から
	G区 1号型穴建物	南から		I区 5号型穴建物	西から
	G区 1号型穴建物上層断面	西から		I区 5号型穴建物上層断面	西から
	G区 1号型穴建物方	北から		J区 2号型穴建物	西から
	G区 2号型穴建物	北から		J区 2号型穴建物	東から
	G区 2号型穴建物方	東から		J区 2号型穴建物上層断面	西から
	G区 2号型穴建物上層断面	南から		J区 2号型穴建物方	東から
	H区 3号型穴建物	南から		J区 2号型穴建物方上層断面	西から
	H区 3号型穴建物上層断面	東から		J区 2号型穴建物床下土坑上層断面	北東から
PL.94	H区 3号型穴建物上層断面	南から	PL.101	J区 4号型穴建物方	西から
	H区 3号型穴建物	南東から		J区 4号型穴建物方	南から
	H区 3号型穴建物礎柱穴	南から		J区 4号型穴建物方上層断面	西から
	H区 3号型穴建物礎柱穴	南から		J区 4号型穴建物方上層断面	北から
	H区 3号型穴建物階段	東から		J区 6号型穴建物	西から
	H区 3号型穴建物方	南から		J区 6号型穴建物遺物出土状態	西から
	H区 3号型穴建物方上層断面	南東から		J区 6号型穴建物上層断面	西から
	H区 5号型穴建物	南東から		J区 6号型穴建物方P 2	西から
	H区 5号型穴建物遺物出土状態	南東から		J区 6号型穴建物方P 5	西から
PL.95	H区 5号型穴建物上層断面	南から	PL.102	J区 6号型穴建物方P 2	西から
	H区 5号型穴建物カマド	南西から		J区 6号型穴建物方P 5	西から
	H区 5号型穴建物カマド	南西から		J区 6号型穴建物方P 5	西から
	H区 5号型穴建物カマド	南西から		J区 6号型穴建物方P 5	西から
	H区 5号型穴建物カマド上層断面	南から		J区 6号型穴建物カマド	西から

PL NO.	キャプション	方向	PL NO.	キャプション	方向	
PL.103	J区6号型穴建物カマド土層断面	西から	PL.110	F区1号掘立柱建物柱穴P7	北東から	
	J区6号型穴建物カマドソデ補強壁	西から		F区2号掘立柱建物	北から	
	J区6号型穴建物カマド側方	西から		F区2号掘立柱建物柱穴P1土層断面	東から	
	J区6号型穴建物側方	西から		F区2号掘立柱建物柱穴P10土層断面	西から	
	J区7号型穴建物	西から		F区2号掘立柱建物柱穴P11土層断面	西から	
	J区7号型穴建物遺物出土状態	東から		F区3号掘立柱建物	北から	
	J区7号型穴建物土層断面	北から		F区3号掘立柱建物柱穴P1土層断面	南から	
	J区7号型穴建物の蔵穴	西から		F区3号掘立柱建物柱穴P14	東から	
	J区7号型穴建物カマド	西から		F区3号掘立柱建物柱穴P2遺物出土状態	北から	
	J区7号型穴建物カマド側方	西から		D区2号工房	西から	
PL.104	J区7号型穴建物カマド側方	西から	D区2号工房	南から		
	J区7号型穴建物側方	西から	D区2号工房	北から		
	J区7号型穴建物側方土層断面	北から	D区2号工房土層断面	南から		
	J区8号型穴建物	西から	D区2号工房側方	北から		
	J区8号型穴建物土層断面	西から	D区2号工房側方	南から		
	J区8号型穴建物カマド	西から	F区1号工房	南から		
	J区8号型穴建物カマドソデ補強壁	西から	F区1号工房竈治炉	東から		
	J区8号型穴建物カマド側方	西から	F区1号工房竈治炉	北から		
	J区8号型穴建物側方	西から	F区1号工房遺物出土状態	東から		
	J区10号型穴建物	西から	PL.112	F区1号工房土層断面	東から	
J区10号型穴建物遺物出土状態	西から	F区1号工房側方		南から		
J区10号型穴建物土層断面	西から	F区1号探掘坑		南から		
J区10号型穴建物柱穴P1	北から	F区1号探掘坑		北から		
J区10号型穴建物柱穴P4	北から	F区1号探掘坑土層断面		北から		
J区10号型穴建物側方	西から	F区2号探掘坑		南から		
J区10号型穴建物側方土層断面	北から	F区2号探掘坑		北から		
J区10号型穴建物床下土坑	南から	F区2号探掘坑土層断面		北から		
J区12号型穴建物	西から	F区2号探掘坑遺物出土状態		西から		
J区12号型穴建物遺物出土状態	西から	F区2号探掘坑遺物出土状態		南から		
PL.106	J区12号型穴建物土層断面	南から	PL.113	D区2号土坑	西から	
	J区12号型穴建物の蔵穴	南から		D区3号土坑	東から	
	J区12号型穴建物カマド土層断面	西から		D区6号土坑	北から	
	J区12号型穴建物側方	西から		D区6号土坑土層断面	北から	
	J区13号型穴建物	西から		D区8号土坑	東から	
	J区13号型穴建物遺物出土状態	西から		D区8号土坑土層断面	東から	
	J区13号型穴建物土層断面	南東から		D区9号土坑	東から	
	J区13号型穴建物の蔵穴土層断面	南西から		D区36号土坑	東から	
	J区13号型穴建物カマド	西から		PL.114	E区5号土坑	西から
	J区13号型穴建物カマド土層断面	南から			E区6号土坑	東から
J区13号型穴建物カマド側方	西から	E区6号土坑	北東から			
J区13号型穴建物側方	西から	E区6号土坑遺物出土状態	南から			
J区13号型穴建物床下土坑	南から	E区9号土坑	西から			
J区13号型穴建物床下土坑土層断面	北から	E区10号土坑	北から			
J区15号型穴建物	西から	E区12号土坑	東から			
J区15号型穴建物構築材(炭化材)出土状態	西から	E区13号土坑	東から			
J区15号型穴建物構築材(炭化材)出土状態	北東から	PL.115	F区7号土坑		西から	
J区15号型穴建物土層断面	南西から		F区7号土坑土層断面		北西から	
J区15号型穴建物側方	南から		H区4号土坑	西から		
J区15号型穴建物床下土坑土層断面	西から		H区4号土坑炭検出状態	西から		
J区16号型穴建物(奥側はカクラン)	北西から		H区4号土坑土層断面	西から		
J区16号型穴建物土層断面	西から		H区37号土坑	南東から		
J区16号型穴建物側方	南西から		I区16号土坑	西から		
PL.109	F区1号掘立柱建物		西から	PL.116	I区16号土坑土層断面	西から
	F区1号掘立柱建物柱穴P2土層断面		南から		J区11号土坑	西から
	F区1号掘立柱建物柱穴P3土層断面		南から			

PL NO.	キャプション	方向	PL NO.	キャプション	方向
	J区 11号土坑上層断面	西から		G区 10号土坑	東から
	J区 17号土坑	西から		G区 10号土坑露出土状態・土層断面	北から
	J区 17号土坑上層断面	南から	PL123	H区 8号土坑	東から
	J区 22号土坑	西から		I区 8号土坑	北から
	J区 22号土坑上層断面	南から		I区 8号土坑上層断面	東から
	J区 23号土坑	南から		I区 9号土坑	東から
	J区 24号土坑	北西から		I区 9号土坑掘削工具痕	北東から
PL117	J区 24号土坑遺物出土状態	北から		I区 31号土坑底面遺物出土状態	南西から
	J区 24号土坑土層断面	西から		I区 31号土坑遺物出土状態	近接
	J区 37号土坑	南から		I区 31号土坑上層断面	南から
	J区 37号土坑上層断面	南から	PL124	J区 3号土坑確認面付近	北から
	J区 49号土坑	北西から		J区 3号土坑底面付近・土層断面	西から
	J区 49号土坑上層断面	西から		J区 3号土坑底面付近露出土状態	西から
	J区 55号土坑	北から		J区 4号土坑	西から
	J区 55号土坑上層断面	北から		J区 4号土坑上層断面	北から
中世以降				J区 6号土坑	東から
PL118	H区 1号掘立柱建物	東から		J区 6号土坑露出土状態	北東から
	H区 2号掘立柱建物	西から		J区 7号土坑	西から
	I区 1号掘立柱建物	西から	PL125	J区 8号・9号土坑	北から
	E区 1号探掘坑 (2005年度調査区)	南から		J区 8号土坑上層断面	西から
	E区 1号探掘坑 (2006年度調査区)	南から		J区 9号土坑上層断面	北から
	E区 1号探掘坑 (2006年度調査区)	東から		J区 10号土坑確認面付近	北から
	E区 1号探掘坑 (E-2区調査分)	東から		J区 10号土坑底面付近	北から
	E区 1号探掘坑 (E-2区調査分)	南東から		J区 10号土坑底面付近露出土状態	北から
PL119	J区 1号探掘坑	南東から		J区 13号土坑	東から
	J区 1号探掘坑	南西から		J区 13号土坑上層断面・露出土状態	南から
	J区 1号探掘坑遺物出土状態	南から	PL126	J区 15号土坑	北から
	J区 1号探掘坑遺物出土状態	西から		J区 15号土坑上層断面	南西から
	J区 2号探掘坑	南から		J区 19号土坑	西から
	J区 2号探掘坑	東から		J区 19号土坑上層断面	南から
	J区 2号探掘坑	西から		J区 20号土坑	北から
	J区 2号探掘坑上層断面 (部分)	東から		J区 21号土坑 (手前の土坑)	北から
PL120	DK 1号土坑	南から		J区 21号土坑上層断面	南から
	DK 1号土坑上層断面	北から		J区 25号土坑	北から
	DK 7号土坑	西から	PL127	J区 25号土坑露出土状態	西から
	DK 33号土坑	北から		J区 50号土坑	北西から
	E区 1号土坑	西から		J区 50号土坑上層断面	西から
	E区 1号土坑露出土状態	西から		J区 59号土坑	東から
	E区 1号土坑上層断面	東から		J区 60号土坑	西から
	E区 3号土坑	北から		J区 60号土坑上層断面	西から
PL121	E区 3号土坑露出土状態	北から		J区 61号土坑	南から
	E区 3号土坑上層断面	西から		J区 61号土坑上層断面	南から
	E区 4号土坑	北から	PL128	J区 65号土坑	北から
	F区 3号土坑	北から		J区 66号土坑	西から
	F区 3号土坑遺物出土状態	東から		J区 67号土坑	西から
	G区 1号土坑	西から		J区 76号土坑	北から
	G区 1号土坑上層断面	南から		J区 76号土坑上層断面	北から
	G区 2号土坑	西から		J区 78号土坑	東から
PL122	G区 2号土坑上層断面	南から		J区 78号土坑上層断面	西から
	G区 3号土坑	西から		J区 90号土坑	南から
	G区 3号土坑露出土状態	西から	PL129	J区 90号土坑上層断面	南から
	G区 4号土坑	南から		J区 92号土坑	北から
	G区 4号土坑遺物・露出土状態	北から		J区 92号土坑上層断面	南から
	G区 8号土坑	南から		J区 97号土坑	東から

PL NO.	キャプション	方向	PL NO.	キャプション	方向
	J区 97号土坑上層断面	南東から		E区 2号竪穴建物出土遺物	
	J区 98号土坑	東から		E区 5号竪穴建物出土遺物	
	J区 98号土坑露出上状態	東から		E区 11号竪穴建物出土遺物	
	J区 98号土坑上層断面	南東から		F区 2号竪穴建物出土遺物	
PL.130	HK 1号室	北から		H区 1号竪穴建物出土遺物	
	HK 1号室	西から		H区 4号竪穴建物出土遺物	
	HK 1号室上層断面	西から	PL.149	H区 4号竪穴建物出土遺物	
	HK 1号室上層断面	東から		H区 6号竪穴建物出土遺物	
	HK 1号室奥壁石積状態	南から		I区 1号竪穴建物出土遺物	
	HK 1号室入口箇所	北から		I区 6号竪穴建物出土遺物	
	HK 1号室掘方	北から		J区 11号竪穴建物出土遺物	
	HK 1号室掘方上層断面	東から		J区 14号竪穴建物出土遺物	
PL.131	E区 7号溝	南から	PL.150	D区 1号祭壇出土遺物	
	E区 7号溝	東南から	PL.151	D区 1号祭壇出土遺物	
	F区 4号溝	南から		D区 4号土坑出土遺物	
	F区 4号溝	南から		E区 40号土坑出土遺物	
	F区 4号溝上層断面	北から		J区 106号土坑出土遺物	
遺物				C区 14号竪穴建物出土遺物	
PL.132	D区旧石器出土遺物			D区 1号竪穴建物出土遺物	
	H・I区旧石器出土遺物		PL.152	D区 1号竪穴建物出土遺物	
PL.133	H・I区旧石器出土遺物		PL.153	D区 1号竪穴建物出土遺物	
	G区 11号土坑出土遺物			D区 2号竪穴建物出土遺物	
	HK 28号土坑出土遺物			D区 4号竪穴建物出土遺物	
	HK 33号土坑出土遺物		PL.154	D区 4号竪穴建物出土遺物	
	I区 25号土坑出土遺物			D区 7号竪穴建物出土遺物	
	I区 27号土坑出土遺物			D区 8号竪穴建物出土遺物	
	縄文時代遺構外出土遺物			D区 10号竪穴建物出土遺物	
PL.134	縄文時代遺構外出土遺物			D区 13号竪穴建物出土遺物	
	J区 1号竪穴建物出土遺物			D区 18号竪穴建物出土遺物	
	J区 5号竪穴建物出土遺物		PL.155	D区 18号竪穴建物出土遺物	
	J区 17号竪穴建物出土遺物		PL.156	D区 18号竪穴建物出土遺物	
PL.135	J区 17号竪穴建物出土遺物		PL.157	D区 18号竪穴建物出土遺物	
	弥生時代遺構外出土遺物		PL.158	D区 18号竪穴建物出土遺物	
	DK 3号竪穴建物出土遺物			E区 1号竪穴建物出土遺物	
PL.136	DK 3号竪穴建物出土遺物			E区 3号竪穴建物出土遺物	
PL.137	DK 3号竪穴建物出土遺物			E区 4号竪穴建物出土遺物	
PL.138	DK 5号竪穴建物出土遺物		PL.159	E区 4号竪穴建物出土遺物	
PL.139	DK 5号竪穴建物出土遺物			E区 6号竪穴建物出土遺物	
PL.140	DK 5号竪穴建物出土遺物			E区 12号竪穴建物出土遺物	
	DK 6号竪穴建物出土遺物			E区 13号竪穴建物出土遺物	
	DK 9号竪穴建物出土遺物		PL.160	E区 9号竪穴建物出土遺物	
PL.141	DK 9号竪穴建物出土遺物			F区 1号竪穴建物出土遺物	
PL.142	DK 9号竪穴建物出土遺物		PL.161	F区 1号竪穴建物出土遺物	
	DK 11号竪穴建物出土遺物			G区 2号竪穴建物出土遺物	
PL.143	DK 11号竪穴建物出土遺物			H区 5号竪穴建物出土遺物	
PL.144	DK 11号竪穴建物出土遺物			I区 2号竪穴建物出土遺物	
	DK 12号竪穴建物出土遺物		PL.162	I区 2号竪穴建物出土遺物	
	DK 14号竪穴建物出土遺物			I区 3号竪穴建物出土遺物	
PL.145	DK 15号竪穴建物出土遺物			I区 4号竪穴建物出土遺物	
PL.146	DK 15号竪穴建物出土遺物			J区 2号竪穴建物出土遺物	
	DK 16号竪穴建物出土遺物			J区 4号竪穴建物出土遺物	
PL.147	DK 16号竪穴建物出土遺物			J区 6号竪穴建物出土遺物	
	DK 17号竪穴建物出土遺物		PL.163	J区 6号竪穴建物出土遺物	
PL.148	DK 17号竪穴建物出土遺物			J区 7号竪穴建物出土遺物	

PL NO.	キャプション	方向	PL NO.	キャプション	方向
	J区8号型穴建物出土遺物			J区2号探掘坑出土遺物	
PL.164	J区8号型穴建物出土遺物			E区37号土坑出土遺物	
	J区10号型穴建物出土遺物		PL.171	E区37号土坑出土遺物	
PL.165	J区12号型穴建物出土遺物			E区3号土坑出土遺物	
	J区13号型穴建物出土遺物			F区3号土坑出土遺物	
	J区15号型穴建物出土遺物		PL.172	F区10号土坑出土遺物	
PL.166	J区15号型穴建物出土遺物			G区4号・10号土坑出土遺物	
	F区3号掘立柱建物出土遺物			I区3号・5号土坑出土遺物	
	D区2号工房出土遺物			I区31号土坑出土遺物	
PL.167	D区2号工房出土遺物		PL.173	J区10号・25号・47号・65号・94号・98号・ 104号土坑出土遺物	
PL.168	F区1号工房出土遺物			H区1号室出土遺物	
	F区2号探掘坑出土遺物		PL.174	H区1号室出土遺物	
	F区3号探掘坑出土遺物		PL.175	H区1号室出土遺物	
	E区6号・7号・9号・10号土坑出土遺物			F区1号溝出土遺物	
	F区7号土坑出土遺物			G区4号溝出土遺物	
PL.169	H区37号・38号土坑出土遺物			H区1号溝出土遺物	
	J区22号土坑出土遺物			I区4号溝出土遺物	
	J区24号土坑出土遺物			中世以降遺構外出土遺物	
	飛鳥・奈良・平安時代遺構外出土遺物		PL.176	中世以降遺構外出土遺物	
PL.170	E区1号探掘坑出土遺物				
	J区1号探掘坑出土遺物				



道跡地遠景 西から



道跡地遠景 南から

PL.2



遺跡地近景 南から



周辺遺跡 生品西浦遺跡



周辺遺跡 西川原古墳群B区全景



周辺遺跡 生品前原遺跡の現存する古墳



基本的な層序 180-004 西から



基本的な層序 513-713 西から



D区旧石器調査全景 西から



D区旧石器調査全景 北東から

PL.4



D区旧石器出土状態 北から



D区旧石器出土状態 北から



D区旧石器出土状態 北から



D区旧石器出土状態 近接



D区旧石器出土状態 近接



D区旧石器出土状態 近接



D区旧石器出土状態 近接



D区旧石器出土状態 近接



H・I区旧石器調査全景 北東から



H・I区旧石器調査全景 北東から



H区旧石器出土状態 北から



I区旧石器出土状態 南から



I区旧石器出土状態 南から



I区旧石器出土状態 南から



J区旧石器出土試掘坑



J区旧石器出土状態



D区縄文時代～弥生時代面全景 南から



D区縄文時代～弥生時代面全景 北から



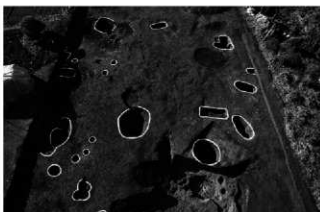
E区縄文時代～弥生時代面全景 南から



F区縄文時代～弥生時代面全景 北東から



H区縄文時代～弥生時代面全景 北東から



I区縄文時代～弥生時代面全景 北東から



D区 41号土坑 北から



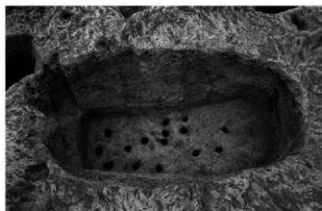
D区 42号土坑 南から



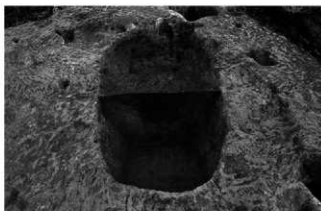
D区 43号土坑 南から



D区 43号土坑土層断面 東から



D区 44号土坑 北から



D区 44号土坑土層断面 西から



D区 45号土坑 南から



D区 45号土坑土層断面 西から



D区 46号土坑 北から



D区 46号土坑土層断面 西から



D区 47号・49号土坑 南から



D区 47号土坑 西から



D区 47号土坑土層断面 東から



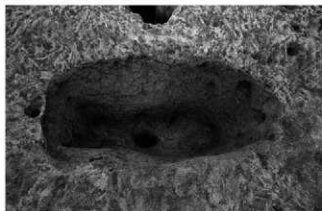
D区 49号土坑土層断面 東から



D区 48号土坑 北から



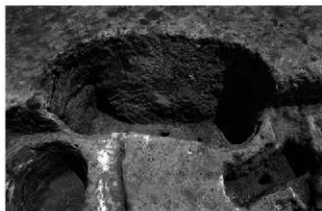
D区 48号土坑土層断面 東から



D区 50号土坑 北から



D区 50号土坑土層断面 西から



D区 51号土坑 南から



D区 51号土坑 西から



D区 52号土坑 北から



D区 52号土坑土層断面 東から



D区 53号土坑 西から



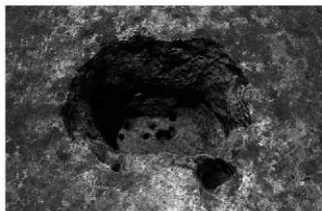
D区 53号土坑土層断面 北から



D区 54号土坑 北から



D区 54号土坑土層断面 東から



D区 55号土坑 北から



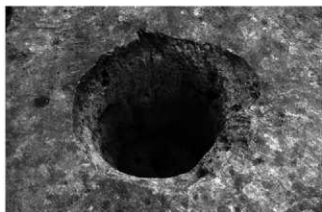
D区 55号土坑土層断面 東から



D区 56号土坑 西から



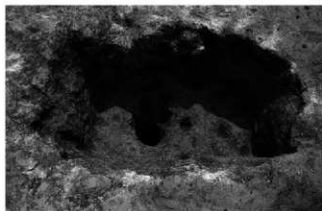
D区 56号土坑土層断面 北から



D区 57号土坑 北から



D区 57号土坑土層断面 西から



D区 58号土坑 北から



D区 58号土坑土層断面 西から



D区 59号土坑 南から



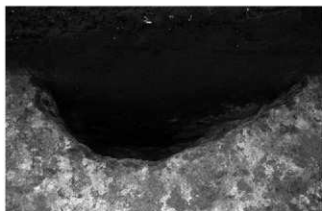
D区 59号土坑土層断面 西から



D区 60号土坑 北から



D区 60号土坑土層断面 東から



D区 61号土坑 東から



D区 62号土坑 北から



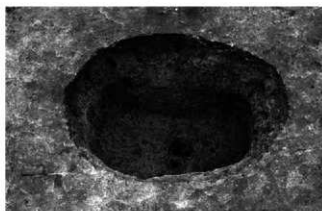
D区 62号土坑 西から



D区 63号土坑 北から



D区 63号土坑 西から



D区 64号土坑 北から



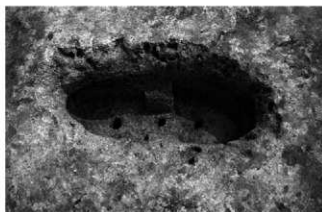
D区 64号土坑土層断面 東から



D区 65号土坑 北から



D区 65号土坑 東から



D区 66号土坑 南から



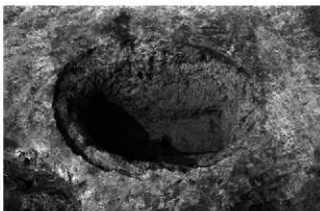
D区 66号土坑土層断面 東から



D区 67号土坑 北から



D区 67号土坑土層断面 東から



D区 68号土坑 北から



D区 68号土坑土層断面 東から



D区 69号土坑 南から



D区 69号土坑土層断面 西から



D区 70号土坑 北から

PL.14



D区70号土坑土層断面 東から



D区71号土坑 北から



D区71号土坑土層断面 東から



D区72号土坑 東から



D区73号土坑 北から



D区73号土坑土層断面 東から



D区74号土坑 北から



D区74号土坑土層断面 南から



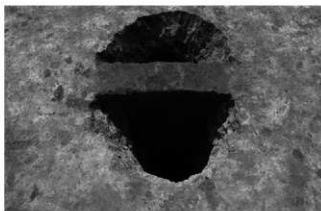
D区 75号土坑 東から



D区 75号土坑土層断面 南から



D区 76号土坑 北から



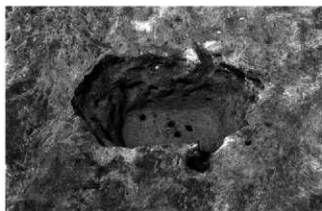
D区 76号土坑土層断面 西から



D区 77号土坑 南から



D区 77号土坑土層断面 東から



D区 78号土坑 北から



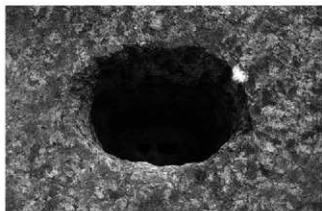
D区 78号土坑土層断面 西から



D区 79号土坑 北から



D区 79号土坑土層断面 東から



D区 80号土坑 北から



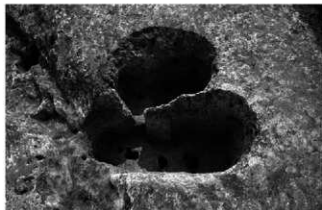
D区 80号土坑土層断面 東から



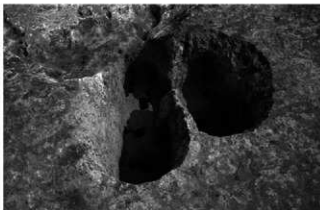
D区 81号土坑 北から



D区 81号土坑土層断面 西から



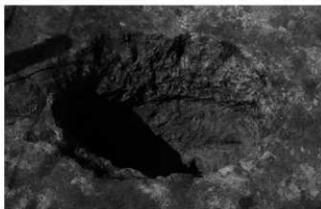
D区 82号・83号土坑 東から



D区 82号・83号土坑 北から



D区 82号・83号土坑土層断面 南から



D区 84号土坑 北から



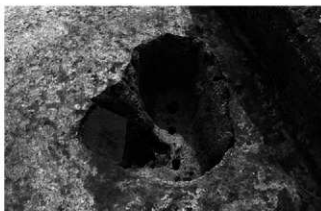
D区 84号土坑土層断面 西から



D区 85号土坑 北から



D区 85号土坑土層断面 東から



D区 86号土坑(右75号土坑) 北から



D区 86号土坑 西から



D区 87号土坑 北から



D区 87号土坑土層断面 西から



D区 88号土坑 北から



D区 88号土坑土層断面 東から



D区 89号土坑 東から



D区 89号土坑土層断面 南から



D区 90号土坑 北から



D区 90号土坑土層断面 西から



D区 91号土坑 北から



D区 91号土坑土層断面 東から



D区 92号土坑 北から



D区 92号土坑土層断面 西から



D区 93号土坑 南から



D区 93号土坑土層断面 西から



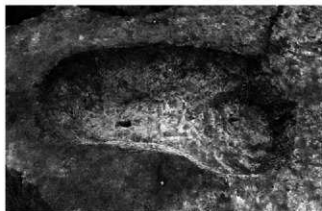
D区 94号土坑 南から



D区 95号土坑 北から



D区 95号土坑土層断面 北から



D区 96号土坑 北から



D区 96号土坑土層断面 東から



D区 99号土坑 北から



D区 99号土坑土層断面 東から



D区 100号土坑 北から



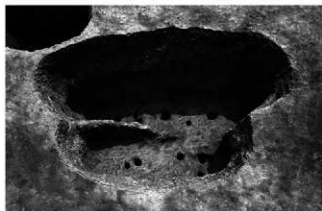
D区 100号土坑土層断面 西から



D区 101号土坑 北から



D区 101号土坑土層断面 東から



D区 102号・103号土坑 北から



D区 102号・103号土坑土層断面 東から



D区 104号土坑 北から



D区 104号土坑土層断面 東から



D区 105号土坑 北から



D区 105号土坑土層断面 東から



D区 106号土坑 北から



D区 106号土坑 東から



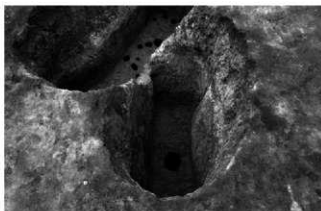
D区 107号土坑 北から



D区 107号土坑 東から



D区 108号土坑 北から



D区 108号土坑 東から



D区 109号土坑 南から



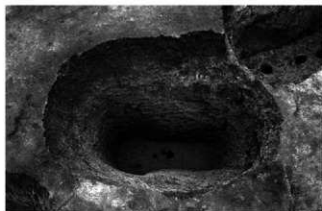
D区 109号土坑 東から



D区 110号土坑 北から



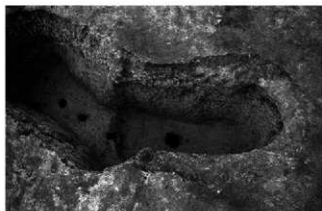
D区 110号土坑土層断面 西から



D区 111号土坑 北から



D区 111号土坑土層断面 東から



D区 112号土坑 北から



D区 112号土坑土層断面 西から



D区 113号土坑 北から



D区 113号土坑 東から



D区 114号土坑 北から



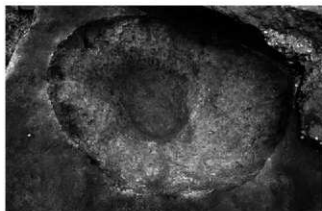
D区 114号土坑 東から



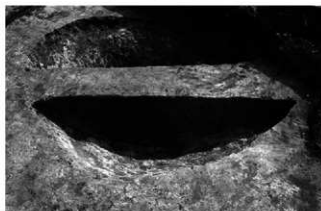
D区 115号土坑 北から



D区 115号土坑 東から



D区 116号土坑 東から



D区 116号土坑土層断面 北から



D区 117号土坑 北から



D区 117号土坑 東から



D区 117号土坑土層断面 西から



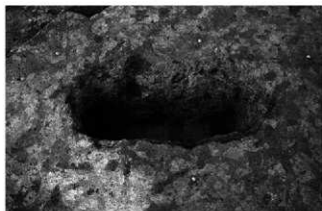
D区 119号土坑 東から



D区 120号土坑 東から



D区 121号土坑 東から



E区 21号土坑 東から



E区 21号土坑 北から



E区 22号土坑 南から



E区 22号土坑 東から



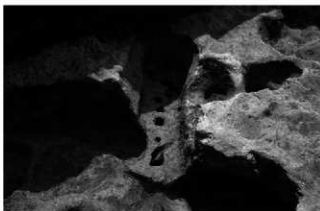
E区 24号土坑 西から



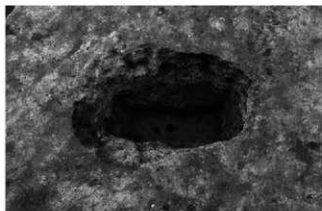
E区 24号土坑土層断面 東から



E区 25号土坑 東から



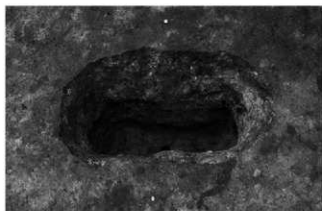
E区 25号土坑 北から



E区 26号土坑 東から



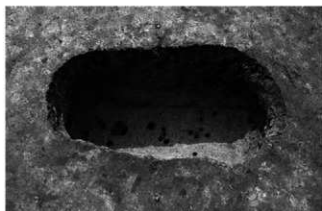
E区 26号土坑 北から



E区 27号土坑 東から



E区 27号土坑 北から



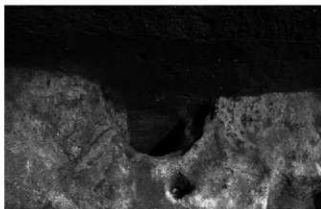
E区 28号土坑 西から



E区 28号土坑 北から



E区 29号土坑 東から



E区 30号土坑 西から



F区 1号土坑 東から



F区 1号土坑土層断面 北から



F区 16号土坑 東から



F区 16号土坑土層断面 北から



F区 24号土坑 南から



F区 24号土坑土層断面 東から



F区 25号土坑 北から



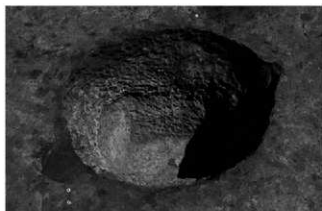
F区 25号土坑土層断面 東から



F区 26号土坑 南から



F区 26号土坑土層断面 南から



F区 27号土坑 南西から



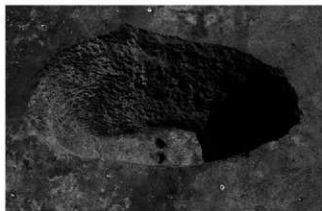
F区 27号土坑土層断面 南から



F区 28号土坑 南から



F区 28号土坑土層断面 東から



F区 29号土坑 南から



F区 29号土坑土層断面 南西から



F区 34号土坑 北から



F区 34号土坑土層断面 北から



F区 35号土坑 東から



F区 35号土坑土層断面 西から



F区 36号土坑 南から



F区 36号土坑土層断面 東から



F区 39号土坑 南西から



F区 39号土坑土層断面 西から



F区 40号土坑 南東から



F区 40号土坑土層断面 東から



F区 41号土坑 北東から



F区 41号土坑土層断面 北から



F区 42号土坑 東から



F区 42号土坑土層断面 東から



F区 43号土坑 北西から



F区 43号土坑土層断面 東から



F区 44号土坑 西から



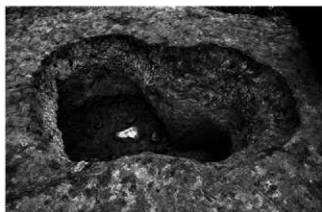
F区 44号土坑土層断面 西から



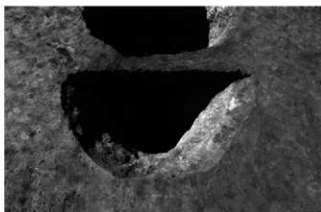
G区 11号土坑 北東から



G区 11号土坑土層断面 東から



G区 12号土坑 南から



G区 12号土坑土層断面 東から



G区 13号土坑 北から



G区 13号土坑 東から



G区 14号土坑 南から



G区 14号土坑土層断面 西から



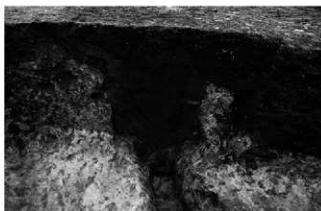
G区 16号土坑 南から



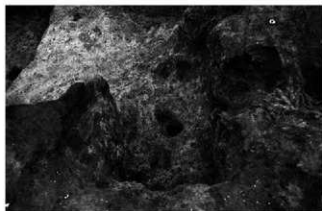
G区 16号土坑 西から



H区 11号土坑 南から



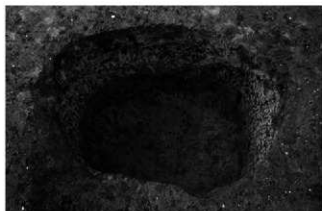
H区 11号土坑土層断面 北から



H区 12号土坑 北西から



H区 12号土坑土層断面 東から



H区 13号土坑 東から



H区 13号土坑土層断面 北から



H区 14号土坑 南から



H区 14号土坑土層断面 東から



H区 15号・16号土坑 西から



H区 15号土坑土層断面 西から



H区 17号土坑 北西から



H区 17号土坑土層断面 南東から



H区 18号土坑 南東から



H区 18号土坑土層断面 東から



H区 19号土坑 西から



H区 19号土坑土層断面 東から



H区 20号土坑 南東から



H区 20号土坑土層断面 南東から



H区 21号土坑 南西から



H区 21号土坑土層断面 南東から



H区 22号土坑 南から



H区 22号土坑土層断面 南から



H区 23号土坑 南東から



H区 23号土坑土層断面 南東から



H区 24号土坑 南から



H区 24号土坑土層断面 南から



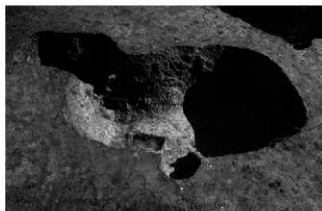
H区 25号土坑 東から



H区 28号土坑 北から



H区 29号土坑 南東から



H区 29号土坑 南西から



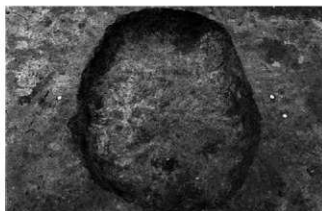
H区 30号土坑 北から



H区 30号土坑土層断面 南から



H区 31号土坑 西から



H区 33号土坑 東から



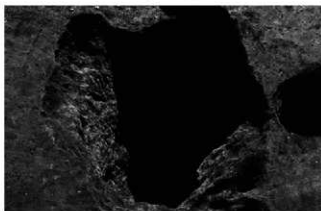
H区 33号土坑土層断面 東から



H区 34号土坑 南から



H区 34号土坑土層断面 北から



H区 35号土坑 西から



H区 36号土坑 北から



H区 36号土坑土層断面 北から



I区 3号土坑(左2号土坑) 南東から



I区 3号土坑土層断面 東から



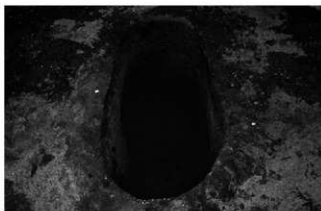
I区18号土坑 北西から



I区18号土坑土層断面 北西から



I区19号土坑土層断面 南東から



I区21号土坑土層断面 南東から



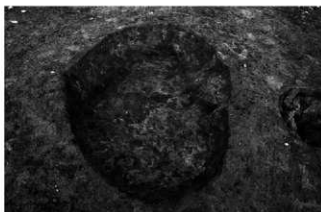
I区22号土坑 北から



I区22号土坑土層断面 南から



I区24号土坑 南から



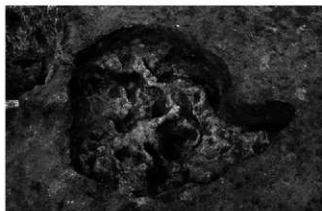
I区25号土坑 南から



I区 25号土坑遺物出土状態 南から



I区 25号土坑遺物出土状態 近接



I区 26号土坑 南から



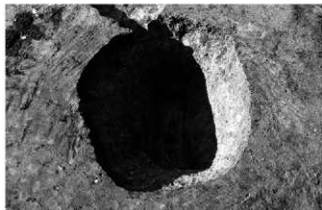
I区 27号土坑 南から



I区 27号土坑土層断面 南から



I区 28号土坑 東から



I区 30号土坑 北東から



I区 30号土坑土層断面 南から



J区 38号土坑 南西から



J区 38号土坑土層断面 北東から



J区 44号土坑 北東から



J区 54号土坑 北東から



J区 54号土坑土層断面 北から



J区 107号土坑 東から



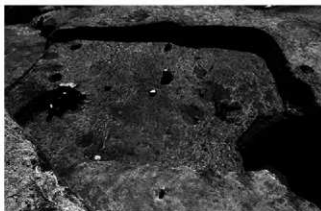
J区 108号土坑 北西から



J区 109号土坑 北から



J区1号竪穴建物 北西から



J区1号竪穴建物遺物出土状態 北東から



J区1号竪穴建物土層断面 南東から



J区1号竪穴建物貯蔵穴 北東から



J区1号竪穴建物貯蔵穴土層断面 北から



J区1号竪穴建物炉 南東から



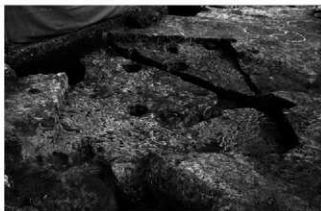
J区1号竪穴建物掘方 北東から



J区1号竪穴建物掘方壁下小孔列 北東から



J区5号竪穴建物 南東から



J区5号竪穴建物 北西から



J区5号竪穴建物遺物出土状態 北西から



J区5号竪穴建物土層断面 南西から



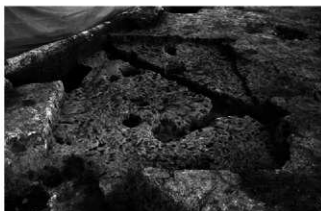
J区5号竪穴建物炉 北西から



J区5号竪穴建物炉掘方 南から



J区5号竪穴建物掘方 南東から



J区5号竪穴建物掘方 北西から



J区3号竪穴建物 西から



J区3号竪穴建物炭化材・焼土検出状態 西から



J区3号竪穴建物遺物出土状態 北から



J区3号竪穴建物遺物出土状態 近接



J区3号竪穴建物掘方 西から



J区9号竪穴建物 北西から



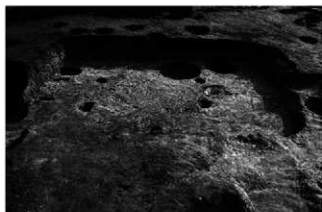
J区9号竪穴建物遺物出土状態 近接



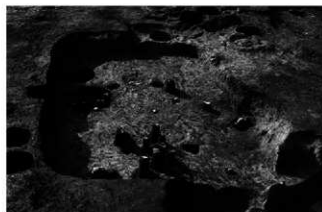
J区9号竪穴建物掘方 西から



J区17号竪穴建物 南東から



J区17号竪穴建物 北東から



J区17号竪穴建物遺物出土状態 南東から



J区17号竪穴建物遺物出土状態 近接



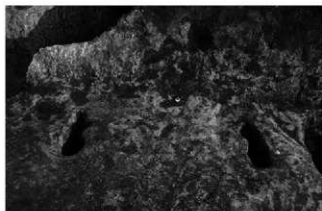
J区17号竪穴建物土層断面 北から



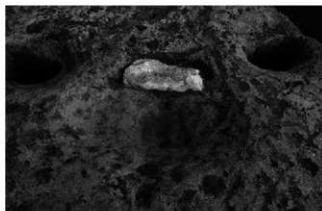
J区17号竪穴建物貯蔵穴 南東から



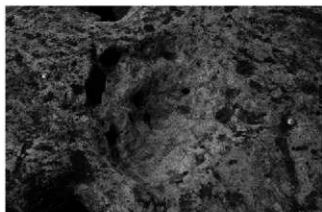
J区17号竪穴建物貯蔵穴土層断面 南東から



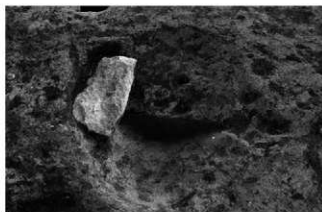
J区17号竪穴建物梯子穴 北西から



J区17号竪穴建物炉 北西から



J区17号竪穴建物炉掘方 北東から



J区17号竪穴建物炉掘方土層断面 北東から



J区17号竪穴建物掘方 南東から



J区17号竪穴建物掘方土層断面 北から



D区古墳時代以降面全景 垂直



D区古墳時代以降面全景 西から



D区古墳時代以降面全景 北東から



D区古墳時代以降面全景 南西から



E区古墳時代以降面全景 垂直



E区古墳時代以降面全景 北東から



E区古墳時代以降面全景 南西から



E-2区古墳時代以降面全景 南から



F区古墳時代以降面全景 南から



F区古墳時代以降面全景 垂直



H区古墳時代以降面全景 垂直



I区古墳時代以降面全景 垂直



H区古墳時代以降面全景 北東から



I区古墳時代以降面全景 北東から



J区古墳時代以降面全景 垂直



J区古墳時代以降面全景 南西から



J区古墳時代以降面全景 西から



J区古墳時代以降面全景 西から



D区3号竪穴建物 西から



D区3号竪穴建物遺物出土状態 西から



D区3号竪穴建物土層断面 西から



D区3号竪穴建物貯蔵穴 西から



D区3号竪穴建物貯蔵穴土層断面 西から



D区3号竪穴建物カマド廃棄状態 西から



D区3号竪穴建物カマド 西から



D区3号竪穴建物カマド土層断面 南から



D区3号竪穴建物カマド掘方 西から



D区3号竪穴建物掘方 西から



D区5号竪穴建物 南から



D区5号竪穴建物遺物出土状態 南から



D区5号竪穴建物コモ礫石出土状態 南から



D区5号竪穴建物土層断面 西から



D区5号竪穴建物貯蔵穴 南から



D区5号竪穴建物貯蔵穴土層断面 南から



D区5号竪穴建物カマド廃棄状態 南から



D区5号竪穴建物カマド 南から



D区5号竪穴建物カマド土層断面 西から



D区5号竪穴建物カマド掘方 南から



D区5号竪穴建物掘方 南から



D区6号竪穴建物 南から



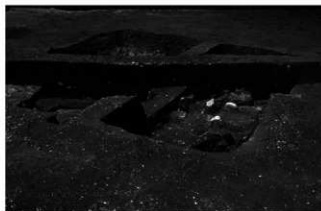
D区6号竪穴建物遺物出土状態 南から



D区6号竪穴建物遺物出土状態 南から



D区6号竪穴建物遺物出土状態 西から



D区6号竪穴建物土層断面 東から



D区6号竪穴建物カマド 南から



D区6号竪穴建物カマド 西から



D区6号竪穴建物カマド土層断面 東から



D区6号竪穴建物カマド掘方 南から



D区6号竪穴建物掘方 南から



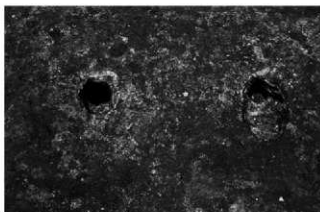
D区9号竪穴建物遺物出土状態 東から



D区9号竪穴建物 南から



D区9号竪穴建物土層断面 西から



D区9号竪穴建物梯子穴 南から



D区9号竪穴建物カマド 南から



D区9号竪穴建物カマド土層断面 東から



D区9号竪穴建物カマド土層断面 南から



D区9号竪穴建物カマド掘方 南から



D区9号竪穴建物掘方 南から



D区9号竪穴建物掘方土層断面 西から



D区11号竪穴建物 西から



D区11号竪穴建物遺物出土状態 西から



D区11号竪穴建物土層断面 北から



D区11号竪穴建物カマド 西から



D区11号竪穴建物カマド土層断面 北から



D区11号竪穴建物カマド掘方 西から



D区11号竪穴建物掘方 西から



D区12号竪穴建物(周堤帯掘方含む) 北から



D区12号竪穴建物(周堤帯掘方含む) 南から



D区12号竪穴建物(竪穴部分) 北から



D区12号竪穴建物掘方 北から



D区14号竪穴建物 西から



D区14号竪穴建物遺物出土状態 西から



D区14号竪穴建物柱穴内礎 西から



D区14号竪穴建物掘方 北から



D区14号竪穴建物床下土坑断面 東から



D区15号竪穴建物 西から



D区15号竪穴建物 南から



D区15号竪穴建物貯蔵穴周辺遺物出土状態 西から



D区15号竪穴建物貯蔵穴 東から



D区 15号竪穴建物カマド 西から



D区 15号竪穴建物カマド 南から



D区 15号竪穴建物カマド掘方 西から



D区 15号竪穴建物掘方 南から



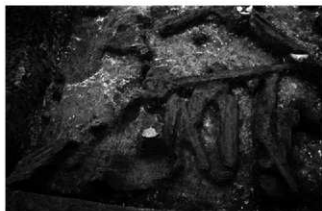
D区 16号竪穴建物 西から



D区16号竪穴建物遺物出土状態 西から



D区16号竪穴建物遺物出土状態 南から



D区16号竪穴建物遺物出土状態 西から



D区16号竪穴建物土層断面 西から



D区16号竪穴建物貯蔵穴 南から



D区16号竪穴建物カマド 西から



D区16号竪穴建物カマド土層断面 南から



D区16号竪穴建物カマド掘方 西から



D区16号竪穴建物掘方 西から



D区16号竪穴建物掘方土層断面 南から



D区17号竪穴建物 南から



D区17号竪穴建物 東から



D区17号竪穴建物遺物出土状態 東から



D区17号竪穴建物土層断面 東から



D区17号竪穴建物カマド 南から



D区17号竪穴建物カマド掘方 南から



D区17号竪穴建物掘方 南から



D区17号竪穴建物掘方 東から



E区2号竪穴建物 北から



E区2号竪穴建物遺物出土状態 南から



E区2号竪穴建物土層断面 東から



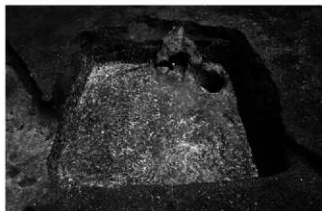
E区2号竪穴建物貯蔵穴土層断面 北から



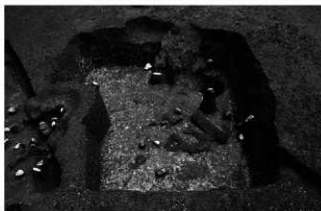
E区2号竪穴建物掘方 北から



E区2号竪穴建物掘方 西から



E区5号竪穴建物(左は6号竪穴建物) 南から



E区5号竪穴建物遺物出土状態 南から



E区5号竪穴建物土層断面 南から



E区5号竪穴建物カマド 南から



E区5号竪穴建物カマド焚き口 東から



E区5号竪穴建物カマド土層断面 東から



E区5号竪穴建物カマド掘方 南から



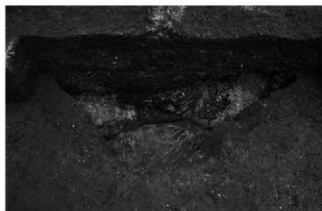
E区5号竪穴建物掘方 南から



E区7号竪穴建物 北から



E区7号竪穴建物 西から



E区7号竪穴建物土層断面 西から



E区7号竪穴建物掘方 北から



E区11号竪穴建物 西から



E区11号竪穴建物 西から



E区11号竪穴建物土層断面 西から



E区11号竪穴建物掘方 西から



E区11号竪穴建物床下土坑 北から



F区2号竪穴建物 西から



F区2号竪穴建物 南から



F区2号竪穴建物遺物出土状態 西から



F区2号竪穴建物土層断面 南から



F区2号竪穴建物東辺カマド 西から



F区2号竪穴建物東辺カマド土層断面 北から



F区2号竪穴建物東辺カマド掘方 西から



F区2号竪穴建物北辺カマド 南から



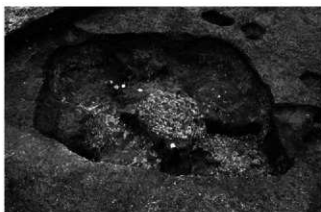
F区2号竪穴建物北辺カマド土層断面 西から



F区2号竪穴建物掘方 西から



F区2号竪穴建物掘方土層断面 西から



H区1号竪穴建物 北から



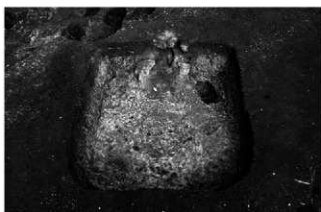
H区1号竪穴建物土層断面 南から



H区1号竪穴建物掘方 北から



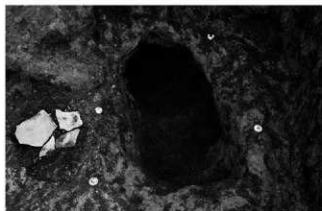
H区1号竪穴建物掘方土層断面 東から



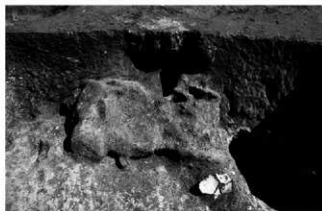
H区2号竪穴建物 南西から



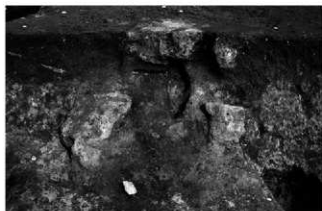
H区2号竪穴建物土層断面 南東から



H区2号竪穴建物貯蔵穴 南西から



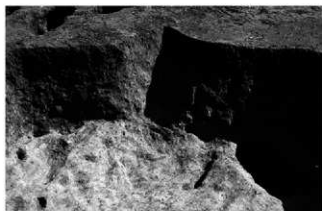
H区2号竪穴建物カマド廃棄状態 南西から



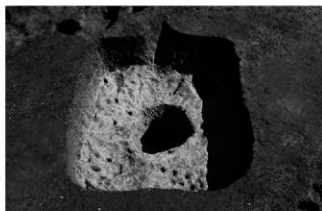
H区2号竪穴建物カマド 南西から



H区2号竪穴建物カマド土層断面 南から



H区2号竪穴建物カマド掘方 南西から



H区2号竪穴建物掘方 南西から



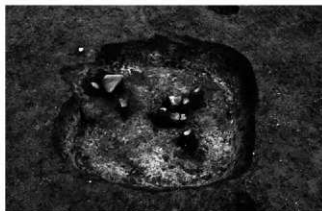
H区2号竪穴建物床下土坑 南西から



H区2号竪穴建物床下土坑土層断面 南西から



H区4号竪穴建物 西から



H区4号竪穴建物遺物出土状態 西から



H区4号竪穴建物土層断面 南から



H区4号竪穴建物カマド 南から



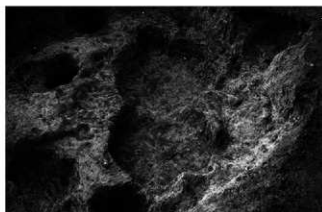
H区4号竪穴建物カマド掘方 南から



H区4号竪穴建物掘方 南から



H区4号竪穴建物掘方土層断面 北西から



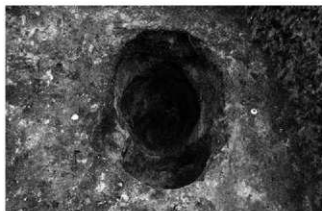
H区4号竪穴建物床下土坑 東から



H区6号竪穴建物 東から



H区6号竪穴建物土層断面 東から



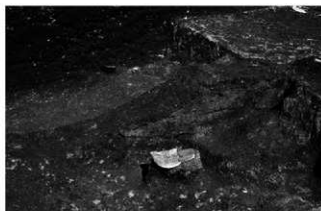
H区6号竪穴建物貯蔵穴 北西から



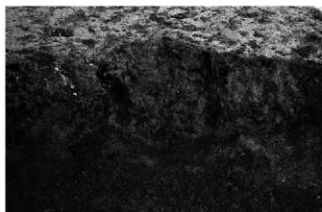
H区6号竪穴建物貯蔵穴土層断面 北西から



H区6号竪穴建物北辺カマド 南西から



H区6号竪穴建物北辺カマド土層断面 南から



H区6号竪穴建物北辺カマド掘方 南西から



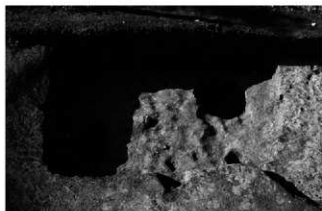
H区6号竪穴建物東辺カマド 北西から



H区6号竪穴建物東辺カマド土層断面 西から



H区6号竪穴建物東辺カマド掘方 北西から



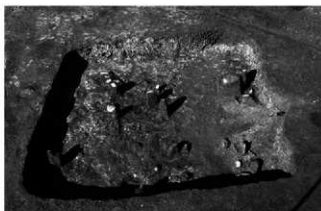
H区6号竪穴建物掘方 南東から



H区6号竪穴建物床下土坑 北西から



I区1号竪穴建物 南から



I区1号竪穴建物遺物出土状態 南から



I区1号竪穴建物土層断面 西から



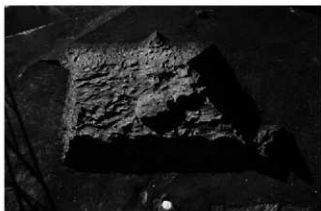
I区1号竪穴建物カマド 西から



I区1号竪穴建物カマド土層断面 南から



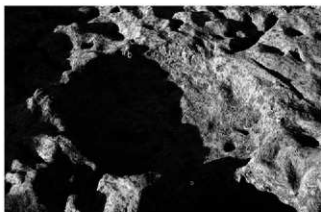
I区1号竪穴建物カマド掘方 西から



I区1号竪穴建物掘方 西から



I区1号竪穴建物掘方土層断面 南から



I区1号竪穴建物床下土坑 東から



I区6号竪穴建物 北西から



I区6号竪穴建物遺物出土状態 西から



I区6号竪穴建物掘方 北西から



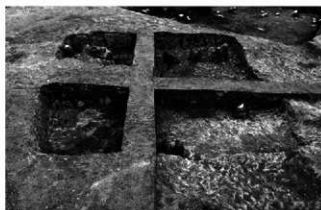
J区11号竪穴建物 南西から



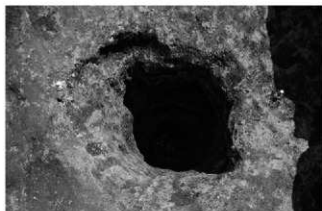
J区11号竪穴建物炭化材等検出状態 北西から



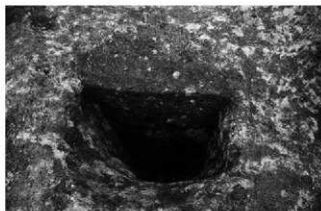
J区11号竪穴建物炭化材等検出状態 南西から



J区11号竪穴建物土層断面 北西から



J区11号竪穴建物貯蔵穴 南西から



J区11号竪穴建物貯蔵穴土層断面 南西から



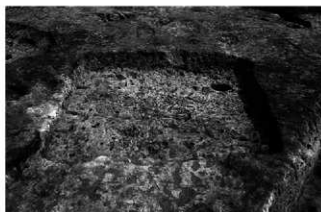
J区11号竪穴建物カマド 南西から



J区11号竪穴建物カマドソデ補強の礎 南西から



J区11号竪穴建物カマド細方 南西から



J区11号竪穴建物炬方 南西から



J区14号竪穴建物 北から



J区14号竪穴建物 西から



J区14号竪穴建物土層断面 北東から



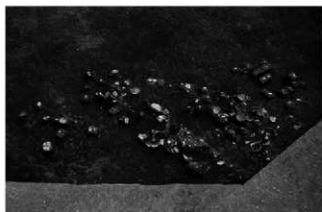
J区14号竪穴建物掘方 北から



D区1号祭祀 南から



D区1号祭祀 東から



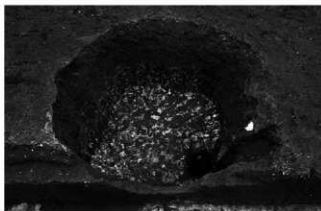
D区1号祭祀 北から



D区1号祭祀 近接



D区1号祭祀 近接



D区4号土坑 東から



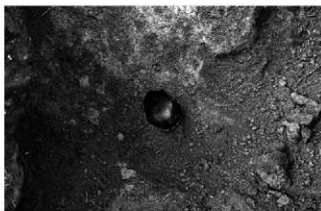
D区4号土坑土層断面 西から



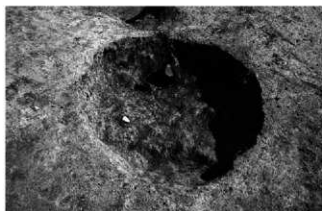
E区40号土坑 南西から



E区40号土坑土層断面 西から



E区40号土坑遺物出土状態 近接



J区5号土坑 北西から



J区106号土坑 東から



C区14号竪穴建物 西から



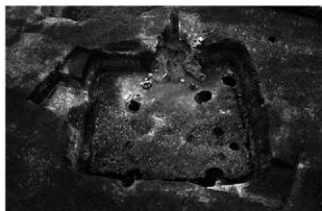
C区14号竪穴建物 南から



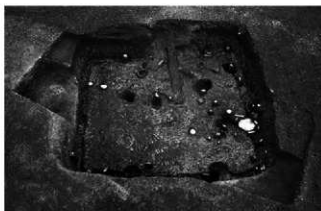
C区14号竪穴建物土層断面 西から



C区14号竪穴建物掘方 西から



D区1号竪穴建物 西から



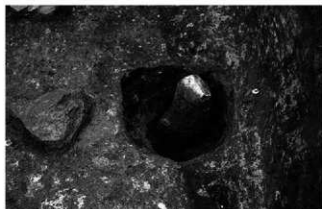
D区1号竪穴建物遺物出土状態 西から



D区1号竪穴建物遺物出土状態 近接



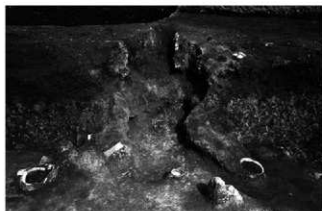
D区1号竪穴建物土層断面 西から



D区1号竪穴建物貯蔵穴 西から



D区1号竪穴建物柱穴P3土層断面 北から



D区1号竪穴建物カマド 西から



D区1号竪穴建物カマド土層断面 南から



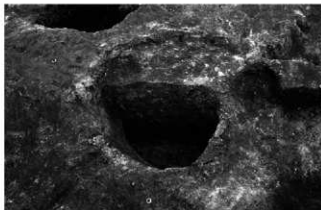
D区1号竪穴建物カマド掘方 西から



D区1号竪穴建物掘方 西から



D区1号竪穴建物床下土坑土層断面 北から



D区1号竪穴建物床下土坑土層断面 西から



D区2号竪穴建物 西から



D区2号竪穴建物 北から



D区2号竪穴建物土層断面 西から



D区2号竪穴建物坑土面検出状態 西から



D区2号竪穴建物掘方 北から



D区2号竪穴建物床下土坑土層断面 北から



D区4号竪穴建物 西から



D区4号竪穴建物土層断面 西から



D区4号竪穴建物カマド 西から



D区4号竪穴建物カマド土層断面 南から



D区4号竪穴建物カマド掘方 西から



D区4号竪穴建物掘方 西から



D区7号竪穴建物 北から



D区7号竪穴建物遺物出土状態 北から



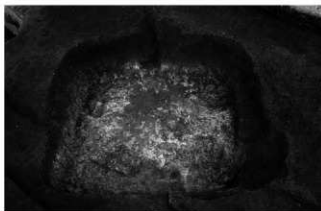
D区7号竪穴建物土層断面 南から



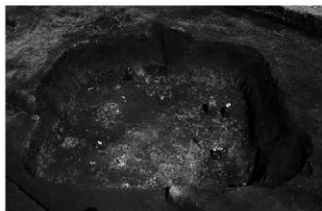
D区7号竪穴建物カマド 西から



D区7号竪穴建物掘方 北から



D区8号竪穴建物 西から



D区8号竪穴建物遺物出土状態 西から



D区8号竪穴建物U字状跡先出土状態 北から



D区8号竪穴建物土層断面 南から



D区8号竪穴建物掘方 西から



D区10号竪穴建物 北から



D区10号竪穴建物 南から



D区10号竪穴建物土層断面 西から



D区10号竪穴建物貯蔵穴土層断面 東から



D区10号竪穴建物掘方 北から



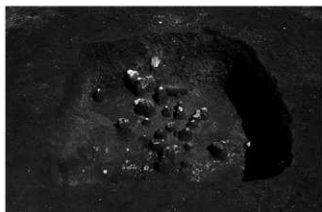
D区10号竪穴建物掘方 西から



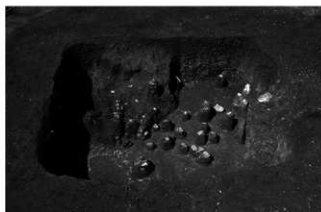
D区13号竪穴建物 北から



D区13号竪穴建物土層断面 西から



D区18号竪穴建物遺物出土状態 西から



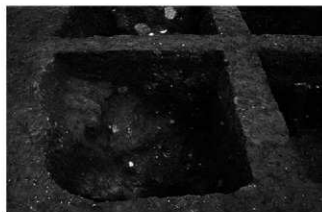
D区18号竪穴建物遺物出土状態 南から



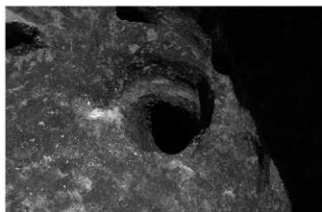
D区 18号竪穴建物 西から



D区 18号竪穴建物土層断面 南から



D区 18号竪穴建物焼土・鉄滓廃棄状態 西から



D区 18号竪穴建物貯蔵穴 西から



D区 18号竪穴建物カマド 西から



D区 18号竪穴建物カマド掘方 西から



D区 18号竪穴建物掘方 西から



D区 18号竪穴建物床下土坑土層断面 西から



D区 19号竪穴建物 北から



D区 19号竪穴建物土層断面 北西から



D区 19号竪穴建物掘方 北から



D区 20号竪穴建物 北から



D区 20号竪穴建物掘方 西から



E区1号竪穴建物 西から



E区1号竪穴建物 北から



E区1号竪穴建物遺物出土状態 西から



E区1号竪穴建物土層断面 西から



E区1号竪穴建物貯蔵穴土層断面 西から



E区1号竪穴建物掘方 西から



E区3号竪穴建物 西から



E区3号竪穴建物遺物出土状態 西から



E区3号竪穴建物土層断面 西から



E区3号竪穴建物カマド 西から



E区3号竪穴建物カマド天井部破除去後 西から



E区3号竪穴建物カマド土層断面 西から



E区3号竪穴建物カマド掘方 西から



E区3号竪穴建物掘方 西から



E区4号竪穴建物 西から



E区4号竪穴建物遺物出土状態 北から



E区4号竪穴建物土層断面 南から



E区4号竪穴建物カマド 西から



E区4号竪穴建物カマド掘方 西から



E区4号竪穴建物掘方 西から



E区6号竪穴建物 西から



E区6号竪穴建物 北から



E区6号竪穴建物遺物出土状態 西から



E区6号竪穴建物遺物出土状態 北から



E区6号竪穴建物土層断面 東から



E区6号竪穴建物カマド 西から



E区6号竪穴建物カマド周辺遺物出土状態 西から



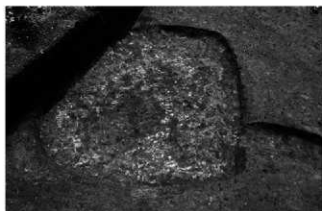
E区6号竪穴建物カマド掘方 西から



E区6号竪穴建物掘方 西から



E区6号竪穴建物掘方土層断面 北から



E区9号竪穴建物 北から



E区9号竪穴建物遺物出土状態 北から



E区9号竪穴建物土層断面 北から



E区9号竪穴建物掘方 北から



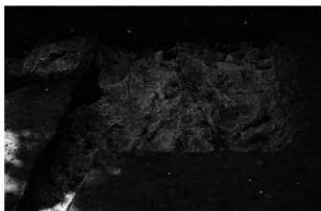
E区10号竪穴建物 東から



E区10号竪穴建物 南から



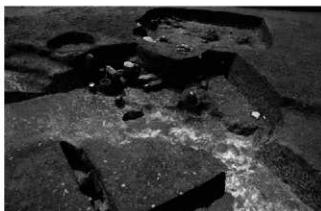
E区10号竪穴建物土層断面 東から



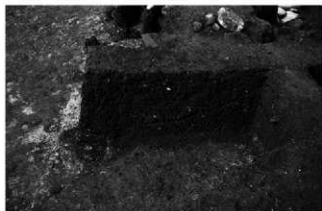
E区10号竪穴建物掘方 東から



E区12号竪穴建物 東から



E区12号竪穴建物遺物出土状態 北東から



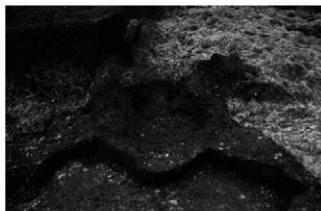
E区12号竪穴建物土層断面 北から



E区12号竪穴建物カマド 東から



E区12号竪穴建物カマド土層断面 北から



E区12号竪穴建物カマド掘方 東から



E区12号竪穴建物掘方 東から



E区13号竪穴建物 南から



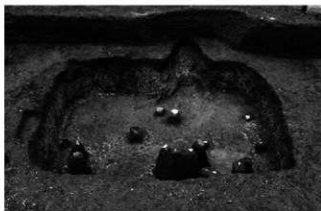
E区13号竪穴建物土層断面 西から



E区13号竪穴建物掘方 北から



F区1号竪穴建物 西から



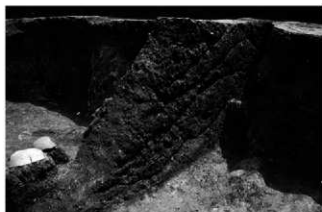
F区1号竪穴建物遺物出土状態 西から



F区1号竪穴建物土層断面 西から



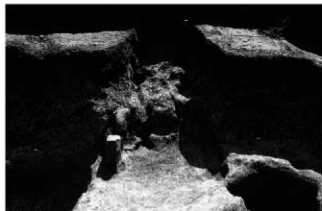
F区1号竪穴建物カマド 西から



F区1号竪穴建物カマド土層断面 南西から



F区1号竪穴建物カマドソデ補強礎 南西から



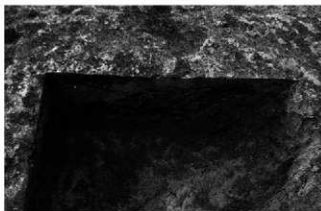
F区1号竪穴建物カマド掘方 西から



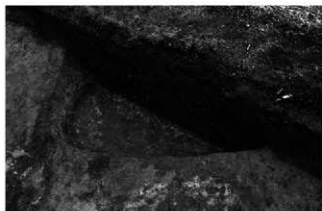
F区1号竪穴建物掘方 西から



F区1号竪穴建物掘方土層断面 北から



F区1号竪穴建物床下土坑土層断面 北から



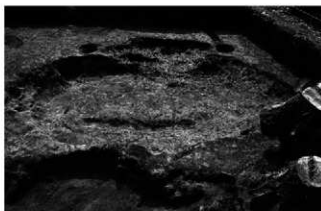
G区1号竪穴建物 南から



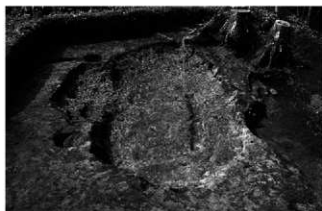
G区1号竪穴建物土層断面 西から



G区1号竪穴建物掘方 北から



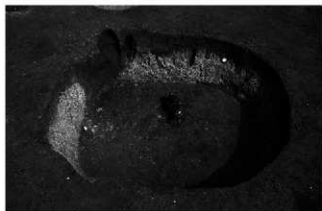
G区2号竪穴建物掘方 北から



G区2号竪穴建物掘方 東から



G区2号竪穴建物土層断面 南から



H区3号竪穴建物 南から



H区3号竪穴建物土層断面 東から



H区3号竪穴建物土層断面 南から



H区3号竪穴建物壁柱穴 南東から



H区3号竪穴建物壁柱穴 南から



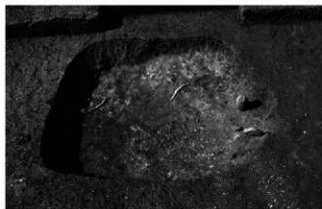
H区3号竪穴建物階段 東から



H区3号竪穴建物掘方 南から



H区3号竪穴建物掘方土層断面 南東から



H区5号竪穴建物 南東から



H区5号竪穴建物遺物出土状態 南東から



H区5号竪穴建物土層断面 南から



H区5号竪穴建物カマド検出状態 南西から



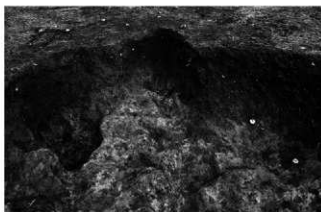
H区5号竪穴建物カマド 南西から



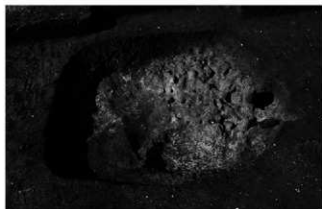
H区5号竪穴建物カマド土層断面 南から



H区5号竪穴建物カマドソデ補強礫 南西から



H区5号竪穴建物カマド掘方 南西から



H区5号竪穴建物掘方 南東から



H区5号竪穴建物床下土坑土層断面 東から



H区7号竪穴建物掘方 西から



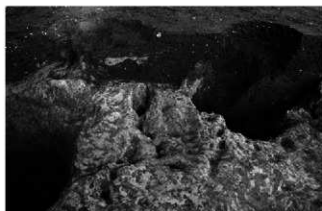
H区7号竪穴建物土層断面 北東から



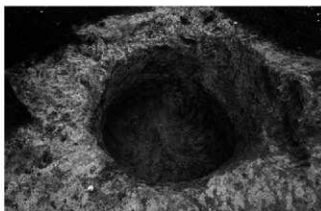
H区7号竪穴建物カマド 南西から



H区7号竪穴建物カマド土層断面 南から



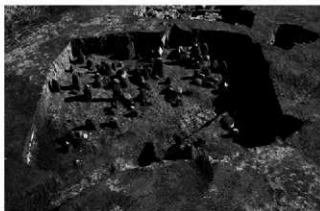
H区7号竪穴建物カマド掘方 西から



H区7号竪穴建物床下土坑 南から



Ⅰ区2号竪穴建物 南西から



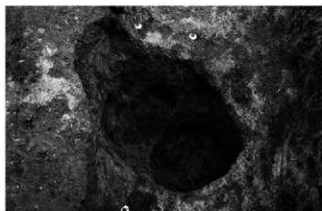
Ⅰ区2号竪穴建物遺物出土状態 南西から



Ⅰ区2号竪穴建物土層断面 南西から



Ⅰ区2号竪穴建物柱穴P2 西から



Ⅰ区2号竪穴建物柱穴P4 西から



Ⅰ区2号竪穴建物カマド 西から



Ⅰ区2号竪穴建物カマド土層断面 南から



Ⅰ区2号竪穴建物カマド掘方 南西から



I区2号竪穴建物掘方 西から



I区2号竪穴建物掘方土層断面 西から



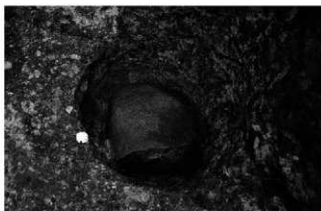
I区3号竪穴建物 北から



I区3号竪穴建物遺物出土状態 北から



I区3号竪穴建物土層断面(左6号竪穴建物) 西から



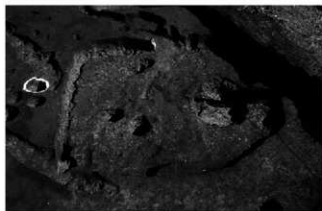
I区3号竪穴建物柱穴P1 西から



I区3号竪穴建物掘方 北西から



I区3号竪穴建物床下土坑土層断面 南から



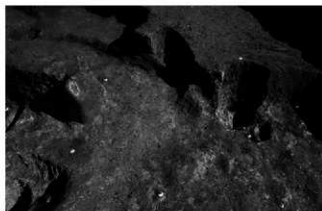
I区4号竪穴建物 南西から



I区4号竪穴建物遺物出土状態 南西から



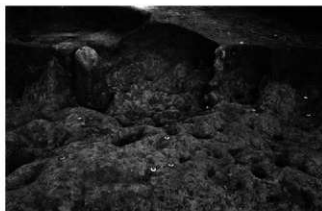
I区4号竪穴建物土層断面 北西から



I区4号竪穴建物カマド 南西から



I区4号竪穴建物カマド土層断面 南から



I区4号竪穴建物カマド掘方 西から



I区4号竪穴建物掘方 西から



I区4号竪穴建物床下土坑土層断面 南東から



I区5号竪穴建物 西から



I区5号竪穴建物土層断面 西から



J区2号竪穴建物 西から



J区2号竪穴建物 東から



J区2号竪穴建物土層断面 西から



J区2号竪穴建物掘方 東から



J区2号竪穴建物掘方土層断面 西から



J区2号竪穴建物床下土坑土層断面 北東から



J区4号竪穴建物掘方 西から



J区4号竪穴建物掘方 南から



J区4号竪穴建物掘方土層断面 西から



J区4号竪穴建物掘方土層断面 北から



J区6号竪穴建物 西から



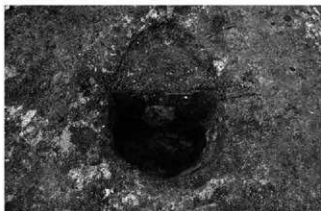
J区6号竪穴建物遺物出土状態 西から



J区6号竪穴建物土層断面 西から



J区6号竪穴建物貯蔵穴 西から



J区6号竪穴建物貯蔵穴土層断面 西から



J区6号竪穴建物柱穴P2 西から



J区6号竪穴建物柱穴P5 西から



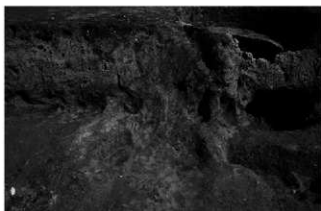
J区6号竪穴建物カマド 西から



J区6号竪穴建物カマド土層断面 西から



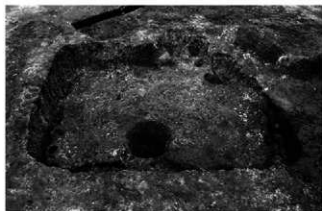
J区6号竪穴建物カマドソデ補強礎 西から



J区6号竪穴建物カマド掘方 西から



J区6号竪穴建物掘方 西から



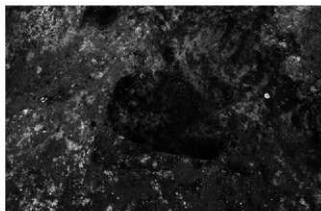
J区7号竪穴建物 西から



J区7号竪穴建物遺物出土状態 東から



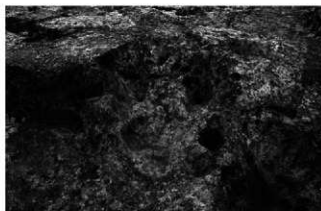
J区7号竪穴建物土層断面 北から



J区7号竪穴建物貯蔵穴 西から



J区7号竪穴建物カマド 西から



J区7号竪穴建物カマド掘方 西から



J区7号竪穴建物掘方 西から



J区7号竪穴建物掘方土層断面 北から



J区8号竪穴建物 西から



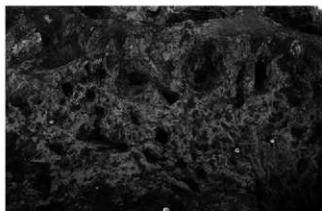
J区8号竪穴建物土層断面 西から



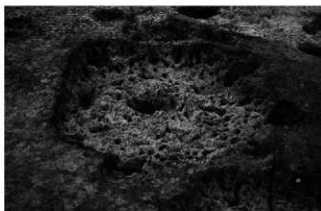
J区8号竪穴建物カマド 西から



J区8号竪穴建物カマドソデ補強礎 西から



J区8号竪穴建物カマド掘方 西から



J区8号竪穴建物掘方 西から



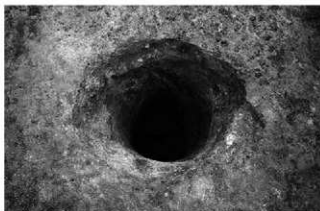
J区10号竪穴建物 西から



J区10号竪穴建物遺物出土状態 西から



J区10号竪穴建物土層断面 西から



J区10号竪穴建物柱穴P1 北から



J区10号竪穴建物柱穴P4 北から



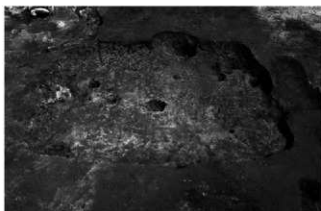
J区10号竪穴建物掘方 西から



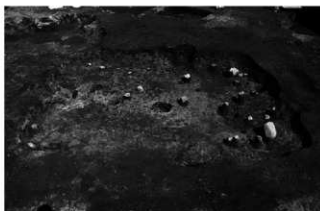
J区10号竪穴建物掘方土層断面 北から



J区10号竪穴建物床下土坑 南から



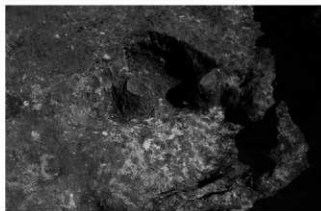
J区12号竪穴建物 西から



J区12号竪穴建物遺物出土状態 西から



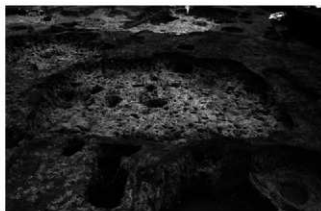
J区12号竪穴建物土層断面 南から



J区12号竪穴建物貯蔵穴 南から



J区12号竪穴建物カマド土層断面 西から



J区12号竪穴建物掘方 西から



J区13号竪穴建物 西から



J区13号竪穴建物遺物出土状態 西から



J区13号竪穴建物土層断面 南東から



J区13号竪穴建物貯蔵穴土層断面 南西から



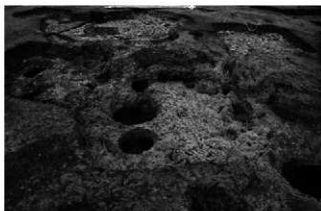
J区13号竪穴建物カマド 西から



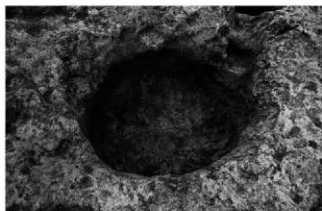
J区13号竪穴建物カマド土層断面 南から



J区13号竪穴建物カマド掘方 西から



J区13号竪穴建物掘方 西から



J区13号竪穴建物床下土坑 南から



J区13号竪穴建物床下土坑土層断面 北から



J区15号竪穴建物 西から



J区15号竪穴建物構築材(炭化材)出土状態 西から



J区15号竪穴建物構築材(炭化材)出土状態 北東から



J区15号竪穴建物土層断面 南西から



J区15号竪穴建物床下土坑土層断面 西から



J区16号竪穴建物土層断面 西から



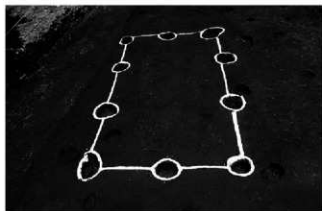
J区15号竪穴建物掘方 南から



J区16号竪穴建物(奥側はカクラン) 北西から



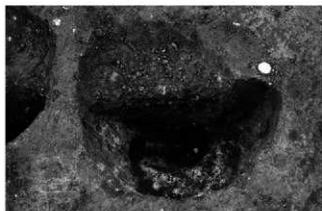
J区16号竪穴建物掘方 南西から



F区1号掘立柱建物 西から



F区1号掘立柱建物柱穴P2土層断面 南から



F区1号掘立柱建物柱穴P3土層断面 南から



F区1号掘立柱建物柱穴P7 北東から



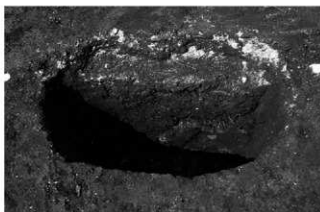
F区2号掘立柱建物 北から



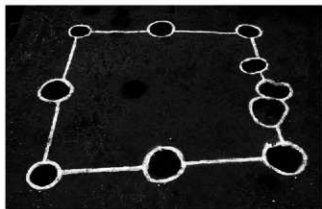
F区2号掘立柱建物柱穴P1土層断面 東から



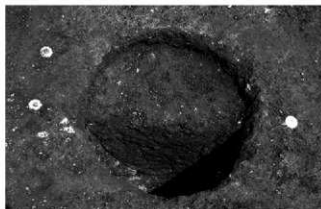
F区2号掘立柱建物柱穴P10土層断面 西から



F区2号掘立柱建物柱穴P11土層断面 西から



F区3号掘立柱建物 北から



F区3号掘立柱建物柱穴P1土層断面 南から



F区3号掘立柱建物柱穴P4 東から



F区3号掘立柱建物柱穴P2 遺物出土状態 北から



D区2号工房 西から



D区2号工房 南から



D区2号工房 北から



D区2号工房土層断面 南から



D区2号工房掘方 北から



D区2号工房掘方 南から



F区1号工房 南から



F区1号工房鍛冶炉 東から



F区1号工房鍛冶炉 北から



F区1号工房遺物出土状態 東から



F区1号工房土層断面 東から



F区1号工房掘方 南から



F区1号探掘坑 南から



F区1号探掘坑 北から



F区1号探掘坑土層断面 北から



F区2号探掘坑 南から



F区2号探掘坑 北から



F区2号探掘坑土層断面 北から



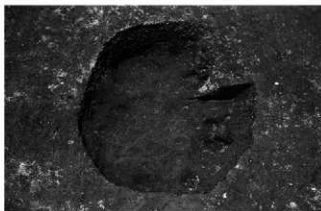
F区2号探掘坑遺物出土状態 西から



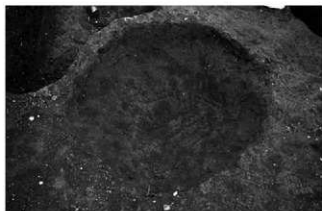
F区2号探掘坑遺物出土状態 南から



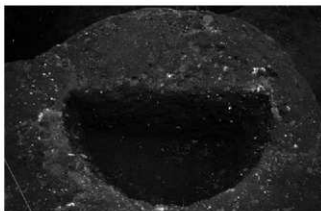
D区2号土坑 西から



D区3号土坑 東から



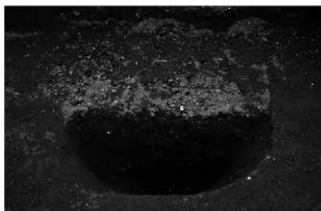
D区6号土坑 北から



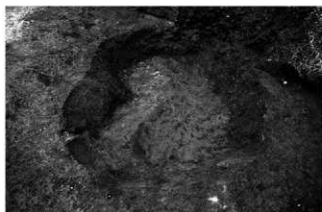
D区6号土坑土層断面 北から



D区8号土坑 東から



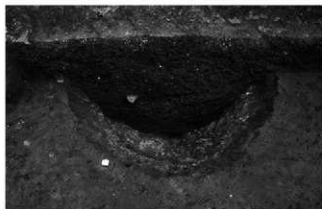
D区8号土坑土層断面 東から



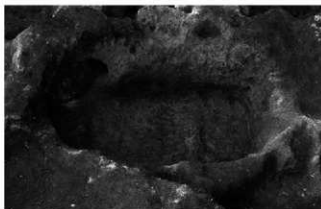
D区9号土坑 東から



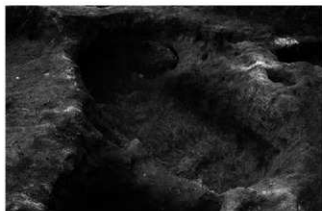
D区36号土坑 東から



E区5号土坑 西から



E区6号土坑 東から



E区6号土坑 北東から



E区6号土坑遺物出土状態 南から



E区9号土坑 西から



E区10号土坑 北から



E区12号土坑 東から



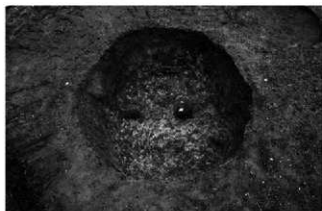
E区13号土坑 東から



F区7号土坑 西から



F区7号土坑土層断面 北西から



H区4号土坑 西から



H区4号土坑炭検出状態 西から



H区4号土坑土層断面 西から



H区37号土坑 南東から



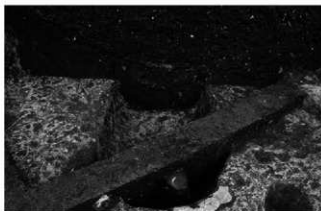
I区16号土坑 西から



I区16号土坑土層断面 西から



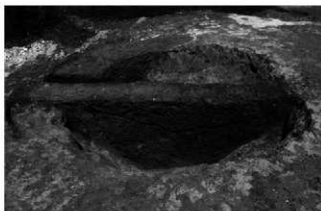
J区 11号土坑 西から



J区 11号土坑土層断面 西から



J区 17号土坑 西から



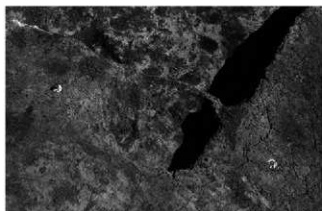
J区 17号土坑土層断面 南から



J区 22号土坑 西から



J区 22号土坑土層断面 南から



J区 23号土坑 南から



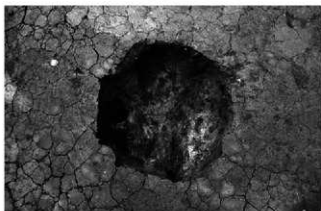
J区 24号土坑 北西から



J区 24号土坑遺物出土状態 北から



J区 24号土坑土層断面 西から



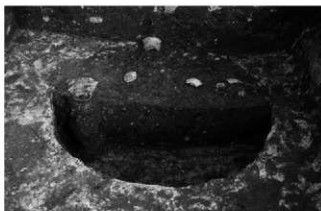
J区 37号土坑 南から



J区 37号土坑土層断面 南から



J区 49号土坑 北西から



J区 49号土坑土層断面 西から



J区 55号土坑 北から



J区 55号土坑土層断面 北から



H区1号掘立柱建物 東から



H区2号掘立柱建物 西から



I区1号掘立柱建物 西から



E区1号採掘坑(2005年度調査区) 南から



E区1号採掘坑(2006年度調査区) 南から



E区1号採掘坑(2006年度調査区) 東から



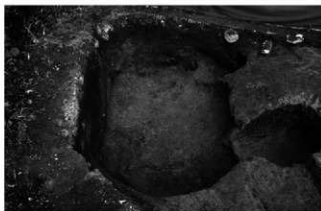
E区1号採掘坑(E-2区調査分) 東から



E区1号採掘坑(E-2区調査分) 南東から



J区1号探掘坑 南東から



J区1号探掘坑 南西から



J区1号探掘坑遺物出土状態 南から



J区1号探掘坑遺物出土状態 西から



J区2号探掘坑 南から



J区2号探掘坑 東から



J区2号探掘坑 西から



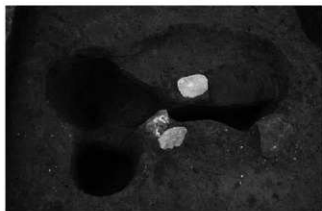
J区2号探掘坑土層断面(部分) 東から



D区1号土坑 南から



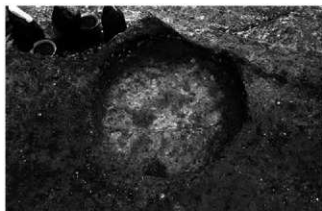
D区1号土坑土層断面 北から



D区7号土坑 西から



D区33号土坑 北から



E区1号土坑 西から



E区1号土坑礫検出状態 西から



E区1号土坑土層断面 東から



E区3号土坑 北から



E区3号土坑確検出状態 北から



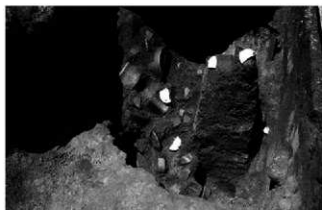
E区3号土坑土層断面 西から



E区4号土坑 北から



F区3号土坑 北から



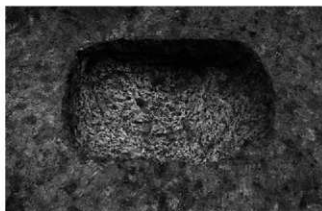
F区3号土坑遺物出土状態 東から



G区1号土坑 西から



G区1号土坑土層断面 南から



G区2号土坑 西から



G区2号土坑土層断面 南から



G区3号土坑 西から



G区3号土坑礫出土状態 西から



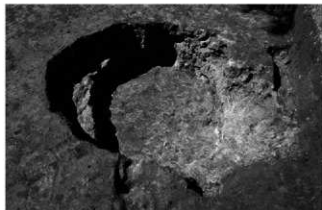
G区4号土坑 南から



G区4号土坑遺物・礫出土状態 北から



G区8号土坑 南から



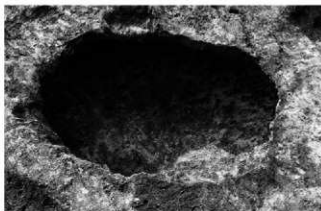
G区10号土坑 東から



G区10号土坑礫出土状態・土層断面 北から



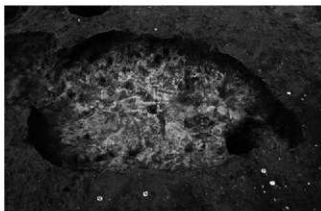
H区8号土坑 東から



I区8号土坑 北から



I区8号土坑土層断面 東から



I区9号土坑 東から



I区9号土坑掘削工具痕 北東から



I区31号土坑底面遺物出土状態 南西から



I区31号土坑遺物出土状態 近接



I区31号土坑土層断面 南から



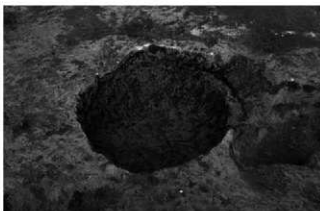
J区3号土坑確認面付近 北から



J区3号土坑底面付近・土層断面 西から



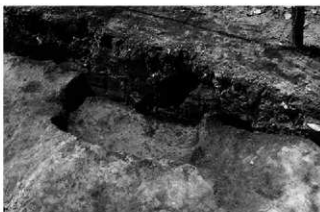
J区3号土坑底面付近露出土状態 西から



J区4号土坑 西から



J区4号土坑土層断面 北から



J区6号土坑 東から



J区6号土坑露出土状態 北東から



J区7号土坑 西から



J区8号・9号土坑 北から



J区8号土坑土層断面 西から



J区9号土坑土層断面 北から



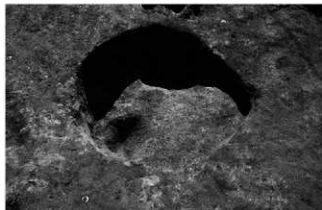
J区10号土坑確認面付近 北から



J区10号土坑底面付近 北から



J区10号土坑底面付近礫出土状態 北から



J区13号土坑 東から



J区13号土坑土層断面・礫出土状態 南から



J区15号土坑 北から



J区15号土坑土層断面 南西から



J区19号土坑 西から



J区19号土坑土層断面 南から



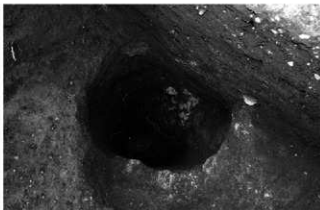
J区20号土坑 北から



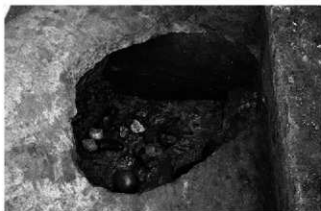
J区21号土坑(手前の土坑) 北から



J区21号土坑土層断面 南から



J区25号土坑 北から



J区 25号土坑確出土状態 西から



J区 50号土坑 北西から



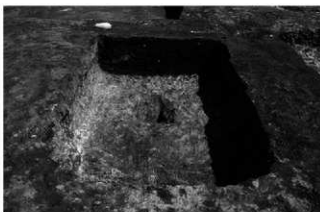
J区 50号土坑土層断面 西から



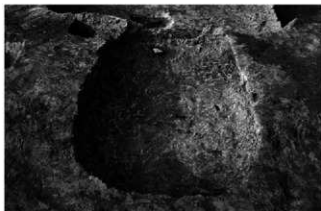
J区 59号土坑 東から



J区 60号土坑 西から



J区 60号土坑土層断面 西から



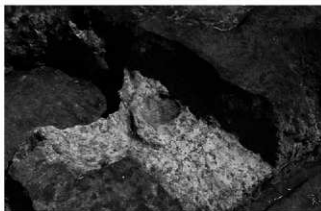
J区 61号土坑 南から



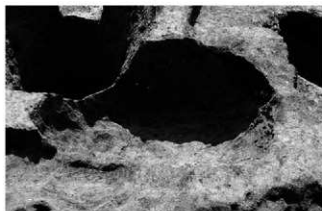
J区 61号土坑土層断面 南から



J区 65号土坑 北から



J区 66号土坑 西から



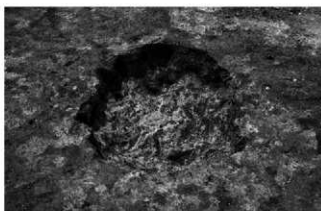
J区 67号土坑 西から



J区 76号土坑 北から



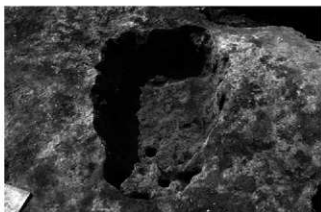
J区 76号土坑土層断面 北から



J区 78号土坑 東から



J区 78号土坑土層断面 西から



J区 90号土坑 南から



J区90号土坑土層断面 南から



J区92号土坑 北から



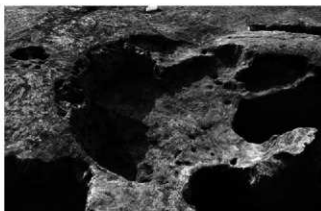
J区92号土坑土層断面 南から



J区97号土坑 東から



J区97号土坑土層断面 南東から



J区98号土坑 東から



J区98号土坑礎出土状態 東から



J区98号土坑土層断面 南東から



H区1号室 北から



H区1号室 西から



H区1号室土層断面 西から



H区1号室土層断面 東から



H区1号室奥壁石積状態 南から



H区1号室入口箇所 北から



H区1号室掘方 北から



H区1号室掘方土層断面 東から



E区7号溝 南から



E区7号溝 東南から



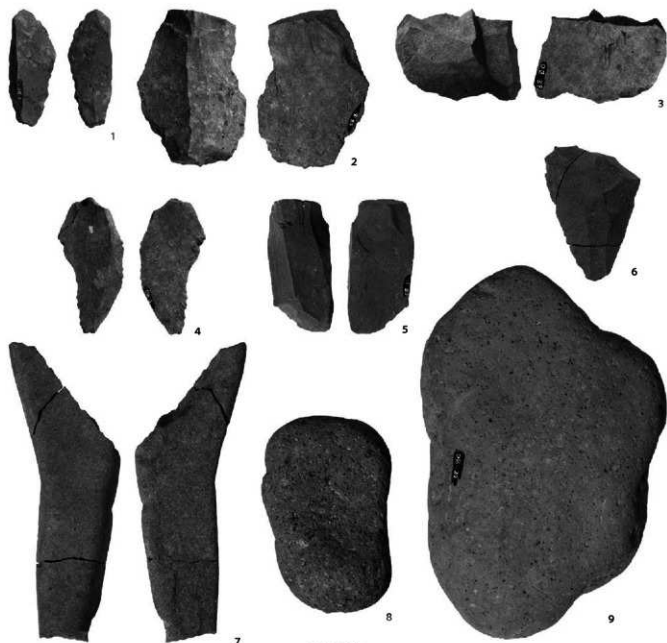
F区4号溝 南から



F区4号溝 南から



F区4号溝土層断面 北から



D区旧石器



H·I区旧石器



7

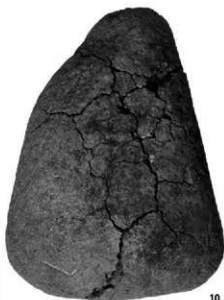


8



9

H・I 区旧石器



10



1

I 区 25 号土坑



1

G 区 11 号土坑



1

H 区 28 号土坑



2



1

H 区 33 号土坑



1

I 区 27 号土坑



2



3



4



5



6



7



10



8

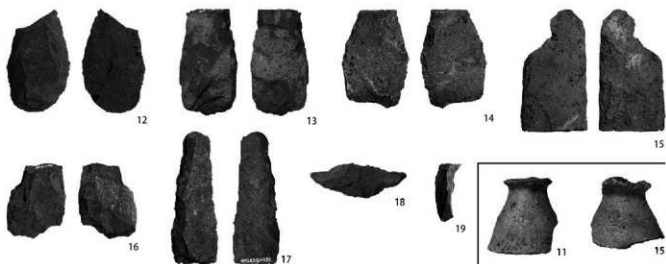


9



11

縄文時代遺構外



縄文時代遺構外

J区1号竪穴建物



J区5号竪穴建物



J区17号竪穴建物



1



10



12



14



17



18

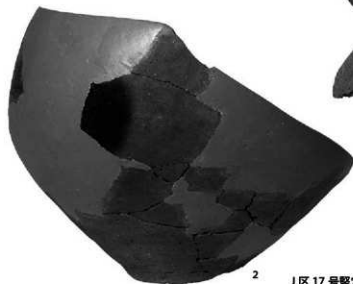


16



4

弥生時代遺構外



2

J区17号竪穴建物



1



2



3



4



5



6



7



9



10

D区3号竪穴建物



8



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



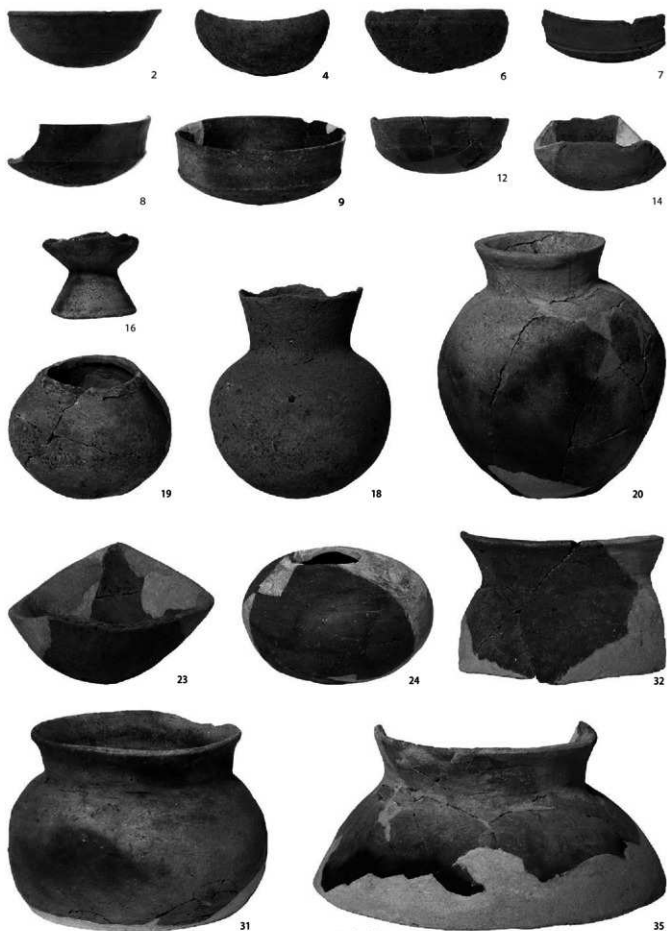
24



25



26





34



36



37



39



40



41



43



52



54



53



55

D区S号竖穴建物



51

D区5号整穴建物



57



58



11



2



3



5



6



12

D区6号整穴建物



7



1



2



3



5



7

D区9号整穴建物



10



11



12



14



17



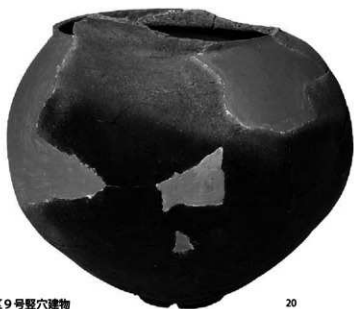
15



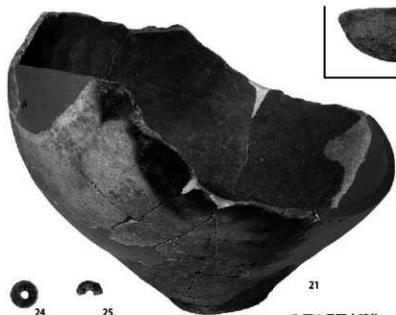
19



18

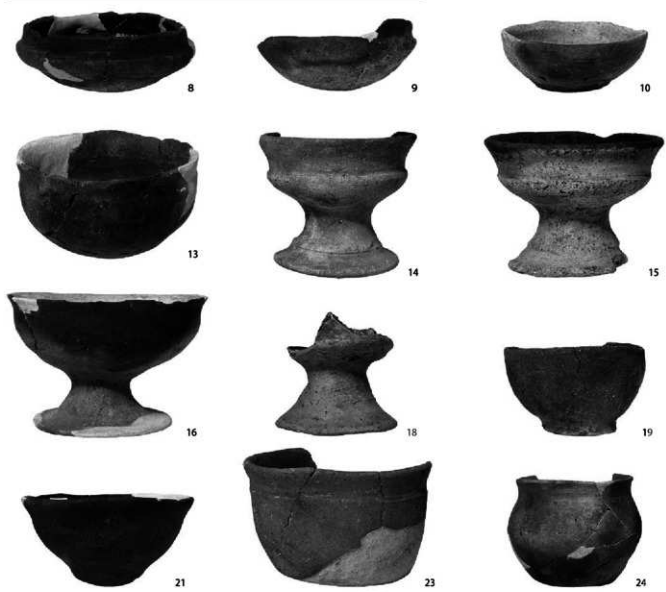
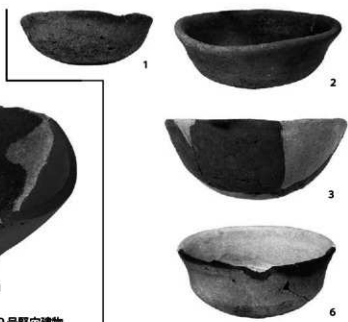


20



21

D区9号竖穴建物



D区11号竖穴建物



25



27



30



29



31



36



39



40



37



41



38



32

D区11号窑穴建物



34



35

D区11号竖穴建物



D区12号竖穴建物

D区14号竖穴建物



D区15号竖穴建物



18



20



21

D区 15号 壁穴建物



6

11



12



13



1



8



7



16



14



20

D区 16号 壁穴建物



18



23

24



21

D区 16号竖穴建物



1



2



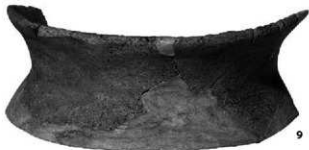
3



4



14



9



7

D区 17号竖穴建物



D区17号竖穴建物



E区2号竖穴建物



E区5号竖穴建物

E区11号竖穴建物



F区2号竖穴建物



H区1号竖穴建物



H区4号竖穴建物





H区4号竖穴建物



6



1

H区6号竖穴建物



2



4

I区1号竖穴建物



1



1

I区6号竖穴建物



2



8

J区11号竖穴建物



1



3



4

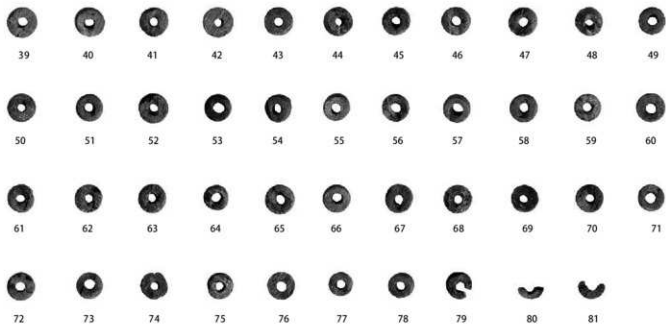


4

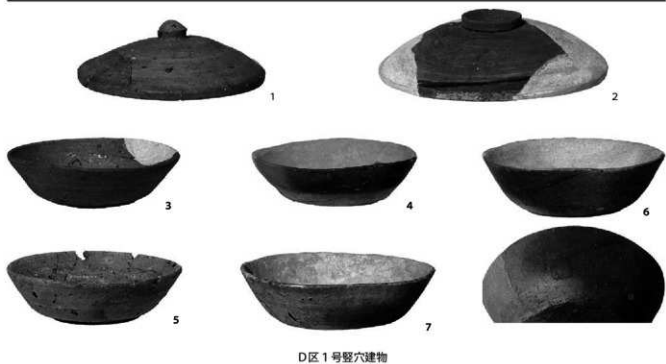
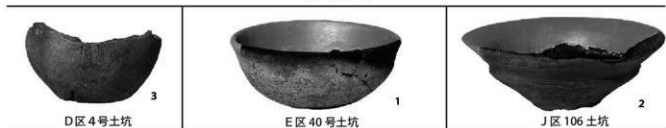
J区14号竖穴建物



D区1号祭祀



D区1号祭祀





18



21



22



23



24



25



26-27



26



27



28



29



30



31



32



33



36



37



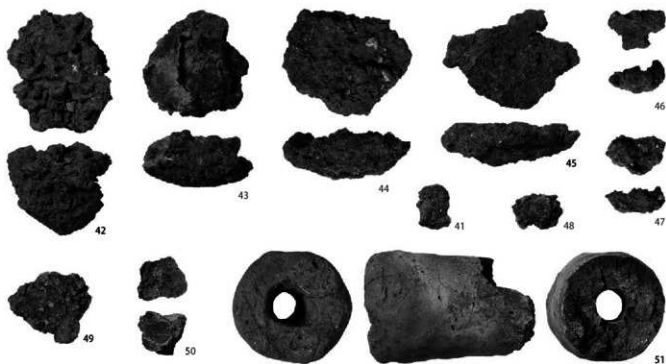
38



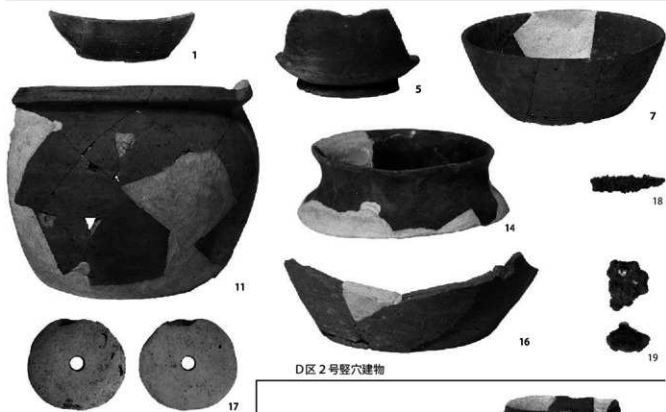
34



35



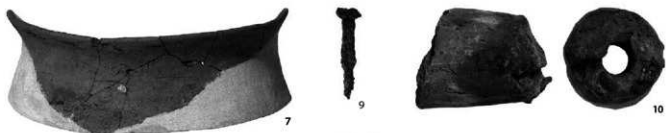
D区 1号竖穴建物



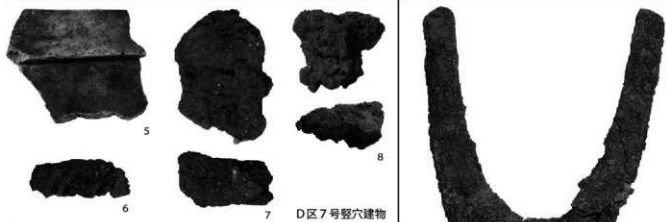
D区 2号竖穴建物



D区 4号竖穴建物



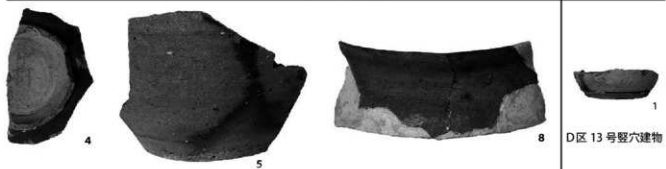
D区 4号竖穴建物



D区 7号竖穴建物



D区 8号竖穴建物



D区 13号竖穴建物



D区 10号竖穴建物

D区 18号竖穴建物



D区 18号竖穴建物



58

59

61

62

63

64

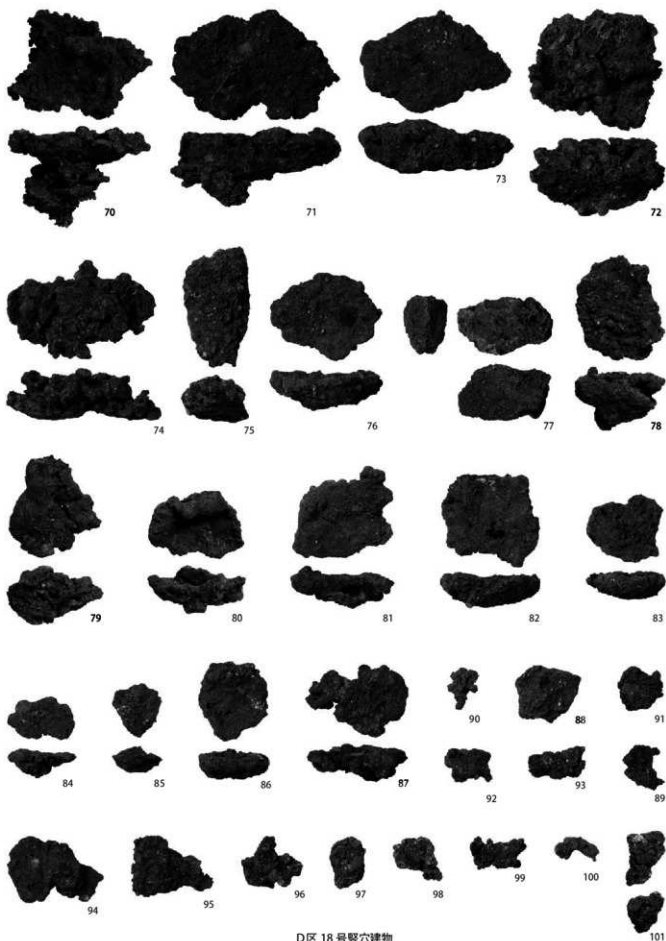
65

66

67

68

69



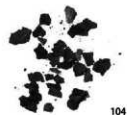
PL.158



102



103



104



105



106



107



108



109



110



111



112

D区18号竖穴建物



3



8



9



10

E区1号竖穴建物



1



2



1

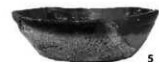


11



9

E区3号竖穴建物



5



8



9

E区4号竖穴建物



12



12

E区4号竖穴建物



18



1



2



5



3



10



11



12



13

E区6号竖穴建物



2



3



5



6

E区12号竖穴建物



1



5



6

E区13号竖穴建物

PL.160



E区9号竖穴建物



F区1号竖穴建物



F区1号竖穴建物

18



2

G区2号竖穴建物



1

H区5号竖穴建物



2



5



9



13



18



19



20



28



29



30



31



34



48



57

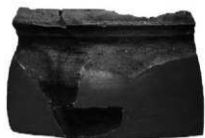


58



I区2号竖穴建物

53



51



59



60



61

62

63

I 区 2 号竖穴建物



2



12



11

I 区 3 号竖穴建物



3



18



12



13



14



19



1

J 区 2 号竖穴建物

I 区 4 号竖穴建物



1



2

J 区 4 号竖穴建物



2



3



6



7



J 区 6 号竖穴建物



9



J区6号竖穴建物



J区7号竖穴建物



J区8号竖穴建物





5



6



22



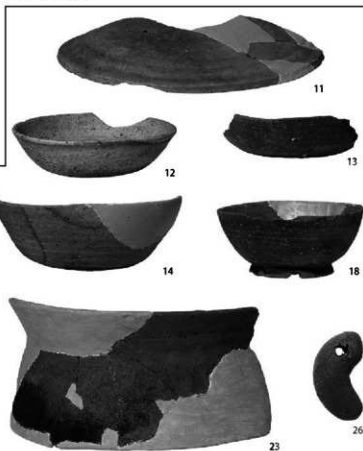
27

28



7

J区8号竖穴建物



11

12

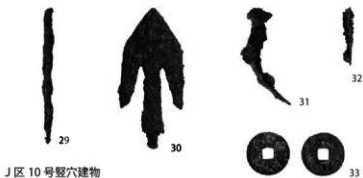
13

14

18

23

26



29

30

31

32

J区10号竖穴建物

33



J区12号竖穴建物



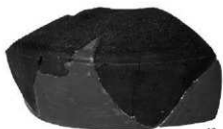
J区13号竖穴建物



J区15号竖穴建物



8



12



14



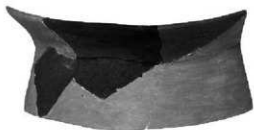
11



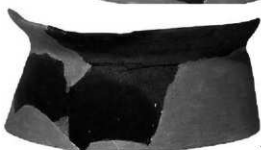
15



16



19



20



22

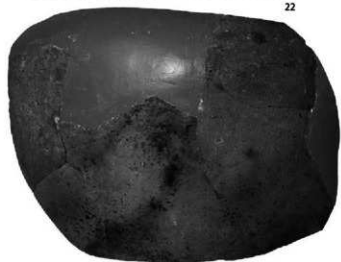


23



1

F区3号掘立柱建物



J区15号竪穴建物



4



5



7



6

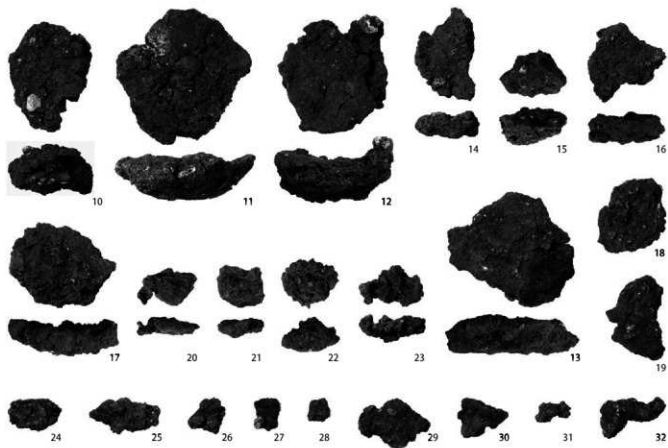


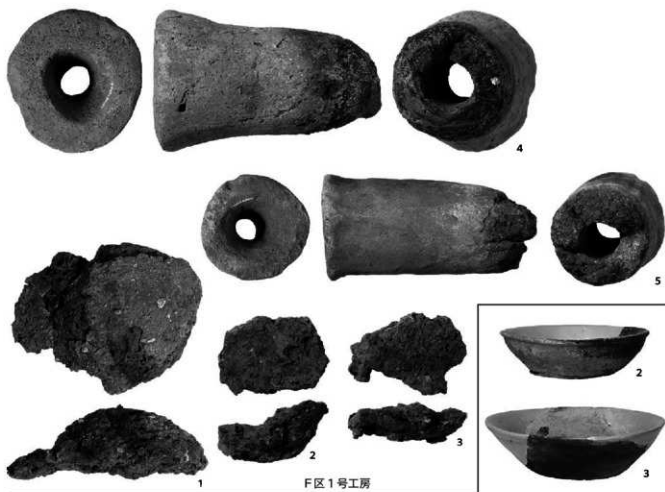
8



9

D区2号工房





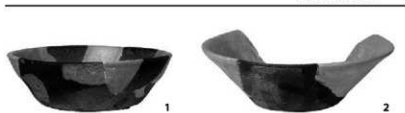
F区1号工房



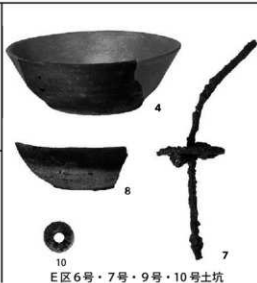
F区2号探掘坑



F区3号探掘坑



F区7号土坑



E区6号·7号·9号·10号土坑



H区土坑 37号・38号



J区 24号土坑



J区 22号土坑





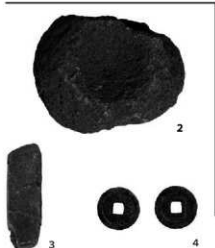
2



E区1号探掘坑



3



2

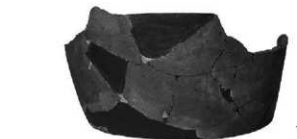
3

4



1

J区1号探掘坑



1

J区2号探掘坑



1

2

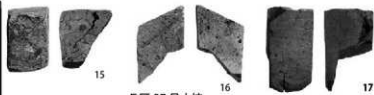


3



4

E区37号土坑



E区37号土坑



E区3号土坑



F区3号土坑





F区10号土坑



2



2



1



3

I区3号·5号土坑



G4土-1

G4土-2



G10土-6



G10土-5



G区4号·10号土坑



2



1



6



7



3

I区31号土坑



J区10号·25号·47号·65号·94号·98号·104号土坑



H区1号室



7



8



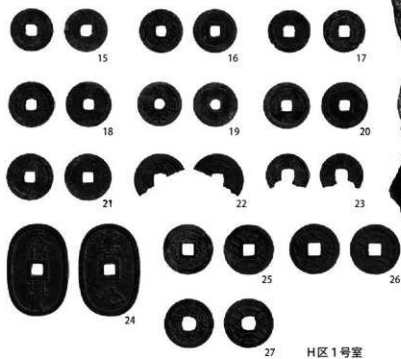
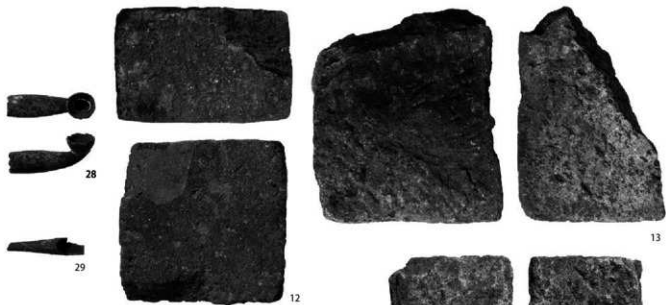
9



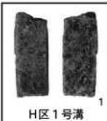
10



11



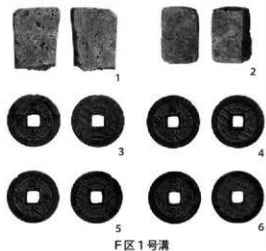
H区1号室



H区1号溝



I区4号溝



F区1号溝



G区4号溝



中世以降遺構外



3



18



19



20



22



23



25



26



27



24



4



5

6



7

8



9

10



11

12



13

14



15

16



17

中世以降遺構外

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第463集

生品西浦遺跡Ⅱ 図版編

一般国道富士山横塚線地方特定道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2009(平成21)年3月10日 印刷

2009(平成21)年3月16日 発行

発行／編集 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地の2

電話 0279-52-2511 (代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷 上毎印刷工業株式会社

生品西浦遺跡Ⅱ

付図1 縄文時代～弥生時代全体図

